名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

レッドデータブック なごや2015 植物編

名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

レッドデータブックなごや 2015

植物編

2015年4月

名 古 屋 市

【 表紙写真 】

表：オニバス（葉と閉鎖花）（維管束植物）

中区　　2014 年 9 月 29 日　（撮影　芹沢俊介（S89695））

裏：イチョウウキゴケ（配偶体）（コケ植物）

守山区　2013 年 6 月 18 日　（撮影　成田　務）

・修正について

平成 27 年 4 月 30 日に「レッドデータブックなごや 2015」を公表していますが、この冊子では字句等を一部修正しています。

発刊にあたって

名古屋市には、北西部の平野や、中央部の台地、東部の丘陵地など、それぞれの地域ごとに特色のある自然が残されており、そこには多様な野生生物が「互いにつながりあい」そして「バランスをとりながら」暮らしています。

しかし、長い間の人間の営みに伴う自然環境の変化などにより、以前は身近に見られた野生生物の中には、その数を減らし、絶滅のおそれが生じているものがあります。

昨年11月、名古屋で「持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）に関するユネスコ世界会議」が開催されました。ＥＳＤは、環境・経済・社会が調和した持続可能な社会を作るための「人づくり」を推進することを意味しています。

私たちは、環境・貧困・人権・平和・食料などさまざまな課題を抱えています。今生きている自分たちだけでなく、未来の子どもたちも安心して暮らせるまちの実現を目指し、この名古屋の豊かな自然環境や生きものを守り、次の世代に持続可能な形で引き継いでいくことは、私たちに課せられた責務でもあります。

名古屋市では、市内の野生生物の生息・生育状況について定期的に調査を行っています。平成16年(2004年)には、絶滅のおそれのある野生生物の分布状況や減少の要因などについてとりまとめた「レッドデータブックなごや２００４」を発行し、平成22年(2010年)には補遺版を追加発行しました。そしてこのたび、最新の情報を反映させた改訂版として「レッドデータブックなごや２０１５」を作成しました。

本書を通してより多くの皆さまに名古屋の残された自然環境への理解を深めていただくとともに、多様な野生生物を守る身近な取組の輪を広げていくための一助となることを願っています。

本書の作成にあたり、ご協力、ご尽力いただきました名古屋市動植物実態調査検討会をはじめとする多くの関係者の皆さまに、厚くお礼申し上げます。

平成２７年４月

名古屋市長　河村たかし

【　目　次　】

１．レッドデータブック作成の経緯及び目的 ---------- 1
２．調査の概要 ---------- 3
（１）調査体制 ---------- 3
（２）調査対象と調査方針 ---------- 4
（３）調査方法 ---------- 5
（４）レッドリストのカテゴリーと判定基準 ---------- 7
３．名古屋市版レッドリスト ---------- 12
４．名古屋市の野生生物の現状 ---------- 21
維管束植物 ---------- 21
① 名古屋市における維管束植物の概況 ---------- 21
② 名古屋市における絶滅危惧種の概況 ---------- 27
③ 名古屋市で特に保全上の重要性が高い維管束植物 ---------- 29
④ レッドリスト掲載種の解説 ---------- 32
凡例 ---------- 32
絶滅（ＥＸ） ---------- 34
絶滅危惧ＩＡ類（ＣＲ） ---------- 109
絶滅危惧ＩＢ類（ＥＮ） ---------- 158
絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ） ---------- 216
準絶滅危惧（ＮＴ） ---------- 288
国リスト・県リスト ---------- 326
コケ植物 ---------- 337
① 名古屋市におけるコケ植物の概況 ---------- 337
② 名古屋市における絶滅危惧種の概況 ---------- 338
③ レッドリスト掲載種の解説 ---------- 339
凡例 ---------- 339
絶滅（ＥＸ） ---------- 340
絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ） ---------- 341
準絶滅危惧（ＮＴ） ---------- 344
【 資 料 編 】 ---------- 359
１．名古屋市版レッドリストから削除された種 ---------- 360
２．県内分布の表示に用いた区画の略称と範囲 ---------- 363
３．維管束植物の評価手法の選定理由 ---------- 363
４．維管束植物でリスト外と判定された種 ---------- 366
５．レッドデータブックなごや 2015　植物編に関するＱ＆Ａ ---------- 368
６．文献一覧 ---------- 373
７．執筆者及び協力者 ---------- 374

【　索　引　】 ---------- 375
索引（和名五十音順） ---------- 376
（１）維管束植物 ---------- 376
（２）コケ植物 ---------- 380
索引（分類順） ---------- 381
（１）維管束植物 ---------- 381
（２）コケ植物 ---------- 385

１．レッドデータブック作成の経緯及び目的

我が国は、昭和 40 年代に高度経済成長期を迎えて第 2 次産業が大きく発展し、人口は都市部に集中し、道路や鉄道の整備、住宅団地の建設等が盛んに行われるようになった。それとともに自然生態系が圧迫され、野生生物の生息・生育環境が改変されたり減少したりして、絶滅する種も生じるようになった。

このような現象に対応するため、国レベルで野生生物の絶滅のおそれのある種について調査が行われ、平成元年に(財)世界自然保護基金日本委員会と(財)日本自然保護協会が「我が国における保護上重要な植物種の現状」を、平成 3 年に環境庁（現環境省）が「日本の絶滅のおそれのある野生生物–脊椎動物編」及び「同–無脊椎動物編」を発行した。その後、平成 6 年に国際自然保護連合（IUCN）がより定量的な評価基準に基づく新たなカテゴリーを採択したことから、環境庁は平成 12 年以降、順次改訂版レッドデータブックを発行してきた。平成 18、19 年度には第 3 次レッドリストが、平成 24 年度には第 4 次レッドリストが公表されており、平成 26 年度からは順次レッドデータブックが出版されている。

国レベルでの情報の整備を受けて、各都道府県でも、その地域で絶滅が危惧される生物に関する情報の収集整理がなされ、地域版のレッドリストやレッドデータブックが作成されている。愛知県でも、第一次レッドリストの公表を経て、平成 13 年度にレッドデータブックがとりまとめられた。その後、第二次レッドリストの公表を経て、平成 20 年度には「レッドデータブックあいち 2009 植物編」及び「同動物編」が、平成 26 年度には「第三次レッドリスト　レッドリストあいち 2015」が公表されている。

名古屋市では、昭和 54 年から名古屋市環境影響評価指導要綱（平成 11 年から名古屋市環境影響評価条例に移行）を施行し、環境影響評価の手続きを円滑に進めるため、市内に生息・生育している動植物について調査を実施した。昭和 55 年に「名古屋市及び近隣に生息する動物に関する調査報告」と「名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告」を、平成 5 年にその改訂版を作成している。

平成 12 年度からは、市内における動植物の生息・生育実態調査を実施し、平成 14 年 11 月に名古屋市版レッドリストを公表した。そして平成 16 年 3 月、名古屋市版レッドリストに掲載された種の分布の概要、生息地の環境、減少の要因などを個別に記述した「レッドデータブックなごや 2004 植物編」及び「同動物編」を発行した。

その後、全国的に野生生物の減少や生態系への影響が指摘されていること、野生生物の生息・生育環境に影響を及ぼす土地の改変などの様々な状況が変化していることなどから、平成 20 年度から生物調査を行い、平成 22 年 3 月に「名古屋市版レッドリスト 2010」を公表、平成 22 年 10 月に「レッドデータブックなごや 2010　–2004 年版補遺–」を発行した。なお、このレッドリストから新たにカニ類や潮下帯の貝類が評価対象に追加された。

これらの見直しに続き、平成 24～26 年度の 3 ヶ年、専門家で構成する「名古屋市動植物実態調査検討会」を中心に、前回見直し後の生息・生育状況や生息・生育環境の変化等の最新の知見を収集し、検討を行うとともに、市民から意見を募集した。

そして平成 27 年 3 月に「名古屋市版レッドリスト 2015」を公表し、この度「レッドデータブックなごや 2015 植物編」及び「同動物編」を公表するものである。なお、今回から新たにコケ

植物が評価対象に追加された。

レッドリスト・レッドデータブックへの掲載は、捕獲規制等の直接的な法的効果を伴うものではないが、絶滅のおそれのある野生生物に関する理解を深めていただく基礎資料であり、各種開発事業の環境影響評価などに活用されることによって、野生動植物への配慮が適切になされることを目的としたものである。

なお、全国版レッドデータブック掲載種の中で特に保護の優先度が高い生物種は、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」に基づく国内希少野生動植物種に指定され、保護が図られている。また、愛知県内に生息・生育する絶滅のおそれのある種で、特に保護を図る必要がある動植物は「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」に基づき、指定希少野生動植物種に指定されている。その他、国、あるいは各地方で文化財として重要な動植物は、「文化財保護法」等に基づく天然記念物に指定され、保護が図られている。

２．調査の概要

（１）調査体制

調査の実施に当たっては、平成 24 年度から野生動植物に関する専門の学識者を中心とした「名古屋市動植物実態調査検討会」において、調査対象動植物についての調査内容、評価等について検討を行った。

委員は担当分類群について協力者と連絡をとりながら情報を収集するとともに、検討会において調査・作業状況を報告し、意見交換を行った。

表１　名古屋市動植物実態調査検討会　委員名簿

担当分類群	委　　員	
維管束植物	芹沢（せりざわ）　俊介（しゅんすけ）	（愛知教育大学名誉教授）
	鳥居（とりい）　ちゑ子（ちえこ）	（愛知植物の会会員）
コケ植物	成田（なりた）　務（つとむ）	（新城市鳳来寺山自然科学博物館学術委員）
哺乳類	野呂（のろ）　達哉（たつや）	（名古屋市環境局生物多様性専門員 金城学院大学非常勤講師）
鳥　類	小笠原（おがさわら）　昭夫（あきお）	（名古屋学芸大学短期大学部非常勤講師）
は虫類	矢部（やべ）　隆（たかし）	（名古屋市環境局生物多様性推進参与 愛知学泉大学現代マネジメント学部教授）
両生類	藤谷（ふじたに）　武史（たけし）	（名古屋市緑政土木局東山動物園業務技師）
魚　類	谷口（たにぐち）　義則（よしのり）	（名城大学理工学部環境創造学科准教授）
昆虫類	田中（たなか）　多喜彦（たきひこ）	（名古屋市高年大学鯱城学園講師）
クモ類	須賀（すが）　瑛文（ひでふみ）	（日本蜘蛛学会会員）
カニ類	天野（あまの）　勲（いさお）	（日本甲殻類学会会員）
貝　類	川瀬（かわせ）　基弘（もとひろ）	（愛知みずほ大学人間科学部講師）

（２）調査対象と調査方針

今回の名古屋市のレッドデータブックでは、植物関係の調査対象分類群は、維管束植物（種子植物、シダ植物）およびコケ植物（蘚類、苔類）とした。それ以外の植物群については、名古屋市内のフロラ調査がまだ十分に行われておらず、一部特定種の状況は判明していても現況が全体としてははっきり把握できないため、やむを得ず調査対象から除外した。調査は、平成 24 年度から 26 年度にかけて実施した。

維管束植物については、種（亜種、変種を含み、品種、雑種を除く。ただし基準品種が名古屋市に生育していない植物については、品種レベルの名称でリストに掲載）を単位とし、名古屋市内に確実に生育している（いた）と判断された約 1,500 種のうち、明らかに絶滅危惧種でない普通種を除く約 390 種を調査対象とした。名古屋市本来の生物多様性を保全するという観点から、何らかの人為によって名古屋市域外から移入されたと判断される種（環境省の外来種、愛知県の移入種に相当する）は原則として対象外としたが、ニッケイ、シラン、ヤチヤナギなどは国および愛知県のレッドリストに掲載されているため調査対象に加え、ハマダイコンなどいくつかの古い帰化植物も調査対象とした。

調査範囲は、名古屋市全域とした。ただし河川が行政界になっている場合は、現在の流路の中心線をもって行政界とみなした。海域は陸地から観察できる範囲を調査したが、結果的に海産種子植物が全く確認できなかったため、実質的には対象地域外となった。

コケ植物については、名古屋市内に生育する全種を調査対象とした。

作成方針を検討する過程では、特に名古屋市では希少だが、周辺地域では普通に見られる種の扱いが問題となった。しかし、名古屋市のような都市化が進んだ地域では、国あるいは県レベルでは保全対象とならないような動植物についても、地域自然環境保全の観点から重要な意味を持つ場合があると考えられる。そのような、地域特性を踏まえたローカルレベルでの情報整備が名古屋市が独自にレッドデータブックを作成する目的でもあることから、周辺地域での存在状況は再侵入確率（名古屋市で一度絶滅しても、周辺地域にたくさんある種は再度分布を拡大してくる可能性が高い）という観点からは考慮されても、それ以上は考慮しないという方針で作業を進めることとした。またこのことに関連して、保全上の重要性を評価に反映させるか否かも問題となった。絶滅が危惧される生物は、一般的に言えば全て保護の必要があるが、その程度は必ずしも絶滅が危惧される程度に比例するものではない。レッドデータブックは、本来は絶滅が危惧される生物種についての情報集以上のものではないが、現実には環境保全上の一つの基準として使われる可能性も考えられ、その意味で保全上の重要性を反映したリストができれば好都合という側面もある。しかし、一方で保全上の重要性はどのような観点から評価するかによって異なり、更には植物とは直接関係しない価値観の影響も受ける。そのため今回のレッドデータブックでは、この点は考慮せず、名古屋市内で絶滅が危惧される程度だけに基づいて評価を行うこととした。名古屋市での絶滅が、日本全体、あるいは愛知県全体における生物多様性の減少に直結し、その意味で代替性が少なく特に保全の重要性が高いと考えられる種については、各種の解説の中などで必要に応じ説明を加えることとした。

調査結果は、平成 26 年 4 月に仮集計してレッドリスト（案）として公表し、市民から意見を募集した。そして、その意見も参考にしながら更に調査・検討を重ねた。

（執筆者　芹沢俊介）

（３）調査方法

① 維管束植物　（種子植物・シダ植物）

維管束植物の現地調査は、平成 24 年度から 26 年度にかけて、愛知みどりの会が担当して行った。

愛知みどりの会では、1992 年から蓄積している全維管束植物の調査資料を基に、市内 16 区を単位として追加野外調査や現状確認調査を行い、現状および過去の状況を把握した。また、平成 26 年 4 月にはそれまでの調査結果をまとめて、絶滅・野生絶滅 77 種、絶滅危惧ＩＡ類 47 種、絶滅危惧ＩＢ類 56 種、絶滅危惧Ⅱ類 80 種、準絶滅危惧 36 種を公表した。そして、このレッドリスト（案）に対して寄せられた意見も参考にしながら追加調査を行った。結果的に、名古屋市の植物に関するデータベースは約 7,800 件に達し、その中に 5 件以上の情報が登録された標本採集者（このレッドデータブック作成に協力の意志があったとは限らない）は、巻末資料に示す 46 名となった。

以下の各区については、調査情報のとりまとめや調査者間の連絡調整は、鳥居および渡邉が担当した。

西区、北区、中区、東区、守山区、千種区、名東区：鳥居ちゑ子

昭和区、瑞穂区、南区、天白区、緑区：渡邉幸子

使用した調査情報は、後日必要に応じ再検討ができるよう、近接した場所ですでに採集されているなどの理由であえて標本を作成しなかった一部の例外を除き、裏付けとなる標本が公開されている標本室（ほとんどは愛知みどりの会 AICH）に収蔵されているものに限定した。ただし、過去に名古屋市内で記録されている、あるいは生育していたという情報があるが、標本が確認できず、現存も確認できない一部の種については、今まで愛知県では自然史資料の集積体制が十分でなかったことを考慮し、確実と判断されるものに限定してリストに掲載した。裏付けの標本なしに掲載した種については、その根拠を各種の解説に記述した。

今回の調査ではできる限り名古屋市における維管束植物の現状を把握することに努めたが、調査者の人数が限られており、高齢化も進んでいる上に、新たに調査に参加してくれる人も少なく、さらに名古屋市は植物の生育密度が低い地域であるため、市内全域を十分調査するには至らなかった。特に小規模な残存緑地については、全部を調査することができなかった。また、過去に記録がある場所についても現況を全て再確認することはできなかった。そのため、本当は名古屋市に生育していて絶滅が危惧されるが、本書に収録されていない植物もあると思われる。実際、「ある／あった」という情報があり、確かに名古屋市に生育していても不思議ではないが、確認ができず、今回のリストでは掲載を見送った種も少なくない。以下に、その主要なものを例示する。

タコノアシ　庄内川下流部に生育しているという話を聞いたが、確認できなかった。

ハグロソウ　「緑区の社叢に生育」（中部植生研究グループ 1992）と報告されている。

フジバカマ　「庄内川畔（守山区）のヤナギ群落河川敷下にわずかに生育」（中部植生研究グループ 1992）と報告されている。

ビロードテンツキ　「海岸埋立地に生育」（中部植生研究グループ 1992）と報告されている。

このような種については、今後も注意して情報の収集に努めることにしたい。また、現存が確認

できなくてもある程度再発見の可能性がありそうな種は、原則として「絶滅」と判定しなかったが、その一部は実際にはすでに絶滅している可能性がある。これらの種についてもできるだけ情報の収集に努め、次回の改訂の際にはより完全なリストを作成したいと考えている。

執筆は、水草（一部の絶滅種を除く）を中村、その他を芹沢が担当した。

（執筆者　芹沢俊介）

② コケ植物

調査対象種について、平成 24 年度から 26 年度にかけて文献調査と現地調査により生育状況の把握を行った。

・文献調査

既存文献を収集し、生育場所、確認時期等を調査した。

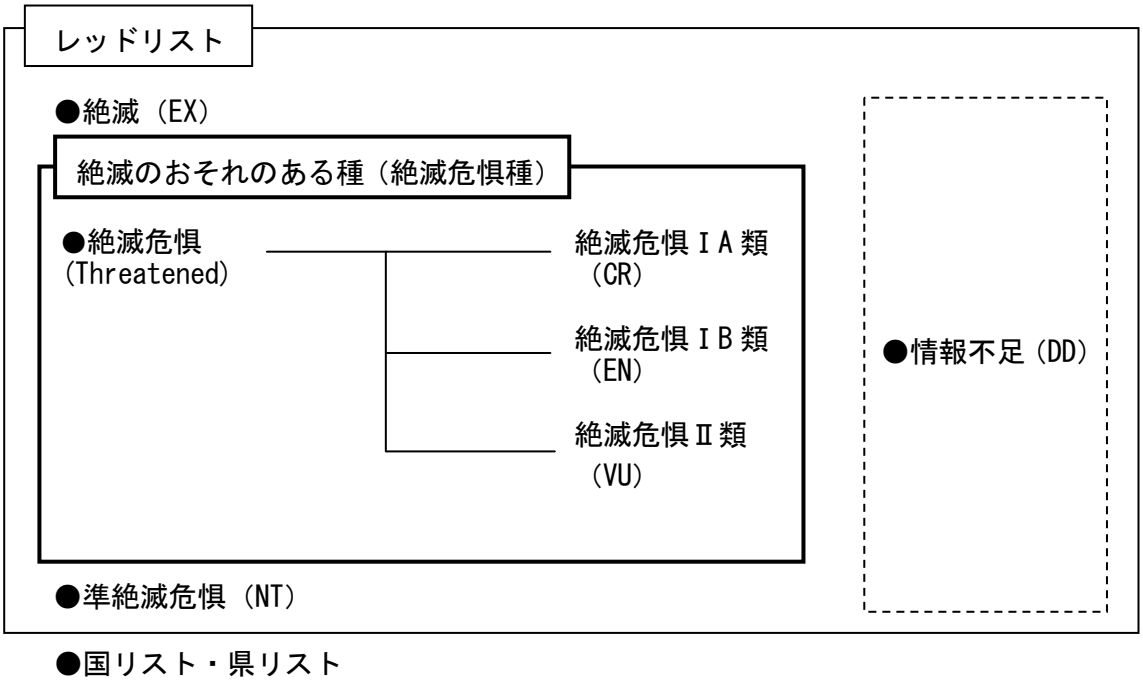
・現地調査

現地踏査を行い、生育状況を調査するとともに、必要に応じて文献調査で把握した既知産地の現状についても調査した。

（執筆者　成田　務）

（４）レッドリストのカテゴリーと判定基準

今回のレッドリストの見直しに用いたカテゴリーは次のとおりである。



判定基準は、国および愛知県のレッドリスト／レッドデータブックとの整合性を確保するため、原則としてIUCN基準に準拠することとした。ただし具体的な評価作業は、蓄積されている情報量が生物群ごとに異なることから、維管束植物とコケ植物でやや異なる手法で行った。

① 維管束植物　（種子植物・シダ植物）

絶滅が危惧される程度を評価するためには、前提条件として、その種が名古屋市域に定着して生育していなければならない。そこで評価作業に際しては、まず対象種が名古屋市に定着している／いたかどうかについて検討した。イブキシダ、イワヘゴ、キヨスミヒメワラビのような、名古屋市では１株しか確認されていないシダ植物、ラセンソウ、タカアザミような、やや不安定な場所に生育し、しかもその場所で継続的に生育が確認できない植物、カエデドコロのような散発的に出現し、しかもほとんど開花が確認できない植物など、偶産と判断される種は評価の対象から除外した。

また、移入の可能性が高く、国や愛知県のレッドリスト／レッドデータブックにも掲載されていないラセイタソウ、オオシマカンスゲ、海浜植物としてある程度定着しているが、本来は帰化植物であるハマダイコンについては、評価対象から除外した。しかし、ツメレンゲ、コガクウツギ、アズマガヤなどは、移入・逸出の可能性を否定しきれないものの自生とも考えられることから、評価対象に含めることにした。またオグラノフサモは、名古屋市に生育するものは雑種性植物の可能性があるが、十分な確証が得られていないことから、評価対象に含めた。

レッドリストのカテゴリーについては、国および愛知県に準拠し、表２を用いた。ただし野生絶滅は、名古屋市では公的な系統保存の体制が整備されておらず、個人的に管理されているもの

を全て確認することもできなかったため、愛知県と同様、絶滅から区別しないことにした。情報不足は設定せず、情報が少ない種も現在得られる範囲の情報に基づき評価を行うこととした。

表２　維管束植物に用いたカテゴリー（ランク）と判定基準

カテゴリー及び基本概念		国際基準の概略	名古屋市での基準
絶滅 Extinct (EX) ・ 野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	地域内ではすでに絶滅したと考えられる種。 野生では絶滅し、栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。	過去に生育していたことが確認されており、少なくとも野生ではすでに絶滅したと考えられる種（栽培下等では存続している種を含む）。 【確実な情報があるもの】 1　調査や記録により、すでに野生で絶滅したと判断される。 【情報量が少ないもの】 2　過去 50 年間前後の間に、信頼できる生育の情報が得られていない。	市内において本来の自然の生育地ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧ＩＡ類 Critically Endangered (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。	次のいずれかに該当する種。 1　10 年間または 3 世代の減少率が、80%以上のもの。 2　生育地の面積が、10km² 未満のもの。 3　減少率が 25%以上で個体数が 250 未満のもの。 4　成熟個体数が、50 未満のもの。 5　絶滅確率が、10 年間または 3 世代で 50%以上のもの。	表 3 の評価点の合計が 16 以上
絶滅危惧ＩＢ類 Endangered (EN)	ＩＡ類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。	次のいずれかに該当する種。 1　10 年間または 3 世代の減少率が、50%以上のもの。 2　生育地の面積が、500km² 未満のもの。 3　減少率が 20%以上で個体数が 2,500 未満のもの。 4　成熟個体数が、250 未満のもの。 5　絶滅確率が、20 年間または 5 世代で 20%以上のもの。	表 3 の評価点の合計が 14～15
絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 1　10 年間または 3 世代の減少率が、20%以上のもの。 2　生育地の面積が、2,000km² 未満のもの。 3　減少率が 10%以上で個体数が 10,000 未満のもの。 4　成熟個体数が、1,000 未満のもの。 5　絶滅確率が、100 年間で 10%以上のもの。	表 3 の評価点の合計が 12～13
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。	—	表 3 の評価点の合計が 11
参考　国リスト	環境省レッドデータブック（2014）に掲載されているが、名古屋市において上記の要件に該当しない種。	—	表 3 の評価点の合計が 10 以下または外来種
参考　県リスト	愛知県レッドリスト（2015）に掲載されているが、名古屋市において上記の要件に該当しない種。	—	

各カテゴリーの判定基準のうち「絶滅」は、過去に名古屋市に生育しており、しかも最近 25 年の間に現存が確認されていない種とした。ただし、開発等により生育環境が破壊されて絶滅が確実視される種は、最後に確認された時が過去 25 年以内であっても、「絶滅」と判定した。

現在存在している種の絶滅が危惧される程度を判定する基準としては、個体数、集団数、生育環境の減少傾向、人為的圧力の程度、県内分布の 5 項目をそれぞれ表 3 に示す基準により 4 段階で評価し、更に地域固有性に関する補正を加えて、その合計点をもとに判定することにした。

表 3　維管束植物に用いた各評価項目の評価基準

評価点 評価項目	4	3	2	1
個体数	1～2	10 未満	100 未満	100 以上
集団数	1	2～3	4～5	6 以上
生育環境の減少傾向	著しく減少 ・自然湿地 ・里草地 ・やせ山・砂浜 ・塩湿地・湿田 ・貧栄養水域 ・平野部の非汚染水域　など	やや減少 ・自然林 ・非造成丘陵地（二次林、造林地を含む） ・岩場 ・堤防の草地 ・水田　など	増減なし ・中間的環境	増加 ・攪乱地 ・過栄養水域など
人為的圧力の程度	極めて強い ・極度に強い開発圧または採取圧がある ・開発圧も採取圧もあり、少なくともどちらかが強い	強い ・強い開発圧または強い採取圧がある ・開発圧も採取圧もある	あり ・開発圧（伐採を含む）または採取圧（可能性を含む）がある	なし
県内分布	名古屋市以外の確認区画数 0～2	3～5	6～10	11 以上
補正項目	・固有種・著しい隔離分布：+2 ・準固有種・全国的に少なく愛知県が分布の限界：+1			

各評価項目のうち集団数は、およそ 1km²（三次メッシュ相当）を 1 ヶ所として数えた。狭い範囲にいくつかの小集団がある場合は、まとめて 1 集団と見なした。個体数は、草本および小型木本では繁殖可能な個体の数、大型木本では背丈程度の幼木も含むものとした。ただし栄養的に繁殖する傾向が強い植物や小型の 1 年生草本などで個体数の年変動が著しい植物については、存続の基盤が脆弱であることを考慮し、実数より 1 桁ないし 2 桁少なく見積もることにした。定性的な評価になる生育値の減少傾向と人為的圧力の程度については、表 3 の具体例をもとに複数の調査者で評価を行い、不一致が見られた場合は協議して調整した。県内分布については、名古屋市を除く愛知県内を 55 区画に分けて、分布区画数を数えた。各区画の略称と範囲は、巻末資料 2 に示した。また、狭い範囲で絶滅リスクを評価すると地域固有性の高い植物の評価が相対的に低くなるので、これを補正するため、固有度補正項（固有種・著しい隔離分布種に+2、準固有種・全国的に希少で分布域の限界になる種に+1）を加えた。その他特殊事情がある種についても、補

正項を加えた。補正を行った種については、その補正値を各種の解説に示した。合計点とカテゴリーの対応は、愛知県にあわせ、原則として表2右端の基準により行った。このような手法を用いた根拠は、巻末資料に示した。一部の現存が確認できないが再発見の可能性がある種については、その種の生態的特性等をもとに、定性的な評価を行った。

② コケ植物

コケ植物については、表4に示す判定基準に従い、各調査対象種について収集された情報をもとに、名古屋市内の分布の状況等を勘案して総合的に判断・評価を行い、定性的要件に従い絶滅のおそれの程度を判定した。

「過去に確実に生育していた種」と判断する要件については、「標本等の確実な生育記録がある種」とした。なお、カテゴリーのうち野生絶滅は、原産地や遺伝的混乱の防止体制に疑問があると思われる場合もあり、また、個人的に管理されているものすべて確認することも困難であると判断されたので、絶滅とあわせ、絶滅・野生絶滅として扱うこととした（ただし、表記上は絶滅（EX）とした）。

表４　コケ植物に用いたカテゴリー（ランク）と判定基準

<table>
<tr><th colspan="2">カテゴリー及び基本概念</th><th colspan="3">定性的要件</th></tr>
<tr><td colspan="2">絶　滅
Extinct (EX)
・
野生絶滅
Extinct in the Wild (EW)</td><td>名古屋市ではすでに絶滅したと考えられる種。野生では絶滅し、栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。</td><td colspan="3">過去に名古屋市に生育していたことが確認されており、名古屋市において少なくとも本来の自然の生育地ではすでに絶滅したと考えられる種（栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態では存続している種を含む）。
【確実な情報があるもの】
1　信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。
2　信頼できる複数の調査によっても、生育が確認できなかった。
【情報量が少ないもの】
3　過去50年間前後の間に、信頼できる生育の情報が得られていない。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">絶滅危惧Ⅰ類
Critically Endangered + Endangered
(CR+EN)</td><td rowspan="2">絶滅の危機に瀕している種。
現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。</td><td rowspan="2">次のいずれかに該当する種。
【確実な情報があるもの】
1　既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。
2　既知のすべての生育地で、生育条件が著しく悪化している。
3　既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る採取圧にさらされている。
4　ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。
【情報量が少ないもの】
5　それほど遠くない過去（30年～50年）の生育記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。</td><td>絶滅危惧
ＩＡ類
(CR)</td><td>ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。</td></tr>
<tr><td>絶滅危惧
ＩＢ類
(EN)</td><td>ＩＡ類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。</td></tr>
<tr><td colspan="2">絶滅危惧Ⅱ類
Vulnerable
(VU)</td><td>絶滅の危険が増大している種。
現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。</td><td colspan="3">次のいずれかに該当する種
【確実な情報があるもの】
1　大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。
2　大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつある。
3　大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧にさらされている。
4　分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">準絶滅危惧
Near Threatened
(NT)</td><td>存続基盤が脆弱な種。
現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。</td><td colspan="3">次に該当する種。
生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。
1　個体数が減少している。
2　生育条件が悪化している。
3　過度の採取圧による圧迫を受けている。
4　交雑可能な別種が侵入している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報不足
Data Deficient
(DD)</td><td>評価するだけの情報が不足している種。</td><td colspan="3">環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生育状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。あるいは確認例が極めて少なく、希少であるか否かも不明な種。
1　どの生育地においても生育密度が低く希少である。
2　生育地が局限されている。
3　生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。
4　生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">参考</td><td>国リスト</td><td>環境省レッドデータブック（2014）に掲載されているが、名古屋市において上記の要件に該当しない種。</td><td colspan="3">―</td></tr>
<tr><td>県リスト</td><td>愛知県レッドリスト（2015）に掲載されているが、名古屋市において上記の要件に該当しない種。</td><td colspan="3">―</td></tr>
</table>

３．名古屋市版レッドリスト

名古屋市版レッドリストに掲載した種数は、表５のとおりである。

表５　名古屋市版レッドリスト掲載種数（植物）

カテゴリー／対象	絶滅(EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅危惧(NT)	情報不足(DD)	計	参考
		絶滅危惧ⅠA類(CR)	絶滅危惧ⅠB類(EN)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	小計				国リスト・県リスト
維管束植物	75	49	58	72	179	38		292	11
コケ植物	1	0	0	3	3	15	0	19	0
計	76	49	58	75	182	53	0	311	11

① 名古屋市版レッドリスト（維管束植物）

科の範囲、名称、配列は、一部を除き「日本産維管束植物目録」（米倉浩二著，2012 年，北隆館）に準拠した。種の学名は主として「日本の野生植物」（1981～1992 年，平凡社）に使われているものを用い、科内の配列は学名のアルファベット順とした。

絶滅（ＥＸ）

No.	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015	市2010
1	デンジソウ	デンジソウ	*Marsilea quadrifolia* L.	VU	CR	EX
2	サンショウモ	サンショウモ	*Salvinia natans* (L.) All.	VU	CR	EX
3	ヒメコウホネ	スイレン	*Nuphar subintegerrima* (Casp.) Makino	VU	EN	EX
4	ヒツジグサ	スイレン	*Nymphaea tetragona* Georgi			EX
5	クロモジ	クスノキ	*Lindera umbellate* Thunb.			EX
6	マルミスブタ	トチカガミ	*Blyxa aubertii* Rich.	VU	EN	EX
7	スブタ	トチカガミ	*Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.	VU	EN	EX
8	ヤナギスブタ	トチカガミ	*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim.			EX
9	トチカガミ	トチカガミ	*Hydrocharis dubia* (Blume) Backer	NT	EN	EX
10	ホッスモ	トチカガミ	*Najas graminea* Delile			EX
11	コウガイモ	トチカガミ	*Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino		VU	EX
12	サワラン	ラン	*Eleorchis japonica* (A.Gray) F.Maek.		CR	EX
13	ツチアケビ	ラン	*Galeola septentrionalis* Rchb.f.			EX
14	ミズトンボ	ラン	*Habenaria sagittifera* Rchb.f.	VU	VU	EX
15	トキソウ	ラン	*Pogonia japonica* Rchb.f.	NT	EN	EX
16	ヤマトキソウ	ラン	*Pogonia minor* (Makino) Makino		VU	EX
17	クモラン	ラン	*Taeniophyllum glandulosum* Blume			EX
18	オオバギボウシ	キジカクシ	*Hosta montana* F.Maek.			EX
19	ナルコユリ	キジカクシ	*Polygonatum falcatum* A.Gray			EX
20	ミズアオイ	ミズアオイ	*Monochoria korsakowii* Regel et Maack	NT	CR	EX
21	オオホシクサ	ホシクサ	*Eriocaulon buergerianum* Körn.		CR	EX
22	クロホシクサ	ホシクサ	*Eriocaulon parvum* Körn.	VU	EN	CR
23	ヌカボシソウ	イグサ	*Luzula plumosa* E.Mey. var. *macrocarpa* (Buchenau) Ohwi			EX
24	イトハナビテンツキ	カヤツリグサ	*Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz.			EX
25	ミクリガヤ	カヤツリグサ	*Rhynchospora malasica* C.B.Clarke	EN	CR	EX
26	シズイ	カヤツリグサ	*Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Soják		VU	EX
27	ノグサ	カヤツリグサ	*Schoenus apogon* Roem. et Schult.		EN	EX
28	カガシラ	カヤツリグサ	*Scleria caricina* (R.Br.) Benth.	VU	CR	EX
29	ミカワシンジュガヤ	カヤツリグサ	*Scleria mikawana* Makino	VU	VU	EN
30	コシンジュガヤ	カヤツリグサ	*Scleria parvula* Steud.			EX
31	ヒナザサ	イネ	*Coelachne japonica* Hack.	NT	VU	EX
32	コゴメカゼクサ	イネ	*Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin.		VU	EX
33	コメガヤ	イネ	*Melica nutans* L.			EX
34	オオアブラススキ	イネ	*Spodiopogon sibiricus* Trin.			EX
35	クサボタン	キンポウゲ	*Clematis stans* Sieb. et Zucc.		VU	EX
36	オキナグサ	キンポウゲ	*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et C.Presl	VU	CR	EX
37	オトコゼリ	キンポウゲ	*Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.			EX
38	チダケサシ	ユキノシタ	*Astilbe microphylla* Knoll			EX
39	キジムシロ	バラ	*Potentilla fragarioides* L. var. *major* Maxim.			EX
40	ミヤマワレモコウ	バラ	*Sanguisorba longifolia* Bertol.		EN	EX
41	シモツケ	バラ	*Spiraea japonica* L.f.			CR
42	アリマグミ	グミ	*Elaeagnus murakamiana* Makino		VU	EX
43	クロウメモドキ	クロウメモドキ	*Rhamnus japonica* Maxim. var. *decipiens* Maxim.			EX
44	タカトウダイ	トウダイグサ	*Euphorbia pekinensis* Rupr.			EX
45	ミズスギナ	ミソハギ	*Rotala hippuris* Makino	CR	EX	EX
46	ハマボウ	アオイ	*Hibiscus hamabo* Sieb. et Zucc.		VU	EX
47	コガンピ	ジンチョウゲ	*Diplomorpha ganpi* (Sieb. et Zucc.) Nakai			EX
48	コミゾソバ	タデ	*Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.		NT	EX
49	タニソバ	タデ	*Persicaria nepalensis* (Meisn.) H.Gross			EX
50	ナガバノイシモチソウ	モウセンゴケ	*Drosera indica* L.	VU	CR	EX
51	ハマアカザ	ヒユ	*Atriplex subcordata* Kitag.		VU	EX
52	ギンリョウソウ	ツツジ	*Monotropastrum humile* (D.Don) H.Hara			EX
53	レンゲツツジ	ツツジ	*Rhododendron japonicum* (A.Gray) Suringar			EX
54	ヤマムグラ	アカネ	*Galium pogonanthum* Franch. et Sav.			EX
55	クサナギオゴケ	キョウチクトウ	*Cynanchum katoi* Ohwi	VU	NT	EX
56	コカモメヅル	キョウチクトウ	*Tylophora floribunda* Miq.			EX
57	ホタルカズラ	ムラサキ	*Lithospermum zollingeri* A.DC.		EN	EX
58	オオヒナノウスツボ	ゴマノハグサ	*Scrophularia kakudensis* Franch.			EX

59	ケブカツルカコソウ	シソ	*Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew. form. *hirsuta* (Honda) Murata		EN	EX
60	ミズネコノオ	シソ	*Eusteralis stellata* (Lour.) Murata	NT	EN	
61	ミズトラノオ	シソ	*Eusteralis yatabeana* (Makino) Murata	VU	VU	EX
62	ノタヌキモ	タヌキモ	*Utricularia aurea* Lour.	VU	VU	EX
63	フサタヌキモ	タヌキモ	*Utricularia dimorphantha* Makino	EN	EX	EX
64	ミカワタヌキモ	タヌキモ	*Utricularia exoleta* R.Br.	VU	EN	EX
65	コタヌキモ	タヌキモ	*Utricularia intermedia* Heyne		CR	EX
66	ヒメミミカキグサ	タヌキモ	*Utricularia minutissima* Vahl	EN	EN	EX
67	ツルニンジン	キキョウ	*Codonopsis lanceolata* (Sieb. et Zucc.) Trautv.			EX
68	ヒメシオン	キク	*Aster fastigiatus* Fisch.		VU	EX
69	ヤマジノギク	キク	*Aster hispidus* Thunb.		CR	EX
70	コヤブタバコ	キク	*Carpesium cernuum* L.			EN
71	リュウノウギク	キク	*Dendranthema japonicum* (Makino) Kitam.			CR
72	アキノハハコグサ	キク	*Gnaphalium hypoleucum* DC.	EN	EN	EX
73	カセンソウ	キク	*Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.		EN	EX
74	オナモミ	キク	*Xanthium strumarium* L.	VU	CR	EX
75	オトコエシ	スイカズラ	*Patrinia villosa* (Thunb.) Juss.			EX

絶滅危惧ＩＡ類（ＣＲ）

No.	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015	市2010
1	ミズニラ	ミズニラ	*Isoetes japonica* A.Braun	NT	NT	CR
2	ツクシヤワラシダ	ヒメシダ	*Thelypteris hattorii* (H.Itô) Tagawa var. *nemoralis* (Ching) Sa.Kurata		VU	CR
3	カヤ	イチイ	*Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc.			CR
4	ジュンサイ	ジュンサイ	*Brasenia schreberi* J.F.Gmel.			NT
5	オニバス	スイレン	*Euryale ferox* Salisb.	VU	CR	EX
6	シデコブシ	モクレン	*Magnolia stellata* (Sieb. et Zucc.) Maxim.	NT	VU	EN
7	ヒメクロモジ	クスノキ	*Lindera lancea* (Momiy.) H.Koyama			CR
8	ダンコウバイ	クスノキ	*Lindera obtusiloba* Blume			CR
9	スルガテンナンショウ	サトイモ	*Arisaema yamatense* (Nakai) Nakai subsp. *sugimotoi* (Nakai) H.Ohashi et J.Murata			VU
10	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ	*Burmannia championii* Thwaites		VU	CR
11	ウバユリ	ユリ	*Cardiocrinum cordatum* (Thunb.) Makino			VU
12	カタクリ	ユリ	*Erythronium japonicum* Decne.			CR
13	ヤマユリ	ユリ	*Lilium auratum* Lindl.			CR
14	コオニユリ	ユリ	*Lilium leichtlinii* Hook.f. var. *maximowiczii* (Regel) Baker			CR
15	ギンラン	ラン	*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume			EX
16	キンラン	ラン	*Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume	VU	NT	CR
17	シュスラン	ラン	*Goodyera velutina* Maxim.		VU	CR
18	オオミヤマウズラ	ラン	*Goodyera* sp.		EN	CR
19	キスゲ	ススキノキ	*Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Hotta			VU
20	ノカンゾウ	ススキノキ	*Hemerocallis fulva* L. var. *longituba* (Miq.) Maxim.			EN
21	ミクリ	ガマ	*Sparganium erectum* L.	NT	VU	EN
22	ケタガネソウ	カヤツリグサ	*Carex ciliato-marginata* Nakai			VU
23	ウマスゲ	カヤツリグサ	*Carex idzuroei* Franch. et Sav.			CR
24	ニシノホンモンジスゲ	カヤツリグサ	*Carex stenostachys* Franch. et Sav.		VU	EN
25	ヒメアオガヤツリ	カヤツリグサ	*Cyperus extremiorientalis* Ohwi		CR	EN
26	セイタカハリイ	カヤツリグサ	*Eleocharis attenuata* (Franch. et Sav.) Palla		VU	CR
27	トネテンツキ	カヤツリグサ	*Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) T.Koyama	VU	VU	
28	ヒメタイヌビエ	イネ	*Echinochloa crus-galli* (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi		EN	
29	コウボウ	イネ	*Hierochloe odorata* (L.) P.Beauv. var. *pubescens* Krylov			VU
30	ヒメイカリソウ	メギ	*Epimedium youngianum* Fisch. et C.A.Mey.			CR
31	カザグルマ	キンポウゲ	*Clematis patens* C.Morren et Decne.	NT	EN	CR
32	スハマソウ	キンポウゲ	*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Kitam.	NT	NT	CR
33	タチモ	アリノトウグサ	*Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.	NT	NT	EN
34	イヌハギ	マメ	*Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Sieb. ex Maxim.	VU	VU	CR
35	ミヤコミズ	イラクサ	*Pilea kiotensis* Ohwi		CR	CR
36	ウメバチソウ	ニシキギ	*Parnassia palustris* L. var. *multiseta* Ledeb.			EN
37	ヒトツバハギ	ミカンソウ	*Securinega suffruticosa* (Pall.) Rehder var. *japonica* (Miq.) Hurus.			CR
38	ヒメミソハギ	ミソハギ	*Ammannia multiflora* Roxb.			EN
39	ヒメビシ	ミソハギ	*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.	VU	EN	
40	イシモチソウ	モウセンゴケ	*Drosera peltata* Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi	NT	EN	EN

41	コガクウツギ	アジサイ	*Hydrangea luteo-venosa* Koidz.		EN	CR
42	イワガラミ	アジサイ	*Schizophragma hydrangeoides* Sieb. et Zucc.			EN
43	コケリンドウ	リンドウ	*Gentiana squarrosa* Ledeb.		VU	CR
44	スズサイコ	キョウチクトウ	*Cynanchum paniculatum* (Bunge) Kitag.	NT	国ﾘｽﾄ	EN
45	シマジタムラソウ	シソ	*Salvia isensis* Nakai ex H.Hara	VU	NT	CR
46	コシオガマ	ハマウツボ	*Phtheirospermum japonicum* (Thunb.) Kanitz			EN
47	ムラサキミミカキグサ	タヌキモ	*Utricularia uliginosa* Vahl	NT	NT	EN
48	キキョウ	キキョウ	*Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC.	VU	VU	VU
49	オミナエシ	スイカズラ	*Patrinia scabiosaefolia* Fisch.			EX

絶滅危惧ＩＢ類（ＥＮ）

No.	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015	市2010
1	ヤマドリゼンマイ	ゼンマイ	*Osmunda cinnamomea* L.			EN
2	イシカグマ	コバノイシカグマ	*Microlepia strigosa* (Thunb.) C.Presl		NT	VU
3	コモチシダ	シシガシラ	*Woodwardia orientalis* Sw.			VU
4	オオバウマノスズクサ	ウマノスズクサ	*Aristolochia kaempferi* Willd.		VU	VU
5	シバナ	シバナ	*Triglochin maritimum* L.	NT	NT	EN
6	ヒルムシロ	ヒルムシロ	*Potamogeton distinctus* A.Benn.		NT	EN
7	ササユリ	ユリ	*Lilium japonicum* Thunb.			EN
8	サイハイラン	ラン	*Cremastra appendiculata* (D.Don) Makino			VU
9	カキラン	ラン	*Epipactis thunbergii* A.Gray			VU
10	クロヤツシロラン	ラン	*Gastrodia pubilabiata* Y.Sawa			VU
11	ミヤマウズラ	ラン	*Goodyera schlechtendaliana* Rchb.f.			VU
12	ムヨウラン	ラン	*Lecanorchis japonica* Blume			EN
13	コバノトンボソウ	ラン	*Platanthera tipuloides* (L.f.) Lindl. var. *nipponica* (Makino) Ohwi			EN
14	ノハナショウブ	アヤメ	*Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai			EN
15	ミヤマナルコユリ	キジカクシ	*Polygonatum lasianthum* Maxim.			EN
16	ヤマトミクリ	ガマ	*Sparganium fallax* Graebn.	NT	NT	EN
17	ツクシクロイヌノヒゲ	ホシクサ	*Eriocaulon kiusianum* Maxim.	VU	NT	EN
18	シラタマホシクサ	ホシクサ	*Eriocaulon nudicuspe* Maxim.	VU	VU	VU
19	イセウキヤガラ	カヤツリグサ	*Bolboschoenus planiculmis* (F.Schmidt) T.V.Egorova			VU
20	ミノボロスゲ	カヤツリグサ	*Carex albata* Boott		VU	
21	ハマアオスゲ	カヤツリグサ	*Carex fibrillosa* Franch. et Sav.			CR
22	センダイスゲ	カヤツリグサ	*Carex lenta* D.Don var. *sendaica* (Franch.) T.Koyama		VU	EN
23	アズマナルコ	カヤツリグサ	*Carex shimidzensis* Franch.			EN
24	ヒメガヤツリ	カヤツリグサ	*Cyperus tenuispica* Steud.		VU	EN
25	イガクサ	カヤツリグサ	*Rhynchospora rubra* (Lour.) Makino			EN
26	マツカサススキ	カヤツリグサ	*Scirpus mitsukurianus* Makino			EN
27	ウンヌケ	イネ	*Eulalia speciosa* (Debeaux) Kuntze	VU	NT	VU
28	ホザキノフサモ	アリノトウグサ	*Myriophyllum spicatum* L.			VU
29	ヤブサンザシ	スグリ	*Ribes fasciculatum* Sieb. et Zucc.		VU	EN
30	キハギ	マメ	*Lespedeza buergeri* Miq.			EX
31	シベリアメドハギ	マメ	*Lespedeza juncea* (L.f.) Pers.			EN
32	マキエハギ	マメ	*Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.			NT
33	ヒナノカンザシ	ヒメハギ	*Salomonia oblongifolia* DC.			VU
34	カワラサイコ	バラ	*Potentilla chinensis* Ser.		VU	EN
35	マメナシ	バラ	*Pyrus calleryana* Decne.	EN	CR	EN
36	ヤマネコヤナギ	ヤナギ	*Salix bakko* Kimura			EN
37	コクサギ	ミカン	*Orixa japonica* Thunb.			EN
38	ニガキ	ニガキ	*Picrasma quassioides* (D.Don) Benn.			VU
39	ミズタガラシ	アブラナ	*Cardamine lyrata* Bunge		NT	EN
40	ハタザオ	アブラナ	*Turritis glabra* L.			VU
41	クサレダマ	サクラソウ	*Lysimachia vulgaris* L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Knuth			NT
42	キクムグラ	アカネ	*Galium kikumugura* Ohwi		NT	EN
43	リンドウ	リンドウ	*Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim.			EN
44	イヌセンブリ	リンドウ	*Swertia diluta* (Turcz.) Benth. et Hook.f. var. *tosaensis* (Makino) H.Hara	VU	NT	VU
45	マルバノホロシ	ナス	*Solanum maximowiczii* Koidz.			EN
46	オオアブノメ	オオバコ	*Gratiola japonica* Miq.	VU	VU	VU
47	ヤマハッカ	シソ	*Isodon inflexus* (Thunb.) Kudô			VU
48	オドリコソウ	シソ	*Lamium album* L. var. *barbatum* (Sieb. et Zucc.) Franch. et Sav.			VU
49	オカタツナミソウ	シソ	*Scutellaria brachyspica* Nakai et H.Hara			EN
50	イガタツナミ	シソ	*Scutellaria kurokawae* H.Hara			VU
51	ニガクサ	シソ	*Teucrium japonicum* Houtt.			VU
52	ヌマダイコン	キク	*Adenostemma lavenia* (L.) Kuntze			VU
53	イナカギク	キク	*Aster ageratoides* Turcz. subsp. *amplexifolius* (Sieb. et Zucc.) Kitam.			EN

54	ウラギク	キク	*Aster tripolium* L.	NT	国ﾘｽﾄ	VU
55	オケラ	キク	*Atractylodes japonica* Koidz. ex Kitam.			VU
56	ミズギク	キク	*Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.		NT	EN
57	カシワバハグマ	キク	*Pertya robusta* (Maxim.) Makino			EN
58	タニウツギ	スイカズラ	*Weigela hortensis* (Sieb. et Zucc.) K.Koch			EX

絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

No.	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015	市2010
1	ウチワゴケ	コケシノブ	*Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats.			VU
2	チャセンシダ	チャセンシダ	*Asplenium trichomanes* L.			VU
3	ウスヒメワラビ	イワデンダ	*Acystopteris japonica* (Luerss.) Nakai			EN
4	ヘラシダ	イワデンダ	*Deparia lancea* (Thunb.) Fraser-Jenk.			
5	ウスバシケシダ	イワデンダ	*Deparia* sp.	VU	VU	VU
6	タニヘゴ	オシダ	*Dryopteris tokyoensis* (Matsum. ex Makino) C.Chr.			NT
7	ヘラオモダカ	オモダカ	*Alisma canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché			VU
8	アギナシ	オモダカ	*Sagittaria aginashi* Makino	NT	国ﾘｽﾄ	NT
9	オオトリゲモ	トチカガミ	*Najas oguraensis* Miki		NT	VU
10	ヒメドコロ	ヤマノイモ	*Dioscorea tenuipes* Franch. et Sav.			VU
11	チゴユリ	イヌサフラン	*Disporum smilacinum* A.Gray			VU
12	アマナ	ユリ	*Amana edulis* (Miq.) Honda			VU
13	サギソウ	ラン	*Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.	NT	VU	VU
14	ジガバチソウ	ラン	*Liparis krameri* Franch. et Sav.			VU
15	クモキリソウ	ラン	*Liparis kumokiri* F.Maek.			VU
16	キヨスミギボウシ	キジカクシ	*Hosta kiyosumiensis* F.Maek.			VU
17	コバギボウシ	キジカクシ	*Hosta sieboldii* (Paxton) J.W.Ingram form. *spathulata* (Miq.) W.G.Schmid			VU
18	ナガエミクリ	ガマ	*Sparganium japonicum* Rothert	NT	国ﾘｽﾄ	VU
19	ビロードスゲ	カヤツリグサ	*Carex fedia* Nees var. *miyabei* (Franch.) T.Koyama			VU
20	ツクバスゲ	カヤツリグサ	*Carex hirtifructus* Kük.			VU
21	イソヤマテンツキ	カヤツリグサ	*Fimbristylis ferruginea* (L.) Vahl var. *sieboldii* (Miq.) Ohwi			VU
22	アズマガヤ	イネ	*Asperella longe-aristata* (Hack.) Ohwi			VU
23	ヌマカゼクサ	イネ	*Eragrostis aquatica* Honda			VU
24	サヤヌカグサ	イネ	*Leersia sayanuka* Ohwi			
25	ワセオバナ	イネ	*Saccharum spontaneum* L. var. *arenicola* (Ohwi) Ohwi			VU
26	シダミコザサ	イネ	*Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* (Koidz.) S.Suzuki form. *hidejiroana* (Koidz.) S.Suzuki		VU	VU
27	ヘビノボラズ	メギ	*Berberis sieboldii* Miq.		NT	NT
28	ウマノアシガタ	キンポウゲ	*Ranunculus japonicus* Thunb.			VU
29	ツメレンゲ	ベンケイソウ	*Orostachys japonicus* (Maxim.) A.Berger	NT	NT	VU
30	ホドイモ	マメ	*Apios fortunei* Maxim.			VU
31	カワラケツメイ	マメ	*Cassia nomame* (Makino) Honda			NT
32	タヌキマメ	マメ	*Crotalaria sessiliflora* L.			VU
33	ハマエンドウ	マメ	*Lathyrus japonicus* Willd.			VU
34	オオウラジロノキ	バラ	*Malus tschonoskii* (Maxim.) C.K.Schneid.			VU
35	フモトミズナラ	ブナ	*Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.		NT	VU
36	ウラジロガシ	ブナ	*Quercus salicina* Blume			VU
37	カワラハンノキ	カバノキ	*Alnus serrulatoides* Callier			VU
38	ゴキヅル	ウリ	*Actinostemma lobatum* (Maxim.) Maxim. ex Franch. et Sav.			
39	キヌヤナギ	ヤナギ	*Salix kinuyanagi* Kimura		NT	VU
40	アギスミレ	スミレ	*Viola verecunda* A.Gray var. *semilunaris* Maxim.			VU
41	サワオトギリ	オトギリソウ	*Hypericum pseudopetiolatum* R.Keller			VU
42	ウスゲチョウジタデ	アカバナ	*Ludwigia greatrexii* H.Hara	NT	国ﾘｽﾄ	VU
43	ガンピ	ジンチョウゲ	*Diplomorpha sikokiana* (Franch. et Sav.) Honda			VU
44	コイヌガラシ	アブラナ	*Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi	NT	国ﾘｽﾄ	VU
45	ナガバノウナギツカミ	タデ	*Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai	NT	NT	EN
46	ウナギツカミ	タデ	*Persicaria sieboldii* (Meisn.) Ohki var. *aestiva* (Ohki) Okuyama			VU
47	アキノミチヤナギ	タデ	*Polygonum polyneuron* Franch. et Sav.			VU
48	コギシギシ	タデ	*Rumex nipponicus* Franch. et Sav.	VU	国ﾘｽﾄ	VU
49	ヤナギイノコヅチ	ヒユ	*Achyranthes longifolia* (Makino) Makino			
50	マタタビ	マタタビ	*Actinidia polygama* (Sieb. et Zucc.) Planch.ex Maxim.			VU
51	ギンリョウソウモドキ	ツツジ	*Monotropa uniflora* L.			VU
52	イチヤクソウ	ツツジ	*Pyrola japonica* Klenze			NT
53	ホソバニセジュズネノキ	アカネ	*Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn. subsp. *major* (Sieb. et Zucc.) T.Yamaz. var. *lancifolius* Makino			VU
54	ホソバノヨツバムグラ	アカネ	*Galium trifidum* L. var. *brevipedunculatum* Regel			VU

55	ヤブムラサキ	シソ	*Callicarpa mollis* Sieb. et Zucc.			EN
56	ハッカ	シソ	*Mentha arvensis* L. var. *piperascens* Malinv.			NT
57	ミゾコウジュ	シソ	*Salvia plebeia* R.Br.	NT	国ﾘｽﾄ	NT
58	タツナミソウ	シソ	*Scutellaria indica* L.			VU
59	シソバタツナミ	シソ	*Scutellaria laeteviolacea* Koidz.			VU
60	タマミズキ	モチノキ	*Ilex micrococca* Maxim.			VU
61	サワギキョウ	キキョウ	*Lobelia sessilifolia* Lamb.			VU
62	タニギキョウ	キキョウ	*Peracarpa carnosa* (Wall.) Hook.f. et Thomson var. *circaeoides* (F.Schmidt) Makino			VU
63	ガガブタ	ミツガシワ	*Nymphoides indica* (L.) Kuntze	NT	NT	VU
64	オクモミジハグマ	キク	*Ainsliaea acerifolia* Sch.Bip. var. *subapoda* Nakai			VU
65	キッコウハグマ	キク	*Ainsliaea apiculata* Sch.Bip.			VU
66	カワラハハコ	キク	*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. subsp. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.			VU
67	ムラサキトキンソウ	キク	*Centipeda* sp.		NT	
68	オグルマ	キク	*Inula britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.			VU
69	ムラサキニガナ	キク	*Lactuca sororia* Miq.			VU
70	オオカメノキ	レンプクソウ	*Viburnum furcatum* Blume ex Maxim.			VU
71	ノダケ	セリ	*Angelica decursiva* (Miq.) Franch. et Sav.			VU
72	ムカゴニンジン	セリ	*Sium ninsi* L.			VU

準絶滅危惧（ＮＴ）

No.	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015	市2010
1	コハナヤスリ	ハナヤスリ	*Ophioglossum thermale* Kom. var. *nipponicum* (Miyabe et Kudô) M.Nishida			NT
2	オオハナワラビ	ハナヤスリ	*Sceptridium japonicum* (Prantl) Lyon			NT
3	トキワトラノオ	チャセンシダ	*Asplenium pekinense* Hance			NT
4	スズカカンアオイ	ウマノスズクサ	*Heterotropa nipponica* (F.Maek.) F.Maek. var. *brachypodion* (F.Maek.) F.Maek.			NT
5	カゴノキ	クスノキ	*Litsea coreana* H.Lév.			NT
6	シロダモ	クスノキ	*Neolitsea sericea* (Blume) Koidz.			NT
7	ウラシマソウ	サトイモ	*Arisaema urashima* H.Hara			NT
8	イトトリゲモ	トチカガミ	*Najas gracillima* (A.Braun ex Engelm.) Magnus	NT	国ﾘｽﾄ	NT
9	ヤマラッキョウ	ヒガンバナ	*Allium thunbergii* G.Don			NT
10	ヒメコウガイゼキショウ	イグサ	*Juncus bufonius* L.			VU
11	ショウジョウスゲ	カヤツリグサ	*Carex blepharicarpa* Franch.			NT
12	シオクグ	カヤツリグサ	*Carex scabrifolia* Steud.			NT
13	ヒメコヌカグサ	イネ	*Agrostis valvata* Steud.	NT	国ﾘｽﾄ	NT
14	アシカキ	イネ	*Leercia japonica* Makino			
15	スズメノコビエ	イネ	*Paspalum scrobiculatum* L. var. *orbiculatre* (G.Forst.) Hack.			
16	ウキシバ	イネ	*Pseudoraphis ukishiba* Ohwi		NT	VU
17	マンサク	マンサク	*Hamamelis japonica* Sieb. et Zucc.			NT
18	ワタゲカマツカ	バラ	*Pourthiaea villosa* (Thunb.) Decne.			NT
19	コアカソ	イラクサ	*Boehmeria spicata* (Thunb.) Thunb.			
20	サクラバハンノキ	カバノキ	*Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz.	NT	国ﾘｽﾄ	NT
21	ケイリュウタチツボスミレ	スミレ	*Viola grypoceras* A.Gray var. *ripensis* N.Yamada et M.Okamoto			NT
22	ミズユキノシタ	アカバナ	*Ludwigia ovalis* Miq.			NT
23	サクラタデ	タデ	*Persicaria conspicua* (Nakai) Nakai			VU
24	モウセンゴケ	モウセンゴケ	*Drosera rotundifolia* L.			NT
25	カワラナデシコ	ナデシコ	*Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams			NT
26	ホソバハマアカザ	ヒユ	*Atriplex gmelinii* C.A.Mey			NT
27	コアジサイ	アジサイ	*Hydrangea hirta* (Thunb.) Sieb. et Zucc.			NT
28	クロミノニシゴリ	ハイノキ	*Symplocos paniculata* (Thunb.) Miq.			NT
29	ネナシカズラ	ヒルガオ	*Cuscuta japonica* Choisy			NT
30	イヌノフグリ	オオバコ	*Veronica didyma* Ten. var. *lilacina* (H.Hara) T.Yamaz.	VU	国ﾘｽﾄ	VU
31	イヌゴマ	シソ	*Stachys riederi* Cham. var. *intermedia* (Kudô) Kitam.			NT
32	ナンバンギセル	ハマウツボ	*Aeginetia indica* L.			NT
33	イヌタヌキモ	タヌキモ	*Utricularia australis* R.Br.	NT	国ﾘｽﾄ	NT
34	ミミカキグサ	タヌキモ	*Utricularia bifida* L.			NT
35	ホザキノミミカキグサ	タヌキモ	*Utricularia racemosa* Wall.			NT
36	カワラニンジン	キク	*Artemisia apiacea* Hance			NT
37	キセルアザミ	キク	*Cirsium sieboldii* Miq.			NT
38	オカウコギ	ウコギ	*Acanthopanax japonicus* Franch. et Sav.			

国リスト・県リスト

No.	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015	市2010
1	マツバラン	マツバラン	*Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.	NT	VU	
2	ニッケイ	クスノキ	*Cinnamomum okinawense* Hatus.	NT	国ﾘｽﾄ	国ﾘｽﾄ
3	ミズオオバコ	トチカガミ	*Ottelia alismoides* (L.) Pers.	VU	国ﾘｽﾄ	
4	シラン	ラン	*Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f.	NT	NT	国ﾘｽﾄ
5	オグラノフサモ	アリノトウグサ	*Myriophyllum oguraense* Miki	VU	CR	VU
6	ナラガシワ	ブナ	*Quercus aliena* Blume		EN	
7	ヤチヤナギ	ヤマモモ	*Gale belgica* Duham. var. *tomentosa* (C.DC.) T.Yamaz.		CR	
8	ミズマツバ	ミソハギ	*Rotala mexicana* Cham. et Schltdl.	VU	国ﾘｽﾄ	国ﾘｽﾄ
9	カワヂシャ	オオバコ	*Veronica undulata* Wall.	NT	国ﾘｽﾄ	国ﾘｽﾄ
10	アサザ	ミツガシワ	*Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze	NT	EN	
11	ハクサンボク	レンプクソウ	*Viburnum japonicum* (Thunb.) Spreng.		VU	

② 名古屋市版レッドリスト（コケ植物）

科の範囲、名称、配列については「日本の野生植物　コケ」（岩月善之助著，2001 年，平凡社）に準拠した。科内の配列については、学名のアルファベット順とした。

絶滅（ＥＸ）

No.	区　分	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015
1	苔類	タカサゴソコマメゴケ	タカサゴソコマメゴケ	*Jackiella javanica* Schiffn.		EX

絶滅危惧ＩＡ類（ＣＲ）

No.	区　分	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015
（該当種なし）						

絶滅危惧ＩＢ類（ＥＮ）

No.	区　分	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015
（該当種なし）						

絶滅危惧Ⅱ類（ＶＵ）

No.	区　分	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015
1	蘚類	ハリミズゴケ	ミズゴケ	*Sphagnum cuspidatum* Ehrh. ex Hofm.		VU
2	蘚類	イバラゴケ (ケムシゴケ)	アブラゴケ	*Calyptrochaeta japonica* (Card. et Thér.) Z.Iwats. et Nog.		VU
3	苔類	マルバヒメクサリゴケ	クサリゴケ	*Cololejeunea minutissima* (Sm.) Schiffn.		VU

準絶滅危惧（ＮＴ）

No.	区　分	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015
1	蘚類	コアナミズゴケ	ミズゴケ	*Sphagnum microporum* Warnst. ex Card.		
2	蘚類	オオミズゴケ	ミズゴケ	*Sphagnum palustre* L.	NT	NT
3	蘚類	イボミズゴケ	ミズゴケ	*Sphagnum papillosum* Lindb.		NT
4	蘚類	ユガミミズゴケ	ミズゴケ	*Sphagnum subsecundum* Nees ex Sturm		
5	蘚類	イクビゴケ	イクビゴケ	*Diphyscium fulvifolium* Mitt.		
6	蘚類	ハミズゴケ	スギゴケ	*Pogonatum spinulosum* Mitt.		
7	蘚類	ウマスギゴケ	スギゴケ	*Polytrichum commune* Hedw.		
8	蘚類	ツリバリゴケモドキ	シッポゴケ	*Bryohumbertia subcomosa* (Dix.) Frahm		
9	蘚類	イクタマユハケゴケ	シッポゴケ	*Campylopus gemmiparus* Z.Iwats. et al.		
10	蘚類	シッポゴケ	シッポゴケ	*Dicranum japonicum* Mitt.		
11	蘚類	カモジゴケ	シッポゴケ	*Dicranum scoparium* Hedw.		
12	蘚類	ヤナギゴケ	ヤナギゴケ	*Leptodictyum riparium* (Hedw.) Warnst.		
13	苔類	ゼニゴケ	ゼニゴケ	*Marchantia polymorpha* L.		
14	苔類	ウキゴケ	ウキゴケ	*Riccia fluitans* L.		VU
15	苔類	イチョウウキゴケ	ウキゴケ	*Ricciocarpos natans* (L.) Corda	NT	NT

情報不足（ＤＤ）

No.	区　分	種　名	科　名	学　名	国2014	県2015
（該当種なし）						

市 2010 版ではコケ植物は調査対象外となっているため、市 2010 ランクを掲載していない。

４．名古屋市の野生生物の現状

維管束植物

① 名古屋市における維管束植物の概況

名古屋市に野生状態で生育している維管束植物（小葉類・大葉類シダ植物・大葉類種子植物）は、まだ完全な植物目録が完成していないため正確な数を把握できないが、およそ表 6 のとおりである。本来自生する変種以上の維管束植物は日本全体で約 7,500、愛知県で約 2,260 であるから、前者の約 14%、後者の約 45%が名古屋市に生育していることになる。名古屋市に生育している維管束植物の数は、尾張東部、西三河、東三河の市町村に比べれば少ないが、それは最高地点が東谷山の 198m にすぎず、市域のほとんどが開発されて、自然度の高い場所はわずかしか残存していない名古屋市の条件を考えれば当然のことで、むしろ名古屋市は、地理的な条件の割に多くの植物が生育していると考えるべきである。

名古屋市の植物が比較的多いのは、主として、愛岐丘陵の末端にあたるため山地性の植物がある程度生育しているからである。名古屋市にある植物の中で、愛岐丘陵には比較的多いが丘陵地にはほとんど見られなくなる山地性植物としては、東谷山だけにあるウラジロガシ、サワオトギリ（中村区でも採集されている）、オオウラジロノキ、タマミズキ、マルバノホロシ、オオカメノキ、タニギキョウ以外にも、ウチワゴケ、ウスヒメワラビ、タニヘゴ、タニソバ、マンサク（日進長久手にもある）、コアジサイ、イワガラミ、コクサギ（知多南部にもある）、ギンリョウソウモドキ、タニウツギ、オトコエシ（知多南部にもある）、ツルニンジン、オクモミジハグマ、イナカギク（知多南部にもある）、カシワバハグマ、チゴユリ、ミヤマナルコユリ、ヒメドコロ、スルガテンナンショウ（日進長久手にもある）、ミヤマウズラ、クモキリソウなど、相当の数に上る。ヤマネコヤナギ、クロウメモドキ、カタクリ、アズマナルコなどは、愛岐丘陵にも比較的少ない。しかしこれらの植物は、名古屋市ではいずれも生育地や個体数がきわめて少なく、ほとんどがこのレッドデータブックに掲載されている。それに対して、名古屋市には尾張での分布が限られるような顕著な暖地性植物は少なく、イシカグマ、ホソバニセジュズネノキなどがあげられるにすぎない。

表 6　名古屋市の維管束植物※1

植物群		小葉類	大葉類					計
			シダ植物	裸子植物	被子植物			
					初期分岐群	単子葉類	真正双子葉類	
在来	種※2	10	100	+	20	340	550	1,020
	品種	0	+	0	+	20	50	70
	雑種	0	10	+	0	10	30	50
外来種※3		+	+	+	10	110	350	480
計		10	120	10	30	480	980	1,630

※1：10 以下の数は四捨五入。+は 0 でないことを示す。そのため縦横の合計値は、計算値と必ずしも一致しない。
※2：移入の可能性が高い植物を除き、亜種・変種を含む。
※3：正確な種名が未同定のものを含む。愛知県の「移入種」に相当する。

名古屋市東部の丘陵は、新生代第三紀瀬戸層群の粘土と礫の互層からできている。現在では大部分の場所はコナラやアベマキの落葉広葉樹二次林におおわれているが、一部には貧弱なアカマツが生育するやせ山状態の場所が辛うじて残っており、オキアガリネズ、ワタゲカマツカ、ミカワツツジ、ウンヌケなどが生育している。谷部に点在する小湿地には、サクラバハンノキ、モウセンゴケ、ハルリンドウ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ヌマガヤ、ミカヅキグサ、イトイヌノハナヒゲ、サギソウなどのほか、東海地方固有または準固有のヘビノボラズ、トウカイコモウセンゴケ、クロミノニシゴリ、シラタマホシクサなどが生育している。しかし、シデコブシ、フモトミズナラは分布域の末端が市の北東部にやっと達している状態で、ミカワシオガマはすぐ近くまであるが、市内にはない。熱帯系の植物でしかもこの地方を特徴づける植物であるナガバノイシモチソウとヒメミミカキグサは、緑区に生育していたが絶滅してしまった。小さい谷にはため池が多く作られており、ガガブタ、イヌタヌキモ、ウキシバなどの水草が生育し、秋期干上がった底土上にはイヌノヒゲ類、ヌマカゼクサ、シロガヤツリ、メアゼテンツキ、アオテンツキ、トネテンツキなどが群落を作る。しかしこれらの植物も、名古屋市ではほとんどのものが個体数が少なくなり、このレッドデータブックに掲載されている。

草地性植物については、名古屋市でもかつては丘陵地の谷戸田周辺に里草地が点在しており、多くの種の生育場所になっていたと思われる。しかし、愛知みどりの会収蔵標本の基礎となった愛知県植物誌調査会が発足した 1990 年代初めには、既にそのような草地はほとんど消失していた。市の東部を流れる愛知用水の幹線水路沿いは、管理上の必要から毎年草が刈られるため、カワラナデシコ、タカトウダイ、コガンピ、クサレダマ、オミナエシ、リュウノウギク、カセンソウ、オオアブラススキなど、多くの草地性植物が生育していたが、愛知用水の改修工事のため、ほとんどの植物は絶滅、あるいは激減し、やはりこのレッドデータブックに掲載されるような状態になってしまった。

一方、市の西部は濃尾平野になり、本来は低湿地が広がっていた場所である。その南側は、伊勢湾に面している。そのようなわけで、低湿地性の植物や塩湿地性の植物も、代表的なものは一通り生育している。ただしこれらの植物も、開発や水の汚れによって絶滅、あるいは激減してしまったものが多く、ほとんどはこのレッドデータブックに掲載されるような状態に追い込まれている。

そのようなわけで、名古屋市の維管束植物は、種類数はそれなりにあっても、現状はきわめて危機的である。以下に、市内の地域ごとに、それぞれの状況を記述する。

ア　東谷山

東谷山は名古屋市の東端にあり、トウゴクシダとシダミコザサの基準標本産地である。標高は 198m で、市内の他地域と異なって古生代後期の砂岩、粘板岩や中生代白亜紀の伊奈川花崗岩からなり、名古屋市では唯一の山地的な地形を持つ場所である。山の北側は、庄内川に向かって急傾斜地になっており、かなり人間の手が加わっているが、それなりに自然度の高い林が残存している。瀬戸市との境界に谷があり、多少は陰湿な場所を好む植物も見られる。

庄内川の川岸は、庄内川が愛岐丘陵を刻んでできた古虎渓の末端部になっており、岩場にはカワラハンノキ、ケイリュウタチツボスミレ、ツクバスゲなどが生育している。

山の南側はやや傾斜が緩く、ほとんどが造林地になっているが、瀬戸市との境界となる谷の下部に湧水湿地があり、ここにシデコブシのまとまった群落がある。この場所は、以前は開け

た湿性草地があり、レンゲツツジ、コシンジュガヤ、カキランなどが生育していた。しかし、現在ではすっかり湿地林状態になってしまい、低木や草本はほとんど消滅した。

イ　東部丘陵地とその周辺

名古屋市の東側は、かつては低い丘陵地が連なり、湧水湿地も点在しており、東海地方固有種を含む多くの植物が生育していた。過去の状況を示す資料は少ないが、現在はすっかり市街地化されている千種区覚王山で 1932～34 年に採集された標本がある程度まとまって残されており、その中にはオミナエシ、アキノキリンソウ、ヌカボシソウ、タチモ、アブノメ、ホザキノミミカキグサ、サワヒヨドリ、ミズギク、サギソウなどが含まれていて、当時は自然の豊かな丘陵地であったことがうかがえる。第二次世界大戦後も 1975 年頃までは、天白区や緑区では丘陵地の地形が連続的に残されていた。しかし現在では宅地化が著しく進行し、いくつかの残存緑地が島状に残されているだけである。一方、残された緑地では里山としての利用や管理が行われなくなったために森林化が進行し、少し前までのやせ山状態はほとんど失われた。

森林公園周辺の緑地

名古屋市の丘陵緑地の中では最も市街地から離れており、湿地やため池も多く、自然も多く残されている。かつてはヒツジグサ、ノタヌキモ、シズイ、カガシラ、ミズトンボなども生育していた。現在でも、減少したとは言ってもまださなざまな植物が生育している。フモトミズナラ、ガンピ、タチモ、ムカゴニンジン、ヌマダイコン、ツクシクロイヌノヒゲなどは、名古屋市では現在のところこの緑地でしか確認できない。

才井戸流と庄内川

中志段味の才井戸流は、庄内川に沿った崖から多量の水が湧き出して清流となり、ミクリ、ヤマトミクリ、ミズタガラシなどが生育している。崖地にはニガキ、ノダケなどが生育し、流れに沿った水田にはミズトラノオ、マツカサススキなどが見られ、地形的にも大変重要な場所であった。しかし、水源部の地形は名古屋市上下水道局の産業廃棄物処分場建設により改変されてしまい、周辺の水田も開発が進行中である。庄内川の礫の河川敷にはカワラサイコ、シベリアメドハギなどが生育し、堤防の草地にはイヌハギ、フシグロ、ヒトツバハギ、ヤマハッカ、タツナミソウなどが生育していたが、それらの一部はすでに消失してしまった。

小幡緑地・吉根・大森

守山区の丘陵前縁に位置する緑地で、ため池の周囲にマメナシが多い。しかし、最大の自生地である蛭池では、公園化のため現存する個体は保存されても繁殖の条件が失われ、将来の絶滅が約束されたような状態になっている。コガクウツギ、アキノギンリョウソウ、ニシノホンモンジスゲなどは、名古屋市ではこの地域だけに生育している。シデコブシもわずかに生育している。しかし、丘陵の西側は開発が進行しており、いくつかの植物がきわめて危機的な状況に追い込まれている。小幡緑地の中にはいくつかの湧水湿地があったが、最も大きかったものは公園整備のため埋め立てられた。

猪高緑地

長久手市との境界にあり、ゴルフ場や大規模な運動公園がないという点で貴重な緑地である。緑地内にはため池が多く、ジュンサイ、ガガブタ、イヌタヌキモなどの水草やヒナノカンザシ、ヒメアオガヤツリ、ウキヤガラ、マネキシンジュガヤ、ミズニラなどの湿性植物が生育していたが、それらの一部は池の改修や遷移の進行により消失してしまった。林内にはギンラン、クサコアカソ、イナカギク、ムラサキニガナなどが生育していたが、タケ類が増加し、現存を確認できなくなったものもある。

牧野ヶ池緑地

牧野ヶ池緑地は大きな緑地であるが、中央部がゴルフ場にされており、そのため生物多様性保全の場としての価値が著しく損なわれている。牧野池にはイヌタヌキモなどの水草が生育している。ゴルフ場周辺部の林にはウスバシケシダ、カエデドコロ、ウバユリなどが生育していたが、近況は充分確認されていない。

東山公園・平和公園

丘陵地の最前縁に位置し、中央部は墓地や動植物園になっているが、周辺部にはそれなりに林が残されている。20 年ほど前まではヒメコウホネの茂る小池やシラタマホシクサ、ムラサキミミカキグサ、イヌセンブリなどの生育するいくつかの湿地があり、タイムスリップしたかのような農耕地も残されていたが、森林化が進行して、現在ではエンシュウムヨウランなどが目につく程度になってしまった。

荒池緑地・島田緑地

荒池にはウキシバが多く、周辺ではオオアブノメなども確認されている。西側にある島田緑地は、かつてはいろいろな植物が生育していたが、公園化されて自然度が低下してしまった。

相生山緑地

ゴルフ場や大規模な運動公園がなく、まとまった面積が確保されているという点で、猪高緑地とともに貴重な緑地である。林内にはウスバシケシダの大きな群落があり、ヤナギイノコヅチ、エンシュウムヨウラン、オカウコギなども生育している。緑地内に湧水湿地はないが、近くには地下水がしみ出している場所があり、以前はミカワシンジュガヤなども生育していた。

みどりが丘公園とその周辺

みどりが丘公園の西側には愛知用水が通っており、その土手にはキスゲ、オオアブラススキ、タカトウダイ、リュウノウギク、オミナエシなど多くの草地性植物が生育していた。しかし、用水の改修によって土手の草地が失われ、これらの植物もほとんどが消失してしまった。

大高緑地とその周辺

緑区には滝ノ水湿地など多くの湧水湿地があり、全国的にも希少なナガバノイシモチソウ、ヒメミミカキグサをはじめ多くの湿地性植物が生育していたが、開発によりほとんどが失われてしまった。最大の残存緑地である大高緑地は大部分が公園化されているが、水辺にキヌヤナ

ギの群落があり、ハナショウブが植えられた湿地にも雑草としてヒメタイヌビエ、ナガバノウナギツカミなどが生育している。周辺の小緑地にはウラシマソウなどが生育している。

ウ　中部市街地

名古屋市の中部はすっかり市街地化されているが、名古屋城と熱田神宮に大きな緑地がある。

名古屋城

名古屋城は名古屋市街地では最大の緑地である。大部分は公園化されているが、石垣など人が接近しにくい場所にはいろいろな植物が生育している。石垣の植物で特に目立つのはツメレンゲで、本来の自生ではないかもしれないが、愛知県では最大の群落である。ウチワゴケ、トキワトラノオ、チャセンシダなどのシダ植物も生育しており、特にチャセンシダは尾張では唯一の自生地である。堀の土手斜面には、キクムグラの小群落がある。堀にはフサタヌキモなど多くの水草が生育していたが、現在では水が汚れてほとんど絶滅してしまった。しかし現在でも、オニバス、ヒメビシなどが僅かに残存している。水辺の湿地には、ゴキヅルが多い。堀川は庄内川からの導水によって清流が蘇り、オグラノフサモをはじめヤナギモ、アイノコイトモなどの水草が見られるようになった。

熱田神宮とその周辺

市街地南部の熱田神宮にも、よく茂った社叢がある。社叢内は立ち入りが制限されているため十分に調査できなかったが、過去にはアズマガヤが確認されている。他の樹木等について持ち込まれた可能性は否定しきれないが、数 m 四方の群落があり、尾張では唯一の自生状生育地であった。周辺にもいくつかの社叢や古墳があり、カゴノキ、シロダモ、ウラシマソウなどが生育している。

エ　西部低地

北区から西区にかけての庄内川右岸は、もともとは広い水田地帯であった。しかし現在では住宅地化が進行し、住宅地の間に僅かに残存していた水田もほとんど消失した。このような水田では強力な農薬が使用されないためにミズネコノオなども残存していたが、このような水田雑草も消失した。中川区や港区の水田、水路、小河川では、サンショウモ、トチカガミ、コウガイモなどの水草が生育していたが、水の汚れによって絶滅してしまった。ウスゲチョウジタデなど、海部郡の水田では普通にみられる植物も、名古屋市内では希少である。低湿地性植物が将来もある程度残存する可能性があるのは、庄内川などの河川敷と庄内緑地だけであろう。海岸部は著しく改変が進み、砂浜的な部分は全く残されていない。しかし、河口部や入江には泥質の場所があり、大都市域の割には比較的多くの塩湿地性植物が生育している。

庄内川河川敷

庄内川河川敷は耕作地や公園になっている部分が多く、まとまったヤナギ林は残されていない。しかし、愛知県から琵琶湖岸にかけての固有種であるキヌヤナギが、個体数は少ないが点々と生育している。点々と高木があるオオタチヤナギも、他の地方のものに比べると葉が著しく幅広く、保全上の配慮を要する。低湿地性の草本植物は河川規模の割に少なく、河口部以外で

はミゾコウジュなどが見られるにすぎない。

庄内川・日光川河口部

庄内川河口部には広いヨシ原があり、良好な自然景観が保たれている。生育している植物の種類はそれほど多くないが、カワラニンジン、シオクグ、イセウキヤガラなどは個体数が多い。一部の場所ではシバナの群落がある。藤前干潟は植物に関してはほとんど注目すべきものがないが、そこに流入する日光川の河口部には、ウマスゲなどが僅かに残存している。

名古屋港東側の沿海地

南区加福町の貯木場跡地は、放棄後次第に自然状態が回復し、伊勢湾の愛知県側では唯一の個体であったハマボウ、愛知県では数カ所しか生育していないハマアカザをはじめ、ホソバハマアカザ、ウラギク、シオクグなどかなりの塩湿地性植物が生育していたが、名古屋市の廃棄物最終処分場建設により埋め立てられてしまった。現在多少なりとも塩湿地性植物が生育しているのは大江川と天白川の河口部だけで、ここではイセウキヤガラ、アキノミチヤナギなどが見られるほか、コギシギシが多く生育している。

（執筆者　芹沢俊介）

② 名古屋市における絶滅危惧種の概況

リスト掲載種の数を集計して、表 7 に示した。

表 7　名古屋市版レッドリスト（維管束植物）掲載種数

分類群＼カテゴリー			絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅危惧 (NT)	計	参考
				絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	小計			国リスト・県リスト掲載種
維管束植物　（計）			75	49	58	72	179	38	292	11
小葉類			0	1	0	0	1	0	1	0
大葉類	シダ植物		2	1	3	6	10	3	15	1
大葉類	裸子植物		0	1	0	0	1	0	1	0
大葉類	被子植物	初期分岐群	3	5	1	0	6	3	12	1
大葉類	被子植物	単子葉類	29	21	23	20	64	10	103	2
大葉類	被子植物	真正双子葉類	41	20	31	46	97	22	160	7

かつて名古屋市に生育していた維管束植物の中ですでに絶滅したと判定されるもの（絶滅／野生絶滅）は 75 種、現在生育している、あるいはまだ生育している可能性があるが絶滅が危惧される状態にあると判定されたもの（絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類）は 179 種、現時点で直ちに絶滅が危惧されるほどではないが、今後の状況によっては絶滅危惧種に移行する可能性がある種（準絶滅危惧）は 38 種となった。また、環境省が 2015 年に発行するレッドデータブック 2014 植物Ⅰ（維管束植物）、愛知県が 2015 年に発行するレッドリストあいち 2015 に掲載される種のうち､名古屋市での生育状況から絶滅危惧に該当しないと判定されたものはミズオオバコ、ミズマツバ、カワヂシャの 3 種、名古屋市に生育するものは全て移入または逸出で評価の対象にならないと判定されたものはマツバラン、ニッケイ、シラン、ナラガシワ、ヤキヤナギ、アサザ、ハクサンボクの 7 種（他に、オグラフサモが同定上の理由で掲載）であった。

植物群ごとに見ると、園芸目的で採取されることが多いラン科、ユリ科、水草や湿地性植物の多いトチカガミ科、ヒルムシロ科、ホシクサ科、カヤツリグサ科などを含む単子葉類は、他の群に比べて絶滅危惧種の割合が高くなった。ラン科は特に絶滅種、絶滅危惧種の割合が高く、名古屋市の自生種のほとんどが今回のリストに掲載された。それに対してシダ植物は、希少偶産種と判定されたものが多かったため、結果的に絶滅危惧種の割合が低くなった。生育環境別では特に水生植物が危機的で、タヌキモ類は 5 種中 4 種が絶滅、1 種が準絶滅危惧、スイレン科は 3 種中 2 種が絶滅（他に、コウホネも過去に名古屋市域に生育していた可能性がある）、1 種が絶滅危惧ⅠA類、トチカガミ科は 10 種中 6 種が絶滅（他に、セキショウモもおそらくは過去に名古屋市域に生育していて絶滅したと思われるが、確実な資料がない）、1 種が絶滅危惧Ⅱ類、1 種が準絶滅危惧である。

掲載種数を環境省 2014 年版レッドデータブック、および愛知県 2015 年版レッドリストと比較した結果を、表 8 に示した。

表８　レッドデータブック・レッドリスト掲載種数の比較

	自生種総数	絶滅	絶滅のおそれのある種				準絶滅危　惧	情報不足	計	国・県リスト
			ＩＡ	ＩＢ	Ⅱ	小計				
名古屋市	1,020	75	49	58	72	179	38		292	11
愛知県	2,260	47	90	179	183	452	115	3	617	25
環境省	7,500	42	519	519	741	1,779	297	37	2,155	

自生種総数に対する絶滅・絶滅危惧種の数、および準絶滅危惧種を含むリスト掲載種総数の割合は、名古屋市ではそれぞれ約 25%および約 29%になった。この数字は、愛知県の場合それぞれ約 22%、約 27%、日本全国の場合それぞれ約 24%、約 29%であるから、名古屋市、愛知県、日本全国のリストはほぼ同等の水準で評価が行われていると判断される。

カテゴリー毎に見ると、リスト掲載種の中で絶滅／野生絶滅が占める割合は、日本全体で 1.9%、愛知県で 7.6%に対し、名古屋市は 25.8%で、割合が極めて高かった。これは、調査範囲が狭いことに加えて、大都市域で著しく開発が進んでいるという名古屋市の地域特性を反映していると考えられる。絶滅以外のカテゴリーについても、ほぼ同じ手法を用いた愛知県の結果と比較すると、全体的にランクの高いものの割合が大きい傾向があった。愛知県全体と比較して評価結果の逆転現象が生じた種はマメナシ（愛知県：絶滅危惧ＩＡ類、名古屋市：絶滅危惧ＩＢ類）だけで、これは日本全国に生育している個体の半数以上が名古屋市内に集中しているという特殊事情による。

減少の原因は各種ごとにそれぞれ記述したが、全体としてみると里山の二次林や草地の利用停止に伴う遷移の進行、開発による生育地の破壊（水の汚染による生育環境の破壊を含む）、園芸目的の採取が、植物を絶滅の危機に追い込んでいる三大要因である。このうち遷移の進行は、それ自体は自然現象である。しかし、遷移の進行が問題になる背景としては、その前段階として、人間が生活域を拡大する過程でさまざまな遷移段階を含む本来の自然環境を破壊し、それらの植物のもともとの生活場所を奪って、彼らを薪炭林や採草地、あるいは用水岸や河川堤防の草地などに追い込んできたという経緯がある。湧水湿地の植物にしても、治山事業等によって新たな湿地が形成される条件をなくせば、遷移に追われた植物は次の行き場を失ってしまう。東海豪雨の際にも東谷山などではいくつかの崩壊地ができたが、いずれもすぐに復旧工事が行われ、新たな湿地の形成には結びつかなかった。このような見方をすれば、一部の先駆種的な植物以外の大部分の種については、遷移の進行も人為的な環境破壊の一つの型と見なすべきである。

その意味で、用水路の岸、ため池の堰堤、河川の堤防などは管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、多くの草地性植物の貴重な生育地となっている。改修の際には、これらの場所が生物多様性保全に果たしている重要な役割を考慮し、適切な配慮を行うことが望まれる。

（執筆者　芹沢俊介）

③ 名古屋市で特に保全上の重要性が高い維管束植物

すでに述べたように、名古屋市に生育する維管束植物は、名古屋市では希少で絶滅が危惧される状態でも、周辺域に行けば普通種であることが多い。しかし中には、名古屋市を特徴づける、他地域では希少な種も存在する。代表的なものとしては、マメナシとミヤコミズがある。これらの植物は、他に代替がきかないという理由で、特に保全上の重要性が高い。

マメナシ　*Pyrus calleryana* Decne.　（バラ科）

マメナシは、日本、朝鮮半島中部、中国大陸中南部、ベトナム北部に隔離的に生育する樹木で、日本での生育地は愛知県、岐阜県、三重県に限られている。名古屋市では小幡緑地、大森蛭池などにまとまった生育地があり、その他にもところどころに生育している。おそらくは日本に現存する個体の過半数が名古屋市内に生育しているものと思われる。名古屋市に生育する維管束植物の中では、最も保全上の重要性が高いものである。本来ならば、名古屋市内に生育する全ての個体について個別に現状を確認し、モニタリング調査を継続すべきである。

ミヤコミズ　*Pilea kiotensis* Ohwi　（イラクサ科）

ミヤコミズは、西日本に分布するイラクサ科の 1 年生草本で、全国的に見ても希少な植物であり、生育が確認されている県は三重県、京都府、奈良県、和歌山県、兵庫県、岡山県、山口県、福岡県、大分県の 9 府県に限られている。名古屋市では名東区に小群落があるが、これが愛知県唯一の自生地であるとともに、分布の東限である。名古屋市に生育する維管束植物の中では、マメナシに次いで保全上の重要性が高い。

以上 2 種の他に地域固有性が高く、あるいは愛知県では生育地が限られているという理由で保全上重要と考えられるものには、ウスバシケシダ、オニバス、シデコブシ、ヤマユリ、ミノボロスゲ、センダイスゲ、ヒメアオガヤツリ、トネテンツキ、アズマガヤ、ヒメタイヌビエ、シダミコザサ、スハマソウ、ヒメビシ、コガクウツギなどがある。ヒメコウホネ、ミカワシンジュガヤなども、全国的にも愛知県でも稀少な植物であった。それぞれの種の特徴や生育地は、各種の解説に記述されているが、以下に要約を記述する。

ウスバシケシダ　*Deparia* sp.　（イワデンダ科）

濃尾平野やその周辺の丘陵地を中心に分布するシダ植物で、シケシダに比べて根茎が長くはい、葉は薄くて切れ込みが深い。名古屋市では相生山緑地に大きな群落があるが、この群落は既知の自生地の中でも最も大きなものの一つで、保全上特に重要である。天白区牧野ヶ池緑地、守山区才井戸流にも小群落がある。

オニバス　*Euryale ferox* Salisb.　（スイレン科）

日本では東北地方中部から九州までの池沼に生育する大型の水草で、全国的に減少傾向が著しい。名古屋市では名古屋城外堀に生育しており、ここが現存が確認できる愛知県唯一の自生地である。この場所も一時絶滅状態であったが、2012 年に再出現した。

シデコブシ　*Magnolia stellata* (Sieb. et Zucc.) Maxim.　（モクレン科）

東海地方の丘陵地に生育する落葉小高木または低木。名古屋市では東谷山北麓に比較的大きな群落があるほか、吉根に 2 ヶ所、少数個体が生育している。本地域の代表的な固有種であり、愛知県における分布域の末端にあたるという点でも保全上の重要性が高い。

ヤマユリ　*Lilium auratum* Lindl.　（ユリ科）

林縁などに生育する多年生草本で、白色の大きい花をつける。東北地方から近畿地方まで分布しており、愛知県では東三河とそれに接する西三河の一部に生育しているが、それ以外では名古屋市と犬山市に少数個体が生育しているだけである。

ミノボロスゲ　*Carex albata* Boott　（カヤツリグサ科）

北方系の多年生草本。長野県や岐阜県まで行けば山地の踏み跡などに普通に生育しているが、愛知県では稀少で、東三河の 3 区画（豊根東部、鳳来北東部、豊川）で確認されているにすぎない。名古屋市では、小幡緑地内の路傍に 2 ヶ所群落がある。分布域の南限に近い自生地である。

センダイスゲ　*Carex lenta* D.Don var. *sendaica* (Franch.) T.Koyama　（カヤツリグサ科）

通常は海岸のクロマツ林内などに生育する多年生草本。愛知県では田原西部、美浜南知多などで確認されているが、どちらも匍匐枝の短いセンダイスゲモドキと呼ばれる型が多く、典型的なセンダイスゲは個体数がごく少ない。名古屋市では中区の名古屋城内に小群落がある。古い時代に持ち込まれたものかもしれないが、県内では貴重な植物である。

ヒメアオガヤツリ　*Cyperus extremeorientalis* Ohwi　（カヤツリグサ科）

関東地方以西のため池の岸などに生育する小型の 1 年生草本。愛知県では 2002 年の調査で猪高緑地に生育することが確認された。同じような場所に生育するシロガヤツリに紛らわしい植物なので、注意して探索すれば尾張の他市町でも確認される可能性があるが、現在のところ他に県内の確実な記録はない。

トネテンツキ　*Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) T.Koyama
（カヤツリグサ科）

秋期干上がったため池の岸に生育する小型の 1 年生草本。全国的にも愛知県でも稀少な植物で、県内では尾張部の丘陵地にある数カ所のため池で確認されているにすぎない。名古屋市では 2013 年に初めて生育が確認された。

アズマガヤ　*Asperella longe-aristata* (Hack.) Ohwi　（イネ科）

林内に生育する多年生草本。愛知県では東三河の山地に点在し、渥美半島にも自生地があるが、それ以外では名古屋市が唯一の生育地である。名古屋市では熱田神宮境内に、数 m 四方の群落があった。

ヒメタイヌビエ　*Echinochloa crus-galli* (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi　（イネ科）

日本から東南アジア、インドにかけて広く分布する水田雑草であるが、識別がやや難しいこともあって、愛知県では今まで未記録であった。今回の調査で、大高緑地に生育することが確認された。ただし雑草的な植物なので、注意して探索すれば他市町でも確認される可能性がある。

シダミコザサ　*Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi*（Koidz.）S.Suzuki form. *hidejiroana*（Koidz.）S.Suzuki　（イネ科）

名古屋市産の標本をもとに記載されたミヤコザサの一型で、葉裏、節、桿鞘に毛があり、葉鞘に毛がない。愛知県では愛岐丘陵だけに分布しており、三河山地には見られない。名古屋市では守山区の東谷山上部に生育しており、ここが基準標本産地と思われる。

スハマソウ　*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata*（Makino）Kitam.

（キンポウゲ科）

早春白色の花をつける、小型の多年生草本である。東北地方中部から四国まで分布しているが、園芸目的の採取により全国的に減少している。名古屋市では 1 ヶ所にかなり大きい集団がある。愛知県では生育地が限られており、名古屋市以外では、尾張、西三河の 4 区画で確認されているにすぎない。

ヒメビシ　*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.　（ミソハギ科）

日本では本州～九州の池沼に生育する浮葉性の水草。ヒシ属は水草の中では比較的汚染耐性があるが、本種だけは汚染に弱いらしく、全国的に減少傾向が著しい。愛知県では名古屋城外堀に僅かに残存しているほか、豊田市旧市域東部の 3 ヶ所に生育しているだけである。

コガクウツギ　*Hydrangea luteo-venosa* Koidz.　（アジサイ科）

近畿地方以西と伊豆半島に分布する落葉性の小低木。愛知県は 2 つの分布域をつなぐ重要な生育地である。しかし県内では、名古屋市守山区に 1 株と、豊橋市北部に少数株が生育しているにすぎない。

すでに絶滅してしまった維管束植物の中では、ナガバノイシモチソウ（紅花）とヒメミミカキグサが日本では東海地方だけに分布していて、しかも東海地方でも生育地の少ない植物であり、フサタヌキモが全国的に希少で、愛知県では名古屋市以外では確実な記録がないものであった。

以上のほか、ヘビノボラズ、クロミノニシゴリ、シマジタムラソウ、シラタマホシクサ、ウンヌケなどは、東海地方に固有の、あるいは東海地方に分布の中心を持つ植物であり、レッドリストでの評価の割に保全上の重要性が高い。また、この他で愛知県版レッドリストに掲載されている種も、県全体として絶滅が危惧される状態にあるという点で、県全体としてリスト外の種よりも相対的に保全上の重要性が高いと考えるべきである。

（執筆者　芹沢俊介）

④ レッドリスト掲載種の解説

レッドリストに掲載された各種について、形態的な特徴や分布、市内の状況等を解説した。記述の項目、内容等は以下の凡例のとおりとした。準絶滅危惧、国リスト・県リストの種についても、これらが目にふれる機会が多いことを考慮し、絶滅種・絶滅危惧種とほぼ同じ様式で記述した。

【 掲載種の解説（維管束植物）に関する凡例 】

【分類群名等】

対象種の分類上の位置を示す門、綱、科名等を各頁左上枠外に記述した。科の範囲、名称、配列は一部を除き「日本維管束植物目録」（米倉浩司著，北隆館，2012 年）に準拠した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。和名及び学名は「第三次レッドリスト　レッドリストあいち 2015」（愛知県 2015）、及び「レッドデータブック 2014 –日本の絶滅のおそれのある野生生物–　8　植物Ⅰ（維管束植物）」（環境省 2015）と同様、原則として「日本の野生植物」（平凡社）に準拠した。科内の配列は、学名のアルファベット順とした。

【カテゴリー】

対象種の名古屋市におけるカテゴリーを各頁右上枠内に記述した。参考として「第三次レッドリスト　レッドリストあいち 2015」（愛知県 2015）の愛知県での評価、及び「レッドデータブック 2014 –日本の絶滅のおそれのある野生生物–　8　植物Ⅰ（維管束植物）」（環境省 2015）の全国でのカテゴリーも併記した。

【選定理由】

対象種がレッドデータブックなごや 2015 掲載種として選定された理由について記述した。評価の基礎になった個体数、集団数、生育環境、人為的圧力、県内分布の階級値、および補正を行った種については補正値と補正理由も示した。

「国リスト・県リスト」の種については**【除外理由】**として、対象種が名古屋市では絶滅危惧種と判断されなかった理由を記述した。

【形　態】

対象種の形態の概要を記述した。この部分の記述は、特に断っていない限り全国的な資料に基づくものである。

【分布の概要】

対象種の分布状況について、市内・県内・国内・世界での概要を記述した。市内の分布は、原則として 1985 年以後に生育が記録された場所を区単位で示し、その裏付けとなる標本をより詳細な採集地と共に引用した。ただし標本は、全ての確認地点で採集されているわけではない。また、必要に応じて 1984 年以前に採集された標本はあるがその後確認されていない区、記録はあるが確認できない区を付記した。一部の、詳細な分布情報を公表すべきではないと判断された種については、区以下の地名表記を避けた。

標本の所在は、以下の略号で表記した。

無表記：愛知みどりの会（AICH）
CBM：千葉県立中央博物館
MAK：首都大学東京牧野標本館
NBC：なごや生物多様性センター
TI：東京大学総合研究博物館／大学院理学系研究科附属植物園
CBM と NBC については、それぞれの機関の標本登録番号を併記した。

1990 年以前の記録があるが名古屋市産の標本が確認できない一部の種については、当時愛知県内で標本資料を集積できるシステムが構築されていなかったことを考慮し、確実と思われるものに限り文献をそのまま引用した。

市内分布図は、各区の境界を実線で表示し、自生個体群の現存が確認された、または現存の可能性が大きいと判断された区を■、絶滅、または絶滅の可能性が高いと判断された区を⁘、何らかの人為により移入されたと判断される外来個体群のみが存在する区のみを▨で示した。現存が確認されなかったが定性的に評価した種は、「絶滅」と判定されていないにもかかわらず、全

ての区で絶滅表示となっている場合がある。
　県内分布は、行政区分をもとに、原則として 50km² 未満の市町村は併合し、200km² 以上の市町村は分割して、県内（名古屋市を除く）を 55 に分けた区画（361 頁参照）を用いて、現在、または過去に分布が確認されている区画を示した。ただしこの部分の記述は、市町村合併に伴う区画割りの変更などのため再集計中なので、一部不確実なところがある。文献として引用する場合は、事前に必ず愛知みどりの会に問い合わせてほしい。

【生育地の環境／生態的特性】
　対象種の生育環境及び生態的特性について記述した。

【現在の生育状況／減少の要因】
　対象種の名古屋市における現在の生育状況、減少の要因等について記述した。最近の生育状況が確認されていない一部の種については、過去の生育状況を記述した。
　絶滅種については**【過去の生育状況／絶滅の要因】**として、対象種の名古屋市における過去の生育状況、絶滅の主な要因について文献、標本調査、野外調査等の結果に基づき記述した。

【保全上の留意点】
　対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

【特記事項】
　異名、近似種との識別点、調査の際の留意事項、2014 年 4 月公表のレッドリスト（案）と評価が異なる場合は前の評価区分と変更理由等、以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】
　記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。

【関連文献】
　対象種の理解の助けになる一般的文献を、著者、発行年、表題、掲載頁、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。
　多くの種に関連する文献については、以下の略号を用いた。

保シダ：田川基二．1959．原色日本羊歯植物図鑑．保育社，大阪．
保草Ⅰ：北村四郎ほか．1957．原色日本植物図鑑　草本編Ⅰ．保育社，大阪．
保草Ⅱ：北村四郎ほか．1961．原色日本植物図鑑　草本編Ⅱ．保育社，大阪．
保草Ⅲ：北村四郎ほか．1964．原色日本植物図鑑　草本編Ⅲ．保育社，大阪．
保木Ⅰ：北村四郎ほか．1971．原色日本植物図鑑　木本編Ⅰ．保育社，大阪．
保木Ⅱ：北村四郎ほか．1979．原色日本植物図鑑　木本編Ⅱ．保育社，大阪．
平シダ：岩槻邦男．1992．日本の野生植物　シダ．平凡社，東京．
平草Ⅰ：佐竹義輔ほか．1982．日本の野生植物　草本Ⅰ　単子葉類．平凡社，東京．
平草Ⅱ：佐竹義輔ほか．1982．日本の野生植物　草本Ⅱ　離弁花類．平凡社，東京．
平草Ⅲ：佐竹義輔ほか．1981．日本の野生植物　草本Ⅲ　合弁花類．平凡社，東京．
平木Ⅰ：佐竹義輔ほか．1989．日本の野生植物　木本Ⅰ．平凡社，東京．
平木Ⅱ：佐竹義輔ほか．1989．日本の野生植物　木本Ⅱ．平凡社，東京．
環境庁：環境庁．2000．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　–レッドデータブック–　8　植物Ⅰ（維管束植物）．同庁，東京．
SOS 旧版：愛知県植物誌調査会．1996．植物からの SOS–愛知県の絶滅危惧植物．同会，刈谷．
SOS 新版：愛知県自然史研究連絡会．2002．自然からの SOS–レッドデータブック愛知・植物編解説．愛知みどりの会，刈谷．
愛知県：愛知県環境調査センター（編）．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　–レッドデータブックあいち 2009–　植物編．同県環境部自然環境課，名古屋．

維管束植物　＜シダ植物　デンジソウ科＞

デンジソウ　*Marsilea quadrifolia* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

全国的にも減少傾向の著しい水生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

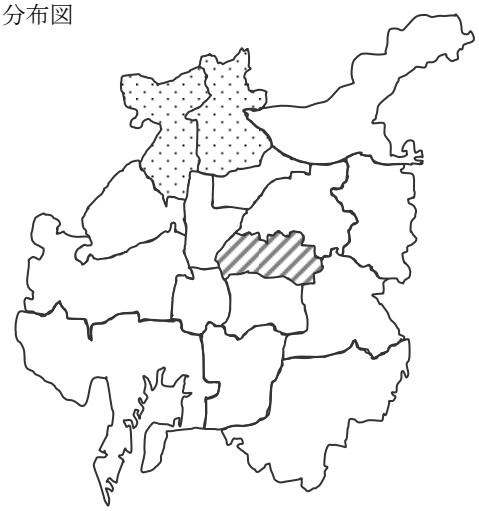
夏緑性の水生シダ植物。根茎は細く、泥土上を長く横走して不規則に分岐する。葉柄は緑色で長さ 10～15cm、葉身は 4 つ葉のクローバーに似て直径 2.5～4cm、4 枚の小葉が「田」の字に並ぶ。小葉は倒三角形、上端はゆるやかな円形で両側は直線に近く、基部は広いくさび形となる。葉柄の基部より少し上から出る短い枝に、長さ 4～5mm で豆のような形をした 1～3 個の胞子のう果をつけ、その中に数個の胞子のう群をつける。胞子には雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

北区（楠町, 大形　昌 s.n., 1979-10-10）、西区（五才美町, 高木順夫 s.n., 1981-10-11）に生育していた。昭和区川名公園の池にあるが、これはどう見ても植栽起源と思われる。

市内分布図



【県内の分布】

豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、豊田北西部、岡崎北部、西尾南部、江南丹羽、春日井で確認されているが、かなりの区画で既に絶滅していると思われる。新城、田原西部、あま大治で採集された古い標本もある。かつては普通の水田雑草だったと思われるが、資料はほとんど残されていない。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州と奄美大島に生育していたが、近年減少傾向が著しい。

【世界の分布】

ヨーロッパ、インド北部～東アジアに分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田やその周辺の水路などに生育し、水が浅いところでは挺水植物、やや深いところでは浮葉植物になる。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

量的な状況は不明である。どちらの場所でも水田の宅地化により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育できる環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。近年のビオトープ・ブームにより原産地不明の系統があちこちに持ち込まれているので、仮に再発見されても、真の自生とは判断しにくい。生育環境の創出は望ましいが、創出した場所に生物を人為的に持ち込んだら、自然の再生にはならない。

【特記事項】

手作業の除草では容易に駆除できない植物であるが、除草剤の使用により激減した。カタバミモの名もある。

【関連文献】

保シダ p.170，平シダ p.283，環境庁 p.429，SOS 旧版 p.42，SOS 新版 p.114，愛知県 p.157.
倉田　悟・中池敏之（編）．1987．日本のシダ植物図鑑 5:778-782．東京大学出版会，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　サンショウモ科＞

サンショウモ　*Salvinia natans* (L.) All.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

全国的にも減少傾向の著しい水生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

一年生の水生シダ植物。茎はところどころで分岐し、長さ5～15cmになる。浮葉は単葉で楕円形～長楕円形、長さ0.8～2cm、平坦または少し水中側へ曲がり、基部は円形で短い柄があり、2枚が対生状につく。水中葉は細かく枝分かれし、根のような形態と機能をもつ。胞子のう群は秋に水中葉の基部に集まってつく。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山, 鈴木辰夫 s.n., 1947-8-4）、中川区（富田町戸田, 高木順夫 558, 1992-9-23）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、下山、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、瀬戸尾張旭、東海知多、小牧、岩倉西春日井、一宮西部、あま大治、海部西部の標本があるが、現況は十分把握されていない。瀬戸尾張旭、あま大治では絶滅し、そのほかにもいくつかの区画ですでに絶滅したものと思われる。かつては普通の水田雑草で、更に多くの区画で生育していたものと思われるが、資料はほとんど残されていない。

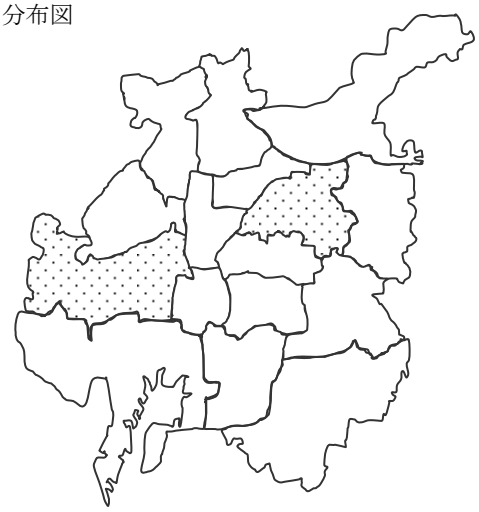
【国内の分布】

本州、四国、九州の低地に生育するが、近年減少傾向が著しい。

【世界の分布】

ヨーロッパ、アジア、アフリカに分布し、北アメリカからも記録されている。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の水田、ハス田やその周辺の水路に生育する浮遊植物で、しばしば栄養的に繁殖して水面を覆う。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

少し前までは、名古屋市内でも普通に見られる水田雑草であったと思われる。耕地整理に伴う乾田化や除草剤の使用によって減少し、最終的には生活排水の流入による水質悪化のため絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育できる環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

県内では稀に、大形のオオサンショウモ *S. molesta* D.S.Mitch.が逸出野生化している。アカウキクサとオオカウキクサも市内に生育していたと思われるが、標本等は確認できない。

【関連文献】

保シダ p.171，平シダ p.284，環境庁 p.430，SOS 旧版 p.43，SOS 新版 p.143，愛知県 p.158.
倉田　悟・中池敏之（編）．1987．日本のシダ植物図鑑 5:796-801．東京大学出版会，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　スイレン科＞

ヒメコウホネ　*Nuphar subintegerrima* (Casp.) Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

全国的にも愛知県でも減少傾向の著しい水生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生の水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて中空の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水面に浮かぶが水位が低下すると水上に出て、葉身は広卵形、長さ 6～10cm、幅 5～8cm、やや厚く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛で光沢がある。花期は6～9月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に1個の花をつける。花は黄色で直径 3～4cm、がく片は通常 5 枚である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味筧池，村松正雄 18170, 1998-9-13）、天白区（八事裏山，鳥居ちゑ子 646, 1994-6-18）、緑区（徳重，浜島繁隆 1080, 1968-8-30）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河、尾張に点在するが、尾張とそれに隣接する西三河の丘陵地に比較的自生地が多く、それ以外では極めて少ない。尾張では名古屋市のほか瀬戸市尾張旭、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、犬山、春日井で採集された標本があるが、いくつかの区画ではすでに絶滅していると思われる。

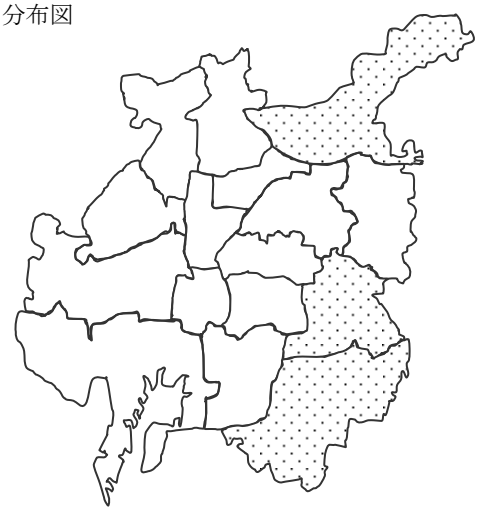
【国内の分布】

典型的なものは、本州（関東地方～東海地方）に分布する。コウホネやオグラコウホネとの中間のような型は、本州西部や四国にも分布している。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の浅い池沼に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

筧池は市内では最後まで残存していたが、水質の悪化に加えて東海豪雨で大きな被害を受け、絶滅した。天白区八事裏山では、小さい池に一面に生育していたが、急激に減少し絶滅した。森林化が進行し、水収支が崩れたこと、池が樹木に覆われて光条件が悪化したことが原因ではないかと思われるが、はっきりしない。県全体でも、ほとんどの自生地で開発が迫っていたり水質が悪化していたりして、存続が懸念される。栽培目的で盗掘されることも多い。

【保全上の留意点】

愛知県西部の丘陵地のため池では、一方で各種開発に伴う埋め立て、水の汚染、公園化・調整池化などの改修工事により、他方で利用停止に伴う管理放棄により、急速に生物多様性が失われている。現在良好な状態が保たれているため池は、文化遺産としての価値もあり、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

典型的なものに限定すれば、全国的に見ても極めて危機的な植物である。

【関連文献】

保草Ⅱp.252，平草Ⅱp.94，環境庁 p.455，SOS 旧版 p.52+図版 21，SOS 新版 p.123，愛知県 p.329.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.43．文一総合出版，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　スイレン科＞

ヒツジグサ　*Nymphaea tetragona* Georgi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

山間部のため池に多い水草で、名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生の水草。太く短い地下茎から多数の葉を束生する。葉は長い柄があり、葉身は水面に浮かんで卵円形～楕円形、長さ 8～19cm、幅 5～12cm、基部は矢尻形に深く切れ込み、裏面は赤紫色である。花期は 6～9 月。花柄は長く伸び、先端に 1 個の花をつける。花は水面に浮かび、直径 3～7cm、がく片は緑色で 4 枚、花弁は白色で 8～15 枚、長楕円形、長さ 2.5～4cm、鈍頭である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味蛭池，飯尾俊介 31B, 1964-8-17, 下流の筧池にもあったという）、天白区（八事裏山，中沢　武 s.n., 1972-9-19, NBC-1313）に生育していた。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在しており、作手、新城、豊橋北部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし（絶滅）、額田、刈谷知立（絶滅）、瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、美浜南知多、犬山、春日井などで確認されている。

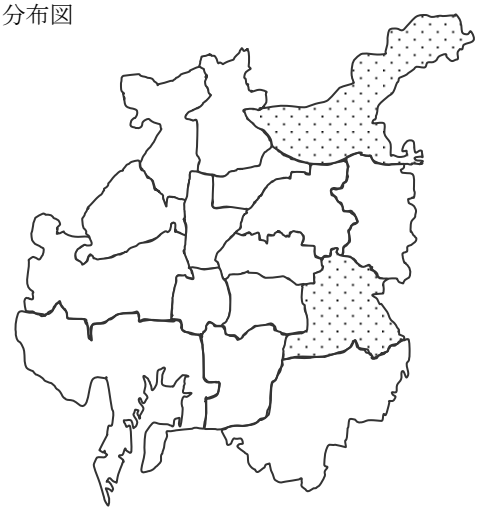
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジアからインド、ヨーロッパにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

腐植栄養または貧～中栄養の湖沼やため池などに生育する浮葉植物。山間部の林に囲まれたため池に生育していることが多く、そのため減少傾向は愛知県全体ではそれほど著しくない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

守山区では個体数は少なかったらしい。水の汚れにより絶滅したと思われる。天白区ではヒメコウホネと同じ池に生育していたらしいが、1990 年代はじめにはヒメコウホネのみが群生し、ヒツジグサは見られなかった。

【保全上の留意点】

名古屋市内では本種の生育できそうなため池が残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

名古屋市内にヒツジグサが現存しているという情報もいくつか寄せられたが、確認できた範囲ではすべてスイレンであった。

【関連文献】

保草Ⅱp.251，平草Ⅱp.95.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.109．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.50．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　クスノキ科＞

クロモジ　*Lindera umbellata* Thunb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

愛知県東三河の山地では普通に見られる植物であるが、尾張では稀である。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

落葉性の低木。高さ数 m になる。若枝は黄緑色で無毛。葉は互生し、長さ 0.5～2cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 6～10cm、幅 2～3m、先端は鈍端のことも鋭尖頭のこともある。葉裏にははじめ絹毛があるが成葉では無毛になり、やや白色を帯びる。花は 4 月に咲き、黄緑色で直径 6～7mm、十数個が散形につく。花柄は長さ 4～6mm で、白色の絹毛がある。果実は球形、直径 5～6mm、秋に黒色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（土原, 渡邉幸子 2647, 1996-5-27）で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河の山地には広く分布しており、豊橋北部などの低山地にも見られる。西三河では、東北部の山地には比較的多いが、それ以外の場所では少ない。尾張では、名古屋市以外は瀬戸尾張旭で確認されているだけである。

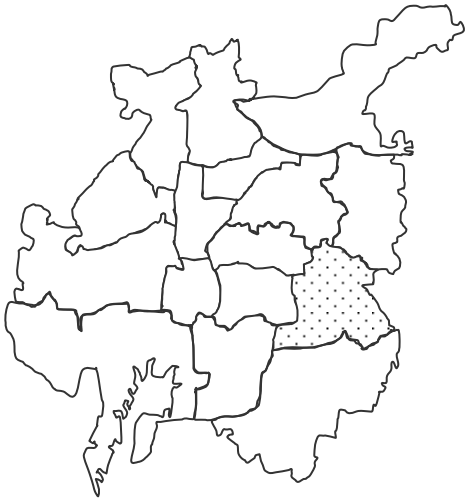
【国内の分布】

本州（関東地方以西）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる。山地には多いが丘陵地では稀である。ヒメクロモジと同じような場所に生育し、しばしば混生する。ただし尾張では、ヒメクロモジよりずっと稀である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

竹林内に幼株があったというが、2009 年の調査では消失していた。都市化に伴う開発によって絶滅したが、名古屋市では定着していたとは言い難く、偶然の変動の範囲内とも考えられる。

【保全上の留意点】

種子は鳥によって散布されるので、そのうちに他の場所で再出現する可能性がある。

【特記事項】

材に芳香があり、楊枝として使用される。ヒメクロモジからは、花序が大きく（従って秋期の花芽も丸くふくらむ）、小花柄の毛は白色、葉柄は概して長く、葉身先端部はしばしばあまり尖らず、葉裏は淡緑色で絹毛が少ないことで区別できる。偶産種的な植物で本来は評価の対象外であるが、木本であることを考慮し、絶滅種として掲載した。

【関連文献】

保木Ⅱpp.191-192，平木Ⅰp.118.
小山博滋．1987．クロモジ群の分類と分布．植物分類地理 38:161-175.
芹沢俊介．2009．クロモジとヒメクロモジ．くさなぎおごけ(3):8-10.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　トチカガミ科＞

マルミスブタ　*Blyxa aubertii* Rich.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

沈水性の１年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ 8～20cm、幅 4～6mm、先端はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 8～10 月、花は葉の間に束生し、両性、苞鞘は円筒形で長さ 3～5cm である。種子は楕円形で尾状突起がなく、長さ約 1.5mm、表面には縦方向に稜があり、細かい突起が散在する。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（平針，井波一雄 s.n.，1967-9-16，CBM130670）に生育していた。

【県内の分布】

最近では豊田東部と春日井の各 1 地点で確認されているにすぎない。

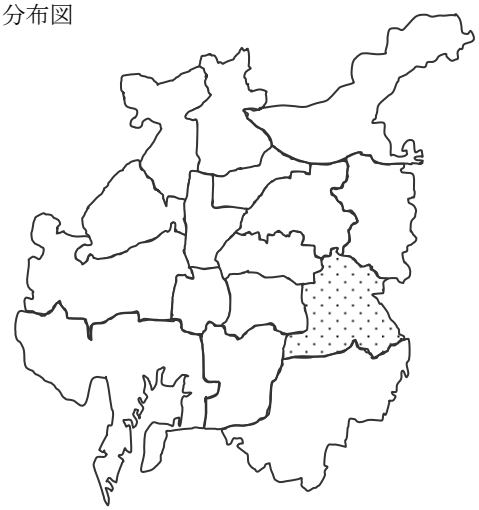
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド、オーストラリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県および岐阜県南部で確認した限りでは、生育地はいずれも水のきれいなため池である。名古屋市でもおそらくはそのような場所に生育していたと思われる。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、丘陵地の開発に伴うため池の埋め立て、あるいは水の汚染により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市では本種が生育できそうな水のきれいなため池がなくなっており、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

スブタからは種子に尾状突起がないことで区別されるが、この特徴を確認しない限り識別は困難である。

【関連文献】

保草Ⅲp.396，平本Ⅰp.5，環境庁 p.560，愛知県 p.103.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.24．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.87．文一総合出版，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　トチカガミ科＞

スブタ　*Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

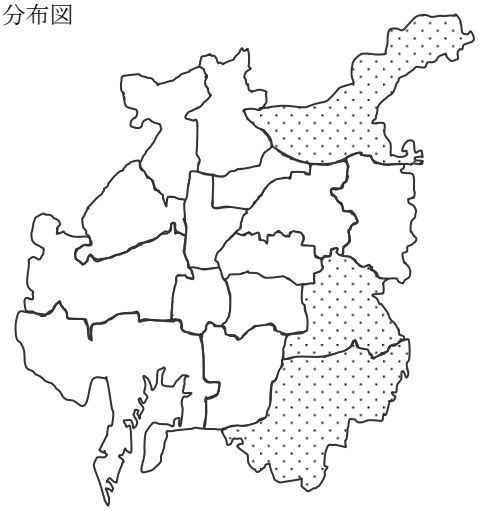
沈水性の 1 年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ 10～30cm、幅 5～8mm、先はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 7～10 月、花は葉の間に束生し、両性、円筒形で長さ 4～5cm の苞鞘があり、花弁は 3 個で白色、狭線形、長さ約 13mm である。種子は楕円形～紡錘形、長さ 1.5～2mm、両端に長いものでは 15mm に達する尾状突起があり、表面には細かい突起が散在する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（守山町小幡，井波一雄 s.n., 1932-10-1, CBM222823, 種子の突起はごく短い)、天白区(八事, 井波一雄s.n., 1949-9-11, CBM145658)、緑区（徳重，浜島繁隆 s.n., 1968-8-30）に生育していた。

市内分布図



【県内の分布】

豊川、豊橋南部、岡崎南部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、春日井で確認されている。ただし刈谷知立は絶滅。このほか新城、蒲郡御津、豊橋北部、田原で採集された標本もある。かつては名古屋周辺の丘陵地のあちこちにあったという話も聞くが、資料はほとんど残されていない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インドシナ半島、インド、マレーシア、オーストラリア。

【生育地の環境／生態的特性】

水のきれいなため池、谷戸田、その周辺の水路などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。開発により生育できる環境がなくなり、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では本種が生育できそうな環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草Ⅲpp.395-396，平草Ⅰpp.4-5，環境庁 p.560，SOS 旧版 p.89，SOS 新版 p.126，愛知県 p.431.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.24．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.86．文一総合出版，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　トチカガミ科＞

ヤナギスブタ　*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

水田や小水路に生育する水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

沈水生の１年生草本。茎は多少分岐し、長さ 5～30cm になり、多くの葉をつける。葉は無柄で線形、長さ 3～5cm、先はしだいに細くなり、辺縁には微細な鋸歯がある。花期は 8～10 月、花は葉の間につき、両性、円筒形で長さ 18～20mm の苞鞘があり、花弁は 3 個で白色、線形、長さ 7～8mm である。種子は長楕円形、長さ約 1.5mm、表面は平滑である。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（八事，井波一雄 s.n.，1949-9-11，CBM149649）、緑区（徳重，浜島繁隆 s.n.，1968-8-30）に生育していた。

【県内の分布】

スブタ類の中では最も多い種類で、山間部から丘陵地にかけて点在している。尾張では瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で生育が確認されている。

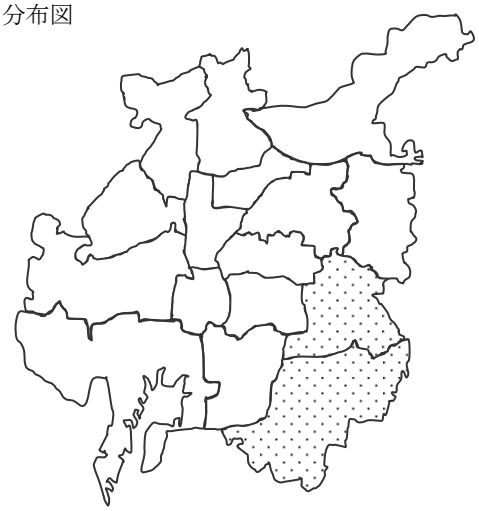
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水のある谷戸田やその周辺の小水路などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。開発により生育できる環境がなくなり、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われるが、スブタに比べればまだ可能性は残されている。湧水のある場所を注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅲp.395，平草Ⅰp.5.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.24．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.84．文一総合出版，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　トチカガミ科＞

トチカガミ　*Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

低地性の水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

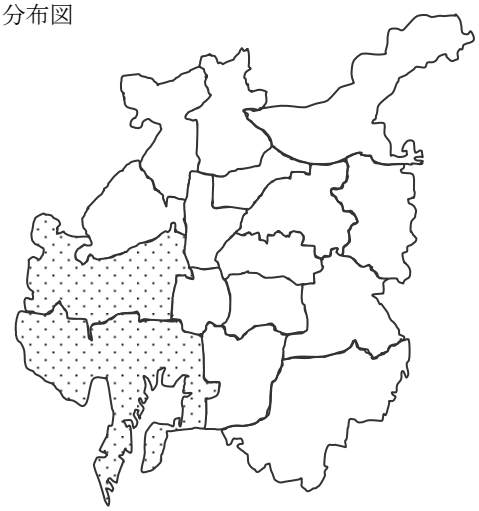
水面に浮遊する多年生草本。茎は長く、水中を横にはい、節から根と数枚の葉を出す。葉は長さ4～20cm の柄があり、柄の基部に 2 個の托葉がある。葉身は円心形、直径 4～7cm、全縁で、裏面の中央に気胞があり、水面に浮かぶ。花期は 8～10 月、花は柄が伸びて水面で開花し、雌雄異花、雄性の苞鞘内には約 5 個のつぼみができ、雌性の苞鞘内には雌花が 1 個だけ発達する。雄花、雌花ともに花弁は 3 個で白色、長さ 10～13mm である。冬には水中茎の先端が長さ 2～4cm の殖芽となり、水中に沈んで越冬する。

【分布の概要】

【市内の分布】

中川区（富田町戸田，高木順夫 446, 1992-9-6; 同長須賀，高木順夫 236, 1992-7-11)、港区（西福田戸田川，浜島繁隆 s.n., 1981-7-31）に生育していた。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、西尾南部、東海知多、一宮西部、稲沢、津島愛西、海部南部の 7 区画で確認されているが、かなりの区画ですでに絶滅していると思われる。豊橋北部と常滑で採集された標本もある。濃尾平野では、以前はあちこちにあった水草らしい。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から南アジア、オーストラリアにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

平野部の湖沼、ため池、水路などに生育する。一般に富栄養の、しかし過栄養でない水域に生育している。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

富田町の水田や水路にかなり生育していた。地形的には大きな変化はないので、除草剤の使用や生活排水が流入して水が汚染されたことにより絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の水草は全般的に危急状態であるが、本種のような平野部に生育する水草は特に危機的である。平野部に「めだかの学校」が見られるような澄んだ水辺を取り戻すことは、絶滅危惧種があるなしにかかわらず、重要な課題である。

【特記事項】

「トチ」は、スッポンのことである。

【関連文献】

保草Ⅲp.396，平草Ⅰp.4，SOS 旧版 p.90+図版 22，愛知県 p.254.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.28．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.92．文一総合出版，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　トチカガミ科＞

ホッスモ　*Najas graminea* Delile

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県全体ではまだ比較的多く生育している。

【形　態】

沈水性の 1 年生草本。茎は細くよく分岐し、下部の節から根を出す。葉は 3 輪生状、基部は短く葉鞘となり、葉鞘の上端は耳状に突出する。葉身は針形、長さ 1.5～2.5cm、辺縁の鋸歯は低く小さい。花期は 7～9 月、雄花にも雌花にも苞鞘がなく裸出する。果実は通常 1 節に 1 個つく。種子は長楕円形、長さ約 2mm、表面に不明瞭な細かい四角形の網目がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（徳重, 浜島繁隆 s.n., 1968-8-30）に生育していた。

【県内の分布】

トリゲモ類の中では最も多い種類で、低山地～丘陵地に点在しており、尾張では瀬戸尾張旭、日進長久手、半田武豊、常滑、知多南部、犬山、小牧、春日井の 8 区画で確認されている。

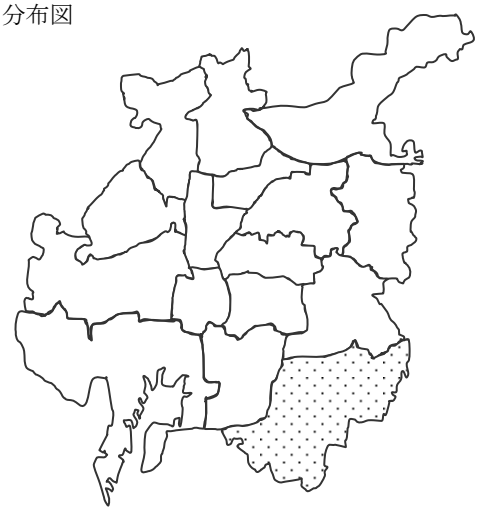
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

アジア、ヨーロッパ、北アフリカ、オーストラリアに分布し、北アメリカに帰化している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

谷戸田やその周辺の小水路、水のきれいなため池などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。開発により生育できる環境がなくなり、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

ていねいに探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

トリゲモ類の中では最も葉縁の鋸歯が小さく、手ざわりもやわらかい。葉鞘の上端が耳状に突出するのも他の種にない特徴で、これらの点に注意すれば種子がなくても同定できる。

【関連文献】

保草Ⅲp.18，平草Ⅰp.408.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.53．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.98．文一総合出版，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　トチカガミ科＞

コウガイモ　*Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

低地性の水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

沈水性の多年生草本。茎は短く、葉を束生し、やや太くて多数の小さいとげがある走出枝を出し、栄養的に繁殖する。葉は線形、長さ 80cm に達し、先端は鈍頭～鋭頭、辺縁は全体にわたり明瞭なとげ状の鋸歯がある。花期は 8～10 月、雌雄異株、雄性の苞鞘は長さ約 1cm、中に小さい花が多数でき、花柄が切れて水面に浮き上がる。雌性の苞鞘は円筒形、柄は水深に応じて長く伸び、水面に達して 1 個の花をつける。苞鞘の柄は花後らせん状に巻く。秋に、走出枝の先端に長さ 1～3cm の殖芽をつける。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（西福田戸田川，浜島繁隆 s.n., 1981-7-31）に生育していた。上流からの流下個体は、港区藤前（渡邉幸子 4470, 2000-9-9）でも採集されたことがある。

【県内の分布】

県内で現存が確認できるのは、現在のところ蟹江川（区画としては一宮東部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部）だけである。濃尾平野の岐阜県側には多いところがある。

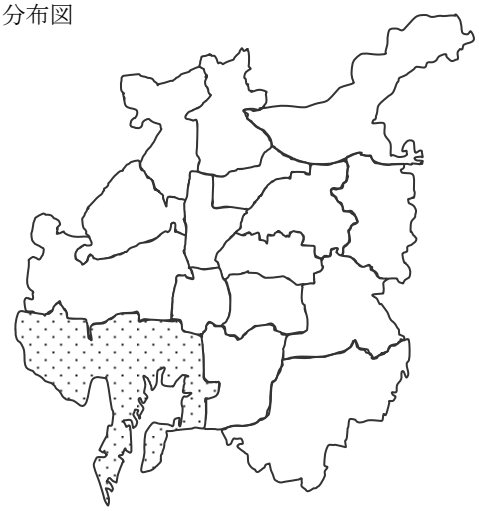
【国内の分布】

本州および九州に生育するが、関東地方と近畿地方以外では少ない。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の池沼や小河川に生育する。セキショウモより大きい河川に生育していることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明。水質の汚濁により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の水草は全般的に危急状態であるが、本種のような平野部に生育する水草は、特に危機的である。平野部に「めだかの学校」が見られるような澄んだ水辺を取り戻すことは、絶滅危惧種があるなしにかかわらず、重要な課題である。

【特記事項】

和名は、殖芽の形状が昔頭髪具として使われたこうがいに似ているからである。堀川では、最近本種によく似た移入種のコウガイセキショウモが増加している。

【関連文献】

保草Ⅲp.393，平草Ⅰp.6，SOS 旧版 p.90，SOS 新版 p.142，愛知県 p.432.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.56．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.104．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

サワラン　*Eleorchis japonica* (A.Gray) F.Maek.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

貧栄養の湿地に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。卵状の偽球茎がある。茎は細く、直立して高さ 15～30cm、基部近くに 2 個の鞘状葉がある。葉は 1 個につき、広葉樹でほぼ直立し、長さ 6～15cm、幅 4～8mm、縦の脈が目立ち、先端は鋭頭、基部は鞘となって茎をつつむ。花期は 7 月、花は茎の先端に通常 1 個つき、紅紫色で横向きに半開し、苞は三角形、長さ 2～3mm である。がく片と側花弁は倒披針形で、長さ 2～2.5cm、先端は鈍～鋭頭、唇弁は倒卵状楕円形、他の花被片とほぼ同長、先端で浅く 3 裂し、中裂片には縦の隆起線がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山，井波一雄 s.n.，1958-6-13，CBM195368）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の 4 ヶ所で確認されている。

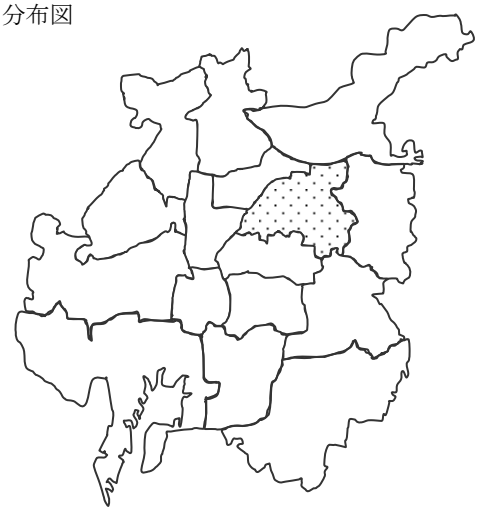
【国内の分布】

北海道、本州中部以北。

【世界の分布】

南千島、日本。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本はよく発育した立派な個体である。愛知県では園芸目的の採取により激減しており、名古屋市でもおそらくは園芸目的の採取により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

注目度の高い植物だけに、名古屋市内に未知の自生地が残存していることはほとんど期待できない。自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題である。

【特記事項】

アサヒランとも呼ばれる。

【関連文献】

保草Ⅲp.393，平草Ⅰp.6，SOS 旧版 p.90，SOS 新版 p.142，愛知県 p.432.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

ツチアケビ　*Galeola septentrionalis* Rchb.f.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

林内に生育する腐生植物で、名古屋市では過去に生育していたという記録があるが、現存を確認できない。

【形　態】

腐生の多年生草本。地下茎は太く、横にはい、大型の鱗片葉をつける。地上茎は直立し、高さ 40～80cm、褐色で多くの枝を出し、各枝は更に分枝して多数の花をつける。茎の上部や枝には、褐色の短毛が密生する。花期は 6～7 月、花は淡褐色で半開し、苞は披針形、長さ 4～6mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、長楕円形で長さ 15～20mm、唇弁は広卵形で側花弁より短く、肉質、辺縁は細かく裂ける。果実はソーセージ状で長さ 6～10cm、秋に赤く熟し、著しく目立つ。

【分布の概要】

【市内の分布】

「(守山区) 上志段味の麓のコナラ林の腐植土上に確認」と報告されている（中部植生研究グループ 1992)。果実の写真も掲載されているが、撮影データは示されていない。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には点在する。尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭で確認されているだけである。

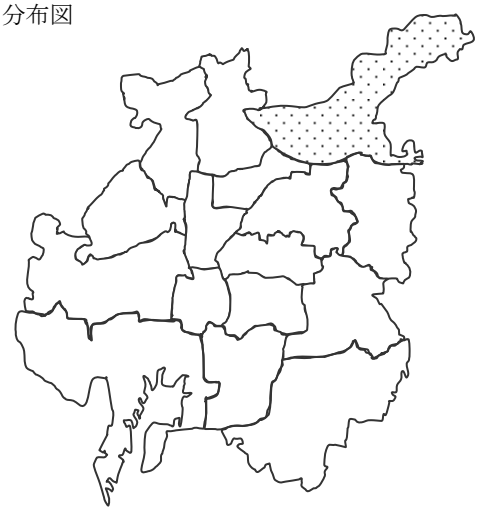
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。落葉樹林内に多いが、造林地やネザサ群落の中に生育することもある。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。個体数は少なかったものと思われる。

【保全上の留意点】

本種のような生育密度の低い種を保全するためには、森林環境を全体として保全する必要がある。

【特記事項】

現存が確認できないため「絶滅」と判定したが、里山の森林化が進行しているので、どこかで再発見される可能性はある。更に注意して探索する必要がある。

【引用文献】

中部植生研究グループ．1992．名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告 p.125．名古屋市環境保全局.

【関連文献】

保草Ⅲp.24，平草Ⅰp.206.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

ミズトンボ　*Habenaria sagittifera* Rchb.f.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。楕円形で長さ1～2cmの球茎がある。茎は3稜があり、直立して高さ40～70cm、時には150cm近くになる。葉は茎の下半分につき、鞘状のものを除いて数個が互生し、葉身は線形、長さ5～20cm、幅3～6mm、先端は長くとがり、基部は茎を抱いて葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状になる。花期は7～9月、花は茎の上部にやや多数が穂状につき、直径8～10mmで淡緑色、苞は線状披針形、長さ 8～15mm である。背がく片は円心形、長さ約 4mm、側がく片は長さ約5mm、幅約6mm、側花弁は斜卵形で、背がく片と並んで立つ。唇弁は長さ1.5～2cm、3裂して十字形となり、側裂片は上を向く。距は下垂し、長さ約15mm、先端は球状にふくらむ。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味蛭池，飯尾俊介 36, 1964-8-22）と天白区？（平針～白土～天白，稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101191）に生育していた。

【県内の分布】

東三河の2ヶ所、西三河の数ヶ所、尾張の1ヶ所で生育が確認されている。

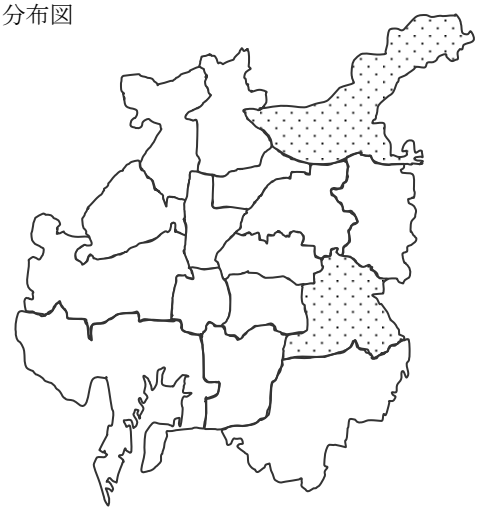
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～山地の湿地に生育する。谷戸の休耕田に生育することもある。日あたりのよい場所に多いが、林縁部にも生育している。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

蛭池では池岸の湿地に数10株生育していたが、次第に減少し、最終的には大村池の水の落ち口の改修により絶滅したという。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われる。

【特記事項】

和名は、湿地に生育し、唇弁の形状がトンボに似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.8，平草Ⅰp.193，環境庁 p.615，SOS 新版 p.111，愛知県 p.493.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

トキソウ　*Pogonia japonica* Rchb.f.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。名古屋市でも過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、長く横にはう。地上茎は直立し、高さ 10～30cm になる。葉は茎の中部に 1 個つき、無柄、葉身は披針形～線状長楕円形で、長さ 4～10cm、幅 7～12mm、先端は通常鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘をつくらない。花期は5～7月、花は茎の先端に 1 個つき、横向きに開いて淡紅色、苞は葉状で披針形、長さ 2～4cm である。背がく片は長楕円状倒披針形、長さ 1.5～2.5cm、幅 3～5mm、先端は鈍頭、側がく片はやや幅が狭く、側花弁は長楕円形、がく片よりやや短い。唇弁はがく片と同長、3 裂し、側裂片は三角形で翼状、中裂片は大きく、内面や辺縁に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（前池, 飯尾俊介 35, 1964-6-31）、千種区（東山, 犬飼　清 s.n., 1959-6-10）、緑区（滝ノ水湿地, 浜島繁隆 s.n., 1971-6-20）に生育していた。名古屋産という個体の写真は、奥山（1960）に掲載されている。

【県内の分布】

名古屋市以外では 15 区画で記録されているが、かなりの区画ですでに絶滅していると思われる。

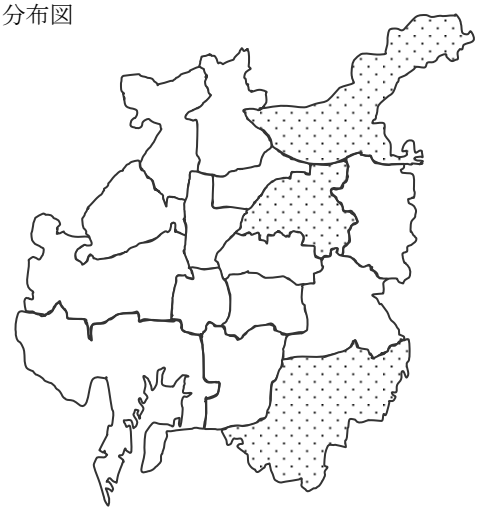
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育するが、北日本に多い。

【世界の分布】

千島列島、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

滝ノ水湿地ではかなり個体数が多かったらしいが、花が美しいため集中的に乱獲され、宅地造成のため湿地が破壊される前に絶滅したと言われる。どの湿地でも、人が入れば最初に消失するのは本種である。長く横走する根茎の途中から新株を出すため、繁殖力がそれほど弱いとは思えないが、採取圧はそれをはるかに上回っている。

【保全上の留意点】

注目度の高い植物だけに、名古屋市内に未知の自生地が残存していることはほとんど期待できない。本種に限らす多くのラン科植物は、園芸目的の採取により絶滅が危惧される状態に追い込まれている。販売目的の採取は言うまでもないが、個人が楽しむための採取も影響は甚大である。基本的には、国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルを問題にする必要がある。

【特記事項】

和名は、花色が代表的な絶滅危惧生物であるトキの羽色に似ているからである。植物の名のもとになったことからもわかるように、トキもかつては普通に見られる野鳥であった。

【引用文献】

奥山春季．1960．原色日本野外植物図譜 2:pl.161．誠文堂新光社，東京．

【関連文献】

保草Ⅲp.25，平草Ⅰp.205，環境庁 p.621，SOS 旧版 p.114，愛知県 p.297.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

ヤマトキソウ　*Pogonia minor* (Makino) Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

湿った草地に生育する小型のラン科植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、横にはう。茎は直立し、高さ 10～20cm になる。葉は茎の中部に１個つき、無柄、葉身は長楕円形、長さ 3～7cm、幅 4～12mm、先端は鈍～鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘を作らない。花期は６～８月、花は茎の先端に１個つき、淡紅色～ほとんど白色、上向きでほとんど開かず、苞は葉状で披針形、長さ 2～4cm である。がく片は線状倒披針形、長さ 1～1.5cm、側花弁はほぼ同長であるが、やや幅が広い。唇弁は長楕円形、がく片や側花弁よりやや短くて花外に出ず、3 裂するが側裂片は小型、中裂片は表面に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

名古屋市内で撮影されたという写真が、安原（1990）に掲載されている。撮影地ははっきりしないが、守山区ではないかと思われる。

【県内の分布】

東三河の 4 区画、西三河の 3 区画、尾張の 4 区画で生育が確認されている。名古屋市に隣接する長久手市や尾張旭市には現在も生育している。

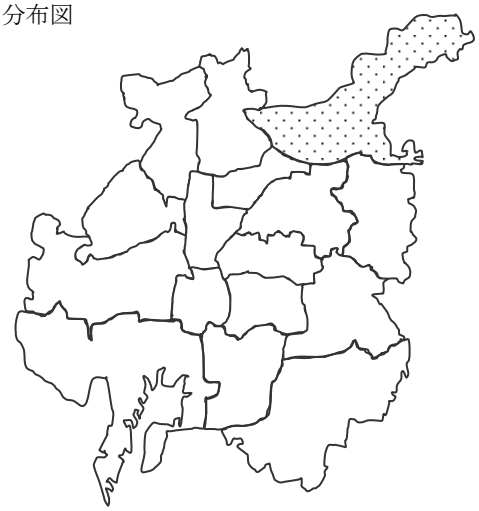
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地や湿地に生育する。愛知県では丘陵地の湧水湿地周辺、山間部の水田周辺の草地などに生育している。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。愛知県全体では、点在するがどの場所でも個体数は少なく、丘陵地の開発、草地の利用停止に伴う大型草本の繁茂などにより、減少傾向にある。ササ類などの繁茂で絶滅した、あるいは絶滅寸前の場所もある。トキソウほどではないが、園芸目的で採取されることもある。

【保全上の留意点】

再発見の可能性は皆無ではない。更に注意して探索する必要がある。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.65．エフエー出版，名古屋．

【関連文献】

保草Ⅲp.26，平草Ⅰp.205，愛知県 p.501．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

クモラン　*Taeniophyllum glandulosum* Blume

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

樹枝に着生する小型の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

無葉の多年生草本。根は束生して基物上に放射状に広がり、長さ 2～5cm、偏平で葉緑素を含み、灰緑色となる。茎は極めて短い。花期は 6～7 月、細い花柄の先に、1～4 個の花を房状につける。苞は三角形で長さ約 1mm、花は淡緑色、花被片は基部で合着して筒型となり、長さ約 2mm である。果実は楕円形で長さ 5～6mm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（竜泉寺, 井波一雄 s.n., 1935-1-3, CBM134214）で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地に点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭で確認されているだけである。

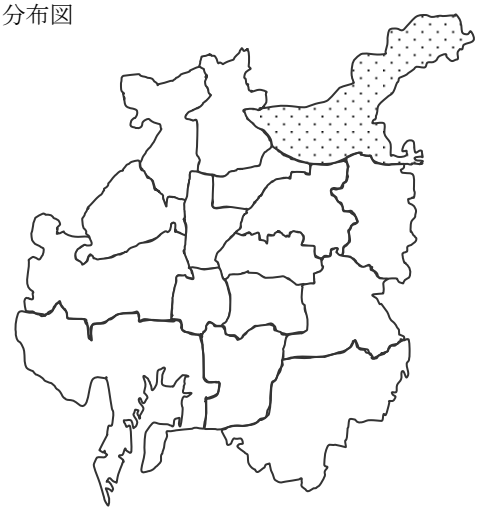
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、ヒマラヤ、マレーシア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

主として山間部の集落、果樹園などの、樹幹や枝に着生する。特にウメの木に着生することが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本はこの種として平均的な大きさの 4 個体が、1 枚の台紙に貼られている。空中湿度の低下などにより絶滅したのではないかと思われるが、はっきりしない。

【保全上の留意点】

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草Ⅲp.63, 平草Ⅰp.232.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　キジカクシ科＞

オオバギボウシ　*Hosta montana* F.Maek.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

山地性の植物で、名古屋市では生育していたという記録はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は短くはう。葉は束生し、長さ 20～50cm の柄があり、葉身は卵形～卵状楕円形、長さ 15～30cm、先端は鋭尖頭、基部は円形～心形、葉脈は裏面に隆起し、脈上に多少の小突起がある。花期は 6～8 月、花茎は高さ 50～100cm になり、上部に多数の花をつける。苞は扁平で長さ 2.5～4cm、鋭頭、つぼみの時から開出し、星形になる。花は淡紫色またはほとんど白色、長さ 4～5cm、広筒部は急に、または次第に太くなる。果実はよく形成される。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地に点在しているが、尾張では確実な標本資料はない。

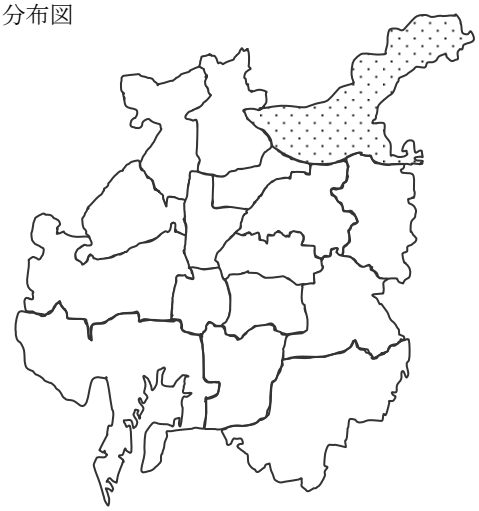
【国内の分布】

北海道西南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。愛知用水の改修により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われる。

【特記事項】

キヨスミギボウシに似るが、つぼみの時から苞が開出し、星形になることで区別される。しかし両者の関係については、更に検討が必要である。名古屋市ではキヨスミギボウシもかなり希少である。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.90．エフエー出版，名古屋.

【関連文献】

保草Ⅲp.138，平草Ⅰp.32.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　キジカクシ科＞

ナルコユリ　*Polygonatum falcatum* A.Gray

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。根茎は太く横にはう。茎は円柱形で稜はなく、無毛、上部は弓状に曲がり、高さ 50～100cm になる。葉は互生し、葉柄はごく短いかまたは無く、葉身は披針形、長さ 8～15cm、先は尾状に伸び鈍端、基部はややくさび形で、裏面脈上に小突起がある。花期は 5～6 月、花は葉腋に 3～5 個ずつつき、下垂する。花筒は緑白色で長さ 17～23mm、先端は色が濃くなる。液果は直径 8～10mm で、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（天白町野並，渡邉幸子 2137, 1995-5-18）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多い。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、知多南部、犬山で確認されている。

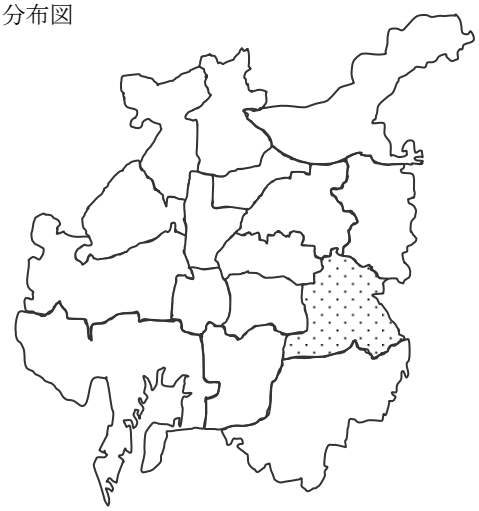
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

相生山緑地の二次林内の道沿いに、少数株が生育していた。人の入り込みが多くなり、道幅が広がり、踏みつけによって消滅した。

【保全上の留意点】

自然とのふれあい活動は、それ自体が自然への負荷となる。緑地公園を利用する際には、このことを十分意識し、できるだけ負荷を減らすよう配慮する必要がある。

【特記事項】

花の大きいオオナルコユリ *P. macranthum* (Maxim.) Koidz.は、三河山地には点在するが、尾張では確認されていない。

【関連文献】

保草Ⅲpp.111-112，平草Ⅰp.46.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ミズアオイ科＞

ミズアオイ　*Monochoria korsakowii* Regel et Maack

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい低湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

1 年生草本。茎は多孔質でやわらかく、高さ 20～40cm になる。葉は根生または茎上に互生し、根出葉の柄は長く 10～30cm、茎葉の柄は短く 5～10cm、葉身は心形、長さ 5～10cm、幅 4～8.5cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全緑、質は厚く、表面は深い緑色で光沢がある。花期は 9～10 月、茎の先に総状花序を作り、花は直径 1.5～3cm、花被片は 6 個で青紫色、基部まで離生し、楕円形、長さ 15mm 程度である。果実はさく果で卵状長楕円形、長さ約 10mm、先端につの状の花柱が残り、熟すと下向きになる。

【分布の概要】

【市内の分布】

北区（楠町，井波一雄 s.n.，1967-10-15，CBM165374）で採集された標本がある。「守山区の水田水口の泥浅水地に残る」という報告（中部植生研究グループ 1992）もある。

【県内の分布】

最近では海部西部と海部南部の木曽川河川敷撹乱地で一時的に生育したものが確認されているが、安定した生育地は知られていない。

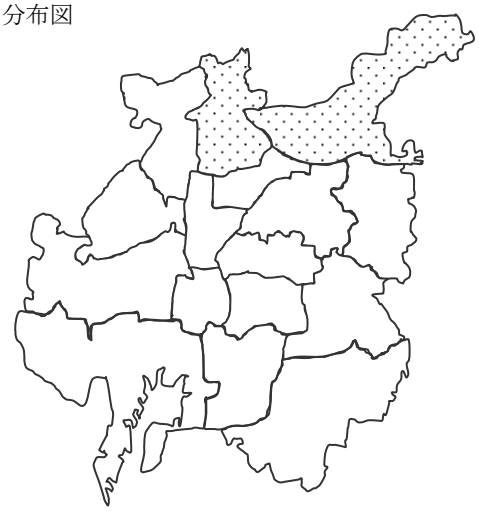
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の水路や、低湿地のやや撹乱された場所などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、水田の宅地化や水の汚染によって絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

埋土種子集団を作る植物であるが、名古屋市では本種が生育できそうな水田そのものがなくなっており、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

和名は水湿地に生育し、葉がフタバアオイに似ているからである。

【引用文献】

中部植生研究グループ．1992．名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告 p.128．名古屋市環境保全局．

【関連文献】

保草Ⅲp.171，平草Ⅰp.59，環境省 p.572，SOS 旧版 p.96，愛知県 p.238．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.147．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ホシクサ科＞

オオホシクサ　*Eriocaulon buergerianum* Körn.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

西日本系の湿地性植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。名古屋市では過去に生育していたという記録があるが、現存を確認できない。

【形　態】

1年生草本. 茎はごく短い。葉は束生して斜上し、披針状線形、長さ8～20cm、基部で幅5～8mm、全縁、先端は次第に細くなり、やや鈍端となる。花期は 8～10 月、花茎は多数つき、高さ 15～30cm、5～6 本の肋があって少しねじれ、先端に半球形の頭花をつける。頭花は直径約 6mm、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、広倒卵形、鈍頭、小花にははじめ白色の短毛があるが、後に少なくなる。子房と蒴果は 3 室である。

【分布の概要】

【市内の分布】

井波（1988）によれば、千種区池下にあったが絶滅したという。標本資料は未確認である。

【県内の分布】

現存する生育地は、春日井の 1 ヶ所だけである。ただしこの場所でも、2012 年にはよく水が引いたにもかかわらず確認できなかった。

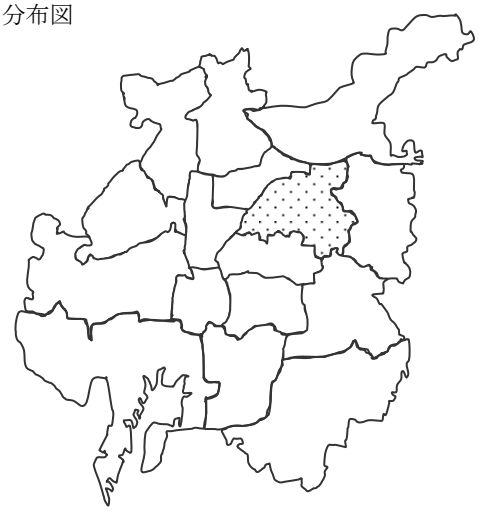
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

干上がったため池の岸などの湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。都市化の進行により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われる。

【特記事項】

シラタマホシクサに比べ、丈が低く、葉が幅広く、頭花は白色の短毛が少なくて淡黄褐色に見える。

【引用文献】

井波一雄．1988．三河や知多（ともに愛知県）にはヌマカゼクサは生育分布しない．植物研究集録(24):7-13.

【関連文献】

保草Ⅲp.183，平草Ⅰp.81，SOS 旧版 p.98，SOS 新版 p.119，愛知県 p.272.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ホシクサ科＞

クロホシクサ　*Eriocaulon parvum* Körn.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して通常ロゼット状に広がり、線形、長さ 2～4cm、幅 0.5～1.8mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 9～10 月、花茎は多数つき、高さ 8～15cm、5～6 本の肋があって少しねじれ、先端に球形の頭花をつける。頭花は直径 4～5mm、藍黒色、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、倒卵形、小花には白色の短毛がある。子房と蒴果は 3 室である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大久手池，鳥居ちゑ子 1497, 1998-10-10）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田東部と春日井で確認されている。ただし豊田東部では、貧弱な 1 個体が確認されただけである。豊川宝飯、豊橋北部で採集された標本もある。

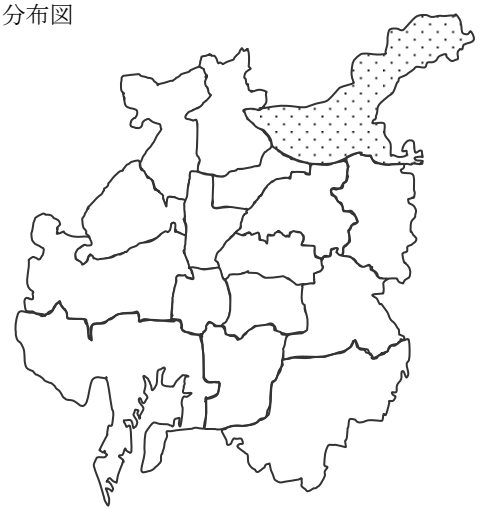
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の周辺や水田などの湿地に生育する。名古屋市の生育地は、干上がったため池の岸であった。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

比較的大きい群落があったが、ため池が改修されて水が引かなくなり、消失した。ただし池底に埋土種子が残存している可能性は残されている。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。水辺環境の保全が必要である。

【特記事項】

ホシクサ *E. cinereum* R.Br.と混生していることが多く、全体の形状はそれによく似ているが、頭花が黒く、小花に白色の短毛がある。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 10 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.179，平草Ⅰp.78，環境庁 p.375，SOS 新版 p.119，愛知県 p.420.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イグサ科＞

ヌカボシソウ　*Luzula plumosa* E.Mey. var. *macrocarpa* (Buchenau) Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

【形　態】

株になる多年生草本。葉は束生し、線形で長さ 5～15cm、幅 3～5mm、辺縁に白色の長毛がある。花茎も束生し、高さ 15～30cm、2～3 個の茎葉がつく。花期は 4～5 月、茎頂の花の基部からほとんど散形状に 3～5 本の長さ 1～3cm の細い側枝を分け、その先にも花を 1 個ずつつける。側枝先端の花の基部から、更に枝を出すこともある。花被片は 6 個で披針形、長さ約 3mm、先端は鋭く尖り、中央部は褐色、辺縁は淡緑色で膜質となる。果実は卵形、長さ 3～4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（覚王山, 沢井輝男 s.n., 1934-5-13）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には普通にみられる。尾張では瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されている。

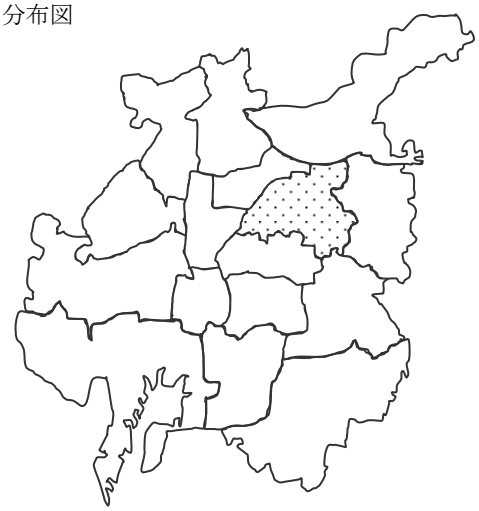
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、アムールからインドにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

明るい林内や林縁、草地などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したことは明らかである。

【保全上の留意点】

目立たない植物なので、ていねいに探索すれば再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅種の 1 例である。和名は、花がまばらに咲く状態を糠星にたとえたものである。

【関連文献】

保草Ⅲp.168, 平草Ⅰp.71.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

イトハナビテンツキ　*Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

小さい株を作る 1 年生草本。茎は糸状で、多数束生し、高さ 10～30cm になる。葉も茎の基部に束生し、糸状で茎よりも細い。花・果季は 8～10 月、小型の株では茎の先端に 1 個の小穂をつけるだけのことがあるが、通所は散房状に 2～10 個の小穂をつけ、頂小穂は無柄、側小穂には長さ 2～5cm の柄がある。側小穂の基部から更に枝を出すこともある。苞葉は通常短く目立たないが、時に長さ 4cm くらいになる。小穂は茶褐色、広披針形で長さ 2～4mm、鱗片の先端は芒状にならない。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区？（八事～東山の曙峠付近, 稲垣貫一 s.n., 1947-4, CBM110733）で採集された標本がある。

【県内の分布】

三河山地には点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭、半田武豊、海部西部の 3 区画で確認されているにすぎない。

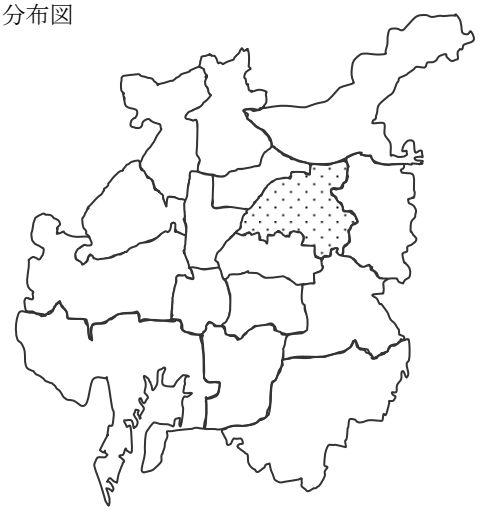
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい、やや乾燥した裸地状の場所に生育する。愛知県では山道のわきなどに見られることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

和名は線香花火状の花序に因む。

【関連文献】

保草Ⅲpp.237-238, 平草Ⅰp.173.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ミクリガヤ　*Rhynchospora malasica* C.B.Clarke

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	絶滅危惧ⅠB類

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本、地下茎は長くはう。茎は通常丹精して直立し、高さ 40～100cm、中部に多数の葉をつけ、花序のつかない茎もやや伸長する。葉は互生し、幅広い線形、幅 5～10mm、先は長くとがり、下部は長い鞘となる。花期は 6～7 月、頭状花序は球状で直径 1.5cm、無柄、茎の上部に 2～5 個がやや離れてつく。小穂は披針形、長さ 6～7mm、黄褐色である。果実は長さ約 2mm、披針状花被片は 6 個で、長さは果実体の 2 倍程度である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（田代，井波一雄 s.n.，1934-10-14，CBM72362）に生育していた。

【県内の分布】

現存が確認できるのは、豊橋北部の 1 ヶ所のみである。豊橋北部の他の場所で採集された標本も残されている。

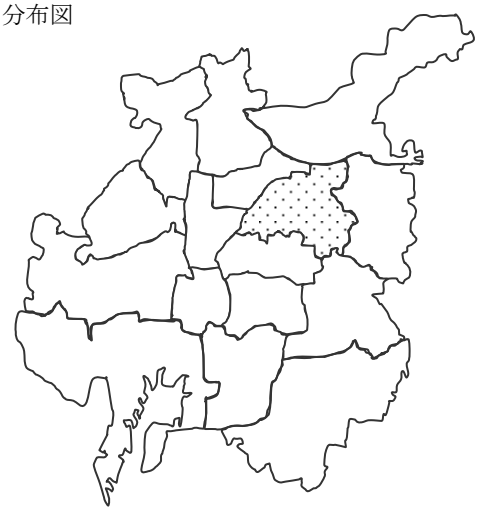
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、マレーシア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

丘陵地の破壊が進行しており、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

「日本の野生植物Ⅰ」152 図版には、豊橋市葦毛湿原で 1972 年に撮影された写真が掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.252，平草Ⅰp.170，環境庁 p.392，SOS 新版 p.107，愛知県 p.108.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

シズイ　*Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Soják

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。水のきれいなため池に生育する植物で、愛知県全体でも減少傾向が著しい。

【形　態】

多年生草本。根茎は細く、先端に小さい塊茎をつける。地上茎は単生または少数が束生し、高さ40～60cm、幅 2～4mm、3 稜形、下部に 3～5 個の葉をつける。葉は線形、茎よりやや短く、幅 2～3mm、平滑で、断面は三角形となる。花期は 7～10 月、花序は散房状で、枝は 2～3 本、分枝しないか 1～2 回分枝し、長いものは 4cm に達し、まばらに 5～8 個の小穂をつける。花序の基部につく苞は 1 個で、茎に続いて直立し、長さ 10～20cm、そのため花序は側生状に見える。小穂は長楕円形、長さ 1～1.7cm、幅 5～7mm、先端は鋭頭、黄褐色、鱗片は狭卵形で、長さ 4～5mm である。果実は倒卵形、レンズ状で長さ約 2mm、暗褐色で光沢はなく、刺針状花被片は果実のほぼ 2 倍の長さである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味筧池，飯尾俊介 85, 1964-8-31）、千種区（茶屋ケ坂，井波一雄 s.n., 1934-7-7, CBM71443）、緑区（桶狭間，稲垣貫一 s.n., 1947-6, CBM109995）に生育していた。

【県内の分布】

津具、作手、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進の 5 区画で確認されている。ただしみよしは絶滅。このほか、新城、刈谷知立で採集された標本もある。

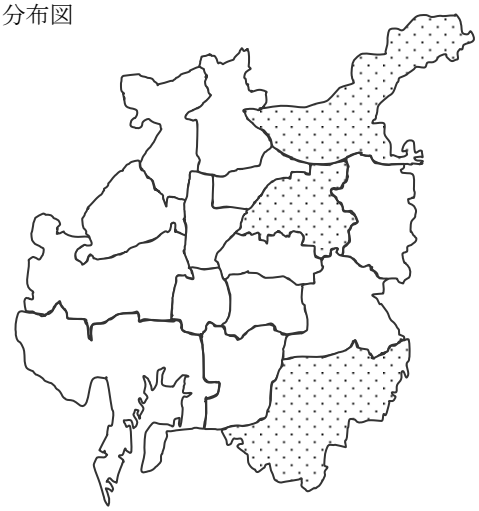
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の池沼の、浅い水中に生育する。愛知県では丘陵地の奥や山間部にある小規模なため池に生育していることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。水質の汚濁により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県では浅い丘陵地から山地まで見られるが、生育地は少なく、またどの場所でも個体数が少ない。名古屋市内での再発見は困難と思われる。

【特記事項】

テガヌマイとも呼ばれる。この名は、千葉県の手賀沼に因むものである。

【関連文献】

保草Ⅲp.217，平草Ⅰp.179，SOS 旧版 p.108，愛知県 p.482.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.201．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ノグサ　*Schoenus apogon* Roem. et Schult.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

湧水湿地周辺部に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

1 年生草本。根茎はない。茎は束生して直立し、平滑で無毛、高さ 10～25cm になる。葉は根生するほか茎の中部にも 1～2 個つき、細い線形、幅約 0.5mm、葉鞘は長さ 1～2mm で一部赤紫色になる。花期は 6～8 月、花序は 2～3 個に分かれ、散状または頭状で、長さ幅ともに 0.8～1.5cm、数個の小穂をつける。小穂は披針形、長さ 4～6mm、偏平で一部赤褐色を帯びる。果実は球形、長さ約 1mm、白色、刺針状花被片は 6 個で、長さ約 2mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山，井波一雄 s.n.，1940-4-30, CBM70351）、緑区（鳴海町，井波一雄 s.n., 1941-5-18, CBM70352）に生育していた。

【県内の分布】

豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、西尾南部、半田武豊で確認されているが、武豊の壱町田湿地以外はどこも危機的で、すでに絶滅した区画もあると思われる。

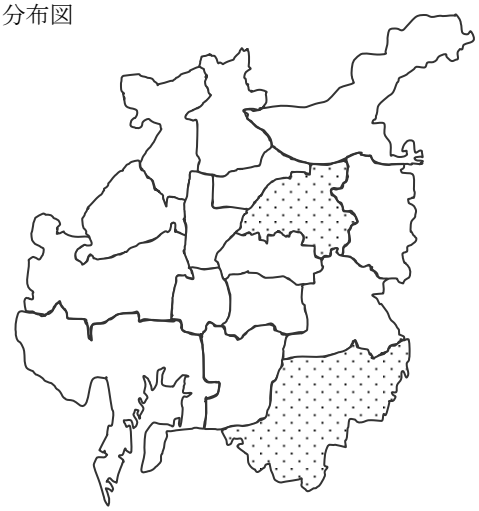
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球。ただし静岡県以東のものと愛知県以西のものは、外部形態も染色体数も異なると報告されている（矢野・池田 2012）。

【世界の分布】

日本、マレーシア、オーストラリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の、日当たりのよい、やや湿った半裸地に生育する。愛知県の生育地は、西尾南部（佐久島）以外はいずれも湧水湿地周辺部である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

丘陵地の破壊が進行しているだけでなく、残存地の森林化も進行しており、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

一部赤褐色を帯びる小穂が特徴である。

【引用文献】

矢野興一・池田博．2012．カヤツリグサ科ノグサ属ノグサの分類学的研究．日本植物分類学会第 11 回大会研究発表要旨集 96.

【関連文献】

保草Ⅲp.251，平草Ⅰp.171，SOS 旧版 p.107，SOS 新版 p.109，愛知県 p.290.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

カガシラ　*Scleria caricina* (R.Br.) Benth.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい小型の湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

小型の１年生草本。根は赤褐色となる。茎は単生または基部でまばらに分枝し、高さ 5～20cm になる。葉は5～10個が互生し、狭披針形、長さ1～4cm、幅1.3～4mm、先端は鋭頭、葉鞘は短く、長さ 2～8mm である。花期は 7～10 月、花序は最下 2～3 個を除く葉の葉腋につき、小型で頭状、長さ、幅とも 2～5mm、密に小穂をつける。小穂は長さ 1.2～2mm、淡緑色、小花は単性で、花被片はない。果実は球形で直径約 0.8mm、2 個の小さい三角状卵形の鱗片に包まれ、熟すと鱗片とともに脱落する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山麓, 高木順夫 s.n., 1981-10-3; 上志段味蛭池, 飯尾俊介 60, 1964 年）に生育していた。

【県内の分布】

新城､豊田東部の２区画で確認されている。豊川、豊橋北部、豊橋南部で採集された標本もある。

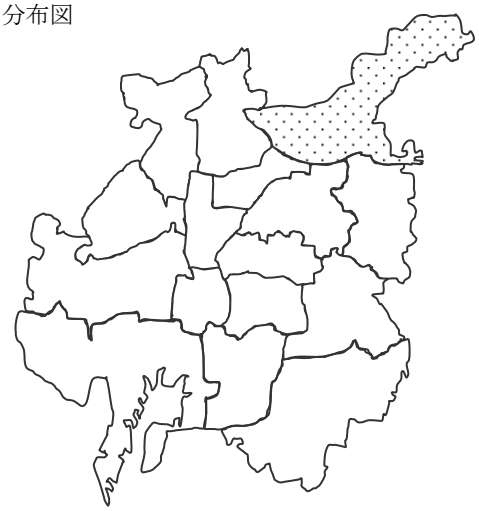
【国内の分布】

本州（千葉県以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湿地の、半裸地状の場所に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

東谷山では湿地の上部に生育していたらしいが、おそらくは遷移の進行により絶滅した。蛭池では池岸の湿地に群生していたという。上流にある森林公園内での農薬散布などによりため池の水質が悪化し、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見は困難と思われる。

【特記事項】

小型で目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.254，平草Ⅰp.168，環境庁 p.393，SOS 旧版 p.108，愛知県 p.129.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ミカワシンジュガヤ　*Scleria mikawana* Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

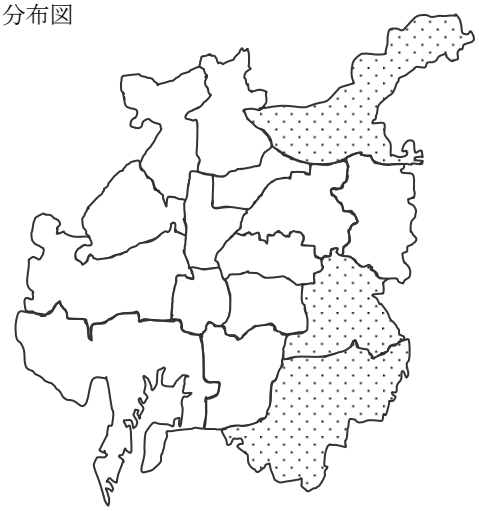
1 年生または多年生の草本。根茎はなく、根は赤紫色である。茎は少数が束生して直立し、灰緑色、3 稜形、高さ 30～100cm になる。葉は茎上に互生してほぼ直立し、細い線形、長さ 10～40cm、幅 2～5mm、先端は次第に細まり、葉鞘は長さ 2～7cm で密に茎を包み、稜は鋭いが翼はない。花期は 7～10 月、花序は茎の先端と上半部の葉腋につき、2～4 個、長さ 2.5～4cm、枝は斜めに立ち、腋生のものの柄はほとんど葉鞘内にかくれる。小穂は長さ約 5mm、花は単性で、花被片はない。果実は球形、直径 2～2.5mm、網目状の紋があり、はじめ緑白色であるが、熟すと黒灰色になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山麓，芹沢 56983，1990-9-12）、天白区（海老山町，渡邉幸子 4922，2001-10-13，NBC999）、緑区（鳴海町水広下池付近，芹沢 59849，1991-8-23）に生育していた。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、みよし、長久手日進、東海知多、半田武豊、常滑の 7 区画で確認されている。このほか、新城、豊橋南部、刈谷知立で採集された標本もある。

【国内の分布】

本州（千葉県以西）、九州の湿地にややまれに生育する。

【世界の分布】

日本、ニューギニア、インド、アフリカ。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の日あたりのよい湿地に生育する。多少攪乱された場所に生育していることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

守山区では小群落があったが、その後確認できない。天白区では造成地にややまとまった群落があったが、宅地化により絶滅した。緑区にもややまとまった群落があったが、宅地造成により埋め立てられ、絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市に限ればすでに手遅れかもしれないが、一般論としては湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。また豊橋市葦毛湿原では、一時ほとんど見られなくなったが、湿原回復のためイヌツゲを除去したところ、再度出現した。この例から判断すれば、富栄養化を伴わない軽度の攪乱は、本種の存続のためにはかえって好都合らしい。もちろん大規模な攪乱があれば、消滅してしまう。

【特記事項】

「ミカワ」の名があるが、西三河、東三河では少なく、むしろ尾張に多い植物である。

【関連文献】

保草Ⅲp.255，平草Ⅰp.169，環境庁 p.393，SOS 旧版 p.108，SOS 新版 p.107，愛知県 p.483.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

コシンジュガヤ　*Scleria parvula* Steud.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

1年生草本. 根は赤紫色である。茎は細く、束生してひろがり、3稜形、長さ30～120cmになる。葉は茎上に互生し、線形、長さ5～35cm、幅2～7mm、先端は通常やや急に細まり、葉鞘は長さ2～7cmで広い翼があり、幅2～8mmになる。花期は8～10月、花序は茎の先端と葉腋につき、3～8個、長さ1.5～4cm、腋生のものには長い柄がある。小穂は長さ4～5mm、花は単性で、花被片はない。果実は球形、直径約2mm、網目状の紋があり、熟しても白色～淡灰褐色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山麓，芹沢 53843, 1989-10-10）に生育していた。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と美浜南知多で確認されている。

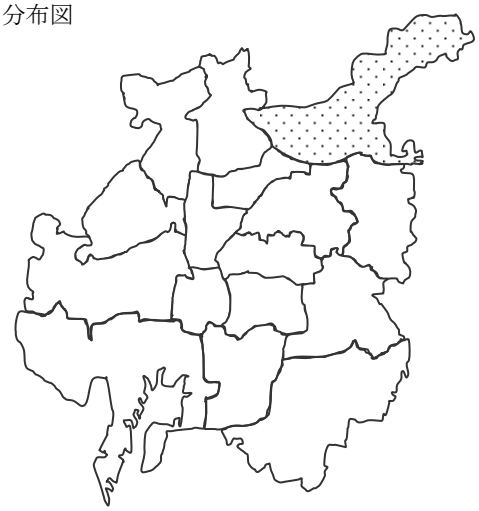
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、マレーシア、インド、アフリカ。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい泥質の湿地に生育する。しばしば多少攪乱された場所に出現する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

小群落があった。遷移の進行により湿地の森林化が進み、消滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

現存が確認できないため「絶滅」と判定したが、造成地等にできた湿地に生育することもある植物なので、名古屋市でもそのうちに再度出現する可能性がある。注意して探索する必要がある。

【特記事項】

ミカワシンジュガヤ *S. mikawana* Makinoからは、茎が直立せず、葉が幅広く、葉鞘に広い翼があることで区別できる。愛知県全体で見ればミカワシンジュガヤよりずっと多いが、名古屋市に限ればミカワシンジュガヤより希少であった。

【関連文献】

保草Ⅲp.255，平草Ⅰp.169.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

ヒナザサ　*Coelachne japonica* Hack.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

【形　態】

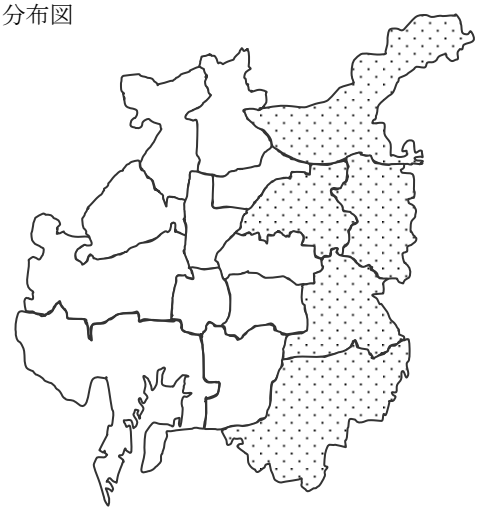
小型の１年生草本。稈は細く、基部は横にはって分枝し、先は立ち上がって高さ 5～20cm、節に短い毛がある。葉は互生し、葉身は披針形、長さ 1～3cm、幅 3～6mm、先端はとがり、基部は円形、両面とも無毛、葉鞘は節間より短く、ほとんど無毛、葉舌はない。花期は 8～10 月、花序は小さい円錐状で長さ 1.5～3cm、枝は短く、4～20 個の小穂がつく。小穂は長さ約 2.5mm、淡緑色、1 個の両性小花、または１個の両性小花と１個の雌性小花からなり、芒はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（竜泉寺丘, 稲垣貫一 s.n., 1927-9-12, CBM98748）、千種区（東山, 井波一雄 s.n., 1940-10-7, CBM238305）、名東区（牧野池, 井波一雄 s.n., 1949-10-2, CBM198144）、天白区（天白村, 井波一雄 s.n., 1941-10-23, CBM251252）、緑区（黒石, 浜島繁隆 s.n., 1969-10-10）に生育していた。

市内分布図



【県内の分布】

作手、新城、豊田北西部、みよし、岡崎南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井で確認されている。ただしみよしは絶滅し、このほかにもすでに消滅した区画があると思われる。豊川、豊橋北部で採集された標本もある。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の水のきれいなため池の周辺などの湿地や、時には浅い水中に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

緑区ではため池の岸に生育していたという。宅地造成により生育地の丘陵が崩され、絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市では、本種が生育できそうなため池はほとんど残っていない。小型で目立たない植物であるが、再発見は困難であろう。周辺地域を含めても、本種が生育できるような生活排水が流入しない位置にあるため池は極めて少ない。良好な状態にあるため池を、一つでも多く保全することが必要である。

【特記事項】

愛知県全体では、管理放棄に伴うため池の消失によりなくなることも多い。瀬戸市では 5 ヶ所に生育していたが、そのうち 4 ヶ所はこれが原因で消滅した。

【関連文献】

保草Ⅲpp.339-340，平草Ⅰpp.96-97，SOS 旧版 p.99，SOS 新版 p.114，愛知県 p.448.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.656-657．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

コゴメカゼクサ　*Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

全国的に見れば希少な植物ではないが、愛知県ではどういうわけか少ない。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

1年生草本。稈は束生して小さい株をつくり、無毛、高さ50～100cmになる。葉は叢生し、葉身は狭線形、長さ10～20cm、幅2～5mm、先端は細く尖り、葉鞘は無毛、葉舌は長さ約0.5mmである。花期は8～11月、円錐花序は長い柱状で、直立して長さ20～50cm、枝は多数あるが、やや短く、下部では輪生状となり、斜上またはほぼ直立して更に枝を分ける。小穂は多数つき、卵形で小さく、長さ1～2mm、幅1～1.2mm、淡緑色で一部紅紫色になり、3～7個の小花をつけ、芒はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山，井波一雄 s.n.，1941-10-1，CBM161689，写真は2010年版図版1図4）で採集された標本がある。

【県内の分布】

現存しているのは犬山の1ヶ所のみである。名古屋市のほか、新城で採集された標本もある。

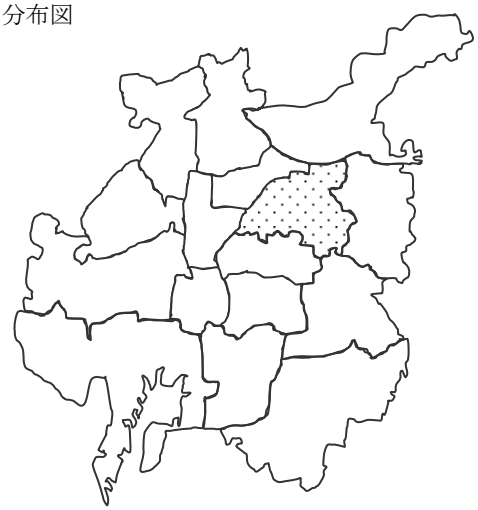
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島南部、中国大陸中南部、マレーシア、インド、アフリカ、オーストラリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸や水田の周辺などの湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

生育地はおそらくため池の岸で、開発による埋め立て、あるいは水の汚染により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市東部の丘陵地に残存するため池の秋期に干上がった岸には、本種以外にもヌマカゼクサ、ヒメシロガヤツリ、ヒメガヤツリ、トネテンツキ、ムラサキトキンソウなどの稀少な植物が生育している。本種の有無にかかわらず、水辺地形や水質の保全、現在行われている水管理の継続が必要である。

【特記事項】

和名は、小穂が小さいからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.332，平草Ⅰp.105，愛知県p.451.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.470-471．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

コメガヤ　*Melica nutans* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。細い根茎があり、小さい株が集まって小群落を作る。稈は細くて直立し、高さ 30～50cm、基部は紫色を帯びた葉鞘に包まれる。葉は茎の中部につき、細い線形でやわらかく、長さ 5～15cm、幅 2～5mm である。花期は 4～5 月、花序はほとんど総状になり、長さ 8～15cm、数個～15 個の小穂をつける。小穂は楕円形で米粒状、長さ 6～8mm、白緑色で光沢があり、通常 2 個の完全な小花と 1～2 個の退化した小花をつける。包穎は膜質で周辺部は半透明になり、第一包穎は長さ 3～4mm、第二包穎は長さ 5～6mm で 3 脈、護穎は厚く、芒はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区？（八事～東山の曙峠付近, 稲垣貫一 s.n., 1947-4, CBM110733）で採集された標本がある。

【県内の分布】

丘陵地、低山地にはやや普通にみられるが、三河北部の山地にはなく、平野部にもほとんどない。尾張では瀬戸尾張旭、犬山、江南丹波、小牧、春日井、尾西祖父江で確認されている。

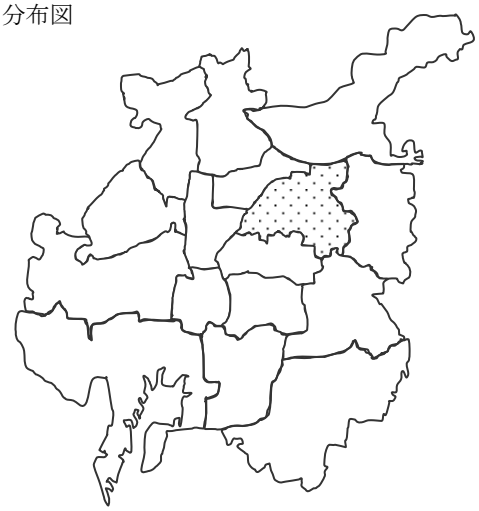
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、中国大陸からヨーロッパにかけて広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

明るい林内や林縁、草地などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明だが、丘陵地の開発により消失したのではないかと思われる。

【保全上の留意点】

再発見の可能性は皆無ではない。注意して探索する必要がある。

【特記事項】

和名は、楕円形のふくらんだ小穂を米粒に見立てたものである。

【関連文献】

保草Ⅲp.330，平草Ⅰp.109.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.220-221．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

オオアブラススキ　*Spodiopogon sibiricus* Trin.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は匍匐し、鱗片でおおわれる。稈は少数が束生して直立し、高さ約 1m になる。葉は互生し、葉身は線形、長さ15～40cm、幅8～15mm、葉舌は高さ1～1.5mm である。花期は8～10月、円錐花序は直立し、長さ15～25cm、主軸、枝とも平滑、枝は各節から2～数本が出て、その上部に有柄と無柄の小穂が対になってつく。小穂は柄とともに短い毛があり、長さ約 5mm、護穎は深く2裂し、その間からねじれた長い芒が出る。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（鳴海町笹塚，渡邉幸子 1182, 1993-8-26）に生育していた。

【県内の分布】

東三河には点在するが、西三河と尾張では極めて少ない。尾張では名古屋市とそれに隣接する尾張旭市、豊明市の愛知用水沿いで確認されているだけである。

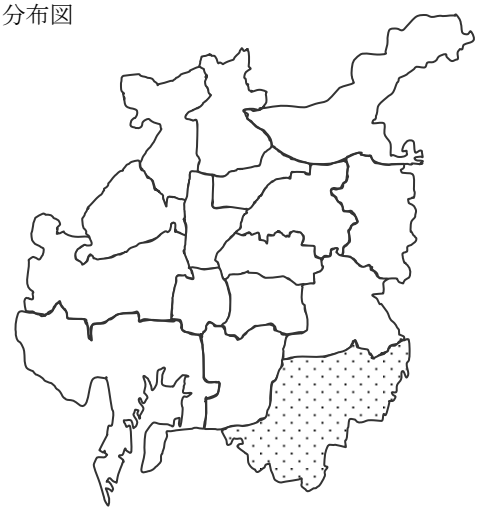
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部、シベリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地のやや乾いた明るい草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知用水土手の草地に小群落があったが、用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

尾張では極めて希少な植物で、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【特記事項】

オオアブラススキの名があるが、アブラススキと比較すればやや小型である。

【関連文献】

保草Ⅲp.386，平草Ⅰp.94.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.664-665．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キンポウゲ科＞

クサボタン　*Clematis stans* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

山地性の植物で、名古屋市では過去の記録があるが、現存を確認できない。愛知県内でも生育地、個体数ともに少ない。

【形　態】

落葉性の半低木。茎は高さ 1m くらいになり、下部は木化して冬になっても残る。葉は対生で長柄があり、1 回 3 出複葉、小葉はほぼ卵形で 3 浅裂し、長さ 4～13cm、先端は鋭くとがり、基部はくさび形～切形、辺縁には不ぞろいなあらい鋸歯がある。花期は7～8月、茎の先端や葉腋に集散状の花序を作り、多数の花を下向きにつける。花は長い鐘状、長さ 1.2～2cm、がく片は 4 枚で、基部は合わさって筒状になり、先はそり返り、外面は短い白毛を密生し、内面は淡紫色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東栄、豊橋北部の 2 区画に、各 1 ヶ所生育地がある。

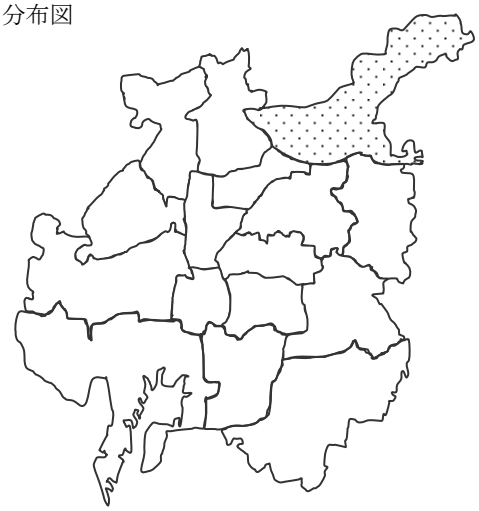
【国内の分布】

本州全域に分布する。四国、九州のものは、変種ツクシクサボタン var. *austrojaponensis* (Ohwi) Ohwi である。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

名古屋市では愛知用水沿いの草地に生育していたらしいが、一般的には林縁や崖状地に生育する。暖地では石灰岩地に多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1 株だけ生育していたが、愛知用水の改修により絶滅したという。

【保全上の留意点】

木曽川上流から水の流れに乗って偶然運ばれ、生育していたと思われる。希少偶産種と判断する方が適切かもしれないが、詳細な状況がわからないので、絶滅種として掲載しておく。愛知県では極めて希少な植物で、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【特記事項】

クサボタンの名はあるが、低木性である。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.128．エフエー出版，名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱp.223，平草Ⅱp.73.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キンポウゲ科＞

オキナグサ　*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et C.Presl

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

大陸系の草地性植物。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。全国的にも愛知県でも、草地の減少と園芸目的の採取により、著しく減少している植物である。

【形　態】

多年生草本。根は太く、地中深く伸びる。根出葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は 2 回羽状複葉、小葉は深裂し、さらに欠刻がある。茎ははじめ高さ 10cm 程度であるが、花後伸長して 30～40cm になり、茎葉は3枚が輪生し、無柄、基部は多少合着し、葉身は線状の裂片に分裂する。根出葉や花茎には長い白毛がある。花期は4～5月、花は茎の先端に1個つき、鐘形で下向きに開く。がく片は 6 枚で長楕円形、外面は白毛で覆われ、内面は暗赤紫色。花柱は花後伸長して、果時には長さ 3～4cm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（竜泉寺, 井波一雄 s.n., 1933-4-29, CBM222638）に生育していた。

【県内の分布】

4 区画でそれぞれごく少数の株が生育していたが、いずれもごく最近の状況は十分確認されていない。かつては県中部の丘陵地、低山地に点在していたらしく、鳳来寺山自然科学博物館や豊橋市自然史博物館には富山、新城、豊川、豊橋北部で採集された標本が保管されている。また大原（1971）は、足助、豊田、蒲郡等も産地としてあげている。

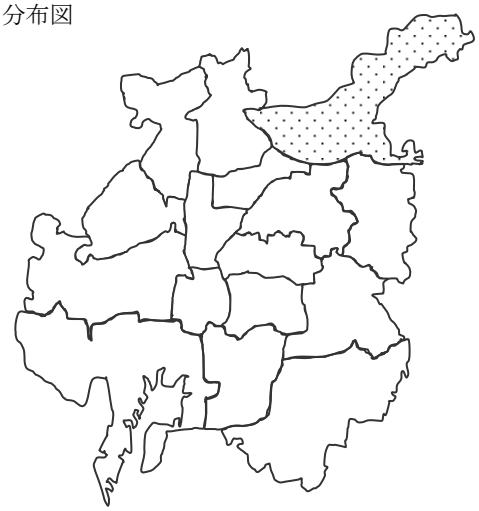
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

草地環境の消失により絶滅したものと思われる。園芸目的の採取もあったかもしれない。

【保全上の留意点】

市内には本種が生育できそうな環境が残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

オキナグサの名は、果時の白い残存花柱が老人の白髪のようだからである。園芸目的の採取圧が極めて大きい植物の一つで、全国的にも人目につくところではまず残存していない。基本的には、国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題である。

【引用文献】

大原準之助．1971．愛知県国有林の植物誌 p.62．名古屋営林局，名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱp.229，平草Ⅱp.70，環境庁 p.449，SOS 旧版 p.50+図版 13，愛知県 p.174.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キンポウゲ科＞

オトコゼリ　*Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

山間部の泥湿地に多い植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立し、高さ60～100cmになり、中下部には開出する粗毛が多い。茎の基部の葉には長さ12～30cmの柄があり、葉身は2回3出複葉で裂片はしばしば更に2～3裂し、長さ7～12cm、終裂片は線状楕円形で幅5～10mmである。上部の茎葉は次第に小さく、またほとんど無柄となる。花期は7～8月、花は茎の上部の枝先にまばらにつき、黄色で直径10～15mm、花弁は5枚で楕円形である。果実は多数の分果が集まってほぼ球形の集合果となる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（志段味, 井波一雄 s.n., 1937-7-15, CBM163623）に生育していた。

【県内の分布】

三河山地に点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭で確認されているだけである。

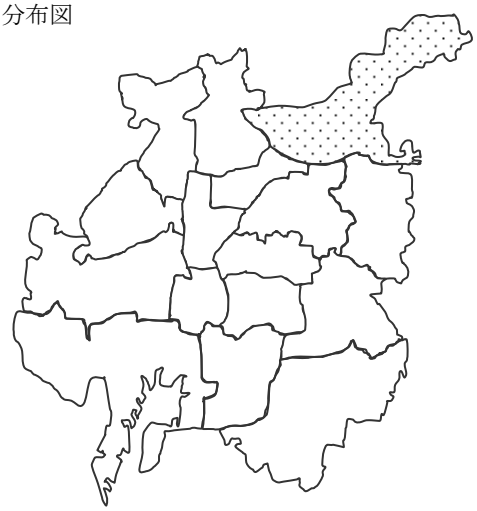
【国内の分布】

本州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山間部の泥質の湿地や休耕田などに生育する。湿地性の植物であるが、貧栄養の湧水湿地には生育しない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本はよく発達した大型の個体である。丘陵地の開発により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草Ⅱp.247，平草Ⅱp.79.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ユキノシタ科＞

チダケサシ　*Astilbe microphylla* Knoll

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

山地の湿った草地に多い植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。根茎は斜上し、地上茎は直立して高さ 50～80cm になる。葉は基部のものには長く、上部のものには短い柄があり、葉身は 2～4 回奇数羽状に分かれ、小葉は楕円形～倒卵形、長さ 2～4cm、先端は鈍頭、辺縁にはやや不ぞろいの鋭い重鋸歯がある。花期は 7～8 月。茎の先端につく細長い複総状花序に小さい花を多数つけ、花序の軸には腺毛が密生する。花弁は線状さじ形、長さ 3～5mm、淡紅色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地や丘陵地には普通に見られる植物で、尾張でも瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、岩倉西春日井で確認されている。

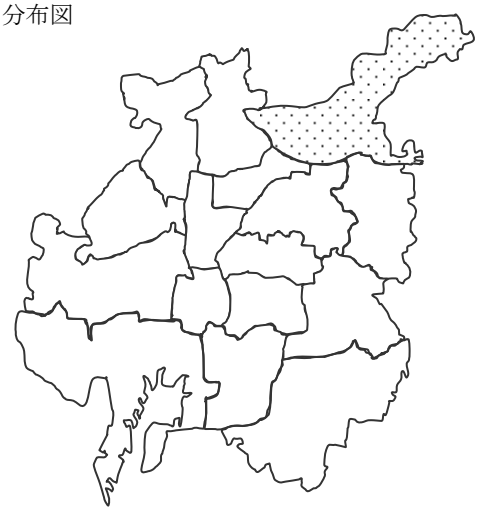
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湿った草地や林縁に生育する。しばしば谷戸田の周辺に生育している。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明。愛知用水の改修により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

県全体で見れば希少な植物ではないが、名古屋市内では里草地的な環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

和名は乳蕈刺の意味で、チダケ（白色の乳液を出すキノコの 1 種）を採りこの草の茎に刺して持ち帰ったことに由来する。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.93．エフエー出版，名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱp.148，平草Ⅱpp.165-166.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　バラ科＞

キジムシロ　*Potentilla fragarioides* L. var. *major* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

愛知県では低山地～丘陵地に点在する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。高さ 10～25cm になり、太い地下茎があるが、匍匐枝は出さない。根出葉は 5～9 小葉からなる奇数羽状複葉、葉柄や中軸には白色～淡褐色の長い開出毛が多い。小葉は楕円形、頂小葉と第 1 側小葉は長さ 1.5～4cm、幅 1～2cm、鈍頭、両面有毛、辺縁にはやや細かい鋸歯がある。茎葉は少数で通常 3 出葉となる。花期は 4～5 月、茎の先端に分枝した花序をつけ、直径 1.5～2cm の黄色の花を多数つける。がくは 5 裂し、裂片は狭卵形で鋭頭、副がく片はやや短く細い。花弁は 5 枚で倒卵形、先端は浅い心形になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（龍泉寺ケ丘，稲垣貫一 s.n., 1950-4-9, CBM113646, 写真は 2010 年版図版 1 図 1）に生育していた。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在するが、東三河北部の山地には見られず、平野部にもない。尾張では 1985 年以降瀬戸尾張旭、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多、春日井の 6 区画で確認されている。

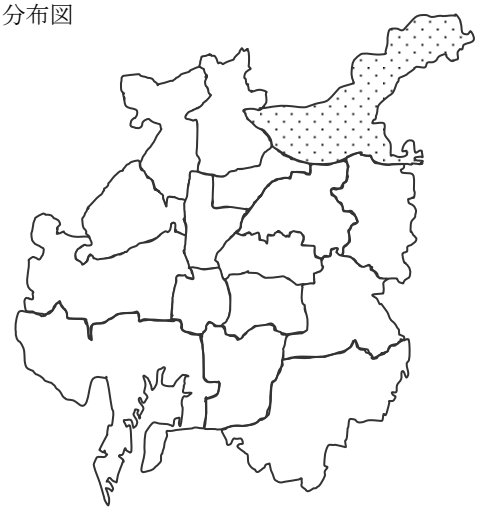
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。種としてはシベリアや中国大陸にも分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい林縁部の土手や明るい林内に生育し、時には岩場に生育することもある。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、草地環境の消失により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

市内のどこかで再発見できる可能性は残されている。引き続き探索が必要である。

【特記事項】

全国的に見れば普通種であるが、愛知県ではあまり多くない植物である。

【関連文献】

保草Ⅱp.135，平草Ⅱp.179.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　バラ科＞

ミヤマワレモコウ　*Sanguisorba longifolia* Bertol.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。高さ80～160cmになる。葉は互生し、根出葉や茎の下部の葉には長い柄があるが上部ではほとんど無柄になり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は3～6対、線状楕円形～楕円状披針形、長さ 4～10cm、幅 0.7～2cm、先端は鋭頭～円頭、基部はくさび形～浅い心形、辺縁に鋭い鋸歯がある。花期は 9～10 月、花序は穂状で、長いものは 5cm に達するが短いものは 1cm 程度、直径 6～8mm、直立するか斜めに傾き、花は暗紅紫色（まれに白色）、雄ずいは花外に 1～2mm 伸びる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味愛知用水沿い，鳥居ちゑ子 1522, 1998-10-19）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか作手、豊川、田原東部、田原西部、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、みよし、岡崎北部、岡崎南部、刈谷知立、安城、豊明東郷、大府東浦、小牧で確認されている。

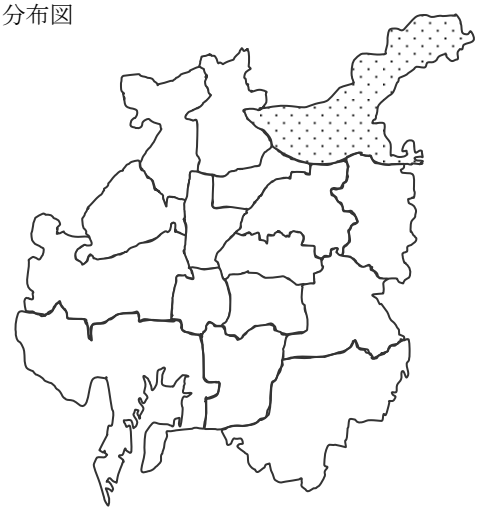
【国内の分布】

北海道（日高地方）および本州（秋田県と福島県～岐阜県の日本海側山地）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の周辺や河川敷などの湿った草地に生育する。山地の湿原にも見られる。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

個体数はもともと 2～3 株であった。愛知用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

県内の平野部～丘陵地に点在する植物であるが、名古屋市では生育できそうな環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。愛知県全体でも近年減少傾向が著しい。

【特記事項】

2004 年版レッドデータブック、2010 年版レッドリストでは、ナガボノワレモコウとして掲載した。

【関連文献】

保草Ⅱp.126，平草Ⅱp.184.
芹沢俊介．2013．愛知県のミヤマワレモコウ．シデコブシ 2:112-113.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　バラ科＞

シモツケ　*Spiraea japonica* L.f.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

落葉性の小低木。高さ 1m 程度になる。葉は互生し、長さ 1～5mm の柄があり、葉身は狭卵形、長さ 3～6cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部は円形～くさび形、側脈は 4～8 対で、辺縁にはまばらな鋭鋸歯または欠刻状の鋸歯がある。葉面の毛の量は変異が大きいが、名古屋市のものは表面が無毛、裏面は脈上に毛を散生～やや密生する。花期は 6～8 月。枝先に直径 3～10cm の複散房花序をつける。花は直径 4～6mm、紅色から淡紅色、花弁は 5 枚、広卵形～円形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（一ツ山，中島ひろみ 547, 1996-6-12）、緑区（鳴海町大清水，岡本沙矢香 327, 2001-6-18）に生育していた。

【県内の分布】

県内の分布は比較的限定されており、東三河中部、岡崎周辺、および瀬戸から名古屋市にかけて（区画としては瀬戸尾張旭、長久手、日進、豊明東郷、春日井）生育しているだけである。

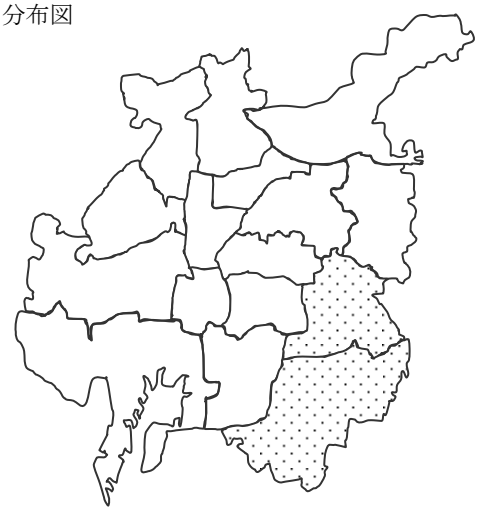
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の草地、林縁、岩場などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

天白区ではその後確認されていない。緑区では愛知用水沿いの草地に点在していたが、改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線水路わきの草地は、定期的に草刈りが行われるため遷移が進行せず、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修工事に際してはこれらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、下野国（栃木県）に多かったからだと言われる。

【関連文献】

保木Ⅱpp.90-92，平木Ⅰp.183.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　グミ科＞

アリマグミ　*Elaeagnus murakamiana* Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

落葉性の低木。高さ 3m くらいになる。若枝は帯赤褐色の星状毛を密生する。葉は互生し、3～6mm の柄があり、葉身は長楕円形～倒卵状長楕円形、長さ 4～8cm、先端は鈍頭または短く尖る。表面は若時淡黄褐色の星状毛が多く、裏面は銀色の鱗片があり、その上に帯赤褐色の星状毛を散生する。花期は 4～5 月。葉腋に 1～2 個の花をつける。花柄は細く長さ 8～10mm、がく筒は長さ 6～7mm、幅 2.5～3mm、裂片は広卵形で鋭尖頭、長さ 3～5mm である。果実は長さ 2.5～3cm の柄の先について下垂し、上半部は扁円錐形または半球形、下部は狭まり、長さ 6～7mm で赤熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山，井波一雄 s.n.，1958-5-7, CBM130701）、昭和区（妙見町，犬飼　清 s.n., 1967-5-3）、天白区（半ノ木，井波一雄 s.n., 1952-5-9, CBM193967）に生育していた。

【県内の分布】

西三河北部から尾張東部にかけての丘陵地に散在するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と長久手日進で確認されている。

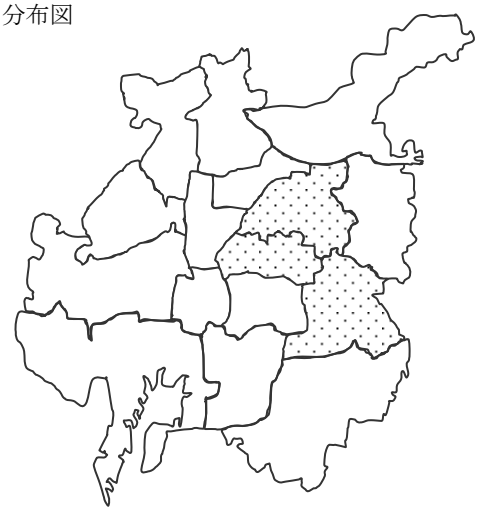
【国内の分布】

本州（静岡県西部～兵庫県東部）および四国（香川県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の疎林内に点在する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明。丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

和名は兵庫県の有馬で発見されたことに由来する。

【関連文献】

保木Ⅰp.218，平木Ⅱp.85.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　クロウメモドキ科＞

クロウメモドキ　*Rhamnus japonica* Maxim. var. *decipiens* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

落葉性の低木または小高木。枝はよく分枝し、先端は刺となる。葉は対生し、5～10mm の柄があり、葉身は倒卵形～倒披針形、長さ 2～7cm、先は急尖しやや鈍端、基部はくさび形、辺縁には低い鈍鋸歯がある。側脈は 3～4 対で、裏面脈腋に毛がある。花期は 4～5 月。花は黄緑色で直径約 4mm、小枝の基部の葉腋に雄花は 3～6 個、雌花は 1～3 個が束生する。果実は倒卵状球形、直径 6～7mm、黒熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（天白町八事, 犬飼　清 s.n., 1967-11-3）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地に点在する。尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されているだけである。

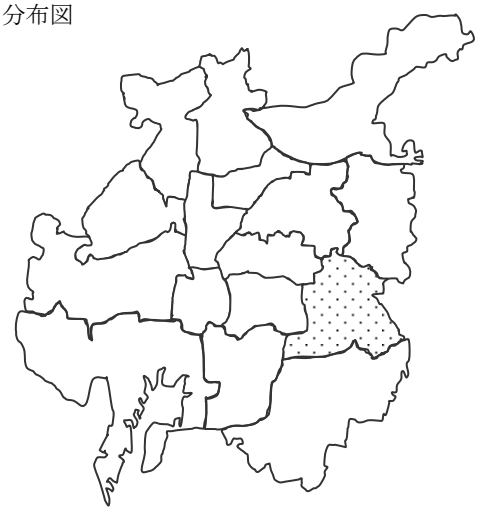
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。愛知県では点在するのみで、ほとんど群落にならない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。丘陵地の開発により消失したものと思われる。

【保全上の留意点】

丘陵地では稀な植物で、再発見の可能性は低いと思われるが、引き続き探索が必要である。

【特記事項】

葉の大きさは変異が著しい。名古屋市産の標本は葉身の長さが 2.5～4.5cm である。

【関連文献】

保木Ⅰp.252，平木Ⅱp.51.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　トウダイグサ科＞

タカトウダイ　*Euphorbia pekinensis* Rupr.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。茎は高さは 50～80cm になる。葉は茎頂のものを除き互生し、短い柄があり、葉身は長楕円形～楕円状倒披針形、長さ 4～8cm、幅 5～12mm、辺縁には微細な鋸歯がある。花期は 6～7 月、花枝は茎頂に輪生する葉から通常 5 本が散形に開出するほか、葉腋からも出る。花序の下の苞葉は菱状卵形で黄緑色、杯状花序の腺体は長楕円形で暗褐紫色である。さく果は直径3.5mm内外で、表面にいぼ状の凸起がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑 区（鳴 海 町 笹 塚，武 藤 靖 子　369, 1993-6-16）に生育していた。

【県内の分布】

主に低山地に点在するが、それほど多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、知多南部、江南丹羽で確認されている。

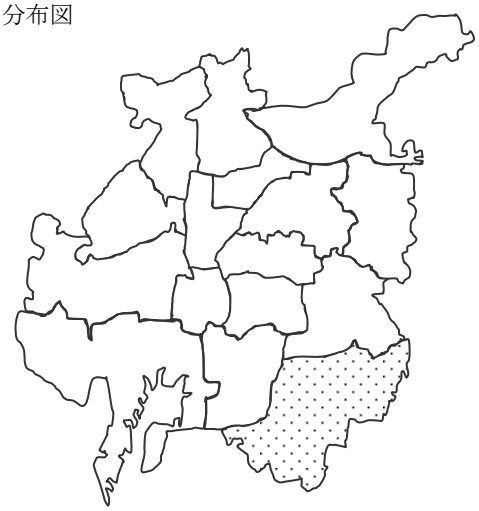
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知用水わきの草地に 2～3 株生育していたが、用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市内では本種が生育できそうな環境がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して、生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【特記事項】

本種に限ればすでに手遅れであるが、幹線水路沿いの草地は丘陵地の生物多様性を保全する上では極めて重要な場所である。水路の改修に際しては、適切な配慮が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱp.80，平草Ⅱpp.226-227.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ミソハギ科＞

ミズスギナ　*Rotala hippuris* Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅
環 境 省2014	絶滅危惧ⅠA類

【選定理由】

全国的に減少傾向が著しい低地性の水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

挺水性の多年生草本。茎の基部ははい、上部は直立して円柱状、下部から枝を分け、高さ 3～10cm になる。葉は 5～12 個輪生し、沈水葉は糸状線形、先端は短く 2 裂し、長さ 2～3cm、水上葉は線形、先端は切形で、長さ 0.5～1cm、幅 0.6～1mm である。花期は 9～10 月、花は水面上に伸びた部分の葉腋につき、無柄、白色、がく筒は鐘形で長さ約 0.6mm である。蒴果は球形で直径 1.5mm、赤色をおびる。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（旧田代村猫が洞，森貞次郎 s.n., 1906 年, TI）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか東海知多と春日井で採集された標本があるが、そこでも絶滅した。

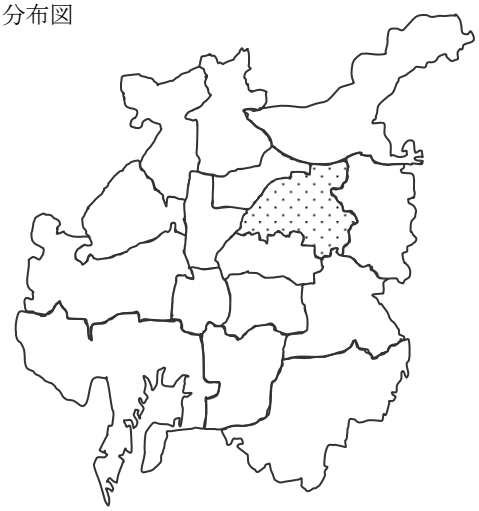
【国内の分布】

本州（関東地方～近畿地方南部）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水のきれいな浅いため池に生育する。水田に生育することもあるという。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

注意して探索している植物の一つであるが、名古屋市を含め愛知県では現存を確認できない。水質の汚濁が絶滅の原因と思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内で再発見される可能性はほとんどないが、愛知県全体では丘陵地のため池のどこかにまだ残存しているかもしれない。更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

東海知多のものは、研究者個人の手で栽培条件下で系統保存されている。

【関連文献】

保草Ⅱp.47，平草Ⅱp.261，環境庁 p.315，SOS 旧版 p.65，愛知県 p.47.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.120．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.246．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アオイ科＞

ハマボウ　*Hibiscus hamabo* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

美しい花をつける代表的な塩湿地性植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県全体でも生育地は少ない。

【形　態】

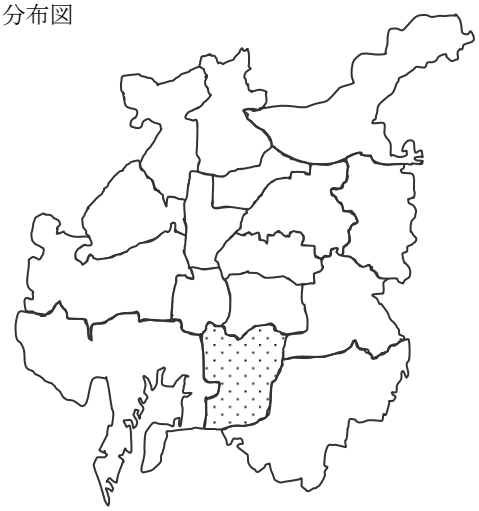
落葉性の低木または小高木。枝はよく分枝し、高さ 2～4m になる。葉は互生し、長さ 1～2cm の柄がある。葉身は円形～広卵形、長さ 4～7cm、幅 3～6cm、先端は鋭頭、基部は円形またはやや心形、葉質は厚く、辺縁には細かい鋸歯があり、裏面は星状毛が密生して灰白色となる。花期は 7～8 月、花は枝の上部の葉腋に 1 個ずつつき、淡黄色で中心部は暗赤色、直径約 5cm、花弁は 5 枚で倒卵形、先は円形で斜開し、長さ 4～5cm。果実は卵形で長さ約 3cm、褐色の毛が密生する。

【分布の概要】

【市内の分布】

南区（加福町貯木場跡地，高木順夫 8635, 2000-7-28）にやっと花をつけはじめた幼木が 1 株生育していた。

市内分布図



【県内の分布】

豊橋南部、田原東部、田原西部、西尾南部、美浜南知多に現存している。植栽または逸出と思われるものは、他の場所でも稀に見られる。田原市堀切の群落は、県の天然記念物に指定されている。豊橋市神野新田町にもよい群落がある。

【国内の分布】

本州（関東地方南部、東海地方、紀伊半島、中国地方）、四国、九州、琉球北部（奄美大島まで）。

【世界の分布】

日本、済州島。

【生育地の環境／生態的特性】

海岸の塩湿地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

南区加福町の貯木場跡に幼木が 1 株あり、これが伊勢湾の愛知県側では唯一の個体であったが、やっと開花するようになった途端、一般廃棄物最終処分場建設のため埋め立てられて消滅した。

【保全上の留意点】

塩湿地は開発圧力の高い場所であり、特に注意して保全すべき環境の一つである。本種は海流により種子が散布されるので、多少攪乱された場所でも塩湿地状態が維持されれば、定着・生育が期待できる。加福町の個体も、そのような個体であったと思われる。

【特記事項】

この類としては、最も北に分布している種である。

【関連文献】

保木Ⅰp.229，平木Ⅱp.71，SOS 旧版 p.64，SOS 新版 p.154，愛知県 p.388.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ジンチョウゲ科＞

コガンピ　*Diplomorpha ganpi* (Sieb. et Zucc.) Nakai

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

落葉性の小高木。下部で多数分枝して叢生し、高さ 50～80cm になる。葉はらせん状につき、ごく短い柄があり、葉身は長楕円形、長さ2～4.5cm、両端とも鈍頭またはやや鋭形で、全体に伏毛がある。花期は7～9月。多数分枝した枝先に小さい穂状花序をつけ、全体として円錐状となる。花は白色または淡紅色。がく筒は長さ 7～12mm、がく裂片は狭卵形で長さ 2～3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味, 芹沢 52685, 1989-8-23）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地に点在する。尾張では愛知用水沿いに生育しているだけで、名古屋市のほか常滑、美浜南知多にあったが、どの場所も絶滅状態である。

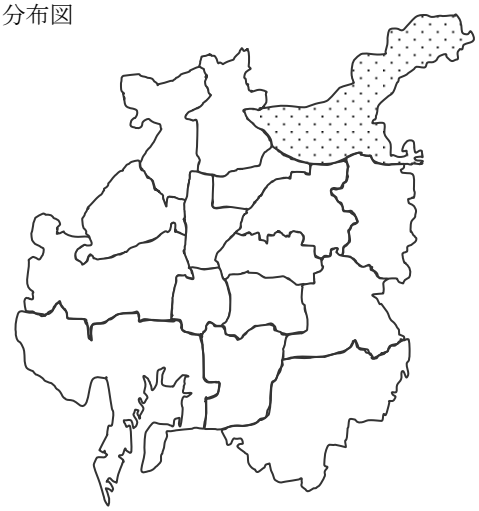
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球（奄美諸島）。

【世界の分布】

日本、台湾。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。愛知県では、幹線水路沿いの草地に生育していることが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知用水わきの草地に、狭い範囲であるが20株程度が生育しており、生育状態も良好であった。用水の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育できそうな環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。愛知用水の改修に際して生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【特記事項】

別名イヌガンピ。樹皮の繊維は弱く、同属のガンピのように和紙の原料とはならない。

【関連文献】

保木Ⅰpp.225-226, 平木Ⅱpp.81-82.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タデ科＞

コミゾソバ　*Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

愛知県や岐阜県東濃地方では点在するが全国的には稀少な植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

1 年生草本。主軸は長さ 15～80cm、基部はあまり倒伏せず、閉鎖花序枝を出さない。葉は 1～3.5cm の柄があり、葉身は長さ 3～7cm、幅 2～5cm、先端は突出して鈍端、基部は浅い心形、頂裂片は卵状五角形で基部ははっきりくびれ、側裂片は葉長の割に大きくてほとんど円頭になる。花期は8～9 月、花序は小さく、少数の花をつける。花序群も少数(しばしば1 個のみ)の花序からなる。がくは長さ 3～4mm、帯紅色または帯緑色、そう果は淡褐色でやや光沢があり、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（旧千種村，天野景従 s.n., 1910-10-23, MAK）で採集された標本がある。

【県内の分布】

津具、作手、稲武、下山、額田、岡崎南部、瀬戸尾張旭、犬山の 8 区画で現存が確認されている。

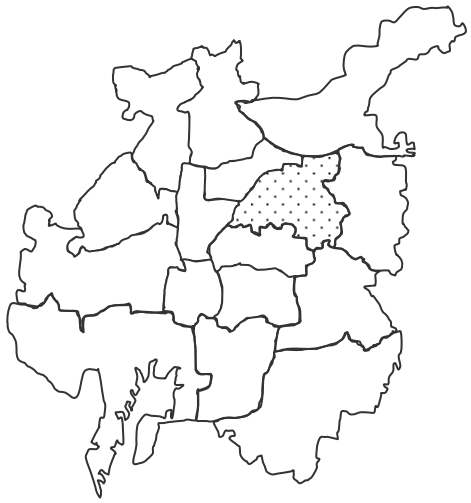
【国内の分布】

本州（福島県～兵庫県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～山地の、やや貧栄養の、しかし極度に貧栄養ではない湿地の、林縁や林内に生育する。愛知県では、下山の一部と岡崎南部（池金町）の北山湿地には比較的多いが、他はどこも小群落である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、都市化に伴う開発によって絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では本種が生育しそうな湿地がほとんど残存しておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

2008 年に新種として記載された植物で（花井・芹沢 2008）、基準標本産地は岡崎南部の北山湿地である。

【引用文献】

花井隆晃・芹沢俊介．2008．日本のミゾソバ類．シデコブシ 1:3-26.

【関連文献】

愛知県 p.524.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タデ科＞

タニソバ　*Persicaria nepalensis* (Meisn.) H.Gross

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

1年生草本。茎はよく分岐して斜上し、高さ10～50cmになる。葉は互生し、中下部のものには広い翼のついた長さ5～15mmの柄があり、翼の基部は茎を抱く。葉身は卵形、長さ2～7cm、先端は鋭尖形である。花期は7～10月。枝先や葉腋に頭状に多数の小花をつけ、花被は4裂し、緑色、白色または紅色、長さ2.5～3mm、そう果はレンズ形で光沢はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（原天白川緑道，渡邉幸子 349, 1992-6-27）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井で確認されている。

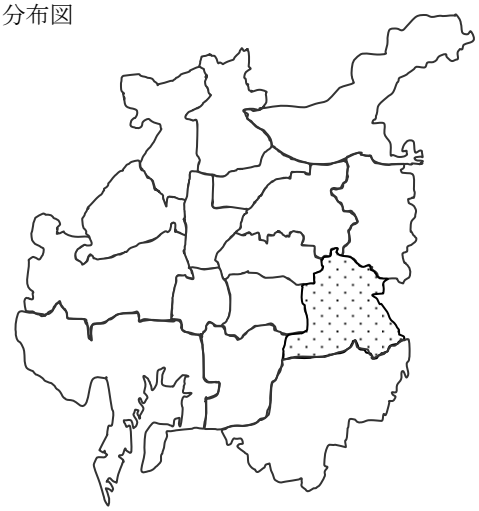
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸から北アフリカにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の湿地や林内に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

天白川沿いの土手に高さ 10～15cm の小型の個体が数株生育していたが、堤防の整備により絶滅した。天白区では、30年くらい前まではところどころに見られたらしい。

【保全上の留意点】

再発見の可能性は皆無ではない。更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られるような植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【関連文献】

保草Ⅱp.307，平草Ⅱp.21.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　モウセンゴケ科＞

ナガバノイシモチソウ　*Drosera indica* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

日本では東海地方だけに生育する食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

食虫性の1年生草本。高さ7～20cmになる。葉は互生し、狭線形、長さ4～7cm、幅1～2.5mm、先は細く糸状になり、表面に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。若葉はぜんまい状に巻く。花期は7～8月、葉に対生して長さ5～10cmの総状花序を出し、3～10個の淡紅色の花をつける。花弁は5枚、長楕円形で長さ6～8mmである。花の白いものはシロバナナガバノイシモチソウ *D. makinoi* Masam.である。シロバナナガバノイシモチソウを区別した場合、狭義のナガバノイシモチソウは国レベルでも絶滅危惧ⅠA類になるはずである。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（田代村, 牧野富太郎 s.n., 採集日不明, TI）で採集された標本がある。緑区鳴海町にも生育していた（小宮・柴田 1994）。

【県内の分布】

比較的最近では豊橋北部、豊橋南部、豊明東郷で確認されているが、豊橋南部は絶滅、豊橋北部と豊明東郷も人為的管理によって存続している状態である。

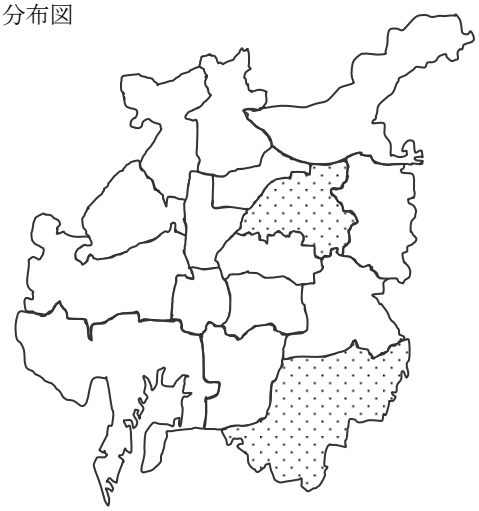
【国内の分布】

本州（東海地方）。

【世界の分布】

詳細は不明。一般に旧世界の熱帯に広く分布するとされるが、熱帯域のものは実際には日本産のものと種の階級で異なる。しかし命名規約上の問題が未解決なので、ここでは旧来の学名をそのまま使用しておく。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、半裸地状の場所に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

緑区では宅地造成により生育地が破壊され、絶滅したらしい。

【保全上の留意点】

本種については、市内に未知の生育地があることはまず期待できない。しばしば好事家による自然湿地への播種が行われているので、再発見されても保護の対象とする必要はなく、むしろ除去の対象と考える方がよい。播種や植え込みのような付け加え行為は、その場所の本来の自然に悪影響を与え、自然環境情報に混乱をもたらすだけである。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

【特記事項】

本種ほどの希少種の場合、野外での系統保存は無意味ではない。しかしその場合は、公的機関の手で、造成地にできた湿地のような場所を使って行うべきである。

【引用文献】

小宮定志・柴田千晶．1994．総説ナガバノイシモチソウ．日本歯科大学紀要（一般教育系）(23):125-155.

【関連文献】

保草Ⅱp.167，平草Ⅱp.121，環境庁 p.293，SOS 旧版 p.53+図版 19，愛知県 p.91.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ヒユ科＞

ハマアカザ　*Atriplex subcordata* Kitag.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

北方系の海浜植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。愛知県内においても生育地、個体数ともに少ない。

【形　態】

1 年生草本。茎は斜上または直立して分枝し、高さ 40～60cm になる。葉は互生し、有柄、葉身は三角状卵形～長卵形、長さ 2～8cm、幅 2～4.5cm、肉質、先端は鋭頭か鈍頭、基部はくさび形、辺縁には通常ふぞろいな歯牙がある。上部の葉は次第に狭く小さくなり、全縁になる。花期は 8～10 月、花は密集してかたまり、それが穂状につく。雌花の苞は果時に大きくなり、卵形～三角形、長さ 6～11mm、幅 5～9mm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

南区（加福町貯木場跡地，高木順夫 8979，2000-9-30）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市以外では、豊川、豊橋南部、田原東部、田原西部の三河湾沿岸部に生育している。

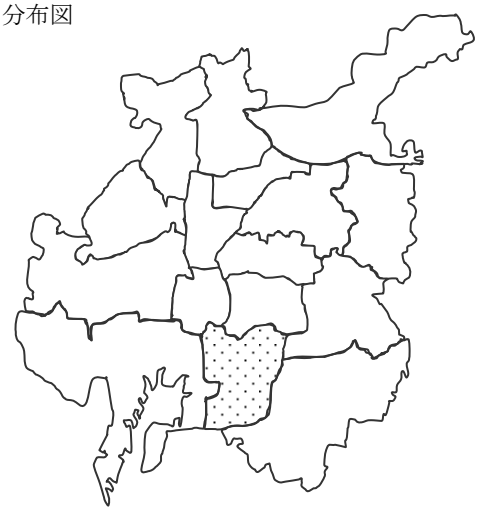
【国内の分布】

北海道および本州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

海浜の塩湿地や河口部の砂地などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

高さ 1m くらいの大株が数株見られたが、名古屋市の一般廃棄物最終処分場造成工事のため埋め立てられて絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育可能な環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

内湾の塩湿地やそれに隣接する砂浜は、開発圧力が高く、全国的にも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.290，平草Ⅱp.48，愛知県 p.343.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ツツジ科＞

ギンリョウソウ　*Monotropastrum humile* (D.Don) H.Hara

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

林内に生育する腐生植物で、名古屋市では生育していたと言われているが、現存を確認できない。

【形　態】

腐生の多年生草本。全体に白色だが、乾くと黒くなる。茎は1～数本が束生し、高さ8～20cmになる。葉は鱗片状で多数つき、下部のものは披針形で鈍頭、上部のものは倒披針形で円頭、長さ7～15mmである。花期は4～6月。茎の先端に1個の花を下向きにつけ、がく片は1～3枚、長楕円形、花弁は3～5枚で長楕円状くさび形、長さ1.5～2cm、基部はややふくらんで内側に白毛がある。花柱は太く短く、上端はやや広がって辺縁が青色の柱頭となる。果実は卵球形、液質で裂開しない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区東谷山、名東区猪高緑地などで見たという話を聞く。複数の情報があり、また誤認するおそれも少ない種類なので確かにあったものと思われるが、はっきりした記録にはなっておらず、また標本も残されていない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では瀬戸尾張旭で生育が確認されている。

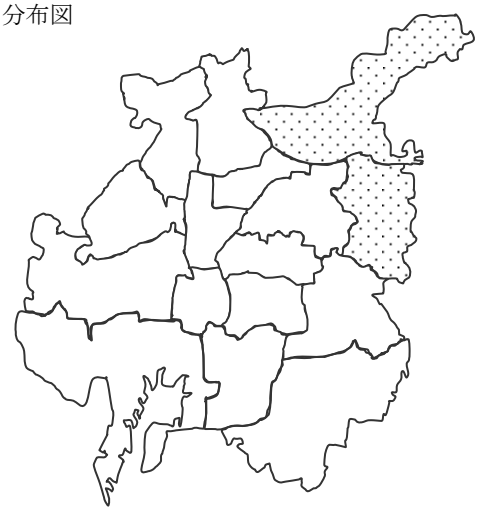
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

千島列島、樺太から東南アジア、ヒマラヤにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや湿った林内に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

情報はいずれもやや曖昧で、詳細は不明である。その場所で絶滅したかどうかについてもはっきりしない。丘陵地の開発により、生育できそうな環境が激減していることは確かである。

【保全上の留意点】

何はともあれ、確実な資料が必要である。再発見の可能性はあるので、今後も注意して探索する必要がある。

【特記事項】

安全原則の立場からここに掲載しているが、確実な資料がないという点では、本来ならリストから除外すべきものである。薄暗い林の中に生え白色なので、ユウレイタケ（幽霊茸）とも呼ばれる。

【関連文献】

保草Ⅰp.235，平草Ⅱp.6.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ツツジ科＞

レンゲツツジ　*Rhododendron japonicum* (A.Gray) Suringar

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

温帯性の植物で、名古屋市では過去に生育していたと言われているが、現存を確認できない。

【形　態】

落葉性の低木。よく分枝して高さ 1～2m になり、若枝にはやや開出する長毛がある。葉は互生し、3～5mm の柄があり、葉身は倒披針状楕円形、長さ 4～8cm、幅 1.5～3cm、先は鋭頭、鈍頭または円頭、下部はくさび形に細まって葉柄に流れ、葉縁や表面に剛毛がある。花期は 5 月、新葉の展開と同時に枝先に 4～9 個の花をつけ、花冠は朱橙色、漏斗形で 5 中裂し、長さ 5～6cm、雄ずいは 5 本、子房は長毛が密生し、花柱は無毛である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区東谷山に生育していたというが、標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東三河と西三河では山地に点在し、丘陵部にもいくつかの自生地がある。尾張では瀬戸尾張旭に生育しているだけである。

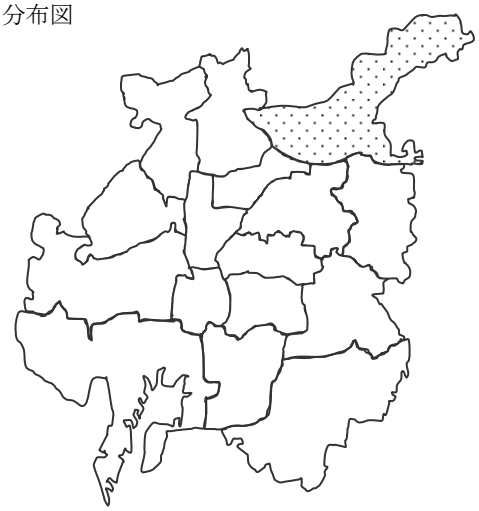
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

長野県の高原などでは草地や林縁に大きな群落を作るが、愛知県や岐阜県美濃地方では湧水湿地の林縁部に生育することが多い。名古屋市の生育地もそのような場所であったらしい。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

高さ 1m くらいの個体が 2 株あり、よく開花していたが、遷移の進行により湿地の森林化が進み、被陰されて消失したという。

【保全上の留意点】

よく目立つ植物なので、再発見はほとんど期待できない。早目に湿地に侵入した樹木を伐採し、日当たりのよい状態を維持すべきであった。

【特記事項】

本地域の湧水湿地に生育する温帯性植物の一例で、おそらく氷期の遺存植物と思われる。

【関連文献】

保木Ⅰp.150，平木Ⅱp.142.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アカネ科＞

ヤマムグラ　*Galium pogonanthum* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。根は紅色を帯びる。茎は下部で分枝して立ち上がり、高さ 20～50cm、無毛で刺状突起はない。葉は4枚が輪生し、広線形～倒披針形、長さ1～2cm、先端は鋭頭、対生する2枚は長く、他の 2 枚はやや短い。花期は 4～8 月、茎の上部にまばらな花序をつけ、小花柄は長さ 3～10mm、花冠は白色で4裂し、直径 1.5mm ほどである。果実は球形で 1.2～1.5mm、やや密に上向きに曲がった短毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高，井波一雄 s.n.，1941-7-10，CBM196082）で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地、丘陵地には点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭、知多南部、犬山で確認されているだけである。

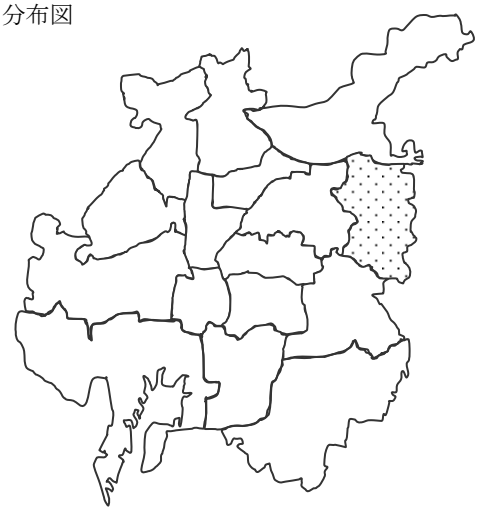
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林縁部の草地に生育することが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本は高さ 50cm ほどの、よく発育した個体である。丘陵地の開発により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草Ⅰpp.112-113，平草Ⅲp.54.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キョウチクトウ科＞

クサナギオゴケ　*Cynanchum katoi* Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

全国的に希少な植物で、愛知県が基準標本産地である。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30～100cm、大きい個体では上部がややつる状に伸びる。葉は小さい個体では茎の上部、大きい個体では茎の中部に集まり、対生、長さ 5～10mm の柄があり、葉身は卵状披針形、長さ 8～17cm、幅 3～5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、全縁、質は薄くて脈上に短毛がある。上部のつる状の部分につく葉は小形になる。花期は5～6月、花序はまばらに分枝し、全体として大きい円錐花序となり、小花柄は細く、花冠は淡紫色で直径 6～9mm、5 裂する。袋果は披針形、長さ 4～5.5cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（旧天白村, 井波一雄 s.n., 1941-7-15, CBM134868）で採集された標本がある。名古屋東山（千種区？）で採集されたものという個体の写真は、奥山（1957）に掲載されている。

【県内の分布】

新城、豊川、豊橋北部、旭、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。東三河南部には比較的多いが、西三河は旭町以外では確認されておらず、尾張でも生育地が少ない。個体数も、東三河以外では犬山に小群落があるが、あとは散発的に見られるだけである。

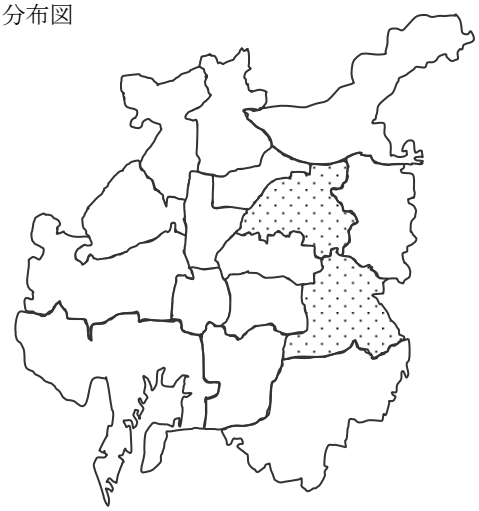
【国内の分布】

本州（関東、東海、近畿地方）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。造林地内に生育していることもある。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。

【保全上の留意点】

愛知県における本種の生育地は、ほとんどがいわゆる里山の二次林である。名古屋市のものに限れば手遅れだとしても、適度に部分的な伐採を行い、さまざまなステージが混在する里山の二次林を全体として保全することが必要である。

【特記事項】

本種は、品野村（現・瀬戸市）で加藤秀次郎氏によって発見され、熱田神宮の草薙の剣に因んで「クサナギオゴケ」と命名された。花が緑白色のものは、シロバナクサナギオゴケ form. *albescens* (H.Hara) Ohwi と呼ばれる。愛知県では、シロバナクサナギオゴケの方が多く見られる。

【引用文献】

奥山春季．1957．原色日本野外植物図譜 1:pl.41．誠文堂新光社，東京．

【関連文献】

保草Ⅰp.209，平草Ⅲp.42，環境庁 p.515，SOS 旧版 p.73+図版 5，SOS 新版 p.74，愛知県 p.567.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キョウチクトウ科＞

コカモメヅル　*Tylophora floribunda* Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

つる性の多年生草本。茎は細く、長く伸びる。葉は対生し、長さ 1～2cm の柄があり、葉身は三角状卵形～卵状披針形、長さ 3～7cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全縁である。花期は 7～8 月、花序は葉腋から出て大きくまばらに広がり、小花柄は細くて長さ 4～10mm、花冠は暗紫色で 5 裂し、直径 4～5mm である。果実は双生して水平に開出し、分果は披針形で長さ 3.5～5cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（東谷山，井波一雄 s.n.，1949-8-7，CBM161699）で採集された標本がある。

【県内の分布】

丘陵地～山地に点在するが、それほど多いものではない。尾張では瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井などで生育が確認されている。

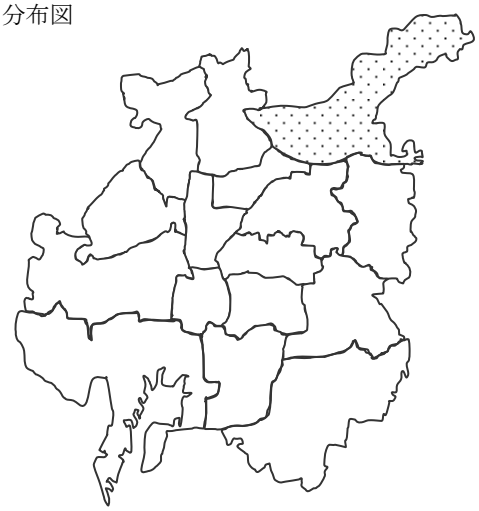
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林縁の草地に生育することが多い。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。

【保全上の留意点】

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【関連文献】

保草Ⅰp.210，平草Ⅲp.43.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ムラサキ科＞

ホタルカズラ　*Lithospermum zollingeri* A.DC.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

草地性の植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。遷移途上のやや不安定な場所に生育することが多い植物で、愛知県全体でも減少傾向が著しい。

【形　態】

多年生草本。茎は細く、開出したあらい毛があり、高さ 15～25cm、花後基部から横にはう長い枝を出し、翌年の新苗をつける。葉は互生し、葉身は狭楕円形～広倒披針形、長さ 2～6cm、幅 0.6～2cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、濃緑色で表面に剛毛があり、辺縁は全縁である。花期は 4～5 月、花は上部の葉腋につき、青紫色で直径 15～18mm、花冠は 5 裂し、各裂片の中央には縦の白色の隆起がある。分果は白色で平滑である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

新城、豊川、豊橋北部、田原西部、知多南部、犬山で確認されているが、かなりの区画ですでに絶滅している可能性がある。岡崎南部で採集された標本もある。

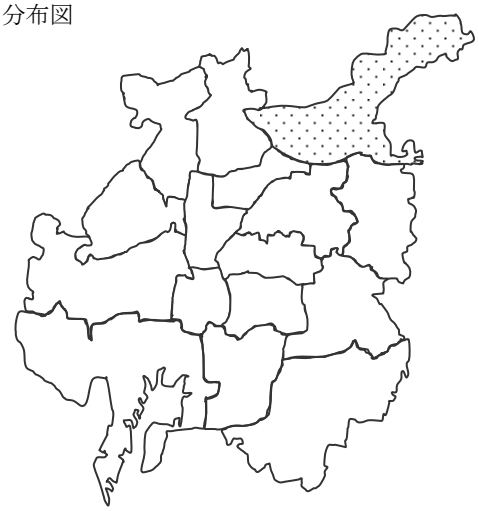
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地や丘陵地の日当たりのよい草地、林道わきの崖状地などに生育する。名古屋市では愛知用水わきの草地に生育していたという。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知用水の改修により絶滅したらしい。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線水路わきの草地は、定期的に草刈りが行われるため遷移が進行せず、草地が全体的に減少する中で、多くの草地性植物のよい逃避地になっている。改修工事に際してはこれらの植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、点々と咲く青い花をホタルの光にたとえたものと言われる。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.40．エフエー出版，名古屋.

【関連文献】

保草Ⅰp.195，平草Ⅲp.64，愛知県 p.407.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ゴマノハグサ科＞

オオヒナノウスツボ　*Scrophularia kakudensis* Franch.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

山間部の湿性地に多い植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。根は数本が肥厚して紡錘状となる。茎は直立して高さ 1m くらいになり、四角柱状である。葉は対生し、長さ 1～3cm の柄があり、葉身は卵形～長卵形、長さ 7～15cm、先端は鋭頭～鈍頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁には多数の鋸歯がある。花期は 8～9 月、茎の上部に長さ 40cm に達する円錐花序をつけ、多数の花をつける。花冠は暗紅紫色、つぼ形で長さ 8～9mm である。果実は卵形、長さ 7～9mm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区？（平針～白土～天白, 稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101193）で採集された標本がある。

【県内の分布】

三河山地には点在する。尾張では少なく、瀬戸尾張旭と犬山で確認されているだけである。

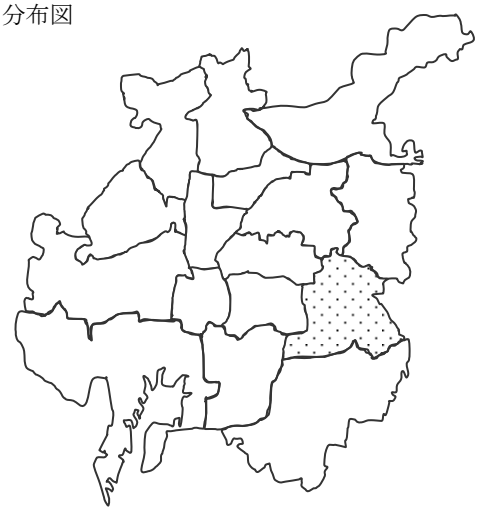
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やや湿った林縁などに分布する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本は 2 枚続きで、茎の中上部 80cm ほどのものである。丘陵地の開発により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市では本種が生育できそうな環境が残されておらず、再発見は困難と思われる。

【関連文献】

保草Ⅰpp.153-154，平草Ⅲp.100.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

ケブカツルカコソウ　*Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew. form. *hirsuta* (Honda) Murata

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つで、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。花茎は単生して直立し、高さ 10～30cm、基部から葉をつけた長い走出枝を出す。根出葉は広倒披針形～倒卵形、長さ 2～5cm、先端は鈍頭、辺縁は少数の波状の鋸歯があり、基部はくさび状に細まって葉柄となる。茎葉は対生し、1～2 対、その上に 5～10 対の苞が続き、腋に仮輪をつくって淡紫色の花をつける。花期は 5～6 月、花冠は唇形、花筒は背面で長さ約 7mm、上唇はごく小さく、下唇は 3 裂して開出する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味吉田，鳥居ちゑ子 621, 1994-5-8）、緑区（有松，井波一雄 s.n., 1941-5-6, CBM251395）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、小牧、春日井などで確認されている。ただし豊明東郷では絶滅し、このほかにもすでに絶滅した区画があると思われる。刈谷知立で採集された標本もある。

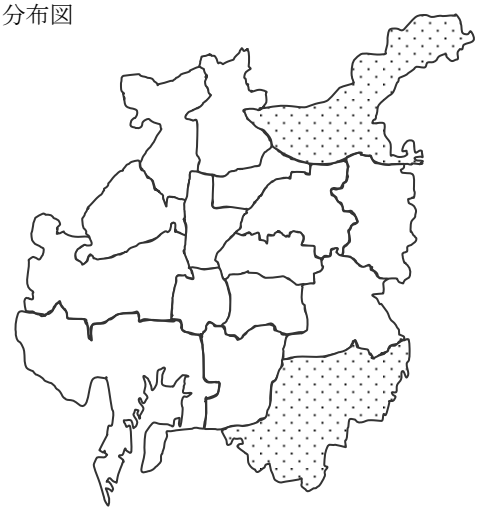
【国内の分布】

種としては南千島（色丹島）と本州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県では、丘陵地の水田のまわりの土手、草の生えた農道など、一昔前の谷戸田景観を象徴するような場所に生育している植物である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

下志段味では谷戸田のわきの草地に小群落があったが、耕地整理によって草地が削られ、絶滅した。愛知県全体でも、一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で谷戸田の放棄による植生遷移の進行により、急激に減少している。水田の周辺にあるため除草剤が散布され、その影響で減少することもある。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、本種以外にも多くの絶滅危惧生物が生育しており、生物多様性を保全する上で重要性の高い場所である。谷戸田とそこでの農薬を使用しない水稲耕作の価値を、一つの文化遺産として認める必要がある。

【特記事項】

基準品種のツルカコソウ form. *shikotanensis* は全体に毛が少ないもので、愛知県には自生しない。カコソウは夏枯草の意味で、ウツボグサのことである。

【関連文献】

保草Ⅰp.189，平草Ⅲp.73，SOS 旧版 p.76，SOS 新版 p.82，愛知県 p.227.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

ミズネコノオ　*Eusteralis stellata* (Lour.) Murata

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

低湿地性の水田雑草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

1年生草本。茎は高さ15～50cmで軟らかく、中央付近で多数の枝を出す。葉は3～6枚が輪生し、無柄、葉身は線形で長さ2～6cm、幅2～4mm、先端は鋭頭～鈍頭、辺縁は全縁である。花期は8～10月、茎および枝の先端に、長さ2～5cm、幅4～5mmの穂状の花序をつけ、花を密生する。花冠は白色または淡紅色、長さ約2mm、雄ずいは長さ約3mmで花外に突き出る。

【分布の概要】

【市内の分布】

北区（如意三丁目，鳥居ちゑ子 2397, 2003-10-15）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、新城、豊川、額田、瀬戸尾張旭、江南丹羽、春日井の6区画で確認されている。豊橋北部で採集された標本もあるが、ここでは現在のところ現存を確認できない。

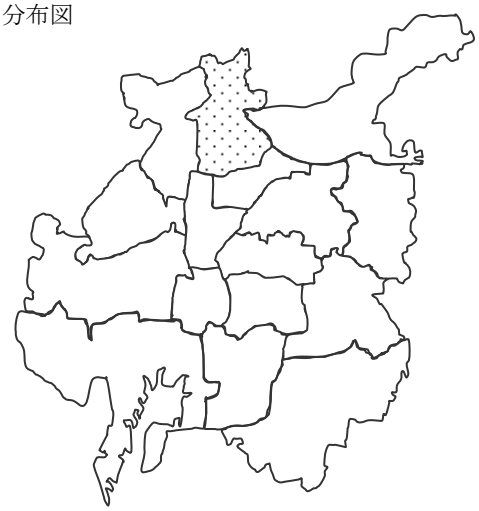
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球（徳之島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水湿地、湿田、休耕田などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

近年名古屋市内では見られなくなっていた植物であるが、2003年に再確認された。しかしこの場所でも、その後ビルが建てられ、絶滅した。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような湿田は、農地改良の結果、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在では逆に、過去の稲作形態を示す文化遺産として、保全の必要性が高くなっている。このような、従来行政的に「退治目標」とされてきた環境の保全は、今後の重要な課題である。

【特記事項】

稲刈り後の水田に生育する個体は、極めて小型の状態でも花をつける。名古屋市産の植物の彩色画は2004年版図版6に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅰp.172，平草Ⅲp.83，環境庁p.522，SOS旧版p.76，SOS新版p.138，愛知県p.409.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

ミズトラノオ　*Eusteralis yatabeana* (Makino) Murata

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

低湿地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。茎はやわらかく、横にはう地下茎から立ち上がり、高さ 30～50cm になる。葉は 3～4 個が輪生し、ほとんど無柄、葉身は線形～広線形、長さ 3～7cm、幅 2～5mm、先端は鋭頭、全縁でやわらかい。花期は 8～10 月、茎の先端に長さ 2～8cm の穂状の花序を 1 個つけ、花を密生する。花冠は淡紅色、雄ずいは 4 本で長さ 7～8mm、花外に突き出し、花糸の中部には密に長い毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流，芹沢 77000，2000-10-1）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、新城、豊橋北部、額田、安城、瀬戸尾張旭に生育している。ただし安城は絶滅。このほか豊川で採集された標本もある。

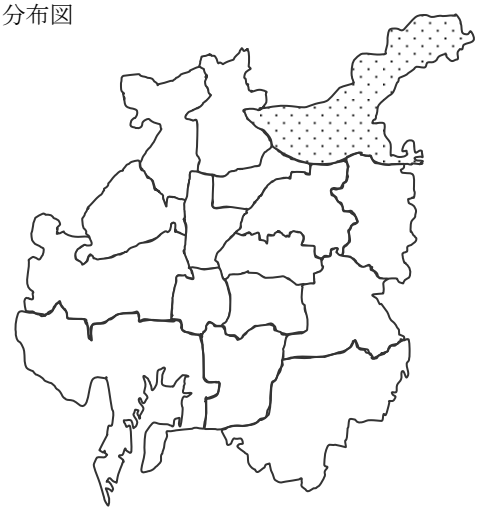
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水湿地や休耕田に生育し、しばしば群生する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

休耕田の中に小群落があった。耕作が中止されて大形の草本が茂り確認に行けないが、絶滅したと思われる。愛知県全体ではかつては特に東三河南部では多かった植物のようで、秋には道の両側が赤くなるくらいあったというが、耕地整理により山すその水田わきの湿地がなくなり、急激に減少した。強力な除草剤が使用されなくなって一時やや増加傾向にあったが、近年再び減少している。

【保全上の留意点】

休耕田では、一時的に増加しても、休耕状態が継続して植生遷移が進行すればやがて消滅するものと思われる。存続のためには湿田状態を維持すると共に、適度の攪乱が必要である。除草剤の散布を避けることも必要である。

【特記事項】

多年生草本で地下茎が横にはうため、条件がよければ栄養的に繁殖して大きな群落を作る。

【関連文献】

保草Ⅰp.172，平草Ⅲp.83，環境庁 p.522，SOS 旧版 p.76+図版 24，SOS 新版 p.138，愛知県 p.410.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タヌキモ科＞

ノタヌキモ　*Utricularia aurea* Lour.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

水生の食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

水中に浮遊する食虫性の１年生草本。茎は長さ 1.5m に達する。葉は互生し、長さ 3～8cm、基部で 3 本の枝に分かれ、更に何回か立体的に分枝し、裂片は細くてやわらかく、多数の捕虫嚢をつける。花期は 7～10 月、花茎は長さ 7～20cm で、水面から出て直立し、先端に数個の黄色の花をつけ、花柄は長さ 0.5～1.5cm で、花時には細いが、花後下向きに曲がり、先の方が太くなる。果実は両側に突起があり、幅 4～5mm、先端に花柱が残存する。殖芽はつけない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味筧池，飯尾俊介 4, 1964-8-31, 群落の写真は名古屋市公害対策局 1990 に掲載されている）、千種区（田代町大藪池，井波一雄 s.n., CBM135458; 覚王山，稲垣貫一 s.n., 1937-9, CBM98770）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、田原東部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山の 9 区画で確認されている。ただし刈谷知立では絶滅した。

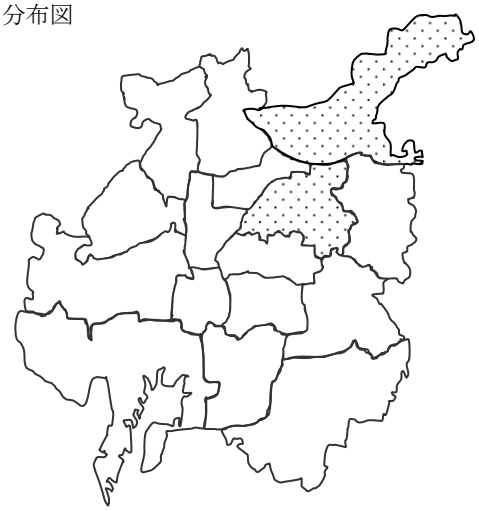
【国内の分布】

本州（関東地方、新潟県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジアからインド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地のため池に生育する。イヌタヌキモと異なり開けた場所にあるため池には少なく、水路や水田にも見られない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明。水の汚染により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、再発見は困難と思われる。本種に限らす止水性の水草の生育地を確保するためには、ため池の水質を保全する必要がある。

【特記事項】

イヌタヌキモ *U. australis* R.Br.からは、葉が基部から 3 裂し、裂片が細くてやわらかいことで区別できる。イヌタヌキモは、タヌキモに含めて国リストに掲載されていたことがあるため何かと注目されるが、愛知県では本種の方がイヌタヌキモよりずっと少なく、減少傾向も著しく、保全の必要性が高い。

【引用文献】

名古屋市公害対策局．1990．名古屋の淡水生物(2)·pl.51．名古屋市．

【関連文献】

保草Ⅰp.123，平草Ⅲp.139，愛知県 p.419.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.149．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.285．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タヌキモ科＞

フサタヌキモ　*Utricularia dimorphantha* Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅
環 境 省2014	絶滅危惧ⅠB類

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生の水草。茎は長さ50cmくらいになる。葉は互生し、長さ3～6cm、毛状の裂片に立体的に分裂する。食虫植物であるが、捕虫嚢はわずかにつくだけである。花期は7～9月、通常花と閉鎖花があり、閉鎖花は葉腋に単生して短い柄があり、通常花は水上に伸びた高さ7～15cmの花茎の上部に、3～10花がつく。花冠は黄色で直径約1cm、がくは卵状楕円形で長さ約2mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城堀，中井三従美 22, 1989-8-23）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市は県内で唯一の自生地であった。

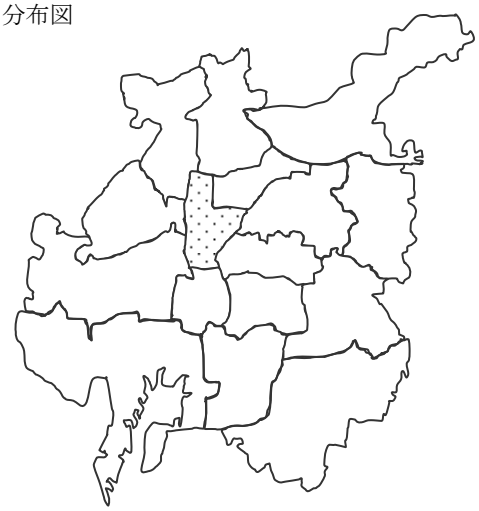
【国内の分布】

本州（東北地方～近畿地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の池沼の水中に浮遊する。現存する生育地は全国でも数ヶ所にすぎない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1989年に採集された標本があるが、その後見られなくなった。水質の汚濁が絶滅の原因と思われる。全国的には、食虫植物マニアによる採取も深刻と言われている。

【保全上の留意点】

水質が改善されれば、再度出現する可能性も皆無ではない。

【特記事項】

他の日本産のタヌキモ類と異なり、通常花のほか、閉鎖花をつける。学名もこの特徴に基づく。標本写真は、SOS旧版p.82に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅰp.122，平草Ⅲp.139，環境庁p.176，SOS旧版p.82，愛知県p.63.
角野康郎．1994．日本水草図鑑p.152．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草p.289．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タヌキモ科＞

ミカワタヌキモ　*Utricularia exoleta* R.Br.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生の食虫性水草。茎は糸状で泥上をはい、捕虫嚢をつけた地中葉で固着するが、水中を浮遊することもある。水中葉はまばらに互生し、長さ1cm程度、1～5個の裂片に分裂し、まばらに捕虫嚢をつける。裂片は幅0.1～0.2mmである。花期は8～9月、高さ5～8cmの花茎を水上に伸ばし、1～3花をつける。花冠は黄色で直径5～6mm、距は前向きで下唇と同長かやや長く、がくは長さ約2mmである。殖芽は形成しない。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（田代町，井波一雄 s.n.，1937-8-18，CBM195716）、緑区（鳴海町滝の水，浜島繁隆 1075, 1968-11-2）に生育していた。

【県内の分布】

豊田北西部、瀬戸尾張旭、日進長久手、半田武豊の 4 区画で確認されている。ただし瀬戸尾張旭では見られなくなり、半田武豊ではごく最近の状況が確認されていない。岡崎南部と刈谷知立で採集された標本もあるが、これらの区画では現存を確認できない。

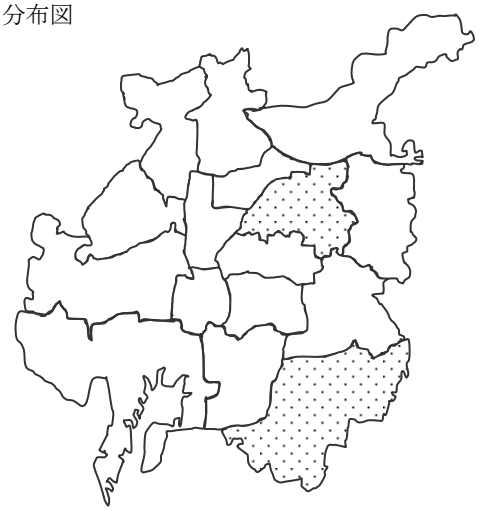
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾からインド、オーストラリア、アフリカにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも人里に近い丘陵地のため池である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

緑区では宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

再発見できる可能性は低いが、皆無というわけでもない。今後のことを考えると、外来のタヌキモ類を移入しないことが重要である。本種の場合は特に、オオバナイトタヌキモ *U. gibba* L.に対して注意が必要である。

【特記事項】

植物体が糸状で繊細なため、イトタヌキモとも呼ばれる。オオバナイトタヌキモは花が大きく、直径約 1cm あるもので、愛知県では半田武豊、常滑、名古屋南東部などに帰化している。本種を、オオバナイトタヌキモの亜種とする見解もある。

【関連文献】

保草Ⅰp.122，平草Ⅲp.139，環境庁 p.346，SOS 旧版 p.82，SOS 新版 p.127，愛知県 p.236.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.153．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.292．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タヌキモ科＞

コタヌキモ　*Utricularia intermedia* Heyne

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生の食虫性水草。茎は泥上をはい、多数の捕虫嚢をつけた地中葉で固着する。水中葉は互生して重なり合い、長さ 1cm 程度、二叉状に分岐して扇形となり、捕虫嚢はなく、裂片は幅 0.3～0.6mm で辺縁に鋸歯がある。花期は6～9月、高さ5～15cmの花茎を水上に伸ばし、1～5花をつける。花冠は黄色で直径 12～15mm、距は前向きで下唇とほぼ同長、がくは長さ約 3mm である。秋には茎の先端に直径 3～8mm の球状～楕円状の殖芽を作り、越冬する。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（田代町竹下，井波一雄 s.n., 1937-8-18, CBM233671）、天白区（天白町八事, 浜島繁隆 1078, 1968-8-25）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか豊川、豊橋南部、田原東部、藤岡、犬山で採集された標本があるが、現存が確認されているのは犬山だけである。豊橋市の葦毛湿原にも生育しているが、これは移入されたものである。

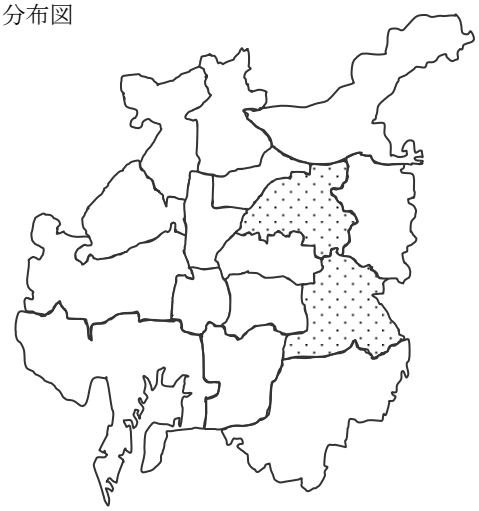
【国内の分布】

北海道、本州（三重県以北）、九州（大分県）。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも湧水湿地中の浅い水たまりであった。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。

【保全上の留意点】

本種の生育できそうな湿地は、名古屋市内ではもはや残存していない。再発見は困難と思われる。

【特記事項】

愛知県では、まだ開花は確認されていない。葦毛湿原のものは、原産地も不明であり、本来は除去が望ましい。湿地はどこも同じではない。ないものは「ない」のがその湿地の個性であり、その「ない」という状態を壊す移入は、基本的には自然破壊行為である。

ヒメタヌキモ *U. minor* L.は、森林公園の尾張旭市側で採集された標本はあるが、名古屋市側では発見されていない。

【関連文献】

保草Ⅰp.122，平草Ⅲp.139，SOS 旧版 p.83，愛知県 p.58.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.152．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.290．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タヌキモ科＞

ヒメミミカキグサ　*Utricularia minutissima* Vahl

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	絶滅危惧ⅠB類

【選定理由】

湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生の食虫性草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫嚢をつける。地上葉は線形、長さ 1～3mm である。花期は8～10月、花茎は直立し、高さ1～3cm、1～3花をつける。がくは長さ約1mm、裂片は円形で花後も大きくならない。花冠は淡紅色で直径 2～2.5mm、距は前向きで下唇より長い。蒴果は長さ約 1mm、がくとほぼ同長である。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（鳴海町滝の水湿地，芹沢 30792, 1979-11-11）に生育していた。写真は浜島（1979）に掲載されている。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、豊田北西部、瀬戸尾張旭（絶滅）、長久手日進、豊明東郷、半田武豊で確認されている。ただし武豊の壱町田湿地以外は、どこも危機的である。

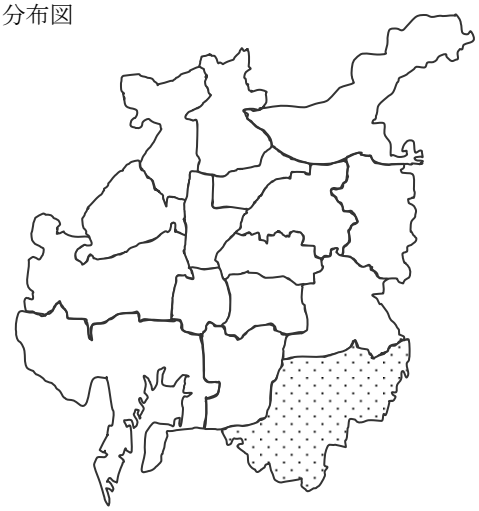
【国内の分布】

本州中部（愛知県、三重県）。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

狭い範囲であるが、比較的多くの個体が生育していた。宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、本種の生育できそうな湿地が残存していない。再発見は困難と思われるが、小規模な崖地状の湿地に生育している例もあるので、更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

とにかく小さい植物で、地面をはうようにして探さないとなかなか発見できない。通り一遍の調査ではまず見落としてしまうので、調査時には特に注意が必要である。

【引用文献】

浜島繁隆．1979．失われゆく滝の水（名古屋市）の小湿原．植物と自然 13(12):56-57.

【関連文献】

保草Ⅰp.121，平草Ⅲp.138，環境庁 p.346，SOS 旧版 p.83+図版 19，SOS 新版 p.106，愛知県 p.237.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キキョウ科＞

ツルニンジン　*Codonopsis lanceolata* (Sieb. et Zucc.) Trautv.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では生育していたという記録はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

つる性の多年生草本。根は塊状にふくらむ。茎は長さ 2～3m に伸び、切ると白い乳液が出る。葉は互生するが、側枝の先には通常 3～4 枚が集まり、短い柄があり、葉身は楕円形～長卵形、長さ 3～10cm、先端は鈍頭または鋭頭、基部はくさび形、辺縁はほぼ全縁、裏面は粉白色を帯び、通常無毛であるが、白毛が多いものもある。花期は 8～10 月、花は側枝の先に下向きにつき、花冠はつりがね状、長さ 25～30mm、淡紫褐色で内面に濃色の斑点がある。がくは 5 裂し、裂片は広披針形、長さ 15～25mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区で撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料が残されておらず、葉裏の毛の有無はわからない。

【県内の分布】

山地に点在している。尾張では葉裏無毛のものが瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、有毛のものが瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

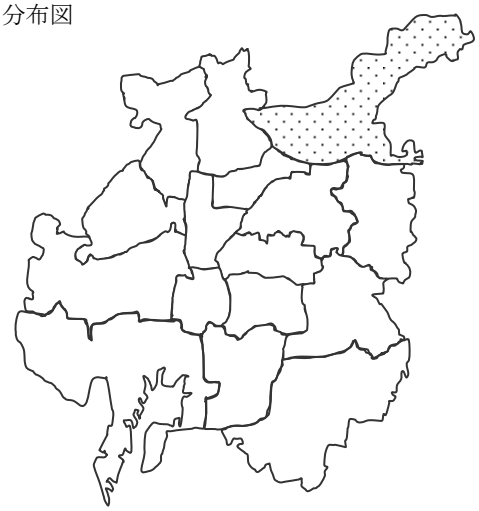
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー、アムール。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林縁などに生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。

【保全上の留意点】

ていねいに調査すれば、再発見の可能性も残されている。

【特記事項】

和名はつる植物で、根がチョウセンニンジンに似て太いからである。全体に臭気がある。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.129．エフエー出版，名古屋．

【関連文献】

保草Ⅰp.150，平草Ⅲp.92.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

ヒメシオン　*Aster fastigiatus* Fisch.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

湿草地に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ30～100cmになる。葉は互生し、葉身は線状披針形または披針形、下部のものは長さ5～12cm、幅4～15mmで有柄、両端は次第に狭くなり、辺縁には低い鋸歯がある。上部の葉は次第に小さくなる。花期は8～10月、茎の先端に多数の頭花を散房状につけ、頭花は直径7～9mm、3～8mmの柄があり、総苞は筒状、長さ約4mmである。舌状花は1列に並び、白色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（光ケ丘, 犬飼　清 s.n., 1968-9-1）、中村区（日比津庄内川, 鈴木釘次郎 s.n., 1905-9-5, CBM208072）に生育していた。

【県内の分布】

新城、豊川宝飯、豊橋北部、安城、高浜碧南、常滑、美浜南知多、犬山の8区画で確認されているが、一部の区画ではすでに絶滅していると思われる。

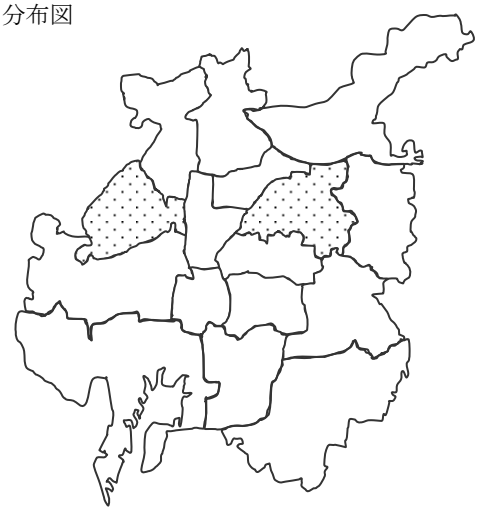
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ダフリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

川岸や堤防などの湿った日あたりのよい草地に生育する。特に自然度の高い場所に限定されるわけではないが、それでいて生育地も個体数も少ない植物である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明である。都市化の進行により、生育地が破壊されて絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見の可能性は皆無ではない。本種の生育可能地を確保するためには、地形の改変を避けると共に、将来とも草刈り等の適切な管理を継続することが必要である。

【特記事項】

和名がヒメジョオンに似ているため情報が混乱することがあり、注意が必要である。

【関連文献】

保草Ⅰp.82，平草Ⅲp.196，愛知県p.424.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

ヤマジノギク　*Aster hispidus* Thunb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向が著しい。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

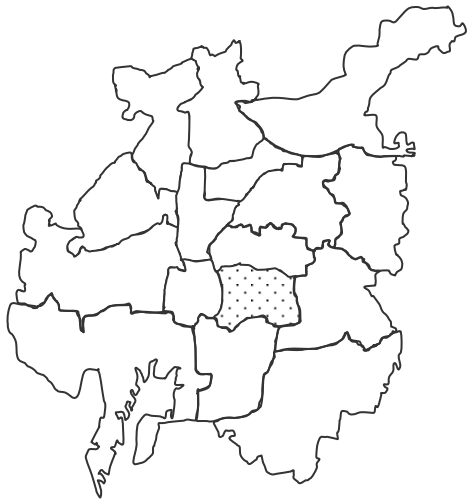
越年生草本。茎はよく分枝し、高さ 30～100cm になる。根出葉は倒披針形で長さ 7～13cm、幅 10～15mm、開花時には枯れる。茎葉は互生し、倒披針形から線形、長さ 5～7cm、幅 4～20mm、基部はしだいに細くなる。上部の葉は小さく、線形になる。花期は 9～11 月、頭花は枝の先に散房状に集まってつき、直径 3.5cm 程度、総苞は長さ 7～8mm で、総苞片は 2 列にならぶ。舌状花は淡青紫色でごく短い白色の冠毛があり、筒状花は長さ 3.5～4mm の帯赤褐色の冠毛がある。そう果は扁平で、長さ 7～8mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

瑞穂区（玉水町, 稲垣貫一 s.n., 1947-10-20, CBM101395, 写真は 2010 年版図版 1 図 2）で採集された標本がある。

市内分布図



【県内の分布】

1985 年以降では、鳳来南部、新城、豊川、田原東部、田原西部、稲武、足助の 7 区画で確認されている。ただしこれらのうちかなりの場所では、すでに絶滅している可能性が高い。最近 10 年間では、鳳来南部で見ただけである。尾張では名古屋市の上記標本のほか、美浜南知多（内海）で 1979 年に採集された標本があるが、近年の生育は確認されていない。

【国内の分布】

本州（伊豆半島以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

山地の日あたりのよい草地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、草地環境の消失により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では生育可能な環境がほとんど残されておらず、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

アレノノギクとも呼ばれるが、攪乱地であってもそれなりに自然度の高い場所に生育していることが多いから、和名としては「ヤマジノギク」の方が適切である。新城や豊橋北部の超塩基性岩地には、葉も枝も著しく細い変種のヤナギノギクが生育している。

【関連文献】

保草Ⅰp.84，平草Ⅲp.199，SOS 新版 pp.54,56，愛知県 p.115.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

コヤブタバコ　*Carpesium cernuum* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。茎は高さ 50～100cm となり、枝を開出する。根出葉は花期には枯れる。茎葉は互生し、下部のものには広い翼のある柄があり、葉身は長楕円形、長さ 7～20cm、両面に軟毛があり、辺縁には不ぞろいな低い鋸歯がある。花期は7～9月、枝先に点頭した緑白色の頭花をつけ、その基部には線状披針形の苞が多数ある。頭花は直径 15～18mm、総苞は椀状で長さ 7～8mm、総苞はすべてほぼ同長、外片先端は小さい葉状となり反曲する。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（御幸山公園，渡邉幸子 1282, 1993-9-16, NBC773）に生育していた。

【県内の分布】

山地に点在するが、あまり多いものではない。尾張では名古屋市のほか、長久手日進、美浜南知多、犬山で確認されている。

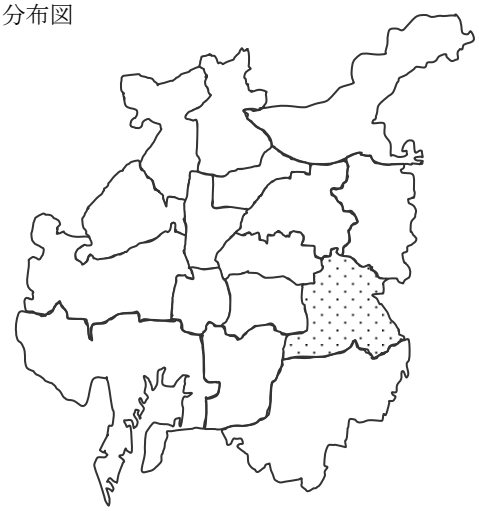
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インドシナ、シベリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や林内に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

御幸山公園に少数株が生育していたが、消失した。遷移の進行が原因と思われる。

【保全上の留意点】

残存緑地の里山的環境を、適切な管理のもとに保全することが必要である。過度の攪乱は困るが、全く放置しても里山的環境は維持できない。

【関連文献】

保草Ⅰpp.71-72，平草Ⅲp.202.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

リュウノウギク　*Dendranthema japonicum* (Makino) Kitam.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

里草地に多い植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。茎は高さ 40～80cm になり、まばらに分枝する。葉は互生し、短い柄があり、葉身は卵形または広卵形、長さ4～8cm、下部の葉は3深裂し各裂片は更に浅裂するが、中上部の葉は通常 3 中裂、先端は鈍頭、基部はくさび形、表面は緑色で短毛があり、裏面は毛が密生して灰白色となる。花期は 10～11 月、頭花は細い枝先に 1 個ずつつき、直径 2.5～5cm、舌状花は白色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑 区（鳴 海 町 笹 塚，渡 邉 幸 子 1404, 1993-10-20, NBC777）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には広く分布する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧に生育している。

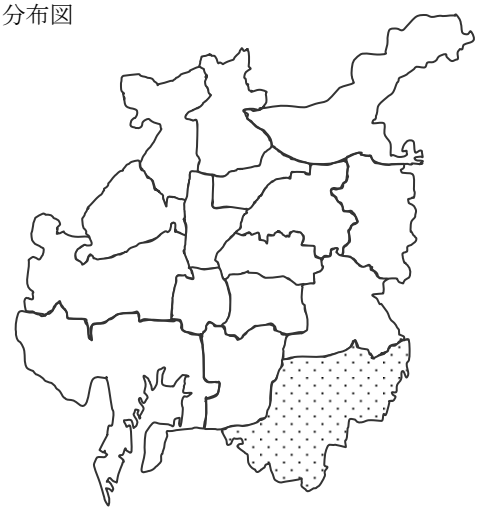
【国内の分布】

本州（福島県・新潟県以西）、四国、九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や崖地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

みどりが丘公園近くの愛知用水わきに生育していたが、土手の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

幹線水路わきの草地は、管理の都合上定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で草地性植物のよい生育場所になっている。改修の際には、これらの植物の生育場所を奪わないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

名古屋市内に生育していた唯一の野生菊で、秋遅く開花する。和名は、茎や葉の香りが龍脳に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅰp.60，平草Ⅲp.166.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

アキノハハコグサ　*Gnaphalium hypoleucum* DC.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	絶滅危惧ⅠB類

【選定理由】

全国的に減少傾向の著しい草地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

1 年生草本。茎は直立して上部で分枝し、高さ 40～100cm、白い綿毛がある。葉は多数ついて互生し、披針形、長さ3～6cm、幅2.5～7mm、表面は緑色、裏面は白い綿毛があり、基部は茎を抱く。花期は9～10月、頭花は茎の先端部に散房状に密集してつき、黄色、総苞は長さ約4mm、小花はすべて筒状花である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山公園，稲垣貫一 s.n.，1936-10，CBM115188）で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河北部の山地に点在するが、稀である。以前は西三河の低山地にも点在していたらしい。しかし尾張では、上記標本が唯一の資料である。

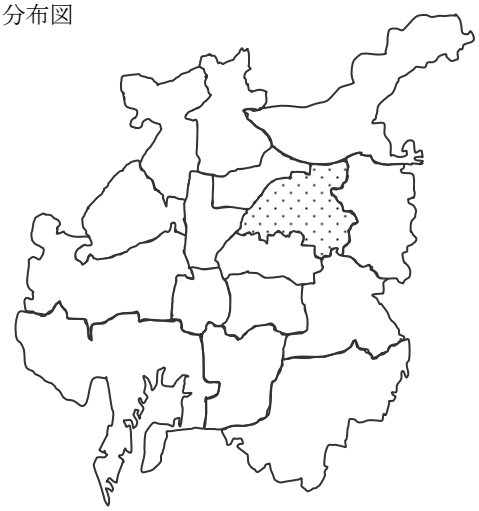
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、インド。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地のやや乾いた日当りのよい場所に生育する。しばしば道路わきの崖状地に生育している。名古屋市でもおそらくは同様の場所に生育していたものと思われる。どうということのない場所に生育しているが、それでいてなかなか見ることができない植物である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本は高さ 60cm ほどの個体である。森林化の進行に伴う草地の減少により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

尾張における現在の分布状況から見て、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

ハハコグサも秋に開花することがあるが、それからは全体に大型で茎の上部で分枝し、葉が多数つき、表面が緑色であることで区別できる。ハハコグサは茎の下部で分枝することはあるが、茎の上部で大きく分枝することはない。

【関連文献】

保草Ⅰpp.73-74，平草Ⅲp.207，環境庁 p.357，SOS 旧版 p.87，愛知県 p.425.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

カセンソウ　*Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

草地性の植物で、名古屋市では過去の記録はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 50～80cm になる。葉は互生し、長楕円形～長楕円状披針形、長さ 4～8cm、先端は鋭頭、基部は茎を抱き、質はやや硬く、脈が目立つ。花期は 7～9 月、頭花は分枝した枝端に１個ずつ上向きにつき、基部に苞葉があり、黄色、直径 3.5～4cm である。総苞は半球形、総苞片は外側のものほど短く、白緑色、先端は緑色で多少なりとも葉状に開出し、辺縁以外は無毛である。そう果は長さ約 1.5mm、無毛、冠毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区の愛知用水沿いで撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。

【県内の分布】

豊川、豊橋北部、長久手日進、東海知多、半田武豊、常滑で確認されているが、半田武豊と常滑では絶滅し、おそらく東海知多でも同様である。

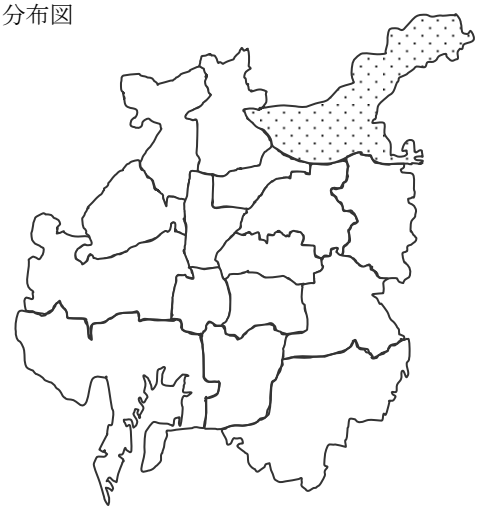
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。基準変種は茎に毛が少ないもので、ヨーロッパからシベリア西部にかけて分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい乾いた草地に生育する。「湿地に生育する」と書かれている文献もあるが、通常湿地には生育しない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

小群落があったというが、用水の改修工事により絶滅した。愛知県の他の生育地も、多くは幹線用水路わきの草地であり、改修によって次々と消滅した。愛知用水の改修に際して、生物多様性の保全における草地の重要性を十分意識していなかったことが絶滅の原因であり、この経験を今後の施策に生かす必要がある。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

オグルマ *I. britanica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.はやや湿った草地に生育し、葉が薄く、そう果の表面に毛がある。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.87．エフエー出版，名古屋.

【関連文献】

保草Ⅰp.70，平草Ⅲp.203，SOS 旧版 p.87，愛知県 p.427.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

オナモミ　*Xanthium strumarium* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

愛知県では極めて希少で、全国的にも減少傾向の著しい人里植物。名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

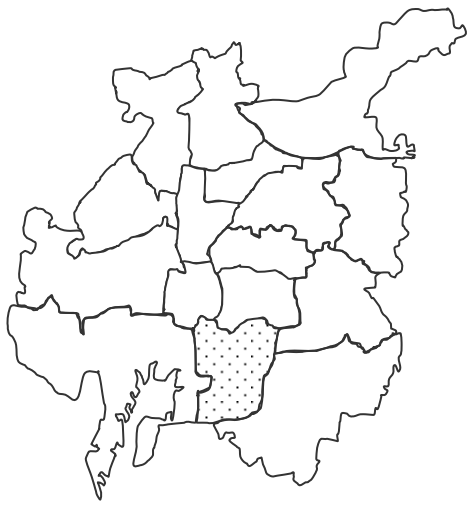
大型の1年生草本。茎は高さ1m以上になるが、愛知県に現存するものは30cm程度である。葉は互生し、長さ4～10cmの柄があり、葉身は卵状三角形～卵状五角形、長さ6～15cm、浅く3～5裂し、基部は心形、辺縁には不揃いな欠刻状の鋸歯がある。花期は8～9月、頭花は単性で、雄頭花は葉腋から出る短い円錐花序につき、雌頭花はその基部につく。果期の雌頭花は楕円形のいが状になり、先端に2個の嘴があり、嘴を含めて長さ10～15mm、表面は毛が多く光沢がない。いがの周囲の刺はオオオナモミに比べてまばらで短く、長さ1.5～2mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

南区（富部，井波一雄 s.n.，1979-11，CBM204341，写真は2010年版図版1図3）で採集された標本がある。

市内分布図



【県内の分布】

現存しているのは美浜南知多の1ヶ所のみである。過去の記録としては、名古屋市のほか新城（1940年）、豊橋南部（1942年）、渥美（1963年）で採集された標本が残されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。かつては全国各地の路傍等に普通に見られたというが、現在では容易に見ることができない植物である。古い時代にアジア大陸から帰化したものという説もある。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

路傍、空き地などの攪乱地に生育する。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

詳細は不明であるが、近縁の帰化種であるオオオナモミとの直接競合や交雑により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

全国的な状況から見て、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

愛知県ではしばらく現存が確認できなかったが、2006年に小林元男氏によって再発見された（小林・深谷2008）。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司．2008．佐久島・三河湾島々の植物 pp.209, 266．佐久島会，刈谷．

【関連文献】

保草Ⅰp.89，平草Ⅲp.160，愛知県 p.250.
長田武正．1976．原色日本帰化植物図鑑 pp.84-85．保育社，大阪．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　スイカズラ科＞

オトコエシ　*Patrinia villosa* (Thunb.) Juss.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

やや山地性の植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形　態】

多年生草本。長い走出枝を出し、その先に新株をつくる。茎は高さ 60～100cm、全体に毛が多い。葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は頂小葉が著しく大きい羽状に深裂するか、または裂けずに鈍鋸歯縁となる。花期は 8～10 月、枝先に上部がほぼ平らの集散花序を散房状につける。花は多数つき、白色、花冠は5裂し、直径約 4mm、距はない。果実は倒卵形で長さ 2～3mm、小苞が発達した円心形の翼がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（御幸山, 渡邉幸子 s.n., 1980-9-7）に生育していた。守山区にもあったが、標本資料を採取しないうちに消滅してしまった。

【県内の分布】

山地には普通に見られるか、丘陵地では少ない。尾張では瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、春日井に生育している。

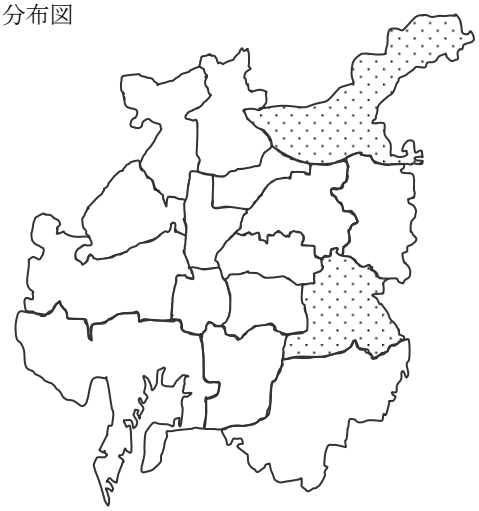
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や攪乱跡地などに生育する。オミナエシと異なり、定期的に草刈りが行われる草地に依存する植物ではない。山地ではオミナエシよりずっと多いが、丘陵地では逆にオミナエシよりずっと少ない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

天白区では林の間の道沿いに数株生育していた。守山区では丘陵地の中の広場状の場所に数株生育していた。どちらの場所でも土地造成により生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

再発見できる可能性は低いが、皆無ではない。

【特記事項】

腐った豆腐のような悪臭があるため、中国では「敗醤」と呼ばれる。和名はオミナエシに似て強壮だからである。

【関連文献】

保草Ⅰp.102，平草Ⅲp.104.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜小葉類　ミズニラ科＞

ミズニラ　*Isoetes japonica* A.Braun

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。水のきれいなため池や谷戸田などに生育する植物で、名古屋市内では生育できる場所が著しく減少している。現存は確認できないが、まだ残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類相当と評価した。

【形　態】

夏緑性の水草。塊茎は直径 2～3cm になるが名古屋市で近年採集されたものは 1cm 程度、中心から放射状に出る 3 条の溝で浅く 3 分する。葉は束生し、円柱状、通常長さ 15～30cm になるが名古屋市に現存するものは 10～15cm、先端は次第に細くなる。葉の基部は広がり、胞子のうをつける。胞子には雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地, 芹沢 77437, 2001-6-9）に生育していた。かつては市内の丘陵地に点在していたと思われるが、標本資料は残されていない。

【県内の分布】

東三河では比較的多いが、西三河では現在のところ確認されていない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山（絶滅）、春日井で確認されている。

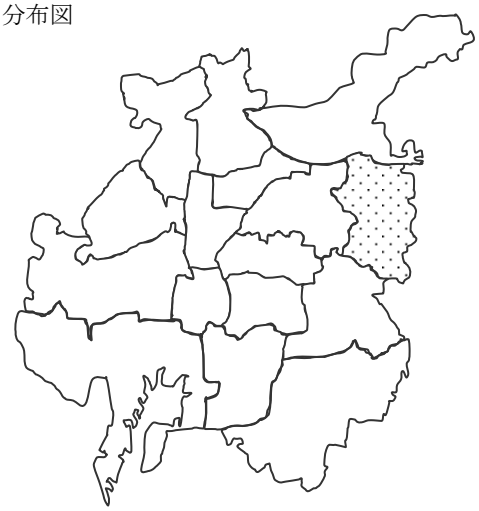
【国内の分布】

本州全域と四国北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

貧栄養の湖沼やため池、水路、水田などに生育する沈水～湿生植物。名古屋市では、ため池の岸の水湿地に抽水～陸生状態で生育している。県内では、ため池や流れのゆるやかな水路の水中に沈水状態で生育している場合や、休耕田などに生育している場合がある。

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地の開発や除草剤の使用により減少し、現在の状態に至ったと思われる。猪高緑地では、個体数は少なく、生育状態もよくなかった。ここ 5 年以上、生育を確認できないため、すでに絶滅している可能性もある。

【保全上の留意点】

水質の維持が必要である。

【特記事項】

目立ちにくい植物で花のないホシクサ類に似ているので、調査の際には特に注意を要する。

【関連文献】

保シダ p.21，平シダ p.56，環境庁 p.419，SOS 旧版 p.36+図版 23，SOS 新版 p.115，愛知県 p.502.
倉田　悟・中池敏之（編）．1985．日本のシダ植物図鑑 4:84-88．東京大学出版会，東京．
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.8．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.20．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜シダ植物　ヒメシダ科＞

ツクシヤワラシダ　*Thelypteris hattorii* (H.Itô) Tagawa var. *nemoralis* (Ching) Sa.Kurata

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 3、固有度補正+1、総点 17。日華区系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短くはい、先端に少数の葉をつける。葉柄は長さ 17～45cm、表側に単細胞の短毛があり、裏側は無毛である。葉身は三角状長卵形、3 回羽状浅～中裂、長さ 23～50cm、幅 18～30cm、最下羽片には短い柄があることが多いが、無柄のこともある。胞子のう群はやや辺縁よりにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味穴ケ洞，芹沢 83276, 2008-9-13）。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来北東部、鳳来北西部、作手、豊橋北部、犬山に生育している。隣接する岐阜県美濃地方には点在する。

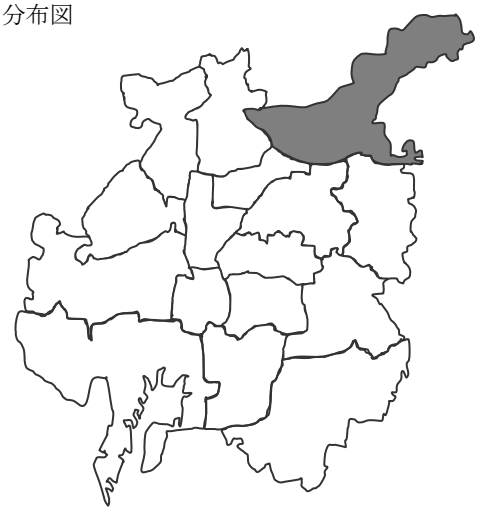
【国内の分布】

本州（愛知県、岐阜県、奈良県、広島県）、四国（愛媛県）、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

腐植質の多い林床に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、アイグロマツ造林地の林内にごく少数が生育している。開発や森林の伐採により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地は名古屋市としてはシダ植物の多い場所で、本種のほかにもシノブ、ヒメワラビ、オシダ、イワヘゴなどが生育している。生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

ヨコグラヒメワラビ var. *hattorii* とヤワラシダ *T. laxa* (Franch. et Sav.) Ching 低地型の中間のような形状をしており、時にヤワラシダ低地型の葉の切れ込みが深い個体とまぎらわしくなることがある。ヨコグラヒメワラビは深山性の植物で、低山地や丘陵地には生育していない。

【関連文献】

平シダ p.213，愛知県 p.319.
倉田　悟・中池敏之（編）．1983．日本のシダ植物図鑑 3:582-585．東京大学出版会，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　裸子植物　イチイ科＞

カヤ　*Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級4、集団数階級4、県内分布1。名古屋市ではただ1株が残存しているだけで、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

常緑性の高木。高さ25mに達する。樹皮は灰褐色～赤褐色で、浅く縦裂する。葉は2列に並び、線形、長さ20～30mm、幅2～3mm、先は鋭く触れると痛い。裏面には白色の気孔帯が2条ある。花期は4～5月、雌雄異株で、雄花は前年枝に多数つき、長楕円形で長さ約1cm。雌花は前年枝の先に数個つき、うち1個が翌年の10月に熟す。種子は倒卵状楕円形、長さ20～30mm、幅10～15mm、はじめ緑色、のち紫褐色になる仮種皮に包まれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区名古屋城（芹沢 78088, 2002-9-14, 剪定された枝を拾ったもの）に築城以前からあったと伝えられる古木が1株あり、国指定の天然記念物として保護されている。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には多いが、丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭と犬山に、現在も自生のものが生育している。

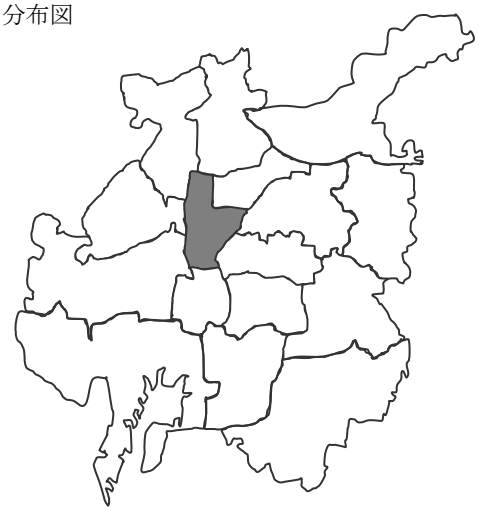
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州。南限は屋久島である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地の沢沿いなどに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

自生と伝えられているが、現在は庭園樹状態になっており、「野生絶滅」と判定する方が適切かもしれない。戦災で半分以上焼けたが、その後回復し、現在も樹勢は良好である。

【保全上の留意点】

天然記念物に指定されており、現在の管理を継続すればそれで十分である。

【特記事項】

名古屋城築城当時に現在の名古屋市域に生育していたが絶滅してしまった植物は、他にもたくさんあると思われる。本種は記録が残されているためレッドデータブックに掲載したが、もし記録がなければ、名古屋市の自生植物リストから除外されたはずである。

【関連文献】

保木Ⅱpp.452-453，平木Ⅰp.25.
愛知県教育委員会社会教育課．1968．天然記念物（植物）緊急調査報告 68pp．同委員会．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　ジュンサイ科＞

ジュンサイ　*Brasenia schreberi* J.F.Gmel.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。水のきれいなため池に生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。現存は確認できないが、再出現の可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類相当と評価した。

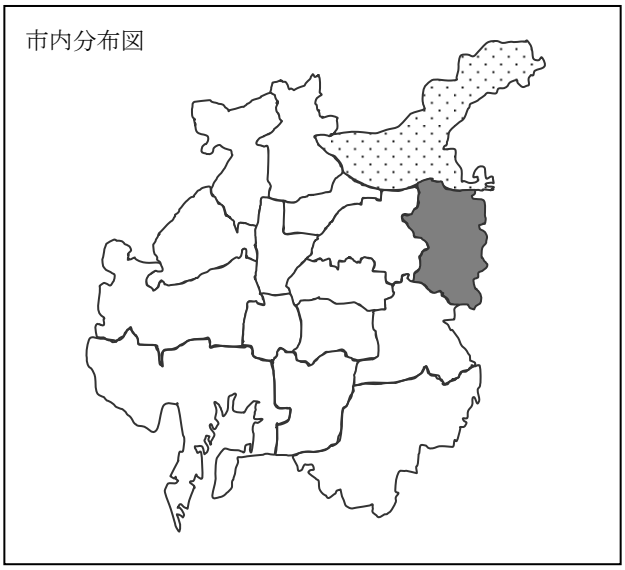
【形　態】

多年生の水草。根茎は底土中をはい、節から水中茎を伸ばす。浮葉は細長い葉柄の先に楯形につき、葉身は楕円形で長さ 5～15cm、幅 3～8cm、裏面は赤紫色がかる。若芽や葉柄、葉の裏側は粘液に被われる。花期は6～8月、花は葉腋から出た長い柄の先端につき、直径1.5cm、暗褐色。がく片と花弁は3枚ずつ2列に並び、ともに長楕円形、長さ12～14mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(上志段味東谷無名池, 鈴木　淳 311, 1993-8-22)、名東区（猪高緑地塚ノ圦池, 堀田時子 s.n., 2009-8-23, NBC467 など）に生育していた。



【県内の分布】

丘陵部のため池に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、春日井で確認されている。ただし、人為的に持ち込まれた場所も多いと思われ、どこまでが真の自然分布かはっきりしない。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

北アメリカからオーストラリア、アフリカにかけて広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

腐食栄養または貧～中栄養の湖沼やため池に生育する浮葉植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

名東区（猪高緑地塚ノ圦池)においては、2011 年に行われた改修工事に伴う水位の減少によって消滅し、2012 年以降は生育を確認できなくなった。ただし、埋土種子が残存していると思われるため、適切な撹乱によって再度出現する可能性が残されている。

【保全上の留意点】

生育地のため池の水質を維持する必要がある。また改修の際には一時退避させるなど慎重な配慮が必要であったと思われる。さらに水面を覆うように繁茂し本種を圧迫していたスイレンの継続的除去も必要である。

【特記事項】

若芽は吸い物の実や酢の物として賞味される。

【関連文献】

保草Ⅱpp.250-251，平草Ⅱp.93.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.108．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.37．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　スイレン科＞

オニバス　*Euryale ferox* Salisb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級3、集団数階級4、生育環境階級3、人為圧階級3、県内分布 4、総点 17。全国的にも減少傾向の著しい植物で、絶滅に瀕している水草の代表的な存在である。

【形　態】

1年生の水草。茎は塊状で葉を束生する。植物体全体に鋭い刺がある。ときには2mを超えるような大きな水上葉をつけるが、名古屋市に現存するものは30～40cm程度で、稀に70cm程になる。水上葉にはしわがあり、裏面は鮮やかな赤紫色で葉脈が棧状に隆起し、両面の脈上に鋭い刺がある。葉身は楯状の円形。花には水中で自家受粉して結実する閉鎖花と、水上に出て開花する開放花がある。花期は8～10月、花は直径4cmくらいで、長い花茎に頂生し、昼に開き、夜に閉じる。がく片は4枚、外側は緑色で刺があり、内側は紫色。花弁は紫色で多数。果実は鋭い刺のある楕円形で長さ5～13cm、幅5～10cm。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城外堀，中村　肇 172, 2012-11-13, NBC705, 芹沢 89695, 2014-9-29, 表紙写真など）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市以外では、大府東浦（飛山池）と田原東部（芦ヶ池）で採集された標本があるが、どちらの場所でも現存を確認できない。大府東浦では域外保全された個体に由来する種子の播種によって僅かに生育している場所がある。

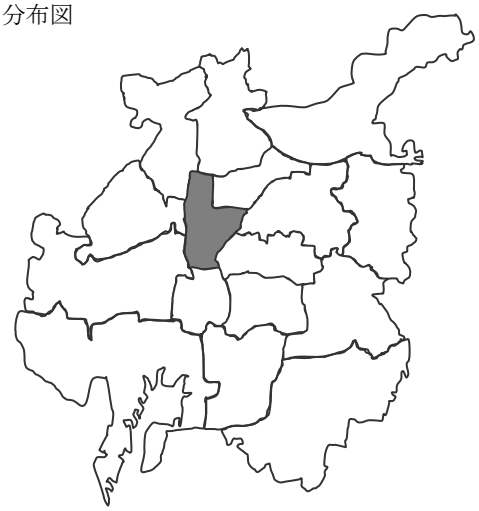
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドなど。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やや富栄養化した湖沼やため池、河川などに生育する浮葉植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

2012年に再確認され、名古屋城外堀北東部のヨシ帯付近で僅かに生育している。野鳥への給餌などによる水質汚濁、コブハクチョウやミシシッピアカミミガメ、コイなどによる食害が懸念される。

【保全上の留意点】

種子の休眠期間が長いことから、名古屋城外堀において適切な撹乱があれば、北東部以外の場所からも出現する可能性が残されている。生育地の水質を維持するとともに、改修の際には慎重な配慮が必要である。また、生育期には急激な水位変動を避けるべきである。

【特記事項】

とげだらけで、かつては駆除に苦労した水草であったらしい。

【関連文献】

保草Ⅱp.253，平草Ⅱp.95，環境庁 p.453，SOS 旧版 p.51+図版 20，愛知県 p.89.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.109．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.39．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　モクレン科＞

シデコブシ　*Magnolia stellata* (Sieb. et Zucc.) Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、補正+2（固有）、総点 16。本地域を代表する固有種であるが、名古屋市では生育地が少ない。

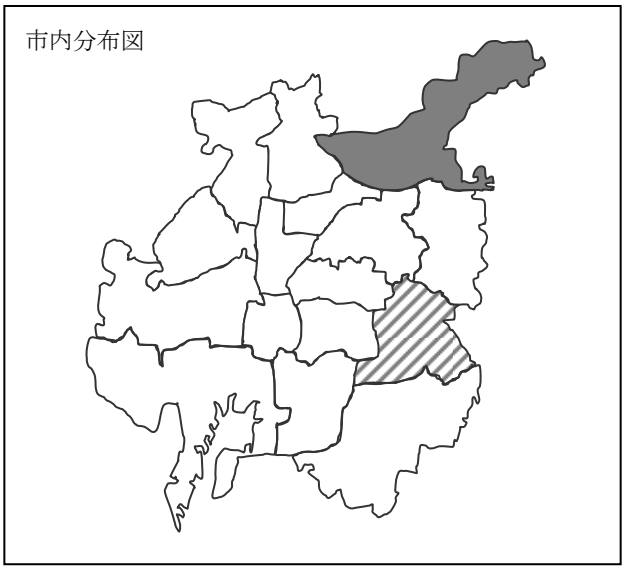
【形　態】

夏緑性の小高木または低木。高さは 5m くらいのものが多いが、時には 10m に達する。葉は互生し、長さ 2～5mm の柄があり、葉身は長楕円形または倒披針形、長さ 5～10cm、幅 1～3cm、先端は鈍頭または円頭、基部はくさび形、やや薄い紙質で表面は無毛、裏面は淡緑色で脈上に毛がある。花は 3～4 月に葉が展開する前に咲き、直径 7～10cm、花被片は 12～18 枚あってがくと花弁の区別はなく、淡紅色またはわずかに紅色を帯びた白色、縁は多少波をうつ。集合果は長さ 3～7cm になり、種子は赤色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，芹沢 74429, 1998-3-29; 吉根太鼓ケ根，芹沢 77330, 2001-5-20; 同長廻間，鳥居ちゑ子 2259, 2003-3-27; 大森御膳洞，芹沢 51063, 1989-4-4）に生育している。野外に植栽されたものは、天白区（天白町野並）など市内の他の場所でも見られる。



【県内の分布】

名古屋市以外では、豊橋南部、田原東部、田原西部、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎南部、幸田、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。ただし岡崎南部では絶滅し、幸田も幼木が 1 株あっただけでその後確認できない。半田武豊（武豊町二ツ峯湿地）にもあったというが、この湿地は知多半島道路拡幅に伴う土砂採取によって破壊された。

【国内の分布】

本州中部（愛知県、岐阜県美濃地方中・東部、三重県北部）。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湧水湿地やその周辺に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では東谷山北麓に比較的大きな集団があるほか、他に 3 ヶ所、少数個体が生育している場所があった。生育地は全体的に森林化が進行しており、後継樹が生育できる状況は失われている。現存個体も、このままではやがて被陰によって枯死するものと思われる。一方で土地造成も深刻な圧迫要因になっており、小集団のうち 1 ヶ所はこれにより絶滅した可能性が高い。

【保全上の留意点】

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。萌芽力の強い樹種であるため、ある程度の株数がある場所ならば、伐採に際して本種に特に配慮する必要はない。

【特記事項】

やや矮性で花の色が濃い系統は、「ヒメコブシ」の名で広く栽培される。

【関連文献】

保木Ⅱp.219，平木Ⅰp.106，環境庁 p.443，SOS 旧版 p.49+図版 16，SOS 新版 pp.94-97，愛知県 p.344.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　クスノキ科＞

ヒメクロモジ　*Lindera lancea* (Momiy.) H.Koyama

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。山地に行けば普通に見られる植物であるが、丘陵地では稀少である。名古屋市では生育地も個体数も少ない。最近の調査では現存を確認できなかったが、再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

落葉性の低木。高さ数 m になる。若枝は黄緑色で無毛。葉は互生し、長さ 0.4～1cm の柄があり、葉身は菱状長楕円形、長さ 6～10cm、幅 2～3cm、先端は鋭尖頭になる。葉裏は帯白色、若時絹毛が多く、毛は成葉でも残存する。花は 4 月に咲き、黄緑色で直径 6～7mm、3～5 個が散形につく。花柄は長さ 2～3mm で短く、花柄の毛は赤味を帯びることが多い。果実は球形、直径 5～6mm、秋に黒色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゐ子 1520, 1998-10-19）に生育していた。

【県内の分布】

山地には広く分布しているが、東三河では標高の低い場所には稀である。西三河や尾張ではクロモジよりずっと多く、また標高の低いところまで生育している。尾張では、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されている。

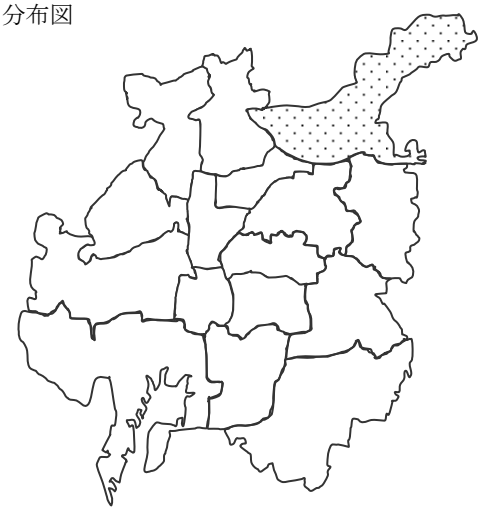
【国内の分布】

本州（静岡県～紀伊半島）、四国（東部）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる。クロモジと同じような場所に生育し、しばしば混生するが、西三河中西部の豊田旧市域、岡崎旧市域や尾張のクロモジ類はほとんどが本種である。

【現在の生育状況／減少の要因】

1998 年には二次林内に少数株が生育していた。林の状態は特に変化してはいないので、更に探索する必要がある。

【保全上の留意点】

種子は鳥によって散布されるので、そのうちに他の場所で再出現する可能性もある。

【特記事項】

クロモジに似ているが、花序が小さく（従って秋期の花芽も細い）、小花柄の毛は赤褐色を帯び、葉柄は短く、葉身先端部は鋭く尖り、葉裏はより白色を帯びて絹毛が多いことで区別できる。ただし、葉だけの標本では識別が難しいこともある。

【関連文献】

保木Ⅱpp.192-193，平木Ⅰp.119.
小山博滋．1987．クロモジ群の分類と分布．植物分類地理 38:161-175.
芹沢俊介．2009．クロモジとヒメクロモジ．くさなぎおごけ(3):8-10.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　クスノキ科＞

ダンコウバイ　*Lindera obtusiloba* Blume

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。山地性の樹木で、名古屋市では生育地も個体数もきわめて少ない。最近の調査では現存を確認できなかったが、再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

落葉性の低木。高さ数ｍになる。葉は互生し、長さ1.5～3cmの柄があり、葉身は広卵形、長さ7～15cm、幅5～13cm、通常浅く3裂し、裂片は鈍頭、基部は切形～浅い心形、裏面は帯白色で、はじめ淡黄褐色の長毛を密生する。花は葉が展開する前の3～4月に咲き、雌雄異株、花序は散形で小花柄は長さ12～15mm、花被片は黄色で長さ3mm程度である。果実は球形で直径約8mm、秋に赤～黒色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 2324, 2003-5-29）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には普通にみられる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井に生育している。

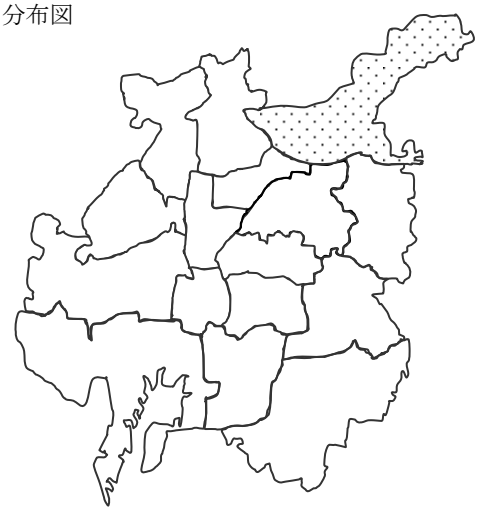
【国内の分布】

本州（関東地方および新潟県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹二次林の構成種である。

【現在の生育状況／減少の要因】

道沿いに残存した林に１株だけ生育していた。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな植物が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【関連文献】

保木Ⅱpp.189-190，平木Ⅰp.120.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　サトイモ科＞

スルガテンナンショウ　*Arisaema yamatense* (Nakai) Nakai subsp. *sugimotoi* (Nakai) H.Ohashi et J.Murata

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級3、人為圧階級3、県内分布1。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。現状は絶滅状態であるが、東谷山などには残存している可能性があるので、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は通常2個、第1葉の葉鞘は長さ20～50cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は7～17枚、葉軸はよく発達し、小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯牙状の細鋸歯がある。第2葉は通常小さく、特に柄部分は短いことが多い。花期は4～5月、仏焔苞は葉よりやや早く開き、葉とほぼ同じ高さにつき、通常緑色、まれに帯紫色、筒部は長さ4～7cm、口辺は狭く開出し、舷部は卵形、長さ6～11 cm先端は鋭尖頭、内面は微小な乳頭状突起を密生し、帯白色になる。花序は肉穂状、偽雌雄異株、付属体先端は通常急にふくらんで前屈し、幅5～7mmになるが、時には多少ふくらむだけの個体もある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，鳥居ちゑ子1053, 1996-5-4）、天白区（相生山緑地，渡邉幸子5018, 2002-4-6）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られるが、丘陵地では極めて少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、小牧、春日井に生育している。

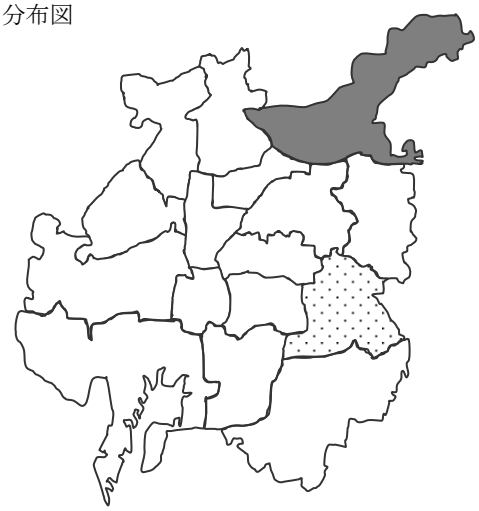
【国内の分布】

本州（静岡県、長野県南部、愛知県、岐阜県）。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では点在していたが、個体数は少なく、最近ほとんど見ていない。天白区では相生山緑地にごく少数の株が生育していたが、ここでも最近は見ていない。

【保全上の留意点】

相生山緑地は、周囲が市街地化された中で里山状態がよく保たれており、本種を含む多くの希少な植物が生育している。特に注意して保全していく必要がある。この場所では多くの市民団体が自然とのふれあい活動を楽しんでいるが、活動の際には「他の場所から植物を持ち込まない」という原則を厳守しなければならない。持ち込み行為があると、本種のような希少な植物が発見された場合でも、それが保全の対象かむしろ除去すべきものか、わからなくなってしまう。

【特記事項】

名古屋市内に生育するテンナンショウ類（ウラシマソウを除く）としては、唯一のものである。

【関連文献】

保草Ⅲpp.209-210，平草Ⅰp.135.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ヒナノシャクジョウ科＞

ヒナノシャクジョウ　*Burmannia championii* Thwaites

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 3。森林性の腐生植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。現存は確認できないが、再発見される可能性を考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

腐生の多年生草本。根茎は球状にふくらみ、多数のひげ根がある。茎は直立し、白色、高さ 3～8cm である。葉は互生し、鱗片状に退化し、披針形、長さ 2～4mm である。花期は 8～10 月、花は茎の先端に 2～10 個が頭状に集まってつき、白色で無柄、外花被片は筒状に合着して 3 稜形となり、長さ 6～10mm、裂片は三角形で長さ 1.5mm 程度、内花被片はへら形で小さい。果実は蒴果で倒卵円形、長さ 2.5mm 程度である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（山田果与乃 413，1998-8-30）で確認されている。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋北部、田原西武、豊田東部、岡崎南部、瀬戸尾張旭の 5 区画で採集されたことがある。

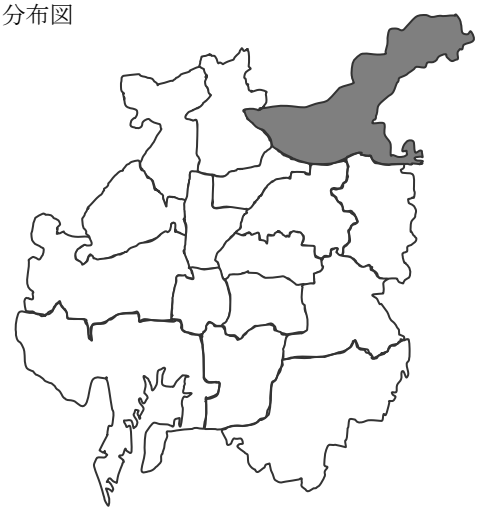
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸南部、マレーシア、インド、スリランカ。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林内の湿った場所の、落葉の間に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

2002 年は 5～6 株が生育していたが、2008 年には里山保全活動のために林床が踏み荒らされており、確認できなかった。その後も生育は確認できていない。

【保全上の留意点】

過去に生育が確認された場所やその周辺の森林を保全することが必要である。小型の植物で観察者やカメラマンが多く訪れるようになれば踏み荒らされる可能性が大きいため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要であるが、一方で情報を公表しないと、知らずに踏み荒らされるリスクも増大する。

【特記事項】

小型で見つけにくい植物なので、ていねいに調査すれば新産地が追加される可能性もある。調査時には、特に注意が必要である。同じ腐生植物であるホンゴウソウは名古屋市内ではまだ発見されていないが、最近県内で確認される例が増加しており、市内でも注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅲp.70，平草Ⅰp.63，SOS 旧版 p.97+図版 3，SOS 新版 p.74，愛知県 p.445.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ユリ科＞

ウバユリ　*Cardiocrinum cordatum* (Thunb.) Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。やや山地性の植物で、名古屋市では現存を確認できないが、再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と判断した。

【形　態】

多年生草本。地下に白色の鱗茎がある。若い個体は根出葉だけであるが、開花株では中空の茎が伸長し高さ 60～100cm になる。茎葉は茎の中部に数個が集まってつき、長い柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ 15～25cm、先端は鋭頭、基部は心形、網状脈がある。花期は 7～8 月、花は茎の先端に数個総状につき、横向きで長さ 12～17cm、先はあまり開かない。花被片は倒披針形で緑白色、内面に淡褐色の斑点がある。蒴果は楕円形、長さ 4～5cm、種子は扁平で膜があり、長さ 10～13mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（翠松園, 標本なし）と天白区（牧野ヶ池緑地, 渡邊幸子 4799, 2001-7-30）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多い。尾張ではやや少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、知多南部、犬山、春日井などで確認されている。

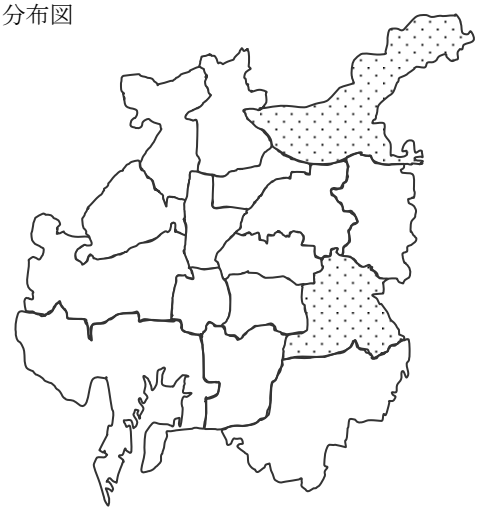
【国内の分布】

本州（宮城県・石川県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。変種のオオウバユリは全体に大型で、花はやや小さく多数つき、千島列島南部、サハリンから東北日本にかけて分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の平坦な林床に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では丘陵地の中に建てられた人家のわきに小群落があったが、毎年開花する前に草刈りされ、標本を採取できなかった。天白区では牧野ヶ池緑地の中に 1 株生育していた。どちらの場所も近年見られなくなったらしいが、まだどこかに残存している可能性はある。

【保全上の留意点】

生育地の地形と林を保全することが必要である。

【特記事項】

和名は姥百合で、花期に葉が枯れてなくなるのを「歯がない」にかけたからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.126, 平草Ⅰp.39.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ユリ科＞

カタクリ　*Erythronium japonicum* Decne.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 16. 代表的な早春植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

多年生草本. 地下に筒状長卵形で長さ 5～6cm の鱗茎がある。花茎は高さ 10～20cm、葉はその下部に通常 2 個つき、長い柄があり、葉身は長楕円形または狭い卵形、長さ 6～12cm、先は鋭頭で鈍端、基部はくさび形で葉柄に流れ、全縁で両面無毛、黄緑色で暗紫色の斑紋がある。花期は 3 月末～4 月、花は花茎の先端に斜め下向きに 1 個つき、日中開花し、花被片は 6 枚、披針形で長さ 4～5cm、紅紫色で基部近くにW字状の濃紫色の斑紋がある。蒴果は3稜形、長さ 12～15mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 842, 1995-4-30）に生育している。

【県内の分布】

愛知県では生育地の限られた植物で、名古屋市のほか、豊根西部、東栄、設楽東部、設楽西部、鳳来北東部、新城、豊橋北部、旭、足助、藤岡、豊田北西部、瀬戸尾張旭、犬山で確認されている。

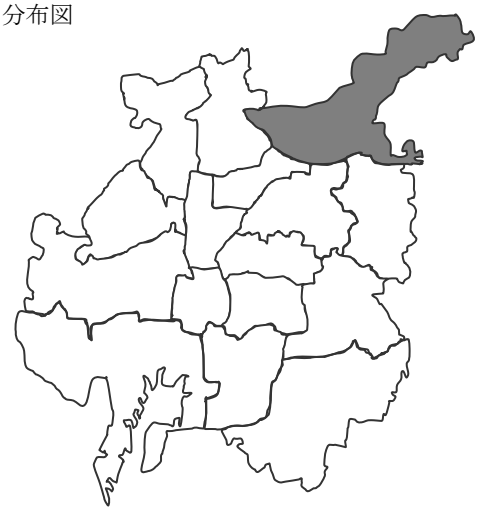
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布するが、四国や九州では少ない。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

本来は山地や丘陵地の落葉広葉樹林内に生育するが、里草地に生育することも造林地の林縁などに残存していることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では小群落があるだけで、個体数も極めて少なく、2014 年は 3 個体開花していただけである。未開花個体も少ない。園芸目的で採取されれば、容易に絶滅してしまう。採取されなくても訪れる人が多くなれば、踏み荒らし等の攪乱が懸念される。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱を防止するため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、古名の「かたかご」から「かたこゆり」、さらに「かたくり」に転じたとされる。古くは鱗茎からでん粉（かたくり粉）を採取した。

【関連文献】

保草Ⅲpp.117-118, 平草Ⅰp.37.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ユリ科＞

ヤマユリ　*Lilium auratum* Lindl.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1。白色の大きい花をつけるユリで、名古屋市を含む尾張では生育地も個体数も極めて少ない。評価点の合計は 15 であるが、尾張で希少であることを考慮し、絶滅危惧ⅠA類と判定する。

【形　態】

多年生草本。地下に扁球形で直径 6～10cm の鱗茎がある。茎は直立することも崖などから斜めに垂れることもあり、長さ 1m 以上になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は披針形、長さ 12～18cm、先端は鋭尖頭である。花期は 7～8 月、花は茎の先端に 1～15 個が横向きにつき、広杯形、花被片は 6 枚、外片は広披針形、内片は楕円形で長さ 10～18cm、先端は反りかえり、白色で中央に黄色条、そのまわりに赤褐色の斑点があり、基部内面に突起がある。蒴果は長楕円形、長さ 5～8cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（芹沢 82951, 2008-7-16）に生育している。

【県内の分布】

東三河とそれに接する西三河の一部に分布している。尾張では名古屋市のほか、犬山に少数が生育している。

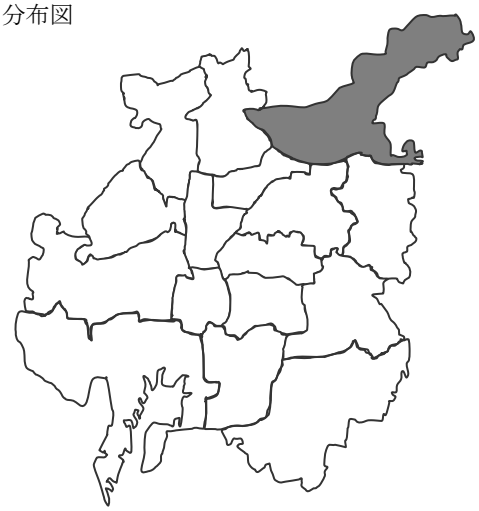
【国内の分布】

本州（東北地方～近畿地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。崖地に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

もともとは隣接した 3 地点に 10 数株生育していたらしいが、1 地点は盗掘されてなくなり、1 地点はササに被陰されて幼株がわずかに残る状態であった。残りの 1 地点では、2008 年には花を 1 個だけつけた高さ 80cm くらいの個体が少数確認できた。未開花の幼株もあった。生育地はすぐ近くまで開発が進んでおり、いつ破壊されるかわからない状態であるが、その一方で詳細な場所を公表すれば、園芸目的の採取により瞬時にして消滅する可能性が高い。

【保全上の留意点】

何はともあれ、生育地の丘陵の地形を保全することが必要である。園芸目的の採取については、基本的には公共の資産である自然物を個人の庭に取り込もうという山草愛好家のモラルが問題である。周囲の市民が山草栽培に厳しい目を向け、「自然の植物は自然の中で」というルールを徹底させていくことが必要である。

【特記事項】

尾張や西三河西部では自生地がほとんどないが、生育地の状況からは逸出とは考えにくい。尾張に隣接する岐阜県側にも見られるので、本来の自生と考えてよいと思われる。上述したように、詳細な分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲpp.130-131，平草Ⅰp.40.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ユリ科＞

コオニユリ　*Lilium leichtlinii* Hook.f. var. *maximowiczii* (Regel) Baker

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1。草地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。現存は確認できないが、幼株が残存している可能性を考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

多年生草本。地下にほぼ球形の鱗茎がある。茎は直立し、分枝せず、高さ 70～150cm になる。葉は多数つき、無柄、葉身は線状披針形、長さ 8～14cm、幅 5～12mm、先端は鋭頭～鋭尖頭、はじめは少し白綿毛があるが、後に両面無毛となる。花期は7～8月、花は茎の先端に2～10個が斜め下を向いてにつき、花被片は6枚、橙赤色で濃色の斑点ががあり、被針形、長さ6～8cm、強く反りかえる。蒴果は楕円形、長さ約 3cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 1997, 2001-7-26）に生育していた。最近確認できないが、生育環境は残されている。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在するが、尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭、東海知多、常滑、春日井などで確認されているにすぎない。このうち知多半島の 2 区画では愛知用水わきの草地に生育していたが、改修によりほとんど絶滅状態である。

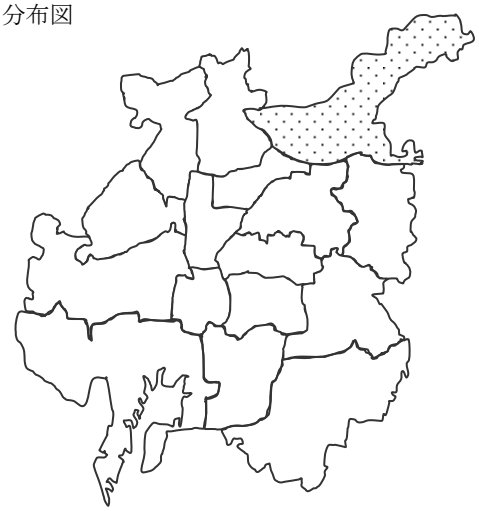
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよいやや湿った草地に生育する。岩場に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

もともと個体数は少なく、しかも開花した次の年にはたいていなくなってしまう。草地の縮小も圧迫要因であるが、当面はそれよりも園芸目的の採取が問題である。

【保全上の留意点】

基本的には、公共の資産である自然物を個人の庭に取り込もうという山草愛好家のモラルが問題である。周囲の市民が山草栽培に厳しい目を向け、「自然の植物は自然の中で」というルールを徹底させていくことが必要である。

【特記事項】

園芸目的の採取を防止するため、詳細な分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。オニユリ *L. lancifolium* Thunb.もしばしば逸出して野生化しているが、それからは花がやや小型で、葉腋にむかごが付かないことで区別できる。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 9 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.226，平草Ⅰp.41.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

ギンラン　*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。明るい林内に生育する植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。しかしまだ残存しているという情報があるので、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 10～30cm になる。葉は 3～6 個が互生し、長楕円形、長さ 3～8cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は 5～6 月、花は茎の上部に数個つき、白色、苞は下位の 1～2 個はしばしば葉状になるが、他は小さい。がく片は披針形、長さ 7～9mm、先端はややとがり、側花弁は広披針形で鈍頭、がく片よりやや短い。唇弁の基部は短い距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は三角形、中裂片は楕円形で内面に数本の隆起条がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地，鳥居ちゑ子 1063, 1996-5-12）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地から山地に生育するが、稀である。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と犬山で確認されている。

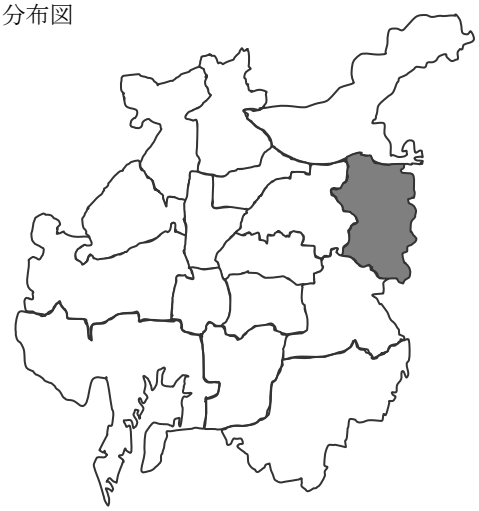
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は落葉広葉樹の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

狭い範囲であるが、20 株程度がまとまって生育していた。毎年見られたが、周囲の樹木が伐採されて乾燥したためか、この場所では最近は出現しなくなった。

【保全上の留意点】

散発的に出現する種類なので、まだどこかに残存している可能性は高い。更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

葉の小さいユウシュンラン var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi は、名古屋市ではまだ確認されていない。

【関連文献】

保草Ⅲp.30，平草Ⅰpp.207-208.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

キンラン　*Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 16。明るい林内に生育する植物で、全国的にも名古屋市でも園芸目的で採取されることが多く、減少傾向が著しい。

【形　態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30～70cm になる。葉は 6～8 個が互生し、広披針形、長さ 8～15cm、幅2～4cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は4～6月、花は茎の上部に3～12個つき、黄色、苞は三角形で長さ約2mm、膜質である。がく片は卵状長楕円形、長さ 14～17mm、先端は鈍頭、側花弁は長卵形で、がく片よりやや短い。唇弁の基部はふくらんで短い距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は三角状卵形でずい柱を抱き、中裂片は円心形で内面に数本の隆起条がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（中島ひろみ 913, 2008-5-6）にごく稀に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、津具、東栄、鳳来北東部、鳳来南部、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、田原東部、下山、小原、藤岡、豊田東部、岡崎北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、犬山、春日井で生育が確認されている。稲武、豊橋南部、足助、豊田北西部で採集された標本もある。

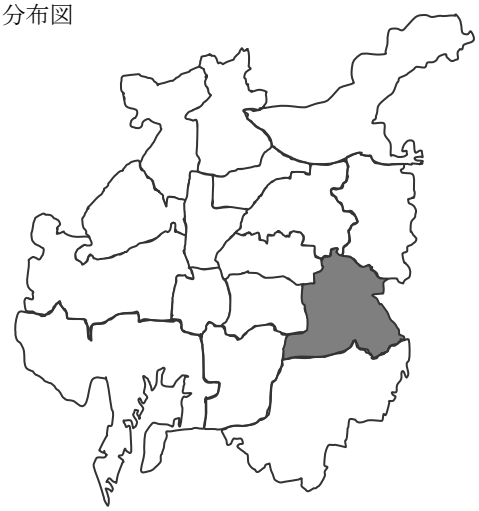
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～山地の明るい落葉広葉樹林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市で現存が確認できるのは数株だけである。かつては市内の丘陵地二次林内に点在していたはずであるが、遷移の進行や開発に加えて花が黄色で目立つため採取され、激減したと思われる。愛知県全体ではまだかなりの区画に生育しているが、どの区画でも偶然行き当たるという程度の頻度で残存しているにすぎない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種の場合は、好事家の意図的な採取よりもむしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きい。自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んではならないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.29，平草Ⅰp.207，環境庁 p.612，SOS 新版 p.78，愛知県 p.621.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

シュスラン　*Goodyera velutina* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 3、総点 17。愛知県では生育地が少なく、また園芸目的の採取により減少している植物で、名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は横にはい、先端は斜上して高さ 10～15cm になる。葉は数個が互生し、長さ 1～1.5cm の柄があり、葉身は長卵形、長さ 2～4cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭、表面は紫色を帯びた暗緑色でビロード状の光沢があり、中央の白条が目立つ。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 8～9 月、花は茎の上部に一方に偏って 4～10 個つき、淡褐色、苞は線状披針形、長さ 6～12mm である。がく片は狭卵形、長さ 7～8mm、花序の軸や子房と共に白色の短毛がある。側花弁は広倒披針形、背がく片に接してかぶと状になり、唇弁はがく片とほぼ同長、基部はふくらみ、舷部は卵形で全縁、内面に毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（村松正雄 24890, 2009-9-20）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、蒲郡、幸田、西尾南部の 4 区画で確認されている。尾張では瀬戸尾張旭（上半田川町，日比野修 814, 1992-9-14）にもあったがここでは絶滅し、名古屋市は現存が確認できる唯一の自生地である。

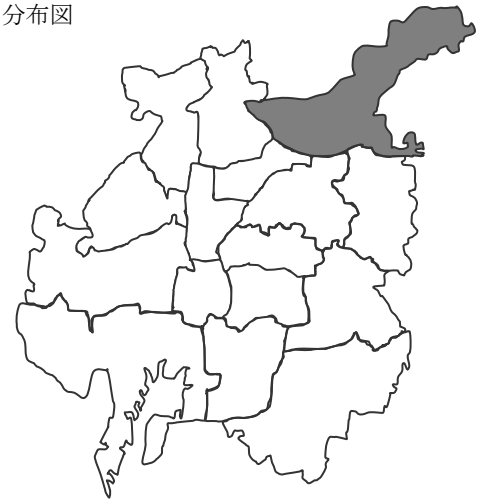
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は低山地の常緑広葉樹林内に生育する。名古屋市の生育地は湿地に形成された二次林である。

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落があり、2009 年は 10 株程度が開花したが、2010 年は減少して開花株も僅かであった。瀬戸市では 2 ヶ所にあったが、山草愛好家に持ち去られたらしく、現在では全く見られなくなった。

【保全上の留意点】

開発により失われるおそれがあるが、その一方で園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

2004 年版以後の調査により、名古屋市内に生育していることが確認された。和名は、光沢のある葉の感じを繻子に例えたものである。

【関連文献】

保草Ⅲp.40，平草Ⅰp.213，愛知県 p.490.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

オオミヤマウズラ　*Goodyera* sp.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 2、補正+1（準固有）、総点 18。愛知県の湧水湿地を中心に分布する未記載のラン科植物。かつては比較的多い場所もあったが、近年激減している。名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。

【形　態】

常緑性の多年生草本。茎は横にはい、先端は直立して高さ 25～40cm になる。葉は直立部の基部に数個が互生し、長さ 0.5～1.2cm の柄があり、葉身は長卵形～楕円形、大きいもので長さ 4～6.5cm、幅 2～2.5cm、先端は鋭頭、表面は全体緑色のことが多いが白斑が入ることもある。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 9 月、花は茎の上部に 0.7～2cm の間隔で 8～14 個つき、白色で平開せず、花被片は長さ 10～13mm、苞は広披針形で長さ 6～17mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（芹沢 83258, 2008-9-13）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、田原西部、旭、豊田北西部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、小牧、春日井の 8 区画で生育が確認されている。

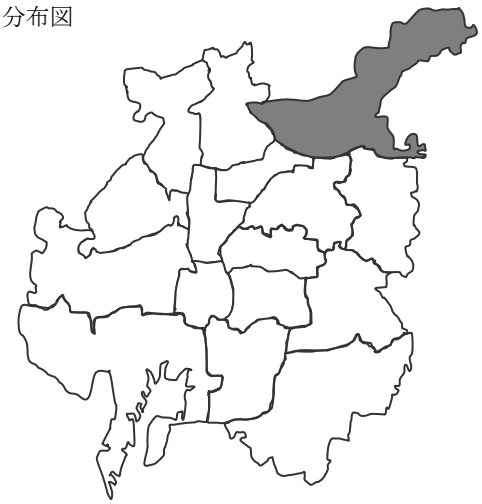
【国内の分布】

本州（関東地方南部～紀伊半島）、九州。四国にも分布していると思われる。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県では、丘陵地の湧水湿地周辺に成立する湿地林内に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

1 ヶ所に少数個体が生育している。この場所に限れば増減傾向ははっきりしないが、愛知県全体としては近年激減してどこも僅かに残存しているという状態になってしまった。環境がほとんど変化していない場所でも減少していることから原因としては園芸目的の採取が疑われるが、確証はない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ミヤマウズラに似ているが、全体に大型、葉は白斑が入らないことが多く、花は大きくて平開せず、互いにやや離れてつき、花期も半月以上遅い。瀬戸市の一部ではミヤマウズラと混生しているが、形態的な差違は明瞭で中間型は出現しない。山草愛好家の間では、「ガクナン」と呼ばれている。

【関連文献】

愛知県 p.490.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ススキノキ科＞

キスゲ　*Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Hotta

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 16. 草地性の植物で、名古屋市では生育できる環境が激減している。

【形　態】

多年生草本。根は多数束生するが、ふくらまない。葉は 2 列に束生し、線形、長さ 40～60cm になる。花期は 7～9 月、花茎は高さ 100～150cm になり、上部に披針形で 2～5cm の苞をつけ、花序の枝は長い。花は夜咲きでわずかに芳香があり、淡黄色、花柄は長さ 2～15mm、花筒は長さ 2.5～3cm、花被片は 6 枚で長さ 6.5～7.5cm である。蒴果は広楕円形、長さ約 2cm、中に黒色の種子がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（保呂町天白川堤, 渡邉幸子 1190, 1993-7-31, NBC760）に生育している。緑区（鳴海町諸ノ木, 芹沢 77629, 2001-9-17）にも生育していた。

【県内の分布】

低山地から丘陵地にかけて点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、半田武豊、岩倉西春日井で確認されている。

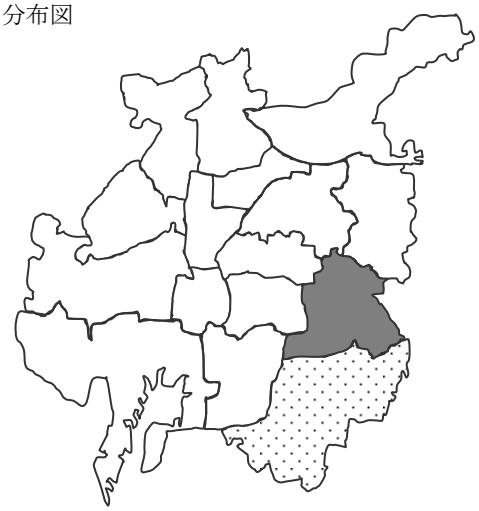
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。基準変種は中国大陸に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや乾いた日当たりのよい草地に生育する。尾張では主として河川の堤防や幹線水路わきの草地に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では 2014 年現在数株が残存しているが、将来の存続はかなり危うい。花が目立つため、園芸目的の採取も懸念される。緑区では土手の改修により絶滅した。

【保全上の留意点】

幹線用水路わきや河川堤防の草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の生育地になっている。改修にあたってはこれらの植物の生育場所を奪わないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

花が夕方開花し翌朝閉じることから、ユウスゲとも呼ばれる。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧ⅠB類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp.140, 平草Ⅰp.30.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ススキノキ科＞

ノカンゾウ　*Hemerocallis fulva* L. var. *longituba* (Miq.) Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。湿性の草地に生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。現存を確認できないが、開花しない個体が残存している可能性を考慮し絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

多年生草本。根は多数束生し、一部が紡錘状にふくらむ。葉は 2 列に束生し、線形、長さ 30～65cm、幅は変異が著しく、3mm 程度のものから 15mm に達するものまである。花期は 6～8 月、花茎は高さ 20～90cm、小型の個体は先端に 1 個の花をつけるだけであるが、大型の個体は花序が 2 分し、10 個以上の花を順次咲かせる。花は昼咲きで芳香はなく、橙色～暗赤色、花柄は長さ 3～5mm、花筒は長さ 2～3.5cm、花被片は 6 枚で長さ 6～8cm である。通常結実しない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（小幡緑地, 芹沢 56215, 1990-8-8）、千種区（東山, 犬飼　清 s.n., 1959-6-10）、天白区（八事裏山, 西川勇夫 190, 1992-7-20）、緑区（鳴海町神の倉, 渡邉幸子 2692, 1996-9-16）で採集された標本がある。

【県内の分布】

山地に点在している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、犬山、春日井に生育している。

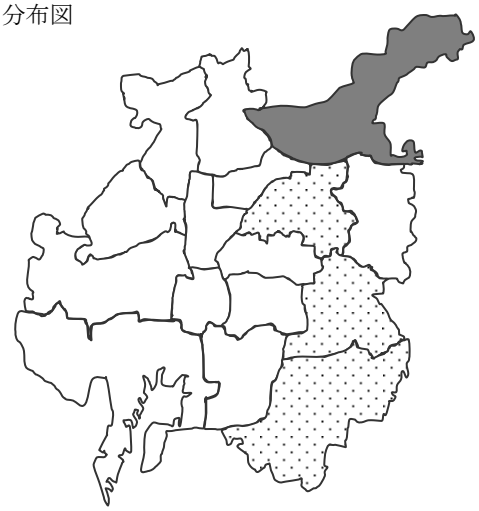
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや湿った草地に生育する。愛知県では、しばしば湧水湿地周辺部に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

最近はどの場所でも見ていないが、被陰されて開花しない個体がどこかに残存している可能性がある。緑区では神ノ倉の水田の畔に生育していたが、埋め立てられて絶滅した。

【保全上の留意点】

湿地周辺の森林を伐採し、ひらけた状態を維持することが必要である。

【特記事項】

花が濃赤色のものは、ベニカンゾウと呼ばれることがある。愛知県の湿地にはこの型が多い。2014 年のレッドリリスト案では絶滅危惧ⅠB類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp.141，平草Ⅰp.31.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ガマ科＞

ミクリ　*Sparganium erectum* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 4、総点 17。低地性のやや大型の水草で、愛知県では 3 ヶ所に生育しているだけである。名古屋市の群落は 3 ヶ所の中で最大であるが、開発が迫っている。

【形　態】

多年生の水草。地中を横にはう根茎がある。茎は立ち、高さ 60～150cm になる。葉は 2 列に互生して立ち、線形、長さ 50～120cm、幅 7～20mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があって断面は三角形になり、下部は葉鞘となる。花期は 6～8 月、雌雄同株、茎の上部の葉腋から枝を出し花序となる。各枝の下側に 1～3 個の雌性頭花、上側に多数の雄性頭花をつける。雌性頭花は無柄、球形、果期に直径 2～3cm になり、果実は紡錘形、長さ 6～9mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流，芹沢 82963, 2008-7-16）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊明東郷と春日井に各 1 ヶ所生育している。

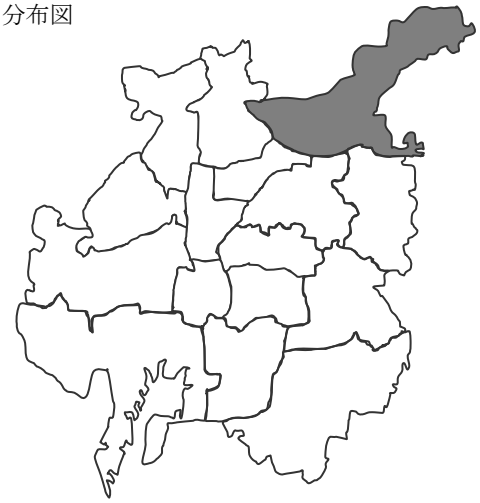
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼や河川、水路などに生育する抽水植物で、流水域では沈水形となることもある。名古屋市の生育地は水路である。豊明東郷（豊明）はため池、春日井は小河川に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山高校わきに大きな群落があるほか、2～3 ヶ所に小群落がある。守山高校わきの群落は 10 年前には確認できなかったもので、近年に限れば増加傾向にあると思われるが、開発や水質汚濁により失われるおそれも大きい。

【保全上の留意点】

周辺の地形を含め、生育地全体を保全することが必要である。

【特記事項】

2004 年版以後の調査により、名古屋市内に生育していることが確認された。才井戸流はミクリのほかヤマトミクリ、ナガエミクリも生育しており、愛知県内で最もミクリ類の多様性に富む場所である。和名は、果序の形状がクリに似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.419，平草Ⅰp.142，愛知県 p.465.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.77．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.50．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ケタガネソウ　*Carex ciliato-marginata* Nakai

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。名古屋市では現存が確認できないが、まだどこかに残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

多年生草本。匍匐枝を出し、やや密な群落を作る。茎は高さ 5～12cm、まばらに軟毛があり、基部の葉鞘は淡褐色である。葉は披針形、幅は 1～2cm、3 脈が目立ち、両面と辺縁に軟毛がある。果期は 4～5 月、小穂は 3～5 個、頂小穂は雄性で卵形、長さ 5～10mm、側小穂は雌性で、頂部に少数の雄花をつけ、卵球形で長さ 4～8mm である。苞はふくらんだ鞘となり、長さ約 5mm である。果胞は楕円状倒卵形、長さ 3.5mm、緑色で短毛があり、嘴はごく短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味森林公園，芹沢 77220, 2001-4-28; 中志段味吉田洞，鳥居ちゑ子 2331, 2003-6-13）に生育していた。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧で確認されている。

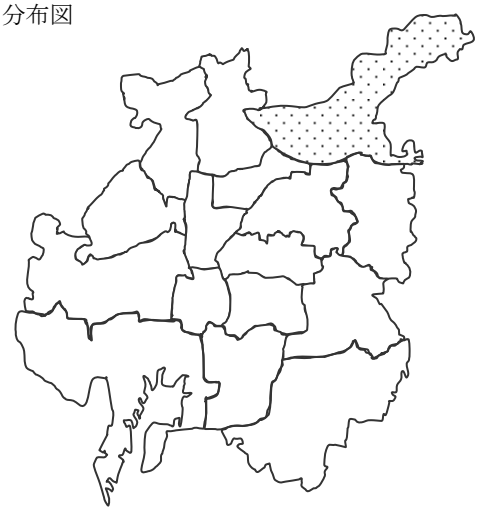
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の明るい林内や林縁、やや乾いた草地などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

上志段味の道路に接した二次林の林縁に小群落があったが、道路の拡幅によって失われた。中志段味の林内にも小群落があったが、ここも現存を確認できない。

【保全上の留意点】

本種のような目立たない植物は、工事などの際に無視されてしまうことが多い。特に注意が必要である。

【特記事項】

葉は幅広く、タガネソウとともに、他のスゲ類とは著しく異なっている。

【関連文献】

保草Ⅲpp.294-295，平草Ⅰp.154.
吉川純幹．1958．日本スゲ属植物図譜 2:202-203．北陸の植物の会，金沢．
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.149．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ウマスゲ　*Carex idzuroei* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 2、総点 16。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、小さい株を作る。茎は高さ 40～60cm、基部の葉鞘は淡褐色で、一部が暗赤紫色となり、後に多少繊維状に分解する。葉は細い線形、幅 4～8mm である。果期は 5～6 月、小穂は 4～5 個でやや離れてつき、上部の 1～2 個は雄性、線形で長さ 2～4cm、下部の 2～3 個は雌性、長楕円形で長さ 2～3cm、緑色、下部の雌性小穂には短柄がある。雌鱗片は卵形で、長さ約 5mm。果胞は狭卵形、長さ約 10mm、長い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

中川区（戸田西三丁目，永田晴美 922, 2000-6-8）、港区（藤前五丁目，高木順夫 10148, 2002-4-27）に生育している。

【県内の分布】

平野部に生育しており、名古屋市のほか豊川、豊橋北部、安城、知多南部、犬山、岩倉西春日井、稲沢、あま大治、海部西部の 9 区画で確認されている。

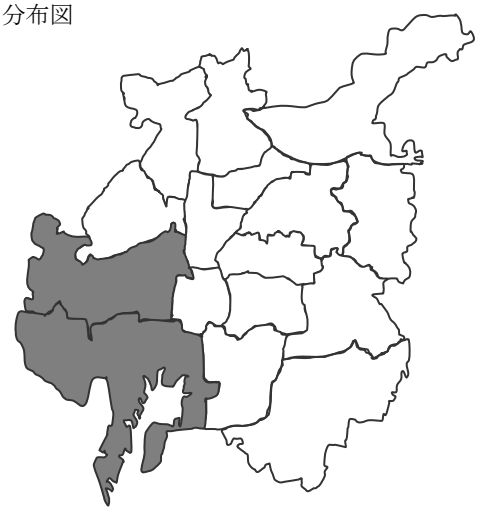
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸中部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の低湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

中川区は小群落があったが、最近の状況は確認されていない。港区では日光川河口近くに大きな群落があったが、ヨシが繁茂して被陰され、僅かに残存するにすぎない。

【保全上の留意点】

河川敷やその周辺に残存する低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修に際しては、その状態が失われないよう、十分配慮する必要がある。

【特記事項】

果胞が大形で、この点で他種から容易に識別できる。

【関連文献】

保草Ⅲp.297，平草Ⅰp.150.
吉川純幹．1958．日本スゲ属植物図譜 2:250-251．北陸の植物の会，金沢．
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.326．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ニシノホンモンジスゲ　*Carex stenostachys* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県内分布 3、総点 17。西日本系の植物で、愛知県は分布域の太平洋側の東限にあたる。名古屋市では生育地がきわめて少ない。

【形　態】

多年生草本。匍匐枝はなく、大きい株を作る。茎は高さ 30～50cm、3 稜があり、基部の葉鞘は栗褐色～黒褐色で硬く、やや繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2～3mm である。果期は 4～5 月、小穂は 3～4 個、最下のものはやや離れてつき、頂小穂は雄性、線形で長さ 2～3cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 1.5～2cm、直径約 3mm、柄は葉鞘中にあるか、伸びても短い。苞は小さい葉状または刺状で、長さ 8～20mm の鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ約 3mm、短毛があり、先端の嘴はやや短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（大森八竜，鳥居ちゑ子 1595, 1999-5-26）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、藤岡、犬山、春日井の 3 区画で確認されている。

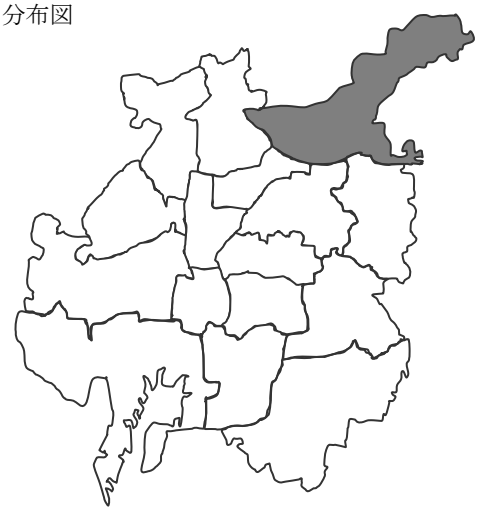
【国内の分布】

本州（中部地方以西）に分布する。北陸地方西部や近畿地方に多い。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地～低山地の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

二次林の林縁部に生育しているが、市民グループの除草作業により、極めて危機的な状況である。

【保全上の留意点】

「きれいな花」ばかりをかわいがる自称保全活動は、悪意はないと思うけれども、往々にして生物多様性に対する深刻な脅威となる。保全活動を行う際には、生物多様性全般に対する目配りが必要である。

【特記事項】

鈴鹿山脈まで行けば最も普通に見られるスゲ類の一つである。

【関連文献】

保草Ⅲp.271，平草Ⅰp.159.
吉川純幹．1958．日本スゲ属植物図譜 2:154-155．北陸の植物の会，金沢．
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.212．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ヒメアオガヤツリ　*Cyperus extremiorientalis* Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 4、総点 18. 湿地性の植物で、愛知県では名古屋市が唯一の自生地である。名古屋市でも生育地はきわめて少ない。

【形　態】

1 年生草本。茎は束生し、高さ 3～5cm、基部は赤紫色を帯びる。葉は茎の下部につき、幅 1mm 程度である。花期は 9～10 月、花序は茎の先端につき、頭状で球形～広卵形、長さ幅ともに 7～10mm、苞は数個あって葉状、長さ 3～6cm である。小穂は淡緑色、披針形～広披針形、長さ 3～5mm、やや扁平で、鱗片は 2 列につく。果実は長楕円形、縁は鋭形であるが翼はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地, 芹沢 78213, 2002-10-4）に生育している。

【県内の分布】

県内では現在のところ名古屋市で確認されているだけである。

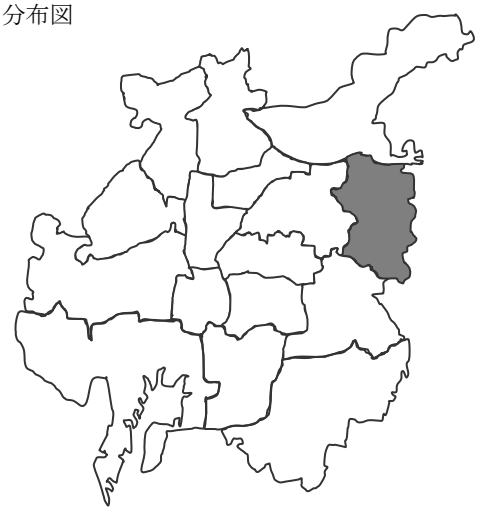
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

干上がったため池の岸に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

2002 年には少数株が干上がった底土上に散在していた。その後も時折注意しているが、水が引かず確認できない年も多い。

【保全上の留意点】

緑地公園内のため池なので、池自体は当面は現状通り残されると思われる。時折水を落とすなど、ため池の適切な管理を継続することが必要である。

【特記事項】

シロガヤツリ *C. pacificus* (Ohwi) Ohwi に似るが、小穂の鱗片は基部まで 2 列につく。

【関連文献】

保草Ⅲp.245，平草Ⅰp.184，愛知県 p.288.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

セイタカハリイ　*Eleocharis attenuata* (Franch. et Sav.) Palla

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 3。湿地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。現存は確認できないが、どこかに残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

1 年生または多年生の草本。明らかな匍匐枝はない。茎は束生して株をつくり、細い円柱形、高さ 30～50cm、直径約 0.7mm、葉は茎の基部について葉鞘のみに退化し、赤褐色である。花期は 7～10 月、小穂は茎の先端に 1 個つき、長卵形～卵形、長さ 7～10mm、直径 3～4mm、淡褐色、鱗片は広卵形、長さ約 2.5mm、先端は鈍頭、全体に薄質で淡色である。果実は倒卵形、3 稜があり、淡茶色に熟する。刺針状花被片は 6 個、果実よりわずかに長く、逆向きの小刺がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（久方三丁目，渡邉幸子　4553, 2000-10-9）で採集されたことがある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、新城、豊橋北部、田原、小牧、海部西部の 5 区画で確認されている。

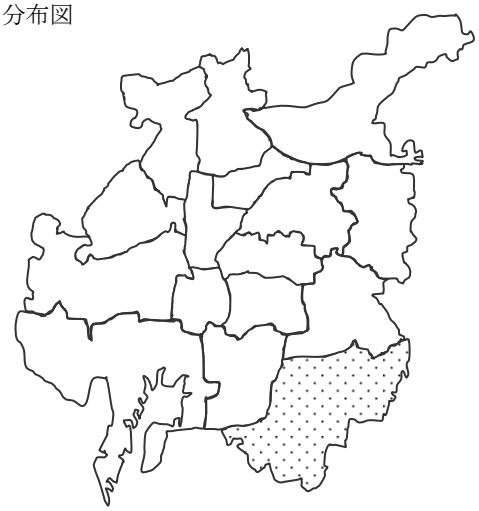
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ニューギニア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸などの湿地に生育する。愛知県では、谷戸田の畔、河川堤防の湿った場所などに生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

意識して採集されたものではなく、その後も確認できないため、詳細は不明である。開発により減少して、現在の状態に至ったものと思われる。愛知県全体でも、生育地はいずれも人の手が入りやすい場所で、開発等により消滅する危険性が高い。

【保全上の留意点】

おそらくはあちこちで出現と消失をくり返しているものと思われる。湿地的環境の全体的な保全が必要である。

【特記事項】

幅広い卵形の小穂が特徴である。

【関連文献】

保草Ⅲp.227，平草Ⅰp.172，愛知県 p.476.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

トネテンツキ　*Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) T.Koyama

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県内分布 3、総点 16。全国的に稀少な低湿地性植物で、名古屋市でも生育地が極めて少ない。

【形　態】

1 年生草本。茎は細く、束生し、やや扁平で、長さ 7～30cm になる。葉は叢生し、線形、幅約 2.5mm である。花期は 8～10 月、花序は複散形状で、枝は長さ 2～3.5cm、苞は葉状で 2～3 個つき、花序より短い。小穂は単生し、長楕円状卵形、長さ 3～5mm、直径約 2.5mm、黄褐色～赤褐色、鱗片は卵状披針形、長さ 1.5～2mm、先端は短くとがる。果実は短い円柱形で長さ約 1mm、花柱は宿存性で花後伸長して鱗片より長くなり、そのため小穂は毛に包まれたように見える。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味安田池, 高木順夫 22133, 2013-8-23, NBC725）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、半田武豊、犬山、春日井で確認されている。

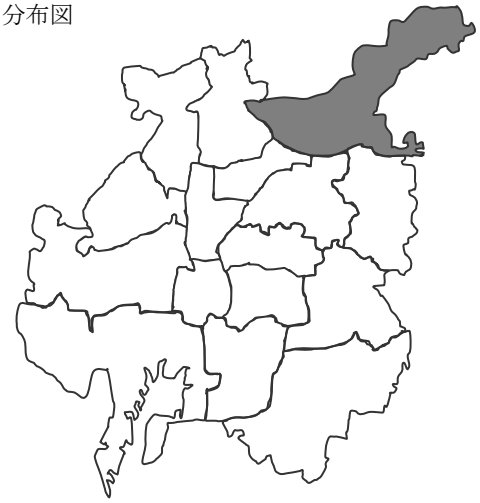
【国内の分布】

本州（関東地方～近畿地方）にまれに生育する。

【世界の分布】

日本固有。基準変種のハタケテンツキは花後花柱が伸長しないもので、本州（栃木県）、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

干上がったため池の岸などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

1 ヶ所のため池で確認されている。個体数は年による変動が大きく、水が引かない年には全く出現しないこともあると思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。現在本種が確認されているため池は、他の植物も多く確認されており、水辺地形や水質を注意して保全する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅲp.232，平草Ⅰp.174，SOS 旧版 p.107，環境庁 p.605，SOS 新版 pp.119,120，愛知県 p.479.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

ヒメタイヌビエ　*Echinochloa crus-galli* (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 4、総点 16。雑草的な植物であるが、愛知県でも名古屋市でも極めて稀少である。

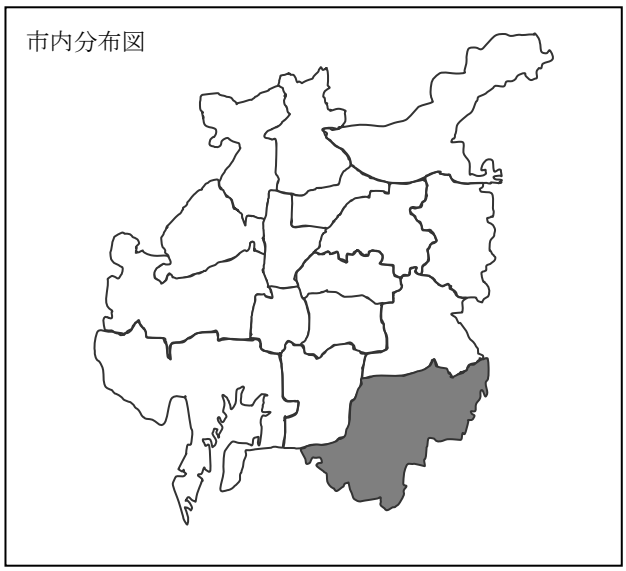
【形　態】

あまり大きい株にならない 1 年生草本。稈は直立し、高さ 50～60cm になる。葉身は斜上し、線形、長さ 8～15cm、幅 5～7mm、先端は鋭尖頭、鮮緑色で縁に狭い白色部がある。花期は愛知県では 10 月、花序は長さ 5～7cm、幅 1～3cm、枝は 3～5 本で、密に小穂をつける。小穂は淡緑色、卵形で長さ 2～3mm、芒はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（大高緑地公園，芹沢 89062, 2013-10-16）に生育している。天白区（八幡山）にもそれらしいものがあるが、小穂がかなり脱落した標本なので、今後の調査で確認する予定である。



【県内の分布】

愛知県では今回の調査で初めて記録された種類で、現在のところ他の場所では確認されていない。ただし特殊な環境に生育する植物ではないので、注意して探索すれば他でも発見できる可能性はある。

【国内の分布】

本州（関東以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インドにかけて広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水湿地に生育する。名古屋市の自生地は人工的に整備され、ハナショウブが植栽された湿地であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

1m 四方ほどの範囲に、イヌビエと混生して生育していた。過去からの増減は不明である。

【保全上の留意点】

雑草的な植物であるから、現実問題として保全は難しい。まずは愛知県での分布状況を正確に把握する必要がある。場合によっては、生育地外での系統保存を考えてもよい。

【特記事項】

イヌビエやタイヌビエに比べ植物体は全体に細く、鮮緑色である。ヒメイヌビエからは水湿地に生育することで異なる。

【関連文献】

長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.574-575．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

コウボウ　*Hierochloe odorata* (L.) P.Beauv. var. *pubescens* Krylov

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2。草地性の植物で、名古屋市では生育地がきわめて少ない。現存は確認できないが、まだ残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類相当と評価した。

【形　態】

多年生草本。根茎は細く、長く横にはい、まばらに稈を出す。稈は直立し、高さ 20～45cm になる。葉は基部のものは線形、長さ 10～30cm、幅 2～5mm、稈上の葉は少数が互生し、披針形、長さ 1～4cm、幅 3～7mm、葉鞘には下向きの毛があり、葉舌は高さ 1.5～3mm である。花期は 4～5 月、円錐花序は広卵形、長さ 4～8cm、枝は開出し、小穂は広倒卵形、長さ幅とも 4～6mm、黄褐色で光沢がある。小花は 3 個、そのうち下の 2 個は雄性、上の 1 個は両性である。

【分布の概要】

【市内の分布】

中川区（富田町供米田，高木順夫 s.n., 1993-4-25）に生育していた。

【県内の分布】

平野部から山地まで生育しているが、少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井で確認されている。

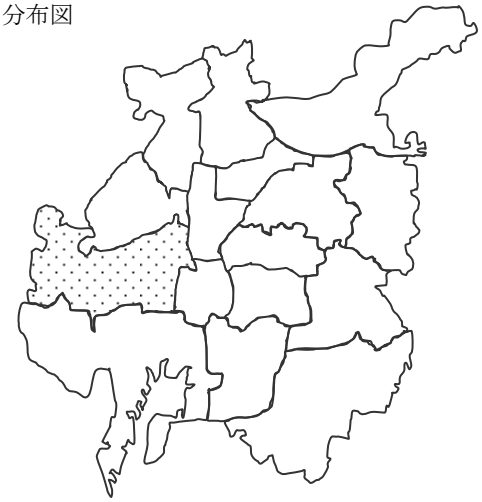
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、シベリア。基準変種はヨーロッパに分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよい草地や林縁に生育するが、愛知県ではしばしば河川堤防の草地に生育している。名古屋市の生育地も戸田川の堤防であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

数 m の範囲に群落があった。現地の状況に大きな変化はないが、最近は確認できない。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。適切な管理を継続すると共に、改修などを計画する際には、身近な自然の確保という点も考慮する必要がある。

【特記事項】

和名は香茅で、乾燥すると香気があることに由来する。

【関連文献】

保草Ⅲp.347，平草Ⅰp.118.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.268-269．平凡社，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　メギ科＞

ヒメイカリソウ　*Epimedium youngianum* Fisch. et C.A.Mey.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1、補正+1（開発切迫）。名古屋市では 1 ヶ所で生育が確認されているだけで、しかもその場所が大きな開発圧にさらされている。県内分布までの評価点の合計は 15 であるが、危機的状況を考慮して補正値 1 を加え、絶滅危惧ⅠA類と判定する。

【形　態】

多年生草本。硬質の短い地下茎がある。地上茎は数本が束生し、伸長すると高さ 20～40cm になる。葉は 2 回 3 出、あるいははじめ 2 出し、それぞれに 3 小葉をつけることが多いが、一定しない。小葉は卵形～卵状楕円形、長さ 3～8cm、先端は通常鋭頭、基部は深い心形、少数の刺毛状の鋸歯がある。花期は 4 月。総状花序に数個の花をつけ、花は白色、花弁は 4 個で、長さ 8～15mm の距がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（芹沢 51072, 1989-4-4）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地に点在しており、名古屋市のほか、蒲郡、田原東部、田原西武、藤岡、豊田北西部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜、犬山、小牧、春日井で確認されている。額田にもあったが、標本を作成する前に盗掘され、消失してしまった。

【国内の分布】

本州西部、四国、九州。愛知県は分布域の東限にあたる。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの丘陵地の、林縁や明るい林内に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

10 数株の小群落があったが、ごく最近の状況は確認できていない。個体数は見込み値である。「保護」と称して他の場所に移植するため採取する人もいるらしく、それによる集団の破壊も懸念される。

【保全上の留意点】

生育地が開発されればもちろん絶滅するが、開発されなければネザサなどに被陰されて衰退すると思われるし、管理を行えば今度は園芸目的の採取が懸念される。包括的な保護対策が必要である。適切な保護対策がとられるまでは、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。自然環境下への移植は、真の保全にならないだけでなく移植先の自然状態を破壊するため、原則として行ってはならない。どうしても人為的な系統保存を行う必要が生じたときには、公的機関の手で、管理が行き届く場所で行うべきである。

【特記事項】

名古屋市域で生育が確認されている唯一のイカリソウ属植物である。バイカイカリソウとイカリソウの交雑に起源する植物であるが、それなりの歴史性を持つと判断されるため、独立種として扱う。

【関連文献】

保草Ⅱp.202，平草Ⅱp.90.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キンポウゲ科＞

カザグルマ　*Clematis patens* C.Morren et Decne.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 16。湿地周辺の自然を象徴する植物の一つで、開発圧力の高い場所に生育しており、園芸目的の採取も無視できない。

【形　態】

つるになる落葉性の半低木。葉は対生し、羽状複葉、小葉は 3～5 枚、卵形で先はとがり、基部は円形または浅い心形、長さ 4～8cm、ときに 3 裂するが鋸歯はない。花期は 5～6 月、1～3 対の葉をつけた枝の先に 1 個の花を頂生する。花は上向きに平開し、直径 7～12cm、がく片は通常 8 枚、淡紫色のものもあるが愛知県ではすべて白色、狭倒卵形、上部は広がり、先端は急に細まって鋭尖頭になる。そう果は広卵形で長さ 5mm、残存花柱は 3～4cm で強く曲がり、黄褐色の長毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 1931, 2001-5-7）にわずかに残存している。安原（1990）にはよく花のついた写真が掲載されている。緑区（滝の水, 浜島繁隆 s.n., 1971-5-18）にも生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東三河、西三河、尾張の 16 区画に分布する。ただし渥美半島には少なく、知多半島からは知られていない。

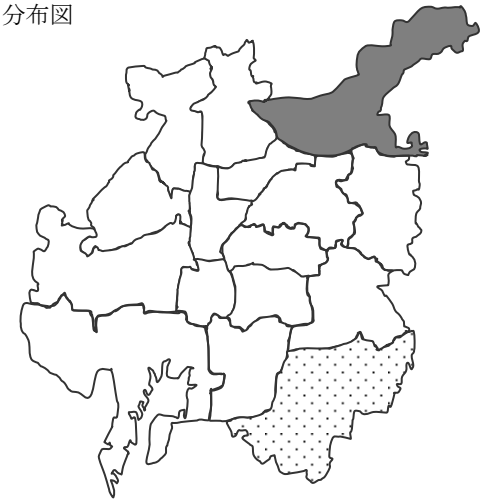
【国内の分布】

本州、四国、九州北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湿地周辺の林縁、湿った土手などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

開発により生育地が破壊されたり、園芸目的で採取されたりして、現在の状態に至ったものと思われる。現生育地では湧水のある林縁に、小群落を作って生育している。茎葉は比較的よく茂っているが、着花数は少ない。遷移の進行により、被陰されて衰退することが懸念される。

【保全上の留意点】

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による撹乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

園芸的には、遺伝子資源の確保という点で重要である。園芸植物のクレマチスは、本種などから交配により作出されたものである。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 4 に掲載されている。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.46．エフエー出版，名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱp.226，平草Ⅱp.73，環境庁 p.447，SOS 旧版 p.50（シロバナカザグルマとして），SOS 新版 p.103，愛知県 p.351.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キンポウゲ科＞

スハマソウ　*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Kitam.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 3、補正+1（開発切迫）、総点 17。名古屋市では 1 ヶ所で生育が確認されているだけで、しかもその場所が大きな開発圧にさらされている。

【形　態】

常緑性の多年生草本。匍匐する根茎がある。根出葉は根茎の先に束生し、長い葉柄があり、やや三角形で基部は心形、幅 3～6.5cm、3 浅～中裂し、裂片は広卵形で先は鈍形である。花期は 3～4 月、高さ 10～15cm の花茎の先端に、直径 1～1.5cm の花を 1 個頂生する。花のすぐ下には、がくのように見える小さい茎葉が 3 枚輪生する。がく片は 6～10 枚、白色、披針形～卵状披針形である。ミスミソウ form. *japonica* からは、根出葉の裂片の先端が鈍頭で、茎葉の裂片の先端が鈍頭～円頭となることで区別される。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（芹沢 51071, 1989-4-4）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、西三河と尾張の一部地域（区画数にして 4 区画）に生育している。ミスミソウは東三河の一部地域に生育している。

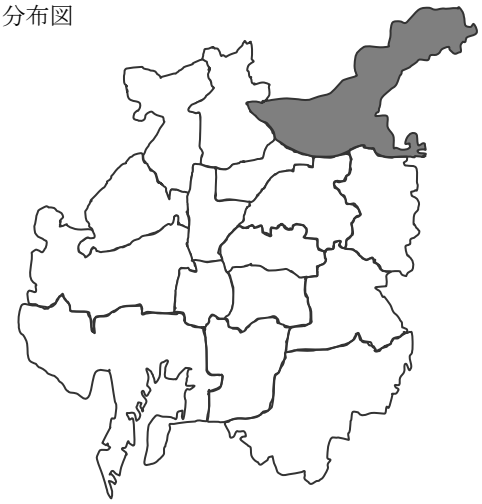
【国内の分布】

本州（山形県、宮城県以南）および四国。

【世界の分布】

日本固有とされている。種としてはヨーロッパと東アジアに隔離的に分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常落葉広葉樹の二次林内に生育するが、造林地内に生育していることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数はかなり多かったが、園芸目的の採取により著しく減少した。生育地の丘陵はすぐ近くまで造成により破壊されており、その点でも極めて危機的な状況にある。

【保全上の留意点】

生育地が開発されればもちろん絶滅するが、開発されなければネザサなどに被陰されて衰退するし、ササ刈りなどの管理を行えば今度は園芸目的の採取が懸念される。包括的な保護対策が必要である。適切な保護対策がとられるまでは、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

スハマソウとミスミソウは通常品種の階級で区別される植物で、環境省のレッドデータブックでは一括してミスミソウの名で評価されている。しかし愛知県のレッドデータブックでは、県内の分布域が異なるため、両者を別のものとして評価している。名古屋市には狭義のミスミソウが分布していないので、両者を区別してもしなくても、評価は同じである。

【関連文献】

保草Ⅱp.230，平草Ⅱp.70，愛知県 p.534.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アリノトウグサ科＞

タチモ　*Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 16. 汚染されていないため池に生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生で抽水性の小形の水草。陸生型となることもある。茎は下部で分枝し、上部は直立して枝はなく、水中にあるものは長さ 50cm くらいになることがあるが、水上に出て湿地にはえるものは高さ 5～20cm である。水中葉は 3～4 個輪生し、披針形～広披針形、羽状深裂し、長さ 1.5～2cm、裂片は糸状線形である。花期は 6～8 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は淡紅色で小さく、雌雄異株、花序の葉は針形となって、羽裂しない。水中のものは、冬も植物体の一部が枯れずに残る。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味吉田, 鳥居ちゐ子 1872, 2000-10-1）に生育している。守山区の他の場所（吉根平池, 飯尾俊介 21, 1964 年）、千種区（覚王山猫ヶ洞池, 沢井輝男 s.n., 1932 年）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、田原東部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、犬山で確認されている。尾張東部から知多半島にかけての丘陵地には比較的多いが、他では極めて少ない。西三河では、現在のところ確認されていない。

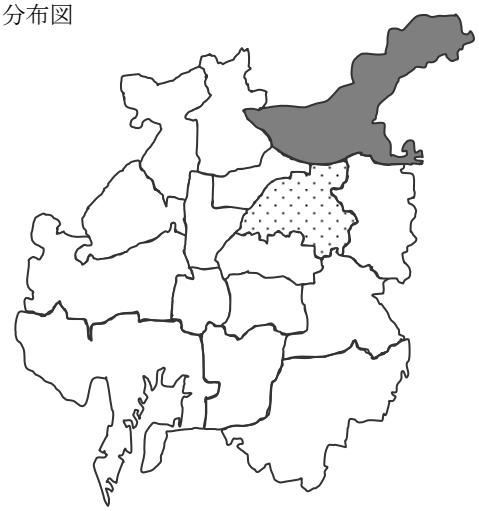
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の浅いため池などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

滝ノ水池の池畔に小群落があった。池自体は将来も存続すると思われるが、現在の水質が維持されなければ、本種の存続は困難である。

【保全上の留意点】

滝ノ水池は本種以外にもオオトリゲモ、ツクシクロイヌノヒゲなど名古屋市では希少な植物が生育しており、周辺の丘陵地と共に、現在の水質と環境を維持すべき場所である。

【関連文献】

保草Ⅱp.36，平草Ⅱp.270，愛知県 p.556.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.136．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.236．文一総合出版，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マメ科＞

イヌハギ　*Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Sieb. ex Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 2。全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、名古屋市でも生育地、個体数ともに極めて少ない。現存は確認できないが、どこかに残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

多年生草本。高さ 60～150cm になり、全体に褐色をおびた斜上する毛がある。葉は互生し、下部の葉には長さ 2～4.5cm の柄があり、葉身は 3 出葉、頂小葉は楕円形～長楕円形、円頭、長さ 3～6cm、幅 1.5～3cm である。花期は 7～9 月、茎の先端や上部の葉腋から出た枝の先に長い総状花序をつける。花は黄白色で、多数つき、長さ 8～10mm の蝶形花、がくは 5 深裂し、長さ約 6mm である。通常花のほかに、閉鎖花が葉腋に集まってつく。豆果は卵形で、長さ 4～5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，高木順夫 8984, 2000-10-1；吉根庄内川堤防，鳥居ちゑ子 2440, 2004-9-21）に僅かに生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、稲武、鳳来北西部、豊川、豊橋北部、豊田東部、西尾北部、東海知多で確認されている。ただし東海知多では絶滅した。

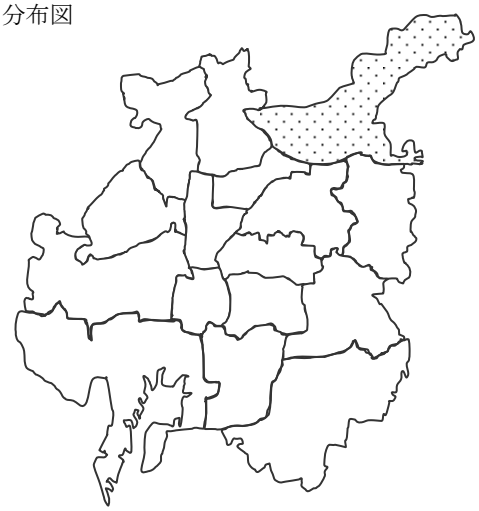
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド、ヒマラヤ。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育するが、たいていはどの場所でも個体数が少なく、散在的に生育しているだけである。しばしば用水わきの草地に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

どちらの場所でも 1 株確認しただけであるが、いかにも本種が生育しそうな場所であったことから偶産種とは考えず、本書に掲載した。上志段味では、遷移の進行により低木が繁茂し、消失した。吉根ではその後確認できないが、生育環境は残っている。愛知県全体で見ても、採草地が利用されなくなったため、本種が生育できるような場所は著しく減少している。東海知多では愛知用水わきの草地に小群落があったが、改修工事により消滅した。

【保全上の留意点】

草地の保全が必要である。特に幹線水路わきの草地は多くの草地性植物の逃避場所になっており、改修工事の際には十分な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、植物体が直立し、全体に黄褐色の毛が多い状態に由来するものと思われ、おそらくネコハギに対する名である。

【関連文献】

保草Ⅱp.97，平草Ⅱp.206，環境庁 p.479，SOS 旧版 p.60+図版 13，SOS 新版 p.87，愛知県 p.374.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　イラクサ科＞

ミヤコミズ　*Pilea kiotensis* Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 4、補正+1（分布東限）、総点 17。西日本系の植物で、名古屋市では1ヶ所に生育しているだけであり、これが愛知県で唯一の自生地である。

【形　態】

多汁質の 1 年生草本。茎の下部は地上をはって枝を分けるとともに不定根を出し、上部は斜上または直立して高さ 20～30cm になる。葉は対生し、長さ 6cm に達する柄があり、葉身は卵形、長さ 4～9cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形で左右非対称、片側は外に凸、片側は内に凸の曲線になり、辺縁には4～8個の大きい鋸歯がある。花期は9～10月、集散花序は葉腋から出て、茎の先端部につくものは雄花が多く、直径 8～15mm、下のものほど長い柄があって全体として茎頂に集まり、それより下の葉腋につくものは雌花が多く、柄は短い。花序の柄は片側に毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（鳥居ちゑ子 2198, 2002-9-21）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市が県内では唯一の自生地である。

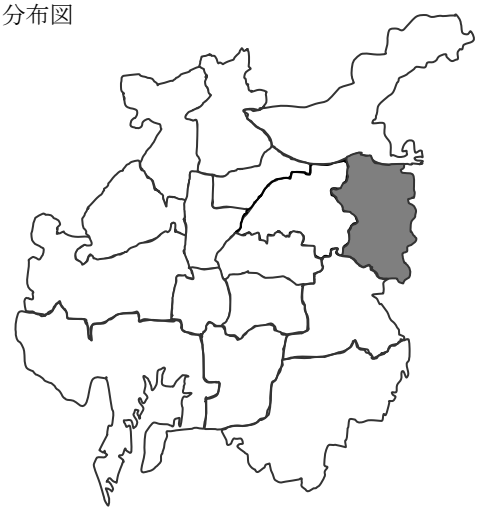
【国内の分布】

本州西部と九州北部。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

小川の岸に小群落がある。現地は名古屋市内では奇跡的に開発を免れた、やや深山的な感じのする場所である。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すること、川に生活排水が流入しないよう注意し、水質を維持することが必要である。目立たない植物なので園芸目的の採取は考えにくいが、希少ということで多くの人に知られるようになれば、観察者や写真撮影者の踏み荒らしも懸念される。

【特記事項】

全国的に見ても希少な植物で、分布域の東限にもなっており、名古屋市の植物の中ではマメナシに次いで保全上の重要性が高い植物と思われる。名古屋市産の植物の彩色画は2004年版図版2に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅱpp.334-335，平草Ⅱp.5，環境庁 p.435，愛知県 p.85.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ニシキギ科＞

ウメバチソウ　*Parnassia palustris* L. var. *multiseta* Ledeb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 16. 湧水湿地に生育する温帯系の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。根茎は短く直立し、数個の長柄のある根出葉と 1～15 本の花茎を束生する。葉身は卵形または広卵形、長さ幅とも 1.5～4cm、全縁、先端は円形で僅かに尖り、基部は心形である。茎葉は 1 個で、無柄、基部はやや茎を抱く。花期は 10 月、花は高さ 15～60cm の花茎の先端に 1 個つき、白色で直径 2～2.5cm、花弁は通常 5 枚、全縁、仮雄ずいは糸状に 15～22 裂する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山, 鳥居ちゑ子 1168, 1996-11-4）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

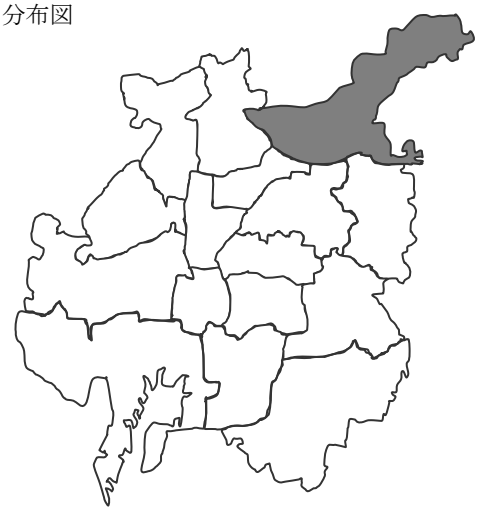
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジア北部に分布する。種としては北半球の温帯～寒帯に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地から高山までの、日当たりのよい湿地に生育する。山地では湿地と言うほどでないやや湿った草地に生育していることもあるが、愛知県の丘陵地では生育地は湧水湿地に限られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地の周辺は近年道路や駐車場が整備され、交通量も次第に増加しており、生育状況は徐々に悪化している。園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱も懸念される。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。森林の伐採は、水収支の回復という点でも重要である。「森林を伐採すると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。

【特記事項】

湿地の花の中では、リンドウやヤマラッキョウとともに、最も遅く咲くものの一つである。和名は花の形が梅鉢紋に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.144，平草Ⅱp.154.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ミカンソウ科＞

ヒトツバハギ　*Securinega suffruticosa* (Pall.) Rehder var. *japonica* (Miq.) Hurus.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 3、総点 18。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

落葉性の低木。高さ 2～3m になる。葉は互生し、3～6mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 4～7cm、先端は鋭頭または鈍頭、基部はくさび形、辺縁は全縁で小さく波打ち、両面無毛、表面は緑色、裏面は白色を帯びる。花期は6～8 月。雌雄異株で、雄花は葉腋に多数束生し、雌花は葉腋に 1～5 個つく。蒴果は扁球形で、直径 4～5mm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味庄内川堤防, 芹沢 77892, 2002-7-1）に生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋市から渥美半島にかけてと瀬戸尾張旭、春日井に生育しているが、多いものではない。

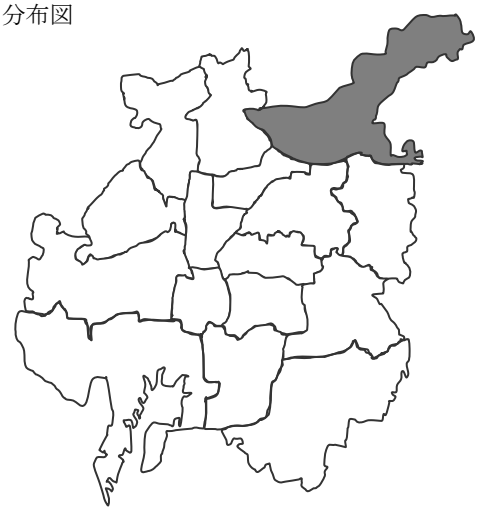
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の林縁や疎林内、草地などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川の堤防に、少数の個体が生育していた。最近は確認していないが、生育環境は残っている。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、全体にハギに似ているが葉が単葉だからである。

【関連文献】

保木Ⅰp.339, 平木Ⅰp.263.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ミソハギ科＞

ヒメミソハギ　*Ammannia multiflora* Roxb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 16. 水田雑草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

1 年生草本。茎は直立し高さ 20～40cm、無毛で 4 稜がある。葉は対生し、ほどんど無柄、葉身は長楕円形、長さ 2～5cm、先端は鈍頭～鋭頭、基部はやや耳状で茎を抱く。花期は 9～11 月、花は葉腋に密につき、直径約 1.5mm、がく筒は鐘形でやや 4 稜があり、花弁は 4 個で小さく、倒卵形、淡紫色。雄蕊は 4 個である。蒴果は球形で直径約 2mm、紅紫色、不規則に裂けて多数の種子を出す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流付近，村松正雄 26191, 2011-10-2）に生育している。守山区の他の場所（小幡米野，福岡義洋 1993, 1992-10-2）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河中南部には比較的多いが、西三河では少ない。尾張では稀で、名古屋市のほかは長久手日進で確認されているだけである。

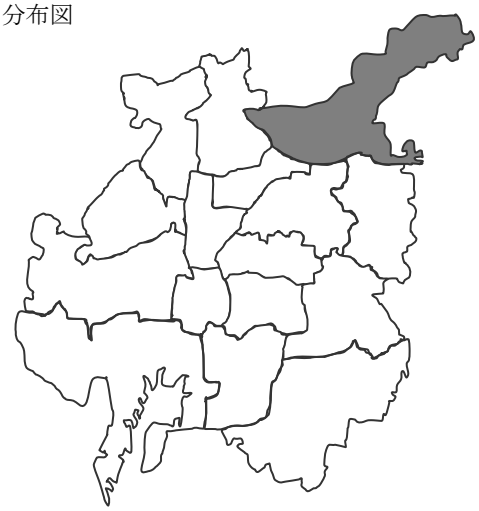
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

アジア、アフリカ、オーストラリアの熱帯～暖帯に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水田や湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

標本は高さ 70cm に達するよく発達した個体だが、株数は僅かであった。小幡米野では最近の状況は確認されていないが、宅地化が進んでいるので、この場所ではすでに絶滅した可能性が高い。

【保全上の留意点】

才井戸流は、水の恵みを象徴するような場所であるにもかかわらず、水源部に産業廃棄物処分場が設置され、土地区画整理事業も進行している。生物多様性という点では名古屋市で最も重要な場所の一つで、地形的にも貴重であり、可能な限り保全策を講じる必要がある。

【特記事項】

名古屋市でも普通にみられる帰化植物のホソバヒメミソハギ *A. coccinea* Rottb.からは、葉が幅広く、基部があまり耳状に張り出さず、花弁が小さいことで区別できる。

【関連文献】

保草Ⅱpp.46-47，平草Ⅱp261.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ミソハギ科＞

ヒメビシ　*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 4、総点 18. 名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

1 年生の水草。茎は地中から長く伸びて水面に達し、節から羽状に分裂した根状の沈水葉を出す。浮水葉は茎の先端に放射状に叢生し、葉柄は長さ 0.5～5cm、中央部は長楕円状にふくらみ、浮きぶくろとなり、葉身は広卵状菱形、幅 1～2cm、上部の辺縁はあらい欠刻状の鋸歯となり、裏面の脈上にはまばらに毛がある。花期は 7～10 月、花は葉腋から出た柄の先に 1 個ずつつき、白～淡紅色（今回名古屋市で確認した個体は白色であった）、直径 6～8mm。果実は石果で倒三角形、幅約 20mm、4 個の刺がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城外堀，芹沢 89707, 2014-9-29）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほかは、豊田東部の 3 ヶ所のため池で確認されているだけである。

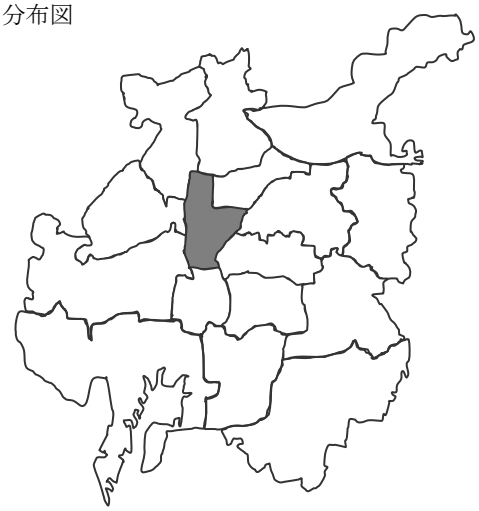
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部や丘陵地の池沼に生育する浮葉植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋城の外堀で僅かに生育している。外堀では春にヒシ属の芽生えが多数確認されるが、夏になるとほとんど消えてしまう。外堀に堆積する植物遺骸の中からは本種の果実が複数確認されるが、調べた範囲では発芽能力を失っていた。

【保全上の留意点】

生育地の水質を保全する必要がある。ヒシ属は水草の中では比較的汚染に耐性があるが、本種だけは汚染に弱いらしく、全国的に減少傾向が著しい。愛知県においてもかつては点在していたと思われるが、標本は残されていない。過去の記録はコオニビシ *T. japonica* Flerov var. *pumila* (Nakano) Kadono と混同されている可能性があり、再検討が必要である。

【特記事項】

今回得られた標本は、典型的なヒメビシに比べると、果実の刺がやや太く短い。しかし底土中の植物遺骸の中から出てきたものは、典型的な本種の果実であった。

【関連文献】

保草Ⅱp.45，平草Ⅱp.262，環境庁 p.492，愛知県 p.208.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.129．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.250．文一総合出版，東京.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　モウセンゴケ科＞

イシモチソウ　*Drosera peltata* Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 16。全国的に減少傾向の著しい食虫植物で、名古屋市では僅かに残存しているにすぎない。

【形　態】

食虫性の多年生草本。地下に球形の塊茎がある。地上茎は高さ 10～30cm、はじめは根出葉があるが、花期にはなくなる。茎葉はまばらに互生し、長さ 10～15mm の細い葉柄があり、葉身は三日月形で幅 4～6mm、基部は湾入し、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。花期は 5～6 月、茎の先端のまばらな総状花序に、2～10 個の白色の花をつける。花弁は 5 枚で広倒卵形、長さ 6～8mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷, 鳥居ちゑ子 1313, 1998-5-9; 大森八竜, 鳥居ちゑ子 342, 1993-5-14）、千種区（田代, 井波一雄 s.n., 1933-7-1, CBM127129）、天白区（天白, 井波一雄 s.n., 1941-5-22, CBM127121）、緑区（桶狭間, 瀧崎吉雄 s.n., 1953-6-14）などで採集された標本があるが、これらの場所ではいずれも現存を確認できない。現在残存しているのは、守山区の他の 1 ヶ所にすぎない。

【県内の分布】

西三河と尾張の丘陵地に点在する。東三河では極めて稀で、1 ヶ所に少数の個体が生育しているだけである。新城、豊橋北部、豊橋南部、幸田などでは、過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

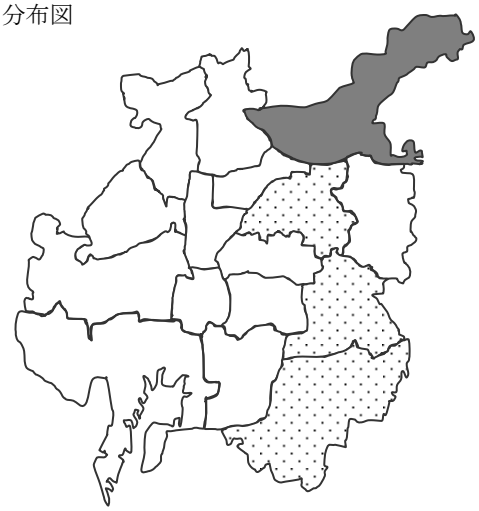
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球（西表島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湿地やその周辺のやせ地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市東部の丘陵地には点在していたはずであるが、開発により生育できる環境が失われ、現在の状態に至ったものと思われる。守山区愛知用水沿いでは、用水の改修により絶滅した。緑区滝の水湿地では、宅地造成により生育地が破壊され、絶滅した。現在残存が確認されている生育地は 1 ヶ所にすぎない。園芸目的の採取も深刻で、他地域では市町村誌ではっきり生育地が示されたことが、絶滅の引き金になったのではないかと思われる例もある。

その一方で、一部の湿地では、市民グループ等の手でもともとはなかった場所への移入が行われ、本来の自然状態に対する大きな脅威となっている。自然環境下への移植は、原則として行ってはならない。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

湧水湿地やその周辺のやせ山を、水源部の地形を含めて保全する必要がある。その一方で園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、葉の腺毛に小石がつくからだと言われる。

【関連文献】

保草Ⅱp.167，平草Ⅱp.121，環境庁 p.464，SOS 旧版 p.54，SOS 新版 p.111，愛知県 p.357.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アジサイ科＞

コガクウツギ　*Hydrangea luteo-venosa* Koidz.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 4、総点 18. 西日本系の植物で、愛知県は近畿地方以西と伊豆半島をつなぐ、地理的に重要な自生地である。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

落葉性の小低木。高さ 1.5m 程度になる。葉は対生し、長さ 2～5mm の柄があり、葉身は長楕円形～広倒披針形、長さ 3～5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、葉縁には 3～4 の低い鋸歯がある。表面はしばしば脈に沿って黄斑がある（愛知県のものはない）。花期は 6～7 月で、2～3 対の葉のある短枝の先端に、10～20 花からなる直径 2～7cm の集散花序をつけ、うち 1～2 個は白色の装飾花、残りは淡黄緑色の通常花である。装飾花のがく片は3～4枚で、卵形～ほとんど円形、大きいものは長さ 2cm に達する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ケ根，芹沢 81345, 2007-5-20）に数株が点在して生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほかは豊橋北部に 1 ヶ所、少数の個体が生育しているだけである。

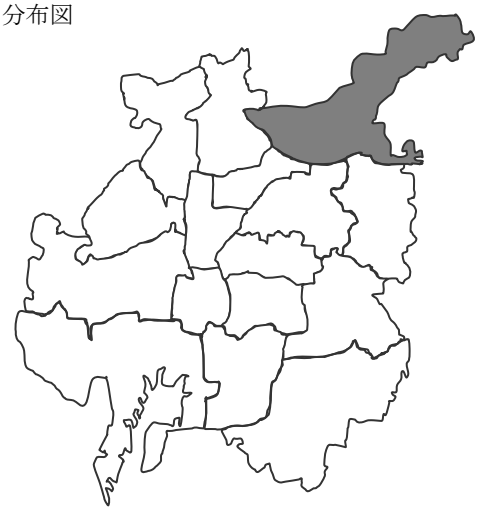
【国内の分布】

本州（伊豆半島、愛知県、近畿地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

暖帯域の丘陵地、低山地の斜面に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

数株が点在している。生育地は名古屋市内では自然度の高い場所で、植栽されたものとは考えにくいが、近くに森林公園があるため、二次的に逸出した可能性は完全には否定できない。周辺は開発が進んでおり、その点でも将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

僅かに残った丘陵地の地形を保全することが必要である。

【関連文献】

保木Ⅱp.118，平木Ⅰp.171，愛知県 p.184.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アジサイ科＞

イワガラミ　*Schizophragma hydrangeoides* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。現存は確認できないが、調査が不十分であることを考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と判定した。

【形　態】

落葉性のつる性木本。幹は太いものでは直径5cm以上になる。葉は対生し、長さ3～12cmの柄があり、葉身は広卵形、長さ5～16cm、幅5～10cm、先端は鋭頭、基部は切形または浅心形、葉縁にはやや大きな鋭鋸歯があり、脈腋に密毛がある。花期は5～7月。本年枝の先に直径10～20cmの散房花序をつける。装飾花のがく片は1枚だけが発達し、白色で広卵形、長さ16～35mmになる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ケ根，鳥居ちゑ子 1968, 2001-6-17）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

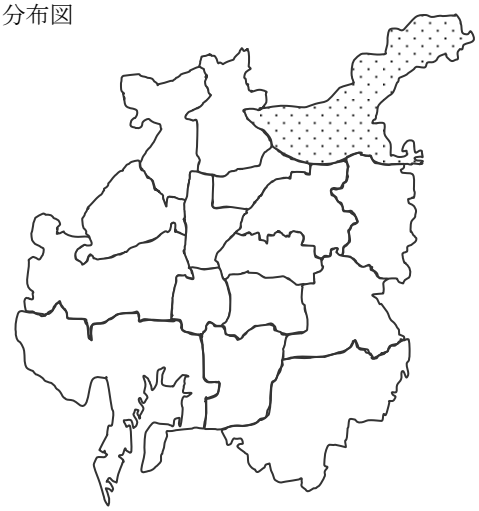
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、鬱陵（ウルルン）島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育し、しばしば他木にからみついて高く伸びる。

【現在の生育状況／減少の要因】

未開花の幼木が地上に小さなかたまりで生育していた。この場所は駐車場造成のため破壊されたが、周辺のどこかにまだ残存しているかもしれない。以前は開花するような株もあったらしい。

【保全上の留意点】

吉根では、都市化により丘陵地そのものが消滅しつつある。何はともあれ、丘陵地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。ツルアジサイに似るが、葉の鋸歯があらく、装飾花のがく片が 1 枚だけ発達することで区別される。

【関連文献】

保木Ⅱp.110，平木Ⅰp.165.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　リンドウ科＞

コケリンドウ　*Gentiana squarrosa* Ledeb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 3、総点 17。愛知県では生育地が少なく減少傾向も著しい、小型の草地性植物である。名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。

【形　態】

小型の越年生草本。茎は高さ 3～10cm、よく分枝し、基部に狭菱卵形～卵状菱形で長さ 2～4cm の根出葉がロゼット状につく。茎葉は小さく、卵形で長さ 4～10mm、対生し無柄、基部は合着して短い鞘になる。花期は 3～5 月、がく筒は長さ 4～6mm、裂片の上部は反曲し、先端は刺状となる。花冠は筒状、長さ 10～15mm、淡青色、先端は 5 裂し、裂片の間に小型の副片がある。さく果は残存する花冠の外に突き出る。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（月ケ丘，鳥居ちゑ子 2314, 2003-5-23）。ただし最近は生育地が立ち入り禁止になっており、存否を確認できない。

【県内の分布】

県中西部（尾張、西三河）では、名古屋市以外の産地は知られていない。東三河では、新城、豊川宝飯、豊橋北部で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド北部、シベリア。

市内分布図

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

数 10 株生育していたが、小型の草本なので、個体数階級を 3 と評価した。小型の植物だけに、大型の草本が繁茂すればすぐに消滅してしまう。愛知県内でも、現在本種が生育している場所は水田周辺の草地や河川の堤防、池の周辺など、定期的に草刈りが行われるような場所に限られている。

【保全上の留意点】

生育地を、丈の低い草地状態のまま保全することが必要である。

【特記事項】

名古屋市のものは根出葉が小さく、東三河のものとやや異なっている。愛知県では、小型のリンドウ類として本種の他にフデリンドウとハルリンドウが生育している。このうちフデリンドウは、全国的にはそれほど少ない植物ではないが、名古屋市では確認されていない。ハルリンドウは、市内でもあちこちの湿地に生育している。

【関連文献】

保草Ⅰp.219，平草Ⅲp.30，SOS 旧版 p.70，SOS 新版 pp.131,133，愛知県 p.402.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キョウチクトウ科＞

スズサイコ　*Cynanchum paniculatum* (Bunge) Kitag.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、愛知県ではまだかなり残存しているが、名古屋市では生育地も個体数も少ない。現存は確認できないが、再発見される可能性を考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

多年生草本。多数のやや太いひげ根がある。茎は細く、直立して上部はやや傾き、高さ 40～100cm になる。葉は対生して斜上し、ほとんど無柄、葉身は狭披針形～線状長楕円形、長さ 8～16cm、幅 0.7～2cm、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁である。花期は 7～8 月、茎の先や上部の葉腋から長い柄のある花序を出し、集散状にまばらに花をつける。花冠は黄褐色で 5 裂し、裂片は開出して長さ 5～8mm、副花冠は直立し、卵形、鈍頭で、ずい柱より短い。果実は袋果で細長い披針形、長さ 5～8cm、種子は卵形で狭い翼があり、長さ 4～5mm、先端に長い白毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味稲堀田新田, 鳥居ちゑ子 1980, 2001-6-28）、天白区（島田天白川堤, 渡邉幸子 3202, 1997-8-25）に生育していた。

【県内の分布】

主として丘陵部に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、常滑、知多南部、犬山、江南丹羽、岩倉西春日井の 8 区画で確認されている。濃尾平野中央部では確認されていない。

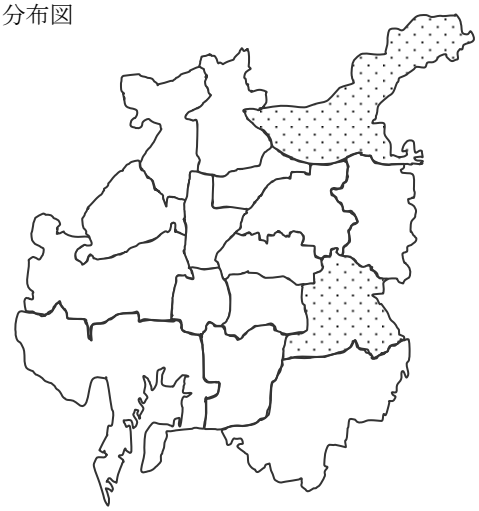
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。点在するが、大きな群落は作らない植物である。愛知県では、丘陵部～低山地の谷戸田周辺の里草地に点在している。平野に近い部分では、河川の堤防や水路わきの草地などに生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では天白川の堤防に少数株が生育していたが、最近は確認できない。守山区では野添川の堤防に小群落があったが、堤防の改修により消失した。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、つぼみが鈴に似て、全形が薬用のミシマサイコに似ているからである。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧ⅠB類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅰp.206，平草Ⅲp.40，環境庁 p.515，SOS 新版 p.82，愛知県 p.632.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

シマジタムラソウ　*Salvia isensis* Nakai ex H.Hara

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、補正+2（固有）、総点 16。本地域の湧水湿地を特徴づける植物の一つで、名古屋市では生育地が極めて少ない。

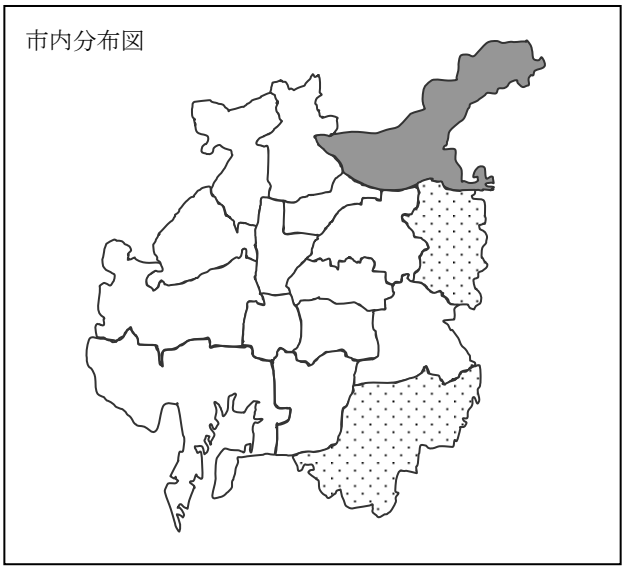
【形　態】

多年生草本。茎は四角形で直立し、高さ 20～80cm、下部には開出する長毛がある。葉は対生し、1～2 回羽状複葉、茎の下部に集まることが多い。小葉は卵形で、葉の先端のものが大きく、側羽片はやや小形、辺縁には鈍鋸歯があり、質は一般に薄いが、蛇紋岩地のものはやや厚く、脈は表面でくぼむ。花期は 7～8 月、茎や枝の先に長い穂状の花序を作る。花はややまばらに輪生し、がくは長さ 5～6mm、花冠は淡青紫色、長さ 1cm 内外、筒部内面の中央に輪状に毛があり、雄ずいは曲がらず、花外に突き出る。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 673, 1994-7-16）に生育している。名東区（猪高緑地，鳥居ちゑ子 1014, 1995-10-21）、緑区（鳴海，岡田善敏 s.n., 1944-10-10）で採集された標本もある。



【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、新城、足助、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、知多南部で確認されている。豊橋市から渥美半島にかけてと犬山市から春日井市にかけてでは発見されていない。

【国内の分布】

本州（岐阜県、愛知県、三重県）。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

東三河と三重県では、蛇紋岩地の疎林内や半裸地状の場所などに生育する。西三河、尾張と岐阜県では、湧水湿地周辺の林内に生育することが多いが、湿地内の日当たりのよい場所、水田わきの湿った草地などに見られることもある。比較的耐陰性のある植物で、湿地性植物の中では森林化が進行してもかなり遅くまで林内に残存しているが、それでもあまり暗いところでは生育できない。

【現在の生育状況／減少の要因】

狭い範囲にかなりの個体が生育しており、周辺にも少数個体があったが、被陰のために個体数が減少し、花つきも悪くなってしまった。

【保全上の留意点】

丘陵地の湧水湿地を、周辺の林を適宜伐採しながら維持することが必要である。

【特記事項】

集団間の遺伝的分化や広義ナツノタムラソウ *S. lutescens* Koidz.との関係について、今後更に検討する必要がある。花の形態は、ナツノタムラソウ類とほとんど異ならない。名古屋市産の植物の彩色画は 2004 年版図版 7 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅰp.168，平草Ⅲp.81，環境庁 p.524，SOS 旧版 p.77+図版 17，SOS 新版 p.110，愛知県 p.575.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ハマウツボ科＞

コシオガマ　*Phtheirospermum japonicum* (Thunb.) Kanitz

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。名古屋市では生育地が極めて少ない。現存は確認できないが、再度出現する可能性があるので、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

半寄生の一年生草本。全体に軟らかい腺毛が密に生える。茎は直立し、高さ 30～70cm になる。葉は対生し、4～10mm の柄があり、葉身は三角状卵形、長さ 2～3.5cm、羽状に深裂し、下部の裂片は更に切れ込み、辺縁には不規則にとがった鋸歯がある。花期は 9～10 月、花は茎の上部の葉腋に 1 個ずつつき、花冠は淡紅紫色、長さ約 2cm、外面に軟毛と腺毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷, 鳥居ちゑ子 798, 1994-10-15）、名東区（猪高緑地, 鳥居ちゑ子 2525, 2006-10-10）で記録されている。

【県内の分布】

三河山地には比較的多いが、低山地や丘陵地には少ない。尾張では名古屋市のほか、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山で確認されている。

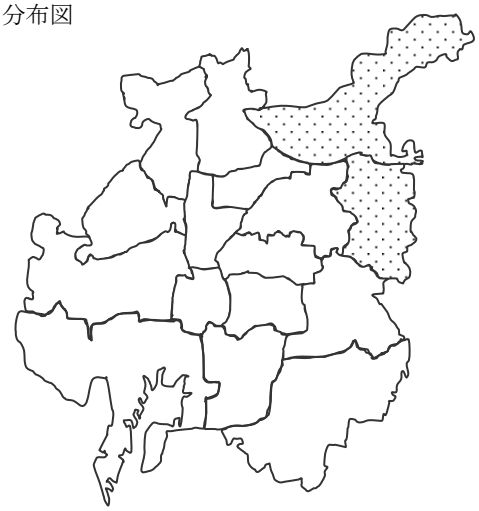
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地や半裸地に生育する。しばしば林道わきの崖地などに見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では愛知用水わきの林縁に 10 数株生育していたが、15 年近く前にすでに見られなくなった。名東区では遊歩道わきに20株程度が生育していたが、この場所でもその後見られなくなった。

【保全上の留意点】

攪乱地や伐採跡地などに生育することが多い植物なので、そのうちに再度出現する可能性もある。さらに注意して探索する必要がある。

【特記事項】

2014年のレッドリスト案では絶滅危惧ⅠB類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。東海地方の固有植物の一つであるミカワシオガマ *Pedicularis resupinata* L. var. *microphylla* Honda は、森林公園の尾張旭市側には生育しているが、名古屋市内では生育が確認されていない。

【関連文献】

保草Ⅰp.135, 平草Ⅲp.115.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タヌキモ科＞

ムラサキミミカキグサ　*Utricularia uliginosa* Vahl

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 16. 湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が激減し、僅かに残存しているだけである。

【形　態】

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫嚢をつける。地上葉はへら形～倒披針形、長さは柄を除いて 2～3mm のものから 3cm を越すものまである。花期は 8～9 月、花茎は直立し、高さ 5～15cm、上部に 1～4 花をつけ、花には長さ 2～8mm の花柄がある。がくは広卵形で長さは花時に 2～3mm、膜質、花後 4～5mm に伸長して耳かき状の宿存がくとなり、蒴果をつつむ。花冠は淡藍紫色、長さ 3～6mm、距は長さ 2～3mm、下向きで、先端はやや前方に曲がる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味森林公園，芹沢 56227, 1990-8-8; 小幡緑地，芹沢 56209, 1990-8-8）に生育している。天白区（八事裏山，渡邉幸子 1415, 1993-10-28）にも生育していた。

【県内の分布】

名古屋市のほか、設楽西部、作手、豊橋北部、田原東部、田原西部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、瀬戸尾張旭、豊明東郷、半田武豊、常滑、犬山、春日井で確認されている。

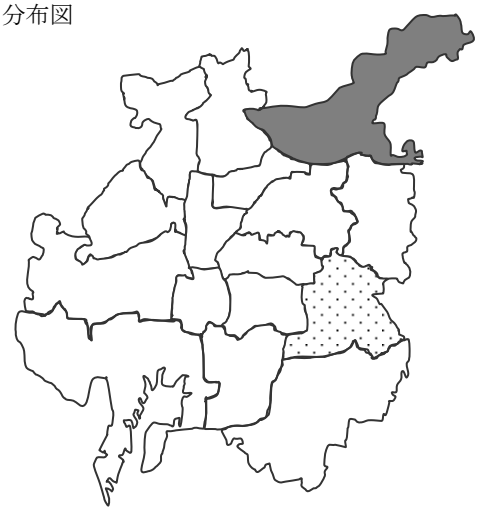
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インド、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。ミミカキグサやホザキノミミカキグサよりも湿潤な場所に多く、しばしば浅い水中に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

開発等による湧水湿地の減少に伴い、現在の状態に至ったものと思われる。近年の夏の高温乾燥傾向によって、同属の他種以上に大きな影響を受けている。天白区八事裏山では多数の個体が生育していたが、遷移の進行によって大型の草本に被陰され、最終的には東海豪雨によって湿地が埋没して見られなくなった。

【保全上の留意点】

生育地である湧水湿地を保全する必要がある。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。また、本種の場合は特に湿潤な場所に生育しているので、周辺部の森林を伐採し、水収支の回復や湿地の縮小防止を図る必要がある。その一方で、踏み荒らし防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。

【関連文献】

保草Ⅰp.121，平草Ⅲp.138，環境庁 p.532，愛知県 p.581.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キキョウ科＞

キキョウ　*Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1。全国的に減少傾向の著しい代表的な草地性植物である。名古屋市では最近ほとんど確認されておらず、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価した。

【形　態】

多年生草本。根茎は太い。茎は直立し、高さ 50～100cm になる。葉は茎の下部では対生または 3 輪生、上部では少しずれて互生し、無柄または短い柄があり、葉身は狭卵形、長さ 4～7cm、幅 1.5～4cm、先端は鋭頭、辺縁に小さい鋭鋸歯があり、表面は無毛、裏面は短毛があって粉白色をおびる。花期は 7～8 月、茎の先端部に 1～数個の花をつけ、花冠は青紫色で広鐘形、先は 4～5 裂し、直径 4～5cm である。雄ずいは 5 個で、雌ずいより先に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味吉田, 鳥居ちゑ子 2336, 2003-7-2）、名東区（猪高緑地, 鳥居ちゑ子 1986, 2001-7-13）、天白区（菅田三丁目, 伊藤晶子 140, 2003-7-18 など）、緑区（鳴海町水広下池付近, 芹沢 77575, 2001-9-8）で採集された標本がある。しかし緑区ではすでに絶滅、他の場所でも最近ほとんど確認されていない。

【県内の分布】

全国的には減少傾向が著しいが、愛知県ではまだ比較的多く残存しており、尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、犬山、春日井の 8 区画で確認されている。

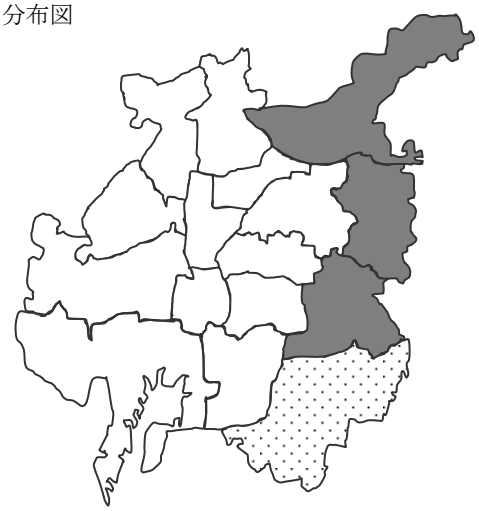
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球（請島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市ではもともと個体数が少なく、林縁部の草地、ため池の周辺などに僅かに残存しているだけであった。丘陵地の開発、草地の利用停止などが減少の最大要因であるが、個体数の減少につれて、園芸目的の採取も目につくようになった。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地（いわゆるボタ）には、本種以外にもさまざまな草地性植物が生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、河川の堤防や幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。堤防や水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

秋の七草の「朝貌」は、本種のことだと言われている。

【関連文献】

保草Ⅰp.91，平草Ⅲp.149，環境庁 p.538，SOS 新版 p.83，愛知県 p.586.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　スイカズラ科＞

オミナエシ　*Patrinia scabiosaefolia* Fisch.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 16。代表的な草地性の植物で、名古屋市では僅かに残存しているだけである。

【形　態】

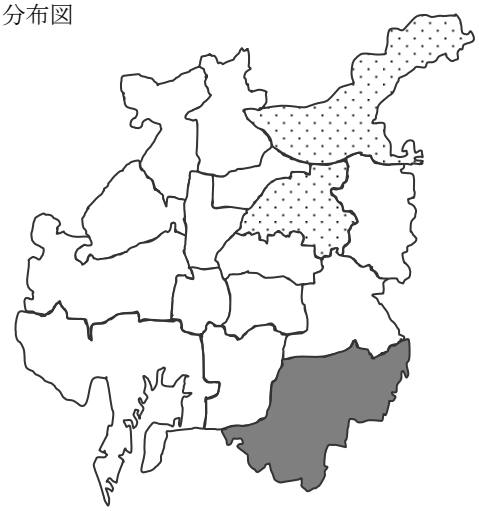
多年生草本。茎は高さ 70～120cm で、下部にまばらにあらい毛がある。葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は羽状に深～全裂し、頂羽片が最も大きく、長楕円状ひし形～線状楕円形、長さ 2～6cm、鋭頭～鋭尖頭、側羽片は 1～3 対である。花期は 8～10 月、枝先に上部がほぼ平らの集散花序を散房状につける。花は多数つき、黄色、花冠は 5 裂し、直径 3～4mm、雄ずいは 4 本である。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（渡邉幸子 6443, 2012-10-19）に生育している。守山区（大森、犬飼　清 s.n., 1953-9-10）、千種区（覚王山、沢井輝男 s.n., 1932-8-6）で採集された標本もある。守山区の森林公園に続く県有林で撮影したという写真は、安原（1990）に掲載されている。

市内分布図



【県内の分布】

山地、丘陵地に広く生育しているが、濃尾平野中央部には見られない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、知多南部、犬山、小牧で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、シベリア東部。

【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、遷移の進行による草地の消失か、土地造成に伴なう生育地の破壊によって絶滅したものと思われる。緑区でも 2014 年には 2 株確認できただけである。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

秋の七草の一つで、漢字で女郎花と書く。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.120．エフエー出版，名古屋.

【関連文献】

保草Ⅰp.102，平草Ⅲp.147.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　ゼンマイ科＞

ヤマドリゼンマイ　*Osmunda cinnamomea* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 14。通常は温帯域の湿地に生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

夏緑性のシダ植物。根茎は短く、匍匐または斜上し、葉を束生する。葉は二形性、栄養葉は長さ 10～30cm の柄があり、葉身は卵状披針形、長さ 30～80cm、幅 15～25cm、黄緑色で 2 回羽状深裂し、若芽は赤褐色の綿毛に被われるが後に無毛となる。胞子葉は春早く、栄養葉より先に伸び、栄養葉より丈が低く、羽片は羽軸に接してつき、胞子が散った後に赤褐色となる。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（鳴海滝ノ水，渡邉幸子 2619, 1996-5-1, NBC828）に生育している。

【県内の分布】

東三河、西三河には点在する。尾張では少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

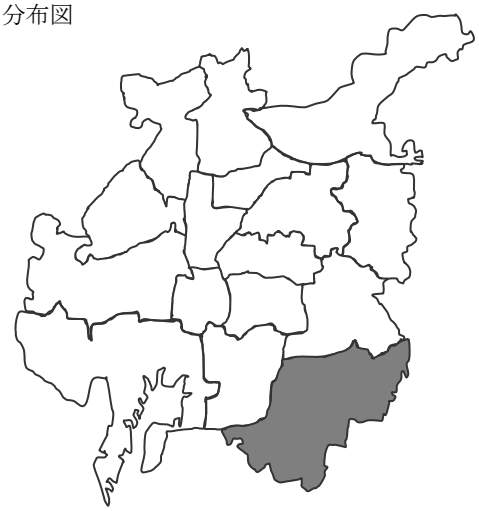
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州（屋久島まで）。

【世界の分布】

東アジアと北アメリカの温帯域に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県の丘陵地では、湧水湿地周辺の林縁部に生育することが多い。本州中部以北の山地では、湿原の日当たりのよい場所にしばしば大きな群落をつくる。

【現在の生育状況／減少の要因】

狭い範囲に、数株が生育している。緑地として保全されている場所であるため、2013 年の時点では生育状況に大きな変化はない。

【保全上の留意点】

湿地性の植物なので、生育地だけ残されても水源部がなくなれば生育できなくなる。水源部を含めた丘陵地の保全が必要である。

【特記事項】

和名は山鳥ゼンマイの意味で、ヤマドリのすむようなところに生えるからだと言われる。森林公園の尾張旭市側には生育しているので、注意して探索すれば守山区でも発見される可能性がある。

【関連文献】

保シダ p.35，平シダ p.73.
倉田　悟・中池敏之（編）．1985．日本のシダ植物図鑑 6:340-354．東京大学出版会，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　コバノイシカグマ科＞

イシカグマ　*Microlepia strigosa* (Thunb.) C.Presl

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 3、総点 14。暖地性の植物で、名古屋市は分布域の北限に近い。市内では生育地が極めて少ない。

【形　態】

常緑性のシダ植物。根茎は長く匍匐し、黄褐色で長さ 2mm 程度の硬毛が密生する。葉柄は長さ 30～60cm、葉身は卵状長楕円形～広披針形で 2 回羽状複生し、長さ 20～80cm、幅 20～35cm、先端は鋭尖頭になる。羽片は 20 対をこえることがあり、大きいものは長さ 20cm、幅 4cm に達し、先端は尾状にのびる。下部の羽片は多少短くなる。羽軸の表面は無毛で、裏面には短毛が密生する。胞子のう群は葉縁に接してつく。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（大高町西丸根，堀田喜久 5499, 1996-9-14）に生育していた。

【県内の分布】

愛知県では生育地も個体数も少ない植物で、名古屋市のほか蒲郡、太原東部、田原西部、常滑で確認されている。美浜南知多で採集された標本もあるが、ここでは最近の状況が確認されていない。

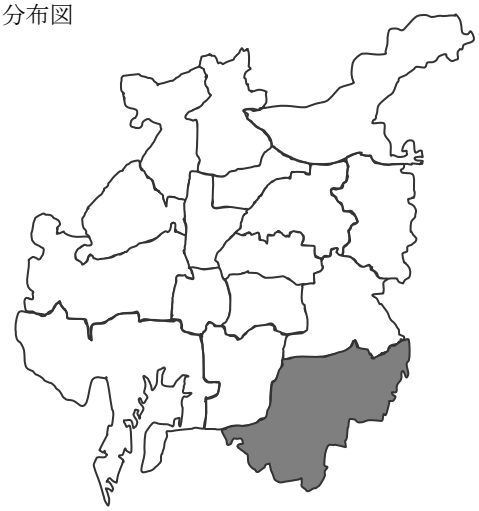
【国内の分布】

本州（千葉県南部、伊豆諸島、伊豆半島から西の海岸沿い）、四国、九州、琉球、小笠原に生育する。紀伊半島南部まで行けば、普通に見られる種類である。

【世界の分布】

ヒマラヤ、スリランカからポリネシアにかけての熱帯・亜熱帯に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの林内や林縁に群生し、時には石垣の間などにも生育している。名古屋市の生育地も住宅地近くのやぶで、特に自然度が高い場所というわけではない。

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落になって生育していた。最近の状況は確認していないが、生育地が現状どおり維持されれば今後も存続すると思われる。

【保全上の留意点】

一般的には潜在的生育地である海岸近くの丘陵地の自然を全体として保全することが重要であるが、名古屋市の場合は生育地の個別的な保全を考慮すべきである。

【特記事項】

石垣や石ころだらけの所に生えるから、イシカグマという。「カグマ」はシダ類の古名である。

【関連文献】

保シダ p.50，平シダ p.103，愛知県 p.506.
倉田　悟・中池敏之（編）．1979．日本のシダ植物図鑑 1:170-178．東京大学出版会，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　シシガシラ科＞

コモチシダ　*Woodwardia orientalis* Sw.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。名古屋市では生育地も個体数もきわめて少ない。

【形　態】

常緑性のシダ植物。根茎は太くて短くはい、葉を束生する。根茎と葉柄の基部には、披針形、長さ 2～3cm、膜質で褐色の鱗片を密生する。葉柄は長さ 30～60cm、葉身は狭卵形～広卵形で 2 回羽状中裂～ほぼ全裂、長さ 30～200cm、厚い革質である。裂片は長三角形で鋭頭、辺縁に鋸歯がある。葉の表面に楕円形の無性芽をたくさんつけることが多い。胞子のう群は羽軸や小羽軸に沿ってならび、狭長楕円形で長さ 2～5mm、宿存性の厚い包膜に包まれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（竜泉寺，日比野修 4684，1998-10-31）に生育していた。

【県内の分布】

東三河南部には比較的多いが、他では少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、半田武豊、常滑、美浜南知多に生育している。

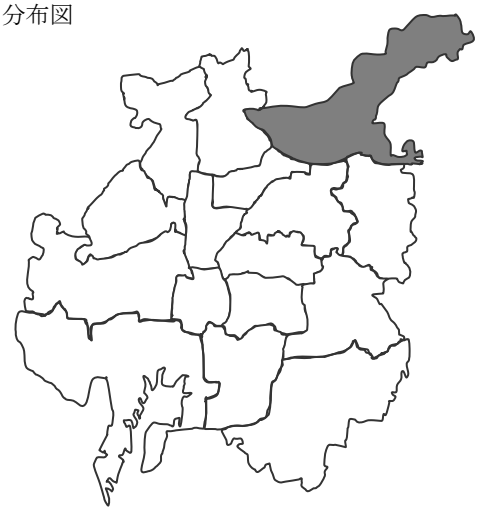
【国内の分布】

本州（東北地方南部以南）、四国、九州に分布する。国内の南限は屋久島である。変種のハチジョウカグマ var. *formosana* Rosenst.は、本州（関東地方南部）、四国、九州、琉球、小笠原に分布する。

【世界の分布】

日本、中国大陸。種としては日本、フィリピンからヒマラヤまで分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

主に山麓や海岸近くの丘陵地などに生育し、崖地から大きな葉を下垂させることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

竜泉寺には複数の群落があったが、道路の拡幅工事等により生育地が削られ、ほとんど消滅してしまった。最近の状況は確認されておらず、個体数は見込み値である。

【保全上の留意点】

生育地の崖地を保全することが必要である。

【特記事項】

和名は子持ちシダで、葉の表面に多数の無性芽をつけることに由来する。

【関連文献】

保シダ p.144，平シダ p.157.
倉田　悟・中池敏之（編）．1985．日本のシダ植物図鑑 5:718-731．東京大学出版会，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　ウマノスズクサ科＞

オオバウマノスズクサ　*Aristolochia kaempferi* Willd.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 3、総点 15。林地に生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

【形　態】

高さ数 m になる木質のつる植物。若い茎は軟毛を密生する。葉は互生し、長さ 3～5cm の柄がある。葉身は卵状心形～三角状心形、長さ 6～14cm、幅 5～13cm、先端は鋭頭～縁頭、辺縁は全縁、裏面には密に斜上する短毛がある。幼株の葉身はしばしば細長くなり、基部両側に丸い耳状の裂片がつく。花期は 4 月下旬～6 月上旬、花は葉腋に 1 個つき、長さ 2～3.5cm の柄があり、がく筒は基部で下を向き、途中で強く曲がって上を向き、舷部は円形に拡がって直径 2cm 程度になり、筒部内壁と舷部の脈は暗紫褐色になる。果実は長さ 5cm 程度の長楕円形で、6 本の稜がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゐ子 3223, 2013-6-11; 吉根太鼓ケ根，芹沢 77228, 2001-4-28）に生育している。

【県内の分布】

尾張部の丘陵地に分布しており、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧の 3 区画で確認されている。

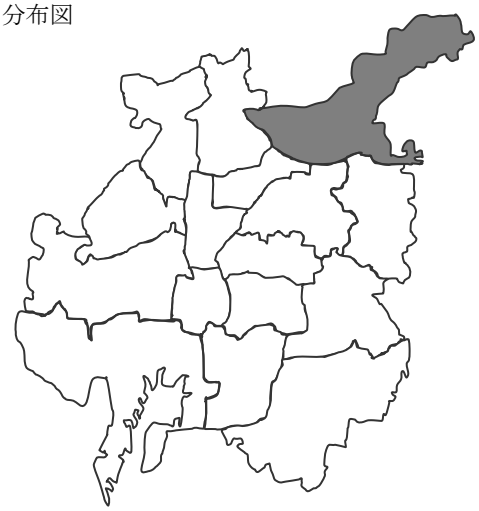
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の林縁、明るい林内などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区吉根には大きな群落があったが、土地造成により生育地の丘陵が破壊され、消滅した。幼株はまだ区内のところどころで見かけるが、開花するような株はほとんど残存していない。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、本種が生育できる丘陵地そのものが激減している。丘陵地の地形を保全する必要がある。

【特記事項】

若い株の葉は側裂片が耳状になり、ホソバウマノスズクサと誤認されることがある。従来愛知県でオオバウマノスズクサとされてきた植物は，大部分が変種のタンザワウマノスズクサ var. *tanzawana* Kigawa にあたる。タンザワウマノスズクサは，葉裏の毛が開出し，がく筒内壁に多くの紫点があることでオオバウマノスズクサから区別される。

【関連文献】

保草Ⅱp.318，平草Ⅱpp.102-103.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　シバナ科＞

シバナ　*Triglochin maritimum* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 15. 特に西日本で減少傾向の著しい塩湿地性の植物で、名古屋市では生育できる場所が限られている。

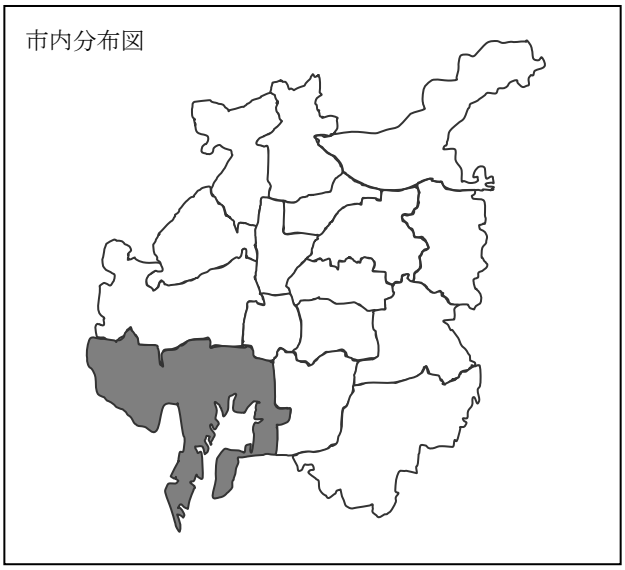
【形　態】

多年生草本。地下茎は太く、横にはい、よく分枝して株になる。葉は束生し、細い線形、長さ 10～40cm、幅 1.5～5mm、断面は半月形、先端は鈍頭、下部は葉鞘となる。葉鞘は白色で、先端に長さ 3～5mm の葉舌がある。花期は 9～10 月、花茎は高さ 15～50cm で直立し、その上部の長さ 5～15cm の総状花序に、多数の花をつける。花には花時に長さ 1.5～2mm、果時に長さ 2.5～5mm の柄があり、花被片は 6 枚、黄緑色、楕円形で長さ約 2.5mm、雄ずいと心皮も 6 個である。果実は 6 心皮が集まって長楕円形となり、長さ 3.5～4.4mm、先端に柱頭が残存する。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（当知町庄内川河川敷，芹沢 77749, 2001-10-23）に生育している。



【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、田原東部、田原西部、西尾北部、西尾南部、大府東浦、東海知多の 7 区画で確認されている。常滑で採集された標本もある。三河湾では比較的多く、中にはかなり大きい群落もある。伊勢湾愛知県側では、名古屋市のほかは知多市の「よくもこんなところに･･･」と思うほどの埋め立て地の水路に小群落があるだけである。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。北日本のものは、マルミノシバナとして区別されることがある。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

河口や干潟などの塩湿地に生育する。自然度の高い塩湿地だけでなく、護岸堤防のすき間、埋め立て地の水路など、攪乱された場所に大きい群落を作っている場合もある。

【現在の生育状況／減少の要因】

生育している場所は、かなり狭い範囲に限られている。ごく最近の状況は確認していないが、当面は存続すると思われる。しかし、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

本種は塩湿地性植物の中ではやや攪乱された場所にも生育するが、本来の生育地が失われているという状況は、より自然度の高い場所だけに生育する種と同様である。

【特記事項】

和名は、「塩場菜」という意味で、「芝菜」ではないと言われている。

【関連文献】

保草Ⅲp.405，平草Ⅰp.9，SOS 旧版 p.90，環境庁 p.561，SOS 新版 p.155，愛知県 p.594.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ヒルムシロ科＞

ヒルムシロ　*Potamogeton distinctus* A.Benn.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。水田や浅い丘陵地のため池に多い水草で、名古屋市では生育地が少ない。

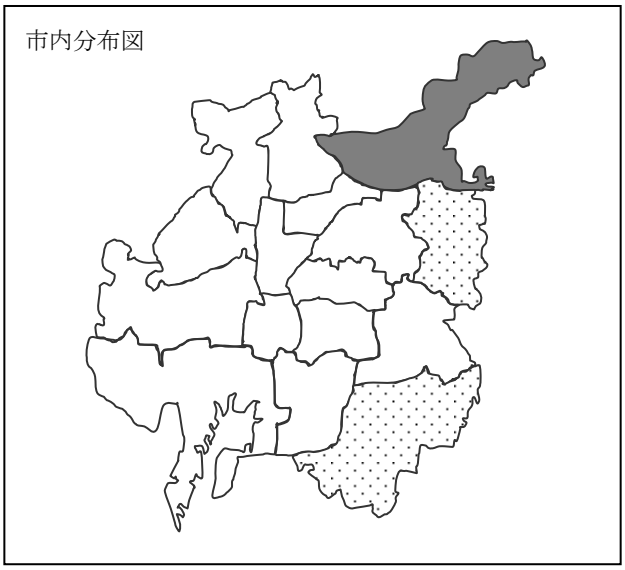
【形　態】

多年生の水草。池下茎は泥中をはい、1 節おきに根と水中茎を出す。水中茎は水田に生育するものでは短いが、ため池に生育するものでは長さ 1m 以上になる。沈水葉には明瞭な葉柄があり、葉身は披針形、先端は鋭尖頭。水上葉は長さ 5～20cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 5～10cm、幅 2～4cm、表面は光沢のある緑色、裏面は黄緑色である。花期は 6～10 月、浮水葉の腋から柄をのばし、その先に長さ 2.5～5cm の穂状花序をつける。水の引いた池や落水後の水田では陸生形となる。地下茎の先端または節の部分にバナナの房状の殖芽を形成して冬を越す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大久手池，鳥居ちゑ子 2654，2008-8-26；大森八龍雨池，中村　肇 731, 2014-10-25, NBC1338）に生育している。名東区（猪高緑地スリ鉢池，芹沢 77438, 2001-6-9 など）、緑区（鳴海町螺貝戸笠公園，太田美根子 1, 1994-6-20）にも生育していた。



【県内の分布】

山間部から平野部にかけて点在しているが、近年減少傾向が著しい。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、犬山、春日井、一宮西部で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川、水路、水田などに生育する浮葉植物。他のヒルムシロ類と異なり水田にも生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

緑区では戸笠公園の小池に群生していたが、その場所が体験農場らしい水田にされ、消滅した。戸笠公園の事例は、緑地公園の中で未整備のまま一般市民が利用しにくい状態になっている場所が、実は野生生物にとって残された最後の砦になっていることを示している。管理担当者も一般市民も、そのような場所が決して「未利用の、無駄な場所」でないことを、はっきり意識する必要がある。また他の場所においても、公園整備等により激減している。

【保全上の留意点】

現存する自生地については、生育地の水質を保全することが必要である。

【特記事項】

山間部のため池に多いフトヒルムシロ *P. fryeri* A.Benn.と異なり、近年の減少傾向は著しい。

【関連文献】

保草Ⅲpp.412-413，平草Ⅰp.10，愛知県 p.595.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.33．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.113．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ユリ科＞

ササユリ　*Lilium japonicum* Thunb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1，総点 14。淡紅色の大きい花をつけるユリで、園芸目的の採取により激減している。

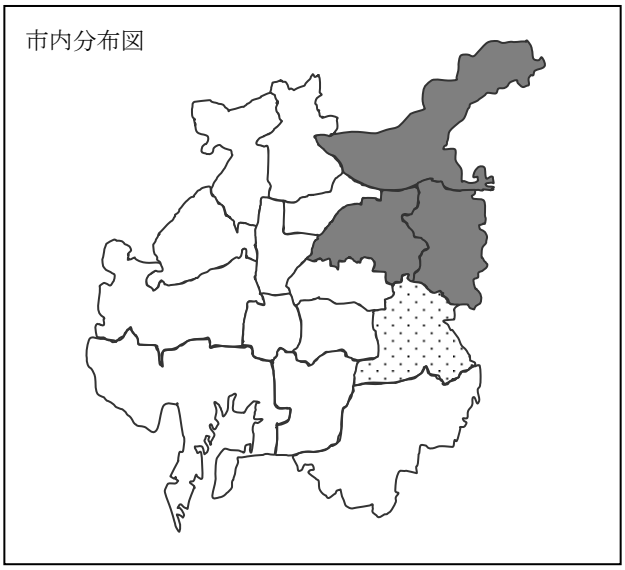
【形　態】

多年生草本。地下に卵形～広卵形で直径 2～4cm の鱗茎がある。茎はやや斜めに伸び、分枝せず、高さ 50～100cm になる。葉は互生し、比較的少数、長さ 4～10mm の柄があり、葉身は披針形、ときに多少鎌形になり、長さ 8～23cm、先端は鋭尖頭である。花期は 6～7 月、花は茎の先端に 1～数個が横向きにつき、漏斗形、淡紅色またはほとんど白色、花被片は 6 枚、外片は披針形、内片は長楕円形で長さ 10～15cm、先端はやや反りかえる。蒴果は倒卵形、長さ 3～4cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（標本なし）、千種区（平和公園，鳥居ちゑ子 397, 1993-6-13）、名東区（標本なし）、天白区（八事裏山，渡邉幸子 2594, 1996-4-25）などに生育していたが、最近はほとんど見かけない。



【県内の分布】

個体数はそれほど多くないが、山地から丘陵地まで、広い範囲に生育している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かで確認しているが、どの場所でも個体数は少なかった。花が目立つため、園芸目的で持ち去られることが多い。ササ類などの繁茂により、被陰されて衰退している場合もある。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取については、基本的には公共の資産である自然物を個人の庭に取り込もうという山草愛好家のモラルが問題である。周囲の市民が山草栽培に厳しい目を向け、「自然の植物は自然の中で」というルールを徹底させていくことが必要である。

一方里山の保全については、林床状態の維持が重要である。経済的必然性がなくなった現在では市民参加の里山保全活動を行うことも考えられるが、その場合は林床の踏み荒らしを極力避けると共に、たとえ隣接した場所からであっても植物を持ち込まないよう、特に注意する必要がある。自然には自然の回復力がある。植物が生育できる条件を整えたら、あとはその植物が自分の力で存続するのを見守るべきである。

【特記事項】

和名は、葉の形がササに似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.129，平草Ⅰp.41.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

サイハイラン　*Cremastra appendiculata* (D.Don) Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 15。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。偽球茎は卵形、長さ 2～3cm、通常 1 葉を頂生する。葉は 5～18cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 25～40cm、先端は鋭尖頭、薄い革質で無毛である。花期は 5～6 月、花茎は直立し、高さ 30～50cm、基部は鞘状葉につつまれる。花は花茎の上部にやや密に 10～20 個つき、紅紫色を帯びた淡緑褐色、下向きに垂れる。苞は線状披針形、長さ約 7mm、鋭尖頭である。がく片や側花弁は線状披針形、長さ 3～3.5cm、幅 4～5mm、唇弁は長さ 3cm で、基部が少しふくらみ、上端付近で 3 裂し、側裂片は披針形、中裂片は長楕円形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根, 標本なし）、名東区（上社, 半田多美子 1552, 1994-5-17）に生育していた。

【県内の分布】

低山地を中心に点在するが、それほど多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

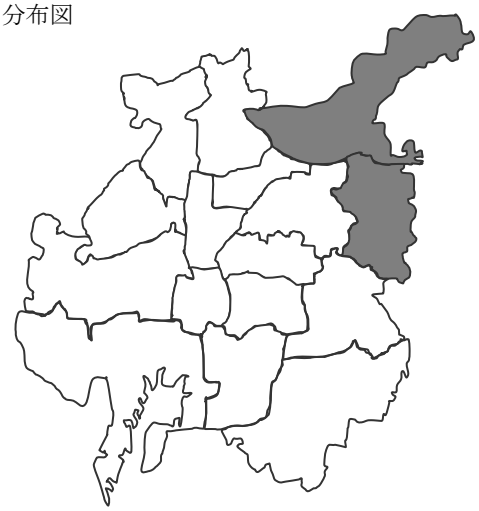
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部からヒマラヤまで分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いのやや湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

レッドデータブックなごや初版を発行した 2004 年当時は 2 ヶ所の林内にそれぞれ 2～3 株が生育していた。その後確認できないが、もともと生育密度が極めて低かったので、どこかに残存している可能性はある。個体数、集団数は見込み値である。1975 年頃まではところどころにあったらしい。

【保全上の留意点】

生育地の丘陵の地形を保全することが必要である。また林床性の植物なので、本種に関しては森林の伐採を避ける必要がある。

【特記事項】

和名は、花序の状態が采配に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.57，平草Ⅰp.227.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

カキラン　*Epipactis thunbergii* A.Gray

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市ではかつては点在していたが激減し、現在ではわずかに残存しているにすぎない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は横にはう。地上茎は高さ 35～85cm になり、平滑で、基部はやや紫色を帯び、3～4 個の鞘状葉がある。葉は 5～10 枚が互生し、狭楕円形～広披針形、大きいものは長さ 8～14cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱いて短い鞘になり、縦脈が目立つ。花期は 6～7 月、花は茎の上部に 5～15 個つき、黄褐色の花をつける。がく片は狭長卵形、長さ 12～15mm、鋭頭、側花弁は卵形、がく片とほぼ同長で、鈍頭である。唇弁は側花弁と同長で、内面には紅紫色の斑があり、関節によって上下 2 唇にわかれ、上唇は広卵形で基部に 3 隆条があり、下唇は倒心形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（芹沢 84170, 2009-6-9）に生育している。緑区（滝の水湿地，浜島繁隆 s.n., 1971-6-20）で採集された標本もある。

【県内の分布】

丘陵地～山地の湿地に広く分布し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

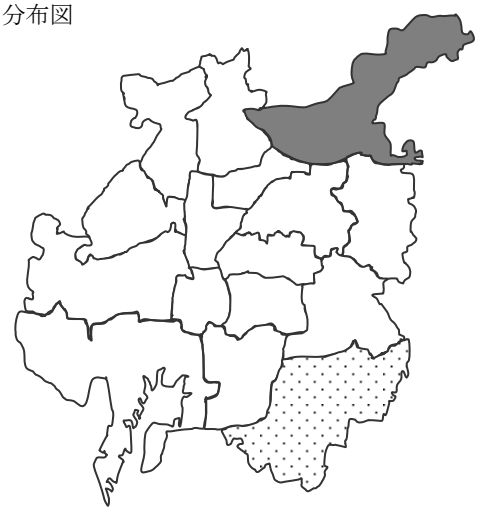
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

泥質の湿地の林縁などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では以前はそれほど少ない植物ではなかったが、湿地の消失や園芸目的の採取により、ほとんど消滅してしまった。現在では 1 ヶ所にややまとまった群落が残存しているのを確認できただけである。緑区では、生育地が宅地造成のため破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

生育地の湿地を、水源部まで含めて保全することが必要である。園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 12 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲpp.30-31，平草Ⅰp.208.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

クロヤツシロラン　*Gastrodia pubilabiata* Y.Sawa

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ＩＢ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 2。里山に生育する腐生植物で、名古屋市では生育地がきわめて少ない。現存は確認できないが、愛知県では増加傾向にある植物でそのうちにどこかで再発見される可能性が高いことを考慮し、絶滅危惧ＩＢ類と評価した。

【形　態】

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2.5～4cm、直径 4～10mm の紡錘状の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 2～5cm、3～4 個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 9～10 月、茎の先端部に黒褐色の花を 3～8 個、密な総状花序につける。苞は卵形、長さ 3～6mm である。花は 3 がく片が合着して長さ約 1cm の鐘状になり、口部は 3 裂し、裂片の内側に小さい 2 個の側花弁がある。唇弁は上面に黄白色の毛が密生する。花柄は花時には長さ約 1cm であるが、花後著しく伸長して 20～40cm に達する。果実は細長い楕円形、長さ 1.8～3cm、直径 5～7mm、黒褐色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地，鳥居ちゑ子 2046, 2001-10-23）、天白区（平針黒石，中島ひろみ 375, 1993-11-25）で採集された標本がある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来北東部、新城、豊川、蒲郡、豊橋南部、田原東部、豊田東部、岡崎北部、西尾南部、瀬戸尾張旭などで生育が確認されている。

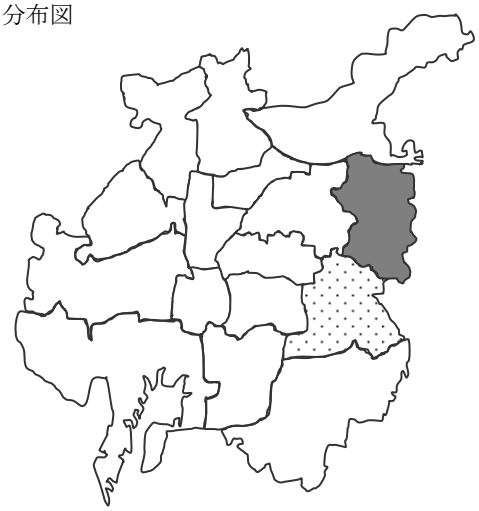
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の竹林、二次林、スギ造林地内などに生育する。名古屋市の生育地は竹林であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

猪高緑地では１ヶ所に小群落があり、多い年には30株くらい開花していたが、最近は確認できない。タケノコ掘り、自然薯掘りの人が多数立ち入るため、踏み荒らしや掘り返しにより消滅した可能性がある。平針黒石にも小群落があったが、竹が切られて乾燥化が進み、見られなくなった。

【保全上の留意点】

竹林の繁茂は丘陵地の生物多様性に対する大きな脅威である（イナカギクの項参照）が、本種に限定すれば生育地の竹林を保全することが必要である。自然とのふれあい活動を楽しむ人、あるいは写真撮影などに訪れる人による踏みつけも懸念される。

【特記事項】

地表近くに黒褐色の花をつけるため、花時にはほとんど発見できない植物である。本種の主要生育地である里山は、開発圧力は高いが、開発されないところでは急速に森林化が進んでいる。竹林の増加も、本種だけのことを考えればむしろ好都合である。そのため本種は全国的にもやや増加傾向にあるように思われ、全国で絶滅危惧ＩＢ類という評価はどう見ても過大である。

【関連文献】

SOS 旧版 p.111，環境庁 p.403.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

ミヤマウズラ　*Goodyera schlechtendaliana* Rchb.f.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。茎の下部は匍匐し、上部は直立して高さ 12～25cm となる。葉は茎の下部に数個が互生し、長さ 1～2cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 2～4cm、先端は鋭頭、質はやや厚く、通常白色の網斑がある。花期は 8～9 月、花は茎の上部に 7～12 個つき、一方を向いて並び、ほとんど白色、苞は披針形、長さ 5～12mm である。がく片は狭卵形、鈍頭、側花弁は広倒披針形、がく片よりやや長く、先端内側に黄褐色の小班がある。唇弁はがく片と同長で、基部はふくらむ。葉に白斑がないものをアオミヤマウズラ form. *similis* Makino という。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，日比野修 4595, 4596, 1998-7-23）に生育している。4596 はアオミヤマウズラの型である。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

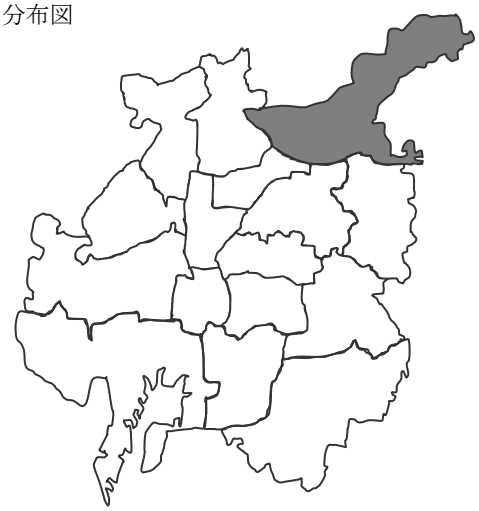
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美大島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。散在することが多く、大きな群落は作らない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 ヶ所で確認されているが、どちらも個体数は少ない。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな種類が？」と思われる絶滅危惧種の 1 例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が少なく、存続の基盤が脆弱である。特にラン科植物は個体数の少ないものが多く、ネジバナ以外はすべて絶滅危惧と言ってもよいほどである。

【関連文献】

保草Ⅲp.41，平草Ⅰp.213.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

ムヨウラン　*Lecanorchis japonica* Blume

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 2、総点 14。腐生植物で、名古屋市では生育地がきわめて少ない。

【形　態】

腐生の多年生草本。地下茎は長さ 5～15cm、木質で硬く、はじめ下を向き、すぐ反転して屈曲しながらまばらに分枝し、地表近くまで伸びる。地上茎は直立し、高さ 20～50cm、淡褐色、3～7 個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は長さ 7～15mm、先端は鋭頭である。花期は 5～6 月、花は茎の上部にややまばらに 4～10 個つき、長さ 6～15cm の総状花序となり、淡褐色で平開し、苞は三角形、長さ 3～7mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、倒披針形で長さ 17～25mm、唇弁も倒披針形で長さ 15～20mm である。ずい柱側部の小突起はない。果実は線状楕円形で長さ 3～4cm、茎とともに乾くと黒色になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，飯尾俊介 s.n., 2003-6-4）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊根東部、豊根西部、鳳来北東部、藤岡、豊田東部、豊田北西部、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井などで確認されている。

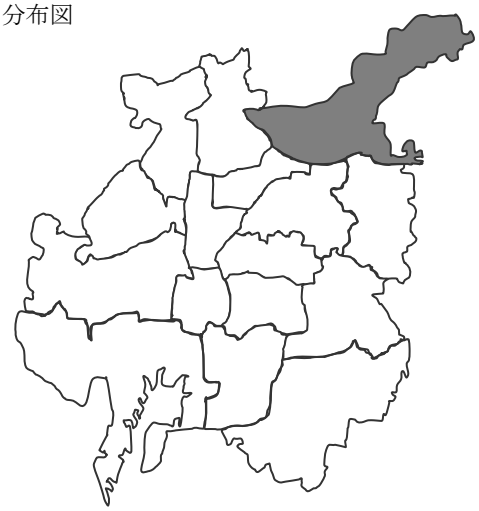
【国内の分布】

本州（東北地方南部以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の林内に生育する。常緑広葉樹林だけでなく、落葉広葉樹の二次林内にも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

1 ヶ所で少数の個体が確認されているだけである。当面は保全されそうな場所であるが、観察のため訪れる人が多くなれば、踏み荒らし等による影響が懸念される。

【保全上の留意点】

生育地の地形と森林を保全することが必要である。

【特記事項】

愛知県のムヨウラン類の中では大型の種類で、根が深いこと、花が平開すること、花序が長いことが特徴である。やはり大型で、花が平開せず茎の先端に集まってつくホクリクムヨウランは、瀬戸市や春日井市には生育しているが、名古屋市では確認されていない。小型のエンシュウムヨウランは、2004 年のレッドリストでは準絶滅危惧と評価されたが、里山の森林化に伴い名古屋市内でもあちこちで確認されるようになり、2010 年及び今回のリストではリスト外と評価された。

【関連文献】

保草Ⅲp.28，平草Ⅰp.206.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

コバノトンボソウ　*Platanthera tipuloides* (L.f.) Lindl. var. *nipponica* (Makino) Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 15。湿地性の植物で、名古屋市では生育地がきわめて少ない。

【形　態】

多年生草本。根は一部が肥厚する。茎は直立し、高さ 30～90cm、細く繊細で、基部に 2～3 個の鱗片葉をつける。通常葉は茎の中部に数個つき、最下のものだけが大きく、線状楕円形、長さ 3.5～15cm、先端は鈍頭、基部は茎を抱く。小型の株では他の葉はほとんど目立たないが、大型の株では次の 1～2 個も多少発達する。花期は 6～8 月、花は茎の上部にまばらに 3～15 個つき、淡黄緑色、苞は披針形である。背がく片は卵形、長さ 2～2.5mm。側がく片は長楕円形、側花弁は斜長楕円形、ともに背がく片よりやや長い。唇弁は長さ 2.5～4mm、距は長さ 15～20mm で、上方に反りかえる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 403, 1993-7-4）に生育している。守山区の他の場所（小幡緑地, 芹沢 56216, 1990-8-8）、千種区（茶屋ケ坂，井波一雄 s.n., 1934-7-7, CBM264605）、天白区(八事，立川 s.n., 1952-8-19)、緑区（桶狭間，稲垣貫一 s.n., 1947-6, CBM109998）にも生育していた。東山（千種区？）産という個体の写真は、奥山（1960）に掲載されている。

【県内の分布】

丘陵地に広く分布し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、常滑、美浜南知多、犬山、春日井で確認されている。

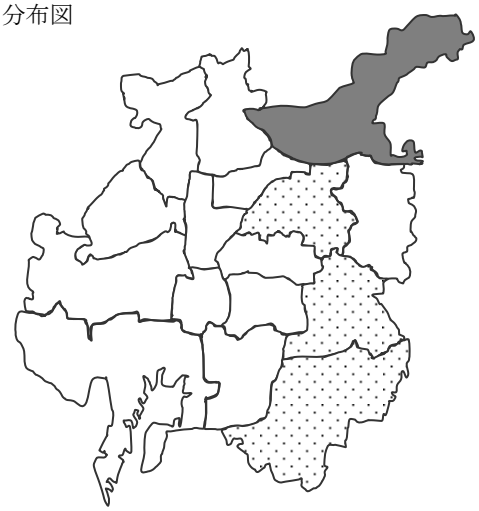
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の日当たりのよい場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では最近は 1 ヶ所の湿地で確認されているだけで、個体数も開花するものは数株にすぎない。花が目立たないため採取圧はそれほど著しくないが、遷移の進行により湿地が縮小しており、その点で将来の存続が懸念される。観察者・カメラマンによる踏み荒らしも懸念される。小幡緑地では公園整備のため湿地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

生育地の湧水湿地を、水源部も含めて保全することが必要である。また緑地公園の整備に当たっては、有名な目立つ植物だけでなく目立たない生物についても生育・生息状況を把握し、改変を最小限に止める努力が必要である。

【引用文献】

奥山春季．1960．原色日本野外植物図譜 2:pl.161．誠文堂新光社，東京.

【関連文献】

保草Ⅲp.21，平草Ⅰp.198.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　アヤメ科＞

ノハナショウブ　*Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 15。湿地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

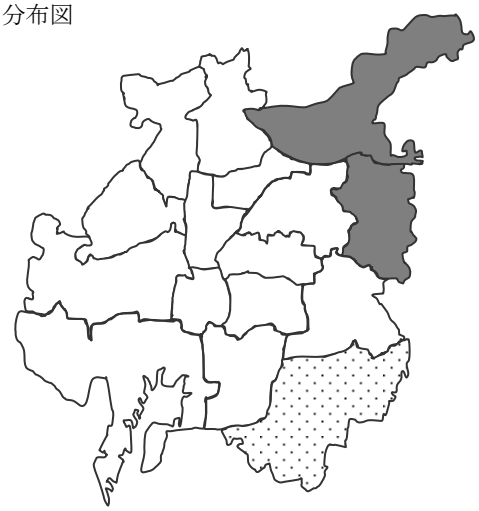
多年生草本。地下茎は横にはって分枝し、褐色の繊維につつまれる。葉は剣状で 2 列につき、長さ 30～80cm、幅 5～20mm で、中脈がある。花期は 6～7 月、花茎は高さ 40～110cm、先端に数個の苞をつけ、そこから次々に花を開く。花は紫色で直径 9～13cm、外花被片は柄状の部分を除き楕円形、長さ 4～7.5cm、幅 3～4.5cm、開出して反曲し、中央から基部にかけて黄色の条がある。内花被片は倒被針形で直立し、長さ 3～4cm、花柱分枝の先は 2 裂し、裂片はほぼ全縁である。蒴果は楕円形、長さ 2～3cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山, 鳥居ちゑ子 1007, 1996-6-15）、名東区（牧野ヶ池緑地, 芹沢 77446, 2001-6-9）で採集された標本がある。最近の状況は確認していないが、少なくとも守山区では現存していると思われる。緑区（滝の水, 浜島繁隆 s.n., 1971-6-10）にも生育していた。

市内分布図



【県内の分布】

山間部では比較的多いが、丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、半田武豊、美浜南知多、犬山、春日井で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア東部。

【生育地の環境／生態的特性】

山地では湿地のほか林道のわき、尾根の草地などにも見られるが、丘陵地では生育地は湧水湿地下部の泥質の場所やため池の周辺などに限られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では森林化の進行により生育地の湿地が縮小し、被陰されてほとんど花がつかない状態になっている。名東区ではため池の富栄養化によりキショウブなどが侵入し、圧迫されている。花が目立つため、園芸目的で採取されることもある。採取されなくても訪れる人が多くなれば、踏み荒らし等の攪乱が懸念される。緑区では、生育地が宅地造成のため破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる踏み荒らしを防止する必要がある。

【特記事項】

園芸品のハナショウブはノハナショウブをもとに改良されたもので、多数の品種がある。

【関連文献】

保草Ⅲpp.77-78，平草Ⅰp.61.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　キジカクシ科＞

ミヤマナルコユリ　*Polygonatum lasianthum* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。根茎は横にはう。茎は稜角があり、上部は弓状に曲がり、高さ 30～70cm になる。葉は互生し、ごく短い柄があり、葉身は卵形～長楕円形、長さ 6～10cm、先端は鈍頭、両面無毛で、通常裏面は粉白を帯びる。花期は 5～6 月、花は葉腋に 2～3 個ずつつき、下垂する。花筒は白色で長さ 17～20mm、先端は浅く 6 裂する。液果は直径 8～12mm で、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味宮前，鳥居ちゑ子 871，1995-5-13）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多い。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

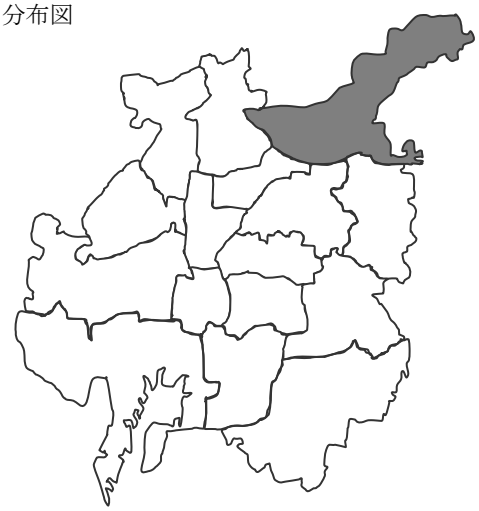
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

1 ヶ所に少数の個体が生育しているにすぎない。生育地の乾燥化などにより、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

生育地の地形と森林を保全することが必要である。

【特記事項】

52 頁に名古屋市では絶滅として掲載したナルコユリ *P. falcatum* A.Gray からは、根茎の節間が短く、葉は幅広くて少数、花柄は横に張り出すことで区別される。

【関連文献】

保草Ⅲp.110，平草Ⅰp.46.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ガマ科＞

ヤマトミクリ　*Sparganium fallax* Graebn.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 15. 全国的に減少傾向の著しい水草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生の水草。地中を横にはう根茎がある。地上茎は立ち、分枝せず、高さ 50～120cm になる。葉は2列に互生して立ち、線形、幅 8～15mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があって断面は三角状となり、下部は葉鞘となる。花期は 7～8 月、花序は分枝しない。下部には 3～6 個の雌性頭花がお互いにやや離れてつき、柄の全部または一部と主軸が合着する。雌性頭花のつく部分は主軸がジグザグ状に屈曲していることが多い。上部には 4～8 個の雄性頭花が付く。雌性頭花と雄性頭花は 1cm 以上離れる。果実は紡錘形で長さ 5～6mm、中央部がくびれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流，芹沢 82964, 2008-7-16）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、田原西部、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井の 6 区画で確認されている。

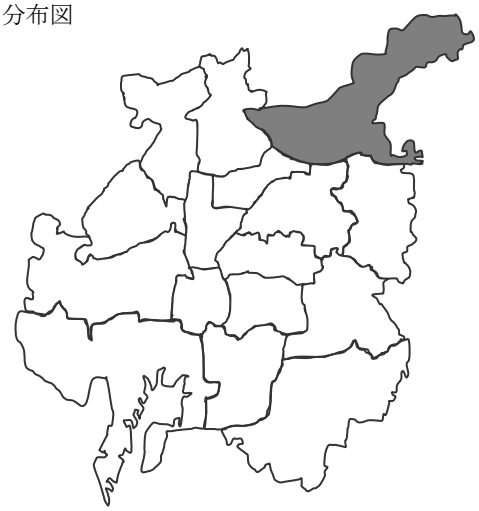
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

池沼やため池、水路などに生育する抽水植物。一般的に止水域に多いが、名古屋市では湧水の流れる水路に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

才井戸流では水路中にヤマトミクリのほかミクリ、ナガエミクリも生育している。よく開花するが、個体数はナガエミクリに比べはるかに少ない。周囲の開発により、将来の存続が懸念される。仮に水路自体は保全されても、公園化されれば水質が悪化し、帰化植物等が侵入することも予想される。

【保全上の留意点】

生育地を、その周辺の地形を含めて保全することが必要である。

【特記事項】

最下の雌性花序は、しばしば次の苞と対生するほど腋上性になる。

【関連文献】

保草Ⅲp.420，平草Ⅰp.142，環境庁 p.586，SOS 旧版 p.103+図版 22，SOS 新版 pp.122-123，愛知県 p.610.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.80．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.151．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ホシクサ科＞

ツクシクロイヌノヒゲ　*Eriocaulon kiusianum* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 3、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して斜上し、線形、長さ 10～18cm、基部で幅 3～6mm、全縁、先端は次第に細くなる。花期は 8～10 月、花茎は多数つき、中央の 1 本は高さ 8～23cm、他はそれより短く、先端に倒円錐形の頭花をつける。頭花は直径 4～5mm、多数の花からなり、総苞片は頭花よりやや短く、長楕円形、鈍頭、花床には毛がない。小花は黒藍色で、雌花のがくの内面に長毛があるほかは各部とも無毛、子房と蒴果は 3 室である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味滝ノ水池，標本なし，尾張旭市側で採集された標本は村松正雄 552, 1986-9-30）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田東部、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、春日井で確認されている。

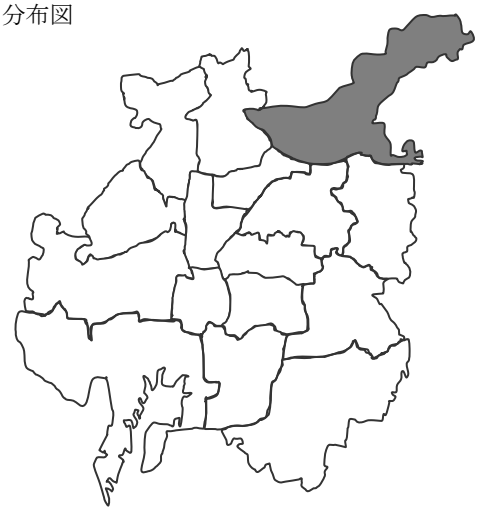
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県での生育地は、いずれも干上がったため池の岸である。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、尾張旭市との境界にある滝ノ水池で生育が確認されている。個体数は年変動が著しく、水位の低下しない年には全く見られないこともある。

【保全上の留意点】

滝ノ水池は本種以外にもタチモ、オオトリゲモなど名古屋市では希少な植物が生育しており、周辺の丘陵地と共に現在の水質と環境を維持すべき場所である。

【関連文献】

保草Ⅲpp.184-185，平草Ⅰp.82，SOS 旧版 pp.97-98（クロイヌノヒゲとして），愛知県 p.605.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ホシクサ科＞

シラタマホシクサ　*Eriocaulon nudicuspe* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、補正+2（固有）、総点 15。本地域の湧水湿地の代表的な固有種で、名古屋市内では生育できる環境が減少している。

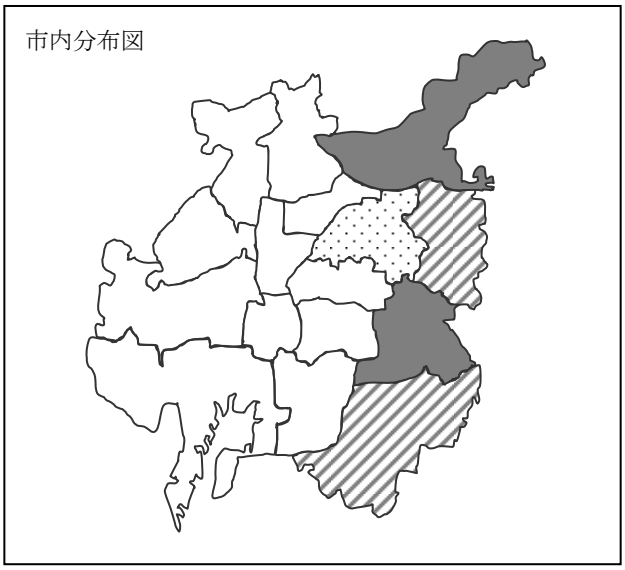
【形　態】

1 年生草本。茎は通常ごく短いが、多少伸長することもある。葉は束生して斜上し、線形、長さ 5～30cm、幅 1～5mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 8～10 月、花茎は 1 本のものから 50 本以上出るものまであり、直立して高さ 15～60cm、4 肋があってねじれ、基部に 3～12cm の鞘があり、先端に 1 個の頭花をつける。頭花は球形、直径 5～10mm、総苞片は倒卵形で淡褐色、頭花より短く、小花には多くの白色の短毛がある。子房と蒴果は 3 室である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゐ子 503, 1993-9-6）、天白区（島田緑地，中村　肇 697, 2014-9-13, NBC1328 など）に生育している。守山区の他の場所（小幡緑地，芹沢 56973, 1990-9-12）、千種区（田代町、広部　栄 155, 1993-8-23）で採集された標本もある。緑区にも生育していたらしい。



【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、春日井の 18 区画で確認されている。刈谷知立、東海知多などにも生育していたが絶滅した。

【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県、岐阜県東濃地方、三重県北部）に分布する。九州（宮崎県）にも似たものがある。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湧水湿地の、日当たりのよい場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところはまだ良好な自然集団と思われるものも残っているが、各種開発により本種が生育できる丘陵地そのものが減少しており、過去の状態に比べれば減少傾向は明らかである。ホシクサ科の植物としては例外的に花が美しいため、これ以上減少が続くと、園芸目的の採取による影響が出る可能性もある。観察者の踏み荒らしによる影響も大きい。

【保全上の留意点】

何はともあれ、湧水湿地の保全が必要である。その一方で本種は、本地域の固有種として有名でしかも花が目立つため、もともとはなかった湿地に播種されることも多い。例えば、名東区猪高緑地や緑区大高緑地のものは播種起源らしい。播種された結果は、すぐに消滅してしまうこともあるが、著しく増加し、本来の自然状態に対する大きな脅威となることもある。湿地はどれも同じではない。本来ないものは、「ない」のが自然の姿であることを忘れてはならない。

【特記事項】

播種されたもの、あるいは生育状況から判断して播種されたらしいものは、分布状況等の記述から除外してある。名古屋市内ではまだ本来の生育地が残存しているので、明らかに播種された場所のものは、できれば除去することが望ましい。

【関連文献】

保草Ⅲp.182，平草Ⅰp.80，環境庁 p.576，SOS 旧版 p.98+図版 18，SOS 新版 p.90，愛知県 p.446.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

イセウキヤガラ　*Bolboschoenus planiculmis* (F.Schmidt) T.V.Egorova

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。河口部の塩湿地に生育する植物で、名古屋市では生育地が限られている。

【形　態】

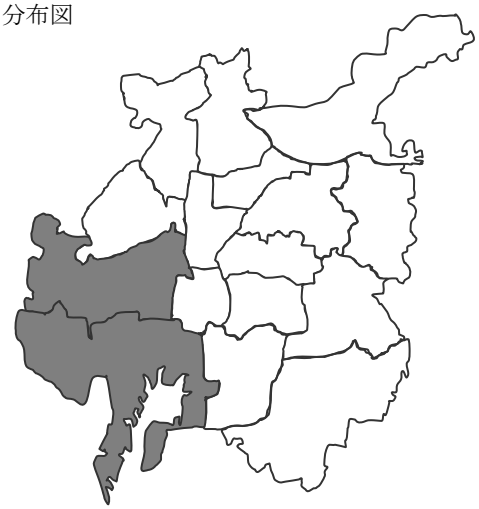
多年生の水草。地下茎は細く地中をはい、先端に塊茎をつける。茎は通常単生で直立し、高さ 40～60cm になる。葉は茎の下部に 2～4 個付き、長い葉は茎と同じ高さまで伸び、断面は鋭三角形、幅 2～5mm である。花期は 6～8 月、小穂は茎の先端に通常 1 個、ときに 2～3 個つき、無柄で卵形～卵状楕円形、長さ 1～1.8cm、褐色、先端は尖る。苞は通常 2 個で、下の 1 個は立ち、3 稜形、長さ 12～30cm、下部は茎に続き、上の 1 個は短く、小穂の半分以下の長さのことが多い。

【分布の概要】

【市内の分布】

中川区（下之一色町新川，中村　肇 662, 2014-7-12, NBC1316 ほか）、港区（宝神町庄内川河口，中村　肇 665, 2014-7-13, NBC1318; 船見町天白川河口，中村　肇 721, 2014-7-14, NBC1319）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

三河湾、衣浦湾、伊勢湾の奥部に流入する河川の河口部に生育し、尾張では名古屋市のほか、大府東浦、津島海部西、海部南部で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジア、ヨーロッパ。

【生育地の環境／生態的特性】

塩水の出入りする河口部の、満潮時には水没するような場所に生育する抽水～湿性植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川、新川、天白川の河口部に生育している。生育地は限られているが、生育状態は良好である。

【保全上の留意点】

当面は現状通り存続すると思われるが、長期的には河川水質の悪化や堤防の改修による影響が懸念される。

【特記事項】

日本では木曽三川河口部の三重県側で最初に発見されたため、イセウキヤガラの名が与えられた。

【関連文献】

保草Ⅲp.218，SOS 旧版 p.108+図版 26.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.88．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.171．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ミノボロスゲ　*Carex albata* Boott

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 3、総点 14。北日本系の植物で、名古屋市は分布域の南限に近い。やや攪乱された土地に生育するが、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 20～60cm、3 稜があり、基部の葉鞘は赤褐色～黒褐色である。葉は細い線形、幅 2～3mm である。果期は 5～7 月、花序は卵状円柱形、長さ 3～5cm、小穂は密集してつき、卵円形、長さ 5～8mm、すべて雌雄性で上方に雄花、中下部に雌花をつけ、淡緑白色である。苞はあまり発達しないが、下方のものは時にやや葉状となる。果胞は三角状広披針形、長さ約 4mm、先端は次第に細まってやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（小幡緑地，鳥居ちゑ子 2894, 2011-5-21）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほかは、東三河の 3 区画（豊根東部、鳳来北東部、豊川）に生育しているだけである。

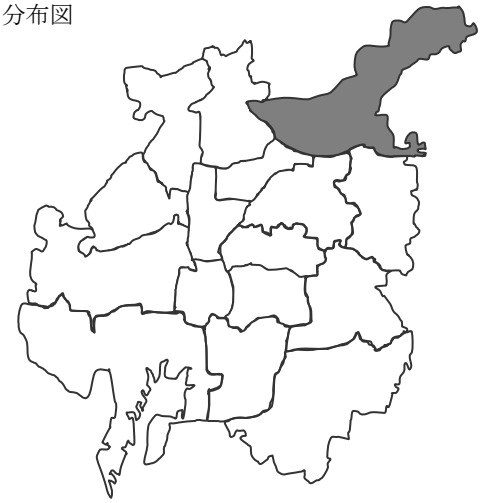
【国内の分布】

北海道および本州中北部。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やや攪乱された湿った草地に生育する。しばしば湿地の路傍などに群生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

2 ヶ所に小群落がある。生育地はいずれも踏みつけなど軽度の攪乱を受ける場所であり、一方で車の乗り入れ、他方で帰化植物の繁茂などにより存続が脅かされている。

【保全上の留意点】

本種のような植物の場合、存続のためには適度の踏みつけなどの人為的干渉が必要である。過度の干渉があっても、干渉がなくなっても消滅してしまう。このような場所も希少な植物の生育地として重要であることを、認識する必要がある。

【特記事項】

本種が過去に名古屋市に分布を拡大してきた過程で、工事用車両の移動など、何らかの人為がからんでいた可能性は否定できない。しかし、もともと踏み跡のような場所に多い植物であるから、ここでは自然分布として扱っておく。

【関連文献】

保草Ⅲp.260，平草Ⅰp.167，SOS 旧版 p.106，愛知県 p.466.
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.54．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ハマアオスゲ　*Carex fibrillosa* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ＩＢ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級2、集団数階級4、生育環境階級3、人為圧階級4、県内分布 1、総点 14。海浜性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、株をつくる。茎はやや硬く、高さ 5～20cm、基部の葉鞘は褐色で、後に繊維状に分解する。葉は細い線形、幅 1.5～4mm である。果期は 4～5 月、小穂は 3～6 個で、最下のものを除き接近してつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ約 1cm、白緑色、側小穂は雌性で、短円柱形～卵形、長さ 0.7～1.5cm、苞は葉状で、最下のものの基部は短い鞘になる。果胞は密集してつき、倒卵形～楕円形、長さ 2.5～3mm、嘴は短く、短毛があり、熟すと多少黄色を帯びる。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑 区（鳴 海 町 笹 塚，渡 邉 幸 子　6834, 2001-5-12）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、田原東部、田原西部、東海知多、常滑、美浜南知多、江南丹羽、一宮東部、一宮西部、稲沢、尾西祖父江、津島愛西で確認されている。

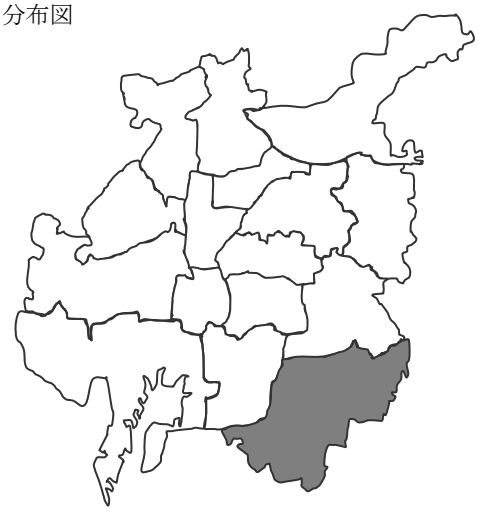
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸中南部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの砂地や草地、明るい林内などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

鳴海町笹塚の愛知用水沿いに、数 m 四方にわたって生育していた。生育地に耕耘機が入るなどして大きな影響を受けたが、2014 年の時点でまだ 2m×30cm ほどの範囲に残存している。名古屋市のものは小型で、高さ 5～10cm である。

【保全上の留意点】

緑地公園の中で未整備のまま一般市民が利用しにくい状態になっている場所は、野生生物にとっては残された最後の砦である。管理担当者も一般市民も、そのような場所が決して「未利用の、無駄な場所」でないことを、はっきり意識する必要がある。特に地形を改変するような工事を行う場合には、十分な事前調査が必要である。

【特記事項】

アオスゲ *C. breviculmis* R.Br.に比べ、丈が低く、匍匐枝がある。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧ＩＡ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp.275，平草Ｉp.160.
吉川純幹．1957．日本スゲ属植物図譜 1:106-107．北陸の植物の会，金沢．
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.245．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

センダイスゲ　*Carex lenta* D.Don var. *sendaica* (Franch.) T.Koyama

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、県内分布 3。愛知県では稀少な海岸性のスゲで、名古屋市でも生育地、個体数共に少ない。人為的環境下に生育しているので、定性的に絶滅危惧ⅠB類相当と判断した。

【形　態】

常緑性の多年生草本。長い匍匐枝があり、まばらな株を作る。茎は高さ 10～35cm、3 稜があり、基部の葉鞘は暗赤褐色で、繊維に分解する。葉は細い線形、幅 1.5～2.5mm である。果期は 8～10 月、小穂は 3～4 個、最下のもの以外は接近してつき、いずれも雌雄性、有柄、広披針形で長さ 7～15mm、先端部の約 1/3 には雄花、その下には 10 個内外の雌花がつく。苞は刺状で、基部は鞘となる。果胞は卵形、長さ 3～3.5mm、短い刺状毛があり、短い嘴がある。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城，鳥居ちゑ子 2669, 2008-10-31）。1 ヶ所に少数個体が生育している。古い時代に持ち込まれた可能性もあるが、少なくとも現在は自生状である。

【県内の分布】

名古屋市のほか田原西部、美浜南知多で確認されている。ただしどちらも匍匐枝の短いセンダイスゲモドキと呼ばれる型が多く、典型的なセンダイスゲは個体数がごく少ない。田原東部（姫島）と西尾南部（佐久島）にもあるという（小林・深谷 2008）。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

【生育地の環境／生態的特性】

通常は海岸のクロマツ林内などに生育する。名古屋市では植え込みの間に小群落がある。

【現在の生育状況／減少の要因】

2008 年は長さ 25cm ほどの茎が出ていたが、2009 年は生育が悪く、茎の長さも 10cm ほどであった。現在の管理を継続すれば存続すると思われるが、公園内なので土地改変により失われるおそれもある。

【保全上の留意点】

工事等の際には配慮が必要である。

【特記事項】

2004 年版以後の調査により、名古屋市内に生育していることが確認された。ナキリスゲ var. *lenta* に比べ、全体に小型で、長い匍匐枝がある。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司．2008．佐久島・三河湾島々の植物 pp.83,281．佐久島会，刈谷．

【関連文献】

保草Ⅲp.279，平草Ⅰp.152，愛知県 p.469.
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.91．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

アズマナルコ　*Carex shimidzensis* Franch.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【形　態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。茎は高さ 50～80cm、基部の葉鞘は葉身がなく、肉桂色、糸網はない。葉身は軟らかく、線形で幅 4～10mm である。花期は 5～6 月、小穂は 3～6 個、最下のものはやや離れるが他は茎の先端部に集まり、頂小穂は雄性、長さ 4～7cm、側小穂は雌性、ときに雄花を頂生し、円柱形で長 4～10cm、多数の花を密につけ、最下のものには長く、他のものには短い柄がある。果胞は卵状楕円形で長さ 2.5～3mm、平滑、無毛で脈もなく、上端は短い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，芹沢 84148, 2009-6-9; 吉根階子田，鳥居ちゑ子 2308, 2003-5-14 など）に生育している。

【県内の分布】

山地に点在するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井で確認されている。

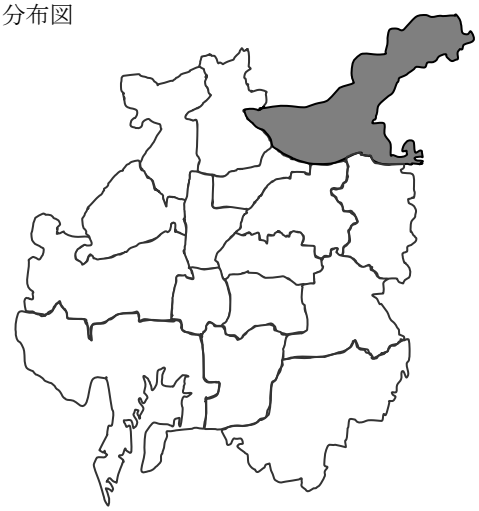
【国内の分布】

北海道、本州、九州北部。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島南部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの湿った林縁などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山ではその後確認に行っていないが、そのまま存続していると思われる。吉根では丘陵地の沢沿いに点在していたが、開発のため生育地が破壊された。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.301，平草Ⅰp.165.
吉川純幹．1957．日本スゲ属植物図譜 1:38-39．北陸植物の会，金沢．
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.121．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ヒメガヤツリ　*Cyperus tenuispica* Steud.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 3、総点 15。湿地性の植物で、愛知県でも名古屋市でも生育地が少ない。

【形　態】

1 年生草本。茎は束生し、高さ 10～25cm。葉は少数、基部の葉は葉身が退化し、上部の葉の葉身は茎とほぼ同長、線形、幅 1～3mm である。花期は 8～10 月、花序の枝は長さ 3～10cm、先端に長さ 0.5～3cm の小枝を出し、時には更に短い小枝を出して、その先に数個の小穂をつける。であるが、小型の個体では出ないこともあり、苞は 3～4 個で葉状、花序よりも長い。小穂は線形、長さ 3～7mm、鱗片は小さくてややまばらにつき、褐色、斜開して先端は切形になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味東禅寺池，鳥居ちゑ子 531，1993-9-23；小幡米野，福岡義洋 1990，1992-10-2）で採集された標本がある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋北部、旭、額田の 3 区画で確認されている。

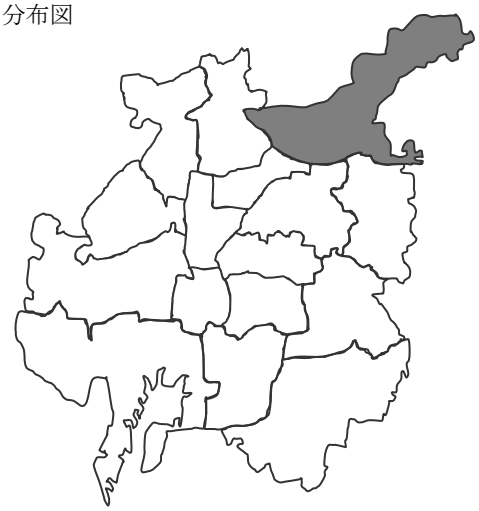
【国内の分布】

本州（福島県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

アジア、アフリカ、オーストラリアの熱帯～暖温帯に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

谷戸田やため池の岸に生育する。名古屋市の生育地はいずれもため池の岸であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

最近までツルナシコアゼガヤツリ *C. haspan* L. var. *microhaspan* Makino と混同されていたため、詳細は不明である。現存しているかどうかも未確認で、個体数階級は見込み値である。開発や水質汚濁によってすでに絶滅している可能性もある。

【保全上の留意点】

本種については調査が不十分であり、正確な生育状況を確認することが先決である。

【特記事項】

ミズハナビとも呼ばれる。ツルナシコアゼガヤツリは小穂がやや大型、鱗片もやや大きくてやや密につき、先端は中肋が微突出する。

【関連文献】

保草Ⅲp.239，平草Ⅰp.184，愛知県 p.475.
北川淑子・堀内洋．2001．カヤツリグサ属．神奈川県植物誌 2001pp.398-415．神奈川県立生命の星・地球博物館，小田原．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

イガクサ　*Rhynchospora rubra* (Lour.) Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 14。湧水湿地やその周辺に生育する植物で、名古屋市では生育地がきわめて少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【形　態】

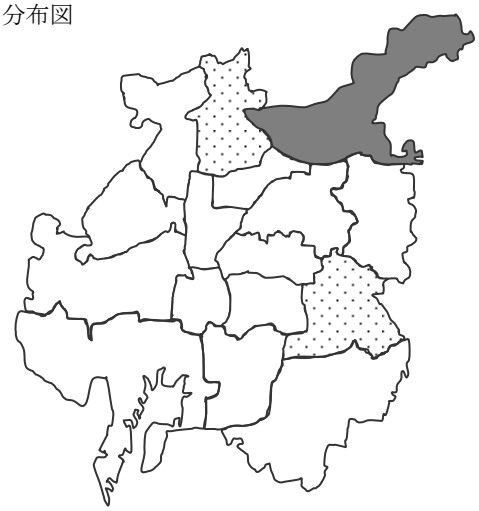
多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 25～70cm になる。葉は根生し、線形、幅 1～3mm である。花期は 8～9 月、花序は茎の先端に 1 個つき、球形～半球形で直径 1.2～1.8cm、基部には葉状で長さ 1～12cm の苞が数個ある。小穂は長さ 6～7mm、淡黄褐色、果実は倒卵形で、長さ 1.5～1.8mm、刺針状花被片は果実の半分ほどの長さで、上向きにざらつく。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味吉田, 鳥居ちゑ子 1871, 2000-10-1; 大森八龍, 柴田美子 s.n., 2009-9-27, NBC419）に生育している。北区（旧北練兵場跡, 犬飼　清 s.n., 1954-8-10）、天白区（天白町平針, 犬飼　清 s.n., 1967-9-16）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

丘陵地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷半田武豊、常滑、美浜南知多、春日井に生育している。

【国内の分布】

本州西部、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

平地や丘陵地の日当たりのよい湿った草地に生育する。愛知県では湧水湿地の中の、やや乾いた場所に多く生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

やせ山の中の湿った場所に、ややまばらに生育している。他の場所にもありそうに思われるが、現在のところは守山区の 2 ヶ所で確認されているだけである。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

名古屋市には本属の他の植物としてミカヅキグサ、イヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、コイヌノハナヒゲの 4 種が生育しているが、いずれも湧水湿地の指標植物として重要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.252, 平草Ⅰp.170.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

マツカサススキ　*Scirpus mitsukurianus* Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 2、総点 14。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

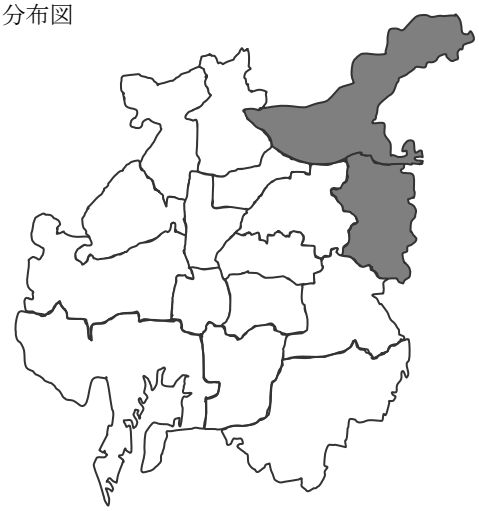
多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 1～1.5m となり、鈍い三角形、5～7 個の節がある。葉は線形、幅 4～8mm、葉鞘は長さ 3～10cm である。花期は 8～10 月、散房花序は頂生および側生し、頂生の分花序は大きく、長さ 5～10cm、苞は葉状で、花序よりも長く 3～5 枚つく。小穂は無柄、楕円形で長さ 4～6mm、褐色～赤褐色、10～20 個がかたまって径 1～1.5cm の球状の花序となる。果実は長さ約 1mm、淡褐色、刺針状花被片は長さ約 5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味新池，鳥居ちゐ子 2752, 2009-9-29；中志段味才井戸流，芹沢 77001, 2000-10-1）、名東区（猪高緑地，芹沢 78209, 2002-10-4）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田東部、みよし、岡崎北部、安城、長久手日進、半田武豊、美浜南知多、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、津島愛西などで記録されているが、すでに消失した区画もある。東三河では現在のところ確認されていない。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

平地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県では休耕田やため池の周辺などに生育していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 3 ヶ所に生育していたが、そのうち下志段味吉田では耕地整理のため絶滅した。才井戸流にはかなりの個体数があるが、開発計画にかかっているため、このままではやがて絶滅すると思われる。名東区では猪高緑地に小群落がある。

【保全上の留意点】

ため池の周辺などに残存する低湿地的環境を保全することが必要である。

【特記事項】

やや貧栄養の湿地に生育するコマツカサススキに比べ、花序はやや小さく、多数つく。

【関連文献】

保草Ⅲp.220，平草Ⅰp.178.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

ウンヌケ　*Eulalia speciosa* (Debeaux) Kuntze

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 15。本地域の丘陵地を代表する植物の一つで、本地域に隔離的に分布しており、また分布域の東限にあたる。

【形　態】

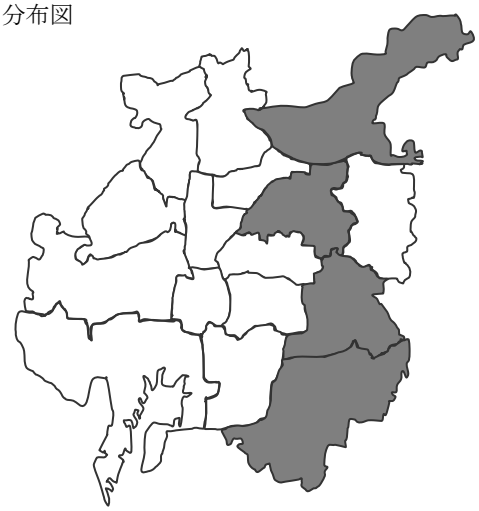
多年生草本。稈は束生して株をつくり、直立し、高さ 80～120cm、茎の基部には枯れた葉が残存し、黄褐色の毛が密生する葉鞘に囲まれる。葉は叢生し、葉身は線形、20～45cm、幅 5～8mm、葉身の基部と鞘の上部に白い毛がある。花期は 9～10 月、花序は長さ 10～15cm の枝を 4～9 本つけ、その枝に小穂が並ぶ。花序の枝は開花時には開くが、花が終わるとほとんど直立する。小穂は有柄のものと無柄のものが対になって枝につき、披針形、長さ約 5mm、毛が多く、不稔の第 1 小花と結実する第 2 小花からなり、第 2 小花の護穎には長い芒がある。種子が熟すと、花序の枝が折れて散布される。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味南原, 鳥居ちゑ子 3283, 2013-9-23; 小幡緑地, 芹沢 54024, 1989-10-26）、千種区（田代町鹿子殿, 芹沢 54038, 1989-10-26）、天白区（相生山緑地, 芹沢 77732, 2001-10-13）、緑区（鳴海町滝ノ水緑地, 芹沢 77736, 2001-10-13; 大高緑地, 渡邉幸子 4546, 2000-10-5）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、田原東部、足助、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、小牧、春日井で確認されている。鳳来北東部、豊橋南部で採集された標本もある。平野部や三河山地にはなく、渥美半島の大部分、知多半島先端部、犬山などにも生育していない。

【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県、岐阜県南部、兵庫県）、四国北部、九州北部。国内の詳細な分布は、野嵜ほか（1997）にまとめられている。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、タイ、インド。

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地や半裸地に生育する。やせ山の尾根すじなどのほか、谷戸田周辺の里草地にも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

10 年前まではまだあちこちに生育していたが、丘陵地の減少に加えて残された場所でも森林化が進行し、著しく減少した。千種区は近況を確認していないが、すでに絶滅しているかもしれない。

【保全上の留意点】

やせ山の保全と、里草地の保全が課題である。それぞれワタゲカマツカの項とキキョウの項を参照されたい。

【特記事項】

和名は牛の毛という意味で、尾張地方の方言に由来すると言われる。

【引用文献】

野嵜玲児・小林禧樹・藤本義昭，1997．兵庫県新産のウンヌケ（イネ科）の分布とその生育環境．植物分類地理 48:197-204.

【関連文献】

保草Ⅲp.381，平草Ⅰp.93，SOS 旧版 p.99+図版 12，環境庁 p.580，SOS 新版 p.86，愛知県 p.606.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.690-691．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アリノトウグサ科＞

ホザキノフサモ　*Myriophyllum spicatum* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14. 流水域に多い水草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生の水草。茎は長く伸びて分枝し、長さ 50～150cm になる。水中葉は無柄で通常 4 枚が輪生し、長さ 1～3cm、幅 1～1.8cm、羽状に深裂し、裂片は糸状である。花期は 5～10 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花序の上部に雄花、下部に雌花がつく。気中葉はつかない。雄花の花弁は楕円形で、淡紅色、長さ 1.5～2.5mm である。殖芽は作らない。

【分布の概要】

【市内の分布】

中村区（横井町庄内川，鈴木秀樹 3348, 1996-9-15）で採集されている。

【県内の分布】

愛知県の水草はほとんどの種が危機的で、本種も木曽川には比較的多いが、他では少ない。尾張では名古屋市のほか、半田武豊、一宮東部、一宮西部、稲沢、津島愛西、海部南部で確認されている。

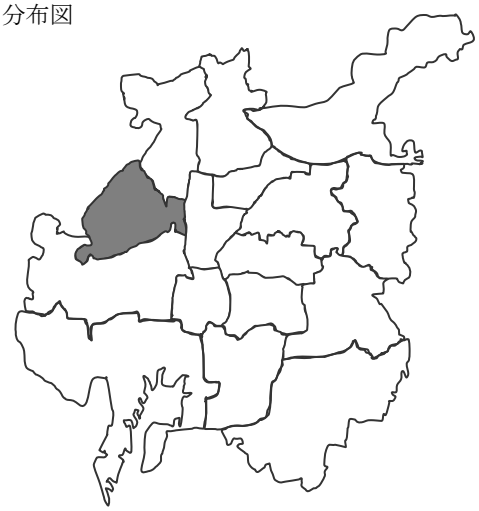
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布し、北アメリカで野生化している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川などに生育する沈水植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

詳細は不明。個体数は見込み値である。庄内川は改修工事が進行しており、その点で存続が懸念される。

【保全上の留意点】

改修工事に際して、留意が必要である。

【特記事項】

葉の裂片は、オグラノフサモより狭い角度でつく。同属の他の種と異なり、水面上に伸びる花序に葉をつけない。

【関連文献】

保草Ⅱp.35，平草Ⅱpp.270-271.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.133．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.232．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　スグリ科＞

ヤブサンザシ　*Ribes fasciculatum* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 15。分布域は広いが全国的に個体数の少ない低木で、名古屋市でも生育地、個体数ともに少ない。

【形　態】

落葉性の低木。下部からよく分枝し、高さ 1m くらいになる。葉は互生し、長さ 2～3.5cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 2～6cm、幅 2.5～6cm になり、薄い草質で掌状に 3 浅～中裂し、先端は円頭または鈍頭、基部は切形、辺縁には欠刻状の鈍鋸歯がある。花期は 4～5 月、雌雄異株で、雄花は 3～6 個、雌花は 2～4 個が短枝の葉腋に束状につく。がくは 5 裂し、直径 6～8mm、黄緑色で裂片は反り返る。果実は球形、直径 7～8mm となり、赤く熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味白鳥，鳥居ちゑ子 1734, 2000-5-2）、天白区（相生山緑地，渡邉幸子 4995, 2002-3-16）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東栄、豊橋北部、田原東部、田原西部、豊田東部、瀬戸尾張旭、長久手日進、春日井の 8 区画で確認されている。刈谷知立で採集された標本もあるが、現存は確認できない。

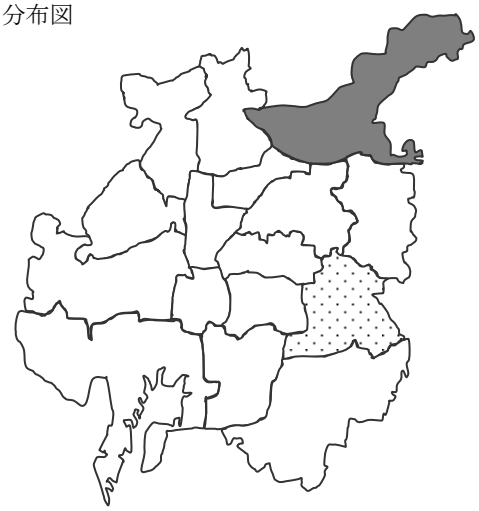
【国内の分布】

本州、四国、九州。山野に生育するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

二次林の林縁や岩礫地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では東谷山山麓に 2～3 株生育している。天白区では相生山の住宅地に接した林縁に数株が生育していたが、最近は確認できない。一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で里山の利用停止による森林化の進行に伴う被陰により、危機的な状況にある。

【保全上の留意点】

おそらくはやせ山に依存する植物であり、そのような環境の保全が必要である。やせ山や砂丘、湿田のような、今まで行政的に「退治目標」とされてきた自然・半自然環境も、これほど少なくなると逆に保全が必要になる。今までの努力目標と逆の話なのでいろいろ困難はあるが、今後の重要な課題である。

【特記事項】

ヤブサンザシの名の通り、ありふれた藪地にも生育していることがある。調査の際には注意が必要である。

【関連文献】

保木Ⅱp.102，平木Ⅰp.159，SOS 旧版 p.57，愛知県 p.365.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マメ科＞

キハギ　*Lespedeza buergeri* Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 15。やや山地性の植物で、名古屋市では個体数が極めて少ない。

【形　態】

落葉性の小低木。幹は木質化し、高さ 2～3m になる。葉は互生し、長さ 0.7～2cm の柄があり、葉身は3出葉、頂小葉は卵形または長楕円形、長さ2～4cm、先端は通常尖り、表面は無毛、裏面は圧毛がある。花期は6～9月、葉腋に長さ2～7cm の花序をつけ、花は長さ約 1cm、淡黄色、翼弁は紫紅色である。豆果は扁平な長楕円形、長さ 1～1.5cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根，横井晴正 s.n., 2004-7-4）に生育している。守山区の他の場所（東谷山，日比野修 4419, 1998-4-29）にも生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には広く分布する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山、春日井、尾西祖父江で確認されている。

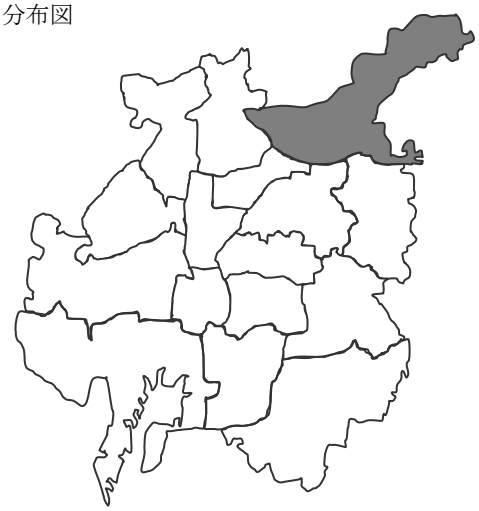
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

他のハギ類のように草地性ではなく、山地の崖地などに生育することが多い。河岸の岩場にもよく生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

吉根は詳細不明である。東谷山では北側の道路に近い沢沿いの崖地に10数株生育していたが、砂防堰堤の改修のため崖が削られ、見られなくなった。

【保全上の留意点】

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

【特記事項】

和名は、茎が他のハギ類よりも木質化するからである。2004 年のレッドデータブックでは絶滅としたが、その後現存が確認された。しかし、ごく最近の状況は確認されていない。市境の尾張旭市側には現在も少数株が生育している。

【関連文献】

保草Ⅱpp.98-99，平草Ⅱp.205.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マメ科＞

シベリアメドハギ　*Lespedeza juncea* (L.f.) Pers.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 15。名古屋市では 1 ヶ所に生育しているだけで、個体数も少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立またはやや斜上し、中上部で分枝し、やや紫色を帯び、高さ 70～120cm になる。葉は互生し、下部のものには長さ 1cm 程度の柄があり、葉身は 3 出葉、頂小葉は側小葉よりやや大きく狭倒披針形～線形、長さ 1～2.5cm、先は円頭または鈍頭で針状の小突起があり、基部はくさび形、裏面は圧毛がある。花期は 9～10 月、花は葉腋に 2～4 個がつき、長さ約 7mm、ほとんど白色で紫条がある。がくは長さ 4～5mm で 5 深裂し、裂片に 3 脈がある。通常花のほか、閉鎖花もつける。節果は扁平な広楕円形で、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（川庄内川河川敷，芹沢　77656，2001-9-23）に生育している。

【県内の分布】

矢作川、庄内川、木曽川の河川敷に生育するが、木曽川以外では少ない。尾張では名古屋市のほか、江南丹羽、一宮東部、一宮西部、稲沢、津島愛西に生育している。

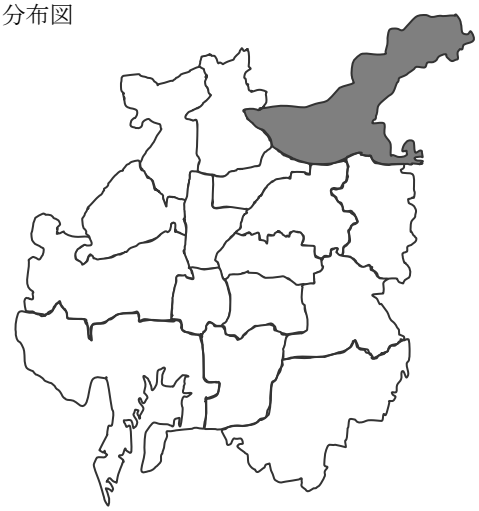
【国内の分布】

本州。

【世界の分布】

日本からアフガニスタンにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。愛知県の生育地は、ほとんどが礫の河原である。

【現在の生育状況／減少の要因】

メドハギに混じって少数株が生育していたが、ごく最近の状況は確認されていない。出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも木本や高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の礫の河原自体が減少している。

【保全上の留意点】

礫の河原を、適度に不安定な状態で保全することが必要である。

【特記事項】

メドハギ *L. cuneata* G.Don からは、茎が紫色を帯び、閉鎖花のがく裂片に 3 脈があることで区別される。2004 年版では、「カラメドハギ」という和名で掲載した。

【関連文献】

保草Ⅱp.97，平草Ⅱp.206.
大橋広好．2003．カラメドハギ．清水建美（編），日本の帰化植物 p.109．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マメ科＞

マキエハギ　*Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。草地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。現況調査が不十分なので、定性的に絶滅危惧ⅠB類と評価した。

【形　態】

落葉性の半低木。茎は細くて硬く、高さ 40～60cm になる。葉は互生し、下部の葉には長さ 1～2cm の柄があり、葉身は3出葉、小葉は楕円形、長さ7～25mm、先端は円頭または僅かに凹頭で針状の小突起がある。花期は 8～9 月、花は短い総状花序に 2～5 個つき、ごく淡い紅紫色、長さ 5～6mm、がくは 5 深裂し、長さ約 5mm である。通常花のほかに、数個の閉鎖花を葉腋に束生する。豆果は広卵形、長さ約 4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根庄内川堤防, 鳥居ちゑ子 2365, 2003-9-3）、名東区（香流, 鳥居ちゑ子 2659, 2008-9-15）、天白区（天白町八事, 渡邉幸子 5161, 2002-9-21, NBC1023）、瑞穂区（下山町, 渡邉幸子 2742, 1996-9-15）で確認されている。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在するが、少ない。尾張では名古屋市のほか、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山で確認されている。

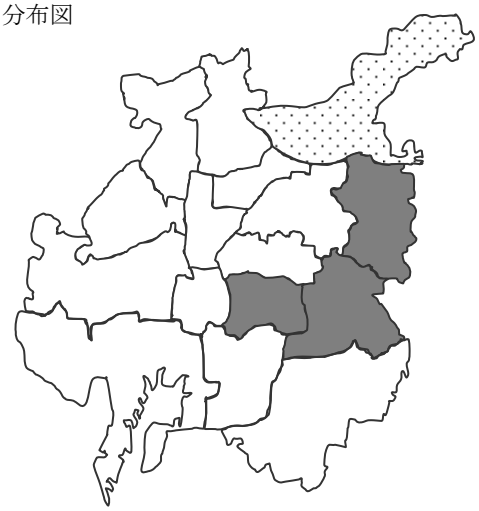
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の日当たりのよい乾いた草地や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では庄内川堤防に10数株生育していたが、その後見かけなくなった。天白区では駐車場わきの斜面草地に 10 株程度が生育していたが、2014 年には確認できなかった。瑞穂区では住宅地内に残存した林のへりに2～3株生育していたが、最近の状況は確認されていない。散発的に生育する植物で、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

一般的に言えば、草地の保全が必要である。しかし、おそらくは個別的な対策では効果が少なく、自然環境の全体的な保全が必要と思われる。効果的な保全対策を立てることができないまま、いつの間にか消失してしまいそうな植物の一つである。

【特記事項】

和名は、直線的な細い花柄が蒔絵の筆法に似ているからである。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅱp.98，平草Ⅱp.206.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ヒメハギ科＞

ヒナノカンザシ　*Salomonia oblongifolia* DC.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

1 年生草本。茎は細く、高さ 6～25cm になる。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は長楕円形、長さ3～8mm、全縁、上方のものは次第に細く、小さくなる。花期は8～9月、茎は枝の先端に穂状花序をつくり、花は淡紫色、長さ 1～2mm、花弁は 3 個で下方の 1 個は側方のものより長く、下部で雄ずいと合着する。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区(猪高緑地, 芹沢 57791, 1990-10-17) に生育している。千種区（平和公園, 犬飼　清 s.n., 1960-9-10）で採集された標本もある。

【県内の分布】

丘陵地の湿地に生育しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、常滑、美浜南知多、犬山、春日井に生育している。

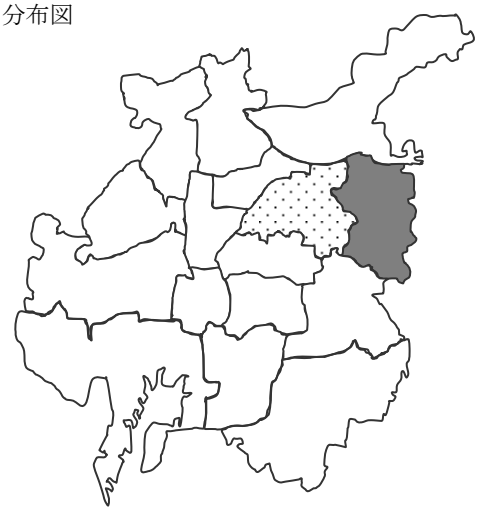
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい湿地に生育する。愛知県では湧水湿地に多い植物であるが、名古屋市ではため池の岸に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は比較的多かったが、大きさはせいぜい 7cm 程度で、生育状態はよくなかった。池に釣人が多く入り込むため、踏まれて減少していたが、ごく最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

ため池の水質を維持すること、踏みつけを防止することが必要である。

【特記事項】

小型の植物で、注意して探索すれば他の場所でも確認できる可能性がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.82，平草Ⅱp.234.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　バラ科＞

カワラサイコ　*Potentilla chinensis* Ser.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 3、総点 14。不安定な礫の河原を代表する植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形　態】

多年生草本。茎は根ぎわで分枝して四方に広がり、先端は斜上し、長毛があり、長さ 30～70cm になる。葉は互生し、奇数羽状複葉、小葉は 15～29 個で倒披針形、長さ 2～5cm、中肋近くまで羽状に深裂し、裂片は狭くてとがり、裏面は綿毛があって白色になる。花期は6～8 月、茎の先に分枝した花序をつけ、直径 10～15mm の黄色の花を咲かせる。花弁は 5 枚で倒卵形、そう果は卵形で、長さ約 1.3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味庄内川堤防，芹沢 77891，2002-7-1；吉根～川庄内川，村松正雄 18581，1999-7-29）に生育している。

【県内の分布】

県内では庄内川と木曽川の河川敷に生育しており、名古屋市のほか、江南丹羽、一宮東部、稲沢、津島愛西で確認されている。木曽川の一部には大きな群落がある。東三河、西三河では現在のところ知られていない。

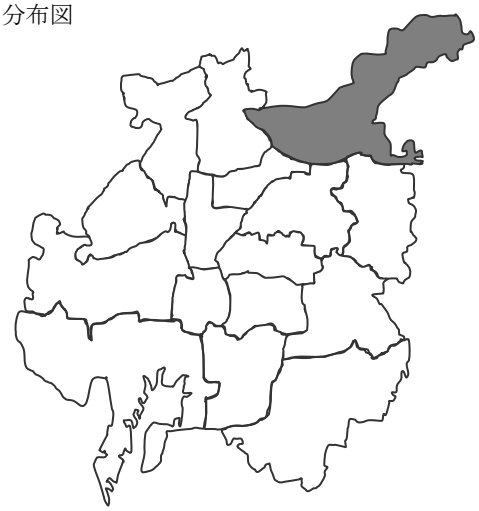
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、アムール、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷の礫地に多いが、堤防の草地に生育することもある。また、海岸近くの砂地などに生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも木本や高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の礫の河原自体が減少している。特に庄内川は河川の規模が小さいために礫地の減少傾向が著しく、本種の個体数は最近20年ほどの間にすっかり減少してしまった。

【保全上の留意点】

礫の河原を、適度に不安定な状態で保全することが必要である。

【特記事項】

「サイコ」の名は、本種のしっかりした地下部が薬用のミシマサイコの根に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.134，平草Ⅱp.180，SOS 旧版 p.58+図版 28，SOS 新版 p.131，愛知県 p.545.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　バラ科＞

マメナシ　*Pyrus calleryana* Decne.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧ⅠB類

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 3、補正+2（固有）、総点 14。著しい隔離分布種で、日本では名古屋市とその周辺だけに生育する。名古屋市を代表する絶滅危惧植物である。

【形　態】

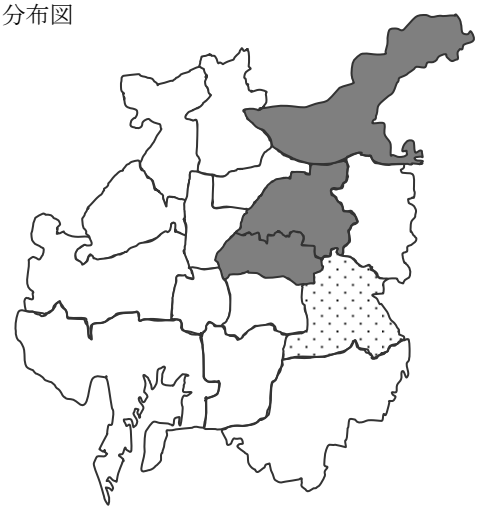
落葉性の小高木。よく分枝し、高さ 8～10m になる。樹皮は灰紫黒色で、縦に割れ目が入る。葉は長枝に互生するか短枝にほとんど束生し、広卵形、卵形または卵状長楕円形、先端は鋭頭～尖鋭頭、基部はふつう円形、長さ 4～9cm、幅 3～6cm、辺縁に細かい鈍鋸歯があり、はじめ白色の軟毛があるが、後に無毛となる。花期は 4 月、花は白色で直径約 2.5cm、花弁は 5 枚、花柱は 2～3 個である。果実はほぼ球形、直径約 1cm、黄褐色で円形の小さい皮目が多数ある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷, 芹沢 84163, 2009-6-9;下志段味穴ケ洞, 鳥居ちゑ子 829, 1995-4-16; 小牧, 高木順夫20704, 2012-4-24, NBC680; 大森御膳洞, 芹沢 51065, 1989-4-4）、昭和区（隼人町, 花岡　昭 126, 1993-9-19）に生育する。千種区の東山公園内にも、自生と思われる個体がある。天白区（八事, 岡田善敏 s.n., 1923-9-3）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、犬山、小牧、春日井に生育している。西尾市からの報告もあるが未確認である。

【国内の分布】

本州（愛知県、三重県）に分布する。高野（2014）によれば、岐阜県南部にも生育しているらしい。長野県からの報告はアオナシまたはヤマナシの誤認である（池谷 2003）。三重県四日市市および桑名市の自生地は、国指定の天然記念物とされている。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島中部、中国大陸中南部、ベトナム北部。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池周辺などの湧水のある場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

分布の中心が名古屋市内の丘陵地であるため、開発の圧力が極めて強い。最近でもいくつかの自生地が宅地造成等により失われている。とげの多い木であるため、邪魔者扱いで伐採されることもある。昭和区隼人池周辺では、以前は群落があったが、現在は少数の個体が単木状で残るのみである。最大の自生地である守山区の蛭池では、公園化により過剰管理が行われ、現存する個体は保護されても、繁殖できる状況は失われている。一部の場所では原産地不明の幼木が植え込まれており、遺伝的攪乱も懸念される。

【保全上の留意点】

本種は、愛知県を特徴づける植物の中でもナガボナツハゼと共に最も危機的で、体系的な保護対策が必要である。植え込まれた幼木については、早急に除去する必要がある。

【特記事項】

本種は特に名古屋市内に集中して生育しているため、今回のレッドリストの中で唯一、名古屋市での評価が愛知県の評価より低い階級になっている。彩色画は、2004 年版図版 1 に掲載されている。本種とナシの雑種であるアイナシは、瀬戸尾張旭、小牧、名古屋北部などに稀に生育している。

【引用文献】

池谷祐幸．2003．マメナシは長野県には分布しない．植物研究雑誌 78:177-178.
高野裕行．2014．マメナシ（イヌナシ）．岐阜県レッドデータブック改訂版個別解説欄 p.70.

【関連文献】

保木Ⅱp.46，平木Ⅰp.227，環境庁 p.122，SOS 旧版 p.58+図版 15，愛知県 p.94，SOS 新版 p.102.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ヤナギ科＞

ヤマネコヤナギ　*Salix bakko* Kimura

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1。温帯性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。種子が風で散布される陽樹で再出現の可能性があるので、定性的に絶滅危惧ⅠB類と評価した。

【形　態】

落葉性の小高木または高木。高さ 10m に達する。樹皮は暗灰色。葉は楕円形～長楕円形、長さ 8～13cm、幅 3.5～4cm、先端は鋭尖頭～鋭頭、基部は円形または広いくさび形、辺縁は微少な鋸歯があるがほとんど全縁、表面は無毛でやや光沢があり、葉脈はくぼみ、裏面は白色の縮毛が密生する。雌雄異株で、花期は 3 月下旬～5 月上旬、雄花穂は楕円形～長楕円形、長さ 3～5cm、雌花穂は長楕円形、開花時には長さ 2～4cm であるが、果時には長さ 10cm に達する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味風越池，村松正雄 23581，2007-4-8）、天白区（天白町平針黒石，渡邉幸子 1992，1995-4-12）、緑区（大高緑地，渡邉幸子 3715，1999-3-25）に生育していた。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には普通に見られる。尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭、長久手日進、春日井に生育しているにすぎない。

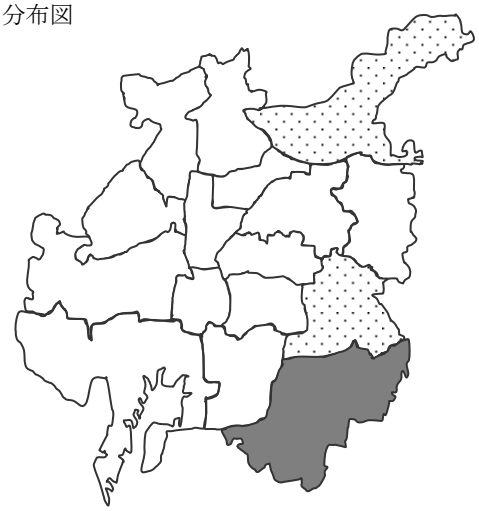
【国内の分布】

北海道（西南部）、本州（近畿地方以東）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地などの日当たりのよい場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 1 株生育していたが、2014 年に枯死が確認された。天白区では丘陵の斜面に小群落があったが、宅地開発で消失した。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。陽性の樹木なので、現状を維持すればやがては幼木も育つと思われる。

【特記事項】

別名バッコヤナギ。バッコは東北地方の言葉で老婆のことで、灰色の尾状花序が老婆の白髪のようだからである。

【関連文献】

保木Ⅱp.317，平木Ⅰp.42.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ミカン科＞

コクサギ　*Orixa japonica* Thunb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 15。山地の沢沿いに多い植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 2～3m になり、植物全体に臭気がある。葉は伸長した枝では通常 2 枚ずつ交互に互生し、3～7mm の柄があり、葉身は倒卵形、長さ 5～13cm、先端は鈍頭または短く尖り、基部はくさび形、辺縁にはごく低い鈍鋸歯がある。葉の裏面には、全体に毛と油点がある。花期は 4～5 月。雌雄異株で花は緑色、雄花は総状で長さ 2～4cm の花序につき、雌花は単生する。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（鳴海町清水寺，渡邉幸子 5348, 2003-5-26, NBC1036）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、春日井に生育している。

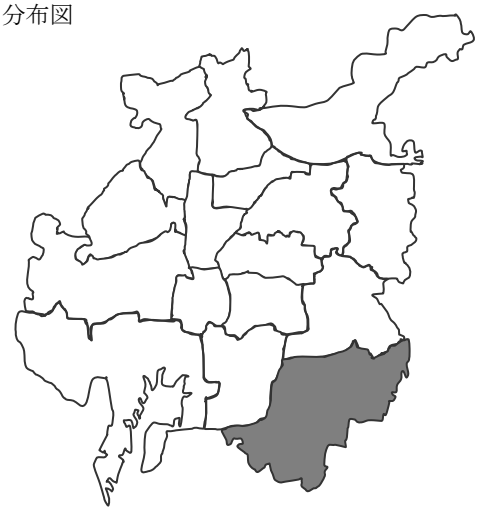
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地に多く、しばしば沢沿いの林内に群生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

2003 年には住宅地の中に 1 区画だけ残されたムクノキなどからなる藪状の林の中に、2m 以上の株が数株、幼株はかなりの数が生育していた。しかし開発が進み、現在では僅かに残存しているだけである。

【保全上の留意点】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られるような植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。本種の場合も、名古屋市内で他に発見される可能性は低く、現在確認されている生育地を適切に保全することが必要である。

【特記事項】

伸長した若枝では葉が 2 枚ずつ交互につくため、その特徴に着目すればすぐに同定できる。和名は植物体に強い臭気があり、クサギに比べて木が小さいからである。2002 年 11 月のレッドリストでは絶滅としたところ、それに対して情報が寄せられ、現存が確認された植物である。

【関連文献】

保木 I pp.328-329，平木 I p.227.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ニガキ科＞

ニガキ　*Picrasma quassioides* (D.Don) Benn.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 15。やや山地性の樹木で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

落葉性の高木。高さ 12m くらいになる。葉は互生し、長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は対生またはやや対生し、7～13 枚、卵状長楕円形、長さ 5～7cm、先端は鋭尖頭、辺縁には鋭鋸歯がある。花期は 4～5 月。葉腋に集散花序をつけ、雌雄異株、雄花序は 30～50 個、雌花序は 7～15 個の、黄緑色の小さい花をつける。果実は 2～3 個の分果からなり、分果は広楕円形、長さ約 6mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流，芹沢 76855，2000-7-8）に生育している。

【県内の分布】

低山地に点在するが、それほど多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、江南丹羽、小牧、春日井で確認されている。

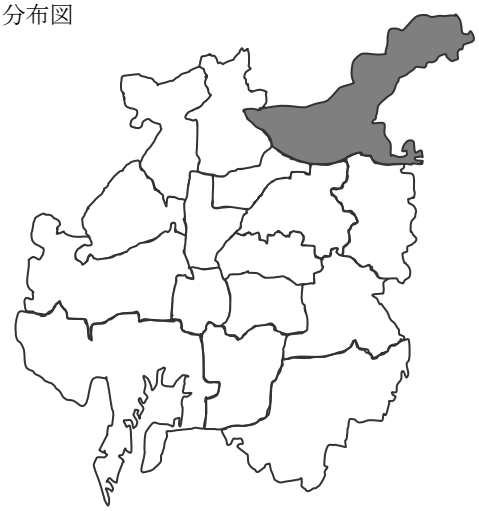
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林縁部に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

中志段味才井戸流の林縁に大きな株があり、よく花をつける。才井戸流は開発が進行しているが、この株は当面は残存するものと思われる。しかし長期的には、土地整備等により失われる可能性もある。

【保全上の留意点】

他の場所にもあるという話だが、はっきりしない。更に注意して探索する必要がある。既知の個体に関しては、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

全体に苦味物質を含み、薬用とされる。和名もこの苦味に由来する。

【関連文献】

保木 I pp.310-311，平木 I p.284.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アブラナ科＞

ミズタガラシ　*Cardamine lyrata* Bunge

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ＩＢ類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1。本地域を特徴づける低湿地性植物である。総点は 13 であるが、帰化植物に圧迫されていることなども考慮し、絶滅危惧ＩＢ類と判定する。

【形　態】

多年生草本。茎ははじめ直立し、高さ 30～60cm になるが、花後には倒れる。茎の基部から長い匍匐枝を出し、その匍匐枝には卵円形で基部が浅い心形の葉がつく。直立茎につく葉は短い柄があり、葉身は羽状複葉で長さ 2～7cm、頂小葉は大きく広卵形、側小葉は小さく卵形で 2～7 対ある。花期は 4～6 月、茎の先端に総状花序を伸ばし、10～30 個の白色の花をつける。花弁は 4 枚で広倒卵形、長さ 5～8mm である。果実は線形で、長さ 2～3cm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味宮前，鳥居ちゐ子 671, 1994-7-16; 吉根庄内川，芹沢 81340, 2007-5-20）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、豊田東部、岡崎北部、岡崎南部、幸田、犬山、小牧、春日井、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、津島愛西で確認されている。

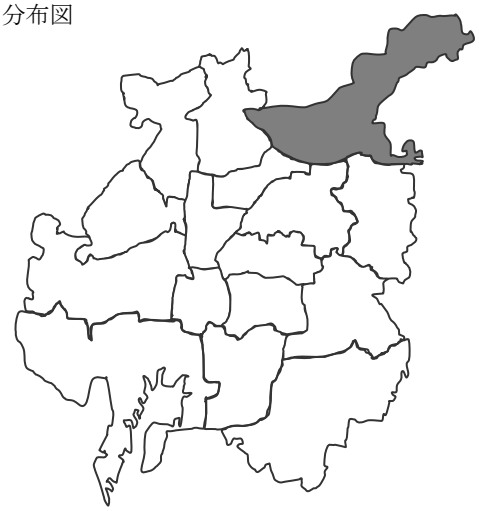
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州に生育するとされているが、一般にあまりよく理解されていない植物で、東海地方以外での現状は今ひとつはっきりしない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、シベリア東部などに広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの低湿地に生育するほか、休耕田や水田わきの水路などに生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

才井戸流では水路に沿って生育しているが、周囲が開発計画にかかっており、その点で将来の存続が懸念される。水路自体は保全されても、公園化されれば、オランダガラシなどの帰化植物が侵入することも予想される。かつては周辺の水田にも多く生育していたが、水田そのものが消滅してしまった。吉根は小群落である。小幡緑地にも一時的に出現したが、すぐ消失した。

【保全上の留意点】

平野部の湿田や未整理耕地は、従来の行政の中では重点的な「退治目標」であった。しかしここまで少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。SOS 新版（2002）参照。

【特記事項】

「日本の野生植物」Ⅱ127 図版に本種として掲載されている写真は、タネツケバナである。写真小図鑑類に掲載されている写真も、ほとんどが誤りである。「原色日本植物図鑑」草本編Ⅱ41 図版の図では、本種の特徴がよく示されている。

【引用文献】

愛知県自然史研究連絡会（編）．2002．自然からの SOS–レッドデータブックあいち・植物編解説 p.197．愛知みどりの会．

【関連文献】

保草Ⅱp.175，平草Ⅱp.131，SOS 旧版 p.55，愛知県 p.538.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アブラナ科＞

ハタザオ　*Turritis glabra* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級3、人為圧階級3、県内分布1。草地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。現存は確認できないが、どこかで再発見される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠB類と評価した。

【形　態】

全体に緑白色の越年生草本。茎は直立し、通常分枝せず、高さ60～120cmになる。根出葉は倒披針形、長さ5～10cm、先端は鈍頭、中下部に3～6の欠刻状鋸歯があり、両面に2分した毛と星状毛がある。茎葉は披針形、長さ 3～9cm で上へいくほど小さくなり、上向につき、基部は矢じり形で茎を抱き、全縁、無毛である。花期は5～8月、花弁は倒卵形、長さ5～7mm、淡黄白色、果実は直立して花軸に接し、線形、長さ4～8cmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（香流橋矢田川，鳥居ちゐ子 2086, 2002-5-7）、天白区（井口二丁目天白川，渡邉幸子 5328, 2003-5-15）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地～平野部に生育するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、江南丹羽、一宮東部、一宮西部、津島愛西に生育している。

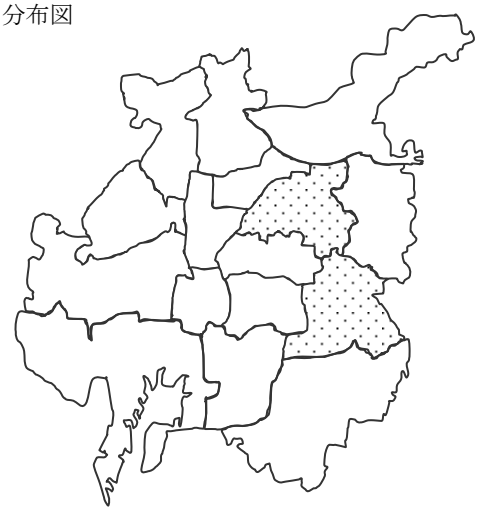
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布し、北アメリカやオーストラリアにも帰化している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県での生育地はほとんどが河川堤防の草地である。名古屋市でも河川堤防に生育していた。

【現在の生育状況／減少の要因】

矢田川では、よく草刈りが行われる堤防の草地に10数株が生育していた。天白川でも、やはり堤防の草地に少数株が生育していた。どちらも既知の地点では現在生育を確認できないが、適切な堤防管理が継続されれば、どこかで再発見される可能性がある。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は旗竿で、直立する全体の様子に由来する。2014年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅱpp.181-182，平草Ⅱp.134.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　サクラソウ科＞

クサレダマ　*Lysimachia vulgaris* L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Knuth

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。温帯性の湿地性植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

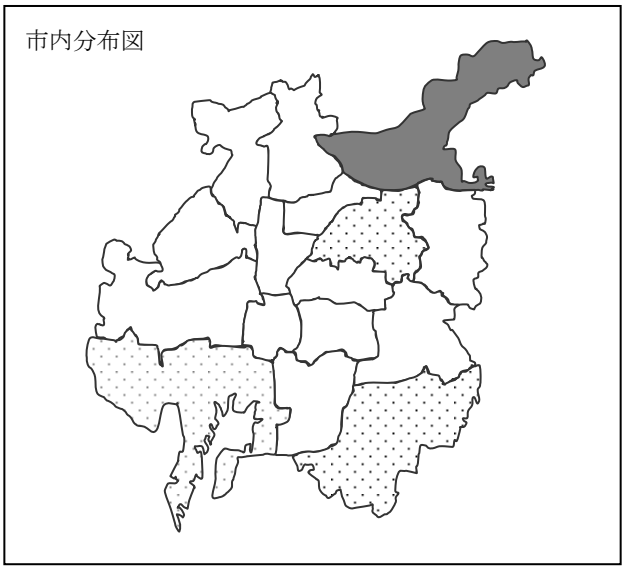
【形　態】

多年生草本。横にはう地下茎がある。地上茎は直立し、高さ 100～140cm になる。葉対生または 3～4 枚が輪生し、無柄、葉身は披針形または長楕円形、長さ 7～12cm、先端は漸尖し、裏面に黒色の腺点がある。花期は 7～8 月、茎の先端に長さ 8～30cm の円錐花序をつけ、多数の黄色の花をつける。花冠は直径 12～15mm、5 裂し、裂片は三角状卵形である。蒴果は球形、直径約 4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味森林公園，芹沢 76850, 2000-7-8）に生育している。千種区（光ケ丘二丁目，諏訪　斎 58, 1993-7-18）、緑区（鳴海町笹塚，渡邉幸子 1694, 1994-6-29, NBC784）、港区（大西戸田川堤防，芹沢 81759, 2007-7-13）で採集された標本もある。



【県内の分布】

山地や丘陵地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、常滑、美浜南知多、海部南部で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア。基準変種はヨーロッパに分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。どちらかと言えば泥質の場所に多く、休耕田に群生することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

尾張では名古屋市内を含めて愛知用水わきの草地に比較的多く見られたが、改修により激減した。緑区には大きな群落があったが、消失した。守山区も将来の存続という点では安心できる状況にない。港区は堤防改修のため消滅したという話だが、正確な現状は確認していない。

【保全上の留意点】

幹線水路沿いの土手は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で草地性植物のよい逃避地になっている。改修に際してはこれらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は草レダマで、黄色の花がマメ科小低木のレダマに似ているからと言われるが、「腐れ玉」と誤解する人もいて、あまりよい名ではない。

【関連文献】

保草Ⅰpp.17-18，平草Ⅲp.228.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アカネ科＞

キクムグラ　*Galium kikumugura* Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 3、総点 15. 名古屋市では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形　態】

多年生草本。茎はやわらかく、斜上して長さ 20～40cm になる。葉は 4 枚輪生し、楕円形～狭倒卵形、長さ 6～15mm、幅 3～8mm、先端は円頭または鈍頭で短く尖り、辺縁に上向きの剛毛がある。花期は 5～6 月、枝先や葉腋から花序を出し、1～3 個の花をつける。小花柄はほとんどないものから 5mm くらいのものまで長さが不同で、その基部に 1 個の披針形の苞がある。花冠は白色で 4 深裂し、直径約 1mm である。果実は楕円形で、上向きに曲がった毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城，鳥居ちゑ子 2303, 2003-5-9）に生育している。守山区（竜泉寺山, 稲垣貫一 s.n., 1946-5-6, CBM109199）で採集された標本もある。

【県内の分布】

愛知県では希少な植物で、名古屋市のほか、鳳来北東部、作手、江南丹羽、一宮西部の 4 区画で確認されているにすぎない。犬山で採集された標本もある。

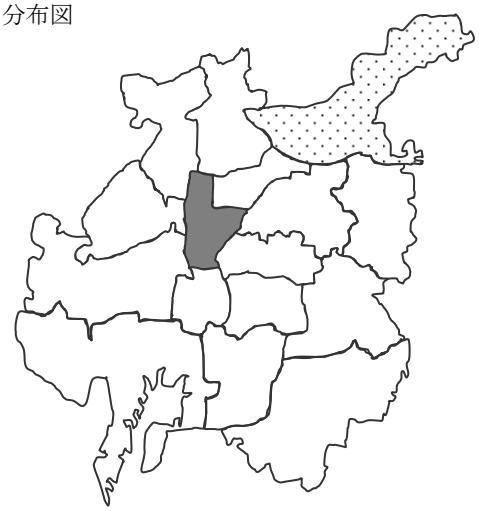
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地の林縁などに生育する。ただし愛知県の場合、江南丹羽と尾西祖父江は木曽川の河川敷である。特別な環境の場所に生育しているわけではないが、それでいて生育地が少ない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

堀の土手斜面に、10 数株が小群落となって生育していた。ごく最近の状況は確認されていないが、そのまま存続していると思われる。しかし小型で目立たない植物なので、除草作業などで失われてしまうおそれもある。

【保全上の留意点】

管理者に貴重な植物であることを認識してもらう必要がある。

【特記事項】

花序に小さい苞があることがよい特徴である。目立たない植物なので、他にも自生地がないか、今後更に注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅰp.112，平草Ⅲp.54，SOS 旧版 p.74，愛知県 p.569.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　リンドウ科＞

リンドウ　*Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 30～100cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は線状披針形～広披針形、長さ 4～10cm、先端は長く尖り、基部は円形、3 脈が目立ち、辺縁には微小な突起がある。花期は10～11 月、花は茎の先端と葉腋につき、花冠は紫色で、内面に褐色の斑点があり、長さ 4～5cm、先端は 5 裂し、裂片の間に小形の副裂片がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 216, 1992-10-25; 小幡緑地，芹沢 54030, 1989-10-26）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河には点在する。尾張ではやや少なく、特に林地に生育する狭義のリンドウの型は生育地が限られている。ホソバリンドウ型のものは、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、春日井などに生育している。

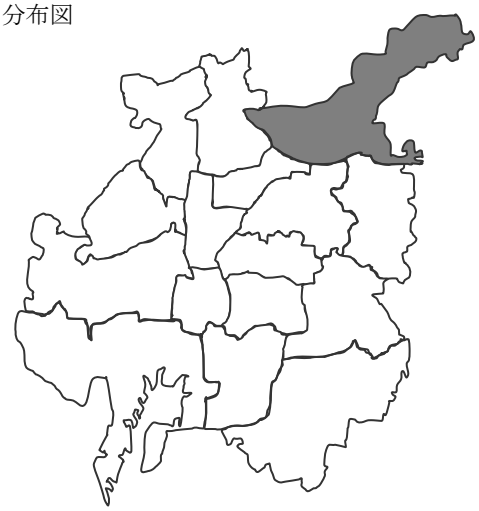
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球（奄美諸島）。

【世界の分布】

日本固有。基準変種 var. *scabra* は朝鮮半島、中国大陸に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

一般的には山地や丘陵地の明るい林内や林縁に生育するが、湿地に生育することもある。湿地に生育するものは葉が細く、ホソバリンドウ form. *stenophylla* (H.Hara) Ohwi として区別されることがある。名古屋市のものはホソバリンドウの型である。

【現在の生育状況／減少の要因】

毎年変わらない状態で開花する生育地もあるが、個体数が少ないので、園芸目的で採取する人がいれば容易に絶滅してしまう。観察者やカメラマンによる攪乱も懸念される。ある道路沿いの湿地では、1990 年頃には 10 数株が開花していたが、次第に減少し、2003 年には 1 株開花しただけであった。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。その一方で、湿地自体にはなるべく立ち入らない配慮が必要である。

【特記事項】

湿地の花の中では、ウメバチソウやヤマラッキョウとともに、最も遅く咲くものの一つである。

【関連文献】

保草Ⅰp.221，平草Ⅲp.31.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　リンドウ科＞

イヌセンブリ　*Swertia diluta* (Turcz.) Benth. et Hook.f. var. *tosaensis* (Makino) H.Hara

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 14。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

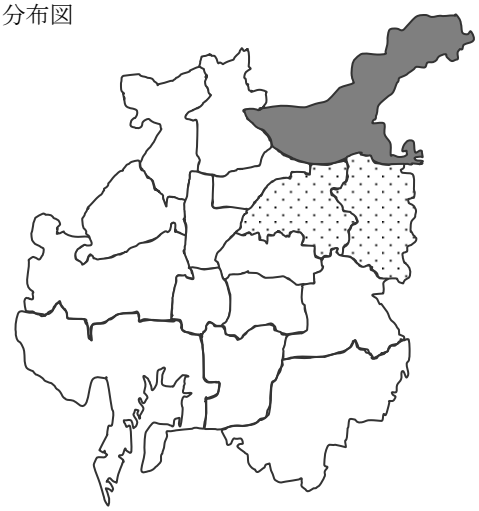
1 年生または越年生の草本。茎は直立してしばしば基部から分枝し、高さ 10～30cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は倒披針形、長さ 2～5cm、幅 4～10mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は10～11 月、花は茎の上部の枝先にまばらな円錐状につき、花冠は白色で淡紫色の条があり、直径約 15mm、5 裂し、裂片は披針形で長さ 8～10mm、基部に 2 個の蜜腺があり、そのまわりに長い毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味, 芹沢 88192, 2012-10-27）に生育している。千種区（田代町鹿子殿, 芹沢 54035, 1989-10-26）と名東区（猪高緑地, 鳥居ちゑ子 219, 1992-11-23）にも生育していた。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、作手、新城、豊川、豊橋北部、田原東部、田原西部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、常滑、小牧、春日井で確認されている。ただしこのうちの一部では、すでに絶滅しているかもしれない。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池の周辺、谷戸田の周辺などの湿った草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区ではため池の岸に小群落がある。平和公園では湿地の林縁部に小群落があったが、遷移の進行により森林化が進行し、被陰されて消失した。猪高緑地ではやせ山に点々と 100 株程度が生育していたが、公園整備により生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

ほとんどが都市化されている名古屋市では、緑地公園の中で未整備のまま一般市民が利用しにくい状態になっている場所は、野生生物にとって貴重な生活の場となっている可能性がある。そのような未整備地が生物多様性保全に果たしている重要な役割をよく認識する必要がある。特に地形を改変するような工事を行う場合には、十分な事前調査が必要である。

【特記事項】

センブリに似ているが苦味がなく薬用にならないので、イヌセンブリという。センブリと異なり、湿地性の植物である。

【関連文献】

保草Ⅰp.216，平草Ⅲp.35，環境庁 p.512，SOS 旧版 p.71+図版 23，SOS 新版 p.114，愛知県 p.565.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ナス科＞

マルバノホロシ　*Solanum maximowiczii* Koidz.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 15. 山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

つる性の多年生草本。茎は無毛で、長さ 2～3m になる。葉は互生し、葉身は長楕円形または狭卵形、長さ 5～10cm、先は尾状にのび鈍端、基部はくさび形に狭まって翼のある柄に続き、全縁、辺縁にわずかに短毛があるほかは両面とも無毛である。花期は 8～9 月、葉に対生して、または茎の途中にまばらに分枝する集散花序をつける。花冠は淡紫色、深く 5 裂し、直径約 1cm、開花すると背面に反り返る。液果は球形、直径 7～10mm、赤色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山, 鳥居ちゑ子 2018, 2001-8-31）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多いが、尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭と春日井で確認されているだけである。

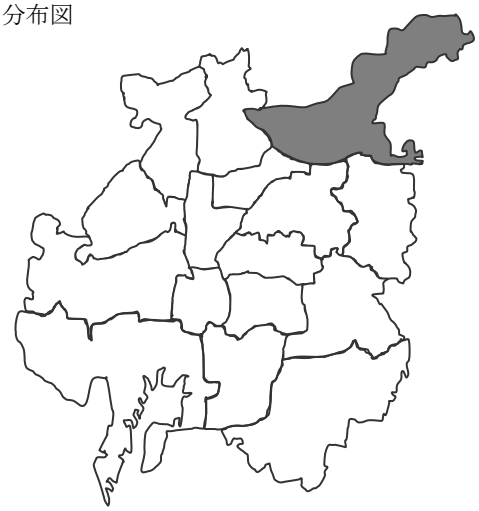
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に生育している。もともと個体数は少なく、2014 年に確認できたのは 1 株だけである。生育地が山麓の林縁部なので、工事等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所にも生育できる植物であるが、それでも過度の攪乱には耐えることができない。種子が鳥類により散布される植物なのでそれなりに分布を拡大する力はあると思われるが、とりあえずは生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

他の場所にも生育していないか、更に探索する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅰp.158, 平草Ⅲp.95.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　オオバコ科＞

オオアブノメ　*Gratiola japonica* Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ＩＢ類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2。全国的に減少傾向の著しい水田雑草で、名古屋市でも生育地が少ない。現存は確認できないが、どこかで再認識される可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ＩＢ類と評価した。

【形　態】

1 年生草本。茎は肉質で柔らかく、直立して高さ 10～20cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は披針状楕円形、長さ 1～3cm、幅 2.5～7mm、先端は鈍頭、辺縁には鋸歯がなく、無毛、基部は多少茎を抱く。花期は 5～6 月、花は上部の葉腋に 1 個ずつつき、多くは花冠が開かない閉鎖花、がくは 5 深裂し、長さ 3～4mm である。通常花の花冠は白色、短い筒型で長さ 4～5mm、5 裂してやや 2 唇形となる。蒴果は球形で長さ 3～4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区(猪高緑地, 芹沢 84010, 2009-5-16)、天白区（荒池緑地, 芹沢 82922, 2008-6-21 など）、緑区（大高町蛇池，渡邉幸子 4755, 2001-6-17）で採集された標本がある。

【県内の分布】

東三河と西三河では極めて稀であるが、尾張では比較的多く、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、常滑、犬山、岩倉西春日井、稲沢、津島愛西で確認されている。

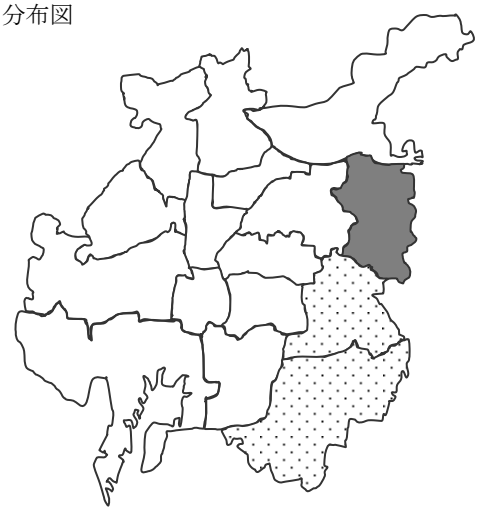
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

耕起前の水田や休耕田に生育することが多いが、河川やため池の岸などの低湿地に生育することもある。名古屋市の場合、名東区は水田、緑区はため池の岸であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

生育状況が不安定な植物で、継続して確認できる場所はほとんどなく、時折見かける割に確実に観察することは難しい。おそらくは耕地整理や除草剤の使用、それに農耕様式の変化により耕起時期と開花・結実期が重なるようになったことなどのため減少し、現在の状態に至ったものと思われる。名古屋市の自生地のうち天白区では緑地の中に作られた小水路のわきに小群落があったが、その後見られなくなった。緑区蛇池は多数の株が生育していたが、コンクリートで護岸され、2014 年には全く確認できなかった。緑区では鳴海町神ノ倉にもあったが、生育していた水田が埋め立てられ、見られなくなった。

【保全上の留意点】

水田雑草であり、生育状況も不安定であるため、効果的な保全対策は立てにくい。旧来の水田の状態を残す未整理の湿田は、文化財的な価値もあり、少なくとも一部分はできるだけそのままの形で保全する必要がある。

【特記事項】

水田雑草は秋に開花するものが多く、本種のように初夏に開花するものは少ない。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 8 に掲載されている。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅰp.147，平草Ⅲp.102，環境庁 p.526，SOS 旧版 p.79+図版 25，SOS 新版 p.139，愛知県 p.578.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

ヤマハッカ　*Isodon inflexus* (Thunb.) Kudô

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、評価点 14。草地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は塊状で木質化する。地上茎は斜上し、長さ 60～100cm になる。葉は対生し、有翼の柄があり、葉身は広卵形～三角状広卵形、長さ 3～6cm、先端は鋭頭～やや鈍頭、辺縁にはあらい鋸歯がある。花期は 9～10 月、上部の葉腋に短い集散花序がついて全体としてまばらで細い穂状になり、がくは 5 中裂し、花時に長さ 2.5～3mm、花冠は長さ 7～10mm、青紫色で、上唇に紫色の斑点がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味庄内川堤防，鳥居ちゑ子 566, 1993-10-9）に生育していた。

【県内の分布】

山地には普通に見られる植物で、丘陵地にも点在しており、尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、美浜南知多、犬山、小牧、春日井、岩倉西春日井で確認されている。

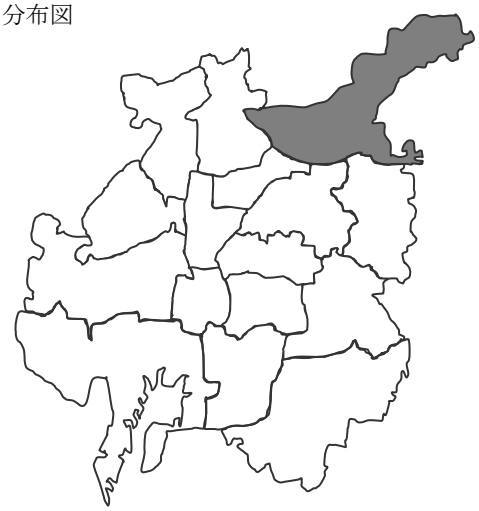
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

代表的な草地性の植物の一つで、日当たりのよい草地や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川の堤防に 20 株ほど生育していたが、最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【関連文献】

保草Ⅰp.164，平草Ⅲpp.78-79.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

オドリコソウ　*Lamium album* L. var. *barbatum* (Sieb. et Zucc.) Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は四角形で直立し、高さ 40～60cm になる。葉は対生し、長さ 1～5cm の柄があり、葉身は卵状三角形～広卵形、長さ 5～10cm、幅 3～6cm、先端は鋭尖頭、基部は浅い心形、辺縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は 4～5 月、花は上部の葉腋につき、白色～微紅色、長さ 3～3.5cm、がくは 5 裂し、裂片は針状で長さ 6～8mm、花筒は基部で湾曲して立ち上がり、先で上下に 2 裂する。

【分布の概要】

【市内の分布】

西区（枇杷島町庄内川，鈴木秀樹 1692, 1996-4-14）で採集された標本がある。

【県内の分布】

全国的には普通種であるが、愛知県ではどういうわけかやや稀な植物である。尾張では名古屋市のほかは、美浜南知多、犬山、江南丹羽、一宮東部、一宮西部で確認されているにすぎない。

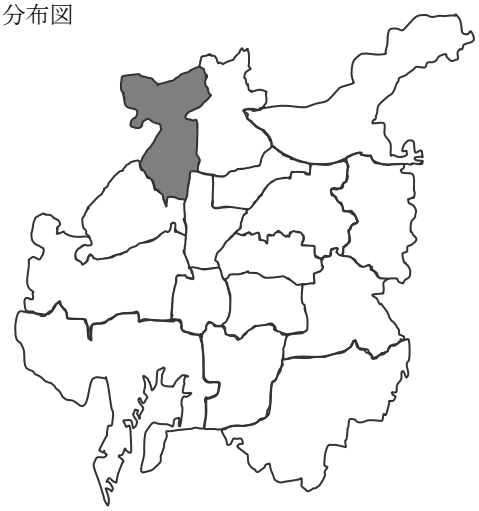
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

路傍や河岸の草地、林縁などに生育し、群生することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

最近の状況は確認されておらず、個体数は見込み値である。

【保全上の留意点】

河川敷の低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修や河川敷の利用に当たっては、このような自然特性を根底から破壊しないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は立ち上がった花の姿が、笠を被った踊子に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅰp.180，平草Ⅲp.91.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

オカタツナミソウ　*Scutellaria brachyspica* Nakai et H.Hara

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 15。名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 30～50cm になり、下向きの毛を密生する。葉は数対が対生し、1～2cm の柄があり、葉身は広卵形～三角状卵形、長さ 2～5cm、上部ほど大きくなり、先端は鈍頭、基部は切形～やや心形、辺縁にはあらい鈍鋸歯がある。花期は 5 月、茎の先端にやや密な短い花穂をつくり、花冠は淡紫色、基部で曲がって立ち上がり、長さ 20～25mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（芹沢 88395, 2013-5-25）に生育している。

【県内の分布】

低山地に点在するが、東三河北部の山地には分布しておらず、平野部にもない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

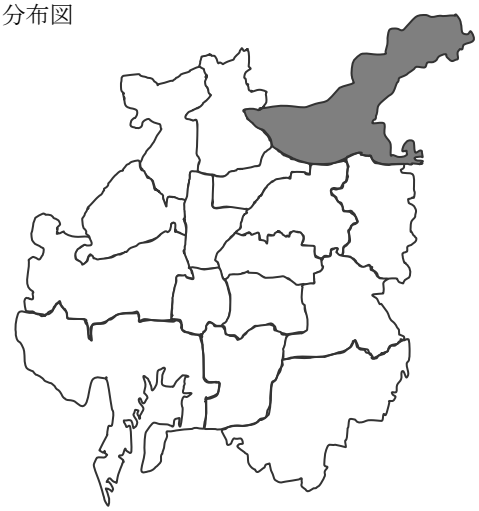
【国内の分布】

本州および四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の林縁や明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

以前は大きな群落があり、生育状態も良好であったが、開発のため生育地の大部分が破壊された。現在では隣接する別の谷に小群落があるだけである。花が目立つため、園芸目的の採取も懸念される。

【保全上の留意点】

何よりもまず、丘陵地の地形を保全することが必要である。園芸目的の採取や観察者・カメラマンによる攪乱を防止するため、詳細な分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

【関連文献】

保草Ⅰp.186, 平草Ⅲp.77.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

イガタツナミ　*Scutellaria kurokawae* H.Hara

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は少数が束生し、直立して高さ 20～30cm になり、開出する長い白毛が多い。葉は数対が対生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は広卵形～卵心形、長さ 1.2～2.5cm で通常下部のものが大きく、先端は鈍頭、基部は浅心形、辺縁に円鋸歯があり、裏面はしばしば紫色を帯びる。花期は 6 月。茎の先端に長さ 2～6cm の穂状の花序をつける。花はややまばらにつき、花冠は淡紫色、長さ 15～20mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（大森八竜，鳥居ちゑ子 1767，2000-6-1 など）に生育している。

【県内の分布】

低山地や丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多、小牧、春日井で確認されている。愛知県の丘陵地では最も多く見られるタツナミソウ類である。

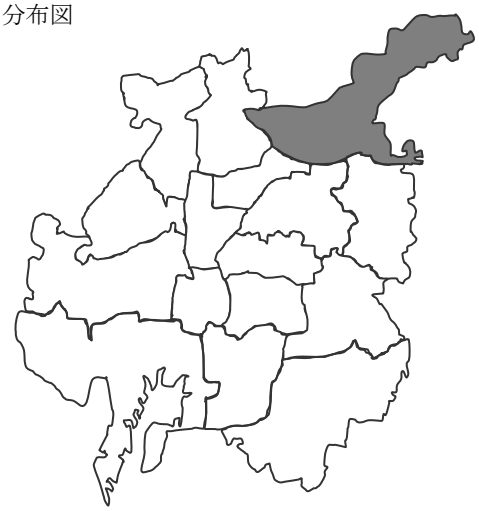
【国内の分布】

本州（福島県以西）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林内や林縁に生育することが多いが、時には耕作地周辺の草地にも見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

大森八竜では宅地化された場所に隣接した林縁に20株ほどの小群落があったが、踏みつけなどの影響で次第に減少し、ほとんど消失した。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。同属の他種と比較すれば、園芸目的の採取による影響は少ないと思われる。

【特記事項】

イガタツナミソウと呼ばれることもある。名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅰp.185，平草Ⅲp.77.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

ニガクサ　*Teucrium japonicum* Houtt.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 15. 名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

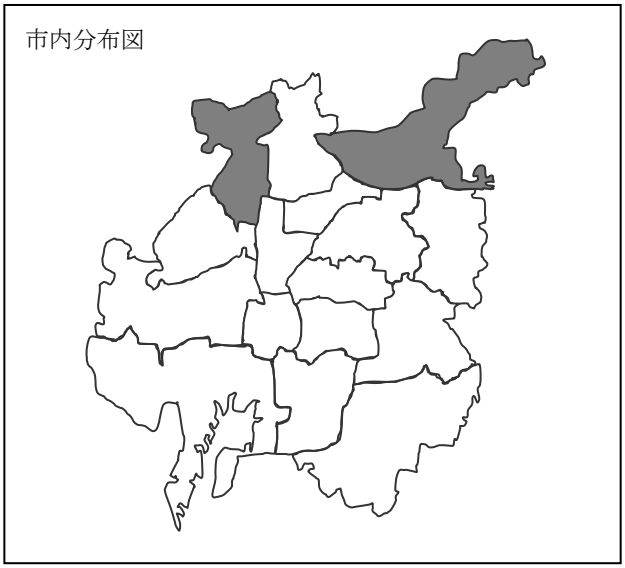
【形　態】

多年生草本。地下に細い走出枝を出す。茎は四角形で直立し、高さ 40～70cm になる。葉は対生し、長さ 8～20mm の柄があり、葉身は卵状長楕円形～広披針形、長さ 5～10cm、先端は鋭頭、辺縁には鈍鋸歯がある。花期は 7～9 月、花序は茎の先端部に集まってつき、長さ 3～10cm、がくは長さ約 4mm、短毛のみで腺毛はなく、上歯は鋭頭、花冠は淡紅色、長さ 10～12mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味新東谷橋付近, 日比野修 4550, 1998-6-28）、西区（枇杷島町庄内川河川敷, 鈴木秀樹 2966, 1997-8-7）で採集された標本がある。移入と思われるものは、天白区（元八事三丁目, 渡邉幸子 1726, 1994-7-20）でも採集されたことがある。



【県内の分布】

平野部～低山地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、常滑、美浜南知多、犬山、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、津島愛西で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

【生育地の環境／生態的特性】

湿った林縁に生育する。丘陵地にもあるが、平野部河川敷低湿地のヤナギ林などでもよく見かける。名古屋市の生育地も、庄内川の河川敷である。

【現在の生育状況／減少の要因】

どちらも小群落であったが、最近の状況は確認されていない。個体数階級は見込み値である。

【保全上の留意点】

ため池の周辺や河川敷に残存する低湿地的環境を保全することが必要である。

【特記事項】

ツルニガクサ *T. viscidum* Blume var. *miquelianum* (Maxim.) H.Hara からは、全体に大型で、がくに腺毛がないことで区別される。細い走出枝を出すという特徴は、本種もツルニガクサも同じである。

【関連文献】

保草Ⅰp.191，平草Ⅲp.75.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

ヌマダイコン　*Adenostemma lavenia* (L.) Kuntze

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 15。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立し、下部では分枝せず、高さ 40～90cm になる。葉は対生し、5～9 対が茎の中上部に分散してつき、長さ 1～5cm の柄があり、葉身は卵形～長卵形、長さ 4～18cm、3 脈がやや目立ち、先は鋭頭で鈍端、基部はくさび形で葉柄に流れ、辺縁には低い鈍鋸歯がある。花期は 8～10 月、花序は茎の先端にまばらな散房状につき、花時に直径 5～6mm、総苞は長さ約 4mm、総苞片は 2 列につく。小花の花弁は白色で長さ 2.5～3mm、先は 5 裂する。そう果は棍棒状、長さ約 4mm、表面に小こぶ状の隆起があり、4 個の短くて粘液を分泌する冠毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大村池，芹沢 88985, 2013-10-5 など）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、新城、田原東部、田原西部、足助、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、瀬戸尾張旭、津島愛西の 10 区画で確認されている。

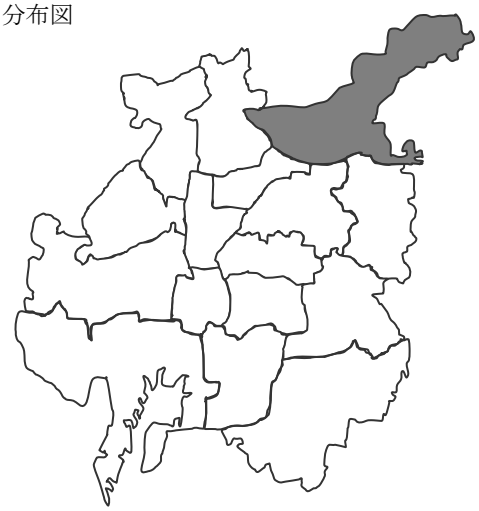
【国内の分布】

本州（関東地方以南）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷やため池の周辺などの湿った草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

上志段味ではところどころに生育していたが、土地造成やため池の改修により消失してしまった場所もある。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所に生育する植物であるが、それでも過度の攪乱には耐えることができない。生育地のため池周辺の自然環境を、全体として保全することが必要である。

【特記事項】

オカダイコン *A. madurense* DC.は丘陵地～低山地の林内などに生育し、葉は茎の中部に集まる傾向が強く、葉縁の鋸歯が鋭く、そう果の表面が平滑なもので、県内では鳳来北東部、鳳来北西部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、額田、岡崎北部、幸田に分布しているが、名古屋市を含む尾張では知られていない。

【関連文献】

保草Ⅰp.69，平草Ⅲp.212.
Koyama, H. 2001. *Adenostemma lavenia* and its allies (Compositae) in Japan, China and Thailand. Mem. Natl. Mus. Nat. Sci. (37):159-168.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

イナカギク　*Aster ageratoides* Turcz. subsp. *amplexifolius* (Sieb. et Zucc.) Kitam.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は通常斜上し、長さ 50～100cm になり、白い短毛を密生し、基部から匍匐枝を出す。葉は互生し、無柄、葉身は長楕円状披針形、長さ 6～12cm、幅 1.5～3cm、鋭尖頭、下部は急に狭くなって、基部はやや茎を抱き、両面に白い短毛を密生する。花期は 9～11 月。頭花は枝先に散房状につき、白色、直径約 2cm、そう果の冠毛は淡褐色で、長さ 3.5～4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地，鳥居ちゑ子 2047, 2001-10-23）に生育している。

【県内の分布】

東三河南部、西三河、尾張西部の低山地では、やや普通に見られる。しかし丘陵地には少なく、東三河北部の山地にも少ない。尾張では名古屋のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

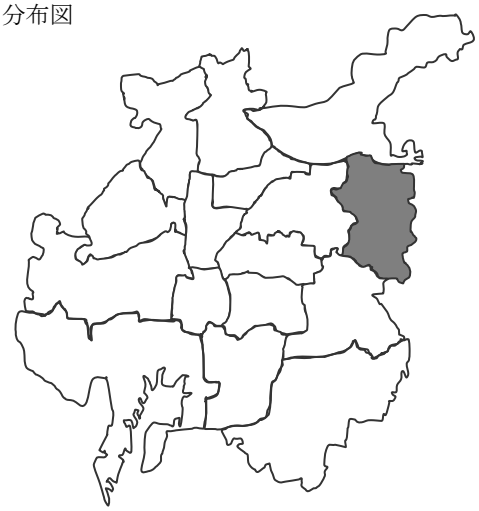
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

もともとは落葉広葉樹二次林の林縁に生育していたものと思われるが、現在ではモウソウチクが繁茂し、竹林内に貧弱な個体が少数残存しているにすぎない。このままでは遠からず消滅するものと思われる。

【保全上の留意点】

竹林の増加は、里山の保全を考える上で最も深刻な課題の一つである。竹林内は一年中光条件が悪く、しかも落葉が厚く堆積し、手入れの悪い場所ではほとんど林床植物が生育できない状態になってしまう。竹林は日本の自然環境要素としては本来存在しなかったものと考えられており、利用しないならばできれば排除すべきものである。

【特記事項】

シロヨメナ subsp. *leiophyllus* (Franch. et Sav.) Kitam.は茎や葉に毛が少なく、葉の基部はくさび形で短柄があるもので、名古屋市ではまだ確認されていない。

【関連文献】

保草Ⅰp.83，平草Ⅲp.197.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

ウラギク　*Aster tripolium* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 15. 塩湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

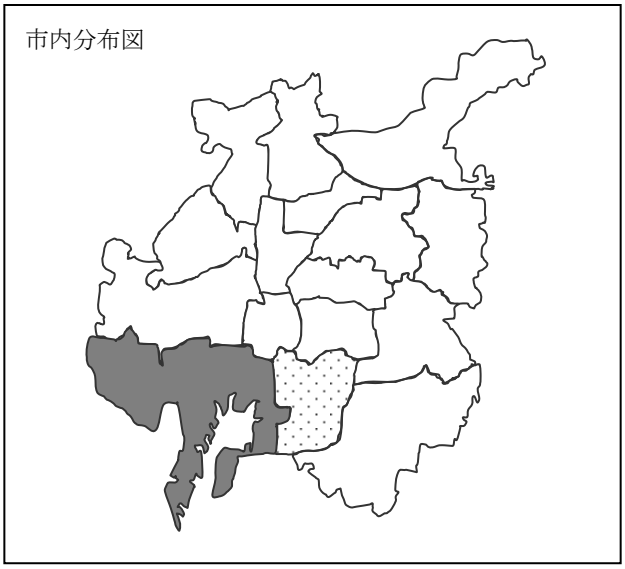
【形　態】

越年生草本。茎は直立して上方で分枝し、高さ 40～80cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は披針形、長さ 6.5～15cm、幅 0.6～1.5cm、先端は鋭頭、基部はやや茎を抱き、無毛で肉質である。花期は 10～11 月、茎の上部に、多数の頭花を散房状につける。頭花は直径 2.5～3cm、総苞は筒状で長さ約 7mm、総苞片は 3 列にならび、外片は披針形で長さ 2.5～3mm、鈍頭、辺縁に短い毛があり、内片は円頭で紫色をおびる。舌状花の花冠は淡青紫色で、舌部は長さ 7～10mm である。そう果は狭長楕円形、長さ 2.5～3mm、扁平で有毛、冠毛は花時には長さ 5mm 程度であるが、果時には 14～16mm に伸びる。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（当知町庄内川河川敷，芹沢 83580, 2008-10-12）に生育している。南区（加福町，高木順夫 5628, 1997-11-1）にも生育していたが、そこでは絶滅した。



【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、蒲郡、豊橋南部、田原東部、田原西部、刈谷知立、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、大府東浦、東海知多、半田武豊、海部南部で確認されている。三河湾沿岸には多いが、伊勢湾愛知県側には少ない植物である。

【国内の分布】

北海道東部、本州（関東地方以西の太平洋側）、四国、九州。

【世界の分布】

アジア、ヨーロッパ、アフリカ北部に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

内湾の塩湿地や河口部の河川敷などに生育するほか、埋立地の水路などに生育していることもある。ある場所では群生していることが多く、花時には美しい。

【現在の生育状況／減少の要因】

南区加福町では数十株が生育していたが、一般廃棄物最終処分場建設のため埋め立てられて絶滅した。庄内川河口部でも、右岸側はヨシが繁茂し、ほぼ消滅した。しかし軽度の撹乱があれば、個体数は回復すると思われる。

【保全上の留意点】

本種の生育地である内湾部や河口部は開発圧力が極めて高く、注意して自然環境を保全する必要がある。塩湿地性の植物は全体的に目立たないものが多いが、その中で本種はハマボウと共に花が美しく、象徴としての意味も大きい。「本種がなくなったら塩湿地性植物は全滅」という意味で、注目してよい植物である。

【特記事項】

ハマシオンとも呼ばれる。最近は学名として *Tripolium pannonicum* (Jacq.) Schur が使われることもある。

【関連文献】

保草Ⅰp.80，平草Ⅲp.194，環境庁 p.543，SOS 新版 p.154，愛知県 p.640.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

オケラ　*Atractylodes japonica* Koidz. ex Kitam.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。太い地下茎がある。地上茎は上部で分枝し、高さ 30～100cm になる。葉は互生し、長い柄があり、葉身は3～5深裂し、質は硬く、辺縁に鋭い細鋸歯がある。花期は9～10月、雌雄異株で、頭花は茎や枝に頂生し、直径2～2.5cm、総苞は鐘形で長さ約17mm、外側に2列に並んだ針状に羽裂した苞がある。小花は雄花では長さ 10～12mm、雌花では長さ 9～11mm、白色または淡紅色、冠毛は褐色を帯び、長さ 8～9mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゐ子 797，1994-10-15）に僅かに生育している。

【県内の分布】

低山地に点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、春日井で確認されている。

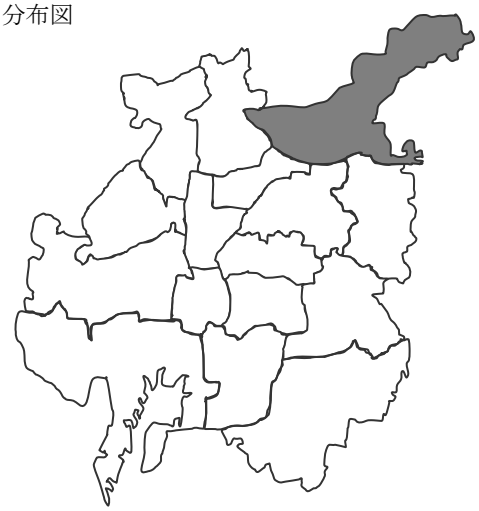
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の草地、林縁、明るい林内などに生育する。散在し、あまり群生しない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知用水沿いの斜面に生育していたが、改修工事の際に山裾が削られてほとんど失われ、その上側の低木の間にわずかに残存していた。ごく最近の状況は確認されておらず、個体数は見込み値である。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

地下茎は漢方で健胃薬とされる。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅰp.18，平草Ⅲp.225.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

ミズギク　*Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1。本地域の湧水湿地を特徴づける温帯性植物の一つで、名古屋市では生育地が極めて少ない。総点は 16 であるが、他の場所にも残存している可能性があるので、絶滅危惧ⅠB類と判定する。

【形　態】

多年生草本。茎は直立し、上部で多少分枝し、高さ 25～50cm になる。根出葉は花時にも残存し、さじ形、長さ 4～10cm、幅 8～15mm、はじめ毛が多く、全縁である。茎葉は互生し、全縁、基部はやや茎を抱く。花期は 6～10 月、頭花は枝の先端に 1 個、上向きにつき、黄色、直径 3～4cm である。総苞は半球形、総苞片はほぼ同長、外片は狭長楕円形で、密に毛がある。そう果は長さ約 1.5mm、冠毛があり、表面にはまばらに毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根長廻間，村松正雄 18565, 1999-7-23）に生育している。千種区（覚王山, 沢井輝男 s.n., 1932-8-6）、天白区（平針, 犬飼清 s.n., 1967-9-16）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、作手、豊川、豊橋北部、田原東部、田原西部、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、知多南部、春日井の 21 区画で確認されている。新城で採集された標本もある。温帯性の植物であるが、県東北部の山地には分布していない。

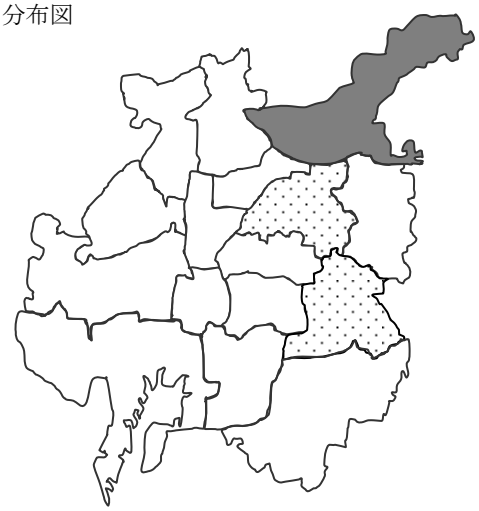
【国内の分布】

本州（近畿地方以東）および九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

一般には山地の湿地に生育する。愛知県では丘陵地の湧水湿地に点在する。

【現在の生育状況／減少の要因】

1 ヶ所の湿地に、少数の個体が生育している。もともとはあちこちに生育していたが、開発により生育地が減少し、現在の状態に追い込まれたものと思われる。花が目立つため、目につきやすい場所では園芸目的で採取されることもある。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも無視できない。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湿地を涵養する水源部もあわせて保全する必要がある。その一方で、本種は花が比較的目立つため、本来生育していなかった湿地に移植しようとする動きもある。このような移植は、植え込みの時に湿地を攪乱し、その場所にもともとあった植物に悪影響を与えるだけでなく、植物の本来の分布を混乱させてしまう。植物の分布には歴史性があり、ないものは「ない」のがその湿地の個性である。かつてあったがなくなってしまった湿地に移植することも、原則として行ってはならない。

【関連文献】

保草Ⅰp.69，平草Ⅲp.203，SOS 旧版 p.87，SOS 新版 p.99，愛知県 p.558.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

カシワバハグマ　*Pertya robusta* (Maxim.) Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 14。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は横にはう。茎は直立し、分枝せず、高さ 30～70cm になる。葉は茎の中央部にやや集まってつき、下部のものには長く、上部のものには短い柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ 10～20cm、先端は鋭頭、辺縁にあらい歯牙がある。花期は 9～11 月、頭花は茎の上部に穂状に数個つき、総苞は長さ 17～27mm、外片は扁円形、内に 10 個前後の小花がある。そう果は長さ 10～11mm。冠毛は褐色を帯び、不ぞろいで、長さ 13～15mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，飯尾俊介 102, 2002-10-3；中志段味宮前，鳥居ちゑ子 2208, 2002-9-30）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地に点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

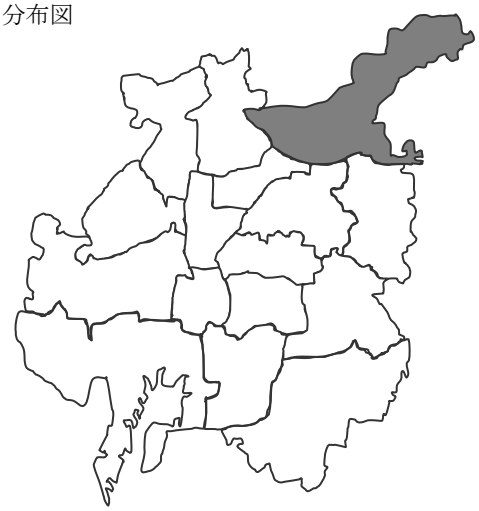
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 ヶ所にあるが、どちらも個体数はごく少ない。中志段味では造林地の中に生育しているが、草刈りの時期によっては生育を確認できない年もある。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。また東谷山は、本種を含めて名古屋市では希少な植物が多数生育している場所である。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

【特記事項】

クルマバハグマ *P. rigidula* (Miq.) Makino はより山地性で、尾張では瀬戸尾張旭と犬山に生育している。

【関連文献】

保草Ⅰp.19，平草Ⅲp.209.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　スイカズラ科＞

タニウツギ　*Weigela hortensis* (Sieb. et Zucc.) K.Koch

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 14。日本海側に分布の中心を持つ植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない

【形　態】

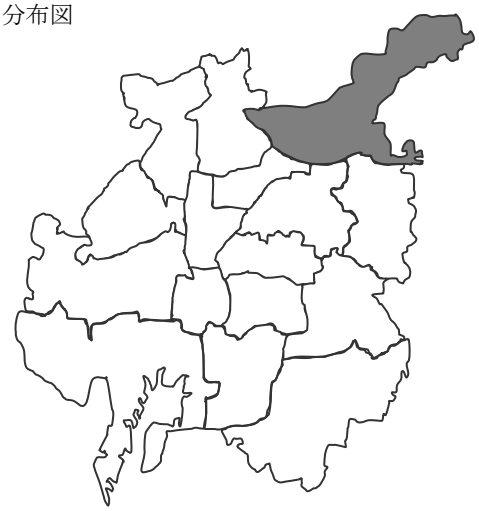
落葉性の低木。高さ 5m に達する。葉は対生し、長さ 3～10mm の柄があり、葉身は楕円形～卵状楕円形、長さ 4～10cm、先端は鋭尖頭、基部は広いくさび形または円形、辺縁には小さい鋸歯があり、裏面に白色の軟毛を密生する。花期は 5～6 月、花は枝の先端や葉腋から出る短枝に 2～3 個ずつつき、花冠は長さ 2.5～3.5cm、淡紅色だがつぼみの時は色が濃く、筒部は上部が鐘状にふくらみ、先端は 5 裂して直径 2cm 程度になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味庄内川堤防，鳥居ちゑ子 3345, 2014-5-6）に生育している。守山区の他の場所（下志段味小学校南，日比野修 4413A, 1998-4-29）でも採集されている。東谷山で撮影されたという写真は、安原（1990）に掲載されている。緑区（鳴海町水広下、高木順夫 17608, 2009-5-19, NBC72）で採集された標本もあるが、これは植栽と思われる。

市内分布図



【県内の分布】

西三河北部に多く、その周辺にも点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、春日井に生育している。

【国内の分布】

北海道および本州の主として日本海側に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

陽性低木で、山地や丘陵地の林縁、攪乱跡地などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

高さ 1.5m ほどの株が 2 株生育している。下志段味では、近くの人の話では以前はかなりあったらしいが、区画整理により消滅した。

【保全上の留意点】

陽性低木であるため、安定した環境では存続できない。個別的な保全が必要である。

【特記事項】

同属のヤブウツギ *W. floribunda* (Sieb. et Zucc.) K.Koch は、東三河と西三河では普通に見られるが、尾張産の確実な資料はない。2014 年のレッドリスト（案）では絶滅としたが、その後の調査で現存が確認された。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.45．エフエー出版，名古屋．

【関連文献】

保木Ⅰ pp.18-19，平木Ⅱ pp.239-240.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　コケシノブ科＞

ウチワゴケ　*Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級3、集団数階級3、生育環境階級3、人為圧階級3、県内分布 1、総点 13。市街地や丘陵地では希少な着生植物である。

【形　態】

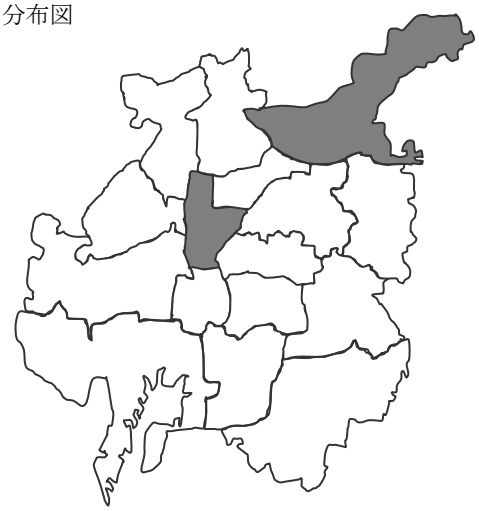
小型の常緑性シダ植物。根茎は長くはい、暗褐色の毛を密生する。葉はまばらにつき、葉柄は長さ 10～20mm、細く、翼はない。葉身は扇形～広楕円形、長さ 7～15mm、基部は心形～広いくさび形、辺縁は不規則に浅裂～深裂し掌状となる。葉肉部分は薄い膜質で、1 層の細胞からなる。包膜は長い鐘形、口縁は広がり全縁、胞子のう床は長く伸びる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根至来川，村松正雄 27957, 2014-12-24)、中区(名古屋城, 高木順夫 10567, 2002-9-14）で確認されている。中区の生育地は名古屋城の石垣で、市街地に生育する例として特に貴重である。

市内分布図



【県内の分布】

東三河、西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球に分布するが、東北日本では稀である。

【世界の分布】

旧世界の熱帯に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

林内の岩上や樹幹に着生し、通常群生してマット状となる。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では流れに沿った倒れかけの樹幹に小群落があった。名古屋城では石垣の間に小群落があっただけである。

【保全上の留意点】

守山区の自生地は、名古屋市内ではシダ植物が集中して生育している場所の一つであるが、近くまで造成が迫っている。生育地の保全が必要である。名古屋城の石垣は文化財として保全されているが、小群落なので、乾燥等により消失するおそれがある。

【関連文献】

保シダ pp.44-45，平シダ p.86.
倉田　悟・中池敏之（編）．1985．日本のシダ植物図鑑 5:24-35．東京大学出版会，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　チャセンシダ科＞

チャセンシダ　*Asplenium trichomanes* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。名古屋市では 1 ヶ所で生育が確認されているだけで、これが名古屋市を含む尾張地方で唯一の自生地である。

【形　態】

常緑性のシダ植物。根茎は短く直立し、葉と枯れた葉柄を多数束生する。葉柄は短く、中軸と共に光沢のある紫褐色で、表側に褐色で薄紙質の狭い翼が 2 枚つく。葉身は線形、単羽状複生、長さ 5～25cm、幅 1.2～2cm。羽片は 20～30 対で長楕円形、長さ 5～12mm、幅 2～4mm、先端は円頭、基部は広いくさび形、辺縁にはごく浅い鋸歯がある。胞子のう群は各羽片に 2～4 対つき、長楕円形～線形、長さ約 1.5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城，芹沢 78091，2002-9-14）に生育している。

【県内の分布】

東三河には点在し、西三河でも足助、豊田東部、額田、岡崎北部などに生育している。尾張では名古屋市で確認されているだけである。

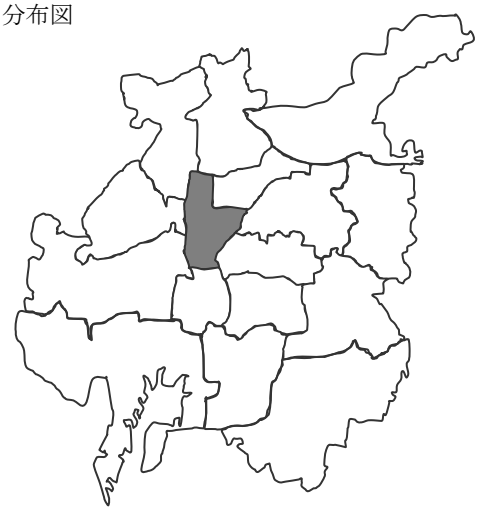
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、東北日本では少ない。

【世界の分布】

全世界の温帯～暖帯に広く分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

岩場や村落の石垣などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋城では複数の小群落があり、大きいものは葉長 25cm に達し、生育状況も良好であった。しかし、最近の状況は確認していない。

【保全上の留意点】

生育地は文化財として保全されている場所なので、過度の除草等が行われなければ、将来も存続すると思われる。

【特記事項】

和名は茶筅シダで、多数の枯れた葉柄が束生する状態から名付けられたといわれる。

【関連文献】

保シダ p.149，平シダ p.149.
倉田　悟・中池敏之（編）．1985．日本のシダ植物図鑑 2:196-205．東京大学出版会，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　イワデンダ科＞

ウスヒメワラビ　*Acystopteris japonica* (Luerss.) Nakai

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

夏緑性のシダ植物。根茎は短くはい、接近して少数の葉を出す。葉柄は長さ 20～30cm になり、紫褐色、全体に披針形ではじめ白色、後に淡褐色の鱗片がある。葉身は三角状卵形、長さ 20～50cm、幅 15～40cm、薄い草質、3 回羽状に切れ込み、まばらに軟毛がある。羽片は 7～8 対、ほぼ対生し、ほとんど無柄、中軸から 50～60°の角度で開出する。最下羽片の下側第 1 小羽片は次の小羽片より著しく短い。胞子のう群は円形、裂片の辺縁寄りにつき、包膜は小さい。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，鳥居ちゐ子 2352，2003-8-1;下志段味穴ケ洞，村松正雄 17961，1998-7-27）に生育している。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

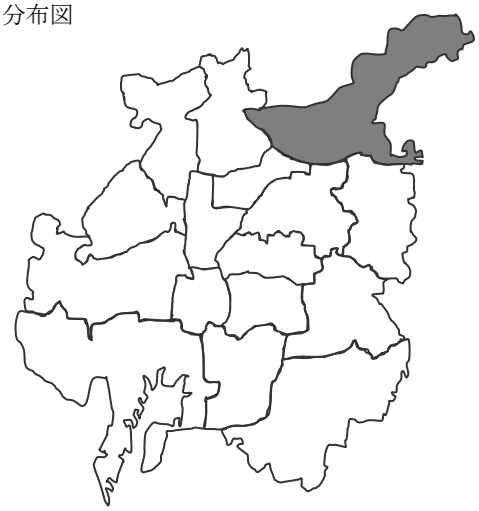
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸南西部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区の 2 ヶ所に小群落がある。東谷山は名古屋市では唯一の山地状の場所で、生育地としては安定しているが、ここのものは葉長が 25cm ほどで、生育状態はあまりよくない。下志段味では、最近の状況は確認されていない。周辺は開発が進んでおり、生育地が失われる可能性もある。

【保全上の留意点】

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。下志段味については、丘陵地の地形を保全する必要がある。

【特記事項】

葉面の直立する軟毛が特徴である。

【関連文献】

保シダ p.118，平シダ p.228.
倉田　悟・中池敏之（編）．1987．日本のシダ植物図鑑 5:400-407．東京大学出版会，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　イワデンダ科＞

ヘラシダ　*Deparia lancea* (Thunb.) Fraser-Jenk.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

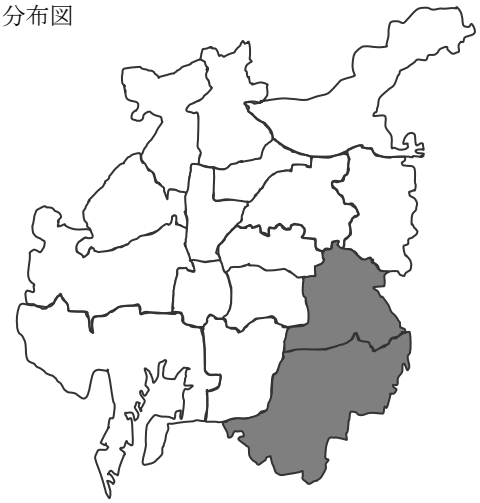
常緑性のシダ植物。根茎はやや長く這う。葉はやや 2 型性、胞子のう群をよくつける葉の葉柄は長さ 15～30cm、線状披針形で黒褐色の鱗片をつける。葉身は長さ 15～35cm、幅 1.8～3cm の単葉、先端は鋭尖頭、下部は次第に狭くなるが最基部はやや急に狭くなることが多く、辺縁は全縁～浅い波状縁、革質で表面は深緑色である。胞子のう郡は線形、長さ 3～10mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（相生山緑地，芹沢 88619, 2013-7-20）に生育している。緑区（神の倉，中島ひろみ 570, 1996-10-28）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

低山地には広く分布しているが、丘陵地には少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、知多南部、小牧、春日井の 4 区画で記録されている。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本からマレーシア、インドにかけて分布している。

【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの湿った傾斜地や崖地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では保全緑地の中の小さな流れに沿って小群落があった。緑区は最近の状態が確認されていない。

【保全上の留意点】

生育地自体は今後も保全されると思われるが、小群落なので、何かの事情で消失してしまう可能性がある。一方でていねいに探索すれば、新たな自生地が発見される可能性もある。

【特記事項】

以前は *Diplazium* 属とされることが多く、そのため *Diplazium* 属は一般にヘラシダ属と呼ばれてきたが、最近の研究により *Deparia* 属の植物であることが判明した。名古屋市では今まで稀少偶産種と見なしてきたが、2013 年に小群落が確認されたので、評価の対象に追加した。

【関連文献】

保シダ p.135，平シダ p.251.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　イワデンダ科＞

ウスバシケシダ　*Deparia* sp.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2、補正+1（準固有）。未記載の植物で、濃尾平野が分布域の中心になっている。名古屋市では生育地が少ない。総点は 14 であるが、相生山緑地の集団は当面存続すると思われるので、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【形　態】

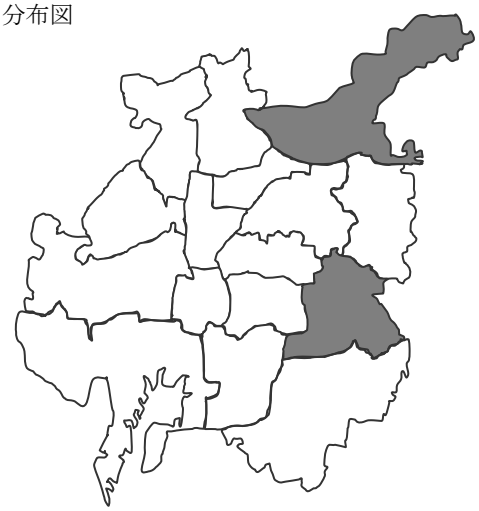
夏緑性のシダ植物。根茎は細く、長くはい、1～2cm 間隔で葉を出す。葉柄は胞子をよくつけた葉で長さ 20～40cm になる。葉身は広披針形～三角形、長さ 25～40cm、幅 13～25cm、草質、2 回羽状に切れ込む。羽片は 8～10 対、下部のものはほぼ直角に、中部のものも広い角度で開出し、羽状に深裂し、裂片は円～鈍頭で辺縁に比較的目立つ鋸歯があり、裏面は脈上に多細胞毛があるほかは無毛である。胞子のう群は半月形、長さ 1～3mm、裂片の中肋よりにならんでつき、包膜は無毛、辺縁は若時内側に折れる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流，芹沢 76998, 2000-10-1）、天白区（牧野ヶ池緑地，芹沢 78815, 2003-9-26; 相生山緑地，芹沢 77734, 2001-10-13）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来北東部、田原東部、下山、岡崎北部、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、一宮東部などで確認されている。最初の発見地である津島愛西（津島市津島神社）では、発見後間もなく境内整備のため絶滅した。

【国内の分布】

本州および九州。濃尾平野とその周辺の丘陵地に点在するほか、最近になって和歌山県と鹿児島県で各 1 ヶ所自生地が発見された。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

社寺境内、河川敷などのやぶ、丘陵地の林縁などに生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では才井戸流に小群落があったが、最近の状況は確認されていない。天白区では相生山緑地にやや大きい群落があり、牧野ヶ池緑地にも僅かに生育している。どちらの場所も緑地として保全されているが、公園整備等により失われる可能性もある。

【保全上の留意点】

人里周辺であるが、自然環境が良好な場所に生育している。本種が生育している場所は、そのような意味でも保全の必要性が高い。

【関連文献】

SOS 旧版 p.41，SOS 新版 p.202，愛知県 p.321.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　オシダ科＞

タニヘゴ　*Dryopteris tokyoensis* (Matsum. ex Makino) C.Chr.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

夏緑性のシダ植物。根茎は太く直立し、葉を束生する。葉はほとんど直立し、葉柄は長さ 20～30cm、暗褐色～淡褐色で膜質の鱗片を密につける。葉身は倒披針形、単羽状で長さ 1m に達し、下部の羽片は次第に短くなる。羽片は線形～線状披針形、浅裂～深裂、最下裂片は最も大きく耳形となる。胞子のう群は羽片の中肋寄りに 1～2 列に並び、円腎形の包膜がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味大洞口，鳥居ちゑ子 2366, 2003-9-11）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河には点在する。尾張では少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されているだけである。

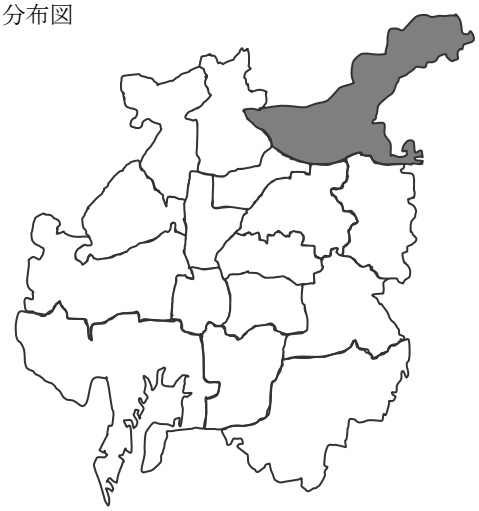
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、西南日本では少ない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地の谷すじの湿地に生育し、しばしば開けた場所や疎林内に群生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 ヶ所に生育しており、個体数も比較的多い。現在のところは生育状態も良好であるが、開発等で失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の保全が必要である。

【関連文献】

保シダ p.94，平シダ p.188.
倉田　悟・中池敏之（編）．1985．日本のシダ植物図鑑 1:504-510．東京大学出版会，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　オモダカ科＞

ヘラオモダカ　*Alisma canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13. 湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生の草本。茎は短く、走出枝はない。葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は長楕円形～線状楕円形、長さ 10～25cm、先は鋭頭で鈍端、基部は次第に細まり、辺縁は全縁、両面無毛である。花期は 8～10 月、花茎は直立し、高さ 40～70cm、上部に 3 本ずつ枝を分けるまばらな円錐花序をつける。花は両性で、花弁は 3 個、卵円形で白色、長さ約 4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味穴ケ洞, 鳥居ちゑ子 2360, 2003-8-1）に生育していた。

【県内の分布】

東三河と西三河では、平野部を除く全域にやや普通に見られる。尾張ではやや少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、大府東浦、半田武豊、犬山、春日井で確認されている。

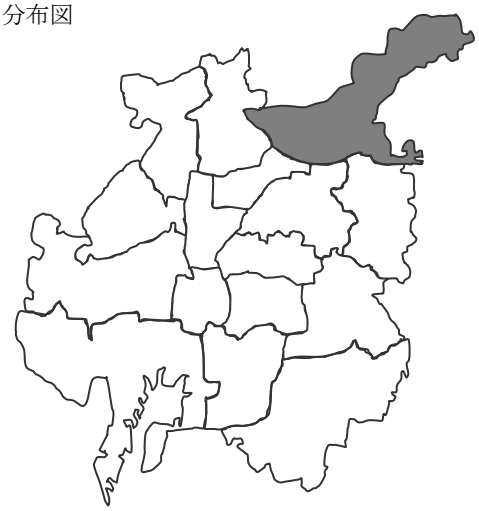
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

日本、朝鮮、中国。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼のため池、河川、水路の浅水域、水田などに生育する抽水～湿性植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区下志段味の、造成地の一部に水がたまり浅い沼状態になっている場所に少数株が生育しており、雨が多い年には大きく育ってよく花をつけていた。最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

確認できた場所に限れば希少偶産種であるが、もともとは名古屋市内でもあちこちに生育していたと思われる。ため池の周辺や水田などの湿性地が生物多様性を保全する上で重要な場所であることを意識し、そのような場所が消滅しないよう、適切な保全策を立てる必要がある。

【特記事項】

「こんな植物が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市では市街地化の進行によって、本種のような植物が生育できる湿地が減少しており、愛知県全体で見ればさほど希少でない種も絶滅が危惧される状態に追い込まれている。

【関連文献】

保草Ⅲp.396，平草Ⅰp.2.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.16．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.71．文一総合出版，東京.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　オモダカ科＞

アギナシ　*Sagittaria aginashi* Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形　態】

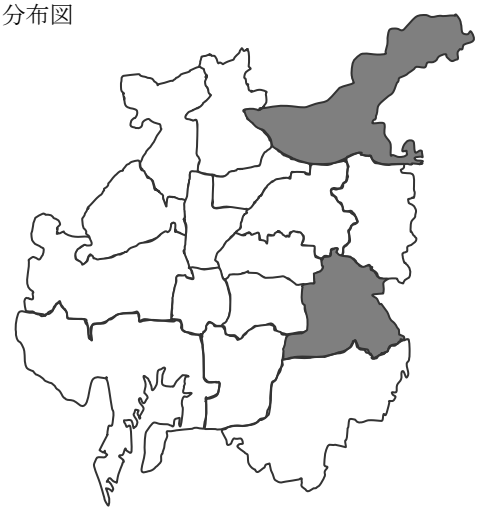
多年生の水草。茎は短く、走出枝はない。葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は矢尻形、頂裂片は広被針形～線形、長さ 7.5～17.5cm、鈍端。側裂片は頂裂片より少し長く、先端は次第に細まり鈍端となる。辺縁は全縁、両面とも無毛である。花期は 7～10 月、花茎は長さ 30～80cm で、その上部に枝を 3 個ずつ輪生する総状花序をつくり、花序の上部に雄花、下部に雌花を付ける。花弁は 3 枚で白色、卵円形で長さ 10～13mm。果実は扁平で倒卵形、翼があり、長さ 3～5mm。葉腋に多くの小球茎を付け、栄養繁殖する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山麓，芹沢 52674, 1989-8-23）、天白区（島田緑地，石川・渡邉 5124, 2002-6-20）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、設楽東部、作手、新城、豊川、豊橋北部、足助、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、半田武豊、常滑、春日井の 20 区画で確認されている。設楽西部、豊橋南部、刈谷知立で採集された標本もある。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮、中国。

【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、水田、湿地などに生育する抽水～湿性植物。山間部の休耕田などに群生することもある。オモダカよりやや安定した場所に多く、耕作中の水田の雑草とはならない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では東谷山麓に小群落があるが、個体数は次第に減少している。天白区では島田緑地の観察池に多数生育している。この場所のものは、「意図的に持ち込まれたものではない」とされているが、多少の不安が残る。

【保全上の留意点】

本種が生育し続けることができるような軽度の撹乱を受ける湿性地を維持する必要がある。

【特記事項】

オモダカに比べ、地下に走出枝がなく、かわりに小球茎をつけ、葉の側裂片は頂裂片より短く、その先端が鈍端であることで区別できる。和名は「顎無し」で、生長初期に出る葉が側裂片を持たないことによるという。

【関連文献】

保草Ⅲpp.400-401，平草Ⅰp.1，愛知県 p.642.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.20．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.77．文一総合出版，東京.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　トチカガミ科＞

オオトリゲモ　*Najas oguraensis* Miki

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 2、総点 12。池沼に生育する水草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

1年生の水草。茎は細く円筒形、長さ 50cm 以上になり、よく分枝するが折れやすい。葉は対生または 3 輪生、葉身は外側に曲がることもあまり曲がらないこともあり、線形、長さ 2～4cm、幅 0.3～0.7mm、質はやや硬く、辺縁にはっきりした鋸歯がある。葉の基部は長さ 2～4mm の葉鞘となり、葉鞘の先端は切形で小刺がある。花期は 7～9 月、雌雄同株で花は葉腋につき、雄花は苞鞘に包まれ、葯には 4 室がある。雌花は葯に包まれず柱頭は 2 深裂する。果実は各節に 1 個ずつつき、種子は長楕円形、長さ 3～3.5mm、表面には横に長い網目模様がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味滝ノ水池，鳥居ちゑ子 2363, 2003-9-3）、天白区（平針黒石，中島ひろみ 918, 2009-7-5）に生育している。守山区の他の場所（上志段味筧池，飯尾俊介 s.n., 1963-9-13）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、旭、豊田北西部、瀬戸尾張旭、大府東浦、美浜南知多で確認されている。

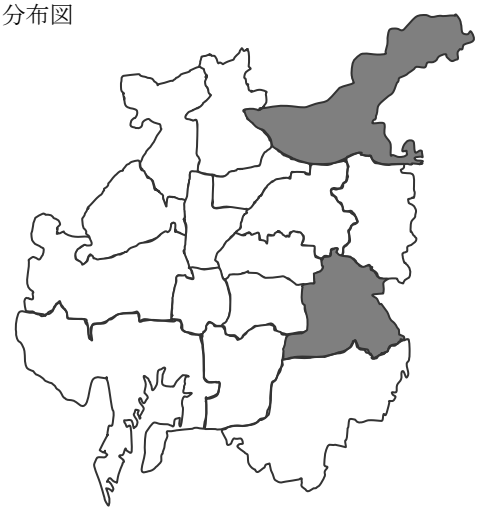
【国内の分布】

本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池に生育する沈水植物。ホッスモやイトトリゲモと異なり、愛知県内で今まで確認された生育地はほとんどがため池である。

【現在の生育状況／減少の要因】

滝ノ水池は透明度が低く、水面から繁茂している様子は確認できない。詳細な生育状況は不明であるが、衰退傾向にあることは確実と思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生育場所になっている。しかし、幹線用水路の整備につれてため池に対する依存度が低下した結果、埋め立てられたり、調整池として改修されたり、あるいは原形を保っていても生活排水が流入して汚濁しているものが多く、良好な状態を保っているため池はあまり残っていない。本種の場合も、生育地のため池を改修せずに保全すると共に、水質が現在以上に悪化しないよう、配慮が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.408，平草Ⅰp.18，愛知県 p.598.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.52．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.96．文一総合出版，東京.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ヤマノイモ科＞

ヒメドコロ　*Dioscorea tenuipes* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13. やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

つる性の多年生草本。根茎は横にはい、地上茎は無毛、長く伸びて他物に巻きつく。葉は互生し、長さ 2～10cm の柄があり、葉身は薄く三角状披針形、長さ 5～12cm、基部は心形で耳形に張り出す。花期は 7～8 月、花序は下垂し、長さ 5～20cm、花被片は 6 裂、楕円形で長さ約 1mm、淡緑色で平開する。雄花の柄はやや長く 3～4mm で、完全雄ずいは 6 個ある。果実は 3 翼があり、高さ 14mm、幅 18～20mm、種子は広楕円形で全周に翼がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ケ根, 鳥居ちゑ子 2636, 2008-7-16; 川松洞, 鳥居ちゑ子 60, 1992-8-2）に生育している。

【県内の分布】

オニドコロに比べればずっと少ないが、東三河、西三河の山地には点在している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

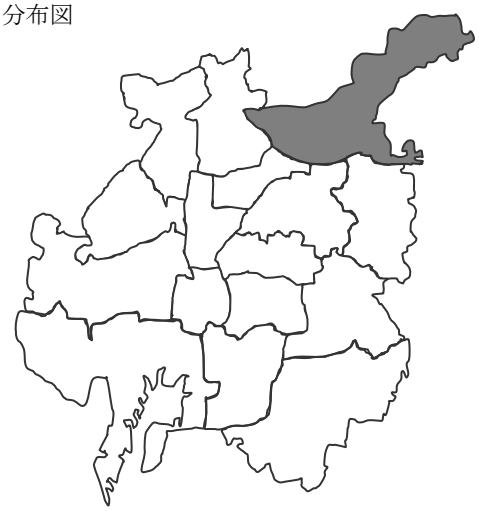
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

吉根では林縁に 1 株だけ生育していた。川では小幡緑地内の樹木に少数株がからみついていた。

【保全上の留意点】

現在確認されている生育地は 2 ヶ所だけであるが、注意して探索すれば他の場所でも発見される可能性がある。

【特記事項】

オニドコロに似るが、葉がより細長く、種子の全周に翼があることで区別できる。

【関連文献】

保草Ⅲp.83, 平草Ⅰp.57.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イヌサフラン科＞

チゴユリ　*Disporum smilacinum* A.Gray

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は長く横にはう。地上茎は高さ 15～30cm、基部は膜質の葉鞘に包まれ、分枝しないか、1～2 回分枝する。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は楕円形または長楕円形、長さ 4～7cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部はやや円形、両面無毛であるが、辺縁に半円形の突起がある。花期は 4～5 月、花は茎の先端に 1～2 個、横または下向きにつき、花被片は 6 枚で白色、披針形で長さ 10～15mm、液果は球形、直径 7～10mm、黒熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，日比野修 4418, 1998-4-29）に生育している。守山区の他の場所（吉根）にも生育していたが、ここでは標本を採取していない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

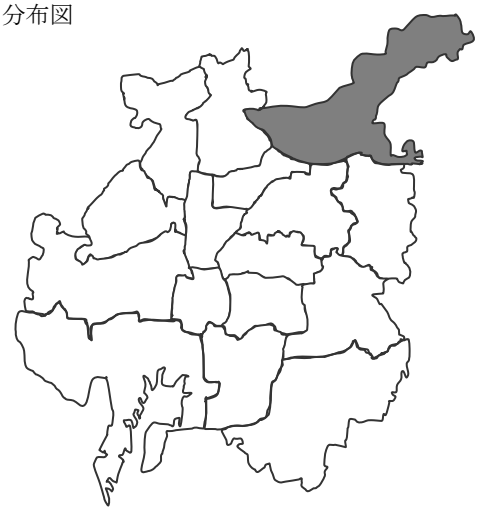
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

明るい落葉樹林の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山の自生地は近況を確認していないが、そのまま存続していると思われる。吉根では 2 地点に生育していたが、うち 1 地点は駐車場造成のため消失した。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【関連文献】

保草Ⅲp.109，平草Ⅰp.48.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ユリ科＞

アマナ　*Amana edulis* (Miq.) Honda

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。草地や疎林内に生育する早春植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。地中に卵形、長さ 3～4cm の鱗茎がある。葉は花茎の下部に 2 個つき、葉鞘が地中にあるため根出葉のように見える。葉身は線形、長さ 15～25cm、幅 5～10mm、先は次第に狭くなり、両面無毛である。花期は 4 月、花茎は高さ 15～30cm で、先端に通常 1 個（ときに 3 個）の花をつける。花は日中に開花し、花被片は 6 枚で披針形、長さ 2～2.4cm、鈍頭、白色で暗紫色の脈がある。蒴果は円形で、3 稜があり、長さ約 1cm、先端に花柱が残存する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（天子田，鳥居ちゑ子 1035, 1996-4-9）に生育している。

【県内の分布】

東三河には点在するが、西三河では生育地が少なく、尾張では名古屋市以外は瀬戸尾張旭で確認されているにすぎない。ただし生育している場所では、群生することが多い。

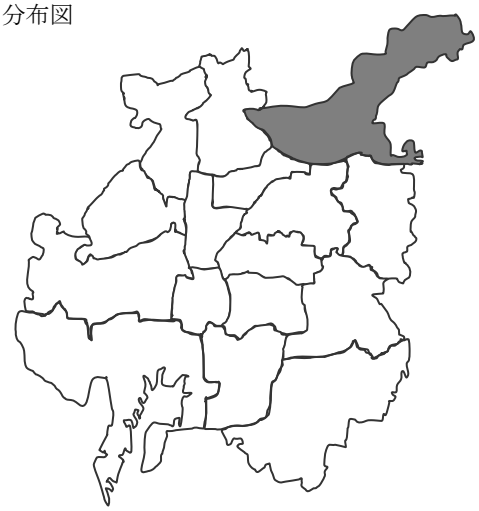
【国内の分布】

本州（福島県以南）、四国、九州、琉球（奄美大島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよい草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

矢田川に接した公園内に小群落がある。この場所は30年ほど前まで堤防から続いた農地であったが、区画整理で宅地化され、一部が公園として残された。アマナは現在の場所に、少なくとも造成直後から生育していた。

【保全上の留意点】

公園造成時に持ち込まれた可能性は完全には否定しきれないが、状況的には保全すべきものと判断される。公園整備によって失われないよう、注意する必要がある。

【特記事項】

早春植物で、初夏には地上部が消失する。

【関連文献】

保草Ⅲp.119，平草Ⅰp.38.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

サギソウ　*Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 13. 貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形　態】

多年生草本。地下に走出枝があり、その先端に楕円形で長さ 7～15mm の球茎をつける。茎は直立し、高さ 15～40cm になる。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除いて 3～5 個が互生し、葉身は広線形、長さ 5～10cm、幅 3～6mm、先端は鋭頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状となる。花期は 7～8 月、花は茎の先端に 1～3 個つき、直径約 3cm で白色、苞は卵状披針形、長さ約 5mm である。がく片は緑色、広卵形または斜卵形、長さ約 8mm、側花弁は白色で斜卵形、背がく片と並んで立ち、下部外縁に鋸歯がある。唇弁は大きく 3 深裂し、中裂片は披針形、側裂片は側方に開出して斜扇形、辺縁は深く細裂する。距は斜めに下垂し、長さ 3～4cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 479, 1993-8-26 など）、天白区（芹沢 56182, 1990-8-8 など）に生育している。千種区（覚王山，沢井輝男 s,n., 1932-8-6）で採集された標本もある。

【県内の分布】

丘陵地に広く分布し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、犬山、小牧、春日井の 7 区画で確認されている。知多半島ではごく稀である。

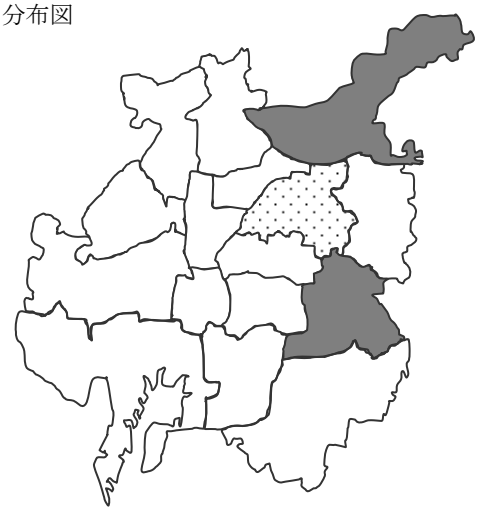
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

白鷺に似た美しい花をつけるランで、園芸目的で多量に採取され、全国的には絶滅状態の場所も少なくない。名古屋市内でもまだある程度生育しているが、園芸目的の採取や丘陵地の開発により、過去に比べれば大きく減少している。地下に子球をつけるため、繁殖力は比較的旺盛であるが、増加したと思って見ていると、ほとんど全部堀取られてしまうことも多い。

【保全上の留意点】

本種の場合、人工的な供給方法が確立されており、市場価格もそれほど高いものではないが、それでも山採りは止むことがない。大量に安価に供給すれば園芸目的の採取はなくなると思うのは、幻想にすぎない。自然の花と庭の花は別のものと考えることが必要で、そうでない限り、現在はまだかなりある本種も、いつかは絶滅させられてしまう。

その一方で本種は、消えゆく湿地性植物の代表として、しばしば自然湿地への植え戻しが行われている。しかし、植え戻しはその場所にまだ残存している他の植物に大きな打撃を与えるだけでなく、しばしば遺伝的汚染や病虫害の導入を招き、そこに残存している自然個体群に対する「最後のとどめ」になる。人為的な付け加え行為は、たとえ善意から出たものであっても、自然に対する大きな脅威であることを忘れてはならない。本種なら、生育できる条件を壊さずに気長に待てば、そのうち自然に分布を拡大してくるはずである。

【関連文献】

保草Ⅲp.7，平草Ⅰp.192，環境庁 p.615，SOS 旧版 p.111+図版 18，SOS 新版 p.111，愛知県 p.492.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

ジガバチソウ　*Liparis krameri* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、県内分布 1、総点 13。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は高さ 8～20cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1～2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は卵形、長さ 3～8cm、先端は鋭頭、葉脈ははっきりした網目模様となる。花期は 5～7 月、花は茎の上部に 10～25 個つき、多少なりとも紫を帯びた淡緑色のことが多く、苞は三角形で長さ 1～1.5mm である。がく片は線形で長さ 10～12mm、側花弁は反曲し、糸状で長さ 8～10mm、唇弁は長さ 6～8mm、下部で急に曲がって下垂し、舷部は幅 3～3.5mm、先端は鋭尖頭である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 1798, 2000-7-2）、天白区（伊藤晶子 26, 2002-5-15 など）に稀に生育している。千種区（東山，井波一雄 s.n., 1953-5-29, CBM251383）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地ではあちこちに生育しており、丘陵地にも多くはないが点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井で確認されている。

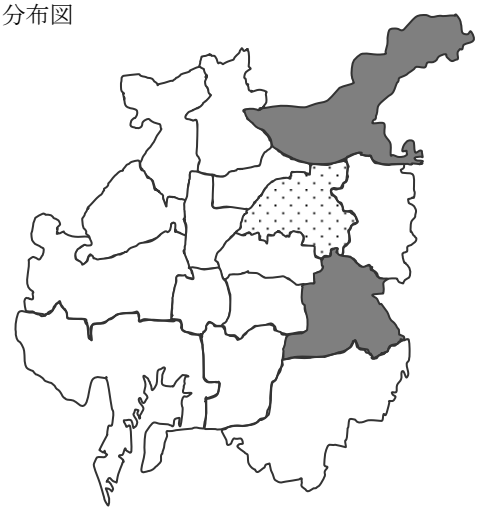
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林縁や明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かで確認されているが、どの場所も個体数は少ない。目立つ花ではないが、それでも見つかると掘りとられてしまうことが多い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種は愛知県全体ではそれほど希少な植物ではないため、好事家の意図的な採取は想定しにくい。むしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きく、自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んではならないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

【特記事項】

和名は、花の形態がジガバチに似ているからである。花の色には変異があり、淡緑色のもの、黒褐色のものなどもある。

【関連文献】

保草Ⅲp.51，平草Ⅰp.218.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

クモキリソウ　*Liparis kumokiri* F.Maek.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2（ただし 3 に近い）、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は高さ 10～20cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1～2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は広卵形、長さ 5～12cm、先端は鈍頭、葉脈の網目模様は目立たない。花期は6～7 月、花は茎の上部に 5～15 個つき、淡緑色、苞は三角状卵形で長さ 1～1.5mm である。がく片は長楕円形で鈍頭、長さ 6～7mm、側花弁は線形でがく片とほぼ同長、唇弁はくさび状倒卵形、長さ 5～6mm、中央上部で著しく反曲し、舷部は幅約 5mm で、先端は微凸頭である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（鳥居ちゑ子 1953, 2001-6-8）に生育している。緑区（鳴海町水広下, 芹沢 59028, 1991-6-28）にも生育していたが、ここでは絶滅した。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地ではあちこちに生育しているが、丘陵地には少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

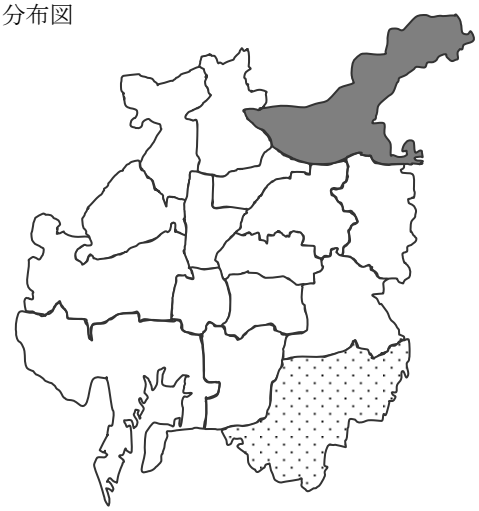
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やや湿った明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区には現存するが、個体数は少ない。緑区では水広下池近くの林内に生育していたが、宅地造成のため絶滅した。

【保全上の留意点】

生育地の地形と森林を保全することが必要である。園芸目的の採取は、ジガバチソウに比べれば少ない。

【特記事項】

ジガバチソウに似るが、葉は鈍頭で、葉脈の網目模様が目立たない。山地ではジガバチソウより多いが、丘陵地ではそれより少ない。

【関連文献】

保草Ⅲp.51，平草Ⅰp.219.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　キジカクシ科＞

キヨスミギボウシ　*Hosta kiyosumiensis* F.Maek.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。山地の草地や川岸の岩場に多い植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は短くはう。葉は束生し、長さ 6～30cm の柄があり、葉身は長卵形～広卵形、長さ 7～25cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形～ごく浅い心形である。花期は 6～7 月、花茎は高さ 30～60cm になり、上部に 5～30 個の花をつける。苞はボート状、長さ 2.5～3cm、鋭頭、つぼみの時は互いに重なり合う。花は淡紫色、長さ 4～5cm、広筒部は急に、または次第に太くなる。果実はよく形成される。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味庄内川，日比野修 4549, 1998-6-28; 吉根太鼓ケ根，芹沢 82959, 2008-7-16）、緑区（鳴海町笹塚，渡邉幸子 4775, 2001-6-29）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、美浜南知多、犬山、江南丹羽、小牧、春日井に生育している。

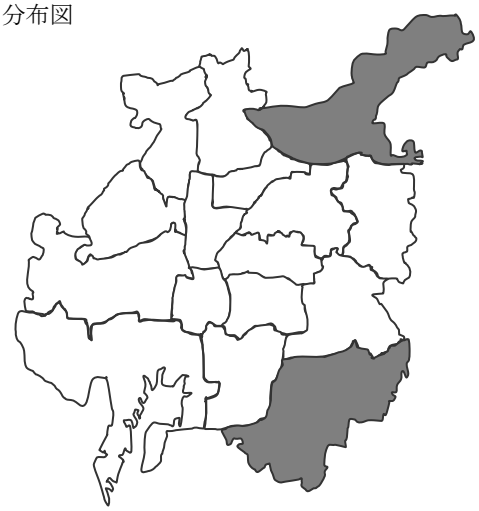
【国内の分布】

本州（関東地方南部～紀伊半島）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やや湿った草地や、川沿いの湿った岩場に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

以前はあちこちに生育していたものと思われるが、近年生育を確認できたのは 3 ヶ所だけで、しかもどの場所でも個体数が少なく、存続の基盤が脆弱である。緑区では愛知用水沿いに生育していたが、改修等によりほとんど消滅した。

【保全上の留意点】

里草地の保全が必要である。

【特記事項】

オオバギボウシに似ており、愛知県の山地の草地ではしばしばそれと混生しているが、つぼみの時に苞が重なり合い、開出しないことで区別される。草地に生育するものと川岸の岩場に生育するものが全く同じであるかどうかについては、今後更に検討が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.138，平草Ⅰp.32.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　キジカクシ科＞

コバギボウシ　*Hosta sieboldii* (Paxton) J.W.Ingram form. *spathulata* (Miq.) W.G.Schmid

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級3、集団数階級3、生育環境階級4、人為圧階級2、県内分布 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は横にはい、そのためしばしば群生する。葉は束生し、葉身は楕円形～長楕円形、大きさは変異が著しく、小さい個体では長さ 4cm 程度であるが、大きい個体で花笠 20cm くらいになり、先端は通常鈍頭、基部は葉柄に流れる。花期は 7～8 月、花茎は高さ 35～100cm になり、上部に 3～20 個の花をつける。花は淡紫色で脈は著しく濃色になり、長さ 4.5～6cm、狭筒部は長さ 1.5～2.2cm で、広筒部は通常鐘状に急に太くなる。果実はよく形成される。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，芹沢 83268, 2008-9-13）に生育している。緑区（鳴海町笹塚, 標本なし）にも生育していた。

【県内の分布】

東三河山間部の湿地には多い。ミズギボウシの分布する西三河や尾張では、点在するが少ない。尾張では瀬戸尾張旭、東海知多、常滑で確認されている。

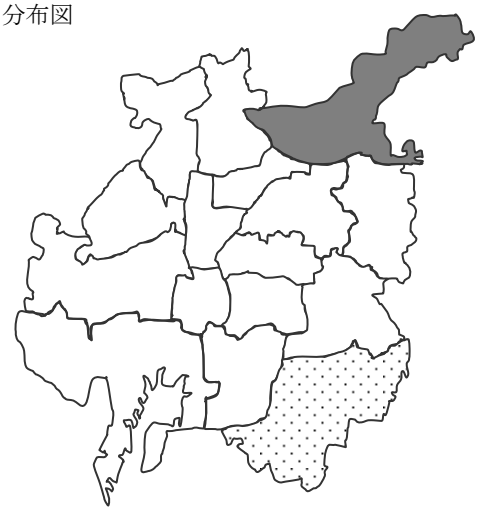
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。湿地性の植物の中ではかなり耐陰性があり、林内にも残存している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 ヶ所の林内湿地に生育しているが、どちらも遷移の進行によって林内が暗くなり、ほとんど花をつけない状態になっている。緑区では愛知用水わきの草地に生育していたが、改修により消滅し、現存を確認できない。

【保全上の留意点】

守山区の自生地については、湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

【特記事項】

本種とミズギボウシの雑種も、守山区上志段味東谷（鳥居ちゑ子 468, 1993-8-26）、同小幡緑地（芹沢 56212, 1990-8-8）などに生育している。この雑種はコバギボウシに似ているが、全体に大型で、葉が細く、花がややまばらにつき、果実が熟さない。

【関連文献】

保草Ⅲpp.135-136，平草Ⅰp.33.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ガマ科＞

ナガエミクリ　*Sparganium japonicum* Rothert

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13。水生植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生の水草。地中を横にはう根茎がある。茎は立ち、分枝せず、高さ 35～100cm になるが、横たわると全長 150cm を超えることもある。葉は 2 列に互生し、線形、抽水葉は裏面に稜があって断面は三角形になり、幅 7～14mm、下部は葉鞘となる。花期は 6～9 月、花序は分枝しない。雌性頭花は 3～7 個で、少なくとも下側の 1～3 個は長さ 7～50mm の柄があり、主軸とは合着しない。雄性頭花は 4～9 個で雌性頭花から離れてつく。果実は紡錘形で長さ 4～6mm、幅 2mm、全体に流線形で他種の果実に比べて細長く、先端は嘴状に尖る。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流，芹沢 76859，2000-7-8）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東栄、鳳来北東部、豊橋北部、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、安城、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、犬山、江南丹羽、小牧、春日井、一宮東部、一宮西部の 17 区画で確認されている。

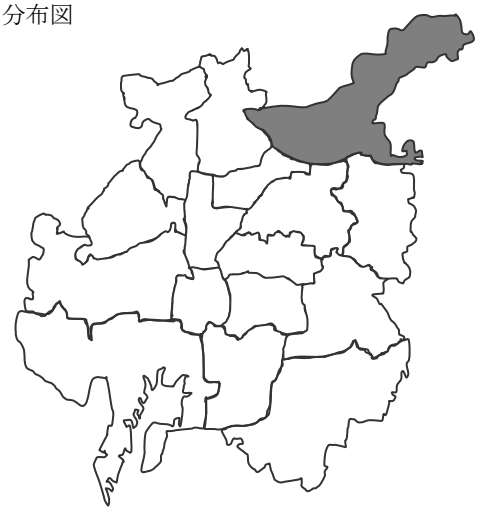
【国内の分布】

北海道（南西部）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本を含むアジア極東地域に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川、水路などに生育する抽水植物。流水域に多いが、止水域にも生育する。流れが強い場所にあるものは、しばしば水中葉だけが出て、セキショウモのような形になる。

【現在の生育状況／減少の要因】

才井戸流では水路中にナガエミクリのほかミクリ、ヤマトミクリも生育している。個体数はヤマトミクリよりずっと多い。周辺にもいくつかの小群落がある。しかし周囲の開発により、将来の存続が懸念される。水路自体が保全されても、公園化されれば水質が悪化し、帰化植物等が侵入することも予想される。

【保全上の留意点】

本種の主要な生育地であったはずの平野部の小河川は、ほとんどがコンクリートで三面を固められ、生活排水が流入し、一昔前とはまるで異なる状態になっている。その意味では、平野部の水草は、ごく一部の種類を除きすべて危機的であると言ってもよい。「さらさら流れる春の小川」を保全することは、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、重要な課題である。才井戸流に関して言えば、保全上重要なのは、個々の植物よりむしろ全体的な景観である。

【特記事項】

和名は、下部の雌性花序に柄があるからである。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 11 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅲpp.420-421，平草Ⅰp.143，愛知県 p.647.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.80．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.152．文一総合出版，東京.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ビロードスゲ　*Carex fedia* Nees var. *miyabei* (Franch.) T.Koyama

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。湿草地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、小さい株をつくる。茎は高さ 30～60cm、無毛、基部の葉鞘は葉身がなく、一部が赤褐色を帯び、硬質で光沢があり、前面に赤紫褐色の糸網がある。葉は細い線形、幅 3～5mm である。果期は 5～6 月、小穂は上部の 2～4 個が雄性、線形で長さ 1.5～3cm、下部の 2～3 個は雌性、短い円柱形で有柄、長さ 2～4cm である。苞は葉状で、基部は鞘にならない。鱗片は紫色を帯びた赤褐色、果胞は楕円形、長さ 3～4mm、灰色の毛があり、嘴はやや長い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根庄内川，村松正雄 16128, 1995-5-7）に生育している。茎葉だけの標本だが、天白区（相生山緑地，芹沢 76769, 2000-6-10）にもそれらしいものがある。

【県内の分布】

三河山地に点在するが、平野部の河川沿いにも稀に見られる。尾張では名古屋市のほか、犬山、江南丹羽、一宮東部で確認されている。

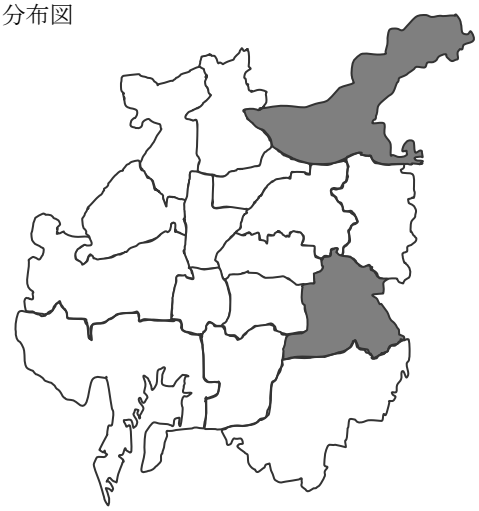
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

日本固有。種としては日本からインドまで分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湿地や河岸の砂地に生育する。名古屋市の生育地も、河川敷の砂地である。

【現在の生育状況／減少の要因】

吉根の庄内川河川敷に小群落がある。最近の状況は確認されていないが、そのまま存続していると思われる。

【保全上の留意点】

生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

【特記事項】

守山区の庄内川河川敷は全域を精査したわけではない。ていねいに調査すれば、他の場所でも確認できるかもしれない。和名は果胞の毛に由来する。

【関連文献】

保草Ⅲp.297，平草Ⅰp.149.
吉川純幹．1958．日本スゲ属植物図譜 2:280-281．北陸の植物の会，金沢．
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.350．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　カヤツリグサ科＞

ツクバスゲ　*Carex hirtifructus* Kük.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1。岩崖地性の植物で、名古屋市では生育地が限られている。

【形　態】

多年生草本。時に短い匍匐枝を出し、ややゆるい株を作る。茎は高さ 15～50cm、基部の葉鞘は褐色で繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2～3mm である。果期は 4～5 月、小穂は 3～4 個が互いにやや離れてつき、頂小穂は雄性、線状楕円形で長さ 2～3cm、側小穂は雌性で披針形～線状楕円形、長さ 1～2cm、最下の側小穂は時に根出状になる。苞は短く、基部は長さ 1～2cm の鞘となる。果胞は紡錘形～紡錘状長卵形、長さ 4～6mm、有毛、嘴は長く、先端は鋭い 2 歯となる。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味庄内川，日比野修 4385, 1998-3-30）に生育している。

【県内の分布】

木曽川、庄内川、矢作川、豊川、天竜川支流の河岸岩場に生育するほか、三河山地に点在している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と犬山の 2 区画で確認されている。

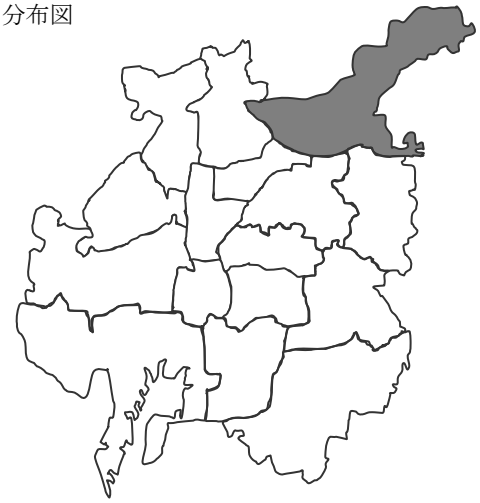
【国内の分布】

本州（近畿地方以北の主に太平洋側）、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河岸の岩場や山地の岩場に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

カワラハンノキ（市 VU）やケイリュウタチツボスミレ（市 NT）と同様庄内川中流域の渓谷部には連続的に生育しており、その末端が僅かに名古屋市に達している。現在のところ特に減少してはいないが、護岸工事等があれば名古屋市からは容易に消滅してしまう。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、他に本種が生育できそうな場所はない。生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

【特記事項】

ショウジョウスゲ *C. blepharicarpa* Franch.に似ているが、株はややまばらに叢生し、果胞の嘴は長く、口部は鋭い 2 歯となる。2004 年版では、ショウジョウスゲに含めて記述されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.263（ナガミショウジョウスゲとして）.
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.275．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

イソヤマテンツキ　*Fimbristylis ferruginea* (L.) Vahl var. *sieboldii* (Miq.) Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 12。沿海地に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ 15～40cm になり、基部の鞘は赤褐色である。葉は幅 1～1.5mm、無毛、下部のものは鞘のみに退化し、上部は次第に長くなるが、茎よりも短い。花期は 8～10 月、茎の先端に 1～5 個の小穂をつけ、小穂の柄は分枝しない。小穂は狭卵形～狭長楕円形、長さ 5～13mm、幅 2～3mm、濃褐色で光沢がない。果実はレンズ形で、濃褐色、やや平滑で、長さ 1～1.2mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（当知町庄内川河川敷, 鈴木敏之 s.n., 2005-10-7; 金城ふ頭, 芹沢 85131, 2009-10-3）に生育している。

【県内の分布】

沿海部に点在しており、尾張では名古屋市のほか、半田武豊、美浜南知多、津島愛西、海部南部で確認されている。

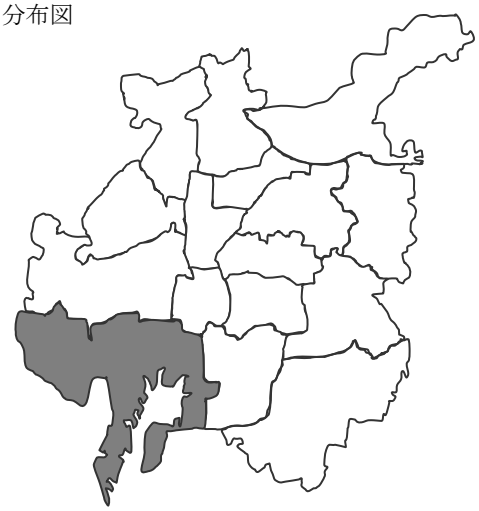
【国内の分布】

本州（千葉県、石川県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸のやや湿った砂地や沿岸部の低湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

やや攪乱された場所に生育することが多い植物で、名古屋市域ではおそらく出現と消失をくり返しているものと思われる。金城ふ頭の生育地も埋立地である。庄内川では近況が確認されていない。

【保全上の留意点】

金城ふ頭の現自生地は、土地利用が進めば、そのうちに消失すると思われる。個別的な対策よりも、河口域の自然環境の全体的な保全が重要である。

【特記事項】

個体数階級は見込み値である。

【関連文献】

保草Ⅲp.235, 平草Ⅰp.175.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

アズマガヤ　*Asperella longe-aristata* (Hack.) Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。株を作らない。稈は高さ 70～120cm、花序のすぐ下に斜上する軟毛が密生し、節に下向きの短い軟毛がある。葉は互生し、線状披針形または幅広い線形、長さ 10～20cm、幅 1～2cm、基部の近くでねじれて表裏が逆になる。花期は 5～7 月、花序は穂状で細く、長さ 10～15cm、上部はやや垂れる。小穂は無柄でまばらに 2 列につき、苞穎は細く、針状片となり、長さ 4～6mm、護穎は長さ 9～13mm で、先端に長さ 10～22mm の芒がある。小花は 1～2 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

熱田区（神宮一丁目，高木順夫 5668, 1998-4-28）に生育していた。

【県内の分布】

東三河北部の山地に点在するが、渥美半島などにもある。名古屋市は尾張では唯一の生育地である。

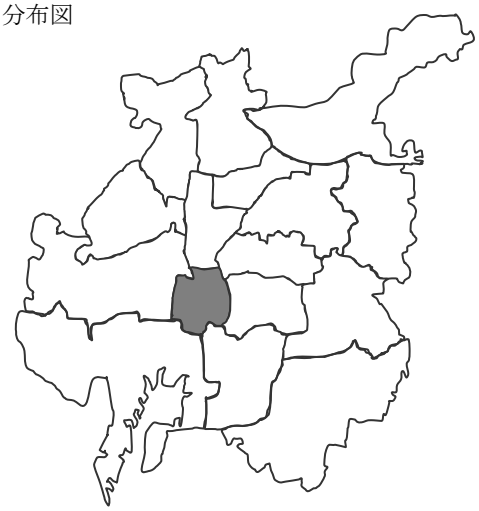
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

熱田神宮境内の林内に数 m 四方の群落があったが、最近の状況は確認されていない。小型ではないが花などが目立たない植物なので、除草作業等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

意図的に植えられるような植物ではなく、また渥美半島では海岸近くの林に自生しているという事例もあるので、昔から残存していたとも考えられるが、一方で他の樹木等について持ち込まれた可能性も否定しきれない。とにかく尾張では唯一の生育地で、管理者に貴重な植物であることを認識してもらうことが必要である。

【特記事項】

最近は属名として *Histrix* が用いられる。カモジグサ類からは、苞穎が鉢状になり小花が 1～2 個であることで容易に見分けられる。

【関連文献】

保草Ⅲpp.313-314，平草Ⅰp.117.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.432-433．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

ヌマカゼクサ　*Eragrostis aquatica* Honda

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 13. 干上がったため池の岸に生育する植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形　態】

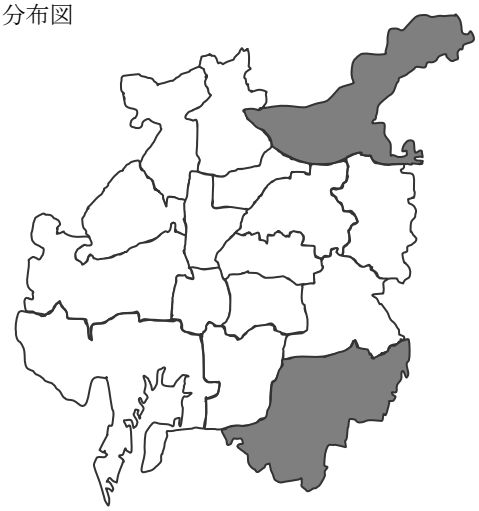
多年生草本。根茎はない。稈は束生し、基部は地表を放射状に広がり、上部は斜上または直立し、長さ 20～50cm になる。葉身は線形、長さ 5～20cm、幅 2～5mm、質はやや硬く、葉舌は退化して微毛の列となり、葉鞘の口部には長毛がある。花期は 9 月、円錐花序は長さ 8～15cm、枝は斜上し、小穂は灰色がかった暗紫色で扁平、長さ 5～15mm、幅 1.3～1.7mm、7～22 個の小花が密に 2 列に並ぶ。側小穂の柄は短く、枝からあまり開出しない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大久手池，芹沢 75213, 1998-10-11）、緑区（鳴海町笹塚，渡邉幸子 1916, 1994-10-9）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

尾張とそれに接した西三河西部の丘陵地には比較的多いが、他の場所では確認されていない。平野部にも生育していない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、犬山、春日井で採集された標本がある。

【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

愛知県では、秋期水を落とされて干上がったため池の岸に特徴的に出現する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では志段味地区のため池に見られ、個体数も比較的多い。緑区では鳴海町笹塚で確認されている。ため池の水質の悪化や、管理が行われなくなり、水の引かない年が増加していることなどによる影響が懸念される。

【保全上の留意点】

ため池を維持し、水質を保全するとともに、秋期の水抜きなど適切な管理を継続することが必要である。

【特記事項】

名古屋市内で採集された標本などをもとに記載された植物である。

【関連文献】

保草Ⅲpp.333-334，平草Ⅰpp.105-106，SOS 旧版 p.99+図版 23.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.484-485．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

サヤヌカグサ　*Leersia sayanuka* Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1。名古屋市では生育地も個体数も少ない。評価点の合計は 14 になるが、調査が不十分であることを考慮し、絶滅危惧Ⅱ類と判定した。

【形　態】

多年生草本。地下茎は短く匍匐する。稈は数本が束生し、基部から立ち上がることも下部が横に這って発根することもあり、高さ 30～70cm になる。節には下向きの剛毛がある。葉身は長さ 6～17cm、幅 6～11mm になる。花期は 8～10 月、花序は長さ 7～20cm、枝は 5～10 本で、下方のものは更に枝を分け、中上部にややまばらに小穂をつける。小穂は長楕円形で扁平、長さ 6～7mm、短い剛毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（小幡緑地，鳥居ちゑ子 3296, 2013-10-6）に生育している。

【県内の分布】

山地から平野部まで広く生育しており、尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭、半田武豊、美浜南知多、犬山、春日井、一宮東部、一宮西部、稲沢で記録されている。

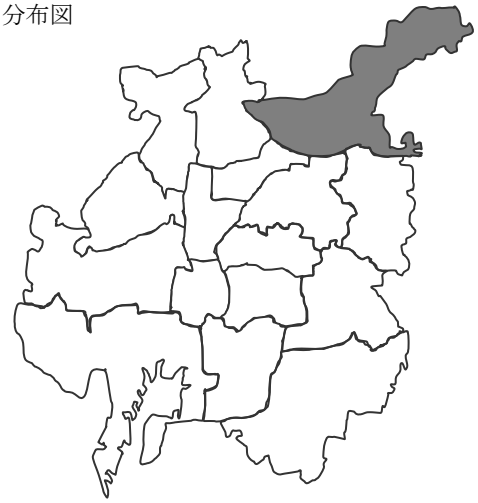
【国内の分布】

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水田や小河川、ため池の周辺などの水湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところ 1 ヶ所で小群落が確認されているだけで、その場所でも 2014 年はマメナシの保全活動のため草刈りが行われ、確認できなかった。しかしそのつもりで探索すれば、他の場所でも発見される可能性がある。

【保全上の留意点】

水辺環境の全体的な保全が必要である。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例で、採集してみて、改めて名古屋市で今まで記録がなかったことに気づいた植物である。エゾノサヤヌカグサからは、葉がやや短く軟質であること、小穂がやや細長く緑色で、剛毛が短いことなどで区別される。今回のレッドリストではエゾノサヤヌカグサはリスト外になったが、愛知県の平野部全体でみると、本種の方がエゾノサヤヌカグサより多い。2014 年のレットリスト案では絶滅危惧ⅠＢ類として掲載したが、その後の再検討により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp. 343，平草Ⅰp.109.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.80-81．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

ワセオバナ　*Saccharum spontaneum* L. var. *arenicola* (Ohwi) Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 13。名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。やや太い根茎がある。稈は束生し直立、高さ 1m 以上となり、上部には白色の軟毛が密生する。葉は互生し、葉身は長さ 30～70cm、幅 4～6mm、質は硬く、中脈は白色で幅広い。葉鞘の辺縁と口部には長毛があり、葉舌は高さ 2～3mm である。花期は 8～9 月、円錐花序は長さ 20～40cm、多数の直立する総をつける。総は多数の関節からなり、熟すと折れやすい。小穂は有柄と無柄のものが対になってつき、長さ 4～5mm で、基部に多数の長い白毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

中川区（水里, 芹沢 83567, 2008-10-12）に生育している。中村区（横井町庄内川, 鈴木秀樹 3343, 1996-9-15）で採集された標本もある。

【県内の分布】

豊川から渥美半島にかけて、知多半島南部、および濃尾平野に分布する。尾張では名古屋市のほか、岩倉西春日井、一宮東部、稲沢、津島愛西、海部南部で採集された標本がある。

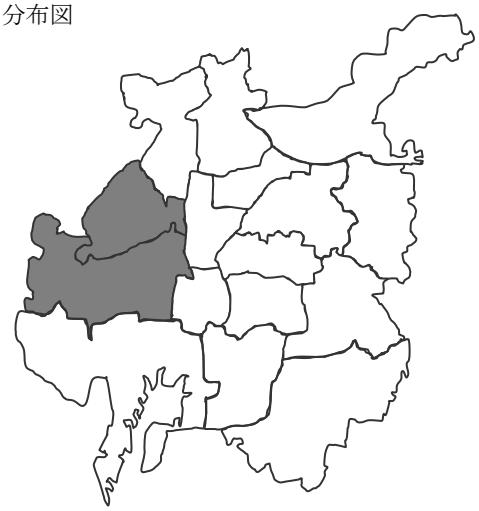
【国内の分布】

本州南部の太平洋岸。

【世界の分布】

日本固有。基準変種のナンゴクワセオバナ var. *spontaneum* は旧大陸の熱帯、亜熱帯に広く分布し、九州南部まで見られる。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県では河川堤防の草地に生育していることが多い。中村区の生育地も堤防であった。

【現在の生育状況／減少の要因】

中川区では土手状の場所に小群落がある。中村区では庄内川の堤防に小群落があったが、堤防の改修により失われた。

【保全上の留意点】

庄内川は堤防上の道路の交通量が多く、全域をていねいに調査することができない。どこかに残存している可能性もあるので、更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

サトウキビと同属で、稈には僅かに甘味がある。

【関連文献】

保草Ⅲp.338，平草Ⅰp.94.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.670-671．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

シダミコザサ　*Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* (Koidz.) S.Suzuki form. *hidejiroana* (Koidz.) S.Suzuki

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、県内分布 3、総点 12。本地域から記載された植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

一部常緑性。地下茎は横走する。稈は直立し、高さ 40～60cm、通常分枝せず、節はややふくらみ、密に長毛がある。新稈は初夏に出て、稈鞘にも密に毛がある。葉は稈の先端に 3～5 枚つき、長さ 2～5mm の柄があり、葉身は長楕円状披針形、長さ 13～20cm、幅 2.2～4cm、先端は鋭先頭、基部は広いくさび形、やや厚い紙質、下面に軟毛が密生し、葉鞘は無毛である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，芹沢 84160, 2009-6-9）に生育しており、ここが基準標本産地である。

【県内の分布】

名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、春日井に生育している。

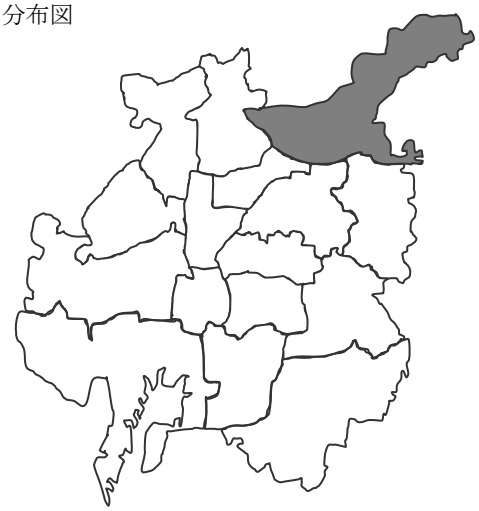
【国内の分布】

詳細はよくわからない。基準品種のビッチュウミヤコザサは、本州（東日本では太平洋側）、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本固有。変種としても、また種としても、日本固有である。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の二次林内に群落を作って生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

ササ類のものとしては小規模だが、尾根近くにある程度の大きさの群落がある。沢沿いにも小群落がある。当面は現状のまま存続するものと思われるが、道路の拡幅により群落が削られる可能性があり、森林化の進行により、被陰されて衰退することも考えられる。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。保全のためには、道路の拡幅等を行うときに十分注意すること、常緑低木が繁茂する場合にはそれを除去することなどが必要である。

【特記事項】

一般にはビッチュウミヤコザサの節に毛がある型とされている。基準変種のアポイザサは、葉鞘にも毛がある。ミヤコザサとは、稈鞘と節に毛があることで異なる。これだけの差ならば、実際にはミヤコザサの品種にすぎないであろう。しかし、温帯性のミヤコザサ系の植物が名古屋市の丘陵地に生育しているという点では、注目に値する。愛知県のものに限れば、シダミコザサに当たるものはミヤコザサに比べ、多少葉質が厚い傾向がある。

【関連文献】

保木Ⅱp.389，SOS 旧版 p.101，愛知県 p.457.
鈴木貞雄．1978．日本タケ科植物総目録 p.230．学習研究社，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　メギ科＞

ヘビノボラズ　*Berberis sieboldii* Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 12。本地域の湧水湿地を特徴づける準固有種である。

【形　態】

小形の落葉性低木。茎は細く、直立して多少分枝し、高さ 80cm くらいになり、鋭い刺針がある。刺針は長さ 5～15mm で、多くは基部で 3 分枝する。葉は倒卵形または倒披針形、長さ 3～9cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭またはやや鈍頭、辺縁には先が刺状になった細かい鋸歯がある。花期は 4～5 月、短枝の先から垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色の花をつける。花序はふつう葉よりも短い。果実は赤く熟し、球形～やや楕円形、長さ約 6mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，芹沢 53899, 1989-10-10; 吉根長廻間，芹沢 51066, 1989-4-4）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、田原東部、田原西部、足助、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾北部、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井の 15 区画で確認されている。シデコブシと同じような分布をしており、豊橋北部では発見されておらず、知多半島にもない。作手と豊橋南部で採集された標本もあるが、現地では確認できなかった。

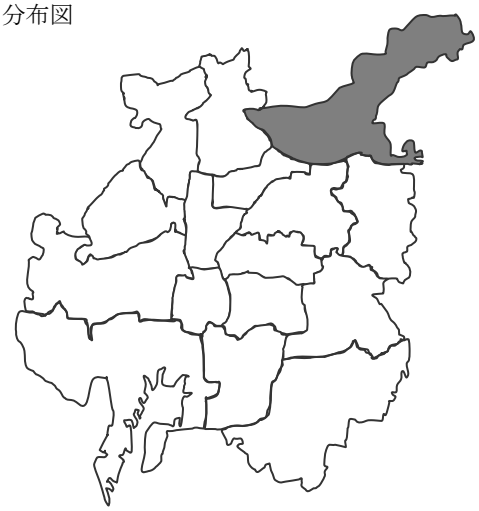
【国内の分布】

本州（東海地方西部、近畿地方）および九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地周辺の林縁や疎林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では生育地も個体数も比較的多かったが、開発の影響により減少傾向が著しい。湿地周辺の森林化に伴う被陰によっても衰退している。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。一方周囲の樹木については、「木を切ると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。可能な限り樹木を伐採し、やせ山状態を維持する必要がある。

【特記事項】

鋭い針があってヘビも登れないというので、ヘビノボラズという。しかし、時には刺針がほとんどないものもある。

【関連文献】

保木Ⅱp.174，平木Ⅰp.129，SOS 旧版 p.51+図版 18，愛知県 p.536.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キンポウゲ科＞

ウマノアシガタ　*Ranunculus japonicus* Thunb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、県内分布 1。名古屋市では生育地が極めて少ない。現存するものは移入の可能性もあるが、さしあたり定性的に絶滅危惧Ⅱ類と判定しておく。

【形　態】

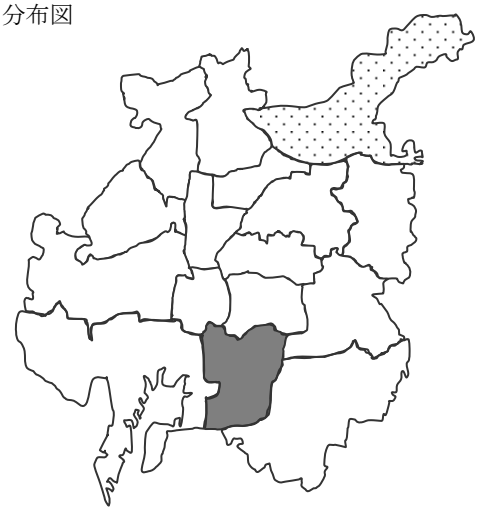
多年生草本。茎は高さ 40～70cm、上部でよく分枝し、中部から下部に開出する長毛を密生する。根出葉は数個あり、長い柄があり、葉身は腎円形、幅 3～7cm、3～5 裂し、各裂片はさらに 2～3 裂する。花期は 4～5 月。花は径約 2cm、花弁は広倒卵形、長さ 10～12mm、黄色で光沢がある。集合果は球形、そう果は倒卵形、長さ 2.5mm、残存花柱はごく短い。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区志段味で撮影された写真が、安原（1990）に掲載されている。標本資料は残されていない。最近では南区（大江川緑地, 伊藤泰輔 17, 1992-4-26）で採集されているが、これは樹木と共に人為的に持ち込まれた可能性がある。

市内分布図



【県内の分布】

東三河と西三河の山地、丘陵地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

【国内の分布】

北海道（西南部）、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい土手や路傍の草地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

詳細は不明。個体数は見込み値である。大江川緑地で採集されているので絶滅危惧Ⅱ類と判定するが、「絶滅」とする方が適切かもしれない。

【保全上の留意点】

確実な自生集団があっても不思議ではない。更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

山里の春を飾る代表的な花の一つで、「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【引用文献】

安原修次．1990．なごや野の花 p.26．エフエー出版，名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱ pp.244-245，平草Ⅱ p.78.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ベンケイソウ科＞

ツメレンゲ　*Orostachys japonicus* (Maxim.) A.Berger

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 3、総点 13。愛知県では希少な、岩崖地性の植物である。

【形　態】

1回開花性の多年生草本。根茎はない。葉は密生し、夏には直径12cmに達するロゼットをつくり、ロゼット葉は多肉質で披針形、長さ 2.5～6cm、幅 5～15mm、緑色または白色を帯びた緑色、先端は鋭頭で短針がある。冬のロゼットの葉は夏のものより小さく、先は硬くなり針状にとがる。花期は 10～11 月、ロゼット中央の軸の上方に円錐状の高さ 8～30cm の花序をのばし、密に白色の花をつける。花弁は 5 枚で披針形、長さ 5～6mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城，田崎　晶 s.n., 1997-11-6）。

【県内の分布】

名古屋市のほか、東三河の 4 区画、尾張の 1 区画に生育しているが、西三河では現在のところ確認されていない。名古屋城のものを移入と見なし除外すれば、愛知県での評価は絶滅危惧Ⅱ類になる。

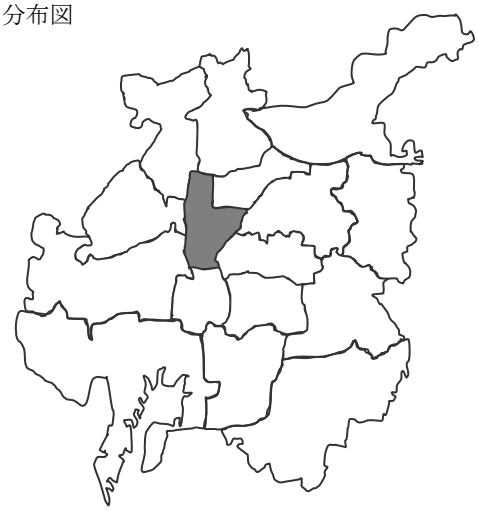
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい岩上に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋城では石垣に大きな群落がある。生育状態も良好である。真の自生ではないかもしれないが、県内では最大の群落である。昔から園芸的に珍重され、集中的に採取されることが多い植物であるが、名古屋城の場合はあまりにも人目につくので、かえって保全されている。

【保全上の留意点】

文化財として保護されている場所であるため、強力な除草剤の使用などがなければ、当面は現状通り存続するものと思われる。だたし県内の他の場所では、園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、細く尖った葉が動物の爪に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.159，平草Ⅱp.149，SOS 旧版 p.55，SOS 新版 p.43，愛知県 p.540.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マメ科＞

ホドイモ　*Apios fortunei* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13. 名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

つる性の多年生草本。地下に球形～紡錘形の塊根をつける。葉は互生し、長さ 3～6cm の柄があり、葉身は奇数羽状複葉、小葉は通常 5 枚、頂小葉は卵形～広卵形、長さ 5～10cm、先はやや尾状に伸びて鈍端となる。花期は7～9 月、花序は長く伸び、花は黄緑色、旗弁は長さ 7～8mm、竜骨弁は内側に曲がる。豆果は長さ 6～8cm、無毛で、5～6 個の種子を入れる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根八幡神社，日比野修 4589, 1998-7-23）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地では、どこにでもあるというわけではないが、点在する。尾張では少なく、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、東海知多、小牧、春日井、稲沢で確認されている。

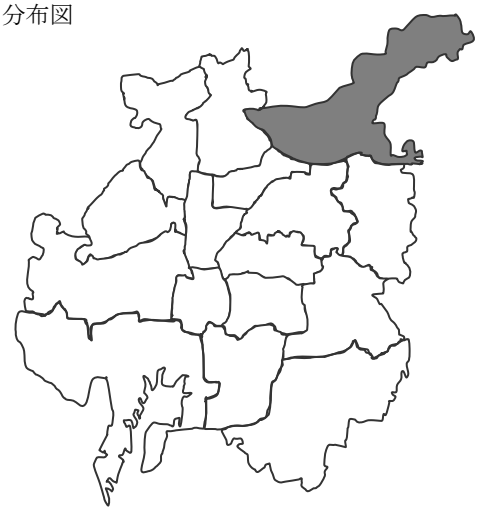
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよい林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

神社境内に少数株が生育していたが、最近の状況は確認されていない。生育地自体は当面保全されるものと思われるが、除草作業等によって失われる可能性もあり、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

本種のような散発的に生育している植物は、レッドデータブックの対象範囲が狭くなるにつれて 1 ヶ所で確認されているだけという事例が多くなる。このような植物をどの程度保全したらよいかについては、意見が分かれるものと思われる。適切な合意形成が必要である。

【特記事項】

地下の塊根は食べられる。

【関連文献】

保草Ⅱp.177，平草Ⅱp.208.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マメ科＞

カワラケツメイ　*Cassia nomame* (Makino) Honda

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 1、補正+1（帰化競合）、総点 12。攪乱地に生育する植物で、名古屋市ではかつては普通に見られたと思われるが、近縁の帰化植物との競合が著しい。

【形　態】

一年生草本。茎は高さ 25～60cm になる。葉は互生し、短い柄があり、その上部に楕円形の蜜腺がある。葉身は線状披針形、長さ 3～8cm、小葉は 15～35 対つき、披針形～線状楕円形で鋭頭、長さ 5～10mm、幅 1～1.5mm である。花期は 8～10 月、花序は葉腋のやや上から出て 1～2 個の花をつける。花弁は黄色で倒卵形、4 枚は同形で長さ 5～6mm、下方の 1 枚は他よりやや大きい。豆果は扁平で細い平行四辺形、長さ 3～4.5cm、熟すと黒褐色になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味，渡邉幸子 5832, 2008-9-27, NBC1984）、天白区（植田山，西川勇夫 244, 1992-8-16; 道明町天白川堤，渡邉幸子 649, 1992-9-23）で確認されている。

【県内の分布】

山地には少ないが、山麓部から平野部にかけては広く分布している。尾張では名古屋市のほか、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多、一宮東部、一宮西部、稲沢、津島愛西、海部南部で確認されている。

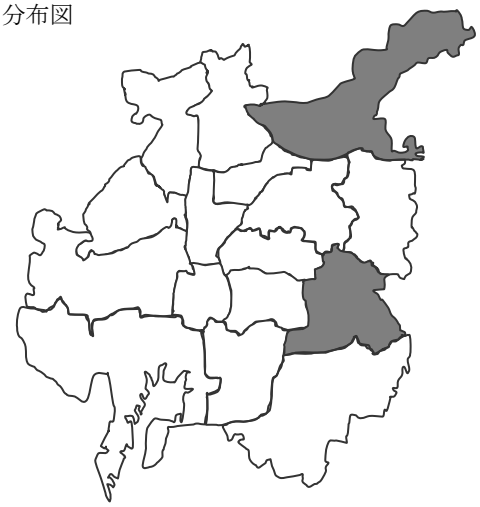
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷、造成地、路傍、やせた丘陵地の土手など、攪乱地または遷移の進行が遅く裸地状態が比較的長く維持されている場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、造成地にアレチケツメイと混生して生育していた。天白区の 2 ヶ所のうち道明町では現在は見あたらず、植田山は最近の状況が未確認である。最近までアレチケツメイと混同されていたため現況の確認は不十分で、注意して探索すれば他にも生育地が確認できると思われる。しかしアレチケツメイとの競合により減少していることは確実で、名古屋市でも将来消滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

もともと攪乱地に生育する植物であり、しかも減少の原因が帰化植物との競合であるので、現実的な保全策は講じにくい。当面は現状を正確に記録することが重要である。将来愛知県全体でも危機的な状況になった場合には、圃場での系統保存を考慮する必要がある。

【特記事項】

アレチケツメイは、本種とは葉柄上の蜜腺が有柄でキノコ状になること、葉身が幅広いこと、小葉の先端が丸味を帯びること、花弁のうち下側の 1 個が目立って大きいことなどで異なる。

【関連文献】

保草Ⅱp.93，平草Ⅱp.188.
渡邉幸子．2009．カワラケツメイを求めて．くさなぎおごけ(3):16-17.
芹沢俊介．2009．カワラケツメイとアレチケツメイ．くさなぎおごけ(3):17-18.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マメ科＞

タヌキマメ　*Crotalaria sessiliflora* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 1。偶発的に出現することが多い植物で、名古屋市では生育地が少ない。現存は確認できないが、偶発的に出現することが多い植物であることを考慮し、定性的に絶滅危惧Ⅱ類と評価した。

【形　態】

1 年生草本。茎は高さ 30～70cm で、上向きの圧毛がある。葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は単葉で線形～狭長卵形、長さ 4～11cm、幅 3～10mm、鋭頭である。花期は 7～9 月、茎や枝の先に長さ 1～10cm の総状花序をつけ、2～20 個の青紫色の花をつける。がくは開花時に長さ 1cm 程度、上下に2深裂し、さらに上側は2裂、下側は3裂し、全体に褐色の長毛が密生する。豆果は長楕円形、無毛、伸長したがくに包まれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（標本なし）、千種区（覚王山, 沢井輝男 s.n., 1932-9-23）、天白区（平針黒石, 中島ひろみ 904, 2003-8-30）、緑区（鳴海町藤塚, 渡邉幸子 1198, 1993-8-26）に生育していた。

【県内の分布】

丘陵地に多くはないが点在し、平野部でも稀に見られる。尾張では名古屋市のほか、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、江南丹羽、小牧、春日井、岩倉西春日井、稲沢で確認されている。

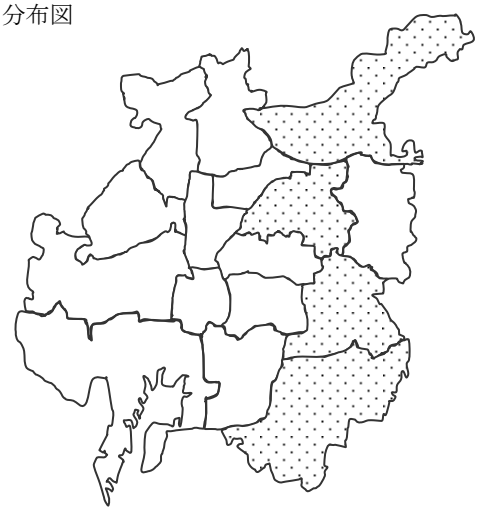
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インドにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平地や丘陵地の日当たりのよい草地や土手に生育する。安定した生育地は少なく、生育を確認できた場所でもそのうちに消えてしまうことが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では、造成斜面の湧水のある場所、緑区では水田の縁に 10 数株が生育していたが、どちらも現在では見られなくなった。守山区では矢田川河川敷に数株生育していたが、標本を採取する前になくなってしまった。

【保全上の留意点】

そのうちにどこかに出現する可能性はあるが、その場所もおそらく永続はしないと思われる。個別的な対策では効果が少なく、自然環境の全体的な保全が必要と思われる。効果的な保全対策を立てることができないまま、いつの間にか消失してしまいそうな植物の一つである。

【特記事項】

和名は狸豆で、ふくらんで毛の多いがくがタヌキに似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.93, 平草Ⅱp.193.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マメ科＞

ハマエンドウ　*Lathyrus japonicus* Willd.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 2、総点 13。代表的な海浜植物で、名古屋市では僅かに残存しているにすぎない。

【形　態】

多年生草本。全体に粉白色を帯びる。茎は地表をはって長さ 1m に達し、先端部は斜上する。葉の小葉は 8～12 枚、葉軸の先端は 1～3 本の巻きひげとなり、小葉は卵形～長楕円形、長さ 1.5～4cm、托葉は大きく、三角状卵形、先端は鋭頭となる。花期は 4～7 月。花は総状花序に 3～6 個つき、長さ2.5～3cm、旗弁ははじめ赤紫色、のちに青紫色になる。豆果は無毛、長さ約5cm、幅約1cm、熟すと黒褐色になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（南陽町藤前，飯尾俊介 31, 1998-5-5）に生育していた。

【県内の分布】

海岸部に広く分布しており、尾張では名古屋市のほか、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多に生育している。

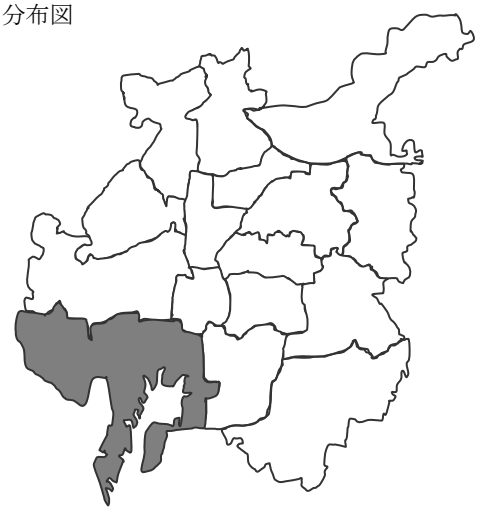
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

北半球の暖帯～亜寒帯に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂地に生育する。砂浜の代表的な植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

藤前干潟西側の護岸前側に形成された砂地に数株生育していたが、最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

名古屋市内には本種が本来生育する砂浜的環境が残されていない。このような名古屋市では希少でも県全体としてはさほど希少でない植物が、それも本来の生育環境とは異なる二次的な場所に生育している場合、保全すべきかどうかは議論が分かれるものと思われる。

【特記事項】

砂浜性の植物としてはハマニガナ *Ixeris repens* (L.) A.Gray も「西一区にわずかに生育」と報告されている（中部植生研究グループ 1992）が、標本等は残されておらず、現存も確認できなかった。

【引用文献】

中部植生研究グループ．1992．名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告 p.103．名古屋市環境保全局．

【関連文献】

保草Ⅱp.104，平草Ⅱp.200.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　バラ科＞

オオウラジロノキ　*Malus tschonoskii* (Maxim.) C.K.Schneid.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13. 山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

落葉性の小高木。高さ 10m くらいになる。若枝は綿毛を密生し、若木の幹にはとげが目立つ。葉は互生し、葉柄は長さ 2～4cm、綿毛が密生する。葉身は卵形または楕円形、長さ 8～14cm、先端は鋭頭、基部は円形またはやや心形、ふぞろいな鋸歯または重鋸歯がある。花期は 5 月。花は短枝の先に 4～6 個が散状につき、白色で直径約 3cm、花弁は 5 枚で楕円形である。果実は球形で、直径 2～3cm、頂端に直立したがく裂片が残存する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，日比野修 4407，1998-4-19）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河には点在する。尾張では少なく、名古屋市以外は瀬戸尾張旭と春日井で確認されているだけである。

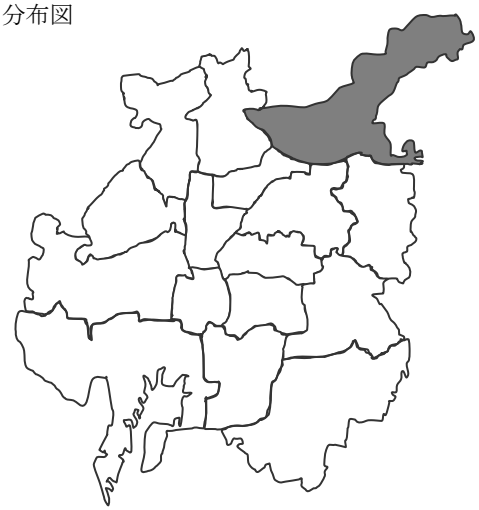
【国内の分布】

本州および九州（九重山）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林内に生育する。愛知県では散在するだけであまり群落を作らず、個体数もそれほど多くない樹木である。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に生育している。個体数は少なく、樹勢も次第に衰退している。

【保全上の留意点】

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

【特記事項】

オオズミとも呼ばれる。

【関連文献】

保木Ⅱp.42，平木Ⅰpp.226-227.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ブナ科＞

フモトミズナラ　*Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 13。愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つで、名古屋市内では生育地が限られている。

【形　態】

落葉性の高木。高さ 15m くらいになる。若枝は太くても直径 3mm 程度、帯紫褐色、ほぼ無毛である。葉は互生し、ほとんど無柄か長さ 5mm 以下の短柄があり、葉身は通常倒洋梨形、長さ 12～22cm、幅 5～15cm、先端は丸味を帯びて鈍頭、基部は円形～浅い心形、辺縁の鋸歯は 10～15 対で、円～鈍頭である。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の初秋に熟し、広楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味，村松正雄 16251, 1995-7-24）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、設楽西部、新城、豊橋北部、旭、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井で確認されている。

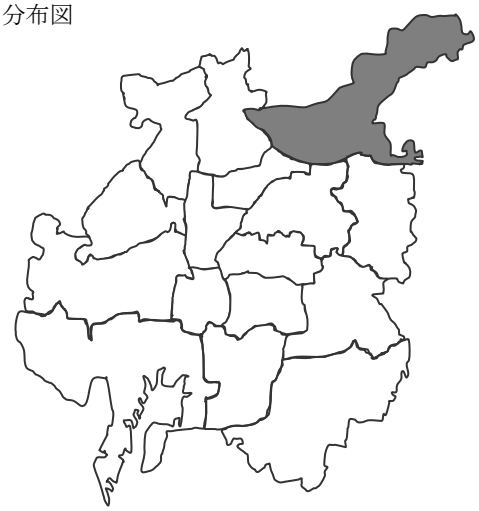
【国内の分布】

本州（関東地方北部、愛知県、岐阜県東濃地方。三重県レッドリスト 2014 によれば、最近三重県北部でも確認されたらしい）。北海道北部の海岸にも似たものがあるが、別系統と思われる。

【世界の分布】

日本固有。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やせた丘陵地の、主として中腹から尾根にかけて生育する。沢沿いには通常生育しない。

【現在の生育状況／減少の要因】

瀬戸市を中心に、豊田市西部から日進市、春日井市にかけてが分布の中心域で、その末端が名古屋市にかかっている。この範囲では現在のところまだ個体数は多く、場所によっては優占種になっている。しかし、本種の生育する浅い丘陵地は全域にわたって宅地造成、工場用地造成、珪砂の採掘など強い開発圧にさらされており、本種も減少の一途をたどっていて、その点で将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地は、点在する湧水湿地以外の場所でも本種やオキアガリネズ、ミカワツツジ、本書でワタゲカマツカとした植物など特徴的な樹木が生育しており、また森林の発達が悪いためウンヌケをはじめとする多くの草地性植物が残存している。湿地以外の場所も保全上重要であることを認識する必要がある。

【特記事項】

本来温帯性のミズナラ系の植物が暖帯域の丘陵地に生育しているという点で重要である。新葉は黄緑色で、この時期には遠くからでも容易に確認できる。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 3 にモンゴリナラの名で掲載した。

【関連文献】

SOS 旧版図版 p.4，SOS 新版 p.70，愛知県 p.521.
芹沢俊介．2008．東海地方丘陵地の「モンゴリナラ」．シデコブシ 1: 54-55.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ブナ科＞

ウラジロガシ　*Quercus salicina* Blume

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

常緑性の高木。高さ 20m に達する。2 年枝は灰白色である。葉は互生し、長さ 1～2cm の柄があり、葉身は長楕円形状披針形または披針形、長さ 7～11cm、先端は鋭尖形、基部は広いくさび形、辺縁の上部に少数の鋸歯がある。葉の裏面ははじめ黄褐色の絹毛を密生するが、のちに蝋質を分泌し雪白色となる。花期は 5 月。堅果は広卵形または広卵状楕円形で、長さ 1.2～2cm。殻斗は半球形、径約 1.2cm、総苞片は短毛を密生し、通常 7 個の環をつくる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，日比野修 4553, 1998-6-20）に生育している。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には広く分布する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

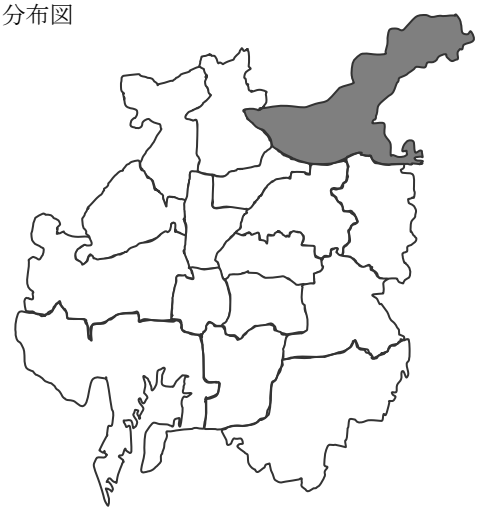
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、済州島、台湾。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地カシ林の主要構成種で、比較的土壌の浅い場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山の中腹に生育している。

【保全上の留意点】

森林の高木層構成種として、伐採を回避する必要がある。その一方で東谷山では、鳥獣の保護と称してその餌となる植物を植栽する動きがあり、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。自然の中に、本来その場所に生育していない種を植栽してはならないことは改めて指摘するまでもないが、その場所に生育している種を植栽することは、遺伝的攪乱という点で、ある意味では自然に対してより一層深刻な悪影響を与えるおそれがある。本種の場合も、「ドングリのなる木」だからと言って植栽を行わないよう、特に注意する必要がある。

【特記事項】

シラカシ *Q. myrsinaefolia* Blume からは、枝が灰白色で葉裏が粉白になること、堅果が 2 年目に熟すことなどで区別できる。

【関連文献】

保木Ⅱp.274，平木Ⅰp.74.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　カバノキ科＞

カワラハンノキ　*Alnus serrulatoides* Callier

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。中流域の川岸に生育する植物で、名古屋市では生育可能な場所が局限されている。

【形　態】

落葉性の低木または小高木。枝は無毛で、暗褐色または暗紫褐色を帯びる。葉は長さ 5～10mm の柄があり、葉身は広倒卵形、長さ 5～10cm、幅 3～7cm、先端は円頭または微凹頭、ときに微凸頭、基部は広いくさび形、辺縁には浅い細鋸歯があり、側脈は7～9対、下面の脈上や脈腋に多少毛がある。花期は2～3月、雄花序は枝先に2～5個、雌花序はその下の葉腋に1～5個つく。果穂は卵状楕円形、長さ 15～20mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区に生育している。標本としては下志段味庄内川（鳥居ちゑ子 670, 1994-7-16）があるが、この場所のものは東海豪雨により消失した。

【県内の分布】

三河山間部の川沿いには多い。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、江南丹羽、春日井、一宮東部に生育している。

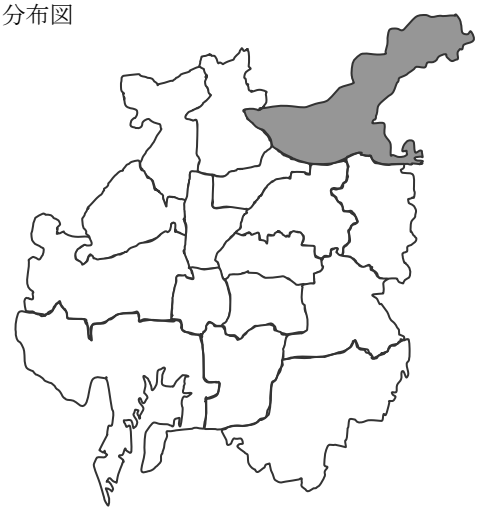
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国、九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川中流域の川岸の岩場に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川中流の渓谷部には連続的に生育しており、その末端がわずかに名古屋市に達している。現在のところ特に減少してはいないが、護岸工事等があれば名古屋市からは容易に消滅してしまう。東海豪雨以前は、より下流の礫の河川敷にも少数個体が生育していた。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、他に本種が安定して生育できそうな場所はない。生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

【特記事項】

葉裏に毛が多いものをケカワラハンノキというが、この型は名古屋市を含む尾張では確認されていない。

【関連文献】

保木Ⅱp.287，平木Ⅰp.55.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ウリ科＞

ゴキヅル　*Actinostemma lobatum* (Maxim.) Maxim. ex Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が限られている。

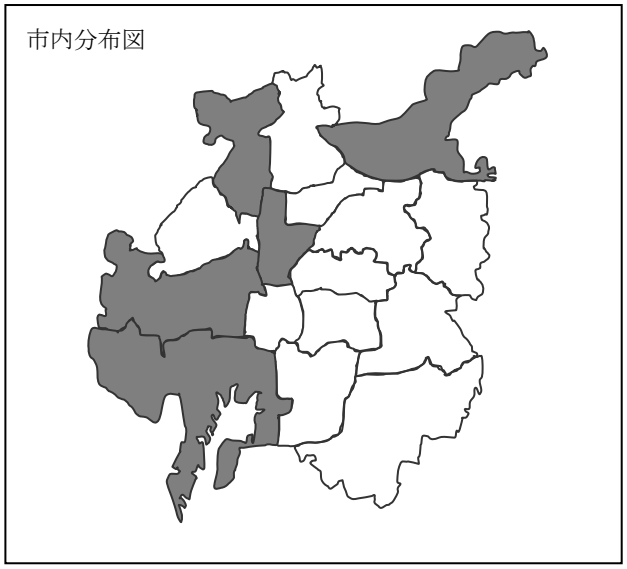
【形　態】

つる性の 1 年生草本。茎は長く伸びて巻きひげで他物にからみつく。葉は互生し、長さ 1.5～6cm の柄があり、葉身は三角状卵形～三角状広披針形、長さ 5～12cm、幅 2.5～7cm、時に下部が横に張り出して浅～中裂し、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は 8～10 月、花序は長いものでは 8cm くらいになり、上部に雄花を総状につけ、基部に少数の雌花をつける。雄花は帯黄白色、直径 8～10mm、がくも花冠も 5 裂して先は細く長く尖る。果実は卵形～楕円形、長さ 1.5～2cm、熟すと上半部が外れ、中に 2 個の大きい種子がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（瀬古堀川，芹沢 88962, 2013-9-29）、中区（名古屋城堀，中村　肇 485, 2013-9-8, NBC1213）、西区（庄内緑地公園，芹沢 80103, 2005-8-14）、中川区（福島，高木順夫 136, 1992-7-5）、港区（寺前町福田川，芹沢 83569, 2008-10-12）に生育している。



【県内の分布】

平野部の水辺に生育しており、尾張では名古屋市のほか豊明東郷、大府東浦、半田武豊、美浜南知多、小牧、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部の 11 区画で記録されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ベトナム。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や池畔などの湿った草地に生育する。どこにでもあるというわけではないが、ある場所では群生していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市内でもまだところどころに生育しているが、水辺環境の劣化に伴い、次第に減少している。

【保全上の留意点】

現在のところ個体レベルの保全に関してはそれほど神経質になる必要はないが、河川敷などに残存する低湿地的環境の保全は重要な課題である。

【特記事項】

和名は合器蔓で、果実が熟すと上半部がふたのように外れるからである。

【関連文献】

保草Ⅰp.99，平草Ⅱp.259.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ヤナギ科＞

キヌヤナギ　*Salix kinuyanagi* Kimura

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、補正+2（固有）、総点 12。本地域の固有種で、平野部の低湿地を特徴づける種でもある。

【形　態】

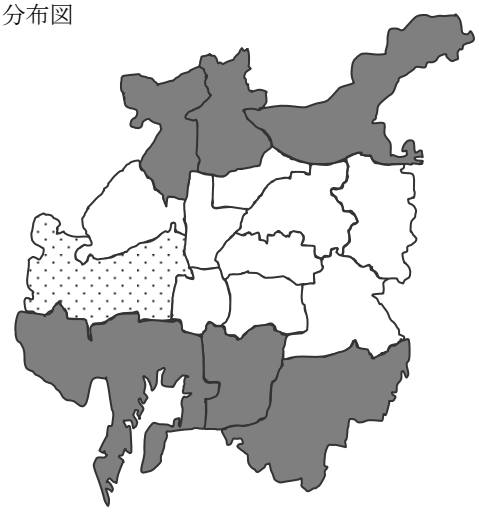
落葉性の低木または小高木。高さ 2～6m になる。小枝は長くてやや太く、灰色の軟毛が密生する。葉は狭披針形、長さ 10～20cm、幅 1～2cm、先端は長く鋭尖形、基部は鋭形または鈍形、辺縁はわずかに裏側に巻き、不明瞭な低い鋸歯があり、表面は緑色でやや光沢があり、裏面は銀白色の毛を密生する。雌雄異株で、花期は 3 月中旬～4 月上旬、雄花穂は楕円形～長楕円形で無柄、小枝にやや密につき、長さ 2.5～3.5cm、雌花穂は円柱形で長さ 3.5cm 程度である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根日ノ後池, 村松正雄 17640, 1998-4-19）、緑区（鳴海町螺貝戸笠公園, 渡邉幸子 6893, 2014-7-2; 大高緑地, 芹沢 77448, 2001-6-23 など）、北区（楠町庄内川, 鈴木秀樹 2660, 1996-6-20）、西区（堀越町庄内川, 村松正雄 17486, 1998-3-29）、南区（鶴里町天白川, 渡邉幸子 1705, 1994-7-3, NBC786）、港区（藤前五丁目, 高木順夫 11873, 2003-12-13）に生育している。中川区（富田町庄内川, 芹沢 77268, 2001-5-6）にもあったが、河川改修工事により消滅した。

市内分布図



【県内の分布】

自生と思われるものは、名古屋市のほか、小原、豊田北西部、岡崎北部、安城、瀬戸尾張旭、小牧、春日井、一宮西部、あま大治、津島愛西で確認されている。河川敷のヤナギ林の構成種であるが、木曽川以外では少ない。このほかにも県内のところどころに生育しているが、その多くは植栽品か、植栽起源の逸出品と思われる。

【国内の分布】

愛知県および岐阜県（木曽三川下流部、庄内川、矢作川水系）と滋賀県（琵琶湖岸）に分布する。ただし、北海道および東北地方北部に分布するエゾノキヌヤナギ *S. pet-susu* Kimura との差違は軽微である。

【世界の分布】

日本固有種。種の範囲を大きく取り、エゾノキヌヤナギも含めて、日本、朝鮮半島、中国大陸北東部、シベリア東部に分布する（この場合学名は *S. schwerinii* E.Wolf となる）とする見解もある。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの低湿地に生育する。中流の渓谷部では見られず、また最下流部にもない。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では庄内川の河川敷に点在するほか、南区の天白川、緑区の大高緑地に生育しているが、個体数は少ない。庄内川のものは河川改修工事により減少している。緑区では他の場所にも点在するが、栽培品が逸出した可能性がある。

【保全上の留意点】

河川敷などの低湿地的環境を、全体として保全する必要がある。増水などによる適度の攪乱は、本種の個体群維持のためにはむしろ望ましいことである。

【特記事項】

葉裏に白色の絹毛が多く美しいのでキヌヤナギという。本種は本州（主として関東地方以西）、四国、九州で広く栽培されており、従来は雄株しか知られていなかったため、江戸時代に朝鮮半島などから渡来したものと考えられてきた。しかし実際には、これもかつては中国原産と考えられていたシデコブシと同様、名古屋周辺で選抜育種され、全国に広まった植物であろう。

【関連文献】

保木Ⅱp.320，平木Ⅰp.43，SOS 旧版 p.45+図版 27，SOS 新版 p.134，愛知県 p.490.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　スミレ科＞

アギスミレ　*Viola verecunda* A.Gray var. *semilunaris* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 45cm に達する。葉は根出するか茎に互生し、下部のものには長さ 5～15cm の柄があり、中上部の葉の葉身は三日月形、主脈は長さ 1.2～3cm で両側はそれと同じかそれ以上後方に張り出し、幅 2.5～5.5cm である。花期は 5～6 月、花は長さ 5～10cm の柄の先に 1 個ずつつき、白色または淡い紫色、花弁は長さ 8～10mm、唇弁に紫条がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，芹沢　55325，1990-5-31）と緑区（大高緑地，標本なし）に生育している。

【県内の分布】

山地～丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、常滑、犬山、小牧で確認されている。

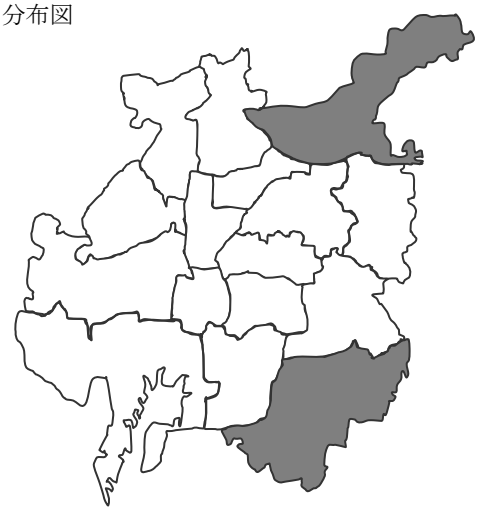
【国内の分布】

北海道および本州。

【世界の分布】

日本固有。種としては千島列島南部から中国大陸にかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県では湧水湿地下部の泥質の場所やミズゴケ類の間に生育していることが多い。日当たりのよい場所から半日陰の場所まで生育しており、時には谷戸の休耕田にも見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

現存する場所ではそれぞれ小群落がある。丘陵地の開発によって減少し、現在の状態に追い込まれたものと思われる。

【保全上の留意点】

典型的な湧水湿地性の植物ではないが、それに関連した場所に生育している。湿地を水源とともに保全することが必要である。

【特記事項】

ヒメアギスミレ var. *subaequiloba* (Franch. et Sav.) F.Maek.と混同されることもあるが、ヒメアギスミレが沢沿いの林下に多いのに対し、本変種の生育地は湿地に限られている。ツボスミレとの間には、時にどちらともつかない中間型がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.54，平草Ⅱp.252.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　オトギリソウ科＞

サワオトギリ　*Hypericum pseudopetiolatum* R.Keller

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13. 山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は束生し、基部は地表をはい、先は立ち上がり、長さ 20～50cm になる。葉は対生し、ほとんど無柄かごく短い柄があり、葉身は倒卵形～長楕円形、長さ 2.5～4cm、先端は円頭または鈍頭、基部はくさび形、質は薄く、多数の明点があり、辺縁に黒点がある。花期は 7～9 月、枝先に 2 出集散花序をつけ、花は黄色で直径 8～10mm、花弁は 5 枚である。蒴果は広卵形、長さ 5～8mm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山, 鳥居ちゑ子 2356, 2003-8-1）に生育している。中村区（日比津町川東, 鶴岡佐知子 579, 1993-9-21）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井で確認されている。

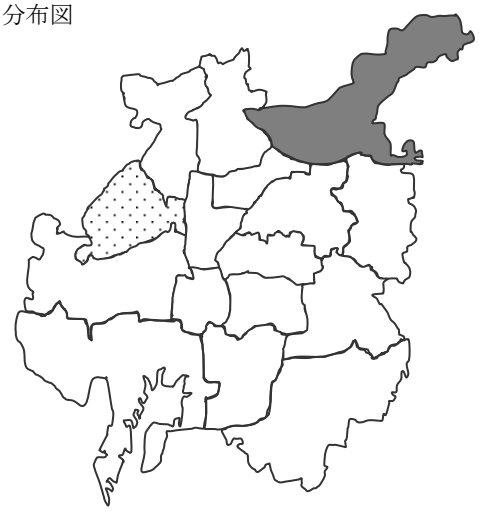
【国内の分布】

北海道（西南部）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの開けた場所や、山すその湿った草地に生育する。山地には比較的多いが、平野部ではほとんど見られない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、狭い範囲に数株が生育していた。中村区のものは通常ならアゼオトギリの生育しそうな場所であるが確かにサワオトギリで、庄内川の上流から運ばれて一時的に生育していたものと思われる。

【保全上の留意点】

「こんな植物が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、たまたまその場所で工事などがあると容易に絶滅してしまう。

【特記事項】

アゼオトギリ *H. oliganthum* Franch. et Sav.は低湿地性の植物で、全国的に減少傾向が著しく、愛知県でも極めて希少である。名古屋市内でも庄内川河川敷などに生育している可能性はあるが、まだ発見できない。

【関連文献】

保草Ⅱp.66，平草Ⅱp.117.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アカバナ科＞

ウスゲチョウジタデ　*Ludwigia greatrexii* H.Hara

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。愛知県では生育地も個体数も多く、水田雑草としてしばしば出現し、当面絶滅が危惧される状態ではないが、名古屋市では水田そのものが減少していることもあってごく稀である。

【形　態】

1 年生草本。茎は直立または斜上し、よく分枝して、高さ 30～70cm、細毛があり、あまり紅色を帯びない。葉は互生し、短い柄があり、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ 7～8mm、幅 1～2cm、先端は鋭～鈍頭、辺縁は全縁、細毛がある。花期は 8～10 月、花は葉腋に 1 個ずつつき、無柄、がく片はふつう 5 個で、長さ 3～4mm、花弁は 5 枚で倒卵形、長さ約 4mm、花床には白毛が密生する。蒴果は線形でやや曲がり、長さ約 2cm、先端にがく片が残存する。

【分布の概要】

【市内の分布】

西区（庄内緑地公園，芹沢 80104, 2005-8-14）、中川区（吉津一丁目，芹沢 78131, 2002-9-16）で確認されている。

【県内の分布】

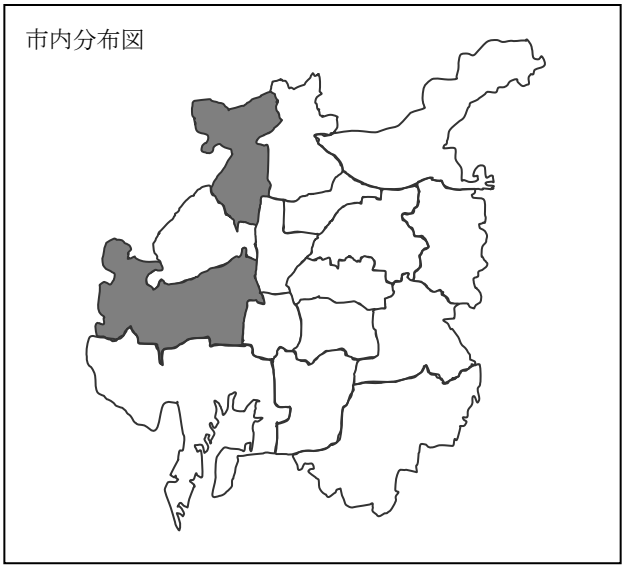
名古屋市のほか、東栄、鳳来北東部、鳳来南部、鳳来北西部、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、額田、岡崎北部、安城、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、江南丹羽、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、あま大治、津島愛西、海部南部の 29 区画で確認されている。ていねいに調査すれば、このほかにもいくつかの区画で確認されると思われる。ただし、三河山間部には分布していないらしい。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。



【生育地の環境／生態的特性】

夏～秋の水田雑草である。低湿地に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

中川区では 1 ヶ所の水田に、少数株が生育していたにすぎない。隣接する大治町では、やや普通に生育している。ていねいに探索すれば、港区でも確認できると思われる。

【保全上の留意点】

名古屋市内では水田そのものがなくなりかけており、本種もやがては市内から絶滅するものと思われる。耕地整理されていない水田が生物多様性保全に果たしている役割を、よく認識する必要がある。

【特記事項】

本種が環境省のレッドリストに掲載されたのは、チョウジタデと混同されており、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。チョウジタデからは、毛の状態を見なくても、全体にあまり紅色を帯びず、花弁もがく片も大きいことで区別できる。

【関連文献】

保草Ⅱp.44，平草Ⅱp.267，愛知県 p.631.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ジンチョウゲ科＞

ガンピ　*Diplomorpha sikokiana* (Franch. et Sav.) Honda

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13. 低山地に多い低木で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

落葉性の低木。高さ 2m くらいになる。葉は互生し、長さ 2～3mm の短い柄があり、葉身は卵形、長さ 1.5cm～8cm、先端は鋭頭、基部はくさび形または円形、全縁、裏面は密に絹毛があり灰白色となる。花期は 5～6 月、枝先の頭状花序に 7～20 個の花をつける。花は淡黄色、がく筒は長さ約 8mm、がく裂片は楕円形で長さ 2～3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，芹沢 84164, 2009-6-9; 下志段味吉田，鳥居ちゑ子 634, 1994-5-28）に生育している。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、大府東浦、半田武豊、犬山、小牧、春日井で確認されている。

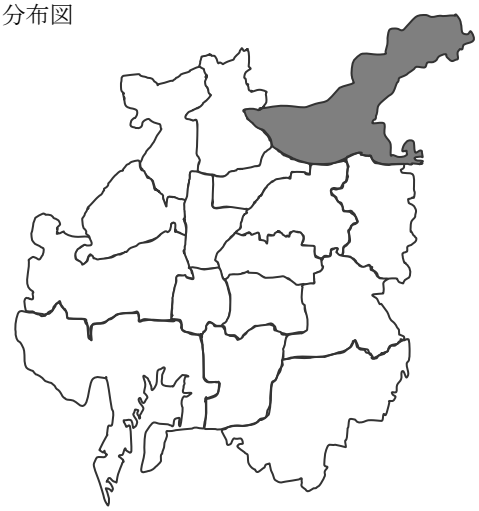
【国内の分布】

本州（静岡県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の尾根すじに生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

やせた丘陵地の林縁部に小群落がある。個体数は次第に減少している。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。東海層群の丘陵地の、高木林が成立しない乾燥したやせ地には、大陸系の植物であるウンヌケが生育しているほか、ネズミサシとハイネズの浸透性交雑に起源するオキアガリネズ、ミカワツツジと呼ばれるヤマツツジの一型などが多く、本書でワタゲカマツカとした植物も生育している。やせ地内に点在する湧水湿地の重要性は近年広く認識されるようになったが、湿地以外の場所も、本地域の自然を特徴づける場所として重要である。

【特記事項】

樹皮は繊維が強靭で、雁皮紙の原料となる。

【関連文献】

保木Ⅰp.225，平木Ⅱp.81.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アブラナ科＞

コイヌガラシ　*Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 12。水田雑草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

1 年生または越年生の草本。茎は下部からよく分枝し、高さ 10～40cm になる。葉は互生し、下部のものは有柄、上部のものは無柄、葉身は長さ 2～10cm、基部に耳部があり、羽状深裂、裂片は長楕円形で辺縁に鋸歯がある。花期は 4～5 月、葉腋から短い花柄を出し、黄色の花をつける。がく片は直立し、長楕円形で長さ約 1.5mm、花弁は倒卵形で長さ 2～2.5mm である。果実はさく果で直立し、円柱形、長さ約 7～9mm、幅 1.5～2mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（瀬古庄内川，鈴木秀樹 1580, 1996-4-7）、西区（砂原町，鳥居ちゑ子 2272, 2003-4-16 など）、港区（南陽町七島，芹沢 79163, 2004-5-10 など）に生育している。

【県内の分布】

愛知県の平野部では比較的多く、名古屋市のほか豊川、豊橋北部、安城、高浜碧南、瀬戸尾張旭、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治で確認されている。

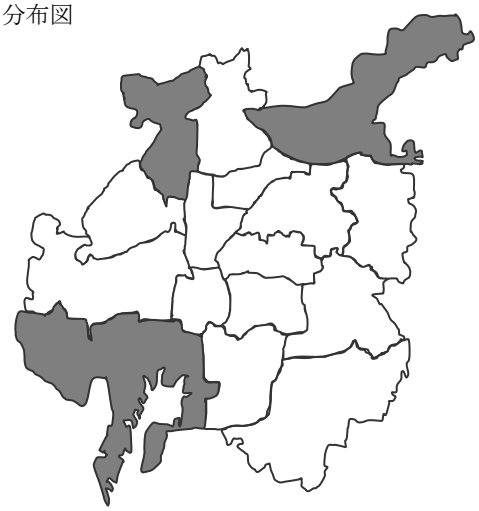
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、ウスリー。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水田や低湿地に生育する。多少耕地整理の進んだ水田にも生育しており、場所によっては春の水田雑草となっている。

【現在の生育状況／減少の要因】

港区では南陽町に現存する。西蟹田の水田にもかなりの個体が生育していたが、埋め立てられて見られなくなった。西区砂原町では住宅地の間に残された 1 枚の水田に小群落があったが、この場所が今も水田であるかどうかはわからない。この他に西区枇杷島町と守山区瀬古の庄内川河川敷でも採集されているが、これらの場所では最近の状況が確認されていない。個体数、集団数は見込み値である。

【保全上の留意点】

名古屋市内では水田そのものがなくなりかけており、本種もやがては河川敷以外では見られなくなるものと思われる。耕地整理されていない水田が生物多様性保全に果たしている役割をよく認識する必要がある。一方、河川敷の低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修や河川敷の利用に当たっては、このような自然特性を根底から破壊しないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

花柄が短く、見かけはイヌガラシやスカシタゴボウとはずいぶん異なっている。

【関連文献】

保木Ⅱp.183，平木Ⅰp.136，SOS 新版 p.139，愛知県 p.629.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タデ科＞

ナガバノウナギツカミ　*Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13. 低湿地性の植物で、名古屋市では生育できそうな場所が激減している。

【形　態】

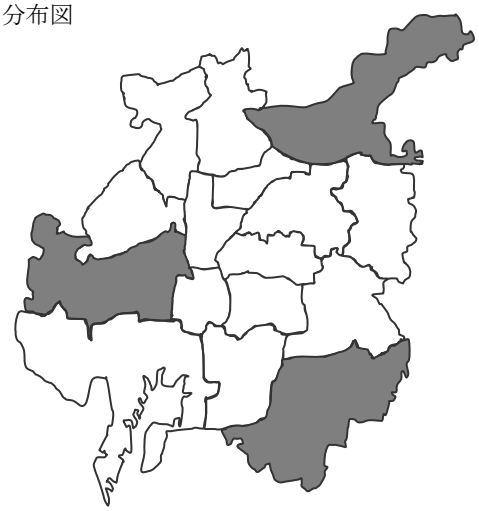
1 年生草本。茎の下部は地面をはい、上部は分枝して直立し、高さ 50～80cm、まばらに短い下向きの刺毛がある。葉は互生し、中下部のものには長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は披針形～広披針形、長さ 6～11cm、先端は鋭尖形、基部はほこ形または矢じり形である。托葉鞘は膜質で暗赤色を帯びる。花期は 9～10 月、花は枝先に密に集まり頭状、花序の柄や小花柄には黒い腺毛が多い。花被は 5 深裂し、下部は白色で上部は紅色、長さ約 4mm、そう果は 3 稜形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大村池，芹沢 88986, 2013-10-5）、緑区（大高緑地公園，芹沢 89058, 2013-10-16）、中川区（富田，高木順夫 3990, 1993-10-9）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋北部、田原東部、豊田北西部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西などで確認されているが、どの区画でも普通に見られるものではない。

【国内の分布】

北海道（南部）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部。

【生育地の環境／生態的特性】

低地水辺の湿った草地に生育する。休耕田に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区ではため池の岸、緑区ではハナショウブが植えられた湿地に、それぞれ小群落となって生育している。中川区では水田中の小水路に沿って数 m の範囲に少数株が生育していたというが、最近の状態は確認されていない。

【保全上の留意点】

名古屋市内では断片的にしか残されていない低湿地的環境の保全が必要である。

【特記事項】

アキノウナギツカミ *P. sieboldii* (Meisn.) Ohki に似ているが、花序は淡紅色で大きく、よく目立つ。緑区のものは、茎に逆刺が全くない。

【関連文献】

保草Ⅱ pp.306-307，平草Ⅱ p.20.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タデ科＞

ウナギツカミ　*Persicaria sieboldii* (Meisn.) Ohki var. *aestiva* (Ohki) Okuyama

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13. 湧水湿地周辺に生育する植物で、名古屋市内では生育地が少ない。

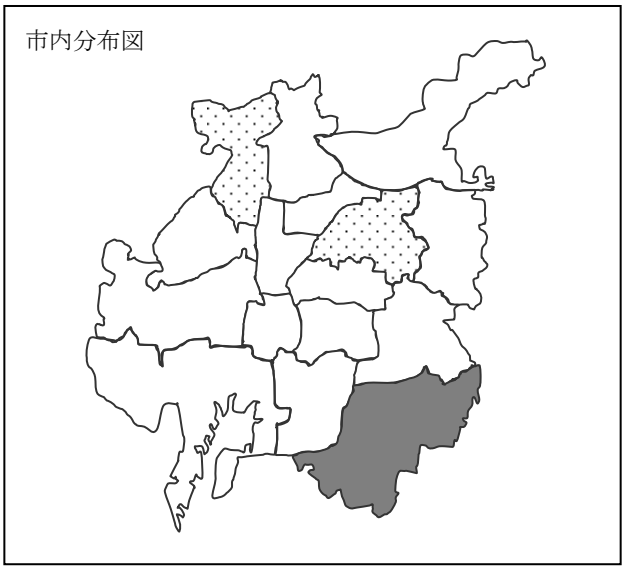
【形　態】

1年生草本。茎は下部で分枝して直立し、高さ 20～40cm、稜上に逆向する刺がある。葉は互生し、下部のものには長さ 2cm に達する柄があるが上部のものはほとんど無柄、葉身は披針形、長さ 3～7cm、先端は鈍頭、基部は矢じり形、裏面の中脈下部に逆刺があるほかは無毛、托葉鞘は長さ 5～10mm、先は斜めに切れ無毛である。花期は 5～6 月、枝先に頭状花序をつけ、花序の柄には刺がない。花被は帯紅色または白色、長さ 3～4mm で 5 裂する。そう果は 3 稜形で宿存する花被に包まれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（鳴海町, 高木順夫 17824, 2009-6-15, NBC89）に生育している。千種区（東山動物園裏, 芹沢 55339, 1990-5-31）、西区（二方町, 太田さち子 6-8, 1990-6-30）で採集された標本もある。



【県内の分布】

多くはないが点在しており、名古屋市のほか新城、豊川、豊橋北部、下山、小原、藤岡、豊田北西部、幸田、西尾南部、瀬戸尾張旭、犬山、春日井、岩倉西春日井、稲沢などで確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸、湧水湿地周辺の溝、湧水のある水田の周辺などに生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

緑区では、水辺の数 m の範囲にある程度の個体数が生育していたという。千種区では東山公園内の湿地に小群落があったが、この湿地は高速道路の建設によって消失した。西区は詳細不明。

【保全上の留意点】

多少撹乱された場所に生育する植物であるが、それでも過度の撹乱には耐えることができない。生育地の自然環境を、全体として保全することが必要である。

【特記事項】

アキノウナギツカミ var. *sieboldii* に似るが、草丈が低く直立すること、葉が小さく先がまるくなること、花期が春から夏であることなどにより区別される。しかし、どちらともつかないような型も存在する。詳しくは芹沢（2008）参照。

【引用文献】

芹沢俊介．2008．アキノウナギツカメズ．シデコブシ 1:51-53.

【関連文献】

保草Ⅱp.306，平草Ⅱp.21.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タデ科＞

アキノミチヤナギ　*Polygonum polyneuron* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13. 塩湿地性の植物で、名古屋市では生育できそうな場所がほとんど残されていない。

【形　態】

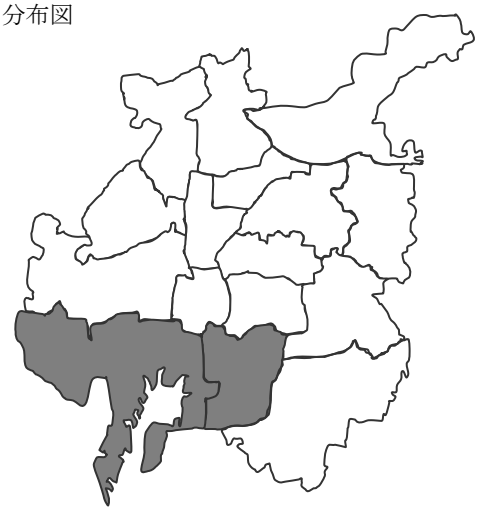
1 年生草本. 茎は通常斜上し、分枝して、高さ 80cm に達する。葉はほとんど無柄、葉身は披針形または長楕円形、長さ 2～3cm、先端は鋭形または鈍形である。枝の上部の葉は小さくなり、落ちやすい。花期は 9～10 月、花がつく部分はまばらな穂状花序のようになり、各節に 2～3 個の花をつける。花被は長さ 1.5～3mm、そう果は 3 稜形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

南区（滝春町大江川，渡邉幸子 4598, 2000-10-19）に生育している。港区側にもある。南区加福町（渡邉幸子 4027, 1999-9-19, NBC903）にも生育していたが、そこでは絶滅した。庄内川河口部にも生育していそうだが、確実な資料はまだ得られていない。

市内分布図



【県内の分布】

沿海地には点在しており、名古屋市のほか豊橋南部、田原東部、田原西部、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、海部南部で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

海岸の塩湿地周辺部に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

ヨシ群落の間に点々と生育している。南区加福町の貯木場跡地にあったものは、名古屋市の一般廃棄物最終処分場造成工事のため埋め立てられて絶滅した。

【保全上の留意点】

大江川はすっかり護岸されているが、それでもコギシギシが多く、本種などの塩湿地性植物の生育場所にもなっている。都市域の生物多様性を保全するためには、このような場所も重要であることを認識する必要がある。

【特記事項】

内湾の塩湿地やそれに隣接する砂浜は、開発圧力が高く、全国的にも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。生育地は 2 つの区にまたがっているが、実質的に 1 ヶ所なので、集団数階級は 4 である。

【関連文献】

保草Ⅱpp.302-303，平草Ⅱp.17.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タデ科＞

コギシギシ　*Rumex nipponicus* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2。総点 12。人為的な影響を受けやすい場所に生育しており、存続の基盤が脆弱である。

【形　態】

多年生草本。高さは通常 30～50cm である。茎の下部の葉には長い柄があり、葉身は長楕円状披針形～披針形、長さ 5～10cm、幅 1.5～3.5cm、先端は鈍頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁はやや波状になり、両面とも無毛である。上部の葉は互生し、次第に小さくなる。花期は 4～5 月、果実をかこむ花被片は卵形で長さ 4mm 程度、辺縁に顕著な刺毛があり、中肋のこぶ状突起は長卵形で、長さは花被片の約 2/3 である。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（南陽町西茶屋，芹沢 79165, 2004-5-10; 本星崎町大江川，芹沢 77166, 2001-4-9）、南区（滝春町大江川，渡邉幸子 4658, 2001-5-6）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、田原東部、田原西部、大府東浦、常滑、岩倉西春日井、あま大治の 7 区画で確認されている。

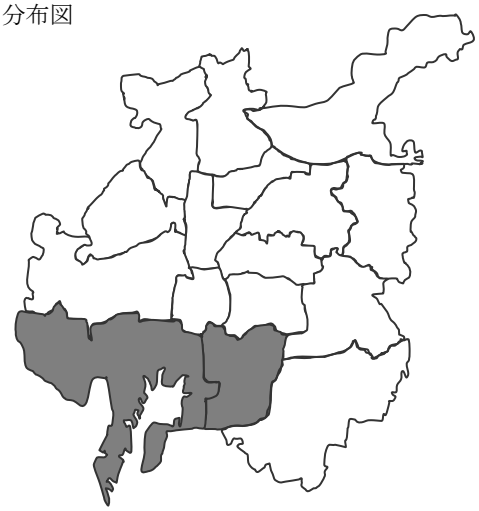
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

路傍の荒れ地などに散発的に出現することもあるが、本来の生育地は低湿地と思われる。耕起前の水田雑草として出現することもある。名古屋市では水田や河口塩湿地の周辺部に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、大江川河口部と庄内川・新川河口部、港区南陽町の区画整理事業地で確認されている。大江川では個体数が多く、生育状態も良好であった。庄内川・新川では個体数は少なかった。

【保全上の留意点】

まとまった集団については、個別的な保全が必要である。散発的に出現するものについては保全は難しく、確実な標本資料の確保につとめる方がよい。

【特記事項】

エゾノギシギシに似ているが、茎はやや紅色を帯びることが多く、葉は小さく、裏面は無毛である。また、エゾノギシギシが他のギシギシ類よりやや遅く開花するのに対し、本種は他のギシギシ類よりやや早く開花する。「日本の野生植物Ⅱ」14 図版に本種として掲載されている写真は、エゾノギシギシである。全国的にやや希少な植物であったが、愛知県では近年増加傾向にある。帰化系統が混在している可能性があり、詳細な分類学的検討が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱp.296，平草Ⅱp.16，環境庁 p.437，SOS 旧版 p.48，SOS 新版 p.139，愛知県 p.627.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　ヒユ科＞

ヤナギイノコヅチ　*Achyranthes longifolia* (Makino) Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 2、総点 12。名古屋市では生育地が限られており、個体数も少ない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は塊状で木質化する。地上茎は高さ 50～130cm になり、まばらに枝を分ける。葉は対生し、葉柄は長さ 1～3cm、葉身は長楕円形～広披針形、長さ 10～20cm、幅 3～6cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形のことが多く、辺縁はほぼ全縁、表面は深緑色でやや光沢がある。花期は 8 月下旬～10 月、花序ははじめ 3～6cm だが、果期には長く伸びる。小花は長さ 5～6mm、小苞基部の付属片は卵形～卵状三角形で小さい。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流, 芹沢 88201, 2012-10-27; 竜泉寺, 芹沢 87502, 2011-10-16 など）、天白区（相生山緑地, 渡邉幸子 4928, 2001-10-13）に生育している。

【県内の分布】

尾張には点在するが、西三河、東三河では極めて稀である。県内では現在までに名古屋市のほか田原西部、西尾南部、瀬戸尾張旭、犬山、春日井、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部の 8 区画で確認されている。

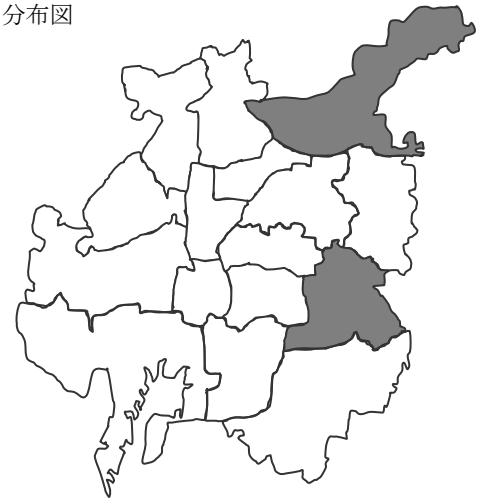
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

主として人里近くの林内や林縁に生育している。どうということのない場所に生育しているが、それでいてあまり見かけない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では何ヶ所かで見ているが、どこも個体数は少ない。守山区以外では相生山緑地の沢沿いの二次林内で少数の個体を見ただけである。この場所は保全緑地内であるが、遷移の進行等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全する必要がある。断片的な林に生育していて保全が困難な場合は、正確な状況を記録すると共に、標本資料の確保につとめるべきである。

【特記事項】

イノコヅチやヒナタイノコヅチからは、葉が細く深緑色であることで容易に区別できる。

【関連文献】

保草Ⅱp.283，平草Ⅱp.54.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マタタビ科＞

マタタビ　*Actinidia polygama* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。山地に行けば普通に見られる植物だが、丘陵地では稀少である。名古屋市では 1 ヶ所で確認されているだけである。

【形　態】

落葉性のつる性木本。葉は互生し、長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は卵形～卵状楕円形、長さ 6～12cm、幅 4～7cm、先端は鋭尖頭、基部は円形～浅い心形、両面の脈上に粗い毛が散生する。花期は 6 月、花は若枝の葉腋に 1～3 個ずつつき、白色で直径 2～2.5cm、花弁は 5 個で広楕円形～広倒卵形である。果実は長楕円形、長さ 2～3cm、橙黄色に熟し、先端に花柱が残存する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味穴ケ洞，芹沢 84191，2009-6-9）に生育している。

【県内の分布】

山地には広く分布しているが、丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井に生育している。

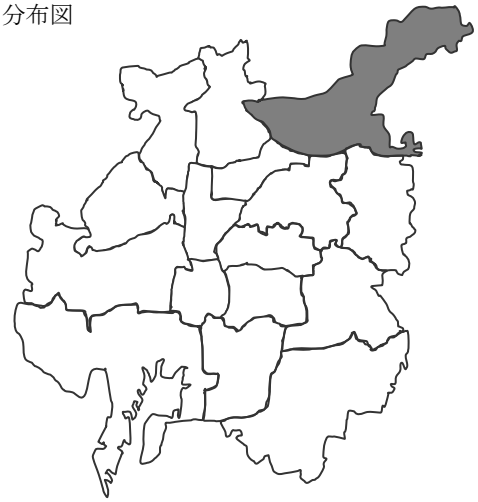
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

南千島、サハリンから中国大陸南西部にかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁部に生育するつる性の木本で、他の樹木にからみついて伸長する。

【現在の生育状況／減少の要因】

1 ヶ所に少数株が生育している。個体数は少ないが、生育状態は良好である。開発や森林の伐採により失われる恐れがある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

開花期には葉の表面が白色になり、よく目立つ。ネコが好むことで有名な植物である。

【関連文献】

保木Ⅱpp.164-165，平木Ⅰp.136.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ツツジ科＞

ギンリョウソウモドキ　*Monotropa uniflora* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13. 林内に生育する腐生植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

腐生の多年生草本。全体に白色だが、乾くと黒くなる。茎は 1～数本が束生し、高さ 10～30cm になる。葉は鱗片状で互生し、卵状長楕円形、上部に不規則な歯牙がある。花期は8～9月。茎の先端に 1 個の花をつけ、がく片は 3～5 枚、卵状楕円形または披針状長楕円形、花弁も 3～5 枚で長楕円形、長さ 1.5～2cm、内面に軟毛あり、外面は短毛が密生し、上部に不規則な歯牙がある。花柱は太く短く、上端は広がって黄褐色の柱頭となる。果実はさく果で、上向きにつき、球形または球状楕円形、長さ 1～1.5cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根長廻間，鳥居ちゑ子 2037, 2001-10-4）に生育している。千種区（東山，井波一雄 s.n., 1941-10-1，CBM192702）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在するが、ギンリョウソウよりは少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と春日井で生育が確認されている。

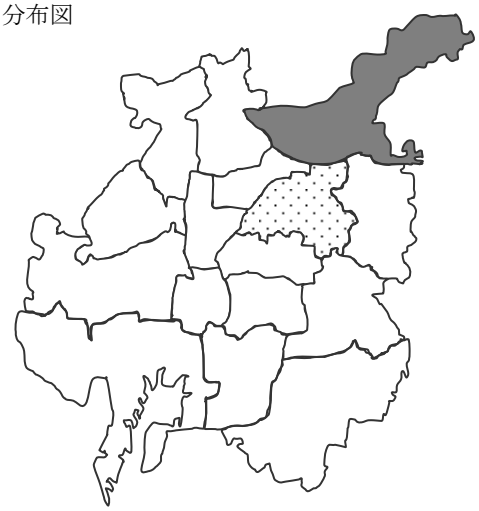
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本からヒマラヤにかけてと、北アメリカに分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

二次林の林内に小群落があるが、近くまで開発が進んでおり、その点で将来の存続が懸念される。林内にはネザサが増加しており、それに圧迫されて衰退する可能性もある。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

ギンリョウソウが初夏に咲くのに対して本種は晩夏から秋に咲くため、アキノギンリョウソウとも呼ばれる。名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 5 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅰp.235，平草Ⅲpp.6-7.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ツツジ科＞

イチヤクソウ　*Pyrola japonica* Klenze

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。林内に生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

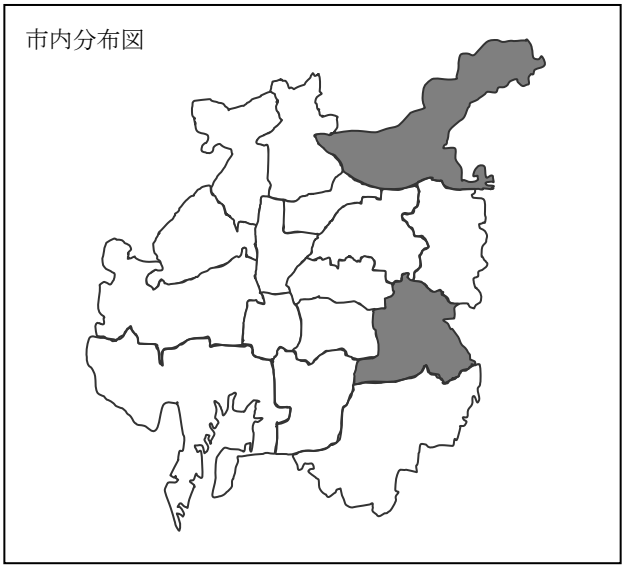
【形　態】

多年生草本。葉は数枚が根生し、長さ 3～7cm の柄があり、葉身は卵状楕円形または広楕円形、長さ 3～6cm、幅 2～4cm、先端は鈍頭、基部は多少葉柄に流れ、質はやや厚く、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 6～7 月、花茎は高さ 15～25cm になり、上部に 3～10 個の花をつける。花は白色で直径 12～15mm、がく裂片は披針形で長さ 3～5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷, 鳥居ちゑ子 1205, 1997-6-7; 吉根長廻間, 芹沢 83288, 2008-9-13）、天白区（土原一丁目, 渡邉幸子 2182, 1995-5-24）に生育している。名東区にもあるらしい。緑区にも残存していると思われるが、今のところ確実な資料がない。



【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸東北部。

【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の落葉樹林の林床に生育する。あちこちで見られるが、あまり群生しない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市内でもまだ生育しているが、開発により本種の生育地である丘陵地の二次林が減少しているだけでなく、残された二次林も利用の停止によって林内にネザサなどが茂り、本種が生育しにくい状況になりつつある。林内の乾燥により消滅したのではないかと思われる例もある。

【保全上の留意点】

里山の二次林を、林床の状態を含めて保全することが必要である。経済的必然性がなくなった現在では市民参加の里山保全活動を行うことも考えられるが、その場合は林床の踏み荒らしを極力避けると共に、たとえ隣接した場所からであっても植物を持ち込まないよう、特に注意する必要がある。自然には自然の回復力がある。植物が生育できる条件を整えたら、あとはその植物が自分の力で存続するのを見守るべきである。

【関連文献】

保草Ⅰp.238, 平草Ⅲp.4.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アカネ科＞

ホソバニセジュズネノキ　*Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn. subsp. *major* (Sieb. et Zucc.) T.Yamaz. var. *lancifolius* Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13. 暖地の林内に生育する常緑低木で、名古屋市では生育地が限られており、個体数も少ない。

【形　態】

常緑性の小低木。よく分枝して高さ 30～60cm になり、若枝に曲がった短毛を密生し、節には長さ 4～12mm の刺がある。葉は対生し、短い柄があり、葉身は狭長楕円形、長さ 4～6cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、革質で全縁である。花期は 5 月、枝先と葉腋に通常 2 個ずつの花をつける。花柄は長さ 1～3mm、花冠は白色、漏斗形で筒部は長さ 10～13mm、先は 4 裂し、裂片は三角形である。液果は球形、直径 4～5mm、赤色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，芹沢 77215, 2001-4-28）に生育している。

【県内の分布】

低山地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と美浜南知多に生育している。

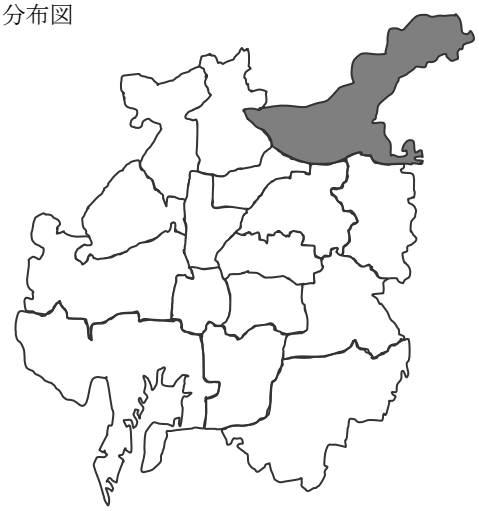
【国内の分布】

本州西部。

【世界の分布】

日本固有。基準変種のニセジュズネノキは、日本のほか朝鮮半島南部に分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地や丘陵地の常緑樹林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に少数の個体が生育している。現在のところ特に減少しているわけではないが、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

【特記事項】

和名は、ジュズネノキ（＝オオバジュズネノキ）に似て根が数珠状に肥厚しないからである。

【関連文献】

保木Ⅰp.60，平木Ⅱp.201.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アカネ科＞

ホソバノヨツバムグラ　*Galium trifidum* L. var. *brevipedunculatum* Regel

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は細く、長さ 25～70cm、少数の逆刺がある。葉は 4～5 枚、ときに 6 枚が輪生し、線状楕円形～倒披針形、長さ 1～2cm、先端は円形、葉縁と裏面中脈上に少数の逆刺がある。花期は 6～8 月、枝先と葉腋に花序をつけ、数個の白色の花をつける。花柄、小花柄はともに長さ 3～5mm、花冠は通常 3 裂して平開し、直径約 1mm である。果実は無毛、分果はほぼ球形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味蛭池，芹沢 84165, 2009-6-9 など）、西区（枇杷島町庄内川，鈴木秀樹 3980, 1997-6-6）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在するが、尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭、一宮西部、津島愛西で確認されているにすぎない。

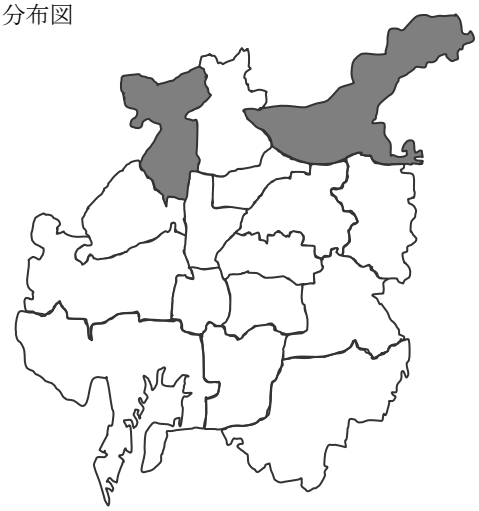
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、北アメリカ。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低地～山地の湿地に生育する。丘陵地ではため池の周辺、平野部では河川敷の湿地に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区ではため池の岸などに小群落がある。西区では最近の状況が確認されていないが、すでに消失している可能性もある。

【保全上の留意点】

丘陵地や平野部河川敷に低湿地状の場所を残すことが重要である。

【特記事項】

湿地性で茎が細く長く伸び、花冠は通常 3 裂することが特徴である。

【関連文献】

保草Ⅰp.111，平草Ⅲp.54.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

ヤブムラサキ　*Callicarpa mollis* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では個体数が極めて少ない。

【形　態】

落葉性の低木。高さ2～3mになる。葉は対生し、長さ5～7mmの柄があり、葉身は卵形～楕円形、長さ 5～12cm、幅 2～5cm、先端は鋭尖頭、基部は円形～広いくさび形、表面に短毛、裏面に星状軟毛がある。花期は6～7月、葉腋から出る小型の集散花序に、少数の花をつける。花冠は長さ4～5mm、紅紫色、上部は4裂して平開し、外面に星状毛がある。果実は秋に熟し、紫色で球形、直径3～4mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，芹沢 84147, 2009-6-9; 吉根階子田，芹沢 88394, 2013-5-25; 小幡緑地，鳥居ちゑ子 3352, 2014-5-24 など）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井、津島愛西で確認されている。

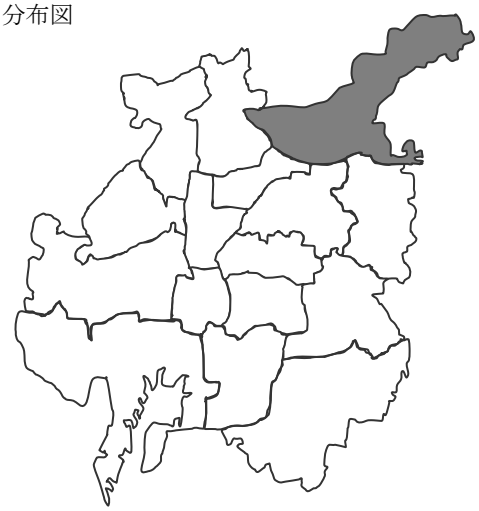
【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

二次林などの低木層の構成種として生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

4 ヶ所に生育しているが、個体数は極めて少ない。名古屋市ではもともと希少であったと思われる。

【保全上の留意点】

路傍の林縁に生育している場合もある。このような愛知県全体としてはさほど稀少でない植物が断片的に生育している場合、どの程度保全すべきかは議論が分かれると思われる。適切な合意形成が必要である。

【特記事項】

「こんな普通種が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。ムラサキシキブに似るが、葉裏に星状毛が密生する。

【関連文献】

保木Ⅰp.46，平木Ⅱpp.210-211.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

ハッカ　*Mentha arvensis* L. var. *piperascens* Malinv.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

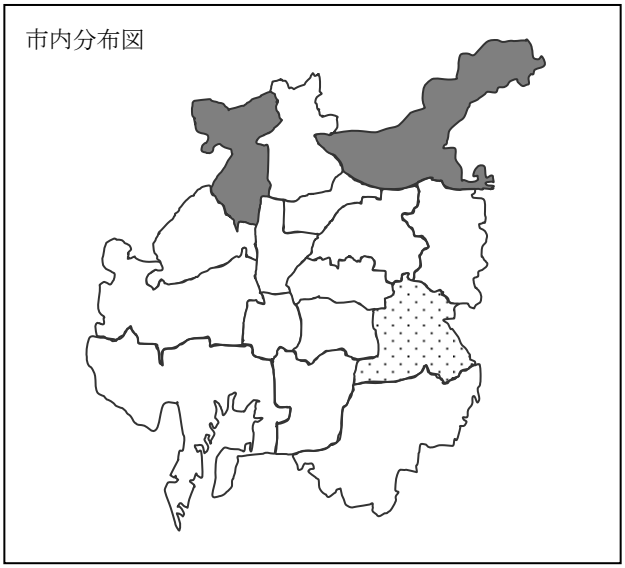
【形　態】

多年生草本。植物全体に芳香がある。茎は四角形でしばしば倒伏し、長さ 40～120cm になる。葉は対生し、長さ 5～12mm の柄があり、葉身は狭卵形～長楕円形、長さ 2～8cm、両端は尖り、辺縁に鋭い鋸歯がある。花期は 8～10 月、花は上部の葉腋に球状に集まってつき、淡紫色、がくは鐘形で白毛があり、花冠は長さ 4～5mm で 4 裂する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味長戸川, 鳥居ちゑ子 2968, 2011-8-31）、西区（名塚町庄内川河川敷, 鳥居ちゑ子 2228, 2002-10-19）に生育している。天白区（天白町平針大根ケ越, 渡邉幸子 1132, 1993-8-5）にも生育していたが、そこでは見られなくなった。



【県内の分布】

平野部から山地にかけて点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア。

【生育地の環境／生態的特性】

泥質の湿地や、水路わきなどの湿った草地に生育する。湿地性の植物であるが、湧水湿地にはほとんど生育していない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では河川敷に小群落がある。天白区では大堤池の堰堤に小群落があったが、遊歩道になって消滅した。荒池にも小群落があるが、これは植栽されたものらしい。西区では庄内川河川敷を流れる小水路のわきに小群落があったが、最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

河川敷の低湿地は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所である。河川改修や河川敷の利用に当たっては、このような自然特性を根底から破壊しないよう、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

名古屋市内では帰化種のハッカ属植物は多いが、在来種はごく稀である。

【関連文献】

保草Ⅰp.175，平草Ⅲp.84.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

ミゾコウジュ　*Salvia plebeia* R.Br.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。低湿地の攪乱地に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も比較的多いが、名古屋市内では少ない。

【形　態】

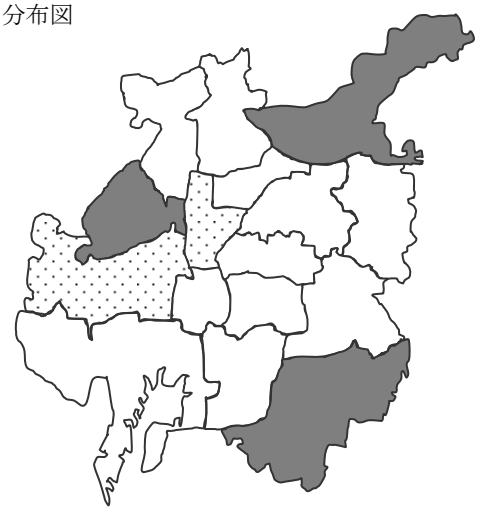
越年生草本。冬にはロゼット状の根出葉がある。茎は直立し、断面は四角形、上部で分枝し、高さ 30～70cm、下向きの細毛がある。根出葉は長楕円形で長い柄があり、花時には枯れる。茎葉は対生し、短い柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ 3～6cm、幅 1～2cm、辺縁には細かい鈍鋸歯がある。花期は 5～6 月、花穂は茎や枝の先端につき、はじめ短いが、後に 8～10cm に伸びる。がくは花時に長さ 2.5～3mm、果時には長さ約 4mm となる。花冠は淡紫色で、長さ約 5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（瀬古庄内川，鈴木秀樹 2423, 1996-6-3）、緑区（鳴海町笹塚，渡邉幸子 6452, 2012-5-24, NBC1131）、中村区（日比津町庄内川，芹沢 77884, 2002-5-23）に生育している。中区（御器所，井波一雄 s.n., 1933-5-30, CBM 128608）、中川区（富田町千音寺，芹沢 80574, 2006-6-6）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原西部、長久手日進、犬山、江南丹羽、小牧、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部の 18 区画で確認されている。山間部にはなく、また西三河と知多半島では現在のところ確認されていない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジア、マレーシア、インド、オーストラリアに広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

河川敷などの、多少攪乱された場所に生育する。平野部の休耕田やあき地などに生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

大きい群落は作らないが、ところどころに点在している。中川区では休耕田に生育していたが、その後消失した。

【保全上の留意点】

低湿地性の植物であるが、その中では攪乱地に多く生育している。他の低湿地性植物に比べれば絶滅が危惧される程度は低い。個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないと思われるが、「本種もなくなったら、低湿地性植物は全滅」という意味で、注目してよい植物である。

【関連文献】

保草Ⅰp.167，平草Ⅲpp.80-81，SOS 旧版 p.78，愛知県 p.635.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

タツナミソウ　*Scutellaria indica* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13。草地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

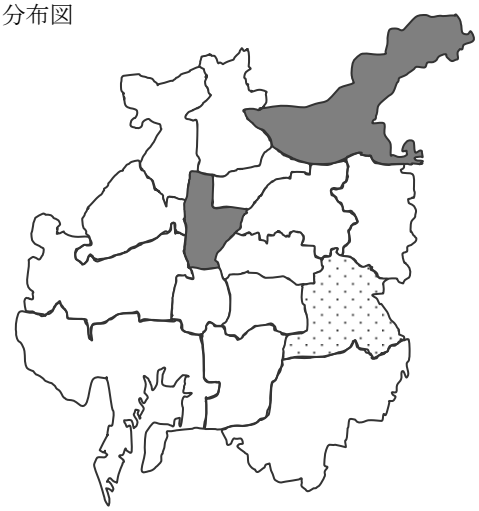
多年生草本。地下茎は短くはう。地上茎は直立し、高さ 20～40cm、密に開出する白毛がある。葉は数対が対生し、長さ 5～20mm の柄があり、葉身は広卵心形～三角状卵形、長さ、幅ともに 1～2.5cm、先端は円頭、基部は心形、辺縁には鈍い鋸歯があり、両面とも軟毛が多い。花期は 5 月、茎の先端の長さ 2～5cm の花序に多数の青紫色の花をつける。花冠は長さ 15～18mm、下唇に紫色の斑点がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味庄内川堤防, 鳥居ちゑ子 2295, 2003-5-2 など）、中区（名古屋城, 鳥居ちゑ子 2302, 2003-5-9）に生育している。天白区（天白町植田, 渡邉幸子 253, 1992-5-17）にもあったが、ここでは絶滅した。

市内分布図



【県内の分布】

低山地や丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、美浜南知多、春日井、津島愛西で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、インドシナ。

【生育地の環境／生態的特性】

明るい草地に生育する。特に草刈り場として使われる耕作地周辺の里草地（いわゆるボタ）に多い。他のタツナミソウ類と異なり、林内には生育しない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では庄内川堤防の 2 ヶ所に小群落があったが、うち 1 ヶ所は堤防改修のため絶滅した。天白区では天白川堤防の草地に群生していたが、道路工事のため絶滅した。中区では名古屋城内に小群落があったが、最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、管理の必要上定期的に草刈りが行われるため、平野部では貴重な草地的環境になっている。堤防の改修に際しては、身近な自然の確保という観点も含めて、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は立浪草で、花の咲く様子を泡立つ波に例えたものである。名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

【関連文献】

保草Ⅰp.186, 平草Ⅲp.77.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

シソバタツナミ　*Scutellaria laeteviolacea* Koidz.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立し高さ 5～15cm、やや密に上向きに曲がった毛がある。葉は 2～4 対が対生し、長さ 1～3cm の柄があり、葉身はやや三角状の卵形、長さ 1.5～4cm、先端は鈍頭、基部は切形、辺縁にはあらい鈍鋸歯があり、表面はやや光沢があり、裏面は通常紫色を帯びる。花期は 5～6 月、茎の先端に長さ 2～6cm の穂状の花序をつける。花冠はやや密につき、紫色、長さ 16～20mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，芹沢 84149, 2009-6-9; 吉根階子田，鳥居ちゑ子 1589, 1999-5-18 など）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には比較的多い。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。タツナミソウ類の中では、やや山地寄りに分布している。

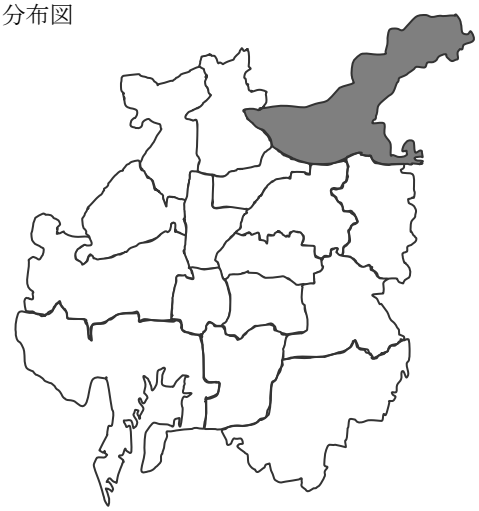
【国内の分布】

本州（福島県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地のやや湿った林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山には小群落があった。吉根では丘陵地の林内に合わせて 20 株ほどが生育していたが、最近の状況は確認されていない。周辺の開発が進んでおり、すでに消滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

何はともあれ、丘陵地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

名古屋市内には 4 種のタツナミソウ類が生育しているが、いずれも希少で、絶滅が危惧される。

【関連文献】

保草Ⅰp.185，平草Ⅲp.77.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　モチノキ科＞

タマミズキ　*Ilex micrococca* Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、県内分布 1、総点 13. 名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

【形　態】

落葉性の高木。高さ 15m くらいになる。葉は互生し、長さ 1.5～2cm の柄があり、葉身は卵状楕円形～卵状長楕円形、長さ 7～13cm、幅 3～6cm、先端は鋭尖頭、基部は円形、辺縁には細い鋭鋸歯がある。花期は5～6 月、雌雄異株で、葉腋の集散花序に多数の緑白色の小さい花をつける。果実は球形で直径約 3mm、多数が密につき、赤熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，芹沢 84146, 2009-6-9）に生育している。

【県内の分布】

低山地に点在するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

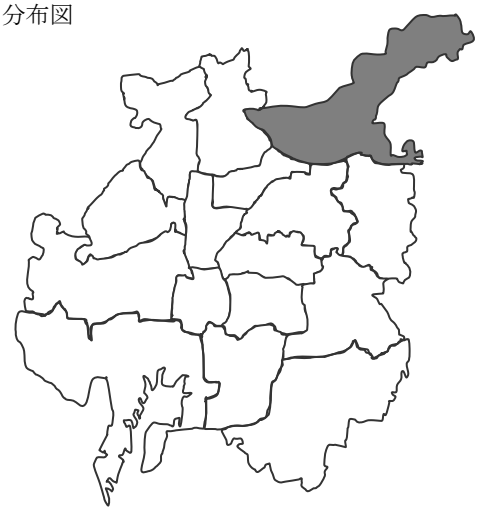
【国内の分布】

本州（静岡県、福井県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸中南部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の常緑広葉樹林内に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では唯一の山地状の場所である守山区東谷山に、少数の個体が生育している。

【保全上の留意点】

東谷山では、鳥獣の保護と称してその餌となる植物を植栽する動きがあり、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。自然の中に、本来その場所に生育していない種を植栽してはならないことはここで改めて指摘するまでもないが、その場所に生育している種を植栽することも、遺伝的攪乱という点で、ある意味では自然に対してより一層深刻な悪影響を与えるおそれがある。本種の場合も、「実のなる木」だからと言って植栽を行わないよう、特に注意する必要がある。

【特記事項】

晩秋には赤い果実が枝に多数つき、遠くからでもよく目立つ。

【関連文献】

保木Ⅰp.272，平木Ⅱp.31.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キキョウ科＞

サワギキョウ　*Lobelia sessilifolia* Lamb.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13. 湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

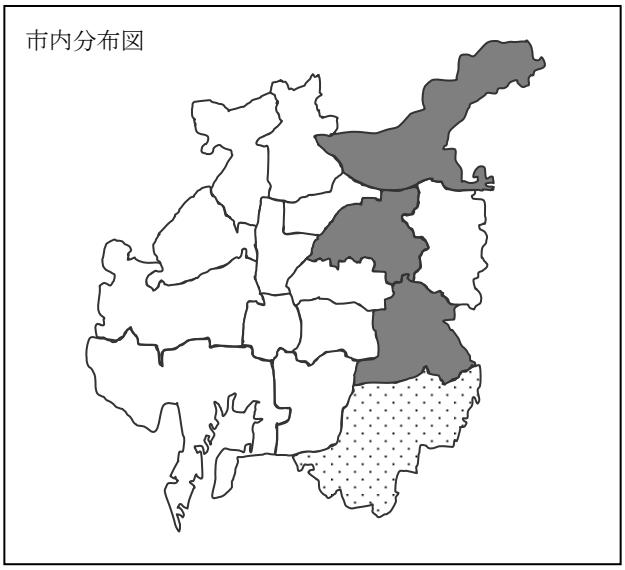
【形　態】

多年生草本。茎は中空で分枝せず、高さ 70～120cm、無毛である。葉は多数が互生し、無柄、葉身は披針形で長さ 4～7cm、先端は漸尖し、基部は円形、辺縁には低い鋭鋸歯がある。花期は 8～9 月、上部の葉がしだいに小型となって長い総状花序に移行する。花には 5～12mm の柄があり、花冠は唇形で濃紫色、長さ 2.5～3cm、上唇は 2 深裂、下唇は 3 浅裂し、裂片の縁に長毛がある。さく果は球形で、長さ 8～10mm になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根長廻間，芹沢 77660, 2001-9-23）、千種区（田代町平和公園，鳥居ちゑ子 2030, 2001-9-21）、天白区（八事裏山，芹沢 56190, 1990-8-8; 島田緑地，芹沢 53329, 1989-9-20）、緑区（鳴海町水広下池，芹沢 59842, 1991-8-23）で採集された標本がある。ただし緑区では、2004 年の時点ですでに現存を確認できなかった。



【県内の分布】

低山地に多いが、東三河北部の山地には少ない。平野部にはなく、知多半島でも確認されていない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、小牧、春日井で記録されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

カムチャッカから中国大陸、シベリア東部にかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

湿地に生育する。愛知県では、ため池の周辺や湧水湿地下部の泥質の場所に多く生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所も個体数は少なかった。最近の状況は十分確認されていないが、一方で開発、他方で森林化の進行により、消失した場所もあると思われる。個体数階級、集団数階級は見込み値である。千種区平和公園ではやや目につきやすい場所に生育していて、昔植栽されたものという話も聞いたが、はっきりしなかった。

【保全上の留意点】

多少は耐陰性があり、林内の湿地にも生育していることがあるが、それでも過度の被陰には耐えることができない。湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

【特記事項】

秋の湿地では、最も目につく花の一つである。

【関連文献】

保草Ⅰp.91，平草Ⅲp.154.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キキョウ科＞

タニギキョウ　*Peracarpa carnosa* (Wall.) Hook.f. et Thomson var. *circaeoides* (F.Schmidt) Makino

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

小型の多年生草本。地下茎は細くて長くはい、分枝して立ち上がり、高さ 5～15cm の地上茎となる。葉は互生し、長さ 5～15mm の柄があり、葉身は卵円形、長さ 10～20mm、先は鈍形、基部は円形、辺縁には低い鈍鋸歯があり、表面は緑色で短毛を散生する。花期は6～8月、茎の上部から長さ 2～5cm の細い柄を出し、その先端に 1 個の花を上向きにつける。花冠は漏斗形、白色またはわずかに淡紫色を帯び、長さ 5～8mm、5 深裂し、裂片は広披針形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，鳥居ちゐ子 863，1995-5-10）に生育している。

【県内の分布】

山地にはやや普通に見られるが、丘陵地には少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

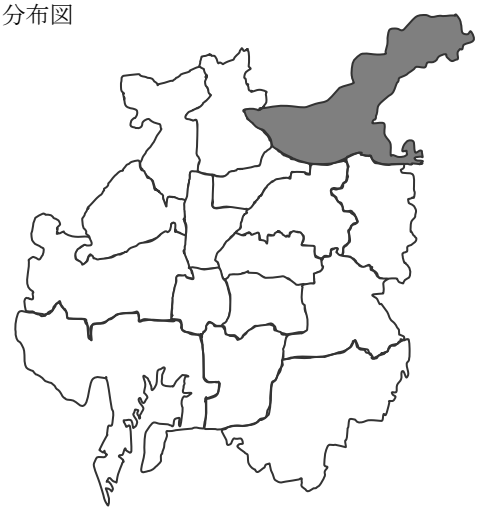
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

カムチャッカから日本、済州島にかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの湿った林内に生育し、通常狭い範囲に多数の茎が出て、やや密な小群落を作る。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である守山区東谷山に小群落がある。現在のところ特に減少しているわけではないが、現地は崖崩れしやすい地形で、存続の基盤は脆弱である。

【保全上の留意点】

崩壊地の復旧工事が本格的に行われれば、踏みつけなどにより消滅する可能性がある。工事を行う際には、適切な配慮が必要である。

【特記事項】

基準変種 var. *carnosa* はヒマラヤに分布する。

【関連文献】

保草Ⅰp.96，平草Ⅲp.154.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ミツガシワ科＞

ガガブタ　*Nymphoides indica* (L.) Kuntze

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1。全国的に減少傾向が著しい水草で、名古屋市でも生育地が少ない。

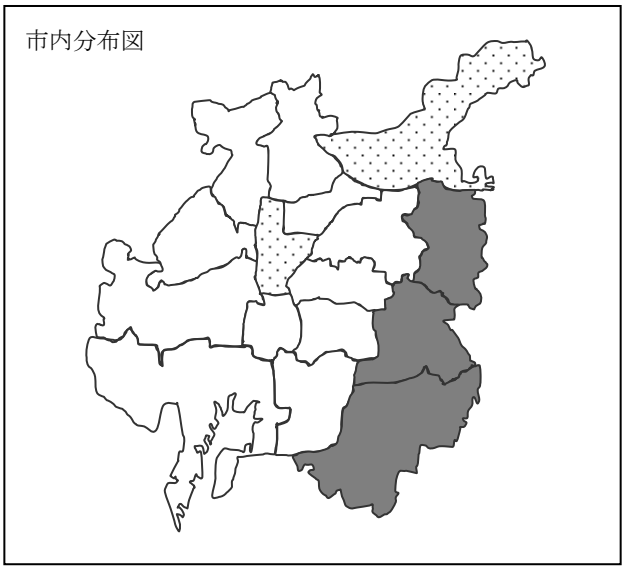
【形　態】

多年生の水草。茎は細長く、1～3 個の葉をつける。葉はほぼ円心形～卵心形で、直径 7～20cm、基部は深く湾入し、葉縁は全縁。花期は 7～9 月、花は葉柄の基部に多数が束生し、葉身の湾入部から水上に出て開く。花弁は白色で、直径約 15mm、内側全体に白毛が著しい。長花柱花を持つ株と短花柱花を持つ株があり、両方の株が混生する集団でのみ結実する。果実は楕円形で 3～5mm。夏から秋にかけて、基部の根が変形・肥大して太く短くなり、バナナの房状となった殖芽を形成する。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高緑地, 芹沢 77583, 2001-9-9; 牧野ヶ池緑地, 渡邉幸子 4796, 2001-7-30, NBC977）、天白区（天白町島田大根池, 芹沢 88053, 2012-10-8; 元八事植田川, 中村　肇 82, 2012-5-13, NBC287）、緑区（長根町四郎曽池, 渡邉幸子 5444, 2003-9-17）に生育している。守山区（大森雨池, 芹沢 76868, 2000-7-14）にも生育していた。中区（名古屋城外堀）でも記録はある（浜島 2013）が標本を確認できていない。



【県内の分布】

名古屋市のほか、豊田北西部、刈谷知立、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑の 7 区画で確認されている。豊橋北部と田原東部で採集された標本もあるが、東三河ではまだ現存を確認できない。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、アフリカ、オーストラリア。

【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池などに生育する浮葉植物。極稀に河川で確認されることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

20 年ほど前までは、尾張、西三河の平野部のため池で最も普通に見られる水草のひとつであったが、ため池の改修や水質汚濁によって急激に激減し、現在は特定の場所でしか見られない。ただし残存している場所では、個体数が近年増加傾向にあり、強力な除草剤が使用されなくなったことが、回復の原因ではないかと思われる。名古屋市では、名東区（塚ノ杁池、牧野池）および緑区（四郎曽池）では池の半分程度に生育している。守山区（大森雨池）では、かつて池一面に生育していたものの近年は確認できない。

【保全上の留意点】

水質が過度に富栄養化すると生育できないため、生育地のため池の水質を維持することが必要である。

【特記事項】

天白区島田緑地に生育するものは移植された個体で、評価の対象にならない。

【引用文献】

浜島繁隆．2013．水草の世界　生態と東海地方の分布・変貌の記録 pp.123-126．シンプリブックス，豊川．

【関連文献】

保草Ⅰp.213，平草Ⅲp.36，環境庁 p.513，SOS 旧版 p.72+図版 21，愛知県 p.566.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.140．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.297．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

オクモミジハグマ　*Ainsliaea acerifolia* Sch.Bip. var. *subapoda* Nakai

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は高さ 40～80cm になり、中部に 4～7 枚の葉をやや輪状につける。葉には長い柄があり、葉身は腎心形または円心形、長さ 6～12cm、掌状に浅裂し、両面にまばらに軟毛がある。花期は 8～10 月、茎の先端部に多数の頭花を穂状につける。頭花は開花時は横を向き、短い柄と小さい苞がある。小花は 3 個、花冠は白色、4～5 裂し、裂片は長さ 7～10mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，飯尾俊介 101, 2002-10-3）に生育している。守山区では吉根にもあるが、標本は採取されていない。

【県内の分布】

山地ではしばしば見かける植物であるが、丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

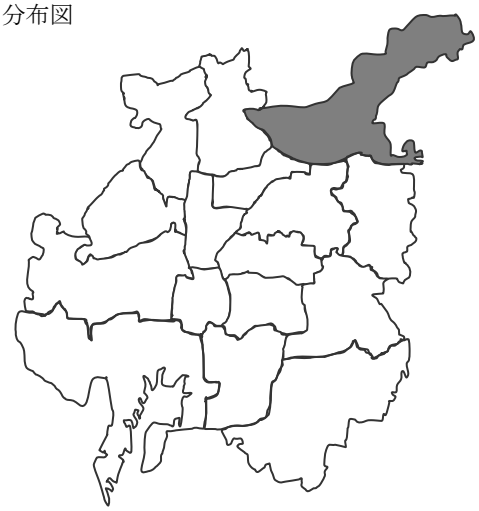
【国内の分布】

本州中西部、九州北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山の小群落は当面残りそうだが、それ以外の場所は相当危機的である。吉根では 20～30 株が生育していたが、すぐ近くまで開発が進んでいる。また、ササ類が繁茂して圧迫されており、その点でも将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。また東谷山は、本種を含めて名古屋市では希少な植物が多数生育している場所である。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

【特記事項】

基準変種のモミジハグマ var. *acerifolia* は葉の切れ込みが深いもので、愛知県では山地に点在するが、変異はかなり連続的である。

【関連文献】

保草Ⅰp.20，平草Ⅲp.208.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

キッコウハグマ　*Ainsliaea apiculata* Sch.Bip.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13. やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。地下茎は細長くはう。茎は高さ 10～30cm、下部に 5～11 枚の葉をやや輪状につける。葉には長い柄があり、葉身は五角形、長さ 1～3cm、先端は鈍頭で微凸端基部は心形、しばしばごく浅く 5 裂し、両面に長い毛がある。花期は 9～10 月、茎の先端部に多数の頭花を総状または複総状につける。頭花は開花時は横を向き、1～5mm の柄があり、総苞は筒状で長さ 10～15mm、小花は 3 個、しばしば閉鎖花となるが、開花した花冠は白色で長さ約 9mm である。そう果は長さ 4～5mm、密に毛があり、冠毛は長さ約 7mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ケ根, 鳥居ちゐ子 2285, 2003-5-1）に生育している。天白区（八事, 立川 s.n., 1952-8-19）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、知多南部、犬山、小牧、春日井で確認されている。

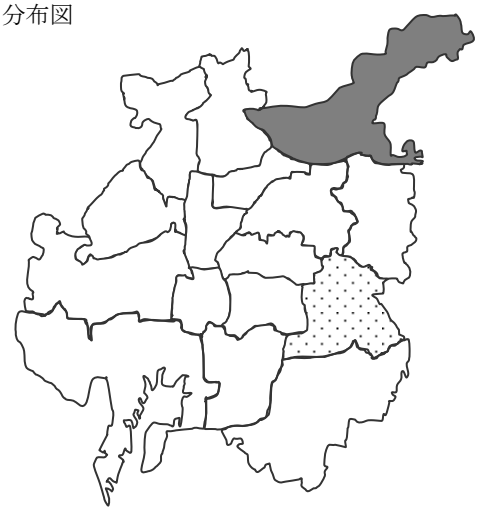
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや乾いた林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

斜面中腹の林内に小群落があったが、ごく最近の状況は確認されていない。一帯は土地造成が進行しており、その点で存続が懸念される。

【保全上の留意点】

生育地の地形と森林を保全することが必要である。

【関連文献】

保草Ⅰp.20，平草Ⅲp.208.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

カワラハハコ　*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. subsp. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 13. 礫の河川敷に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本. 茎は束生し、高さ 30～50cm になり、中上部でよく分枝し、白色の綿毛を密生する。葉は互生し、葉身は線形、長さ 6～9cm、幅 1～3mm、辺縁は裏側に巻き、裏面は灰白色または淡褐色の長綿毛が密生する。花期は 8～9 月、枝先に多数の頭花を散房状につける。総苞は球形で長さ 5mm、総苞片は乾膜質で上半分は白色、小花は淡黄色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味, 鳥居ちゑ子 2754, 2009-9-29; 中志段味庄内川河川敷, 鳥居ちゑ子 1003, 1995-10-10）に生育している。天白区（天白町八事, 芹沢 77576, 2001-9-8）、緑区（鳴海町水広下, 渡邉幸子 3265, 1997-10-31）、中川区（富永一丁目, 高木順夫 5969, 1998-11-14）で採集されたこともある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊根西武、鳳来北西部、豊川、豊橋南部、旭、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、豊田南西部、三好、岡崎北部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、江南丹羽、津島愛西の 21 区画で確認されている。

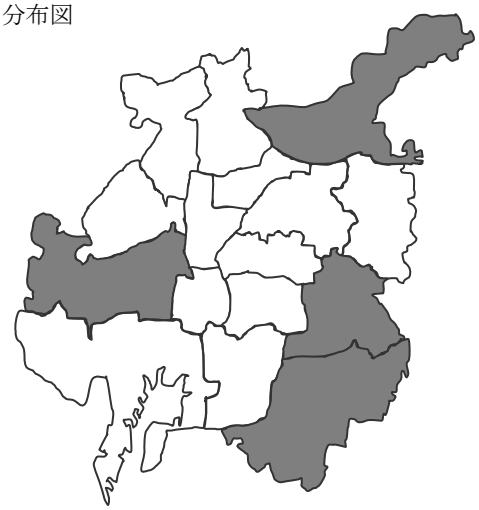
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。種としては北アメリカから東アジア、ヒマラヤにかけて分布している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

本来は砂礫質の河川敷に生育するが、やせた丘陵地の半裸地状の場所に生育していることもある。時には道路工事等に伴って移入され、大きな道路の中央分離帯などにも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

上志段味では大株が 1 株生育している。中志段味では庄内川河川敷に数株生育していたが、東海豪雨時に流され、見られなくなった。しかし礫の河川敷の状態は変わらないので、そのうちに再度出現すると思われる。守山区以外では天白区の道路わき、大根池堤防、緑区水広下池、中川区戸田川堤防などで記録されている。不安定な立地に生育する植物なので、今後もあちこちで散発的に出現する可能性がある。

【保全上の留意点】

出水の減少による河川敷の安定化と富栄養化によって、中流部の河川敷にも木本や高茎草本が侵入するようになり、本種が好む半裸地状の礫の河原自体が減少している。道路工事等に伴って人為的に移入されたものは保全の対象外である。

【特記事項】

葉の幅がやや広いホソバノヤマハハコ subsp. *japonica* (Sch.Bip.) Kitam.は、庄内川新大正橋橋上（大治町側）で採集されたことがあるが、名古屋市内ではまだ知られていない。

【関連文献】

保草Ⅰp.75, 平草Ⅲp.204.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

ムラサキトキンソウ　*Centipeda* sp.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 3、総点 13。秋期干上がったため池の岸に生育する植物で、名古屋市では生育地が限られている。

【形　態】

トキンソウに似ているが、頭花はやや大きく、紫色を帯びる。福井県立大学の赤井賢成氏が研究中なので、詳細な記述は控える。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大村池，村松正雄 24716, 2012-11-8; 中志段味安田池，芹沢 88194, 2012-10-27）に生育している。

【県内の分布】

尾張中北部とそれに隣接する西三河に分布しており、現在のところ名古屋市のほか刈谷知立、瀬戸尾張旭、犬山、春日井で確認されている。

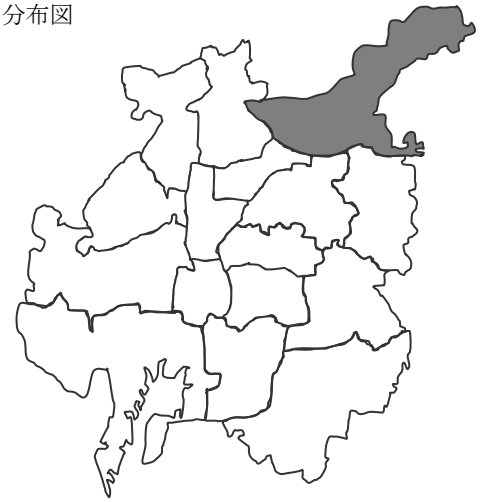
【国内の分布】

赤井氏が研究中。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

秋期干上がったため池の岸に生育する。個体数は年変動が激しく、水が引かない年には全く出現しないこともある。

【現在の生育状況／減少の要因】

2012 年はよく水が引いた年で、大村池では多量に生育していた。過去には多くのため池に生育していたが，埋め立てや水質汚濁によって生育地が減少し，現在の状態に至ったと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり，秋期干上がったため池の岸には多くの希少植物が生育するが，最近ため池利用が低下して水管理が放棄され，満水状態のままのところも多くなっている。ため池の水質保全のためにも，適切な水管理を継続することが重要である。

【特記事項】

赤井氏が研究中の未記載の植物である。尾張旭市で井波一雄氏が 1984 年 10 月 15 日に採集された標本が千葉県立中央博物館に収蔵されていたが，2012 年になって県内での現存が確認できた。今後詳細に調査すれば更に産地が追加されると思われる。本種のような未記載の植物をレッドデータブックに収録することには異論もあると思われるが、研究者に情報を提供するという意味でも（秘密裏に研究を進めて出し抜く時代ではない！）掲載する方がよいと思う。

【関連文献】

現在のところ文書として公表されている一般的な文献はない。

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

オグルマ　*Inula britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。人里周辺に多く生育する植物であるが、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

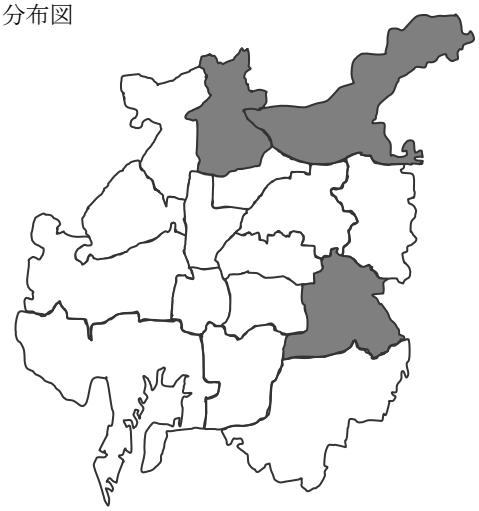
越年生の草本。茎は高さ 30～80cm になる。根出葉と下部の葉は花時には枯れることが多い。茎葉は互生し、広披針形～長楕円形、長さ 6～10cm、先端は鋭頭～鋭尖頭、基部は多少なりとも茎を抱き、長さ 5～10cm、幅 1～3cm。花期は 7～10 月、茎の先に数個の黄色で直径 3～4cm の頭花をつける。総苞は半球形、長さ 7～8mm、片はやや同長、外片は披針形で鋭頭、緑色で毛がある。そう果は長さ約 1mm、有毛、冠毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（瀬古東三丁目，鳥居ちゑ子 3391, 2014-9-4）、北区（喜惣治新田，鳥居ちゑ子 1817, 2000-7-11）に生育している。天白区（天白町平針荒池緑地，渡邉幸子 5142, 2002-8-1）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

多くはないが、平野部から山地まで点在している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山、小牧、春日井、岩倉西春日井、稲沢、津島愛西に生育している。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

湿地や水田の周辺、河川敷などの湿った草地に生育する。人里周辺に多いので、自生か植栽か、判断に迷うことも少なくない。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では水田わきに 0.5m×2m ほどの群落がある。北区では水田のわきに数十株の群落があったが、耕地拡大のためほとんどが抜かれ、現在は近くの畑のすみに少数株が見られるだけである。天白区では山を削って作った道路沿いの草地に数十株が生育していたが、最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

人里近くに生育することが多いため、生育地の保全はなかなか難しい。はっきり意識できないまま消滅してしまいそうな植物の一つである。

【特記事項】

和名は小車で、黄色の舌状花が車輪状に並んでいることに由来する。

【関連文献】

保草Ⅰp.70，平草Ⅲp.204.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

ムラサキニガナ　*Lactuca sororia* Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 12。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は中空で、高さ 60～120cm になり、切ると白い乳液が出る。葉は互生し、下部のものには長い柄があり、葉身は下部のものは通常羽裂するが、上部のものは次第に小さくなり披針形、辺縁には突起状の鋸歯がある。花期は 6～8 月、頭花は茎の先端に円錐花序状につき、下向きに咲き、紫色で直径 1cm、総苞は長さ 1～1.2cm である。そう果は長さ 3～3.5mm、黒くて細肋があり、冠毛は白色である。花序の柄に腺毛がないものはケナシムラサキニガナ form. *glabra* (Yonek.)と呼ばれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（竜泉寺北面，日比野修 4583, 1998-7-23, 腺毛あり）に生育していた。名東区（猪高町上社, 半田多美子 01090, 2001-6-9, 腺毛なし）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地にはやや普通に見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

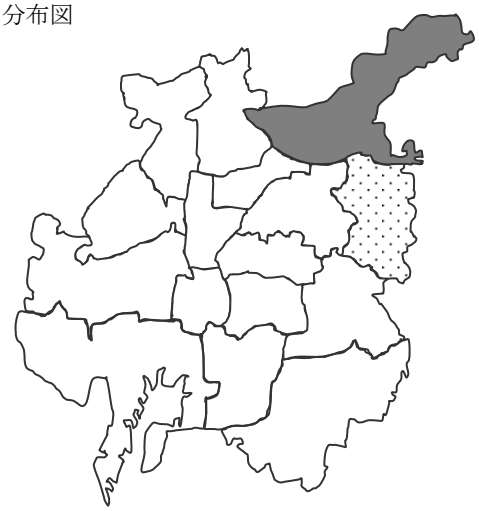
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸中部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、竜泉寺の林内に点在していたが、最近の状況は確認されていない。名東区では、猪高緑地の林縁に 1 株生育していたが、その後確認できない。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所にも生育できる植物であるが、過度の攪乱には耐えることができない。生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

「こんな植物が？」と思われる絶滅危惧種の一例である。名古屋市のようなほとんど浅い丘陵地しかない地域では、山地では普通に見られる植物もしばしば産量が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【関連文献】

保草Ⅰp.8，平草Ⅲp.228.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　レンプクソウ科＞

オオカメノキ　*Viburnum furcatum* Blume ex Maxim.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。温帯性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

落葉性の小高木。高さ 5～6m になる。若枝は褐色で、細かい星状毛を密生する。葉は対生し、長さ 1.5～4cm の柄があり、葉身は円心形～卵状楕円形、長さ 10～18cm、先端は鋭頭～短く鋭尖頭、基部は心形、辺縁には細鋸歯があり、裏面には細かい星状毛があるが、のちに無毛となる。花期は 4 月～5 月、枝先に直径 6～13cm の散房花序をつけ、装飾花の花冠は白色で直径 2～3.5cm、5 深裂する。果実は広楕円形、長さ 7～12mm、はじめ赤色、のちに黒色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，日比野修 4408, 1998-4-19）に生育している。

【県内の分布】

愛知県の山地では低標高の割に比較的多い植物である。ただし尾張では少なく、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭と春日井で確認されているにすぎない。

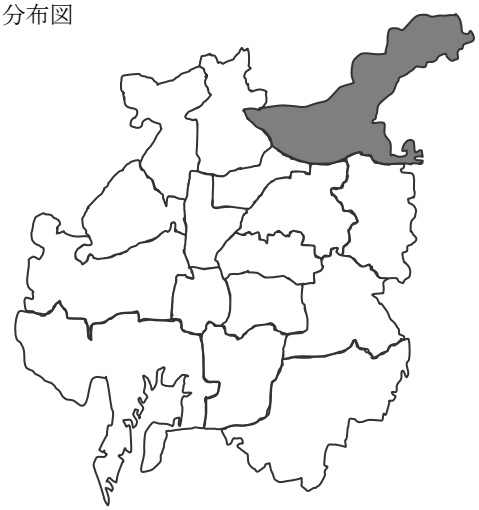
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、済州島など。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

本来は山地から亜高山にかけての林縁などに多い樹木で、愛知県の低山地を特徴づける温帯性植物の一例である。愛知県では二次林内に散在していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である東谷山に少数株が生育しているにすぎない。

【保全上の留意点】

東谷山では、鳥獣の保護と称してその餌となる植物を植栽する動きがあり、本来の自然状態に対する大きな脅威になっている。自然の中に、本来その場所に生育していない種を植栽してはならないことはここで改めて指摘するまでもないが、その場所に生育している種を植栽することも、遺伝的攪乱という点で、ある意味では自然に対してより一層深刻な悪影響を与えるおそれがある。遷移の進行によって食餌植物が減少していると判断されるなら、適宜伐採を行い、後は自然の回復力に任せるべきである。

【特記事項】

ムシカリとも呼ばれる。

【関連文献】

保木Ⅰp.31，平木Ⅱp.229.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　セリ科＞

ノダケ　*Angelica decursiva* (Miq.) Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

多年生草本。茎は直立して暗紫色を帯び、高さ 80～150cm になる。葉は根出または茎上に互生し、下部のものには長い柄があり、葉身は頂羽片と 3～4 対の側羽片からなり、最下羽片はしばしば更に深～全裂する。小葉と裂片は長楕円形または長卵形、裏面は白色を帯び、辺縁には硬い鋭鋸歯があり、基部は翼となって葉軸に流れる。中上部の葉の葉柄は鞘となって袋状にふくらむ。花期は 9～11 月、茎の先端に直径 4～10cm の複散形花序をつけ、花は通常暗紫色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味宮前，鳥居ちゑ子 999, 1995-9-17）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地、丘陵地に点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、東海知多、犬山、小牧、春日井の 5 区画で確認されている。

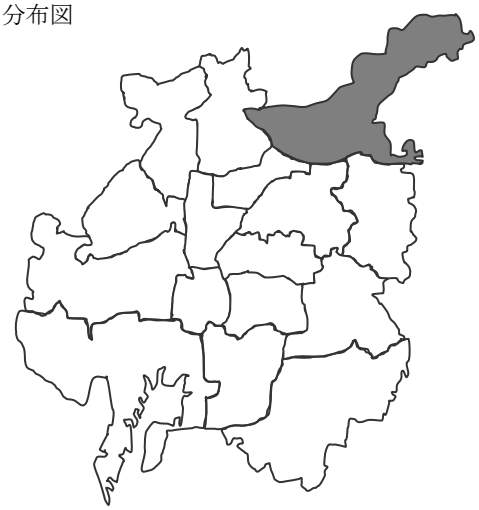
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、ウスリー、中国大陸、インドシナ。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の林内、林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

林縁部に数株生育しているだけで、存続の基盤は脆弱である。草刈りなどのため、年によっては開花しないこともある。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全することが必要である。

【特記事項】

名古屋市内に生育する大型のセリ科植物としては唯一のものである。本属の代表的な種であるシシウド *A. pubescens* Maxim.も、東三河や西三河の山地には普通に見られるが、尾張では確認されていない。

【関連文献】

保草Ⅱp.26，平草Ⅱp.287.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　セリ科＞

ムカゴニンジン　*Sium ninsi* L.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 13. 湿地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

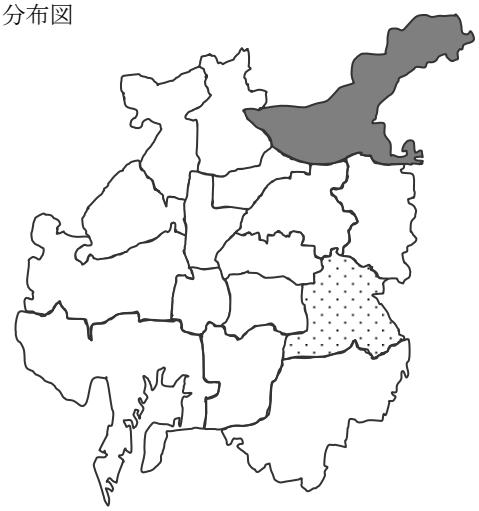
多年生草本。根は数本が太く肥厚する。茎は長さ 100～180cm で、はじめ直立するが後にしばしば倒伏し、上部で分枝し、葉腋にむかごをつける。葉は互生し、下部のものは長さ 4～10cm の柄があり、葉身は奇数羽状複葉、2～3 対の側小葉を持ち、小葉はほとんど無柄、長さ 4～9cm、幅 6～12mm、辺縁に鋭い細鋸歯がある。茎の上部の葉は急激に小さくなる。花期は 8～10 月、花序は直径 2～4cm、花は小さく白色である。果実は球形、長さ約 2mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味穴ケ洞，芹沢 83285, 2008-9-13）に生育している。何ヶ所かにあったらしいが、現存が確認できたのは 1 ヶ所だけである。守山区の他の場所（上志段味東谷山麓, 飯尾俊介 19, 1964-8-22）、天白区？（平針～白土～天白，稲垣貫一 s.n., 1947-8, CBM101184）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育しているが、知多半島では未確認である。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地下部の、やや泥質の場所に生育することが多い。ため池の周辺などにも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

小さいため池のへりに、少数株が生育しいていた。

【保全上の留意点】

生育地の湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。林縁部に生育する植物であるが、あまり被陰されても生育できないため、森林化の防止も必要である。

【特記事項】

同属のヌマゼリ *S. suave* Walter subsp. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara.は、愛知県では豊橋市で 1950 年代に採集された標本があるだけで、現存を確認できない。

【関連文献】

保草Ⅱp.16，平草Ⅱp.283.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　ハナヤスリ科＞

コハナヤスリ　*Ophioglossum thermale* Kom. var. *nipponicum* (Miyabe et Kudô) M.Nishida

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。丈の低い草地に生育する植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

小型の夏緑性のシダ植物。根茎は短く、1～数枚の葉を束生する。栄養葉の葉身は長楕円形～広披針形、長さ 2.5～5cm、幅 0.8～1.5cm、先端は鋭頭、基部は次第に細くなる。胞子葉は栄養葉の葉身基部から分かれて直立し、長さ 6～9cm の柄があり、その先に長さ 1～4cm の胞子のう穂がつく。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ケ根, 村松正雄 24586, 2008-9-21）、昭和区（八事本町興正寺, 渡邉幸子 5249, 2002-10-23）、天白区（天白町八事霊園, 芹沢 76747, 2000-5-27）、緑区（鳴海町笹塚, 渡邉幸子 6826, 2014-7-2）に生育している。

【県内の分布】

平野部～丘陵地に点在するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、一宮西部で確認されている。

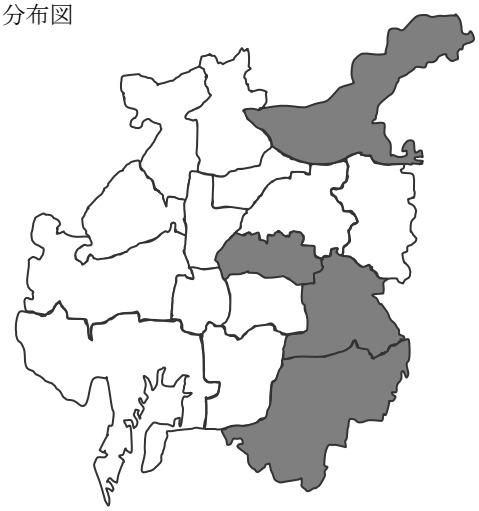
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい、丈の低い草地に生育する。しばしば墓地に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 株生育していただけで、その後の状況は確認されていない。八事霊園には点在するが、墓地の改修により減少している。緑区では公園内の墓地やその周辺に点在している。

【保全上の留意点】

土地が過度に攪乱されれば消滅するが、攪乱が停止され、丈の高い草に覆われても消滅してしまう。公園や墓地を管理し、軽度の攪乱を継続することが必要である。

【特記事項】

基準変種のハマハナヤスリ var. *thermale* と区別しないという見解もある。県内分布の記述は、ハマハナヤスリを含むものである。

【関連文献】

保シダ p.31，平シダ p.63.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　ハナヤスリ科＞

オオハナワラビ　*Sceptridium japonicum* (Prantl) Lyon

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。森林性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

秋から冬にかけて葉を出すシダ植物。冬緑性だが、夏まで葉が残ることが多い。根茎は短く直立し多数の肉質の根を出す。栄養葉は 1 枚で長さ 12～20cm の柄があり、葉身はやや厚い草質、三角状五角形、長さ 10～20cm、幅 15～25cm で 3 回羽状深裂、裂片の辺縁は鋭鋸歯となる。胞子葉は栄養葉の基部から分かれて直立し、柄は長さ 15～35cm、その先に長さ 8～15cm の円錐形の胞子のう穂がつく。胞子は 10～11 月に熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（平針荒池，西川勇夫 372, 1994-9-18）、中区（名古屋城，芹沢 85231, 2009-10-20）に生育している。

【県内の分布】

県内の低山地には点在するが、個体数はそれほど多いものではない。丘陵地では少なく、尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、春日井、あま大治で確認されている。

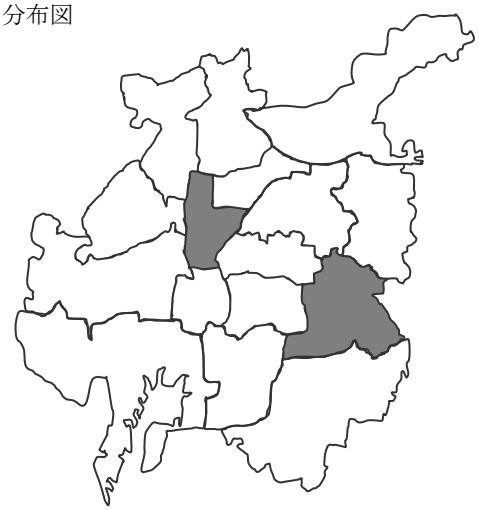
【国内の分布】

本州（東北地方中部以南）、四国、九州。南限は屋久島である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋城には比較的大きい群落がある。天白区ではため池に接した斜面の二次林内に 10 数個体が生育していたが、最近の状況は確認されていない。丘陵地の開発による消滅が懸念される。

【保全上の留意点】

名古屋城の集団は、過度の除草などが行わなければ、そのまま存続すると思われる。

【特記事項】

フユノハナワラビに比べ、葉縁の鋸歯が鋭い。名古屋城の集団では、他に比べ特に葉縁の鋸歯が鋭い個体が見られる。

【関連文献】

保シダ p.28，平シダ p.66.
倉田　悟・中池敏之（編）．1985．日本のシダ植物図鑑 6:292-304．東京大学出版会，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　チャセンシダ科＞

トキワトラノオ　*Asplenium pekinense* Hance

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 3、総点 11。名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

常緑性のシダ植物。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 2～5cm、葉身は広披針形、3 回羽状に切れ込み、長さ 8～15cm、先端は鋭頭、下部の羽片はやや短くなり、しばしば掌状に近い形になる。中部の羽片は狭卵形、葉質は厚く、表面は深緑色でやや光沢がある。胞子のう群は裂片の中肋に沿ってつき、長楕円形、長さ 1.5～2.5mm、半月形の包膜がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，芹沢 78431, 2002-10-26）、中区（名古屋城，村松正雄 22967, 2006-1-21）、昭和区（鶴舞公園，鳥居ちゑ子 2418, 2003-11-18）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、新城、豊橋北部、犬山、春日井に生育しているが、各区画とも生育地点数はわずかである。鳳来北東部にもあったが、石垣の改修により消失した。

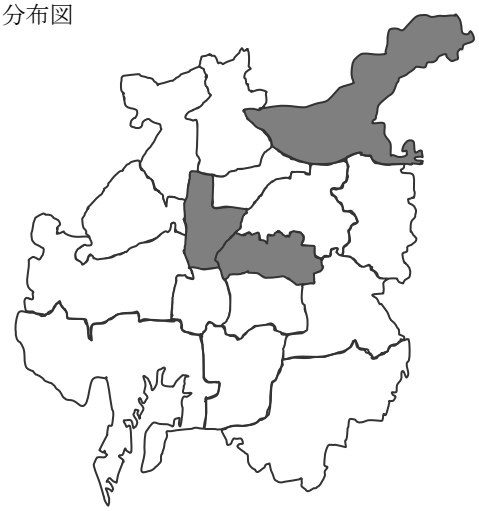
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州（最南部を除く）に生育し、沖縄本島でも採集されたことがある。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、シベリア東部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

本来は石灰岩の岩壁のすそなどに生育する植物と思われるが、現在では石垣に生育していることが多い。名古屋市の生育地も石垣である。

【現在の生育状況／減少の要因】

中区の生育地は名古屋城の石垣で、個体数も比較的多い。昭和区は鶴舞公園内に小群落がある。守山区は民家の古い石垣に小群落があるが、石垣の改修により消失するおそれがある。

【保全上の留意点】

名古屋城の石垣に生育しているものは、過度の除草等が行われなければ、将来も存続すると思われる。

【特記事項】

近縁のコバノヒノキシダ *A. anogrammoides* H.Christ からは、葉身が細く、葉表が深緑色で光沢があることで区別できる。

【関連文献】

保シダ p.151，平シダ p.149，SOS 旧版 p.38，愛知県 p.480.
倉田　悟・中池敏之（編）．1981．日本のシダ植物図鑑 2:124-129．東京大学出版会，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　ウマノスズクサ科＞

スズカカンアオイ *Heterotropa nipponica* (F.Maek.) F.Maek. var. *brachypodion* (F.Maek.) F.Maek.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級1、集団数階級3、生育環境階級3、人為圧階級2、県内分布 2、総点 11。林地に生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

【形　態】

多年生草本。茎は短く、暗紫色で節が多い。葉は長さ 7～20cm の柄があり、葉身は卵形～卵状楕円形、ときに卵形ほこ形、長さ 6～10cm、幅 4～7cm、先端は鋭頭または鈍頭、基部は深い心形、表面は濃緑色で通常不明瞭な白斑がある。花期は 10～2 月、花は地表に接して咲き、がく筒は筒状鐘形で長さ約 1cm、内面は格子状の隆起腺がある。がく裂片は開出し、筒部よりもやや長い。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味宮前，芹沢 86680, 2011-2-10; 吉根階子田，鳥居ちゑ子 2422, 2004-2-12）に生育している。

【県内の分布】

西三河北部と尾張北部に分布する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、小牧、春日井に生育している。渥美半島と知多半島には、がく裂片が短いカントウカンアオイ var. *nipponica* が分布している。

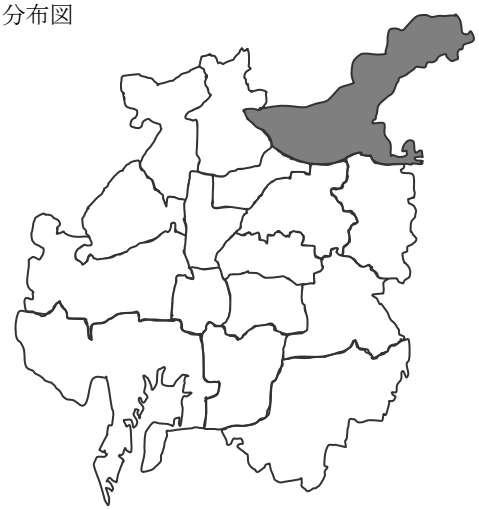
【国内の分布】

本州（静岡県中西部、愛知県、岐阜県、三重県）。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地や丘陵地の林内に生育する。二次林内に生育していることが多いが、造林地にも見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地の開発により、生育できる場所そのものが減少している。園芸目的の採取もある。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全する必要がある。耐陰性のある植物なので、森林化の影響は他の里山の植物ほど深刻ではない。

【特記事項】

丘陵地の代表的な絶滅危惧昆虫であるギフチョウの食草になる。

【関連文献】

保草Ⅱp.323，平草Ⅱp.108.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　クスノキ科＞

カゴノキ　*Litsea coreana* H.Lév.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、県内分布 1、総点 11。暖地の照葉樹林の構成種で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

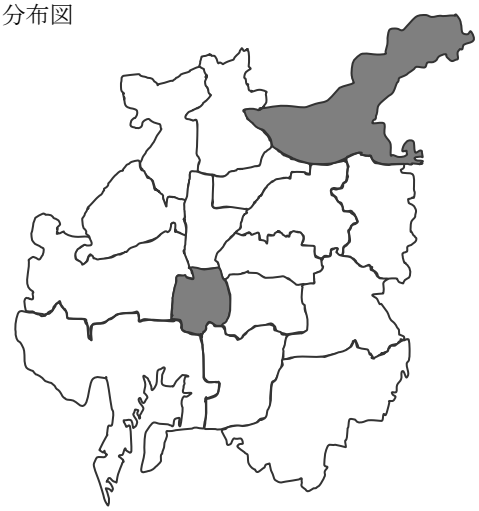
常緑性の高木。高さ 15m に達する。樹皮は淡灰黒色であるが、円くはげ落ち鹿の子模様となる。葉は互生し、長さ 8～15mm の柄があり、葉身は倒披針形または倒卵状長楕円形、長さ 5～9cm、幅 1.5～4cm、薄い革質で裏面は灰白色になる。花期は 9 月。雌雄異株で、枝の下部から上部にかけて無柄の散形花序を 3～4 個つける。花は黄色、果実は倒卵状球形で長さ 7～8mm、開花した翌年の秋に赤色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大村池西側，日比野修 4530, 1998-6-11）、熱田区（高蔵町，高木順夫 3700, 1993-9-18）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

低山地には点在するが、丘陵地には少なく、平野部にはほとんど見られない。標高の高い場所にも生育していない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、常滑、美浜南知多、犬山、江南丹羽、小牧、春日井で記録されている。

【国内の分布】

本州（関東地方および福井県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾。

【生育地の環境／生態的特性】

暖地の照葉樹林の構成種で、しばしば社寺林などに生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 1 株あっただけで、その後確認していない。熱田区では高蔵町高座神社境内に数株生育しており、大きいものは直径 50cm くらいになっている。

【保全上の留意点】

守山区では伐採されないよう注意する必要がある。熱田区のものは現在の管理を継続すれば当面はそれで十分である。

【特記事項】

和名は鹿子の木で、樹皮が鹿の子文様となることに由来する。

【関連文献】

保木Ⅱpp.186-187，平木Ⅰp.123.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　クスノキ科＞

シロダモ　*Neolitsea sericea* (Blume) Koidz.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。暖地性の樹木で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

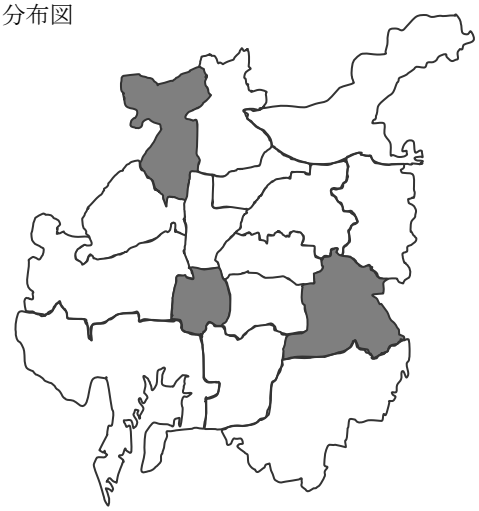
常緑性の高木。高さは 15m に達する。小枝は緑色、無毛である。葉は互生し、長さ 2～3cm の柄があり、葉身は長楕円形または卵状長楕円形、長さ 8～18cm、幅 4～8cm、3 脈が目立ち、裏面は灰白色で多少絹糸がある。花期は 10～11 月。雌雄異株で、葉腋に 1～数個の無柄の散形花序をつける。花被片は長さ約 3.5mm、淡黄色、果実は楕円状球形で、長さ 12～15mm、開花した翌年の秋に赤色に熟す。葉裏に黄褐色の絹毛を密生するものを、キンショクダモ form. *aurata* (Hayata) Kitam. という。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（天白町平針奴女里川，渡邉幸子 3849，1999-5-23，キンショクダモの型）、西区（名塚町庄内川，鳥居ちゑ子 2226，2002-10-19）、熱田区（旗屋断夫山古墳，高木順夫 s.n., 2003-11-1）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、美浜南知多、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、津島愛西などで確認されている。

【国内の分布】

本州（東北地方中部以南）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

暖地照葉樹林の構成種で、沿海部の低山地に多い。種子が鳥によって散布されるため、断片的な社寺林などにも生育していることがある。

【現在の生育状況／減少の要因】

西区では庄内川河川敷の林内に、タブノキなどに混じって若木数株が生育していた。熱田区では白鳥塚古墳などに数株生育しており、大きいものは直径 20cm くらいある。天白区は直径 50cm くらいのものが 2 本生育しており、周辺に幼株が多数見られる。

【保全上の留意点】

熱田区のものは保全緑地内に生育しており、緑地の保全が継続されれば当面は現状のまま存続するものと思われる。天白区のキンショクダモについては、個体レベルでの保全が必要である。

【関連文献】

保木Ⅱp.183，平木Ⅱp.121.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　サトイモ科＞

ウラシマソウ　*Arisaema urashima* H.Hara

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

多年生草本。地下茎はほぼ球状で、上部から多くの根を出し、多数の子球をつける。葉身のある葉は通常 1 個、葉鞘は短く、長さ 3～10cm である。葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 11～17、互いに接近してつき、葉軸はあまり発達しない。小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁、表面は深緑色で光沢がある。花期は 4～5 月、仏焔苞は葉と同時に開き、葉より低い位置につき、筒部は長さ 4～6cm、白色で紫条があり、口辺は狭く開出、舷部は濃紫色で長さ 6～12cm、先端は尾状に伸びる。花序は肉穂状、偽雌雄異株、付属体は下部でふくらみ、平滑、一度曲がって仏焔苞の外に出、再び曲がって直立し、先端は長く伸びて糸状にたれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（大高町大高城址，芹沢 77176, 2001-4-9)、熱田区（熱田神宮，大形　昌 s.n., 1981-4-23）に生育している。他の区にもありそうだが、現在のところ確認されていない。

【県内の分布】

低山地や丘陵地に点在する。尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多に分布しているが、平野部にはない。

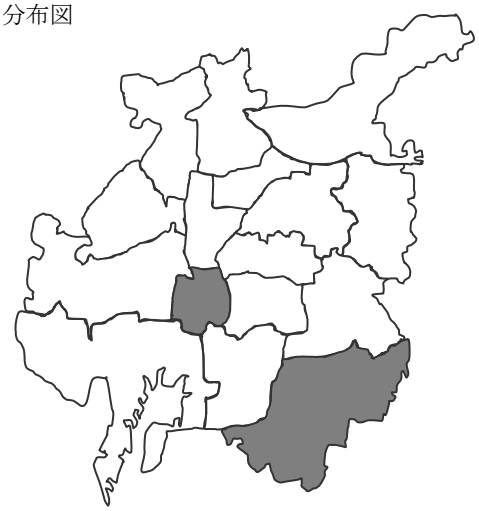
【国内の分布】

北海道南部、本州、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平地や丘陵地の常緑樹林の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

どちらの区でも、僅かに残存した保全緑地に小群落がある。緑地自体は今後も維持されると思われるが、公園整備によって失われるおそれがある。変わった形の植物であるため、園芸目的で採取されるおそれもある。

【保全上の留意点】

生育地が限られているので、公園整備の際に群落を破壊しないよう注意する必要がある。園芸目的の採取に関しては、愛知県全体としては特に希少な植物ではなく、わざわざ盗掘に来る人がいるとは想定しにくい。行きずりの採取が問題で、「自然はみんなのもの、個人の庭に取り込んではいけない」という意識を多くの市民が持つことが重要である。

【特記事項】

和名は、糸状に伸びた付属体先端部を浦島太郎の釣糸と見たからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.200，平草Ⅰp.131.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　トチカガミ科＞

イトトリゲモ　*Najas gracillima* (A.Braun ex Engelm.) Magnus

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。水のきれいなため池や谷戸田に生育する植物で、名古屋市では生育可能な場所が激減している。

【形　態】

1年生の水草。茎は細く、よく分枝し、長さ 10～30cm になるが、折れやすい。葉は各節に 5 個ずつ輪生し、細く線形、長さ 1.2～2cm、幅約 0.2mm、辺縁には細鋸歯がある。葉の基部は葉鞘となり、葉鞘の先端は切形となる。花期は 6～9 月、雌雄同株で、各節に 1 個の雄花と 2 個の雌花がつく。果実は各節に 2 個並んでつき、それぞれ 1 個の種子がある。種子は長楕円形で長さ約 2mm、幅約 0.5mm、表面に縦に長い格子模様がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流付近，村松正雄 26185, 2011-10-2; 下志段味長廻間，村松正雄 18557, 1999-7-21）、天白区（久方一丁目，渡邉幸子 3572, 1998-8-4）に生育していた。注意して探索すれば、他の区でも確認できると思われる。

【県内の分布】

名古屋市のほか、設楽西部、鳳来南部、新城、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原、田原西部、足助、小原、藤岡、豊田東部、岡崎北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井の 18 区画で確認されている。今後、他のいくつかの区画でも確認されるものと思われる。

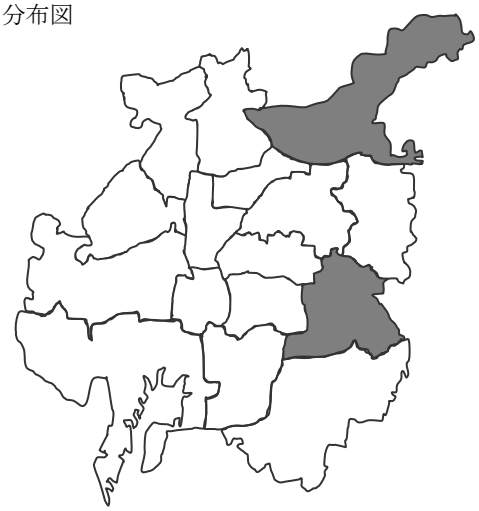
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジアに分布し、イタリアで野生化している。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

貧栄養のため池や水田などに生育する沈水植物。愛知県ではあちこちに点在しており、時には小さなため池にたくさん生育していることもある。過去の分布情報が不十分なため、増減の傾向はよくわからないが、ごく近年に限れば強力な除草剤が使用されなくなったためか、多少増加傾向にあるように思われる。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、吉根志段味プール下の調整池と下志段味の湧水がたまった場所に、多量に生育していた。天白区では、久方中学校敷地内の湧水が流れ込む側溝中に、ごく少量が生育していた。いずれもごく最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

多量に生育している場所でも、突然消失することがある。水質の維持が必要である。

【特記事項】

日本産トリゲモ類の中では最も繊細で、そのためイトトリゲモと呼ばれる。環境省のレッドリストでは準絶滅危惧と評価されているが、愛知県全体としては当面絶滅が危惧される状態ではない。

【関連文献】

保草Ⅲpp.408-409，平草Ⅰp.18，SOS 新版 p.126，愛知県 p.645.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.53．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.99．文一総合出版，東京.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ヒガンバナ科＞

ヤマラッキョウ　*Allium thunbergii* G.Don

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。湿性の草地に生育する植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形　態】

多年生草本。鱗茎は狭卵形、長さ 2～3cm、古い葉鞘が分解してできた繊維でおおわれる。花茎は高さ 45～80cm、葉はその下部に 3～5 個つき、細い三角柱状、葉鞘部を除いて長さ 30～60cm、幅 2～4mm である。花期は 10～11 月、花茎の先端に球形で直径 3.5～5cm の散形花序をつける。花被片は 6 枚で紅紫色、楕円形で長さ 4～5mm、雄ずいは花被片より長い。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 547, 1993-10-9）、緑区（鳴海町笹塚，中島ひろみ 364, 1993-10-20）で採集された標本がある。千種区、天白区でも見ているが、標本はない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地、丘陵地には比較的多いが、尾張では少なく、名古屋市のほかは豊明東郷、東海知多、半田武豊、美浜南知多で確認されているだけである。

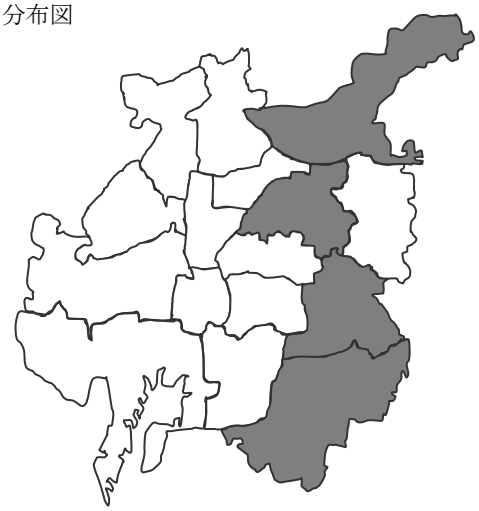
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の湿った草地に生育する。愛知県では湧水湿地周辺に多いが、そうでない場所にも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

ところどころに生育しているが、どの場所でも個体数は少ない。

【保全上の留意点】

里草地の保全が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.125，平草Ⅰp.36.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イグサ科＞

ヒメコウガイゼキショウ　*Juncus bufonius* L.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。愛知県では出現頻度の少ない植物で、名古屋市でも生育地が少ない。

【形　態】

1 年生草本。茎は束生し、細い円筒状、高さ 10～30cm になる。葉は細く扁平で上面に溝があり、鞘部には葉耳がない。花期は6～9 月、茎の先端にまばらな集散花序をつけ、最下の苞は葉状で花序よりはるかに短い。花は長さ 5～6mm、花被片は 6 枚、披針形、外片は長さ 4～5mm、内片はやや短く、先端は鋭尖頭、中肋部分は淡緑色で、辺縁部は広く白い膜質となる。蒴果は長楕円形で、褐色で光沢があり、3 室がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（同明町天白川緑地, 渡邉幸子 6814, 2014-5-6）に生育している。緑区（大高町水主ケ池付近, 芹沢 77453, 2001-6-23）にも生育していた。守山区上志段味の庄内川対岸（春日井市）には大きな群落がある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、蒲郡、豊橋南部、田原東部、田原西部、豊田北西部、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、常滑、美浜南知多、春日井、稲沢、海部南部で確認されている。

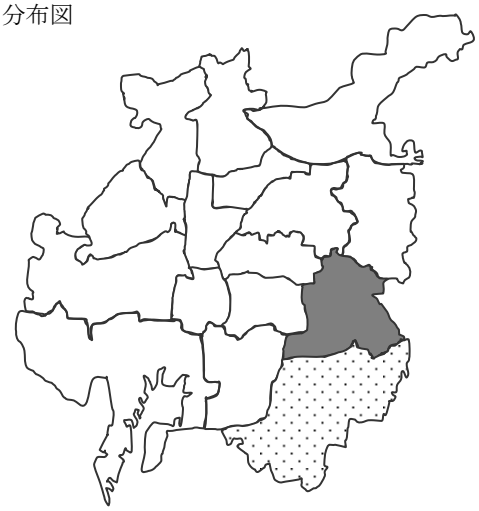
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

全世界の暖～温帯に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湿った砂地、畑地、路傍、休耕田などに生育する。どうと言うことのない場所に生育するが、それでいて出現頻度の少ない植物である。ただし西尾市南部では、春の麦畑の雑草になっている。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では 2m×1m ほどの範囲に群生していた。緑区では湧水のある攪乱跡地に小群落があったが、その後確認できない。

【保全上の留意点】

不安定な立地に生育することが多い植物なので、現実問題として保全は難しい。しかし注意して探索すれば、他の場所でも確認される可能性は高い。

【特記事項】

比較的小型で目立たず、しかもどこにあるか予想がつきにくい植物なので、調査の際には特に注意が必要である。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、新しい自生地が発見され、評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp.162，平草Ⅰp.67.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

ショウジョウスゲ　*Carex blepharicarpa* Franch.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。一般的には山地性の植物で、愛知県では丘陵地に比較的多いが、名古屋市では生育地が限られている。

【形　態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 10～50cm、3 稜があり、基部の葉鞘は褐色で、後に繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2～4mm である。果期は 4～5 月、小穂は 2～5 個、互いにやや離れてつき、頂小穂は雄性で棍棒状、長さ 1～3cm、黄褐色、側小穂は雌性で長楕円形、長さ 1～3cm、最下のものには長い柄がある。苞は鞘状で、短い葉身がある。果胞は紡錘形、長さ 4～6mm、脈は目立たず有毛、先端は短い嘴になり、鱗片は広倒卵形、赤褐色である。雌花の柱頭は 3 個である。河岸型は果胞の嘴が長い。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味穴ケ洞, 鳥居ちゑ子 2290, 2003-5-1）、名東区（猪高町上社, 半田多美子 3296, 2002-4-19）に生育している。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、春日井に生育している。

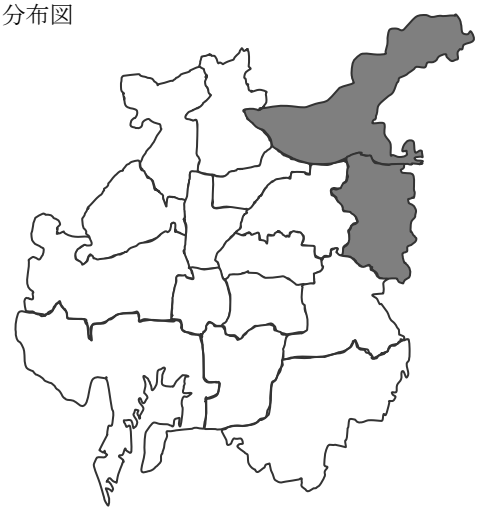
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

一般的には山地から高山にかけての草地に生育するが、愛知県では丘陵地の草地に多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

2 ヶ所で確認されているだけだが、注意して探索すれば他の場所でも発見される可能性がある。

【保全上の留意点】

丘陵地のやせ山的環境を保全することが必要である。

【特記事項】

2004 年版ではツクバスゲ *Carex hirtifructus* Kük.とあわせて評価・記述されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.265，平草Ⅰpp.160-161.
吉川純幹．1957．日本スゲ属植物図譜 1:92-93．北陸植物の会，金沢．
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.274．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　カヤツリグサ科＞

シオクグ　*Carex scabrifolia* Steud.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危類
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。塩湿地に生育する植物で、名古屋市では生育できる場所が限られている。

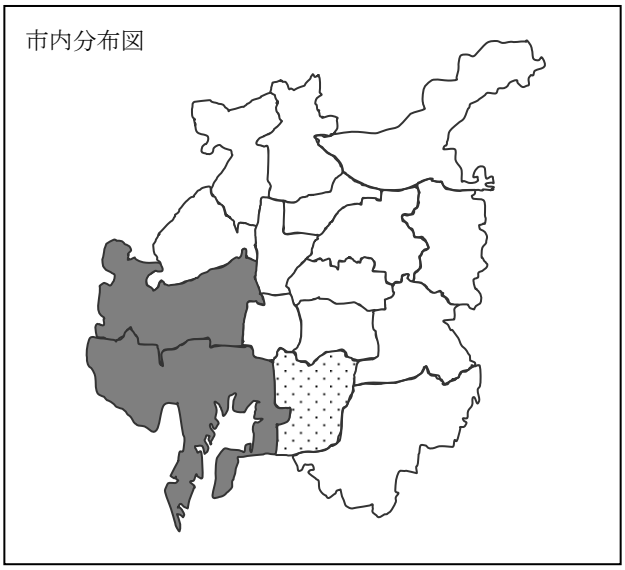
【形　態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、株にならない。茎は高さ 30～50cm、上部はざらつき、基部の鞘は葉身がなく、一部が暗赤紫色となり、糸網を生じる。花期は 6～7 月、小穂は 3～4 個で、そのうち上部の 2～4 個は雄性、線形、長さ 2～4cm、下部の 1～2 個は上部のものから離れてつき、雌性で長楕円形、長さ 1～2cm、鱗片はさび色で先はとがる。果胞は長楕円形、長さ 6～8mm、無毛、嘴は太く短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【市内の分布】

中川区（下之一色町，渡邉幸子 4654, 2001-5-6, NBC958）、港区（当知町庄内川河川敷，芹沢 77256, 2001-5-6）に生育している。南区加福町にも生育していたが、ここでは絶滅し、標本も残されていない。



【県内の分布】

三河湾沿岸には広く分布しているが、伊勢湾側では塩湿地性植物の生育できそうな場所自体が少なくなっており、本種もどこにでもあるというわけではない。尾張では名古屋市のほか、大府東浦、半田武豊、美浜南知多、海部南部で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

河口部などの塩湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川河口部では、個体数も比較的多く、現在のところは生育状態も良好である。南区加福町では貯木場跡地に生育していたが、一般廃棄物最終処分場建設のため埋め立てられて絶滅した。

【保全上の留意点】

庄内川河口部のヨシ原は名古屋市に残された貴重な自然であり、特に注意して保全していく必要がある。

【特記事項】

生育の悪い群落では、雌小穂をほとんどつけないことがある。調査の際には注意を要する。

【関連文献】

保草Ⅲp.298，平草Ⅰp.151.
吉川純幹．1958．日本スゲ属植物図譜 2:266-267．北陸植物の会，金沢．
勝山輝男．2005．ネイチャーガイド　日本のスゲ p.345．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

ヒメコヌカグサ　*Agrostis valvata* Steud.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。愛知県の丘陵地ではやや普通に見られる植物であるが、名古屋市に限れば生育できる場所が激減している。

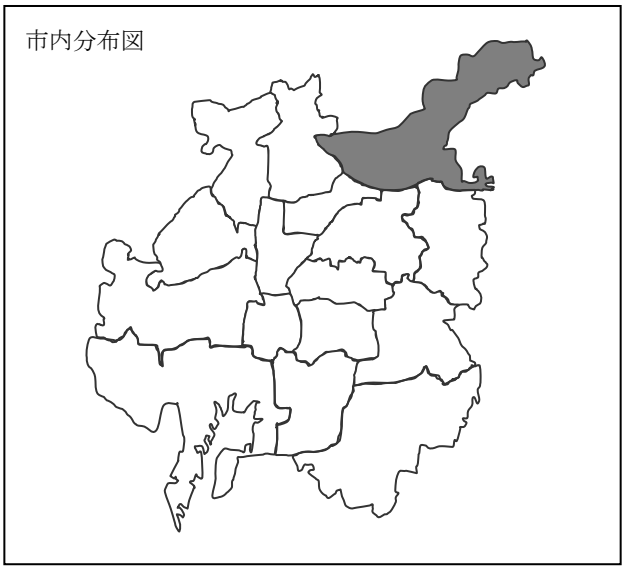
【形　態】

繊細な多年生草本。小さい株になることが多い。稈は高さ 40～70cm、鮮緑色で平滑、葉は互生し、線形で柔らかく、長さ 7～15cm、幅 3～5mm、葉舌は長さ 1～3mm である。花期は 5～6 月、円錐花序は長さ 10～15cm、枝は斜めに開出し、まばらに小穂をつける。小穂は長さ 2.5～3mm、淡緑色でときに少し紫色をおびる。苞穎は広披針形で内折し、鋭頭で 1 脈がある。小花は 1 個、淡色、苞穎と同長か、それより少し長い。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ケ根，芹沢 77325, 2001-5-20; 大森八竜，鳥居ちゑ子 1754, 2000-5-21）に生育している。



【県内の分布】

名古屋市のほか、設楽西部、鳳来北西部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、稲武、足助、下山、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の湧水湿地周辺の、林内や林縁に生育している。沢沿いの林道わきや、谷戸田周辺の湿った里草地に生育していることもある。全国的には減少傾向の著しい植物であるが、愛知県の丘陵地ではむしろ普通種である。

【現在の生育状況／減少の要因】

大森、吉根、上志段味などの丘陵地にあるが、開発圧が高いため、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

全国で準絶滅危惧という評価は、愛知県とその周辺に多いことに影響されていると思われる。そのため名古屋市においても、それなりに保全上の配慮を要する。全国的な状況を知らない人からは、サクラバハンノキと同様「こんなものまで保全していたらきりがない」という意見が出てきそうだが、裏を返せば、名古屋市やその周辺の丘陵地の自然はかくも貴重だということである。

【特記事項】

ヤマヌカボに似ているが、小穂が花序の枝全体につき、小花が苞穎と同長か、それより少し長いことで区別できる。小穂が紫色を帯びるものは、緑色のものに比べ、全体にややしっかりした形をしている。

【関連文献】

保草Ⅲp.352，平草Ⅰp.125，SOS 旧版 p.99，愛知県 p.646.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.308-309．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

アシカキ　*Leersia japonica* Makino

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。以前はやっかいな水田雑草であったが、減少傾向が著しい。

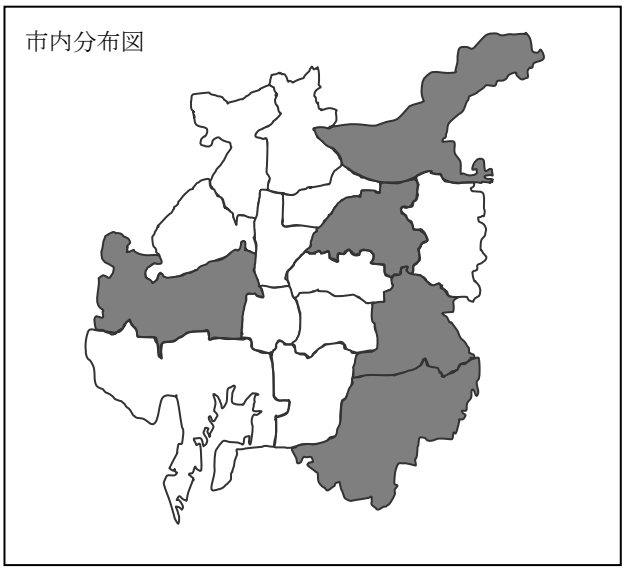
【形　態】

多年生草本。稈は長く匍匐し、節から根を出し、先端は立ち上がって高さ 30～45cm になる。節には下向きの剛毛が密生する。葉身は長さ 7～15cm、幅 5～10mm になる。花期は 8～10 月、花序は直立して長さ 6～12cm、花序の枝は 7～10 本で斜上し、長さ 2.5～6cm になり、6～12 個の小穂をつける。小穂は扁平で枝に密着し、長さ 5～6mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根平池，鳥居ちゑ子 2665, 2008-10-27, 花なし)、千種区（田代町東山新池, 飯尾俊介 s.n., 2009-8-23, NBC297)、天白区（天白町島田大根池，高木順夫 20491, 2011-10-27, NBC6 など)、緑区（大高町下瀬木, 渡邉幸子 475, 1992-8-9)、中川区(水里, 高木順夫 324, 1992-8-20）に生育している。



【県内の分布】

平野部や丘陵地に分布しているが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか長久手日進、江南丹羽、春日井、一宮西部の 4 区画で記録されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸や水田の畔などの水湿地に生育する。よく繁茂するが、開花しない集団が多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

耕地整理とそれに伴う乾田化により減少した。似た環境に生育する帰化植物のキシュウスズメノヒエにも圧迫されている。

【保全上の留意点】

平野部の湿田や未整理耕地は、従来の行政の中では重点的な「退治目標」であった。しかしここまで少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。

【特記事項】

和名は足掻きで、ざらついた茎葉が農作業中の人の足を傷つけるからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.342，平草Ⅰp.109.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.82-83．平凡社，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

スズメノコビエ　*Paspalum scrobiculatum* L. var. *orbiculare* (G.Forst.) Hack.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。ため池の周辺などに生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

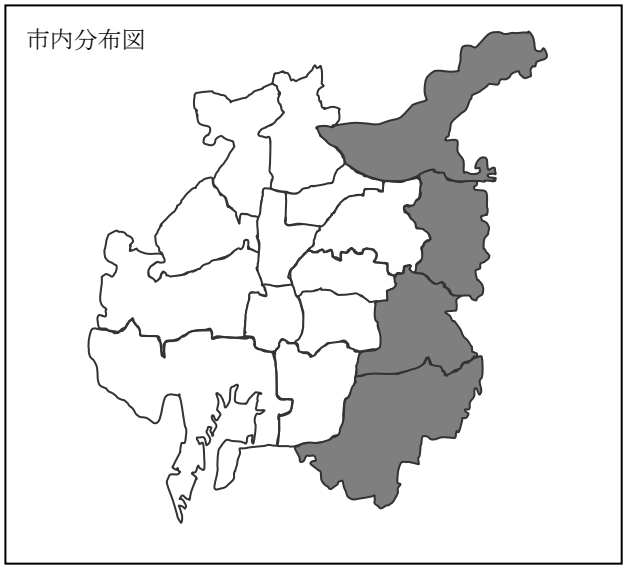
【形　態】

多年生草本。稈は束生してほぼ直立し、高さ 60～130cm になる。葉は稈の基部に 2 列に並んでつき、少数の茎葉もつき、葉鞘は口部に毛があるほかは無毛、通常赤褐色を帯びる。葉身は線形、長さ 15～50cm、幅 4～8mm である。花期は 9～10 月、花序の枝は 3～6 本で長さ 2.5～6cm、2～3 列に小穂をつける。小穂は楕円形～倒卵形、長さ 2～2.5mm、無毛である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味安田池，芹沢 86526, 2010-10-17）、名東区（猪高緑地，芹沢 88041, 2012-10-8）、天白区（海老山町，芹沢 77726, 2001-10-13）、緑区（鳴海町神の倉，渡邉幸子 4937, 2001-10-13, NBC1005）に生育している。



【県内の分布】

尾張には点在しており、名古屋市のほか長久手日進、豊明東郷、半田武豊、犬山、春日井、一宮東部、一宮西部の 7 区画で記録されているが、東三河、西三河では少ない。

【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

旧世界の熱帯、亜熱帯に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

愛知県ではため池の岸のやや裸地状の場所に多いが、河川敷や湧水湿地の周辺部にも見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かで見ているが、それほど多いものではない。ため池の富栄養化に伴う大形草本の繁茂、あるいは開発等によるため池そのものの消失により減少している。

【保全上の留意点】

ため池を維持し、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

スズメノヒエからは、全体的に直立し、葉がほとんど無毛、小穂がやや小さいことで区別できる。

【関連文献】

保草Ⅲp.374，平草Ⅰp.98.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.594-595．平凡社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　イネ科＞

ウキシバ　*Pseudoraphis ukishiba* Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。ため池などの水中や水辺に生育する植物で、名古屋市では生育できる環境が急激に減少している。

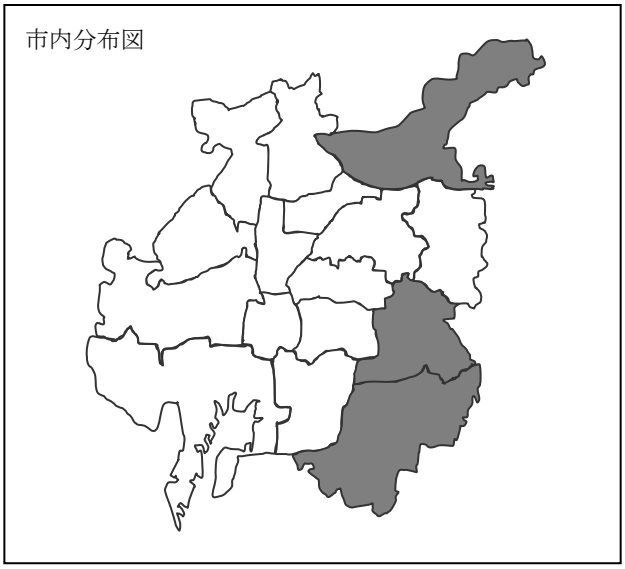
【形　態】

多年生で浮葉性の水草。稈は束生し、水中を伸びて長さ 1m に達し、枝は斜上して水面に葉を浮かべる。葉は互生し、葉身は線形、長さ 3～5cm、幅 2～4mm、粉緑色をおび、無毛、葉鞘は葉身とほぼ同長で、小さい葉舌がある。花期は 8～9 月、花序は長さ 3～6cm、総状、基部は葉鞘の中にあって多数の枝を出し、その枝が中軸に沿って立つため、見かけ上長楕円形となり、開花時には水上に出るが、花後水中に沈む。小穂は各枝に 1 個つき、披針形で長さ 4～5mm、枝に圧着し、雄性第 1 小花と雌性の第 2 小花からなり、小穂の先の枝は芒状となるが、小花自体は無芒である。陸生型は茎が短く、小さいマット状になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大村池、芹沢 88984, 2013-10-5; 下志段味穴が洞, 鳥居ちゑ子 693, 1994-8-28）、天白区（天白町平針荒池, 渡邉幸子 4854, 2001-9-8, NBC989）、緑区（鳴海町笹塚, 渡邉幸子 1923, 1994-10-9）に生育している。



【県内の分布】

尾張とそれに接した西三河の、平野部に接した浅い丘陵地のため池には比較的多く見られるが、それ以外では極めて稀である。県内では名古屋市のほか、豊川、田原東部、田原西部、豊田北西部、豊田南西部、岡崎南部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、犬山、春日井で確認されている。豊橋北部で採集された標本もある。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

池沼の水中に生育するが、干上がった岸などに生育することもある。生育地は、極めてというほどではなくてもそれなりに水のきれいなため池に限られている。

【現在の生育状況／減少の要因】

まだいくつかのため池に生育しているが、開発圧力の高い地域であるだけに、ため池の埋立や改修、水の汚れなどにより、生育できる場所は急激に減少している。特に、浮葉型は見る機会が減少している。

【保全上の留意点】

ため池を維持し、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

イネ科には湿地性のものは多いが、水草になるものは少ない。

【関連文献】

保草Ⅲp.370，平草Ⅰp.101，SOS 旧版 p.100，SOS 新版 p.118，愛知県 p.608.
長田武正．1989．日本イネ科植物図譜 pp.634-635．平凡社，東京．
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.68．文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　マンサク科＞

マンサク　*Hamamelis japonica* Sieb. et Zucc.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。山地～丘陵地に多い樹木であったが、名古屋市を含む愛知県全域で、原因不明の病害により激減している。

【形　態】

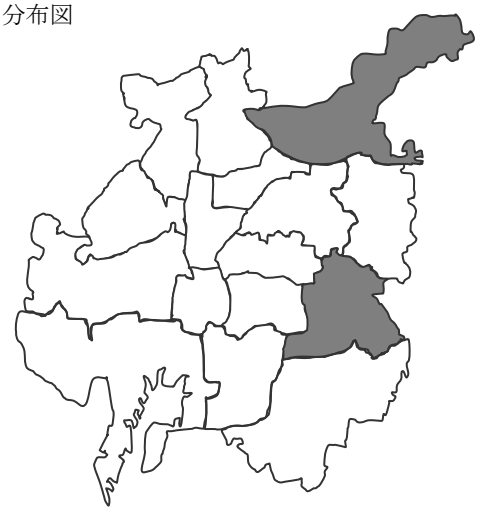
落葉性の亜高木または高木。高さ 5～10m になる。葉は互生し、長さ 5～15mm の柄があり、葉身はひし形状円形、倒卵円形または倒卵状楕円形、長さ 5～10cm、幅 3.5～7cm、先端は鈍頭のものから短く尾状に尖るものまで変異があり、基部はゆがんだ浅い心形、両面に星状毛が散生し、側脈は 6～7 本で平行に斜上し、波状の鋸歯がある。花期は 3～4 月、早春葉が展開する前に咲き、花弁は黄色、線形で長さ 10～13mm である。果実は楕円形、長さ 10～13mm、種子は黒色で光沢がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ケ根，芹沢 88396, 2013-5-15 など)、天白区（高島，渡邊 5122, 2002-6-20, NBC1020）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

県内の山地～丘陵地には普通に見られ、少し前までは早春の山が黄色になるくらい群生している場所も少なくなかった。尾張では瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、小牧、春日井に生育しているが、平野部にはなく、知多半島でも確認されていない。

【国内の分布】

本州（関東地方以西)、四国、九州に分布する。北海道南西部から本州日本海側にかけては、変種のマルバマンサク var. *obtusata* Matsum.が分布している。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の二次林の構成種である。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区に 2 ヶ所小群落があるほか、天白区の島田緑地にも数株が生育している。もともとはあちこちに生育していたが、丘陵地の開発により、現在の状態に至ったものと思われる。しかし近年に限れば、病害による枯死が減少の主要因である。芹沢 88396 はあたりに成木が見当たらず、やむを得ず幼木の枝を採取したものである。

【保全上の留意点】

何はともあれ、病害の原因を解明する必要がある。

【特記事項】

和名は、春早く「まず咲く」からだとも言われるし、枝いっぱいに花をつけるからだとも言われる。本種が減少した結果、本種を食樹とするウラクロシジミも減少している。

【関連文献】

保木Ⅱp.133，平木Ⅰp.155.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　バラ科＞

ワタゲカマツカ　*Pourthiaea villosa* (Thunb.) Decne.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 11。愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つである。

【形　態】

落葉性の低木。高さは 4m 程になる。若枝はカマツカより太い。葉は互生し、長さ 2～6mm の柄があり、葉身は倒卵形～長倒卵形、長さ 5～10cm、幅 2～5cm、先端は鋭頭または円頭で短く尖り、基部はくさび形、厚い洋紙質、辺縁に細かくやや鋭い鋸歯がある。葉柄、葉の両面、花序、がくの外面などに白色の綿毛が密生またはやや密生する。花期は 5 月、枝先に一部複生する散房花序をつけ、花は直径 1cm くらい、花弁は 5 枚で白色である。果実は楕円形で長さ 6～8mm、赤熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（小幡北山，太田由美子 91, 1993-5-13）、千種区（田代町平和公園，広部栄 266, 1994-5-8）、天白区（天白町山田，渡邉幸子 5380, 2003-6-14）、緑区（鳴海町諸ノ木，渡邉幸子 3353, 1998-5-3）に生育している。

【県内の分布】

丘陵地に点在しており、名古屋市のほか、田原東部、田原西部、藤岡、豊田北西部、みよし、岡崎北部、岡崎南部、幸田、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

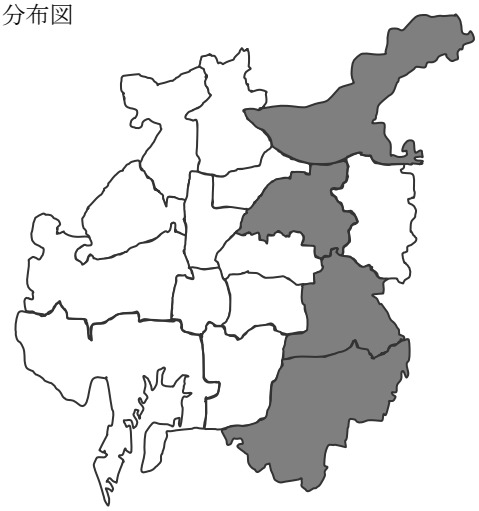
【国内の分布】

不明。カマツカの毛の多い型は、北海道、本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

カマツカの毛の多い型は、日本および朝鮮半島に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

やせた丘陵地の林縁などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市内でもまだところどころに生育しているが、丘陵地の開発に伴い、次第に減少している。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地は、点在する湧水湿地以外の場所でも本種やモンゴリナラ、オキアガリネズ、ミカワツツジなど特徴的な樹木が生育しており、また森林の発達が悪いためウンヌケをはじめとする多くの草地性植物が残存している。湿地以外の場所も保全上重要であることを認識する必要がある。

【特記事項】

ここでワタゲカマツカとした植物は、単にカマツカの毛の多い型ではなく、カマツカに比べ枝が太く、葉は厚くて大きく、倒卵形になる傾向が著しく、果実も大きいものである。東海地方で観察する限りではやせた丘陵地を特徴づける植物であるが、全国的な分布についてはまだ確認していない。

【関連文献】

保木Ⅱp.26，平木Ⅰp.223.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　イラクサ科＞

コアカソ　*Boehmeria spicata* (Thunb.) Thunb.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

落葉性の半低木。茎の下部は木質化し、高さ 1～2m になる。葉は対生し、長さ 1～5cm の柄があり、葉身は菱状卵形、長さ 3.5～9cm、幅 2.5～5.5cm、基部はくさび形、辺縁には基部近くを除き粗い鋭鋸歯があり、先端は尾状に細く長く伸び、尾状部分は長さ 1～3cm、幅 2～5mm でその基部は多少なりともくびれる。花期は 8～9 月、雌花序は細く、葉腋から出て長さ 6～15cm になる。雄花序はつけない。ただし名古屋市産の標本のうち守山区と天白区のものは普通のコアカソだが緑区のものはややヤブマオに似た形態をしており、葉は卵形、やや質が厚く、基部は広いくさび形～切形、先端尾状部は長さ 1～3cm、幅 4～7mm、基部はくびれない。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（土原一丁目，中島ひろみ 560, 1996-9-5）、緑区（鳴海町滝ノ水緑地，芹沢 89065, 2013-10-16）に生育している。守山区（小幡北山，太田由美子 44, 1992-8-30）で採集された標本もある。

【県内の分布】

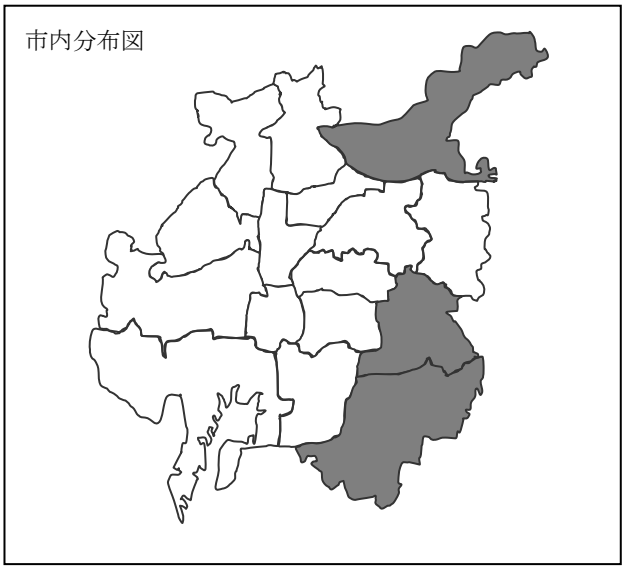
山地ではごく普通に見られる植物であるが、丘陵地では少ない。尾張では、名古屋市のほかは瀬戸尾張旭、犬山、春日井の 3 区画で記録されているだけである。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

通常は沢沿いの林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では、丘陵地の道路わきに 2～3 株生育している。緑区では、緑地周辺部のやや人為的な影響がある場所に数株が生育していた。わざわざ植栽されるような植物とは思えないが、非意図的に移入されたものである可能性は否定しきれない。守山区では最近の状況が確認されていない。

【保全上の留意点】

レッドリストはその地域で絶滅が危惧される生物のリストであって、保全を要する種のリストとは必ずしも一致しない。本種のような、名古屋市では希少でも県全体としてはさほど希少でない植物が、それも人為的な影響のある場所に生育している場合、どの程度保全すべきかは議論が分かれるものと思われる。適切な合意形成が必要である。

【特記事項】

基準変種は 3 倍体で無融合生殖を行うが、変種のコバノコアカソ var. *microphylla* Nakai ex Satake は 2 倍体で有性生殖を行う。コバノコアカソは愛知県の山地では比較的多く生育しているが、名古屋市では知られていない。

【関連文献】

保草Ⅱp.339，平草Ⅱp.9.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　カバノキ科＞

サクラバハンノキ　*Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 11。湧水湿地周辺に生育する植物で、愛知県全体では比較的多いが、名古屋市内ではやや少ない。

【形　態】

落葉性の小高木～高木。大きいものは高さ 20m に達する。樹皮には目玉状の枝の脱落痕がある。葉は互生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は卵状楕円形～長楕円形、長さ 5～9cm、幅 2～5cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁には細鋸歯があり、側脈は 9～12 対あって下面に隆起する。葉は乾くと赤褐色になる。花期は葉が展開する前の 2～3 月、雄花序は尾状で、枝の先端に 4～5 個下垂し、雌花序はその下方に 3～5 個つく。果穂は楕円形、長さ 1.5～2cm、果実は扁平で、長さ 2.5～3.5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味稲堀田新田，鳥居ちゑ子 2459, 2005-7-25 など）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、作手、新城、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、下山、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎南部、幸田、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井で確認されている。県内では生育地も個体数も多いが、作手を除けば三河山地にはなく、平野部にも見られない。知多半島でも現在のところ確認されていない。

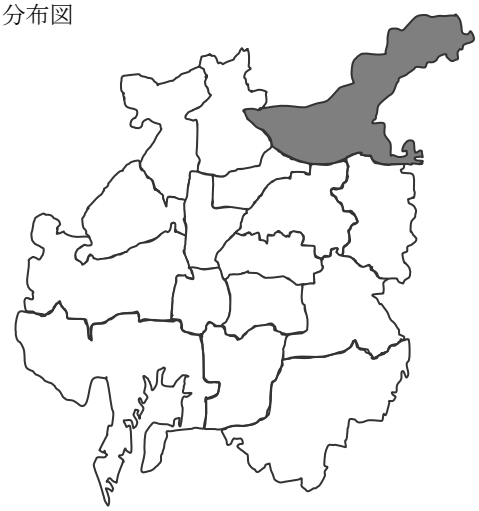
【国内の分布】

本州（茨城県、新潟県以西）および九州（宮城県）。

【世界の分布】

日本、中国大陸南東部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の周辺や、その下流の沢沿いに生育する。沢沿いのものは幹が直立し高木になるが、湿地周辺のものはあまり大きくならないことが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では点在するが、丘陵地の開発により減少している。その一方で開発されていない場所では、森林化の進行により、後継樹が生育できる機会が減少している。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。現実問題としてはなかなか困難であるが、本来ならば崩壊地などができた時には後継樹の生育地を確保するため、そのまま放置しておくことが望ましい。

【特記事項】

全国的に見れば希少な樹木で、国レベルで準絶滅危惧という評価は愛知県やその周辺に多いことに影響されていると思われる。

【関連文献】

保木Ⅱp.287，平木Ⅰp.55，SOS 旧版 p45，SOS 新版 p.110，愛知県 p.626.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　スミレ科＞

ケイリュウタチツボスミレ　*Viola grypoceras* A.Gray var. *ripensis* N.Yamada et M.Okamoto

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。中流域の川岸に生育する植物で、名古屋市では生育可能な場所が局限されている。

【形　態】

多年生草本。茎は束生し、花時に高さ 5～10cm である。葉は根出または茎上に互生し、根出のものには長く、茎の上部のものには短い柄があり、葉身は三角状広卵形、長さ 1～2cm、基部はほぼ切形、表面にやや光沢がある。花後の茎葉は長三角状卵形で鋭尖頭になる。花期は 4 月、花柄は長さ 3～8cm、花弁は 5 枚で、青紫色、長さ 10～13mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味庄内川，日比野修 4392, 1998-4-7）に生育している。

【県内の分布】

豊川、矢作川、庄内川、木曽川に生育している。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と犬山で確認されている。春日井にも生育しているはずである。

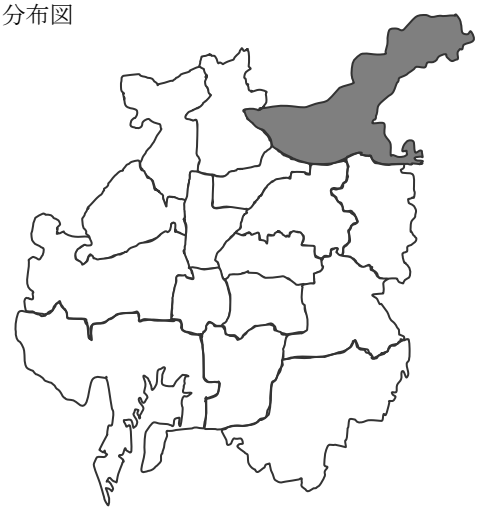
【国内の分布】

本州。

【世界の分布】

日本固有。種としては日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川中流域の、増水時には冠水するような川岸の岩場に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川中流の渓谷部には連続的に生育しており、その末端がわずかに名古屋市に達している。現在のところ特に減少してはいないが、護岸工事等があれば名古屋市からは容易に消滅してしまう。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、他に本種が生育できそうな場所はない。生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

【特記事項】

タチツボスミレの渓岸型の変種で、比較的近年になって認識された植物である。葉形はコタチツボスミレに似ているが、花弁が細い。

【関連文献】

いがりまさし．1996．山渓ハンディ図鑑 6　日本のスミレ p.85．山と渓谷社，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アカバナ科＞

ミズユキノシタ　*Ludwigia ovalis* Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。ため池の周辺などに生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

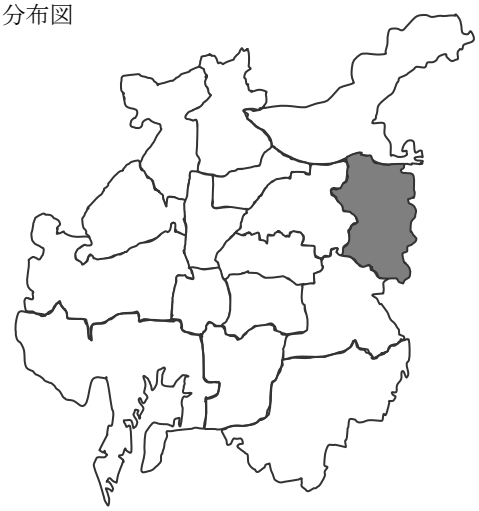
多年生の水草。茎は分枝しながら地をはい、上部は斜上する。葉は互生、短い葉柄があり、葉身は広卵形～楕円状卵形、長さ 1～2.5cm、全縁。しばしば赤みがかる。花期は 6～10 月、直径 4～7mm で目立たない花を葉腋に付ける。花被は淡黄緑色をした三角形の萼裂片 4 個からなり、花弁はない。水中では閉鎖花を付ける。果実は楕円状球形で長さ 3～5mm、萼片が先端に残る。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（牧野ヶ池緑地, 鳥居ちゑ子 2004, 2001-7-30; 猪高緑地, 中村　肇 194, 2012-10-2, NBC1314）に生育している。注意して探索すれば、他の場所でも確認できるものと思われる。

市内分布図



【県内の分布】

丘陵地に点在するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、半田武豊、犬山、春日井で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川、水路、湿原などの水中や湿地に生育する沈水～湿性植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

牧野ヶ池緑地では個体数が多かったが、水質汚濁などにより減少傾向にある。猪高緑地では 2012 年まで僅かに生育が確認されていたが、2013 年以降は確認できない。

【保全上の留意点】

緑地管理を目的とした施肥や除草剤散布だけでなく、野鳥への給餌などによる水質汚濁を防ぐ必要がある。また、ため池改修の際には慎重な配慮が必要である。水際に生える目立たない植物であることから、踏圧による影響も懸念される。

【特記事項】

花弁がないため花が目立たず、何かの芽生えと誤認する可能性もある。調査の際には注意が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱpp.43-44，平草Ⅱp.267.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.132．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.254．文一総合出版，東京.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タデ科＞

サクラタデ　*Persicaria conspicua* (Nakai) Nakai

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。低湿地性の植物で、名古屋市では生育できそうな場所が激減している。

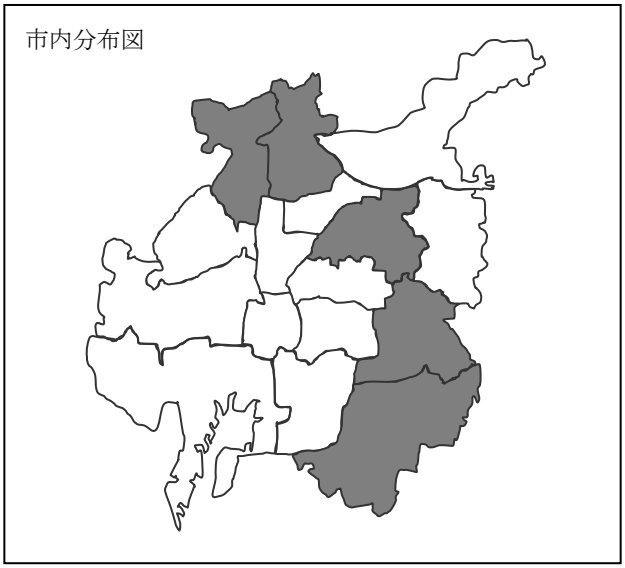
【形　態】

多年生草本。地下に匍匐枝を出す。茎は直立し、多少枝を分け、高さ 50～100cm になる。葉は短い柄があり、葉身は披針形、長さ 7～13cm、両端は鋭形、托葉鞘は短い筒形で、縁には長さが筒部の 1/2～2/3 の剛毛がある。花期は 8～10 月。雌雄異株で、花は総状花序にやや密につき、花被は長さ約 3.5～5mm、淡紅色、5 裂して腺点があり、そう果は 3 稜形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

花のやや小さいヒメサクラタデと呼ばれる型が、千種区（田代町，広部　栄 93, 1992-9-23）、天白区（元八事五丁目，渡邉幸子 5841, 2008-10-2; 天白町平針黒石，中島ひろみ 921, 2013-10-18）、緑区（大高町，渡邉幸子 556, 1992-9-10）、北区（喜惣治大山川沿い，福岡義洋 4303, 1998-10-18）、西区（中小田井庄内緑地，鳥居ちゑ子 2758, 2009-10-17）に生育している。



【県内の分布】

愛知県の平野部には比較的多く見られるが、その多くはヒメサクラタデの型である。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、美浜南知多、江南丹羽、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

【生育地の環境／生態的特性】

低地水辺の湿った草地に生育する。休耕田に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区平針黒石には比較的多いが、他は小群落である。 緑区では大高町の水田のあぜに数株が生育していたが、最近の状況は確認されていない。千種区も最近の状況は不明である。

【保全上の留意点】

平野部の湿田や未整理耕地は、従来の行政の中では重点的な「退治目標」であった。しかしここまで少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。

【特記事項】

和名は桜タデで、同属の他の種に比べ花被が大きく淡紅色であることによる。狭義のサクラタデとヒメサクラタデの関係については、今後更に検討を要する。2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅱp.308，平草Ⅱp.22.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　モウセンゴケ科＞

モウセンゴケ　*Drosera rotundifolia* L.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。代表的な食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が急激に減少している。

【形　態】

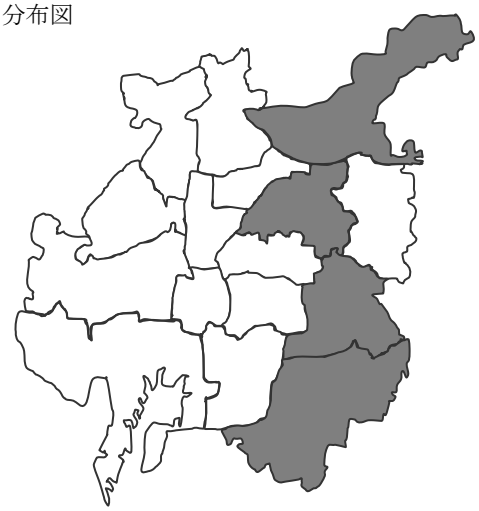
食虫性の多年生草本。葉は根生し、長さ 3～8cm の柄があり、葉身は倒卵状円形、長さ 7～10mm、基部は柄に流れ、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための腺毛がある。花期は 6～8 月、高さ 10～30cm の花茎の上部に総状花序をつけ、花序の先端は渦巻き状に巻く。花は 5～20 個が花序の片側につき、花弁は長さ 4～6mm、通常白色であるが、稀に淡紅色のものもある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷, 鳥居ちゑ子 407, 1993-7-4 など）、千種区（田代町平和公園, 鳥居ちゑ子 2132, 2002-6-12 など）、天白区（土原, 中島ひろみ 134, 1992-6-16）、緑区（大高緑地, 渡邉幸子 5104, 2002-6-8 など）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

愛知県では比較的多い植物で、平野部を除くほぼ全域に分布している。尾張でも名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球の亜寒帯～温帯に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

温帯性の植物で、日当りのよい湧水湿地や、水のきれいなため池の周辺などに生育する。トウカイコモウセンゴケに比べて、より水位の高い場所に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

まだ何ヶ所かに見られるが、丘陵地の開発に伴い、生育できる環境は激減している。湿地の乾燥化によっても、影響を受けやすい。また、湿地に立ち入る観察者が増加するにつれ、踏み荒らしによる影響も大きくなっている。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。森林の伐採は、水収支の回復という点でも重要である。「森林を伐採すると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。その一方で、攪乱防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。自然に親しむ行為は、それ自体が自然に対する負荷となる。

【特記事項】

トウカイコモウセンゴケ *D. tokaiensis* (Komiya et C.Shibata) T.Nakam. et K.Ueda は本種とコモセンゴケの交雑に由来すると推定される 6 倍体種で、市内にはまだ比較的多く残存しており、準固有種であることを考慮しても現状では、準絶滅危惧には該当しない。しかし保全上は、それなりに重要な植物である。

【関連文献】

保草Ⅱp.168, 平草Ⅱp.120.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ナデシコ科＞

カワラナデシコ　*Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。草地性の植物で、名古屋市においては減少傾向が著しい。集団数階級は、すでに3になっているかもしれない。

【形　態】

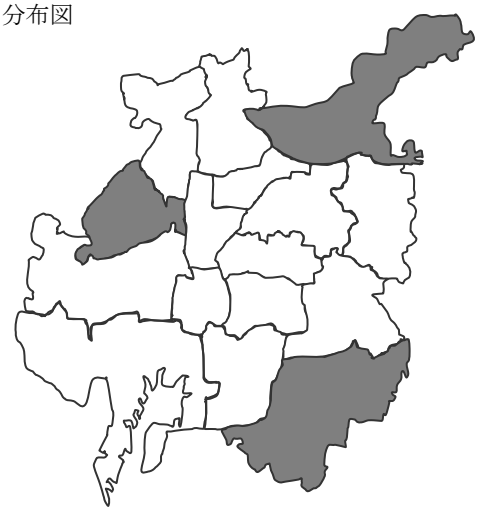
多年生草本。茎は基部で分岐して直立し、高さ 50～80cm、上部でも枝を分ける。葉は対生し、線形～披針形、長さ 3～9cm、粉白色を帯び、基部は茎を抱く。花期は 7～9 月、花は枝先に数個がまばらにつき、苞は 3～4 対、がくは円筒形で、長さ 3～4cm である。花弁は淡紅色、舷部は深裂し、下部に深紅褐色のひげ状の毛がある。種子は円形で扁平、黒色、直径約 2mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味森林公園，芹沢 76848, 2000-7-8）、緑区（鳴海町諸ノ木，岡本沙矢香 406, 2001-7-25）に生育する。中村区（宿跡町，鶴岡佐知子 38, 1992-6-1）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

県内に広く分布し、尾張でも名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、春日井、岩倉西春日井、津島愛西で確認されている。ただし平野部での生育地は、河川堤防などに限られる。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

日当りのよい草地に生育する。里草地の代表的な植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では愛知用水沿いの草地に多かったが、改修により激減した。現在でもまだ多少は残存しているが、個体数の減少に伴い、園芸目的の採取も懸念される状態になっている。中村区（庄内川堤防）では最近の状況が確認されていない。

【保全上の留意点】

定期的な草刈りを継続し、草地状態を維持することが必要である。谷戸田の周辺などに存在していた里草地は、利用の停止とともに遷移が進行しススキなどの大型草本が密生したり陽性低木が侵入したりして、草地性植物が生育できる状況が失われている。遷移の進行自体は自然現象であるが、草地性植物の本来の生育地である風衝草地などがほとんど失われている現状では、適切な人為的管理を継続し、そのような植物の生育地を確保する必要がある。

【特記事項】

秋の七草の一つとして親しまれている野草である。ただし実際には、夏の花である。

【関連文献】

保草Ⅱp.255，平草Ⅱp.41.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ヒユ科＞

ホソバハマアカザ　*Atriplex gmelinii* C.A.Mey

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。塩湿地性の性の植物で、名古屋市では生育地に対する開発圧が高い。

【形　態】

1 年生草本。茎は直立して硬く、枝を分け、高さ 40～70cm になる。葉は長さ 4～12mm の柄があり、葉身は披針形～線状披針形、長さ 5～10cm、質は厚く、辺縁は通常全縁である。花期は 10 月、花は茎や枝の先端部に多数集まってつき、長さ 1.5～6cm の穂状花序をつくる。果時には花序は伸長して長さ 10cm 以上になり、雌花の 2 個の苞は大きくなって胞果を包む。種子は円形、直径 1.2～1.5mm、黒色で光沢がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（野跡庄内川河川敷，芹沢 83586, 2008-10-2）、南区（加福町一丁目，高木順夫 5624, 1997-11-1）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、田原西部、刈谷知立、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多、海部南部などに生育している。

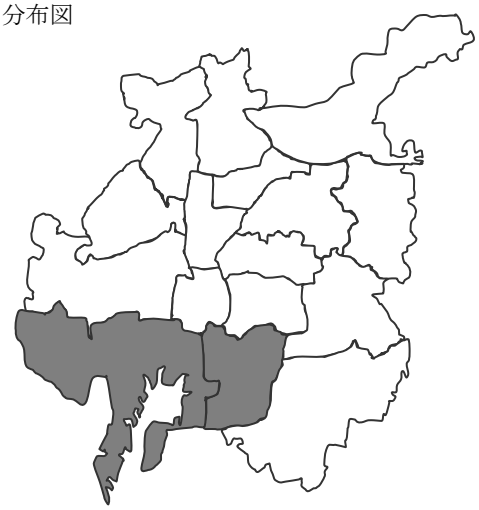
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

アジア東北部。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

塩湿地性の植物であるが、埋立地の浜状の場所、護岸のすき間など、やや自然度の低い場所にも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

港区では庄内川と日光川の河口部に生育している。南区では加福町にある。高木 5624 が採集された貯木場跡地では埋め立てられてなくなったが、周辺部の川沿いに残存している。本種は他の塩湿地性植物に比べれば二次的に形成された場所にも生育するが、名古屋市ではそのような場所さえも減少傾向が著しい。

【保全上の留意点】

内湾部や河口部は開発圧が極めて高く、注意して自然環境を保全する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.291，平草Ⅱp.48.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アジサイ科＞

コアジサイ　*Hydrangea hirta* (Thunb.) Sieb. et Zucc.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

落葉性の小低木。幹はよく分枝し、高さ 1～1.5m になる。葉は対生し、長さ 1.5～4cm の柄があり、葉身は卵形または倒卵形、長さ 5～8.5cm、先端は鋭尖形または短い尾状、基部は円形または広いくさび形、辺縁には大きな鋸歯があり、両面に毛を散生する。花期は6～7月。枝先に直径約 5cm の複散房状の花序をつける。花は両性で、直径約 4mm、淡青色、装飾花はない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，鳥居ちゑ子 905，1995-6-8）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の低山地には普通に見られるが、丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

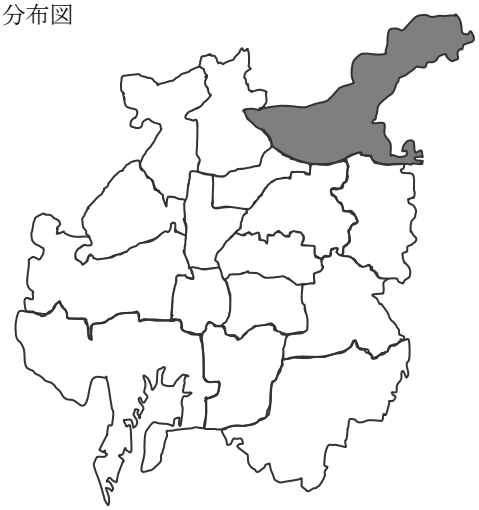
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である東谷山に生育している。個体数はそれほど多くないが、よく開花し、生育状態も良好である。守山区中志段味才井戸流にも少数株が生育していた。この場所では刈り払われたためか見かけなくなったが、まだ多少残存しているかもしれない。

【保全上の留意点】

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全するべきである。

【特記事項】

同属の他種と異なり、装飾花がない。

【関連文献】

保木Ⅱp.117，平木Ⅰp.170.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ハイノキ科＞

クロミノニシゴリ　*Symplocos paniculata* (Thunb.) Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 11。本地域の湧水湿地を特徴づける植物の一つで、市内では次第に減少している。

【形　態】

落葉性の低木。高さ 5m くらいになり、若枝は紫褐色を帯び、2 年枝は灰白色になる。葉は互生し、4～10mm の柄があり、葉身は楕円形～長楕円形、長さ 3～9cm、先端は鋭尖頭から鈍頭まで変異があり、両面ともにほとんど無毛、表面は鮮緑色でやや光沢がある。葉縁の鋸歯は低く、時にはほとんど全縁に見える。花期は 5～6 月。新枝の先の円錐花序に多数の花をつける。花は白色、直径 8～10mm、花冠は 5 裂して平開する。果実は卵球形、長さ 6～7mm、黒熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（森林公園, 芹沢 55323, 1990-5-31; 牛巻竜巻池, 高木順夫 21418, 2012-10-10, NBC699; 大森八竜新池, 広田由紀子 s.n., 2009-5-24, NBC386）、千種区（茶屋ヶ坂公園, 高木順夫 21778, 2013-5-20, NBC708）、名東区（牧野ヶ池緑地, 鳥居ちゑ子 2105, 2002-5-18）、天白区（菅田三丁目, 伊藤晶子 131, 2003-5-16）、緑区（大高緑地公園, 芹沢 89063, 2013-10-16 など）、昭和区（八事本町興正寺, 渡邉幸子 5347, 2003-5-23, NBC1035）に生育している。

【県内の分布】

低山地～丘陵地の湿地に広く分布し、作手村にもある。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

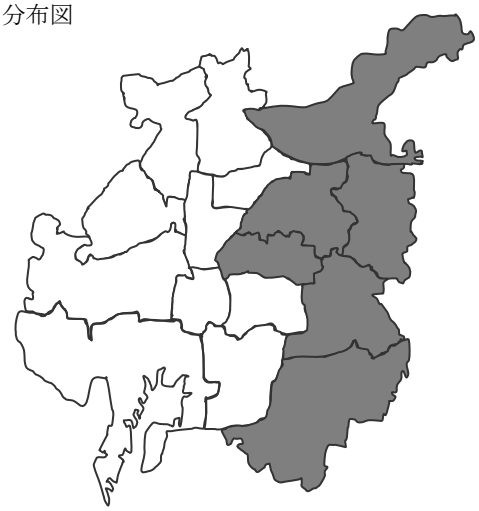
【国内の分布】

本州（中部地方、近畿地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の周辺部や湧水のあるため池の周辺に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市東部の丘陵にはまだ点在しており、個体数も比較的多い。しかし、開発により丘陵地そのものが減少しており、当然のことながら本種も減少傾向にある。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全すること、ため池を維持し、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

サワフタギ *S. chinensis* (Lour.) Druce var. *leucocarpa* (Nakai) Ohwi に似るが、葉縁の鋸歯が低く表面にやや光沢があること、花つきがよいことなどで区別できる。枝いっぱいに白花をつけるため、花時にはよく目立つ植物である。

【関連文献】

保草Ⅰp.96, 平草Ⅲp.171.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ヒルガオ科＞

ネナシカズラ　*Cuscuta japonica* Choisy

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。つる性の寄生植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形　態】

つる性の 1 年生寄生植物。初めは地上に生えるが、寄主に巻きつくと根がなくなる。茎は針金状で太さは約 1.5mm、無毛で、通常紫褐色の斑点がある。葉は鱗片状で、長さ 2mm 程度である。花期は 8～10 月、花はやや穂状に集まってつき、汚白色、花冠は鐘形で、長さ 3.5～4mm、5 裂する。さく果は楕円状卵形で、長さ約 4mm、はじめ花冠をかぶっているが、後に裸出し基部で横裂する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味庄内川堤防, 鳥居ちゑ子 3077, 2012-8-1; 小幡矢田川河川敷、鳥居ちゑ子 3386, 2014-8-30 など）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、江南丹羽、春日井で確認されている。

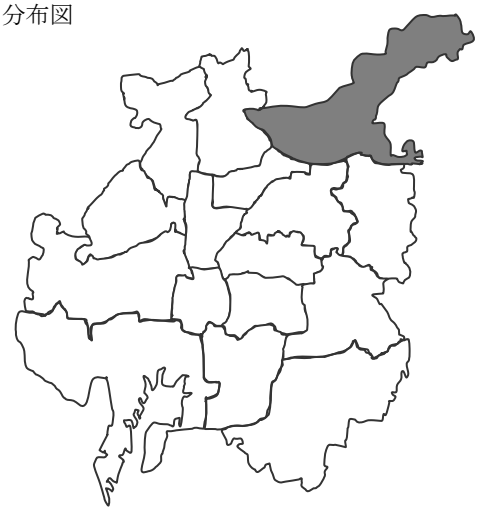
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の日当たりのよい場所に生育し、他の草や低木にからみついて寄生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川、矢田川の河川敷と堤防に生育している。ていねいに探せば他の場所でも確認できるかもしれない。

【保全上の留意点】

本種のような植物については、個別的な保全は困難である。河川敷の自然を全体として保全することが重要である。

【関連文献】

保草Ⅰp.202, 平草Ⅲp.57.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　オオバコ科＞

イヌノフグリ　*Veronica didyma* Ten. var. *lilacina* (H.Hara) T.Yamaz.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。愛知県ではよく探せばあちこちに見られる植物であるが、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

越年生草本。茎は下部で分枝し、地をはって広がり、長さ 10～25cm になる。葉は茎の下部で対生、上部で互生、有柄、葉身は卵円形で長さ幅ともに 4～11mm、辺縁には数対の先の鈍い鋸歯がある。花期は 3～4 月、花は茎の上部の葉腋に 1 個ずつつき、長い柄がある。花冠は淡紅白色で紅紫色の条があり、直径 3～4mm で 4 裂する。果実は蒴果で、中央がくびれ、上部両端は丸く、長さ 2.5～3mm、幅 4～5mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

東区（白壁, 鳥居ちゑ子 2262, 2003-3-28）、昭和区（鶴舞町, 奥村富江 38, 1996-3-20）、熱田区（熱田神宮, 須賀瑛文 10010, 2013-3-25, NBC1193）、中川区（下之一色町庄内川, 芹沢 77250, 2001-5-6）、港区（大江町, 花井隆晃 4515, 2010-3-28）に生育している。千種区（覚王山, 沢井輝男 s.n., 1934-5-13）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊根東部、豊根西武、東栄、稲武、鳳来北東部、鳳来南部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、安城、高浜碧南、西尾南部、瀬戸尾張旭、常滑、美浜南知多で確認されている。

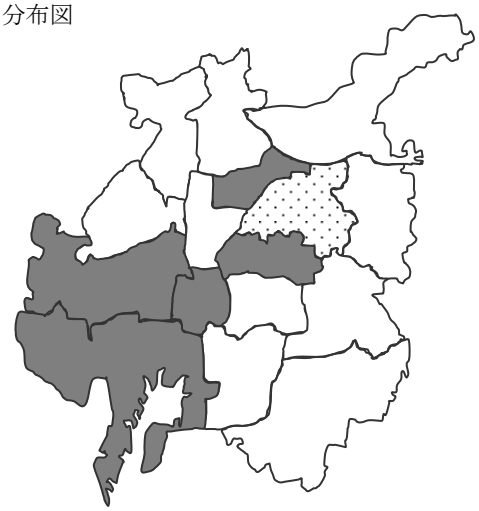
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジアの温帯～暖帯に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

道端や土手などの草地に生育する。一般的に山間部の集落の石垣などに生育していることが多いと認識されているが、愛知県では主として沿海部に点在し、かなり多量に生育している場所もいくつかある。このような例は、調査が進めば全国各地で確認されるのか、それとも愛知県だけの特殊事情か、現時点ではよくわからない。もちろん、あちこちに見られるとはいっても、オオイヌノフグリやタチイヌノフグリに比べればはるかに少ない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

人里に生育している植物なので、土地の造成、石垣の改修など、存続を脅かす要因も多い。東区白壁の自生地は古い住宅地で、2014 年には 10 株ほどが生育していた。

【保全上の留意点】

個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないが、本種が生育し続けることができるようなおちついた住宅環境の保全は是非とも必要なことである。

【特記事項】

植物体はオオイヌノフグリをやや小さくしたような形をしているが、花が小さく、淡紅色である。平野部のものは帰化由来の可能性もあるが、詳細は未検討である。小型の植物であるため、個体数は控え目に見積もってある。

【関連文献】

保草Ⅰp.143，平草Ⅲp.111，愛知県 p.637.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　シソ科＞

イヌゴマ　*Stachys riederi* Cham. var. *intermedia* (Kudô) Kitam.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。やや低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形　態】

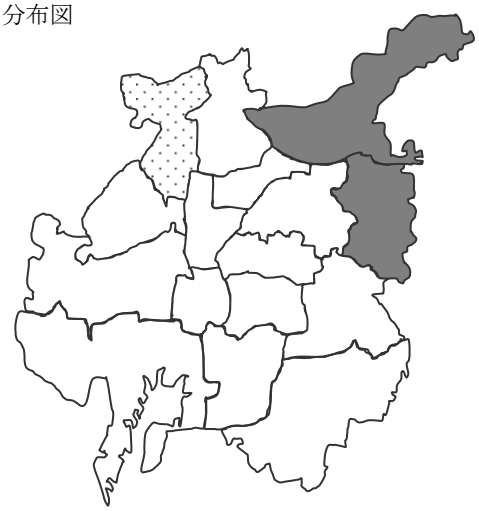
多年生草本。細い地下茎がある。茎は四角形で直立し、高さ 40～70cm、下向きの短い刺がある。葉は対生し、長さ 2～10mm の短い柄があり、葉身は三角状披針形～楕円状披針形、長さ 4～8cm、先端は鈍頭または鋭頭、裏面の中肋にも短い下向きの刺がある。花期は 7～8 月、茎の先端に長さ 3～10cm の穂状の花序をつけ、花冠は淡紅色、長さ 12～15mm、下唇は 3 裂して紅色の細点がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 2341，2003-7-18，エゾイヌゴマ型）、名東区（牧野ヶ池緑地，鳥居ちゑ子 2154，2012-7-23）に生育している。西区（清里町新川，鳥居ちゑ子 1418，1998-7-20）にも生育していたが、その後確認できない。

市内分布図



【県内の分布】

多くはないが平野部から山地まで点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、半田武豊、犬山、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

湿った草地や林縁に生育する。平野部では河川敷などの低湿地に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、上志段味のゴルフ場に接する林縁にやや大きな群落がある。草刈りには耐えて存続しているが、除草剤散布等によって失われるおそれがある。名東区では、ため池の岸に小群落があるが、この場所は池の水の富栄養化により大型の草本が繁茂し、圧迫されて消滅するおそれがある。西区では新地蔵川の河川敷にやや大きな群落があったが、東海豪雨以後確認できない。

【保全上の留意点】

ため池の周辺や河川敷に残存する低湿地的環境を保全することが必要である。

【特記事項】

茎に開出する剛毛があるものをエゾイヌゴマ var. *villosa* (Kudô) H.Hara という。守山区のものはエゾイヌゴマである。

【関連文献】

保草Ⅰp.174，平草Ⅲp.89.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ハマウツボ科＞

ナンバンギセル　*Aeginetia indica* L.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。草地性の寄生植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形　態】

1 年生の寄生植物。茎は黄褐色でごく短く、ほとんど地上に出ず、鱗片状の葉を数枚つける。花期は 8～9 月、長さ 15～30cm の花柄を数本束生し、その先端に 1 個の花を横向きにつける。がくは舟形、長さ 1.5～3cm、先端はやや嘴状に尖り、淡黄褐色で紅紫色の条がある。花冠は紅紫色、長さ 3～5cm、先端は浅く 5 裂し、裂片は全縁である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（城土町, 芹沢 78877, 2003-9-26）、名東区（猪高緑地, 鳥居ちゑ子 2029, 2001-9-17）、天白区（土原一丁目, 中島ひろみ 211, 1992-9-18）に生育している。

【県内の分布】

丘陵地に点在するが、三河山地では少なく、平野部にも少ない。尾張では名古屋市のほか、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、春日井、小牧、一宮西部などで確認されている。

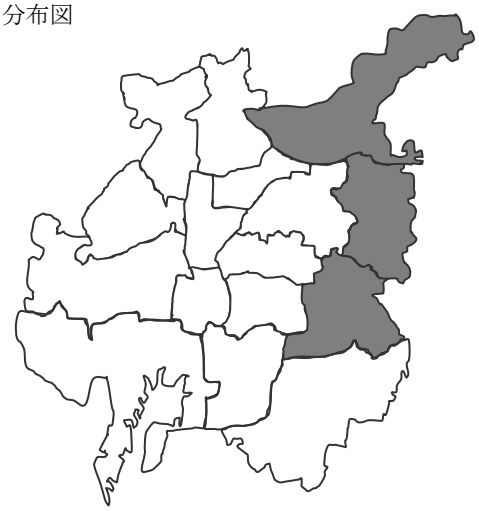
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から東南アジア、インドにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の草地に生育し、ススキなどに寄生する。稀な植物ではないが、ススキ草地ならどこにでもあるというわけでもない。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市内でもまだ何ヶ所かに生育しているが、適度に草刈りが行われるススキ草地の減少に伴い、見る機会が少なくなっている。名東区猪高緑地ではコンゴウダケに寄生しており、多い年には 30～50 本開花するが、不注意な公園整備があれば容易に消滅してしまう。

【保全上の留意点】

里草地の保全が必要である。経済的な必然性がなくなった現在では困難な課題であるが、緑地公園などの中に、小規模でも定期的に草刈りを行う場所を確保していくべきである。

【特記事項】

オモイグサ（思草）とも呼ばれる。万葉集にはこの名で出てくる。

【関連文献】

保草Ⅰp.125, 平草Ⅲp.134.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タヌキモ科＞

イヌタヌキモ　*Utricularia australis* R.Br.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。水生の食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

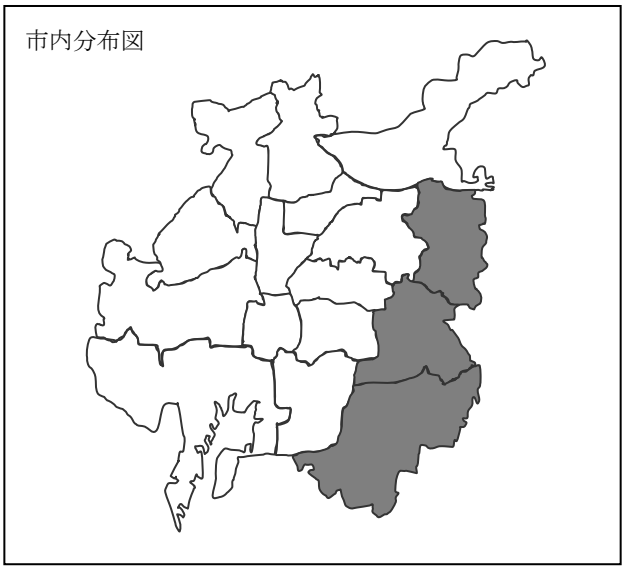
【形　態】

多年生の水草。茎は長さ 1m に達するが、細く、切れやすい。葉は互生し、長さ 1.5～4.5cm、基部で 2 本の枝に分かれ、更に何回か二叉状に分枝し、通常多数の捕虫嚢をつけるが、ほとんどつけないこともある。花期は 7～9 月、花茎は長さ 10～30cm で、水面から出て直立し、しばしば茎より太く、中実、先端に数個の花をつけ、花柄は長さ 0.5～3cm で、花後下向きに曲がる。花弁は黄色で、直径 1.2～1.5cm、距は下唇より短い。殖芽は夏～秋に茎や側枝の先端につき、長楕円形、長さ 4～10mm、暗褐色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（牧野ヶ池, 芹沢 88048, 2012-10-8 など）、天白区（久方戸笠池, 中島ひろみ 917, 2008-10-27）、緑区（鳴海町螺貝戸笠池, 芹沢 88607, 2013-7-20, 実質的に上と同所）に生育している。緑区の他の場所（徳重, 浜島繁隆 s.n., 1968-7-30; 鳴海町滝ノ水, 浜島繁隆 1074, 1968-10-10）で採集された標本もある。



【県内の分布】

愛知県では比較的多い植物で、名古屋市のほか、津具、鳳来北東部、作手、新城、豊川、豊橋南部、足助、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、春日井で確認されている。豊根、設楽西部、豊橋北部、あま大治で採集された標本もある。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

アジア、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパ。

【生育地の環境／生態的特性】

貧栄養～腐植栄養の湖沼やため池、水田やその側溝などに生育する浮遊植物。時に池一面に生育していることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市でも以前は多くのため池に生育していたが、改修や埋立て、水質汚濁などにより減少し、現在の状態に追い込まれたと思われる。現存する場所は保全緑地内にあり、当面開発されるおそれは少なく、個体数も比較的多いが、長期的には水質の汚濁により消滅する危険性もある。

【保全上の留意点】

生育地のため池の水質を維持するとともに、改修の際には慎重な配慮が必要である。観賞用に販売されたタヌキモ類の野生逸出と見られる個体が繁茂していることもあり、標本資料を残していく必要がある。

【特記事項】

タヌキモはイヌタヌキモに比べ花茎が中空、殖芽は大きくほぼ球形で暗緑色であることで区別される（角野, 1994）が、殖芽のない材料では識別が困難であるという。愛知県産の標本は、角野氏に見てもらったところ、すべてイヌタヌキモとのことであった。

【関連文献】

保草Ⅰp.123, 平草Ⅲp.139, 環境庁 p.531, 愛知県 p.604.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.148. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド　日本の水草 p.286. 文一総合出版, 東京.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タヌキモ科＞

ミミカキグサ　*Utricularia bifida* L.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。湧水湿地に生育する食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形　態】

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は細い糸状で、まばらに捕虫嚢をつける。葉は線形、長さは柄を除いて 3～18mm である。花期は通常 8～10 月、花茎は直立し、高さ 5～15cm、上部に 2～7 個の花をつける。花には長さ 1～3mm の柄があり、花冠は黄色、長さは距を除いて 3.5～6mm、距は長さ 2～5mm で斜め後方に伸び、多少下方に曲がる。がくは花時に長さ 3mm、花後には 4～5mm に伸長して二枚貝状の宿存がくとなり、さく果を包む。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゐ子 498, 1993-9-6; 小幡緑地，芹沢 56207，1990-8-8）、名東区（猪高町上社，芹沢 57792, 1990-10-17）、天白区（海老山町，中島ひろみ 813, 2002-8-5 など）、緑区（鳴海町水広下，伊藤昭康 557, 1990-9-25）に生育している。

【県内の分布】

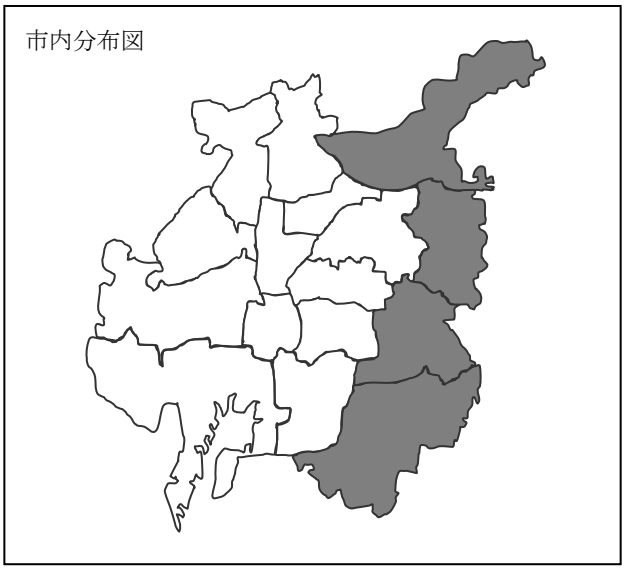
丘陵地に広く分布しており、低山地にも見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて広く分布する。



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地やため池の縁の裸地状の場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

あちこちに生育していたが丘陵地の開発によって減少し、現在の状態になったものと思われる。現存する自生地のうちいくつかも、開発により失われるおそれがある。ため池の岸などに生育しているものは、水質が汚濁すれば生育できなくなる。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも無視できない。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、本種は湿地中央部の半裸地状の場所に生育しているので、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。森林の伐採は、水収支の回復という点でも重要である。「森林を伐採すると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。その一方で、攪乱防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。自然に親しむ行為は、それ自体が自然に対する負荷となる。

【特記事項】

小型の植物であるため、個体数は控え目に見積もってある。

【関連文献】

保草Ⅰ pp.121-122，平草Ⅲp.138.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　タヌキモ科＞

ホザキノミミカキグサ　*Utricularia racemosa* Wall.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形　態】

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は細い糸状で、地中を横にはう。葉はへら形～長楕円形、長さは柄を除いて 3～6mm である。花期は通常 8～10 月、花茎は直立し、小型のものは高さ 3～5cm にすぎないが大型のものは高さ 35cm 以上になり、上部に 1～13 個の花をつける。花はほとんど無柄、花冠は淡紫色、長さは距を除いて 4～5mm、距は長さ 3～6mm で前方に伸びる。がくは花時に長さ 2mm 前後、花後もそれほど大きくならない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷, 鳥居ちゑ子 499, 1993-9-6; 小幡緑地, 芹沢 56208, 1990-8-8）、名東区（猪高町上社, 芹沢 57793, 1990-10-17）、天白区（海老山町, 中島ひろみ 814, 2002-8-5 など）、緑区（鳴海町水広下池, 渡邉幸子 5136, 1996-10-28）に生育している。千種区（覚王山, 沢井輝男 s.n., 1932-8-6）で採集された標本もある。

【県内の分布】

丘陵地に広く分布しており、低山地にも見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井などで確認されているが、平野部には生育していない。

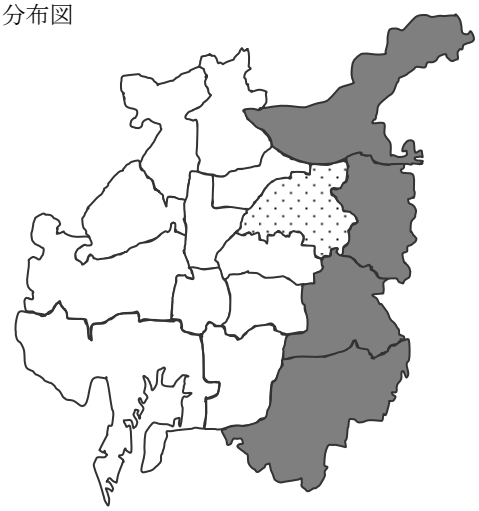
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から中国大陸、インドにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地やため池の縁の裸地状の場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地の開発によって減少し、現在の状態になったものと思われる。現存する自生地のうちいくつかも、開発により失われるおそれがある。ため池の岸などに生育しているものは、水質が汚濁すれば生育できなくなる。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも無視できない。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、本種は湿地中央部の半裸地状の場所に生育しているので、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。その一方で、攪乱防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。自然に親しむ行為は、それ自体が自然に対する負荷となる。

【特記事項】

日本産ミミカキグサ類の中では最も大きいが、それでも小型の植物であるため、個体数は控え目に見積もってある。

【関連文献】

保草Ⅰp.121，平草Ⅲp.138.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

カワラニンジン　*Artemisia apiacea* Hance

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 2、総点 11。河川敷の低湿地に生育する植物で、名古屋市では生育できる環境が限られている。

【形　態】

1 年生または越年生の草本。茎は直立し、通常下部では分枝せず、高さ 60～150cm になる。根出葉は花時には枯れる。茎葉は互生し、柄はほとんどなく、葉身は 2 回羽状～一部 3 回羽状に細く深く深裂し、長さ 5～10cm、裂片は幅 1～2mm、鋭頭、両面無毛である。花期は 8～9 月、茎の上半部に多数の頭花が総状につき、全体として円錐花序となる。頭花は緑黄色で下向きにつき、総苞は球形で幅 5～6mm、そう果は長さ約 1mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

西区（日比津町庄内川，鈴木秀樹 3553, 1996-9-28）、中川区（下之一色町，渡邉幸子 4852, 2001-9-8）、港区（当知町庄内川，芹沢 77566, 2001-9-8）に生育している。

【県内の分布】

庄内川と木曽川の河川敷に多いが、他の場所でも稀に生育している。尾張では長久手日進、岩倉西春日井、一宮西部、津島愛西、海部南部で確認されている。

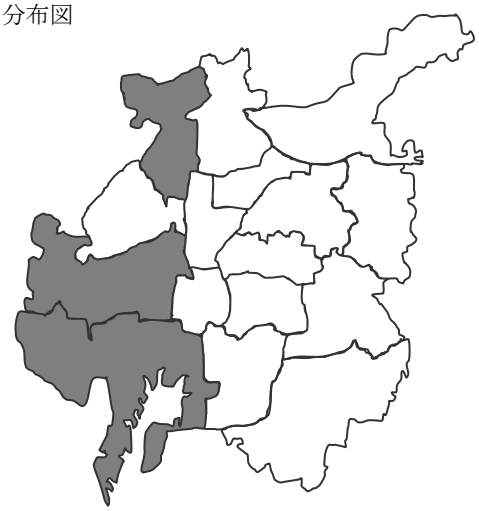
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷低湿地のやや攪乱された場所に多く見られる。河川敷以外の荒地などに偶発的に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川下流部の河川敷に点在しており、場所によっては個体数が多く、現在のところ生育状態も良好である。

【保全上の留意点】

多少の攪乱には絶えることができる植物なので、状況によってはかえって増加する可能性もある。個体レベルでの保全に限れば現状ではそれほど神経質になる必要はないが、河川改修に際して河川敷に低湿地状の場所を残すことが重要である。

【特記事項】

もともとは中国大陸から薬用植物として持ち込まれ、逸出帰化したものという説もある。和名は、葉がニンジンのように細かく切れ込んでいるからである。

【関連文献】

保草Ⅰp.53，平草Ⅲp.170.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　キク科＞

キセルアザミ　*Cirsium sieboldii* Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。湿地性の植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形　態】

多年生草本。根出葉は多数あって花時にも残存し、翼のある柄があり、長さ 17～50cm、細鋸歯があるだけのものから羽状に深裂するものまであり、両面無毛、辺縁に刺針がある。茎は高さ 60～110cm になり、少数の小型の葉を互生する。花期は 9～10 月、頭花は茎の先端に点頭してつき、直径 2.5～5cm、総苞は幅 2～3cm、総苞片は覆瓦状に並び、開出しない。花冠は紅紫色で、長さ 17～19mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味寺林, 鳥居ちゑ子 1140, 1996-9-7）、名東区（猪高緑地, 芹沢 78211, 2002-10-4）に生育している。天白区（土原一丁目, 中島ひろみ 197, 1992-9-2）、緑区（黒石, 浜島繁隆 s.n., 1969-10-10）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と長久手日進に生育している。

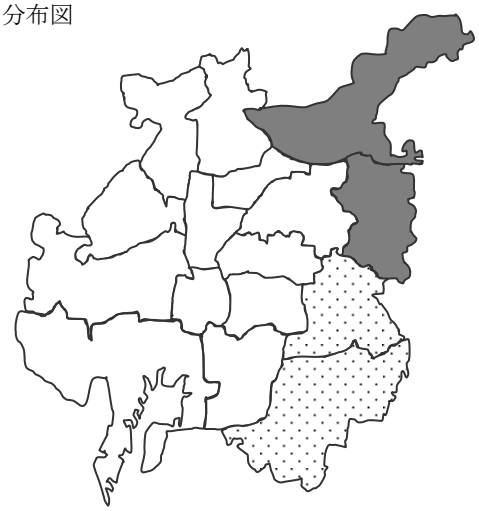
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県の丘陵地では、湧水湿地下部の泥質の場所に生育していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かに生育しているが、どの場所でも個体数は少ない。丘陵地の開発によって減少し、現在の状態になったものと思われる。天白区では最近見ていない。緑区では滝ノ水湿地に生育していたが、生育地が宅地造成のため破壊された。

【保全上の留意点】

多少は耐陰性があり、林内の湿地にも生育していることがあるが、それでも過度の被陰には耐えることができない。湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

【特記事項】

サワアザミとも呼ばれるが、他に同名の植物がある。茎にわた毛が多いものをツクデマアザミというが、はっきり区別できるものではない。

【関連文献】

保草Ⅰp.33, 平草Ⅲp.215.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ウコギ科＞

オカウコギ　*Acanthopanax japonicus* Franch. et Sav.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形　態】

落葉性の低木。高さ 1m くらいになる。枝には長枝と短枝があり、葉は長枝では互生、短枝では束生し、長さ 2.5～7cm の柄がある。葉身は通常 5 小葉からなり、小葉は倒卵形、中央小葉が最も大きく、長さ 2～4cm、幅 0.7～2cm、上半部に低い鋸歯または欠刻状の粗い重鋸歯があり、先端は鋭頭～鈍頭、基部はやや嘴状の狭い楔形になる。葉裏の脈腋には小さい薄膜がある。花期は 5 月、雌雄異株で、短枝の先端から長さ 2～6cm の花茎を 1 本伸ばし、その先端に多数の花を散形につける。小花柄は長さ 3～12mm である。雄花は直径 3～4mm、花弁は 5 枚で黄緑色、5 本の雄随と短い 2 本の柱頭があり、雌花はより小さく、長さ 1.5～2mm の 2 本の柱頭がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山, 鳥居ちゐ子 864, 1995-5-10）、名東区（猪高緑地, 鳥居ちゐ子 3359, 2014-6-10; 平和公園, 鳥居ちゐ子 399, 1993-6-13）、天白区（相生山緑地, 芹沢 88621, 2013-7-20）に生育している。

【県内の分布】

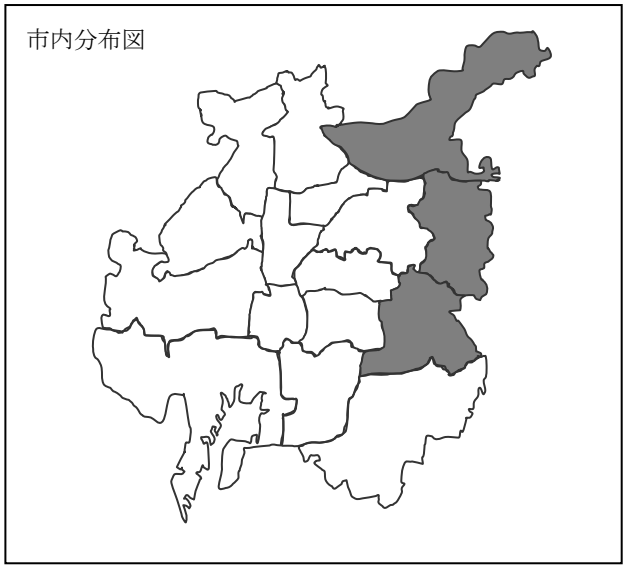
低山地に広く分布するが、丘陵地では少なく、平野部には出現しない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、大府東浦、半田武豊、犬山、春日井、岩倉西春日井の 6 区画で記録されている。

【国内の分布】

本州（関東地方南部から紀伊半島まで）。変種のウラゲウコギ var. *nikaianus* (Koidz.) H.Hara は近畿地方から九州北部にかけて分布している。

【世界の分布】

日本固有種。



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かに生育しており、平和公園には比較的まとまった群落があるが、他の場所では個体数は少ない。名東区猪高緑地では遊歩道わきに 2 株生育しており、相生山緑地では小さな流れに沿って小群落があった。

【保全上の留意点】

生育地はいずれも保全緑地なので、当面はそのまま存続すると思われる。ただし相生山では緑地の辺縁部に生育していたので、何かの事情で失われるおそれがある。

【特記事項】

2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。ヒメウコギ *A. siboldianus* Makino は葉の裏面の葉脈基部に薄膜がなく、花柱が 5 裂する種類で、愛知県内でも稀に植栽されている。

【関連文献】

保木Ⅰp.191，平木Ⅱp.118.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜シダ植物　マツバラン科＞

マツバラン　*Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.

【除外理由】

名古屋市のものは全て逸出で、評価の対象にならない。

カテゴリー

名古屋市2015	国・県リスト
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【形　態】

常緑性の多年生シダ植物。根はなく、葉もない。根茎は不規則に分岐し、直径 1～2mm、褐色の仮根を密につける。地上茎は直立、斜上または下垂し、2～3 回 2 叉分岐し、高さは 10～40cm であるが愛知県のものは大きくても 25cm 程度、緑色で無毛、枝は稜があって、断面が三角形となる。単体胞子のうは 3 室に分かれ、枝につくごく短い側枝の上につき、直径 1.5～2mm、はじめ緑色であるが、熟すと黄色になる。胞子は黄白色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(小幡, 村松正雄 25927, 2011-7-10)、天白区（天白町八事裏山，芹沢 88953, 2013-9-29; 音聞山，渡邉幸子 6455, 2012-9-5）で採集された標本がある

【県内の分布】

確実に自生と思われるものは、鳳来北東部、田原東部、西尾南部で記録されている。豊川と豊田東部でもおそらく自生と思われるものが採集されている。大原（1971）は産地として足助、松平、西尾南部、鳳来、椎代、田原を挙げており、以前はもう少し広い範囲にあったものと思われるが、裏付けとなる資料はほとんど残されていない。確実に逸出と思われるものは、名古屋市で確認されているだけである。

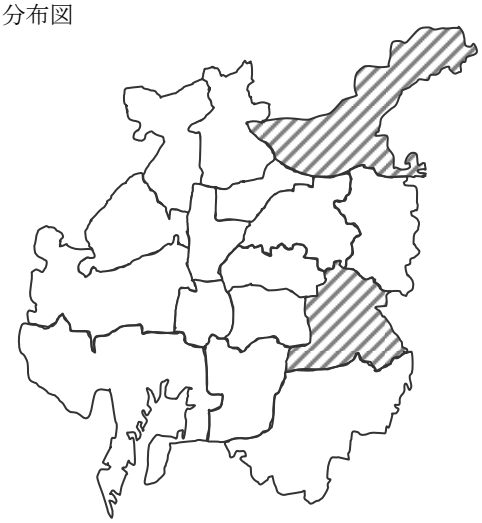
【国内の分布】

本州（太平洋側は宮城県、日本海側は石川県以南)、四国、九州、琉球、小笠原に生育しているが、全国的にも減少傾向が著しい。

【世界の分布】

世界の熱帯、亜熱帯に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

名古屋市ではいずれも人家近くの石垣などに生育している。

【現在の生育状況】

散発的に出現する程度で、どの場所も個体数は少ない。

【保全上の留意点】

名古屋市のものはすべて逸出と思われ、保全の対象にならない。

【特記事項】

根も葉もなく、茎だけが二叉分岐をくり返す単純な体制は、現生の植物では他に類似したものがない。日本では古くから観賞用に栽培され、江戸時代には多数の園芸品種が知られていた。

【引用文献】

大原準之助．1971．愛知県国有林の植物誌 p.35．名古屋営林局，名古屋.

【関連文献】

保シダ p.6，平シダ p.41，SOS 旧版 p.35+図版 9，環境庁 p.417，SOS 新版 pp.43,44，愛知県 p.302.
倉田　悟・中池敏之（編）．1987．日本のシダ植物図鑑 5:2-7．東京大学出版会，東京.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　初期分岐群　クスノキ科＞

ニッケイ　*Cinnamomum okinawense* Hatus.

カテゴリー

名古屋市2015	国リスト
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【除外理由】

名古屋市を含む愛知県のものは全て逸出で、評価の対象にならない。

【形　態】

常緑性の高木。高さ15m、直径60～100cmに達する。葉は対生または2枚がややずれてつき、長さ8～15mmの柄があり、葉身は長楕円形、長さ8～15cm、幅2.5～5cm、先端は長くとがり、基部も狭いくさび形、全縁、葉質は革質で、裏面は粉白色、基部よりやや上で分岐した 3 脈が目立つ。花期は5～6月、花序は葉腋から出て葉より短く、散形でよく分枝する。花は淡黄緑色、花被は6裂し、裂片は細長く、長さ約5mmである。果実は楕円形で長さ約10mm、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（天白町八事裏山，渡邉幸子 2593，1996-4-25）で採集された標本がある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来北東部、鳳来北西部、新城、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、豊田南西部、岡崎南部、西尾北部、西尾南部、東海知多、美浜南知多、春日井、津島愛西などで確認されているが、多いものではない。

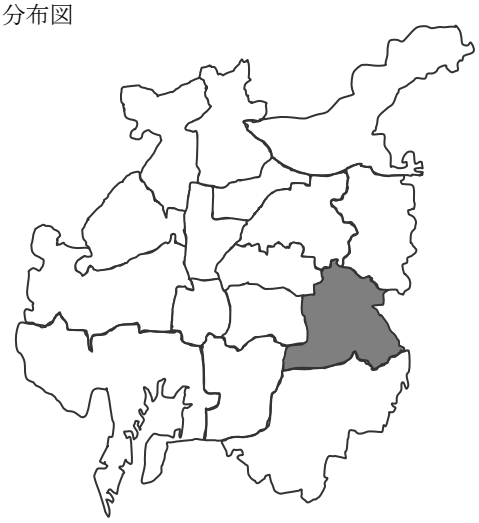
【国内の分布】

琉球（沖縄島北部、久米島、徳之島）に生育する。栽培起源のものが本州の暖地、四国、九州に逸出している。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

自生地では、山地の照葉樹林内に生育する。

【現在の生育状況】

天白区では相生山緑地、天白町八事などに幼株が散在しているが、開花・結実するような大きい木は見ていない。注意して探索すれば、他の区でも確認できると思われる。

【保全上の留意点】

本種については、本来の自生ではなく、特に配慮する必要はない。

【特記事項】

根の皮から肉桂をとるため栽培される。

【関連文献】

保木Ⅱpp.201-202，平木Ⅰp.115，愛知県 p.628.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　トチカガミ科＞

ミズオオバコ　*Ottelia alismoides* (L.) Pers.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 10。名古屋市では過栄養化した水路にも生育しており、当面絶滅が危惧される状態ではない。

カテゴリー

名古屋市2015	国リスト
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形　態】

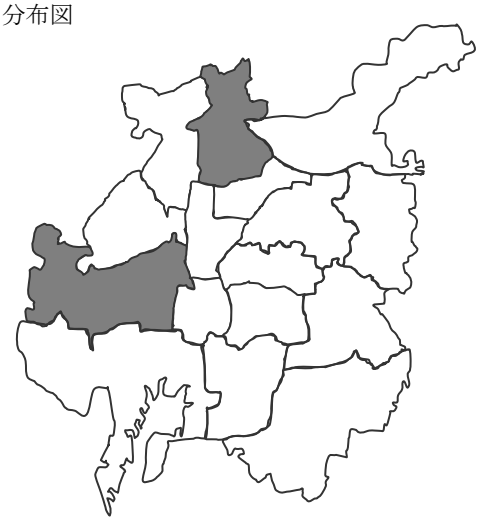
1 年生の水草。茎は短く葉を束生する。葉形の変異が著しく、水深や水流によって大きく変化する。小さいものは葉柄の長さ 1.5～2cm、葉身の長さ 3～5cm で花をつけるが、大きいものは葉柄の長さ 40cm、葉身の長さ 30cm に達する。葉身は披針形～広卵形～円心形、質薄く、葉縁に鋸歯がある。花期は 8～10 月、長さ 2～70cm の花茎の先端に 1 個の花をつける。花弁は 3 枚で、白～薄桃色。果実は 2～5cm、顕著なひだがある。

【分布の概要】

【市内の分布】

北区（丸新町～大我麻町境川，福岡義洋 4690, 1999-10-11）、中川区（富田町長須賀，高木順夫 248, 1992-7-11）で採集された標本があるが、他の区にも生育していると思われる。

市内分布図



【県内の分布】

平野部から低山地にかけて広く生育しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、江南丹羽、小牧、春日井、岩倉北名古屋、一宮東部、一宮西部、稲沢、あま大治、海部南部の 15 区画で記録されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

アジアの温帯～熱帯域、オーストラリア。

【生育地の環境／生態的特性】

湖沼のため池、水路、水田などに生育する沈水植物。生活排水が流入する都市近郊の過栄養化した水路でも見られる。

【現在の生育状況】

どこにでもあるというわけではないが、ある場所では多量に生育している。しかし、ため池や水路の改修、水田放棄などにより減少傾向にある。

【保全上の留意点】

水田や農業用水路ではできるだけ農薬や除草剤の使用を控えることが望ましい。過栄養化していない場所で生育が確認された場合には、保全上の配慮が必要である。

【特記事項】

過栄養化していない場所で生育が確認された場合には標本資料も作成してほしい。

【関連文献】

保草Ⅲp.395，平草Ⅰp.3.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.28．文一総合出版，東京.
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本水草 p.103．文一総合出版，東京.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　単子葉類　ラン科＞

シラン　*Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f.

カテゴリー

名古屋市2015	国・県リスト
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【除外理由】

名古屋市に生育しているものはすべて栽培品の逸出と思われ、評価の対象外である。

【形　態】

多年生草本。茎は高さ 30～70cm になり、基部はふくらんで扁平で直径 2～4cm の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に数個つき、披針形、長さ 20～30cm、幅 2～5cm、先端は鋭尖頭、下部は次第に細まり、基部は葉鞘となり、辺縁は全縁、硬い草質、無毛である。花期は 4～5 月、花はやや大型で茎の先端に 3～7 個つき、紅紫色、苞は長楕円状披針形で開花時に脱落する。がく片と側花弁は長楕円形、長さ 2.5～3cm、幅 6～8mm、やや鋭頭である。唇弁はくさび状倒卵形、先端は浅く 3 裂し、中裂片は円形で辺縁は波状、内面に 5 個の隆起線がある。果実はさく果で長楕円形、長さ 3～3.5cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（田代町, 広部　栄 106, 1993-7-29）、天白区（土原一丁目, 中島ひろみ 401, 1994-5-2, 白花）、緑区（大高町大根山, 岡本沙矢香 283, 2001-5-19）などに生育している。

【県内の分布】

確実に自生と思われるものは、東三河の一部地域だけに生育している。逸出と思われるものは丘陵地を中心に各地に生育しており、尾張でも瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、常滑、春日井などで採集された標本がある。

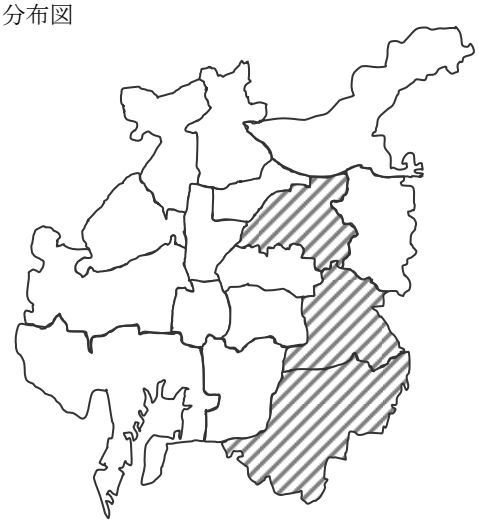
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

名古屋市では、やや湿った日当たりのよい土手、工事跡の造成法面などに生育している。本来の生育地は、川沿いなどの湿った岩上である。

【現在の生育状況】

どこにでもあるというわけではないが、ところどころに見られる。

【保全上の留意点】

名古屋市のものはすべて園芸品の逸出と思われ、特に配慮する必要はない。

【特記事項】

白花品種のシロバナシランも稀に混生している。

【関連文献】

保草Ⅲp.48，平草Ⅰp.217，愛知県 p.584.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　アリノトウグサ科＞

オグラノフサモ　*Myriophyllum oguraense* Miki

カテゴリー

名古屋市2015	国・県リスト
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 2、総点 9。全国的に減少傾向の著しい水草であるが、名古屋市では近年増加傾向にある。

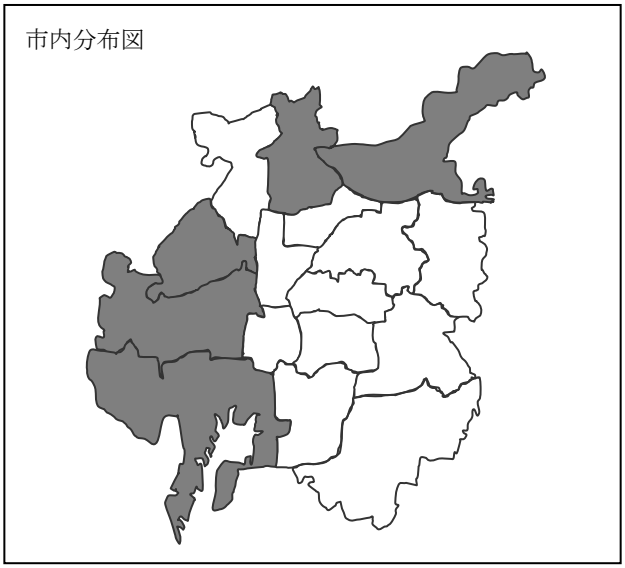
【形　態】

多年生の水草。茎は長く伸びて分枝し、長さ 1m くらいになる。水中葉は通常 4 枚が輪生し、長さ2～5cm、幅1～3.5cm、羽状に全裂し、裂片は糸状である。花期は5～7月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は白くて小さく、花序の上部に雄花、下部に雌花がつく。花序の葉はやや小さく、淡緑白色である。殖芽は細長い棒状、長さ 2.5～8cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味宮前，芹沢 74421, 1997-11-6; 瀬古庄内用水，中村　肇 716, 2014-9-23, NBC1334）、北区（辻町堀川，芹沢 77512, 2001-7-14）、中村区（稲葉地町庄内川，芹沢 85342, 2009-11-1）、中川区（野田，中村　肇 740, 2014-8-30, NBC1353 など）、港区（福屋二丁目，高木順夫 11730, 2003-10-11）に生育している。



【県内の分布】

名古屋市のほか、幸田、春日井、岩倉西春井、一宮西部、あま大治で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川などに生育する沈水植物。やや富栄養化した水域に多い。

【現在の生育状況】

守山区では中志段味才井戸流など、北区では堀川、中村区では庄内川本流、中川区では荒子川、港区では福屋、いずれも流水中に生育しており個体数は多い。堀川や荒子川では庄内川からの導水が続く限り存続すると思われる。止水域では守山区筧池（芹沢 74422, 1997-11-6）に生育していたが、水質汚濁のためか見られなくなった。

【保全上の留意点】

才井戸流は地形的にも重要な場所であり、その価値を認識し、生育地全体を保全することが必要である。堀川および荒子川は市街地を流れる人工河川であり、本種の有無に関わらず、水質を維持・向上させる努力が必要であるが、コイなど観賞魚の放流や微生物の投入は何ら水質改善につながらないため避けるべきである。

【特記事項】

和名は、最初の発見地である京都の巨椋池に因む。フサモ *M. verticillatum* L.に似ているが、花序の葉が緑白色であること、殖芽が長く手ざわりがかたいことなどで区別できる。ただし愛知県産の植物のうち、幸田のものは典型的なオグラノフサモであるが、それ以外は殖芽がやや太くて短く、フサモとの雑種であるハリマノフサモ *M.*×*harimense* Kadono et Sakiyama の可能性がある。県の絶滅危惧ⅠA類という評価は、典型品に限定して行われている。才井戸流のものは底土中にやや小型の殖芽をつけ、この点で他所のものと異なっている。

【関連文献】

保草Ⅱp.36，平草Ⅱp.271，環境庁 p.495，愛知県 p.392，SOS 新版 p.127.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.136．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 pp.234-235．文一総合出版，東京．

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ブナ科＞

ナラガシワ　*Quercus aliena* Blume

カテゴリー

名古屋市2015	県リスト
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	リスト外

【除外理由】

名古屋市のものは全て植栽または逸出で、評価の対象にならない。

【形　態】

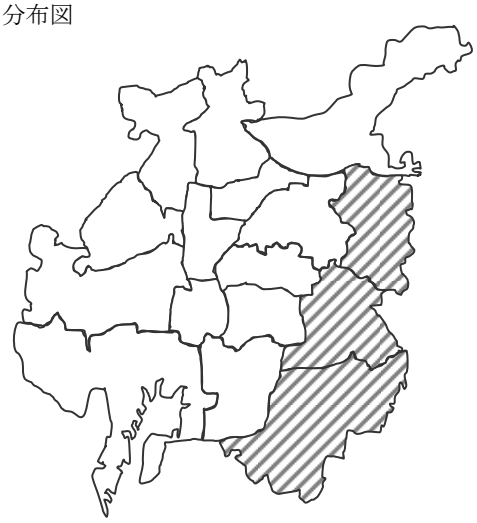
落葉性の高木。幹は高さ 25m、直径 90cm に達する。樹皮は黒褐灰色で、深く不規則に割れる。葉は互生し、長さ 1～3cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 12～30cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広いくさび状、辺縁には鋭頭の鋸歯がある。はじめは表裏とも有毛だが、やがて表面は無毛になり、裏面は通常星状毛が密生して白色を帯びるが、星状毛がほとんどなく緑色のもの（アオナラガシワ）もある。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の秋に熟し、楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（猪高町高針，三浦康男 1998, 1997-8-11）、天白区（塩釜口，渡邉幸子 4010, 1999-9-12；土原一丁目，中島ひろみ 436, 1994-9-18）、緑区（大高緑地公園，芹沢 89064, 2013-10-16）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

自生の可能性があるものは豊橋北部に生育している。これ以外にも県内のところどころに生育しているが、それらの大部分は明らかに植栽されたものである。

【国内の分布】

本州（岩手県・秋田県以南）、四国、九州に産するが、どこまでが真の自然分布かはっきりしない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ヒマラヤ。

【生育地の環境】

コナラやアベマキと共に、いわゆる里山の雑木林の構成種となっている。

【現在の生育状況】

点在しているが、個体数は少ない。

【保全上の留意点】

名古屋市のものはすべて植栽または植栽個体から二次的に逸出したものである。しかしコナラやアベマキに比べればはるかに少ないから、大木についてはある程度配慮する方がよい。

【特記事項】

コナラに比べ、葉が大きく、側脈が多い。

【関連文献】

保木Ⅱp.267，平木Ⅰp.72，愛知県 p.162.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ヤマモモ科＞

ヤチヤナギ　*Gale belgica* Duham. var. *tomentosa* (C.DC.) T.Yamaz.

【除外理由】

名古屋市のものは全て移入で、評価の対象にならない。

カテゴリー

名古屋市2015	県リスト
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠA類
環 境 省2014	リスト外

【形　態】

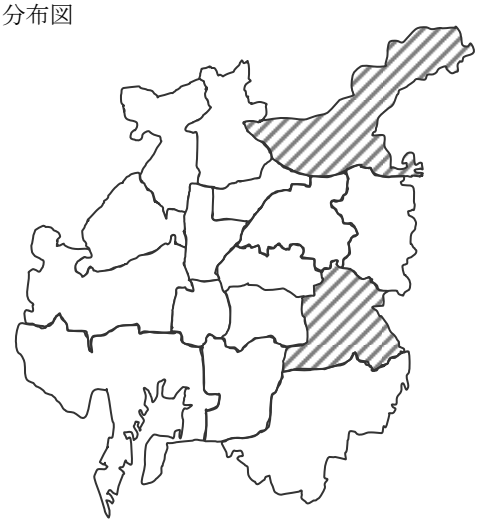
落葉性の低木。高さ 30～80cm になる。枝は黒褐色で、若枝には白色の軟毛がやや密に生える。葉はほとんど無柄、葉身は倒披針形～倒卵状長楕円形、長さ 2～5cm、幅 0.8～2cm、先端は円頭、基部はくさび形、先端部に少数の鋸歯があるほかは全縁、両面に軟毛があり、淡黄色の油点が散在する。雌雄異株で、花期は 3 月下旬～5 月、雄花序は長さ 7～10mm、雌花序は長さ 5～8mm となるが、愛知県では雄株しか知られていない。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（天白町東山動物園裏, 芹沢 55338, 1990-5-31）に、井波一雄氏によって黒河湿地から移植されたものが生育していた。この湿地はその後消失し、現在は守山区と天白区に再度移植されているらしい。

市内分布図



【県内の分布】

現存する自生地は、田原市黒河湿地だけである。豊川市と豊橋市南部にも生育していたが、前者は周囲の樹木の生長によって被陰され、後者は開発により生育していた湿地が破壊されて絶滅した。

【国内の分布】

北海道、本州（東北地方北部、尾瀬、愛知県、三重県）。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島北部、シベリア東部。種としては北半球の寒冷地に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

泥炭湿地の、多少陸化が進んだ部分に生育する。ただし愛知県と三重県の自生地は湧水湿地である。

【現在の生育状況】

田原（黒河湿地）では激減して数株しか残存していないが、現在は小康状態を保っている。湿地自体は県指定の天然記念物として保護されているが、富栄養化が進んでおり、将来の存続が懸念される。名古屋市内における再移植後の状況は未確認である。

【保全上の留意点】

名古屋市のものは明らかに移入であり、再移植後は雌株が出現したという話もあって他産地のものが混入している可能性も否定できない。保全の対象にはならない。

【特記事項】

本種は北海道の湿地では普通に見られるため、国レベルのレッドリストではリスト外になってしまう。愛知県および三重県の本種は、地方版レッドデータブックの必要性を示す典型的な事例として、しばしば取り上げられている。本種のような希少種の場合域外保全は無意味ではないが、その場合は公的機関の手で、他産地のものが混入しないよう十分管理された状態で行うべきである。

【関連文献】

保木Ⅱp.350，平木Ⅰp.27，SOS 旧版 p.44+図版 17，SOS 新版 pp.98,100，愛知県 p.84.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ミソハギ科＞

ミズマツバ　*Rotala mexicana* Cham. et Schltdl.

カテゴリー

名古屋市2015	国リスト
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 10。水田雑草であるが、名古屋市ではまだ比較的多く残存しており、直ちに絶滅が危惧される状態ではない。全国的に見ても、それほど希少とは思えない。

【形　態】

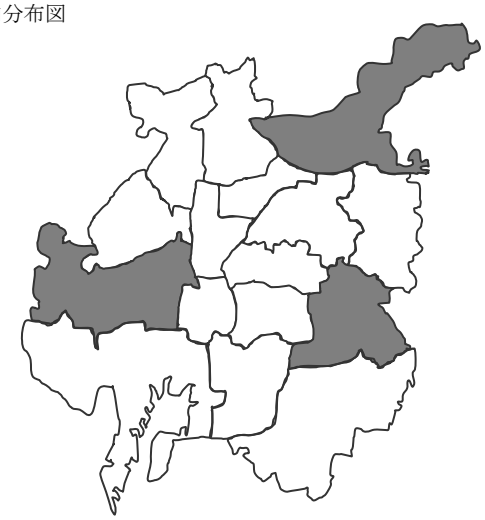
1 年生の水草。茎の基部は地面をはい、分枝して立ち上がり、高さ 3～10cm になる。葉は 3～4 個輪生し、無柄、線形～狭披針形、長さ 6～10mm、幅約 1～2mm、先端は鋭～鈍頭で微凹端となる。花期は 8～10 月、花は葉腋に単生し、柄がなく、淡紅色。がく筒ははじめ鐘形、のちに球形となり、三角形で長さ約 0.8mm の 5 裂片があり、花弁はない。蒴果は球形、長さはがくの 2 倍ほどある。種子は細かく、黒褐色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味吉田，鳥居ちゑ子 3414, 2014-10-15；小幡緑地，鳥居ちゑ子 3264, 2013-8-26 など）、天白区（御幸山，渡邉幸子 4056, 1999-10-8）、中川区（戸田，高木順夫 5013, 1994-8-19）で確認されている。注意して探索すれば、他の区でも確認できると思われる。

市内分布図



【県内の分布】

全県的に分布しており、尾張でも名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井、一宮西部で確認されている。ていねいに調査すれば、このほかの区画でも確認できると思われる。ただし、平野部の広い水田には少ない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、フィリピン、インド、中央アジア、アフリカなどに広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田に生育する沈水～抽水～湿生植物。

【現在の生育状況】

小型で目立たない植物であるが、よく探せば決して少ない植物ではない。ただし、名古屋市では宅地化などにより水田そのものが減少しているため、本種も減少傾向にある。

【保全上の留意点】

リスト外の種であるが、本種が生育しているような水田はそれなりに生物多様性が保たれていると思われる。その意味で適切な配慮が必要である。

【特記事項】

本種が環境庁のレッドデータブックに掲載されたのは、小型の植物でよく観察されておらず、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。もっとも本種のような植物がレッドデータブックに掲載されていると、環境影響評価などの調査精度をチェックする上では好都合である。

【関連文献】

保草Ⅱp.47，平草Ⅱp.261，環境庁 p.492，愛知県 p.595.

（執筆者　中村　肇）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　オオバコ科＞

カワヂシャ　*Veronica undulata* Wall.

カテゴリー

名古屋市2015	国リスト
愛 知 県2015	国リスト
環 境 省2014	準絶滅危惧

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1、総点 9。名古屋市では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

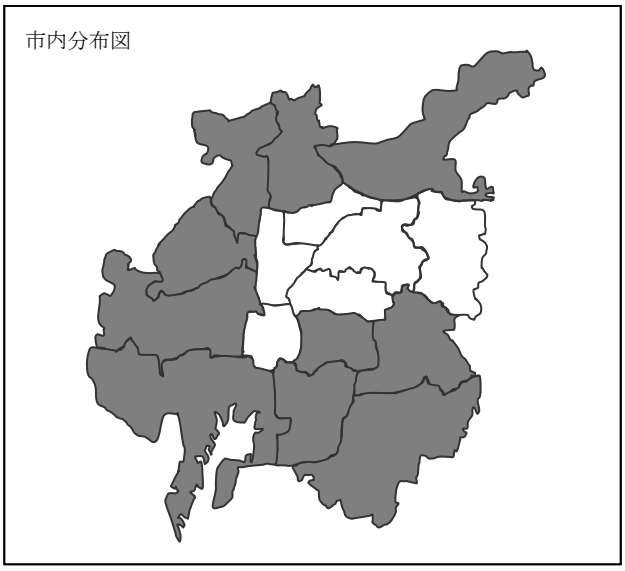
【形　態】

越年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 10～50cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ 2.5～8cm、幅 0.5～2.5cm、先はややとがり、基部はやや茎を抱き、辺縁には鋸歯がある。花期は 5～6 月、葉腋から長さ 5～15cm の細い花序を出し、15～50 個の花をつける。花冠はほとんど白色で皿状に広く開き、直径 3～4mm、4 裂する。蒴果は球形で、先がわずかにへこみ、長さ幅ともに2.5～3mm、先端に長さ1mmほどの花柱が残存し、果柄は曲がらずに斜上する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味庄内川, 鳥居ちゑ子 3344, 2014-5-6; 吉根庄内川, 芹沢 80534, 2006-5-21 など）、天白区（保呂町天白川緑地, 渡邉幸子 5052, 2002-5-5）、緑区（分久山, 高木順夫 17586, 2009-5-19, NBC210）、瑞穂区（弥富町天白川, 渡邉幸子 5057, 2002-5-5）、南区（大堀町天白川, 渡邉幸子 5058, 2002-5-5）、北区（六が池町, 鳥居ちゑ子 2274, 2003-4-18）、西区（山田町庄内川, 芹沢 77881, 2002-5-23）、中村区（中村町, 鶴岡佐知子 43, 1992-6-2）、中川区（富田町庄内川（芹沢 77266, 2001-5-6）、港区（南陽町西茶屋, 芹沢 79166, 2004-5-10）に生育している。



【県内の分布】

名古屋市のほか、豊根東部、豊川、蒲郡御津、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、足助、豊田北西部、岡崎北部、刈谷知立、安城、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、大府東浦、東海知多、半田武豊、春日井、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、あま大治、津島愛西で確認されている。平野部に多く、山間部ではほとんど見られない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から中国大陸、東南アジア、インドにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田や河川敷などの低湿地に多い。コンクリート水路の土砂がたまった場所などにも生育している。湿田状態が多少なりとも残されている場所では、春の水田雑草になっている。

【現在の生育状況】

低湿地性の植物であるが、現在のところはやや普通種である。しかし、低湿地的環境の減少に伴い、全体として減少傾向にあることは確かである。特に庄内川では帰化植物のオオカワヂシャ *V. anagallis-aquatica* L.が増加し、それに圧迫されて減少傾向にある。守山区上志段味ではオオカワヂシャ 5 に対し 1 くらいの割合になっており、北区六が池町では一本も見られなくなった。

【保全上の留意点】

個体レベルでの保全に限れば現状ではそれほど神経質になる必要はないが、河川敷の低湿地的環境を全体として保全することは重要な課題である。

【関連文献】

保草Ⅰp.143，平草Ⅲp.112，愛知県 p.638.

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　ミツガシワ科＞

アサザ　*Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze

【除外理由】

名古屋市のものは全て逸出で、評価の対象にならない。

カテゴリー

名古屋市2015	国・県リスト
愛 知 県2015	絶滅危惧ⅠB類
環 境 省2014	準絶滅危惧

【形　態】

多年生の水草。根茎は泥の中を長く這い、長い水中茎を出す。葉は長い柄があり、葉身は水面に浮かび、卵形または円形、直径 5～10cm、辺縁には通常波状の歯牙があり、表面は緑色、裏面は紫褐色、基部は深く湾入し、葉柄はやや楯状につく。花期は 6～8 月、花は水上に出て開き、長さ 3～12cm の柄があり、花冠は黄色で直径 3～4cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（天白町島田大根池，芹沢 88052, 2012-10-8）に生育している。

【県内の分布】

自生のものは海部南部の 1 ヶ所に生育しているだけである。移入されたものは名古屋市のほか、岡崎市、尾張旭市などに生育している。

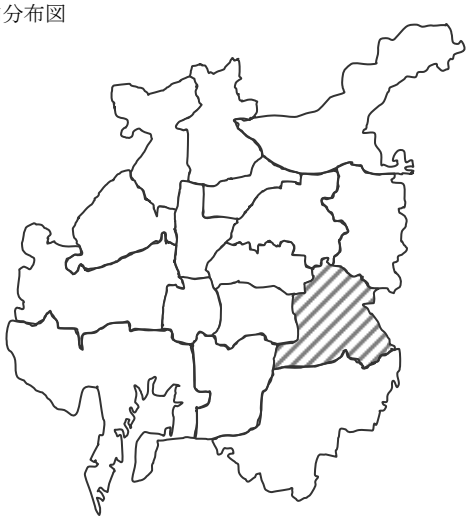
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川の淀み、水路などに生育する浮葉植物。愛知県の自生系統は流れのゆるい水路に生育している。また、愛知県の自生系統では開花が確認されていない。

【現在の生育状況】

大根池では、池の西半分を覆って繁茂している。今後池を覆い尽くす状態になれば、駆除を考える必要があるかもしれない。

【保全上の留意点】

名古屋市の本種自体は移入であり保全の対象にならないが、大根池の水質を維持することは重要な課題である。

【関連文献】

保草Ⅰp.213，平草Ⅲp.36，SOS 旧版 p.72，環境庁 p.514，愛知県 p.220.
角野康郎．1994．日本水草図鑑 p.140．文一総合出版，東京．
角野康郎．2014．ネイチャーガイド　日本の水草 p.296，文一総合出版，東京．

（執筆者　芹沢俊介）

維管束植物　＜種子植物　被子植物　真正双子葉類　レンプクソウ科＞

ハクサンボク　*Viburnum japonicum* (Thunb.) Spreng.

【除外理由】
名古屋市のものは全て逸出で、評価の対象にならない。

カテゴリー

名古屋市2015	県リスト
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【形　態】
常緑性の低木または小高木。高さ 1.5～6m になる。葉は対生し、長さ 2～3cm の紫色を帯びた柄があり、葉身はひし状倒卵形～ひし状卵形、長さ 5～20cm、幅 4～15cm、先端は鋭尖頭か鋭頭、基部は広いくさび形で、辺縁は上部にのみあらい鋸歯があり、革質、表面は暗緑色で光沢がある。花期は 4 月～5 月、枝の先端に直径 10～13cm の平らな散房花序をつくり、多数の花をつける。花は悪臭があり、花冠は白色、基部近くまで 5 裂し、直径約 6mm である。核果は広楕円形または卵形で、長さ約 8mm、晩秋に赤く熟す。

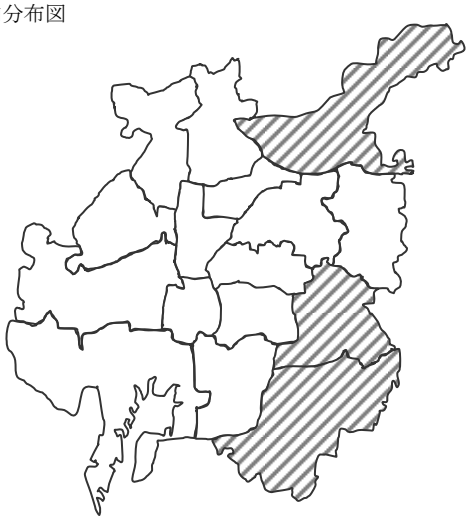
【分布の概要】
【市内の分布】
守山区（小幡北山，太田由美子 11, 1992-5-1）、天白区（島田黒石，武藤靖子 504, 1996-5-10）、緑区（大高町鷲津砦跡，渡邉幸子 4093, 1999-10-29）で採集された標本がある。

【県内の分布】
田原西部。東海知多にも自生の可能性が否定できないものがある。他区画のものは、現在のところすべて逸出と思われる。

【国内の分布】
本州（関東地方南部、伊豆諸島から愛知県までと山口県）、九州、琉球。

【世界の分布】
日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】
本来は海岸近くの常緑広葉樹林の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況】
保全緑地や社寺林などに点在しているが、個体数は少ない。

【保全上の留意点】
名古屋市のものはすべて逸出であり、保全の対象にならない。

【特記事項】
本州中部のものは、コハクサンボクとして区別されることがある。和名は、石川県白山の産であるという誤認に基づく。ハクサンボクとミヤマガマズミの雑種らしいものが守山区（小幡北山，太田由美子 8, 1992-4-23）、天白区（音聞山，渡邉幸子 2031, 1995-4-23）で採集されている。

【関連文献】
保木Ⅰp.101，平木Ⅱp.231，SOS 旧版 p.84，愛知県 p.422.

（執筆者　芹沢俊介）

コケ植物

① 名古屋市におけるコケ植物の概況

名古屋市に自生するコケ植物（蘚苔類）の種類は、最新の文献では、新修名古屋市史資料編（2008）に蘚類 128 種、苔類 42 種、ツノゴケ類 1 種の掲載がみられる。その後、2010 年 10 月より 2014 年 3 月までの間の調査で新たに検出した種類を加えると、蘚類 151 種、苔類 56 種、ツノゴケ類 1 種の合計 208 種となる。愛知県には、蘚類が 411 種（成田 2012）、苔類 153 種（山田 2000）の合計 564 種のコケ植物の自生があるので、そのおよそ 37%が名古屋市に自生していることになる。

本市は、ほぼ本州の中央部に位置する濃尾平野の南端部にあり、南部は伊勢湾の北端に面している。気候的には、年平均気温が 15°C 前後、年間降水量が 1600mm 前後の温暖な地であり、地形的には、東辺部の丘陵地を除き、東高西低のほぼ平坦な地である。東辺部は標高 60～80m の丘陵地が連なり、最高標高は北東部にある東谷山の 198.3m である。市内に生育するコケ植物はこのような自然環境からの影響のほかに人による土地の利用状況による影響も大きいものがある。北部から西部を取り巻くように流れる庄内川の流域は昔からの水田地帯であった。今では市街化が進み住宅地が広がってきているが、まだ多くの水田が残っている。直射光が当たる適度な湿り気のある田の畦道にはハイゴケ、ノミハニワゴケ、ヒロクチゴケ、ツチノウエノコゴケ、トヤマシノブゴケ、コネジレゴケ、コハタケゴケ等が見られる。市の中央部は早くから最も市街化が進んだところであるが、ビルの谷間の歩道の敷石の間には、ギンゴケ、ホソウリゴケが生育し、ナンキンハゼ、トウカエデ、クスノキ等の街路樹の樹幹には、サヤゴケ、ヒナノハイゴケ、ヒロハツヤゴケ、タチヒダゴケ、コモチネジレゴケ、クロヤスデゴケ、カラヤスデゴケ等、乾燥や大気汚染に対する抵抗性のある着生ゴケが見られる。この中のコモチネジレゴケは、帰化蘚類と考えられる種であり、市街地の中央を南北に走る交通量の多い国道 19 号線沿いに点在する社寺叢のムクやエノキの大木の樹幹に生育が見られ、興味深い分布の仕方をしている。市街地の中にあって、古木や巨木が繁る自然度の高い熱田神宮の社叢には、コケ植物の生育に適した環境が多く、蘚類 34 種、苔類 7 種が記録（高木 1978）されている。東部一帯に広がる丘陵には、アカマツ、コナラ、ヒカサキ等を主体とする疎林に、ハイゴケ、スナゴケ、フデゴケ、ツリバリゴケ、シシゴケ、キンシゴケ、ホソバオキナゴケ、カガミゴケ、アカイチイゴケ、クロヤスデゴケ等が見られ、この地域にある名古屋大学構内からは、蘚類 22 種、苔類 5 種が記録（高木 1978）されている。北東部にある市内最高標高の東谷山は海抜 200m 弱ではあるが、山地的要素もあり、隣接する尾張旭市に一部またがる森林公園地域には、蘚類 88 種、苔類 29 種、合計 117 種のコケ植物が記録（成田 1984）されている。

以上に挙げたように、本市域に分布するコケ植物のほとんどが本州の低地に分布する普通種であるが特徴的な分布をしている種が若干存在する。東部の丘陵地下部には、湧水に涵養された湿地があり、そこには、湿地に特有のミズゴケ類が生育している。世界に広く分布するオオミズゴケのほかに、北方系のイボミズゴケ、ハリミズゴケや愛知県内では生育地が僅かであるユガミミズゴケ、コアナミズゴケが分布している。いずれもオオミズゴケと同じ湿地に生育す

るが、ユガミミズゴケは緑区と守山区に１ヶ所ずつ、コアナミズゴケは守山区に１ヶ所記録されているのみであり、緑区の生育地は土地開発のため既に滅んでいる。コアナミズゴケはゴルフ場の脇にあり、除草剤の影響が心配される。苔類のゼニゴケは市域のどこでもみられる種であるのに、準絶滅危惧に選定した最大の理由は、減少速度が速いことである。最近、ゼニゴケだと思っていたものをよくみると、帰化種のミカヅキゼニゴケであることが分かったが、他の所でも同様のことがよくある。市街地に限った現象なのか原因についてはよくわかっていないが、在来種のゼニゴケがいつのまにか帰化種に置き換わり、急速に減少しているのは事実である。今回レッドデータブックに掲載した 18 の絶滅危惧及び準絶滅危惧のうち、イバラゴケ、イボミズゴケ、ハリミズゴケ、マルバヒメクサリゴケ、イチョウウキゴケ等は、県や国レベルの絶滅危惧種でもあるが、その他は普通種である。しかし、市域ではゼニゴケを除き分布地や生育量が僅少な希少種になっており、このことが掲載するに至った最大の理由である。

② 名古屋市における絶滅危惧種の概況

今回の調査において、最終的に絶滅、絶滅危惧、あるいは準絶滅危惧と判定されたコケ植物は、19 頁のレッドリストの通りであった。掲載種は、絶滅 1（苔類 1)、絶滅危惧ⅠＡ類なし、絶滅危惧ⅠＢ類なし、絶滅危惧Ⅱ類 3（蘚類 2、苔類 1)、準絶滅危惧 15（蘚類 12、苔類 3）となった。

（執筆者　成田　務）

③ レッドリスト掲載種の解説

レッドリストに掲載された各種について、形態的な特徴や分布、市内の状況等を解説した。記述の項目、内容等は以下の凡例のとおりとした。準絶滅危惧についても、これらが目にふれる機会が多いことを考慮し、絶滅種・絶滅危惧種とほぼ同じ様式で記述した。

【 掲載種の解説（コケ植物）に関する凡例 】

【分類群名等】

対象種の分類上の位置を示す門、綱、科名等を各頁左上枠外に記述した。科の範囲、名称、配列は一部を除き「日本の野生植物　コケ」（岩月善之助著，2001 年，平凡社）に準拠した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。和名及び学名は「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　–レッドデータブックあいち 2009–　植物編」（愛知県 2009）、及び「レッドデータブック 2014　–日本の絶滅のおそれのある野生生物–　9　植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）」（環境省 2015）と同様、原則として「日本の野生植物　コケ」（平凡社）に準拠した。科内の配列は、学名のアルファベット順とした。

【カテゴリー】

対象種の名古屋市におけるカテゴリーを各頁右上枠内に記述した。参考として「第三次レッドリスト　レッドリストあいち　2015」（愛知県 2015）の愛知県での評価、及び「レッドデータブック 2014　–日本の絶滅のおそれのある野生生物–　9　植物Ⅱ（蘚苔類・藻類・地衣類・菌類）」（環境省 2015）の全国でのカテゴリーも併記した。

【選定理由】

対象種をレッドデータブックなごや 2015 掲載種として選定した理由について記述した。

【形　態】

対象種の形態の概要を記述した。この部分の記述は、特に断っていない限り全国的な資料に基づくものである。

【分布の概要】

対象種の分布状況について、市内・県内・国内・世界での概要を記述した。

市内分布図は、各区の境界を実線で表示し、自生個体群の現存が確認された、または現存の可能性が大きいと判断された区を濃色、絶滅、または絶滅の可能性が高いと判断された区を点描で示した。

【生育地の環境／生態的特性】

対象種の生育環境及び生態的特性について記述した。

【現在の生育状況／減少の要因】

対象種の名古屋市における現在の生育状況、減少の要因等について記述した。

絶滅種については**【過去の生育状況／絶滅の要因】**として、対象種の名古屋市における過去の生育状況、絶滅の主な要因について文献、及び標本調査結果に基づき記述した。

【保全上の留意点】

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

【特記事項】

異名、近似種との識別点、調査の際の留意事項等、以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。

【関連文献】

対象種の理解の助けになる一般的文献を、著者、発行年、表題、掲載頁、発行機関とその所在地（または雑誌名と掲載巻・頁）の順に掲載した。

コケ植物　＜苔類　タカサゴソコマメゴケ科＞

タカサゴソコマメゴケ　*Jackiella javanica* Schiffn.

カテゴリー

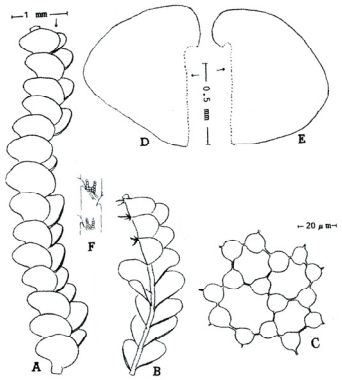
名古屋市2015	絶滅
愛 知 県2015	絶滅
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

1950 年に千種区東山で一度採集された（服部 1952）だけで、その後報告はなく現存を確認できない。

【形　態】

植物体は黄褐色、茎は長さ 1～2cm で匍匐し、葉は先が丸まったほぼ三角形で、瓦状に重なって斜めにつき、基部はやや茎に流下し、腹縁基部は小耳状。枝は少ない。葉身細胞は厚壁で、トリゴン（細胞の角隅）が大きく、表面が平滑。油体は各細胞に 1 個、楕円体で微粒の集合。腹葉は痕跡的に 2～4 に深裂。雌雄異株。



タカサゴソコマメゴケ
A．植物体の一部（側面観）　B．植物体の一部（背面観）
C．葉の中央部の細胞　D．E．葉　F．複葉
A、B、C、D、E、F
レッドデータブックあいち 2009 植物編より転写

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区東山で一度記録されている。

【県内の分布】

名古屋市以外に記録はない。

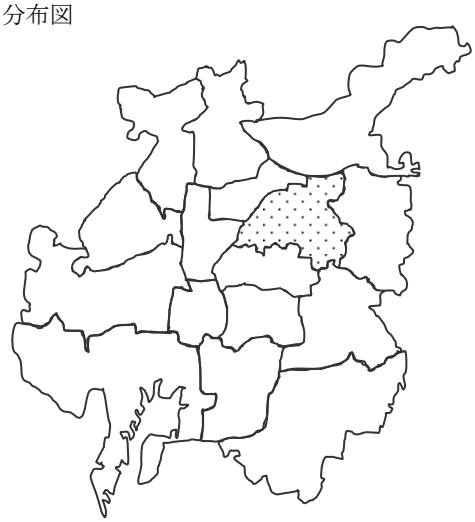
【国内の分布】

本州（愛知県、三重県、和歌山県）、四国、九州（屋久島）、琉球。名古屋市の東山は、本種の北限地である。

【世界の分布】

東アジアの熱帯～亜熱帯地域から台湾、中国、太平洋諸島を経て西南日本に分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低地や低山地の常緑樹林下の湿った崖や法面岩上に群生する。茎は長さ 5～20mm で斜上し、枝は少ない。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

名古屋市では絶滅したと思われる。林道沿いの湿った崖や法面の岩上に生えるため、崖や法面の崩壊を防止する工事や森林伐採等により絶滅したものと思われる。

【特記事項】

岩月（2001）は、国内分布を静岡県以西～琉球としている。しかし、静岡県については確かな情報がない。

【引用文献】

服部新佐．1952．日本産苔類雑記（15）．植物研究雑誌 27:53-59.
岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.136,pp.245-246．平凡社，東京．

【関連文献】

孫福　正・山田耕作．1964．伊勢神宮宮域産苔類図鑑 p.178．六月社，大阪．
愛知県．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2009　―植物編―p.711．愛知県環境部自然環境課．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　ミズゴケ科＞

ハリミズゴケ　*Sphagnum cuspidatum* Ehrh. ex Hofm.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

本種は市内ではオオミズゴケとほとんど同じ分布域に生育しているが、オオミズゴケに比べ産量は極めて少ない。園芸用としての利用価値が高いオオミズゴケと同じ湿地で棲み分け或いは混生している。従ってオオミズゴケと同様に保全に留意する必要がある。

【形　態】

オオミズゴケとほぼ同じ大きさの大形の種であるが、茎葉は舌状三角形で先端はやや鋭頭、上部の透明細胞にはらせん状の肥厚がある。枝葉は長楕円形で上部の縁は内曲し、先端は細長くとがる。透明細胞は楕円状線型で背腹両面とも孔は少なくはっきりしない。葉緑細胞は横断面で三角形、背面でより広く開く。

ハリミズゴケ
天白区島田緑地、2014 年 7 月 31 日、成田務　14265

【分布の概要】

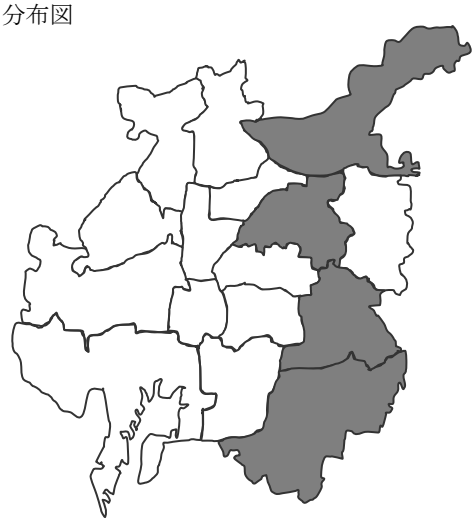
【市内の分布】
守山区、千種区、天白区、緑区。

【県内の分布】
名古屋市、瀬戸市、尾張旭市、犬山市、豊田市、新城市、設楽町。

【国内の分布】
北海道～九州に分布するが、オオミズゴケより北方に多い。

【世界の分布】
北半球に広く分布する（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

市域では、本種が単独で生育しているところはほとんどなく、湧水により涵養された湿地にオオミズゴケと接して群落をなしていることが多いが、生育地は少なく、産量も少ない。国内ではオオミズゴケと比べより北方や高地に多く分布している。遺存寒地要素の植物と見ることができる。

【現在の生育状況／減少の要因】

園芸用に利用するオオミズゴケと一緒に生育しており、オオミズゴケと共に乱獲の恐れがある。

【保全上の留意点】

園芸家によるオオミズゴケの乱獲を防止するとともに、湿地の保全に留意する必要がある。

【特記事項】

オオミズゴケに比べて生育地が少なく、北方系の蘚類で、湿地の性格を意義付ける価値は高い。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.4,p.38．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．1973．名古屋市内のミズゴケ類．くすのき 4:3．名古屋理科同好会．
成田　務．2001．愛知県のミズゴケ類．鳳来寺山自然科学博物館館報 40:47-51．
愛知県．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2009　―植物編―p.684．愛知県環境部自然環境課．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　アブラゴケ科＞

イバラゴケ（ケムシゴケ）　*Calyptrochaeta japonica* (Card. et Thér.) Z.Iwats. et Nog.

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

南方系の種で、名古屋市は、国内での北限線上に近い位置にあるものと判断される。市内の産地は１ヶ所のみであり、絶滅危惧種として見守っていく必要がある。

【形　態】

長さ 5mm 程の蒴柄に、透明な単細胞の刺が一面にあることからイバラゴケ、別名ケムシゴケと呼ばれる。茎は長さ 2～3cm で僅かに分岐して斜上し、葉を緩く偏平状につける。葉は暗緑色で長さ 2～3mm、倒卵形でやや非相称、葉先は短尖頭、中肋は短く 2 叉する。

イバラゴケ（ケムシゴケ）
守山区東谷山、1984 年 11 月 18 日、成田務　7489

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区東谷山の樹林下を流れる小谷の湿岩上に少量生育している。

【県内の分布】

犬山市寂光院付近、新城市の鳳来寺山表参道沿いや槇原川、亀淵川などの渓谷に見られる。

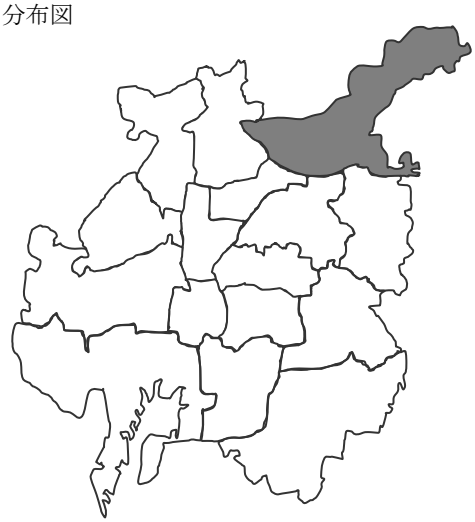
【国内の分布】

本州（中部以西）～琉球。

【世界の分布】

中国に知られている。温帯から亜熱帯にかけて分布する南方系の蘚類である（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

暖帯林下の日陰の湿った岩上に塊状の小さい群落をつくる。

【現在の生育状況／減少の要因】

着生している岩面の湿りが常に十分ではないため生育状態はよくない。産量は僅かである。好湿性の種であるので水湿不足や乾燥化が減少の要因となる。

【保全上の留意点】

陰湿な環境が維持されるよう周囲の環境に留意することが必要である。

【特記事項】

南方系の稀産種で、分布地理学上重要な資料となる。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.87,p.161．平凡社，東京．

【関連文献】

高木典雄．1995．愛知県における蘚苔類．愛知県の植物相 pp.230-256．愛知県農地林務部自然保護課．
愛知県．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2009　―植物編―p.697．愛知県環境部自然環境課．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜苔類　クサリゴケ科＞

マルバヒメクサリゴケ　*Cololejeunea minutissima* (Sm.) Schiffn.

カテゴリー

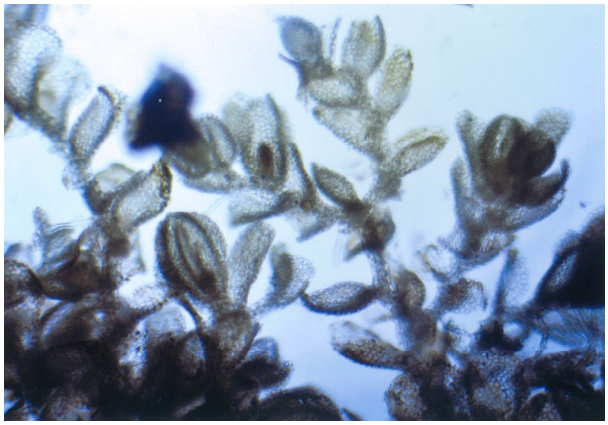
名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

樹幹や枝に着生するため、空中湿度変化に敏感で、生育地周囲の樹木の伐採や開発などの影響を受け絶滅する恐れがある。

【形　態】

植物体は白緑色、茎は長さ 5～10mm で不規則に分枝、葉は折りたたみ型で円形～広卵円形、葉細胞の膜は薄く、トリゴン（角隅）はない。葉下片は卵形で頂端に 1～3 細胞からなる 2 歯がある。



マルバヒメクサリゴケ
緑区鳴海八幡宮、1996 年 7 月 11 日、成田務　8540b

【分布の概要】

【市内の分布】

社寺林（緑区、南区、昭和区）、緑地（天白区）の樹幹に着生している。

【県内の分布】

名古屋市、刈谷市、岡崎市、豊田市（足助町）、新城市。

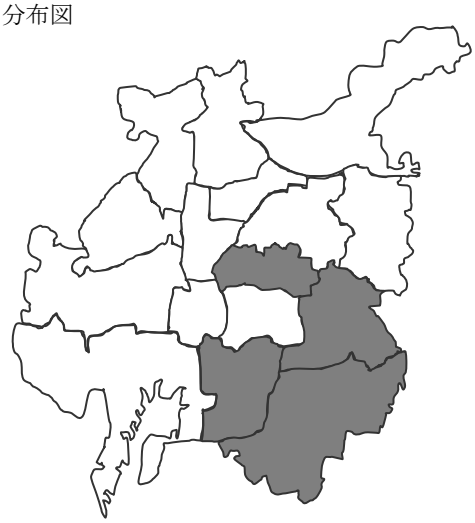
【国内の分布】

本州（宮城県鹿島台町以南）、四国、九州、琉球、小笠原。

【世界の分布】

北アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、ネパール、中国、台湾（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

おもに樹幹や枝に着生する。他のヨウジョウゴケ属 *Cololejeunea* と比較すると、やや乾燥気味の環境に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

緑区の鳴海八幡宮や氷上姉子神社等の社叢や天白区の相生山緑地の樹木の幹や枝に着生している。周辺の樹木の伐採や開発による大気環境の乾燥化の進行に適応できなくなると減少する。

【保全上の留意点】

周囲の環境の保全に留意する。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物　コケ p.298．平凡社，東京．

【関連文献】

岩月善之助・水谷正美．1972．原色日本蘚苔類図鑑 p.350．保育社，大阪．
孫福　正・山田耕作．1964．伊勢神宮宮域産苔類図鑑 p.178．六月社，大阪．
愛知県．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2009　―植物編―p.717．愛知県環境部自然環境課．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　ミズゴケ科＞

コアナミズゴケ　*Shangnum microporum* Warnst. ex Card.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

北海道から九州まで広く分布する種であるが、市域では生育の見られる湿地は極めて少ない。オオミズゴケと同じような環境に生育しており、オオミズゴケと共に採取される恐れがある。

【形　態】

オオミズゴケと比べてやや小さく繊細で柔らかい。茎葉は三角状舌形、上部の縁は内曲し、先端はささくれる小歯がある。枝葉は卵状披針形、やや非相称で深く凹み、上部の縁に鋸歯がある。透明細胞の腹面にはほとんど孔が無く、背面には壁に沿って小さな孔が不連続な列をつくって並んでいる。

コアナミズゴケ
守山区森林公園、1970 年 11 月 8 日　成田務　4197

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区森林公園東部のゴルフ場コース脇の小湿地に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、尾張旭市森林公園、新城市有海原湿原などに分布している。

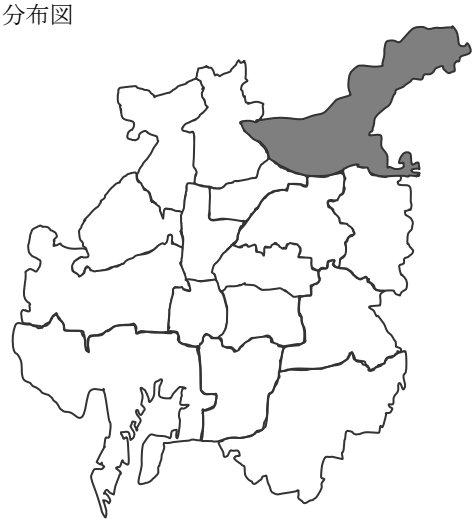
【国内の分布】

北海道～九州。

【世界の分布】

朝鮮、中国（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低地や低山地に産するミズゴケで、常に水に浸るような湿地やその近辺の池や沼の水辺に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は、ゴルフ場がつくられる以前にはあったと思われる大きな湿地の一部分が残ったものと考えられる。これまでの生育地の確認は 1 ヶ所のみである。除草剤等の農薬に敏感で害を受けやすく減少する要因となる。

【保全上の留意点】

生育地はゴルフ場の内部であるので、採取される心配はないが、除草剤や化学肥料の使用に留意が必要である。

【特記事項】

最近では、生育を見つけるのが困難になっている。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.2,p.36．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．1973．名古屋市内のミズゴケ類．くすのき 4:3．名古屋理科同好会．
成田　務．2001．愛知県のミズゴケ類．鳳来寺山自然科学博物館館報 40:47-51．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　ミズゴケ科＞

オオミズゴケ　*Sphagnum palustre* L.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

国内はもとより世界に広く分布する普通種であるが、全国レベルで準絶滅危惧に選定されているのは、園芸用としての利用価値が高く、収奪の危機に曝されているためである。本市においても、その趣旨に沿って準絶滅危惧と評価する。

【形　態】

ミズゴケの中では大形の種で、茎は長さ10cm 以上で、頂端部に多くの枝が集まる。茎の表皮細胞には明瞭ならせん状肥厚があり、1～4 個の孔がある。茎葉は舌形で先端はささくれる。枝葉は広楕円形で深く凹み鱗状につく。枝葉の横断面で葉緑細胞は狭二等辺三角形。底辺は葉の腹面側にある。

オオミズゴケ
守山区東谷山、2012 年 10 月 10 日、成田務　撮影

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区、千種区、昭和区、天白区、緑区。

【県内の分布】

名古屋市、尾張旭市、春日井市、瀬戸市、日進市、刈谷市、豊明市、豊田市（旧市域、旧稲武町、旧足助町、旧下山村、旧小原村、旧藤岡町）、岡崎市、豊川市、蒲郡市、豊橋市、田原市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村など。

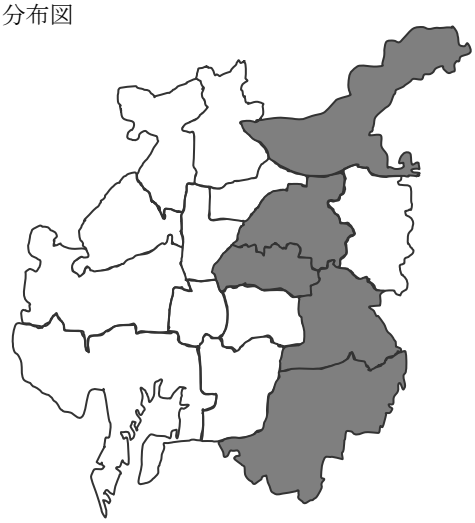
【国内の分布】

日本全土に分布する。

【世界の分布】

世界中に分布する普遍種である（岩月2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平地や丘陵地の斜面下部などに、主として湧水により涵養された湿地やため池の水辺に大きな群落を形成している。

【現在の生育状況／減少の要因】

市の北部や東部の丘陵地にある湿地やため池は、都市化の波に洗われ、土地改良や埋め立てが進行し、生育環境が減少しているのが大きな要因になっている。

【保全上の留意点】

湿地という環境の保全に留意する必要がある。

【特記事項】

ミズゴケ類の生育する湿地には、東海地方固有の植物や動物が生息・生育する所でもあり、湿地を保全することの意義は大きい。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.2,p.35．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．1973．名古屋市内のミズゴケ類．くすのき 4:3．名古屋理科同好会．
成田　務．2001．愛知県のミズゴケ類．鳳来寺山自然科学博物館館報 40:47-51.
愛知県．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2009　―植物編―p.702．愛知県環境部自然環境課．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　ミズゴケ科＞

イボミズゴケ　*Sphagnum papillosum* Lindb.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

オオミズゴケと同じ湿地で接して群落を形成して生育していることが多いが、オオミズゴケに比べ出現頻度は低い。尾張部に分布が多くあり、三河部は少ない。オオミズゴケとよく似た外観をしており、オオミズゴケと共に採取される恐れがある。

【形　態】

オオミズゴケと同じくらいの大きさで、外観も良く似ている。茎や枝の表皮細胞に細かいラセン状の肥厚がある。茎葉は舌形で先はささくれる。枝葉は円状楕円形で深く凹む。枝葉の葉緑細胞と接する透明細胞の側壁面に多くのパピラがあり、これによりオオミズゴケと区別できる。

イボミズゴケ
守山区東谷山、2014 年 7 月 31 日、成田務　14268

【分布の概要】

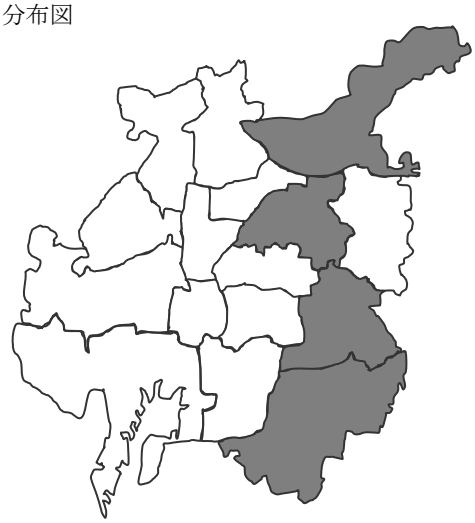
【市内の分布】
守山区、千種区、天白区、緑区。

【県内の分布】
名古屋市、豊明市、日進市、知多市、新城市。

【国内の分布】
北海道から九州に広く分布するが、本州中部以北に優勢である。

【世界の分布】
北半球に広く分布し、ニュージーランドにも分布している（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

生育地は、オオミズゴケとよく似た環境で丘陵地下部の湧水により涵養された湿地に生育している。オオミズゴケと比べ生育地は少ない。生態的特性はオオミズゴケと同様である。

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地の多くは緑地や公園内にあり、群落を形成し生育しているのがみられる。保護されているが、オオミズゴケと共に採取されることがある。

【保全上の留意点】

湿地を形成させている周辺の環境保全に留意する必要がある。

【特記事項】

ミズゴケ類の生育する湿地は、湿地生動植物の自生地、生息・生育地でもあり、ミズゴケ類の保全は同時に湿地生動植物の保全にもつながるものである。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.2,p.35．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．1973．名古屋市内のミズゴケ類．くすのき 4:3．名古屋理科同好会．
成田　務．2001．愛知県のミズゴケ類．鳳来寺山自然科学博物館報 40:47-51.
愛知県．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2009　―植物編―p.703．愛知県環境部自然環境課．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　ミズゴケ科＞

ユガミミズゴケ　*Sphagnum subsecundum* Nees et Sturm

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

本州中部以北から北海道まで分布する種であるが、市域では生育している湿地は極めて少ない。オオミズゴケと同じ湿地にオオミズゴケの群落に接して生育しており、一緒に採取される恐れがある。

【形　態】

黄緑色～黄褐色でオオミズゴケより小形であるが、大きさや形に変異が多い。枝は少なく、あっても1ヶ所に1～2本で短い。茎葉は卵状舌形で深く凹み、頂部は円形でささくれる。枝葉は広卵形で深く凹み、片側に著しく歪んでいる。枝葉の横断面で葉緑細胞は樽形になり、背腹両面に開くが腹面側が僅かに広く開く。

ユガミミズゴケ
守山区東谷山、1974年10月10日、成田務　1975

【分布の概要】

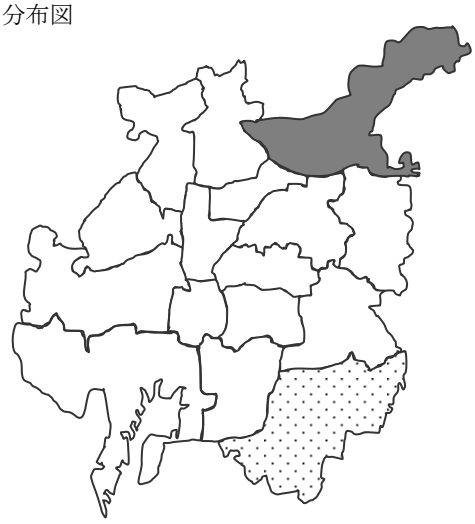
【市内の分布】
守山区（Nar. 5793）、緑区（Nar. 2215a）。

【県内の分布】
名古屋市、設楽町、新城市、岡崎市、豊橋市、幅豆町、田原市。

【国内の分布】
北海道から九州に広く分布するが、本州中部以北に優勢である。

【世界の分布】
北半球周極地域、インド、タイ、バリ、ニューギニア（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

生育地は、オオミズゴケとよく似た環境で丘陵地下部の湧水により涵養された湿地に生育している。オオミズゴケと比べ生育地は少ない。生態的特性はオオミズゴケに似ているが水に浸かるような水分の多い所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

オオミズゴケの生育する湿地の水に浸かるような環境に生育している。生育地はわずか2ヶ所であったが、緑区滝ノ水地区にあった1ヶ所は土地区画整理事業により消滅した。

【保全上の留意点】

生育地である湿地を成立させている環境の保全に留意する必要がある。

【特記事項】

北周極要素種で、名古屋市の蘚類フロラの性格を論ずる場合の重要な資料となる。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.2,p.36．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．1973．名古屋市内のミズゴケ類．くすのき 4:3．名古屋理科同好会．
成田　務．2001．愛知県のミズゴケ類．鳳来寺山自然科学博物館館報 40:47-51．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　イクビゴケ科＞

イクビゴケ　*Diphyscium fulvifolium* Mitt.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

本種は丘陵地の繁った林下の地上や林道に沿った穏やかな環境の土上に生育しているが、市内の生育地は少なく、2 地区が知られているのみである。いずれも公園内であり、採取の対象になるものではないが、道の改修や拡幅などにより削り取らないよう留意する必要がある。

【形　態】

茎は非常に短く 1mm 以下、蒴は長さ 3～4mm の麦粒状、茎葉は長楕円状披針形、葉身は長さ 3～6mm で葉頂から中肋が芒状に突出し、上部の葉では葉身の 2 倍以上の長さになるものもある。葉身は 2 細胞層からなり、表面に乳頭がある。雌苞葉はやや小形で上部は毛状突起で縁どられている。

イクビゴケ
守山区東谷山、2013 年 4 月 19 日、成田務　撮影

【分布の概要】

【市内の分布】
守山区東谷山、千種区東山公園。

【県内の分布】
山地を中心に広く分布している。

【国内の分布】
本州～琉球。

【世界の分布】
東南アジアに広く分布する（岩月 2001）。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地林下の直射日光の当たらない極端に乾燥することのない穏やかな環境に、マット状の群落を形成し生育している。乾燥すると葉は強く巻縮する。

【現在の生育状況／減少の要因】

大きなマット状の純群落を形成して元気に生育している。樹陰をつくる樹木の伐採や乾燥化を招く土地開発は、減少の大きな要因となる。

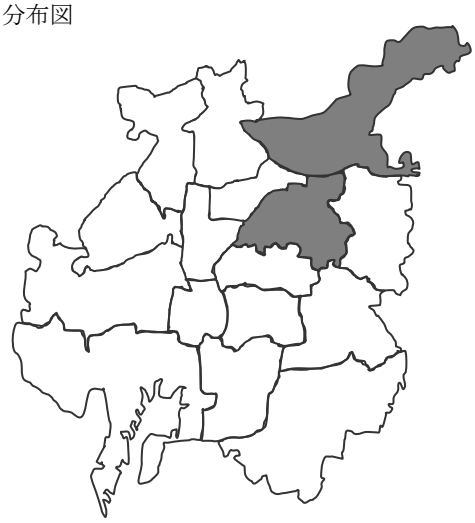
【保全上の留意点】

直射日光が当たったり乾燥化が進む恐れのあるような環境を変える工事に留意する必要がある。

【特記事項】

本種の生育は、日陰で強い乾燥のない穏やかな環境を表す指標となる。

市内分布図



【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.6,p.42．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．1998．名古屋市域のコケ植物．シダとこけ 15:20-26.

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　スギゴケ科＞

ハミズゴケ　*Pogonatum spinulosum* Mitt.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

丘陵地の樹林下の路傍や切り通しなどの露出した土上に散生する。原糸体は永存性で直射光や湿り気などの環境変化には非常に敏感で、周囲の樹林伐採などの影響を受けて絶滅するおそれがある。

【形　態】

永存性の原始体を本土に広げ、その上に退化した黄褐色の配偶体を形成する。茎は短く2mm前後、葉は鱗片状で、表面に薄板はなく葉緑体はあまり含まない。葉は茎に密着し、湿っても広がらず、中肋は長い芒状に突出する。蒴柄は2～4.5cm、蒴は円筒形。雌雄異株。

ハミズゴケ
守山区東谷山、2000年11月26日、成田務　9780

【分布の概要】

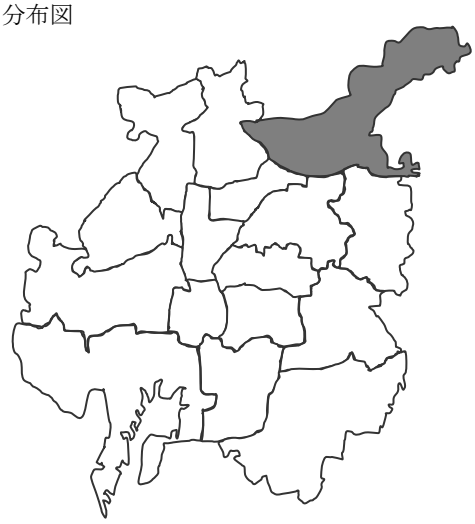
【市内の分布】
守山区東谷山山道沿いの樹林下の土上に生育している。

【県内の分布】
名古屋市、瀬戸市、豊田市、岡崎市、新城市、設楽町、東栄町などに分布している。

【国内の分布】
北海道～九州。

【世界の分布】
中国、朝鮮、極東ロシア、フィリピン、ベトナム（岩月2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

樹林下の直射光のあたらない土上で、極端な乾燥が起こらなく適度な湿気が保たれる穏やかな環境に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

東谷山の山道沿いの土壌は乾燥傾向にあり配偶体を見つけるのが困難になっている。

【保全上の留意点】

直射光が当たったり、乾燥化を招くような樹木の伐採に留意することが必要である。

【特記事項】

原糸体だけでは確認ができない。配偶体が形成されてはじめて存在が確認できる。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.11,p.47．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．2008．名古屋の生物　コケ植物．新修名古屋市史資料編　自然 pp197-206．名古屋市．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　スギゴケ科＞

ウマスギゴケ　*Polytrichum commune* Hedw.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

北海道から九州まで、低地から高山まで広く分布する種であるが、市域では生育しているところは少ない。背の高い大型のコケで、明るい所の粘土質の土上に群生しているが、湿地のミズゴケ類に混じって生育していることもある。芝生状に群生する様子が美しく、コケ庭作りによく用いられる種で乱獲が心配される。

【形　態】

茎はほとんど枝分かれせず高さ 5～20cm になる大形のコケ。葉は鞘部から線状披針形にのび、乾くと茎に接着して縮れない。鞘部を除き薄板に覆われる。薄板は 5～7 細胞の高さがあり、薄板の端細胞は横断面で凹形。雌雄異株。

ウマスギゴケ
天白区島田緑地、2014 年 7 月 31 日、成田務　撮影

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区森林公園、千種区東山、天白区島田緑地に分布している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、日進市、豊明市、瀬戸市、豊田市、岡崎市、新城市、設楽町、東栄町などに分布している。

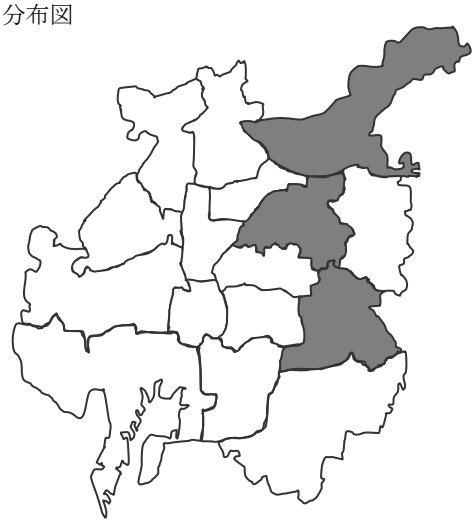
【国内の分布】

北海道～九州。

【世界の分布】

世界各地（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

低地から高山までの日当たりのよい粘土質の土上にマット状の群落をつくって生育する。湿地にもミズゴケ類や草本類に混じって生育する。雌雄異株で雌雄は混在せず、別々に群落を形成している。

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少なく、群落の大きいものはない。園芸対象になる種であるので、採取されることが減少の要因になると危惧される。

【保全上の留意点】

日当たりのよい場所を好むコケであるので生育地が 1 日中日陰になるような樹木の繁茂に留意する必要がある。

【特記事項】

雌雄異株で雄株は雌株より小形である。雌雄は通常混在することなく別々に群落を形成している。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.12,pp.47-48．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．2008．名古屋の生物　コケ植物．新修名古屋市史資料編　自然　目録 p22．名古屋市．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　シッポゴケ科＞

ツリバリゴケモドキ　*Bryohumbertia subcomosa* (Dix.) Frahm

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

明るい丘陵地の林縁や切り通しの土上に生育するシッポゴケ科の小形の蘚類で、本州～琉球に広く分布するが、市内では１ヶ所で見つかっているだけで希少種であり、個体数も多くない。

【形　態】

茎は長さ 5～10mm、葉は幅広い基部から線状にのび長さ 5～7mm、中肋は強壮で葉先に達し、葉身部の半分を占める。蒴柄は湿ると白鳥の首のように曲がり、ヤマトハクチョウゴケに似ているが植物体は約 2 倍の大きさがある。帽は僧帽形で下部に房状の毛が並んでいる。

ツリバリゴケモドキ
千種区東山、2013 年 1 月 21 日、成田務　撮影

【分布の概要】

【市内の分布】
千種区東山。
【県内の分布】
名古屋市、日進市、豊田市、岡崎市、新城市。
【国内の分布】
本州、四国。
【世界の分布】
アジアの熱帯（岩月 2001）。

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい明るく比較的乾燥している丘陵地の路傍や切り通しの土上にまばらな群落を成して生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

公園内の切り通しになっている遊歩道脇の土上にも生育している。公園内にあり、園芸対象にもならないが、周囲の植物の繁茂により、日陰になると衰退して減少の原因となる。

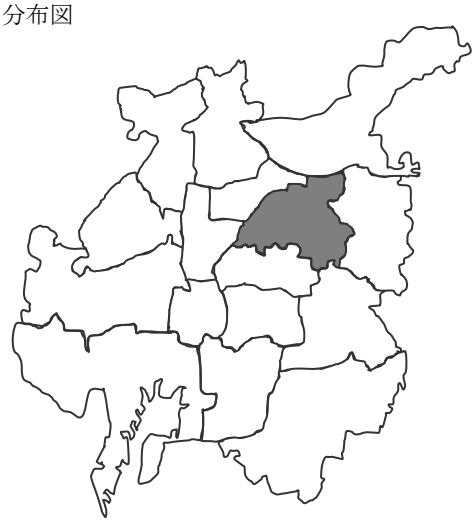
【保全上の留意点】

覆いかぶさるような植物があれば取り除くよう留意する必要がある。

【特記事項】

ツリバリゴケ属には似た種があるが帽の付いた蒴があると区別し易い。

市内分布図



【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.24,p.67．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．2005．豊田市自然環境基礎調査報告書　植物　蘚類 p.100．豊田市．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　シッポゴケ科＞

イクタマユハケゴケ　*Campylopus gemmiparus* Z.Iwats. et al.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

Iwatsuki et al.（2002）により新種として発表された種である。それまでマユハケゴケとして絶滅危惧種（国ランク VU）に選定されていたものの中にはマユハケゴケとは異なる新種があることが分かった。その結果それまで知られていた愛知県のものはすべて新種に相当したため『レッドデータブックあいち 2009　–植物編–』では評価対象外にされた種である。本州に広く分布するが市内での発見例は少なく独特な形態を示す蘚類でもある。

【形　態】

茎は長さ 1～2cm、茎頂の葉腋の短枝の上に長さ 0.5～2mm の多数の小葉状で落葉性の多数の無性芽をつける。葉先に荒い鋸歯があること、中肋があること等で、マユハケゴケと区別することができる。

イクタマユハケゴケ
名東区牧野ヶ池緑地、2012 年 11 月 9 日、成田務　撮影

【分布の概要】

【市内の分布】
千種区東山植物園内のソメイヨシノの樹幹基部土上、名東区牧野ヶ池緑地の林下。

【県内の分布】
名古屋市、日進市、岡崎市、豊橋市、新城市。

【国内の分布】
愛知県、静岡県、山口県。

【世界の分布】
東アジア、欧州、北米、アフリカ。

【生育地の環境／生態的特性】

生育地は、植物園内のソメイヨシノの樹幹基部の地上、樹林内の腐植土上や倒腐木上に見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

植物園内のソメイヨシノの樹幹基部のものは、ヒトの通行による土埃の被覆や乾燥化により減少して痕跡的になっているが、樹林下のものは、腐植土や倒腐木上に小群落を形成して生育しているのが見られる。

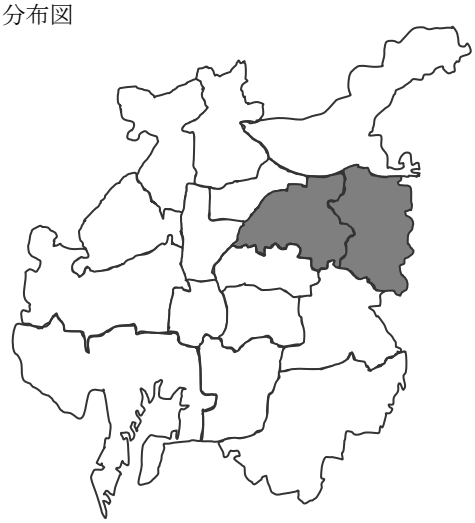
【保全上の留意点】

植物園のサクラの樹幹基部の保全は難しいが、樹林下のものは、林床の草本類の繁茂により被覆されないように留意する必要がある。

【特記事項】

茎頂の葉腋の短枝に多数の無性芽を付ける様子が眉刷毛に似ているのでマユハケゴケの和名がついている。

市内分布図



【引用文献】

Iwatsuki, Z., J.-P. Frahm, T. Suzuki and N. Takaki.　2002.　Gemmiferous species of *Campylopus* in Japan.　J. Hatt. Bot. Lab. 92:175-180.

【関連文献】

成田　務．2008．名古屋の生物　コケ植物．新修名古屋市史資料編　自然 p.205．名古屋市．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　シッポゴケ科＞

シッポゴケ　*Dicranum japonicum* Mitt.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

半日陰の樹林下の腐植質に富んだ土壌に生育するシッポゴケ科の中では大形の種である。北海道から九州の山地に広く分布する普通種であるが、本市には守山区と千種区の丘陵地に僅かに見られるのみの希少種になっている。

【形　態】

茎は長さ 3～8cm、白色の仮根をつける。葉は長さ 7～11mm、披針形で上部は溝状に凹む。湿ると茎に直角に近い角度で開出する。葉緑上半には鋭い歯がある。中肋は細く、上部背面には鋭い歯のある 2～3 列の低い薄板がある。

シッポゴケ
守山区東谷山、1998 年 9 月 10 日、成田務　8955

【分布の概要】

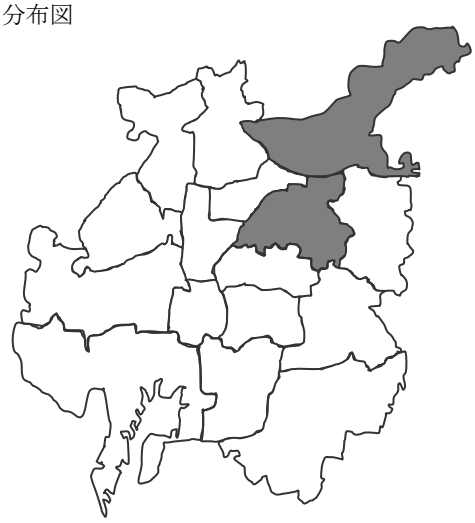
【市内の分布】
守山区東谷山、千種区東山公園。

【県内の分布】
名古屋市、瀬戸市、豊田市、岡崎市、新城市、豊橋市、設楽町、東栄町、豊根村等に広く分布している。

【国内の分布】
北海道から九州まで広く分布している。

【世界の分布】
朝鮮、中国（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

半日陰の疎林下の腐植土上に生育しているが大きい群落にはなっていない。直立する茎をもつ大型の蘚類であるため、極度な乾燥には弱く、半日陰の適度な湿り気が保たれる腐植質に富んだ土上に群生している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区は東谷山に小群落が 2 ヶ所、千種区は東山公園に小群落が 1 ヶ所あるが、周囲の植物が繁って被いかぶさるようになり生育が難しくなっている。

【保全上の留意点】

周囲の植物が生い繁って覆いかぶさることのないよう留意する必要がある。

【特記事項】

カモジゴケと外観が似ているが仮根が白いことで区別できる。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.28,p.73．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．2008．名古屋の生物　コケ植物．新修名古屋市史資料編 自然 目録 p.22．名古屋市．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　シッポゴケ科＞

カモジゴケ　*Dicranum scoparium* Hedw.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

県内には広く分布する普通種で、腐植質に富む半日陰の土上に群生する直立茎をもつ大形の蘚類である。市内では３ヶ所の産地が知られるのみであるが、丘陵地にあり、土地開発の危機に直面している。

【形　態】

茎は2～8cm、多くの褐色の仮根をつける。葉は長さ 7～10mm で、卵状披針形の基部から細い溝状に凹む葉身となり上半部の葉縁には歯がある。中肋は強く葉頂に達し、上部背面に2～4列の鋸歯のある低い薄板がある。葉は密につき乾燥すると鎌状に曲がる。

カモジゴケ
守山区東谷山、2003年3月4日、成田務　10278

【分布の概要】

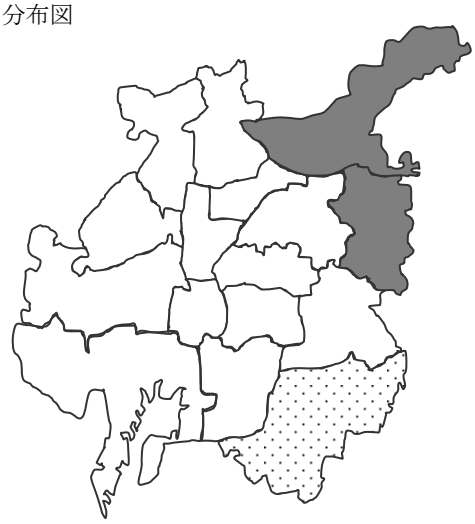
【市内の分布】
守山区、名東区、緑区に分布している。

【県内の分布】
名古屋市、瀬戸市、豊田市、岡崎市、新城市、豊橋市、設楽町、東栄町、豊根村等に広く分布している（Takaki1964）。

【国内の分布】
北海道から琉球まで広く分布している。

【世界の分布】
北半球の各地、ニュージーランド（岩月2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

腐植質の多い半日陰の地上に群生する。腐植質に富んだ土上に生え、密についた葉は乾燥すると同じ方向に鎌状に曲がる。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区、名東区、緑区に分布していたが緑区では土地改良事業による開発のため、生育地が消失し絶滅した。守山区と名東区はいずれも１地点に分布しているが、周囲の繁茂する植物による被覆が生育を妨げ減少の要因となる。

【保全上の留意点】

半陰半湿の穏やかな環境を維持するよう留意することが大切である。

【特記事項】

シッポゴケ科の中では大型の蘚類であるが雌雄異株で雄株には矮小のものもある。シッポゴケと外観が似ているが、仮根が褐色であることで判別できる。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.28,p.72-73．平凡社，東京．
Takaki, N．1964．A revision of the genus *Dicranum*．J. Hatt. Bot. Lab. 27:73-123.

【関連文献】

成田　務．2008．名古屋の生物　コケ植物．新修名古屋市史資料編　自然　目録 p.22．名古屋市．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜蘚類　ヤナギゴケ科＞

ヤナギゴケ　*Leptodictyum riparium* (Hedw.) Warnst.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

湿った地上や岩上、時に水中に生育することもある蘚類である。本市では唯一水中に生育するコケであり、生育地が 1 ヶ所のみの稀産種である。

【形　態】

配偶体は生育環境による変異が著しい。葉は披針形で細長く漸尖し、長さ 1.5～2mm。中肋は 1 本で葉の 1/2 以上あり、時に 3/4 に達するものもある。葉身細胞は線形で薄壁。翼細胞は方形～短形で薄壁。

ヤナギゴケ
守山区才井戸流、2000 年 11 月 26 日、成田務　9791

【分布の概要】

【市内の分布】
守山区（才井戸流）。
【県内の分布】
県内に広く分布している。
【国内の分布】
北海道～九州。
【世界の分布】
世界に広く分布（岩月 2001）。

【生育地の環境／生態的特性】

本種は湿った地上や岩上、水中など多様な環境に生育するが、市内では湧き出た地下水が流れ込んでいる用水路の水中に生育している。

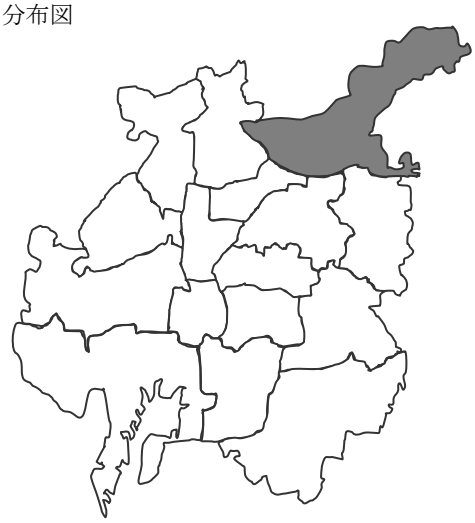
【現在の生育状況／減少の要因】

用水路を流れる水は増減はあるが常に流れており、川底に群落を形成している。用水路の水が干上がるような土地開発事業が減少の大きな要因となる。

【保全上の留意点】

土地開発事業による環境の変化について常に留意する必要がある。

市内分布図



【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ pl.101,p.185．平凡社，東京．

【関連文献】

成田　務．2008．名古屋の生物　コケ植物．新修名古屋市史資料編　自然　目録 p.22．名古屋市．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜苔類　ゼニゴケ科＞

ゼニゴケ　*Marchantia polymorpha* L.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	リスト外
環 境 省2014	リスト外

【選定理由】

人家付近の建物の北側や常緑樹の下などの日陰で湿り気のある土上や岩上に生育するが、都市化が進むにつれ、地面はコンクリートに覆われ乾燥化が進み、生育できる環境が急速に減少している。

【形　態】

植物体は葉状で、長さ 3～10cm、幅 7～10mm で 2 叉状に分岐し、中央に濃緑色の線がある。葉状体背面中央に円形の杯状体ができ、中に無性芽をつくる。雌雄異株。

ゼニゴケ
西区庄内緑地、2013 年 7 月 1 日、成田務　撮影

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区、西区、天白区、千種区、名東区、中区、中村区、中川区、熱田区、緑区に分布を確認している。市内に広く分布するが減少が著しい。

【県内の分布】

広く分布するが、都市部では減少傾向にある。

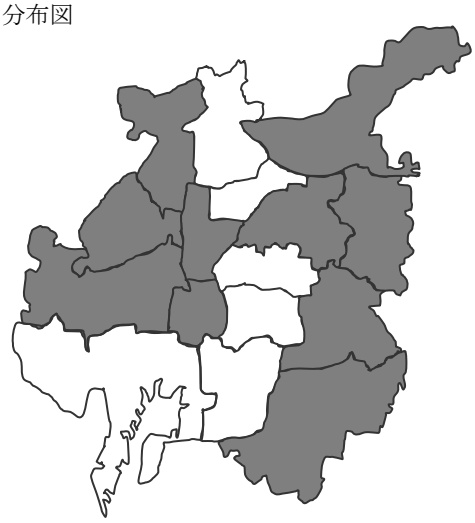
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州（岩月・水谷 1972）。

【世界の分布】

世界の各地（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

人家付近の直射光の当たらない湿り気のある土上や岩上に生育する。2 叉状に分岐し群生する。葉状体の背面中央の各所に杯状体ができ、中に円盤状の無性芽を作り繁殖する。雌雄異株。

【現在の生育状況／減少の要因】

日陰の湿り気のある土上に隙間なく覆うように群生する。以前にはよく目についたが、近年市街地を中心に減少している。また、よく似た形態をした帰化苔類のミカヅキゼニゴケに置きかわっていることがある。都市化の進行による生育環境の減少、同じ環境に生育する帰化苔類との競争に負けること等が要因である。

【保全上の留意点】

必要以上に地面をコンクリート等で覆うことを避ける。勢力の強い帰化種を駆除する。

【引用文献】

岩月善之助・水谷正美．1972．原色日本蘚苔類図鑑 pl.48,p.365．保育社，大阪．
岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物　コケ pl.88,p.315．平凡社，東京．

【関連文献】

寺尾恭平．1991．三重コケの会ニュース 16(1):2-3.

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜苔類　ウキゴケ科＞

ウキゴケ　*Riccia fluitans* L.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環 境 省2014	ランク外

【選定理由】

休耕による水田の減少、ため池の埋め立てによる減少などによる生育地の減少、更に、除草剤や殺虫剤の使用による水質汚濁など本種の減少や枯死等に影響をあたえる環境の変化が進行している。

【形　態】

植物体は葉状体で淡緑色、線形、長さ 10～30mm、幅 1～2mm、まばらに数回叉状分岐し、先端は、凹形となる。植物体の腹面には、仮根や鱗片状の付属物はない。植物体の内部には、大形の気室があるが、気質孔はない。

ウキゴケ
名東区猪高緑地、2012 年 11 月 9 日、成田務　撮影

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区、名東区、天白区、緑区の水田地帯や用水路、ため池などに分布している。

【県内の分布】

都市部を除いた農村地帯に広く分布している。

【国内の分布】

北海道から琉球諸島にかけて分布している（Iwatsuki2004）。

【世界の分布】

世界の各地（岩月 2001）。

【生育地の環境／生態的特性】

稲刈り後や休耕の水田、池沼の岸辺、用水路、湧水の流れる溝など、湿った土上や水中で団塊状になって生えるが、時には水面上に浮かぶこともある。1 年生植物で、水中型と地上型の 2 型がある。水中型は生殖器官ができず、仮根を生じない。地上型は稀に生殖器官をつけ、仮根を生じる。

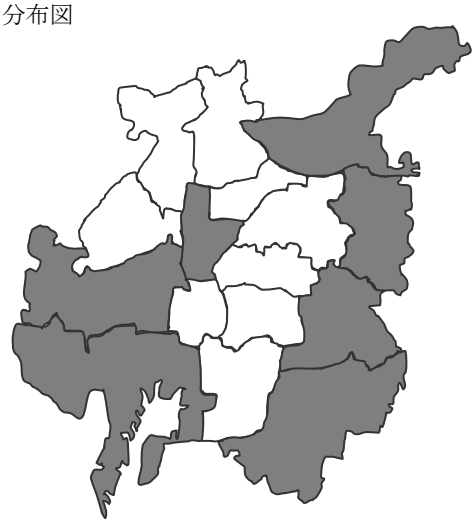
【現在の生育状況／減少の要因】

守山区の大村池や名東区の水田には、よく発達した群落がみられた。ため池の護岸工事や水田地帯の改修工事による生育地の減少や農薬の使用による害により減少している。

【保全上の留意点】

農薬に敏感で害を受けやすい。農薬の散布には配慮が必要である。

市内分布図



【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物　コケ pl.190,p.316．平凡社，東京．
Iwatsuki, Z．2004．New Catalog of the Mosses of Japan182pp．Hatt.Bot.Lab.，Nichinan.

【関連文献】

岩月善之助・水谷正美．1972．原色日本蘚苔類図鑑 p.369．保育社，大阪．
愛知県．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2009　―植物編―p.721．愛知県環境部自然環境課．

（執筆者　成田　務）

コケ植物　＜苔類　ウキゴケ科＞

イチョウウキゴケ　*Ricciocarpos natans* (L.) Corda

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛 知 県2015	準絶滅危惧
環 境 省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

水田や池沼の埋め立ての増加により、主な生育地が減少していること、除草剤や殺虫剤などの散布による水質環境の悪化が生育を脅かしていること、農薬の影響に敏感で、水田地帯の自然度を推察する指標となることなどに基づく。

【形　態】

植物体は葉状体で緑色、長さ 10～15mm、幅 4～8mm、二叉状分岐を繰り返しイチョウの葉に似た形になる。半円形以上になると 2 個体に分かれる。表面は光沢があり、中央に浅い溝がある。裏面は長いリボン状で暗紫色の腹鱗片が多数生える。

イチョウウキゴケ
守山区大村池、2013 年 6 月 18 日、成田務　撮影

【分布の概要】

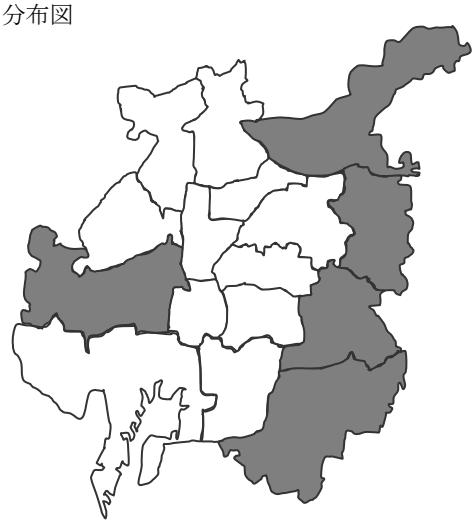
【市内の分布】
水田地帯、休耕田、溜め池等に分布する。

【県内の分布】
平野部、山間部に広く分布する。

【国内の分布】
全国に広く分布するが北海道には記録がない。

【世界の分布】
世界の各地に分布している（岩月 2001）。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

水田、休耕田、溜め池等の水面に浮游する水上型と、稲刈り後の水が引いた水田の泥土上や、水面が下がった池の湿土上に生える陸上型の二型が見られる。水上型は裏面に腹鱗片がよく発達しており、陸上型は腹鱗片はあまり発達せず、仮根が生える。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区、名東区、天白区、緑区、中川区等から分布が知られている（名古屋市 2008）が、年により、生育地が転々と変わるため、生育地の特定ができない。農薬に弱く、水田地帯の分布が減少している。冬期、葉状体の大部分は腐るが、先端部分の長さ 3～4mm が芽状に残り越冬する。

【保全上の留意点】

殺虫剤や除草剤などの農薬に敏感で害を受けやすいので、農薬の使用には考慮が必要である。

【引用文献】

岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物　コケ pl.189,p.317．平凡社，東京．

【関連文献】

岩月善之助・水谷正美．1972．原色日本蘚苔類図鑑 pl.48,p.367．保育社，大阪．
愛知県．2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち 2009　―植物編―p.722．愛知県環境部自然環境課．
名古屋市．2008．コケ植物．新修名古屋市史資料編　自然 pp.20-25.

（執筆者　成田　務）

【 資 料 編 】

１．名古屋市版レッドリストから削除された種

２．維管束植物の県内分布表示に用いた区画の範囲と略称

３．維管束植物の評価手法の選定理由

４．維管束植物でリスト外と判定された種

５．レッドデータブックなごや 2015　植物編に関するＱ＆Ａ

６．文献一覧

７．執筆者及び協力者

１．名古屋市版レッドリストから削除された種

前回の名古屋市版レッドリストに掲載されていた植物のうち、今回見直しを行った結果レッドレッドリストから削除された植物の種名及び削除された理由は以下の通りである。

維管束植物

（2 種）

・アオウシノケグサ（イネ科、2010 年 EX）　誤同定であることが判明した。

・シロヤマシダ（メシダ科、2010 年 EN）　標本を検討したところ胞子のう群をつけていない個体で、稀少偶産種と見なすのが適切と判断された。

２．維管束植物の県内分布表示に用いた区画の範囲と略称

区画区分は、市町村界を基礎に、二次メッシュに相当するほぼ 100km² を基準とし、200km² を超える市町村は行政界、地形界、大型構造物などにより分割し、50km² 以下の市町村は合併するという方針で設定した。ただし、郡を超える合併は原則として避け、ある市町村を分割した区画の一つと他の市町村を合併することも避けた。2004 年版レッドデータブックと比較すると、市町村合併に伴い 13, 14, 53, 54, 55 の範囲が変更され、5 が西三河に移され、さらに相当数の区画の略称が変更されている。

図１　県内分布区画図

表９　県内分布表示に用いた区画

地域	番号	略称	範囲
東三河	1	豊根東部	豊根村（旧富山村）
	2	豊根西部	豊根村（旧村域）
	3	東栄	東栄町
	4	津具	設楽町（旧津具村）
	6	設楽西部	設楽町（旧町域の寒狭川・境川以西）
	7	設楽東部	設楽町（旧町域の寒狭川・境川以東）
	8	鳳来北東部	新城市（旧鳳来町の中央構造線以北、寒狭川・海老川以東）
	9	鳳来南部	新城市（旧鳳来町の中央構造線以南）
	10	鳳来北西部	新城市（旧鳳来町の寒狭川・海老川以西）
	11	作手	新城市（旧作手村）
	12	新城	新城市（旧市域）
	13	豊川	豊川市
	14	蒲郡	蒲郡市
	15	豊橋北部	豊橋市の東海道本線以北
	16	豊橋南部	豊橋市の東海道本線以南
	17	田原東部	田原市（旧田原町、旧赤羽根町）
	18	田原西部	田原市（旧渥美町）
西三河	5	稲武	豊田市（旧稲武町）
	19	旭	豊田市（旧旭町）
	20	足助	豊田市（旧足助町）
	21	下山	豊田市（旧下山村）
	22	小原	豊田市（旧小原村）
	23	藤岡	豊田市（旧藤岡町）
	24	豊田東部	豊田市（旧市域の矢作川・御船川以東）
	25	豊田北西部	豊田市（旧市域の矢作川・御船川以西、国道 153 号バイパス以北）
	26	豊田南西部	豊田市（旧市域の矢作川以西、国道 153 号バイパス以南）
	27	みよし	みよし市
	28	額田	岡崎市（旧額田町）
	29	岡崎北部	岡崎市（旧市域の矢作川・乙川・男川以北）
	30	岡崎南部	岡崎市（旧市域の矢作川・乙川・男川以南）
	31	幸田	幸田町
	32	刈谷知立	刈谷市、知立市
	33	安城	安城市
	34	高浜碧南	高浜市、碧南市
	35	西尾北部	西尾市（旧市域）
	36	西尾南部	西尾市（旧一色町、吉良町、幡豆町）
尾張	37	瀬戸尾張旭	瀬戸市、尾張旭市
	38	長久手日進	長久手市、日進市
	39	豊明東郷	東郷町、豊明市
	40	大府東浦	大府市、東浦町
	41	東海知多	東海市、知多市
	42	半田武豊	阿久比町、半田市、武豊町
	43	常滑	常滑市
	44	美浜南知多	美浜町、南知多町
	45	犬山	犬山市
	46	江南丹羽	丹羽郡、江南市
	47	小牧	小牧市
	48	春日井	春日井市
	49	岩倉西春日井	岩倉市、豊山町、北名古屋市、清須市
	50－52	－	名古屋市
	53	一宮東部	一宮市（奥町を除く旧市域）
	54	一宮西部	一宮市（奥町、旧木曽川町、旧尾西市）
	55	稲沢	稲沢市
	56	あま大治	あま市、大治町
	57	津島愛西	津島市、愛西市
	58	海部南部	蟹江町、弥富市、飛島村

３．維管束植物の評価手法の選定理由

維管束植物においては、個体数、集団数、生育環境の減少傾向、人為的圧力の程度、県内分布の５項目についてそれぞれ４段階で評価し､その評価点の合計値をもとにカテゴリーを判定した。このような評価手法を用いた理由は、以下の通りである。

絶滅危惧生物各カテゴリーの判定基準としては、国際自然保護連合 IUCN（2001）により、およそ表 10 のようなものが示されている。

表 10　IUCN の基準の概略

カテゴリー	絶滅危惧ⅠＡ類	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧Ⅱ類
Ａ：10 年間または 3 世代の減少率	80%以上	50%以上	20%以上
Ｂ：生育地面積	10km² 未満	500km² 未満	2,000km² 未満
Ｃ：減少率と個体数の組合せ	25%以上で 250 未満	20%以上で 2,500 未満	10 以上で 10,000 未満
Ｄ：成熟個体数	50 未満	250 未満	1,000 未満
Ｅ：絶滅確率	10 年間または 3 世代で 50%以上	20 年間または 5 世代で 20%以上	100 年間で 10%以上

これらの基準のうちでは､絶滅確率を示すＥ基準が最も本質的なものである。しかし現実には、絶滅確率を正確に求めることは容易ではない。そこで、補助的な基準として個体数、減少率、生育面積などによるＡ～Ｄ基準が設置されており、各基準で評価された結果の中で最も高位のものをその種の評価とすることになっている。ただし植物の場合は、生育面積はそれを個体のレベルでとらえるか、群落のレベルでとらえるか、それとももっと大きな地理的分布のレベルでとらえるかによって数値が全く違ってしまい、使用しにくい。また個体数と減少率は、両者を組み合わせることによってその種の将来の運命が一義的に予測できるから、別の基準とする必要はない。そこで環境庁 2000 年版レッドデータブックでは、Ａ、Ｃ、Ｄを組み合わせた基準とＥ基準を用いて、各種の評価が行われた（環境庁 2000、矢原 2002）。環境庁版のＡＣＤ基準は、図 2 で示すことができる。

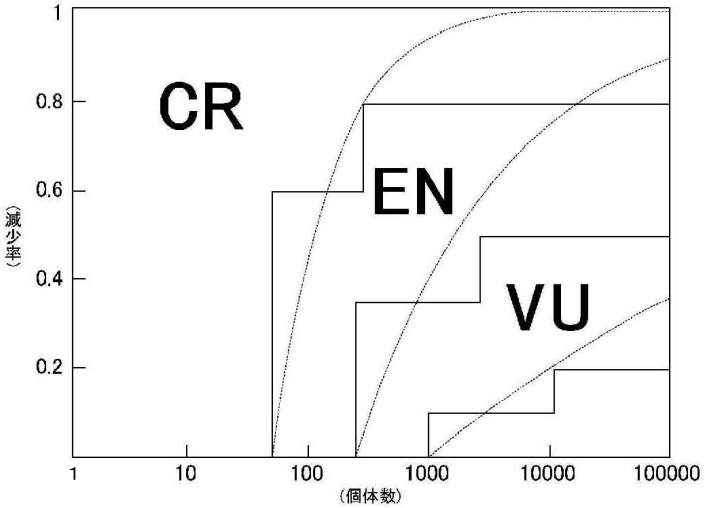


図２　環境庁版ＡＣＤ基準（曲線）と IUCN のＡ, Ｃ, Ｄ基準（折れ線）の関係

しかしながら、環境庁版のＡＣＤ基準やＥ基準計算法にはいくつかの論理的な、あるいは技術的な問題点があり（芹沢 2003a）、少なくともそのままの形で都道府県、あるいは市町村のような小地域のレッドデータブックに適用することは適切でない。そこで愛知県 2001 年版レッドデータブックでは、現存個体数と減少率、再侵入確率を、5 つの評価項目によって点数化し（表 11）、それらの合計点をもとに、原則として総点 16 以上を絶滅危惧ＩＡ類、14～15 を絶滅危惧ＩＢ類、12～13 を絶滅危惧Ⅱ類、11 を準絶滅危惧、10 以下をリスト外と判定するという手法を採用した（愛知県 2001、芹沢 2003b）。

表 11　愛知県版レッドデータブック（維管束植物）で用いられた評価基準

評価点	4	3	2	1
個体数	10 未満	100 未満	1,000 未満	1,000 以上
集団数	1～2	3～5	6～15	16 以上
生育環境の減少傾向	著しく減少 ・自然湿地・草地 ・やせ山・砂浜 ・石灰岩地の岩場 ・塩湿地・湿田 ・貧栄養水域 ・平野部の非汚染水域 など	やや減少 ・自然林 ・二次林 ・石灰岩地以外の岩場 ・平野部以外の非汚染水域 など	増減なし ・造林地 ・外洋 非汚染水域と過栄養水域の中間的環境 など	増　加 ・攪乱地 ・整理済水田 ・過栄養水域 など
人為的圧力の程度	極めて強い ・極度に強い開発圧または採取圧がある ・開発圧も採取圧もあり、少なくともどちらかが強い	強　い ・強い開発圧または強い採取圧がある ・開発圧も採取圧もある	あ　り ・開発圧（伐採を含む）または採取圧（可能性を含む）がある	な　し
地域固有性	強　い ・固有種 ・著しい隔離分布	やや強い ・全国的に少なく、分布の限界 ・準固有種	弱　い ・隣接地に多いが、分布の限界 ・全国的に少ない	な　し ・隣接地に多く、分布の限界でもない

そこで名古屋市 2004 年版レッドデータブックにおいては、上位リストとの整合性を確保するという観点から基本的な評価手法は愛知県のものを踏襲し、個体数、集団数、生育環境の減少傾向、人為的圧力の程度、再侵入確率の５項目を点数化して総合する手法で行った。ただし、個体数、集団数の数値基準は、対象面積が狭くなったことにあわせて、ほぼ１ランクずらせた。生育環境の減少に関する具体例は、名古屋市での実態にあわせて、一部修正した。再侵入確率の指標としては、可能な限り数値基準を示すことができる指標を用いることが望ましいので、地域固有性の代わりに県内の分布区画数を用いた。また、藤井（2002）の指摘するスケール依存のパラドックスを補正するため、固有度補正項を加えた。その結果作成されたものが、9 頁表 3 に示した評価基準である。今回の 2015 年版レッドデータブックでも、2004 年版との整合性を確保するため、この手法がそのまま使用されている。

＜引用文献＞

愛知県．2001．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物–レッドデータブックあいち・植物編 2001．同県環境部自然環境課.

藤井伸二．2002．地方版レッドデータブックの成果と問題点．種生物学会編：保全と復元の生物学－野生生物を救う科学的思考 pp.95-107．文一総合出版，東京.

IUCN．2001．IUCN Red Rist Categories, versioi 3.1．IUCN.

環境庁．2000．日本の絶滅のおそれのある野生生物　–レッドデータブック–　8　植物Ⅰ（維管束植物）．自然環境研究センター，東京.

芹沢俊介．2003a．維管束植物レッドデータブックの課題（1）環境庁 2000 年版レッドデータブックの意義と問題点．分類 3:141-148.

芹沢俊介．2003b．維管束植物レッドデータブックの課題（2）地方版レッドデータブックの評価手法とチェック項目．分類 3:149-158.

矢原徹一．2002．植物レッドデータブックにおける絶滅リスク評価とその応用．種生物学会編：保全と復元の生物学－野生生物を救う科学的思考 pp.59-93．文一総合出版，東京.

４．維管束植物でリスト外と判定された種

今回調査対象とした維管束植物種の中で、本書のレッドリスト、または国・県リストに収録されなかったものと、その理由は以下の通りである。ユウガギクについては、確実な資料が得られた場合は、リスト掲載種に準ずるものとして取り扱う必要がある。レッドリストに収録されておらずここにも掲載されていない種は、未評価である。環境影響評価などの際に未評価種が記録された場合は、それらが品種レベルの植物、雑種性植物、外来種、あるいは明らかな普通種でない限り、レッドリスト収録種に準ずるものとして取り扱う必要がある。

小葉類	ヒカゲノカズラ科	ミズスギ	評価点 10 以下
シダ植物	ヒメシダ科	イブキシダ	希少偶産種
シダ植物	メシダ科	タニイヌワラビ	希少偶産種
シダ植物	メシダ科	ヒカゲワラビ	希少偶産種
シダ植物	メシダ科	シロヤマシダ	希少偶産種
シダ植物	オシダ科	キヨスミヒメワラビ	希少偶産種
シダ植物	オシダ科	オシダ	希少偶産種
シダ植物	オシダ科	イワヘゴ	希少偶産種
シダ植物	オシダ科	ジュウモンジシダ	希少偶産種
シダ植物	シノブ科	シノブ	評価点 10 以下
シダ植物	ウラボシ科	マメヅタ	評価点 10 以下
被子植物・初期分岐群	ウマノスズクサ科	ヒメカンアオイ（ゼニバサイシンを含む）	評価点 10 以下
被子植物・初期分岐群	モクレン科	ホオノキ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	オモダカ科	ウリカワ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ヤマノイモ科	カエデドコロ	希少偶産種
被子植物・単子葉類	イヌサフラン科	ホウチャクソウ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ラン科	エンシュウムヨウラン	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ラン科	コクラン	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ラン科	オオバノトンボソウ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ヒガンバナ科	キツネノカミソリ	希少偶産種
被子植物・単子葉類	キジカクシ科	ミズギボウシ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ガマ科	コガマ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	ホシクサ科	ホシクサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イグサ科	ヤマスズメノヒエ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	ヤガミスゲ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	オオシマカンスゲ	逸出
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	ノゲヌカスゲ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	チャイトスゲ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	シロガヤツリ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	アオテンツキ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	ミカヅキグサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	ウキヤガラ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	ヒメホタルイ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	コマツカサススキ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	カヤツリグサ科	コウキヤガラ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	ウシクサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	ムツオレグサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	コウボウ	資料不十分
被子植物・単子葉類	イネ科	ハイチゴザサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	エゾノサヤヌカグサ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	オギ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	イネ科	ススキ	評価点 10 以下
被子植物・単子葉類	マツモ科	マツモ	評価点 10 以下
被子植物・真正双子葉類	ケシ科	キケマン	評価点 10 以下

被子植物・真正双子葉類	キンポウゲ科	ボタンヅル	希少偶産種
被子植物・真正双子葉類	アワブキ科	アワブキ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	ユキノシタ科	ヤマネコノメソウ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	マメ科	クズ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	バラ科	ビロードイチゴ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	バラ科	コゴメウツギ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	クロウメモドキ科	クマヤナギ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	イラクサ科	ラセイタソウ	移入
被子植物・真正双子葉類	イラクサ科	オオサンショウソウ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	ブナ科	ツブラジイ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	ブナ科	アベマキ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	カバノキ科	ヤマハンノキ	希少偶産種
被子植物・真正双子葉類	ヤナギ科	イイギリ	逸出
被子植物・真正双子葉類	ヤナギ科	ネコヤナギ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	ヤナギ科	オオタチヤナギ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	ヤナギ科	コゴメヤナギ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	ムクロジ科	カラコギカエデ	逸出
被子植物・真正双子葉類	アオイ科	ラセンソウ	希少偶産種
被子植物・真正双子葉類	アブラナ科	ハマダイコン	帰化
被子植物・真正双子葉類	ビャクダン科	ヒノキバヤドリギ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	タデ科	シンミズヒキ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	タデ科	シロバナサクラタデ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	タデ科	サデクサ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	モウセンゴケ科	トウカイコモウセンゴケ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	ツルナ科	ツルナ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	ミズキ科	クマノミズキ	希少偶産種
被子植物・真正双子葉類	サクラソウ科	イズセンリョウ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	ツツジ科	コバノミツバツツジ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	アカネ科	アカネ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	リンドウ科	ハルリンドウ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	キョウチクトウ科	コバノカモメヅル	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	オオバコ科	サワトウガラシ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	オオバコ科	アブノメ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	シソ科	コムラサキ	逸出
被子植物・真正双子葉類	キキョウ科	ツリガネニンジン	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	タカアザミ	希少偶産種
被子植物・真正双子葉類	キク科	ハハコグサ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	スイラン	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	ノニガナ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	ユウガギク	資料不十分
被子植物・真正双子葉類	キク科	ヨメナ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	コオニタビラコ	評価点10以下
被子植物・真正双子葉類	キク科	ニホンタンポポ	評価点10以下

５．レッドデータブックなごや2015　植物編に関するＱ＆Ａ

Ｑ１：レッドリスト掲載種は、希少種と考えてよいか。

Ａ１：レッドリストは、それぞれの種に対して現在加えられている圧力が将来もそのまま継続すると仮定した場合、その種の絶滅リスクがどの程度であるかという観点から評価が行われています。そのため、リスト掲載種はかならずしも希少種というわけではありません。例えば、以前からごく普通に見られ現在もまだかなりの個体数が存在している種Ａでも、減少傾向が著しくこのまま減少した場合は、もともと希少であったが減少傾向が著しくない種Ｂよりも早く絶滅してしまうと考えられます。このような場合、種Ａは種Ｂよりも高いランクに評価されます。ただし、生育地点が限られているという意味で希少な種は、たとえ今まで特に減少していなくても、その場所が何かの事情により破壊されれば容易に絶滅してしまう可能性があります。このように存続の基盤が脆弱な種は、その点も考慮して評価が行われています。

Ｑ２：レッドデータブックで上位カテゴリーに属するとされた種ほど、保全上の重要性も大きいと考えてよいか／保全上の重要性は、レッドリストの評価に反映されているか。

Ａ２：レッドデータブックは、自然環境保全のための基礎資料として作られています。それなら保全上の重要性に基づいてランク分けをしたらよいではないかと思う人も多いと思いますが、実は個々の種の保全上の重要性は、レッドリストの評価では考慮されていません。レッドリストの評価は、その種が名古屋市内から絶滅するリスクがどの程度かということだけに基づいて行われています。つまり保全上の重要性は、必ずしもレッドリストの評価とは一致しません。

なぜ保全上の重要性を考慮しないかというと、保全上の重要性は、必ずしも一義的に決定できないからです。例えばマメナシは、名古屋市内にはまだ数十株はあり、さしあたり風前の灯という状況ではありません。今回の評価は絶滅危惧ＩＢ類です。名古屋市内の生物多様性だけを考えるならば、市内に１本しかない樹木の方が重要です。しかしマメナシは、おそらく日本全体に現存する個体の過半数が名古屋市に生育しています。名古屋市での絶滅は、日本全体での絶滅に直結します。日本全体の生物多様性を保全するために名古屋市民が負うべき責務という観点に立てば、マメナシはまだ数十株あると言っても、名古屋市内には１本しかないが周辺の山地にはたくさんある樹木より、はるかに保全上の重要性が高いでしょう。

更に保全上の重要性は、植物とは無関係な他の価値観にも依存します。きれいな（きれいかどうかは人間の主観の問題で、植物とは無関係です）花の咲く植物は、花の目立たない植物より保全上重要だという考え方もあるでしょう。「この場所は多くの市民に利用されているから、そこにある植物は他の場所にあるものと違って特に重要だ」というように、利用価値という観点からの判断もあるでしょう。このようなことを考慮していたら、評価の中立性が保てません。東海地方固有、分布域の限界、あるいは愛知県では生育地がきわめて少ないなどの理由で特に保全上重要と判断される種については、名古屋市における維管束植物の概要の項とそれぞれの種の解説の中で、評価結果とは別に記述してあります。　（執筆者　芹沢俊介）

Ｑ３：名古屋市で179種が絶滅危惧というのは、多すぎないか。

Ａ３：絶滅危惧Ⅱ類の基準は、100年後の絶滅確率が10%以上です。絶滅危惧種179の10%は、18種にすぎません。100年前、すなわち大正初期以降現在までの名古屋市域の変貌を考えてみてくださ

い。「藤が丘まで地下鉄を延ばしても、キツネかタヌキしか乗らんがや！」と悪口を言われたのも、そんなに昔の話ではありません。名古屋市のような大都市で、現在以上の追加的な保護対策が何もとられないとしたら、100 年後に 18 種しか絶滅しないと考えるのはむしろあまりにも控え目な見積もりでしょう。このままでいったら 100 年後には 179 種全部が絶滅すると考えても、まだ控え目かもしれません。上位カテゴリーに評価された種の存在を考慮しても、間違っても多すぎるということはありません。　（執筆者　芹沢俊介）

Ｑ４：レッドリスト掲載種が前のレッドリストと比較して増加しているのは、名古屋市の環境がこれだけ悪化したという意味か。

Ａ４：必ずしもそうではありません。維管束植物については、今回増加した絶滅危惧種の大部分は、調査が進展した結果名古屋市域で新たに生育が確認された種、あるいは研究が進展した結果今まで一つの種と思われていたものが複数の種に分割されて、分割後のそれぞれの種について生育状況を再検討した結果、一部がリストに掲載されたというものです。また、今回新たにコケ植物を調査対象に加えたため、その分全体の掲載種数が増えています。

今回のレッドリストでも、名古屋市域に生息・生育する全ての生物群が調査対象となっているわけではありません。調査対象になっていない生物群は、「名古屋市域における絶滅危惧の程度が未評価」です。また、調査対象になっている生物群でも、全てについて十分な調査ができているわけではありません。レッドリストは、残念ながら「これが名古屋市域の絶滅種／絶滅危惧種の全てだ」というものにはなっていません。「名古屋市域の絶滅種／絶滅危惧種には少なくともこのようなものがある」という性格のものだと思ってください。

Ｑ５：名古屋市のレッドデータブックは、名古屋市独自の基準で作ればよいと思う。なぜ国際基準や国の基準を考慮するのか。

Ａ５：名古屋市のレッドデータブックは、絶滅危惧種に関する広範な情報ネットワークの一部をなすものです。それぞれの地域がそれぞれの基準でレッドデータブックを作成すると、情報の互換性が保証されないため、名古屋市のレッドデータブックは、国、あるいは愛知県のリストと整合性を持つように評価基準を設定し、実際の評価を行っています。

Ｑ６：固有性や隔離分布、分布の限界などは植物の学術上の貴重性であり、絶滅危惧の程度とは関係ないのではないか。

Ａ６：世界全体、あるいは島国である日本全体の場合と異なり、愛知県、あるいは名古屋市のような隣接地と地続きの地域では、植物はしばしば周辺域から分布を拡大してきます。その場所で一度絶滅しても、周辺から再度侵入してくれば、絶滅したことにはなりません。固有性、隔離分布、分布の限界などは、この再侵入確率に関係します。固有種、隔離分布種、あるいは分布域の限界にあたる種は、一度絶滅してしまったら再度侵入してくる可能性が低いため、相対的に絶滅リスクが大きく見積もられます。一方名古屋市では希少だが周辺地にはたくさんあるという植物は、現在あるものがなくなる可能性が大きくても再侵入の可能性も大きいため、相対的に絶滅リスクが小さく見積もられます。　（執筆者　芹沢俊介）

Ｑ７：維管束植物の種の配列は、「レッドデータブックなごや 2010　–2004 年版補遺–」とも、一般的な図鑑類とも全く異なっている。どうしてこのような配列を採用したのか。

Ａ７：維管束植物の種は、現在発行されている一般的な図鑑類では、新エングラー分類系というシステムに従って配列されています。この分類系はいろいろ問題点があることがわかっていたのですが、どう変えたらよいかとなると定説がなく、今まで広く使われてきました。しかし、最近の分子系統学的な研究の結果、生物の系統関係が正確に推定できるようになり、被子植物についてもその成果が 2009 年に APGⅢ分類系としてまとめられました。この分類系は、今後の研究によってまだ多少修正される可能性はありますが、大筋では被子植物の系統関係を正しく反映していると思われます。愛知県の維管束植物標本を最も多く保管している愛知みどりの会標本室では、2013 年に標本配列を思い切ってこの分類系に切り替えました（国内の主要標本室の中では、国立科学博物館がすでに配列を切り替えています）。それに伴い、愛知みどりの会の標本が基礎となっている各種資料でも、「レッドリストあいち 2015」を含めて、2014 年から新しい分類系を採用することになりました。

新しい分類系は、当面は不慣れなため、とても不便だと思います。執筆者自身も、「あれ、この植物はどこに行ってしまったのだろう」と戸惑うことがあります。しかし将来的には、各種文献は全てこの分類系に切り替えられ、新エングラー分類系を使う人はいなくなると思われます。それならば、早く新しい分類系に慣れる方が得策です。ご理解をお願いします。　　（執筆者　芹沢俊介）

Ｑ８：名古屋城のツメレンゲは移入された可能性があり、「レッドデータブックあいち 2009」でもその旨記述されている。それならば名古屋市での評価は絶滅危惧Ⅱ類ではなく、国・県リストになるのではないか。

Ａ８：ご指摘の名古屋市のレッドリストと愛知県のレッドデータブックのずれは、安全原則（よくわからないものは、安全側に評価する）によるものです。名古屋城のツメレンゲは確かに移入の疑いがありますが、名古屋城しか生育地が知られていない名古屋市の場合は、自生の可能性をもとに評価されています。しかし名古屋城以外に確実な自生地がある愛知県の場合は、名古屋城のものを除いたらどうなるかが付記されています。　　（執筆者　芹沢俊介）

Ｑ９：ウラギクは、2013 年秋には１カ所で３個体しか見ることができなかった。絶滅危惧ＩＢ類ではなく絶滅危惧ＩＡ類と評価すべきではないか。

Ａ９：ウラギクは、今回のレッドデータブックでは個体数階級 3、集団数階級 4 として評価されています。庄内川河口部をくまなく調査することは困難ですが、仮に３個体が現存する全てであったとしても、絶滅危惧ＩＢ類という評価は変わりません。また、ウラギクは多少攪乱された場所によく生育する植物ですから、近年の減少は攪乱の減少によるものであり、軽度の攪乱があれば個体数は回復すると推定されます。そのため確認個体数が０になったとしても、生育環境が大幅に改変されない限り、他種とのバランスから定性的に絶滅危惧ＩＢ類と評価されると思われます。

（執筆者　芹沢俊介）

Ｑ１０：ナガバノイシモチソウは、守山区に播種され、生育している場所がある。それなのになぜ「絶滅」と評価されたか。

Ａ１０：レッドデータブックは、本来の生育地での生育状態が評価対象です。移植等により本来の生育地と異なる場所に生育しているものは、国際自然保護連合の指針により、一見自生状態になってい

ても「野生絶滅」と判定することとされています。自然の中に人為的に移植された植物は、いかに希少種であっても、外来種として扱われます。　（執筆者　芹沢俊介）

Ｑ１１：今回のレッドリストを見ると、市内での最新の状況が十分把握されていないように思われる。もっと多くの人に調査に参加してもらったらどうか。

Ａ１１：「市内をくまなくきちんと調査したか」と問われれば、それは残念ながら否と答えざるを得ません。今回の見直し調査期間を通して、私たちはできる限り現地調査を行ったつもりですが、維管束植物は種類数が多い（レッドデータブック掲載種の約半分を占める）のに調査者の人数が少なく、高齢化も進んでおり、更に名古屋市は植物の生育密度が低くて調査の効率が悪いため、市内全域を十分調査するには至りませんでした。過去に記録があるものについても、特に東谷山や庄内川河口部のような近年大幅な地形改変が行われていない場所に生育している種については、どうしても再確認が後回しになってしまいました。新たに調査に参加してくださる人を求めてなごや生物多様性センターで説明会も開きましたが、実際に調査に参加してくださった方は多くありませんでした。植物が絶滅する前に、植物を調査する人が絶滅しそうだ。これは笑えない現実です。

維管束植物は肉眼で容易に観察できるだけでなくよい図鑑類も多数発行されていますから、調査自体は誰でもいつでも行うことができます。標本の作成も、多少面倒ですが、特別な道具が必要というわけではありません。野外を歩いていて「これは」と思う植物に出会ったら、是非とも標本を作成し、なごや生物多様性センターにお寄せください。重要なのは、そのような日常的調査活動です。今回のレッドデータブックも、その相当部分は「レッドデータブックのための調査」を意識せずに蓄積された標本をもとに作成されています。　（執筆者　芹沢俊介）

Ｑ１２：写真は証拠資料にならないのか。

Ａ１２：実際に写真被写体の植物の同定を試みればすぐわかることですが、写真ではたいていの場合細部がわからず、正確な種名が判定できません。しかも、写真はしばしば撮影場所や撮影年月日などのデータが明確でなく、十分な資料性がありません。図書として印刷されていない場合は、永続性という点でも問題があります。もちろん文字の記録しかないというよりははるかにましで、今回のレッドデータブックなごや・植物編でも絶滅種の一部は写真資料に依存していますが、一般的には写真は十分な証拠資料にならないと考えるべきです。

そのようなわけで、「これは」と思う植物に出会った時には、面倒でも必ず標本を作成し、なごや生物多様性センターなどに寄託して下さい。この手続きを怠ると、折角の観察結果が、公共の資産として活用できません。必要な時に標本を作成しない人は、本人の心情としてはともかく、客観的には自然を踏みつぶして歩くだけの山荒らしにすぎません。

（執筆者　芹沢俊介）

Ｑ１３：調査対象分類群として新たにコケ植物を追加したのはなぜか。また、他の分類群を追加しなかったのはなぜか。

Ａ１３：コケ植物は、愛知県のレッドデータブックでは2001年版から掲載されているため、以前から名古屋市のレッドリスト・レッドデータブックの調査対象分類群に加えることが検討されていました。この度幸いにして成田務氏にご協力いただけることになりましたので、検討会委員に加わっていただき、調査と評価を行いました。他の分類群についても、その群全体について、また名古屋市全域

について十分な生息・生育情報が蓄積されていることが判明すれば、調査対象分類群に追加し、評価を行うことを検討したいと考えています。

Ｑ１４：絶滅が心配されている植物を近くの湿地に植え込んで増やしたい／昔あったがなくなってしまった植物を植え込んで復活させたいが、どうだろうか。

Ａ１４：生物の分布には歴史性があります。もともとないものは、ない状態がその場所の自然です。わかりやすい例で説明すると、セイタカアワダチソウはもともとアメリカにあって、日本にはありません。クズはもともと日本にあって、アメリカにはありません。セイタカアワダチソウが日本に入りクズがアメリカに入れば､それぞれの地域にある植物の種類数は増加しますが､「セイタカアワダチソウがなくクズがある自然」と「クズがなくセイタカアワダチソウがある自然」の多様性は失われてしまいます。そのようなわけで最近はこの移入防止が、生物多様性保全の重要な課題になっています。どのような植物でも、自然の中にそこにもともとなかったものを持ち込むことは避けるべきです。

昔あったがなくなってしまった植物を持ち込むことも、原則として避ける方がよいでしょう。生物の集団には遺伝的な分化があり、同じ種でも違う場所のものは違うものと考えるべきです。厳密にその場所にあったものを植え戻す場合でも、なくなったのは原因があるはずで、その原因を取り除かずに持ち込んだら、絶滅が繰り返されるだけです。植えるときの踏み荒らしなど、現在残っている自然に対する悪影響も深刻です。病虫害の持ち込みや遺伝的単純化などで、かろうじて残っていた自然集団に対する「最後のとどめ」となってしまうこともあります。自然には自然の回復力があります。生物多様性の保全で重要なのは、特殊な場合を除けば、実は個体の保全ではありません。生育環境を保全し、彼等が昔からのやり方で生き続けるのを側面から援助することです。

（執筆者　芹沢俊介）

６．文献一覧

（１）維管束植物

世界の分布以外は、原則として文献によらず、現地調査と標本および聞き取り調査に基づき記述した。世界の分布は、その種に関する各種文献を総合して記述した。一部の絶滅種等やむを得ず文献によった項目については、出典を各種の解説中に示した。評価手法に関する引用文献は、365 頁に掲載した。

（２）コケ植物

原則として、世界の分布については、岩月（編）（2001）に基づき、国内の分布については、Iwatsuki（2004）に基づいて記述した。県内の分布については採集標本及びその種に関係する文献を総合して記述した。市内の分布については、タカサゴソコマメゴケを除き、全て執筆者の採集標本により記述した。

・岩月善之助（編）．2001．日本の野生植物コケ．平凡社，東京．
・Iwatsuki, Z.　2004．New Catalog of the Mosses of Japan．Hatt.Bot.Lab，Nichinan.

7．執筆者及び協力者

レッドデータブックの作成に当たり、次の方々に執筆、調査、写真の提供等に協力していただいた。

（敬称略、五十音順）

【執筆者】

① 維管束植物

芹沢俊介　　中村　肇

② コケ植物

成田　務

【調査、写真提供等協力者】

① 維管束植物

原則として、協力の意志があったか否かにかかわりなく、今回の調査の基礎になった愛知みどりの会またはなごや生物多様性センターの標本室に5点以上の名古屋市産標本がある採集者をもって、調査協力者とした。

飯尾俊介	一井尚子	伊藤晶子	伊藤昭康	伊藤泰輔	犬飼　清
猪俣佳江	今尾由美子	岩田妙子	梅本洋子	太田由美子	鬼頭洋子
小林元男	榊原　靖	沢井輝男	柴田美子	白谷美代子	白谷由紀子
須賀瑛文	鈴木　淳	鈴木秀樹	諏訪　斎	芹沢俊介	高木順夫
高塚敏夫	竹本清子	鶴岡佐知子	富田啓介	鳥居ちゑ子	中島ひろみ
中村　肇	永田晴美	西川勇夫	花岡　昭	浜島繁隆	半田多美子
日比野修	広田由紀子	広部　栄	福岡義洋	藤岡嶺子	堀田時子
丸山由加里	武藤靖子	村松正雄	渡邉幸子		

過去の標本については、特に飯尾俊介氏、犬飼　清氏、浜島繁隆氏の協力を得て、ある程度の資料を集積できた。千葉県立中央博物館に保管されている稲垣貫一氏、井波一雄氏採集標本の検討に際しては、同館植物学研究課の天野　誠氏、資料管理研究課の御巫由紀氏に大変お世話になった。また、採集者名には含まれていないが、大岡幸雄氏、横井晴正氏には、多くの分布情報を提供していただいた。

なお、23 頁に記述した千種区覚王山の 1932～34 年の標本は、愛知教育大学名誉教授沢井輝男氏（1917～2005）が、師範学校在学中に採集されたものである。

② コケ植物

成田　務

今回の調査で直接お世話になったわけではないが、執筆者がコケ植物分野を担当しレッドリストを纏めることができたのは、名古屋大学名誉教授故高木典雄博士に長年に亘りコケ植物、とりわけ蘚類に関するご指導を賜ったからである。ここに記して心より謝意を表する次第である。

【　索　引　】

和名五十音順

（１）維管束植物
（２）コケ植物

分　類　順

（１）維管束植物
（２）コケ植物

【索引（和名五十音順）】

（１）維管束植物

種名	学名	科名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
アギスミレ	*Viola verecunda* A.Gray var. *semilunaris* Maxim.	スミレ	VU			255
アギナシ	*Sagittaria aginashi* Makino	オモダカ	VU	国ﾘｽﾄ	NT	223
アキノハハコグサ	*Gnaphalium hypoleucum* DC.	キク	EX	EN	EN	105
アキノミチヤナギ	*Polygonum polyneuron* Franch. et Sav.	タデ	VU			262
アサザ	*Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze	ミツガシワ	国・県ﾘｽﾄ	EN	NT	335
アシカキ	*Leercia japonica* Makino	イネ	NT			301
アズマガヤ	*Asperella longe-aristata* (Hack.) Ohwi	イネ	VU			237
アズマナルコ	*Carex shimidzensis* Franch.	カヤツリグサ	EN			180
アマナ	*Amana edulis* (Miq.) Honda	ユリ	VU			227
アリマグミ	*Elaeagnus murakamiana* Makino	グミ	EX	VU		75
イガクサ	*Rhynchospora rubra* (Lour.) Makino	カヤツリグサ	EN			182
イガタツナミ	*Scutellaria kurokawae* H.Hara	シソ	EN			207
イシカグマ	*Microlepia strigosa* (Thunb.) C.Presl	コバノイシカグマ	EN	NT		159
イシモチソウ	*Drosera peltata* Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi	モウセンゴケ	CR	EN	NT	148
イセウキヤガラ	*Bolboschoenus planiculmis* (F.Schmidt) T.V.Egorova	カヤツリグサ	EN			176
イソヤマテンツキ	*Fimbristylis ferruginea* (L.) Vahl var. *sieboldii* (Miq.) Ohwi	カヤツリグサ	VU			236
イチヤクソウ	*Pyrola japonica* Klenze	ツツジ	VU			267
イトトリゲモ	*Najas gracillima* (A.Braun ex Engelm.) Magnus	トチカガミ	NT	国ﾘｽﾄ	NT	295
イトハナビテンツキ	*Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz.	カヤツリグサ	EX			57
イナカギク	*Aster ageratoides* Turcz. subsp. *amplexifolius* (Sieb. et Zucc.) Kitam.	キク	EN			210
イヌゴマ	*Stachys riederi* Cham. var. *intermedia* (Kudô) Kitam.	シソ	NT			318
イヌセンブリ	*Swertia diluta* (Turcz.) Benth. et Hook.f. var. *tosaensis* (Makino) H.Hara	リンドウ	EN	NT	VU	201
イヌタヌキモ	*Utricularia australis* R.Br.	タヌキモ	NT	国ﾘｽﾄ	NT	320
イヌノフグリ	*Veronica didyma* Ten. var. *lilacina* (H.Hara) T.Yamaz.	オオバコ	NT	国ﾘｽﾄ	VU	317
イヌハギ	*Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Sieb. ex Maxim.	マメ	CR	VU	VU	142
イワガラミ	*Schizophragma hydrangeoides* Sieb. et Zucc.	アジサイ	CR			150
ウキシバ	*Pseudoraphis ukishiba* Ohwi	イネ	NT	NT		303
ウスゲチョウジタデ	*Ludwigia greatrexii* H.Hara	アカバナ	VU	国ﾘｽﾄ	NT	257
ウスバシケシダ	*Deparia* sp.	イワデンダ	VU	VU	VU	220
ウスヒメワラビ	*Acystopteris japonica* (Luerss.) Nakai	イワデンダ	VU			218
ウチワゴケ	*Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats.	コケシノブ	VU			216
ウナギツカミ	*Persicaria sieboldii* (Meisn.) Ohki var. *aestiva* (Ohki) Okuyama	タデ	VU			261
ウバユリ	*Cardiocrinum cordatum* (Thunb.) Makino	ユリ	CR			119
ウマスゲ	*Carex idzuroei* Franch. et Sav.	カヤツリグサ	CR			131
ウマノアシガタ	*Ranunculus japonicus* Thunb.	キンポウゲ	VU			243
ウメバチソウ	*Parnassia palustris* L. var. *multiseta* Ledeb.	ニシキギ	CR			144
ウラギク	*Aster tripolium* L.	キク	EN	国ﾘｽﾄ	NT	211
ウラシマソウ	*Arisaema urashima* H.Hara	サトイモ	NT			294
ウラジロガシ	*Quercus salicina* Blume	ブナ	VU			251
ウンヌケ	*Eulalia speciosa* (Debeaux) Kuntze	イネ	EN	NT	VU	184
オオアブノメ	*Gratiola japonica* Miq.	オオバコ	EN	VU	VU	203
オオアブラススキ	*Spodiopogon sibiricus* Trin.	イネ	EX			67
オオウラジロノキ	*Malus tschonoskii* (Maxim.) C.K.Schneid.	バラ	VU			249
オオカメノキ	*Viburnum furcatum* Blume ex Maxim.	レンプクソウ	VU			285
オオトリゲモ	*Najas oguraensis* Miki	トチカガミ	VU	NT		224
オオバウマノスズクサ	*Aristolochia kaempferi* Willd.	ウマノスズクサ	EN	VU		161
オオバギボウシ	*Hosta montana* F.Maek.	キジカクシ	EX			51
オオハナワラビ	*Sceptridium japonicum* (Prantl) Lyon	ハナヤスリ	NT			289
オオヒナノウスツボ	*Scrophularia kakudensis* Franch.	ゴマノハグサ	EX			91
オオホシクサ	*Eriocaulon buergerianum* Körn.	ホシクサ	EX	CR		54
オオミヤマウズラ	*Goodyera* sp.	ラン	CR	EN		126
オカウコギ	*Acanthopanax japonicus* Franch. et Sav.	ウコギ	NT			325
オカタツナミソウ	*Scutellaria brachyspica* Nakai et H.Hara	シソ	EN			206
オキナグサ	*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et C.Presl	キンポウゲ	EX	CR	VU	69
オクモミジハグマ	*Ainsliaea acerifolia* Sch.Bip. var. *subapoda* Nakai	キク	VU			279
オグラノフサモ	*Myriophyllum oguraense* Miki	アリノトウグサ	国・県ﾘｽﾄ	CR	VU	330
オグルマ	*Inula britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.	キク	VU			283
オケラ	*Atractylodes japonica* Koidz. ex Kitam.	キク	EN			212
オトコエシ	*Patrinia villosa* (Thunb.) Juss.	スイカズラ	EX			108
オトコゼリ	*Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.	キンポウゲ	EX			70
オドリコソウ	*Lamium album* L. var. *barbatum* (Sieb. et Zucc.) Franch. et Sav.	シソ	EN			205
オナモミ	*Xanthium strumarium* L.	キク	EX	CR	VU	107
オニバス	*Euryale ferox* Salisb.	スイレン	CR	CR	VU	113
オミナエシ	*Patrinia scabiosaefolia* Fisch.	スイカズラ	CR			157
カガシラ	*Scleria caricina* (R.Br.) Benth.	カヤツリグサ	EX	CR	VU	61
ガガブタ	*Nymphoides indica* (L.) Kuntze	ミツガシワ	VU	NT	NT	278
カキラン	*Epipactis thunbergii* A.Gray	ラン	EN			166
カゴノキ	*Litsea coreana* H.Lév.	クスノキ	NT			292
カザグルマ	*Clematis patens* C.Morren et Decne.	キンポウゲ	CR	EN	NT	139
カシワバハグマ	*Pertya robusta* (Maxim.) Makino	キク	EN			214
カセンソウ	*Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.	キク	EX	EN		106
カタクリ	*Erythronium japonicum* Decne.	ユリ	CR			120

種名	学名	科名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
カヤ	*Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc.	イチイ	CR			111
カワヂシャ	*Veronica undulata* Wall.	オオバコ	国ﾘｽﾄ	国ﾘｽﾄ	NT	334
カワラケツメイ	*Cassia nomame* (Makino) Honda	マメ	VU			246
カワラサイコ	*Potentilla chinensis* Ser.	バラ	EN	VU		191
カワラナデシコ	*Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams	ナデシコ	NT			312
カワラニンジン	*Artemisia apiacea* Hance	キク	NT			323
カワラハハコ	*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. subsp. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.	キク	VU			281
カワラハンノキ	*Alnus serrulatoides* Callier	カバノキ	VU			252
ガンピ	*Diplomorpha sikokiana* (Franch. et Sav.) Honda	ジンチョウゲ	VU			258
キキョウ	*Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC.	キキョウ	CR	VU	VU	156
キクムグラ	*Galium kikumugura* Ohwi	アカネ	EN	NT		199
キジムシロ	*Potentilla fragarioides* L. var. *major* Maxim.	バラ	EX			72
キスゲ	*Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Hotta	ススキノキ	CR			127
キセルアザミ	*Cirsium sieboldii* Miq.	キク	NT			324
キッコウハグマ	*Ainsliaea apiculata* Sch.Bip.	キク	VU			280
キヌヤナギ	*Salix kinuyanagi* Kimura	ヤナギ	VU	NT		254
キハギ	*Lespedeza buergeri* Miq.	マメ	EN			187
キヨスミギボウシ	*Hosta kiyosumiensis* F.Maek.	キジカクシ	VU			231
キンラン	*Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume	ラン	CR	NT	VU	124
ギンラン	*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume	ラン	CR			123
ギンリョウソウ	*Monotropastrum humile* (D.Don) H.Hara	ツツジ	EX			85
ギンリョウソウモドキ	*Monotropa uniflora* L.	ツツジ	VU			266
クサナギオゴケ	*Cynanchum katoi* Ohwi	キョウチクトウ	EX	NT	VU	88
クサボタン	*Clematis stans* Sieb. et Zucc.	キンポウゲ	EX	VU		68
クサレダマ	*Lysimachia vulgaris* L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Knuth	サクラソウ	EN			198
クモキリソウ	*Liparis kumokiri* F.Maek.	ラン	VU			230
クモラン	*Taeniophyllum glandulosum* Blume	ラン	EX			50
クロウメモドキ	*Rhamnus japonica* Maxim. var. *decipiens* Maxim.	クロウメモドキ	EX			76
クロホシクサ	*Eriocaulon parvum* Körn.	ホシクサ	EX	EN	VU	55
クロミノニシゴリ	*Symplocos paniculata* (Thunb.) Miq.	ハイノキ	NT			315
クロモジ	*Lindera umbellate* Thunb.	クスノキ	EX			38
クロヤツシロラン	*Gastrodia pubilabiata* Y.Sawa	ラン	EN			167
ケイリュウタチツボスミレ	*Viola grypoceras* A.Gray var. *ripensis* N.Yamada et M.Okamoto	スミレ	NT			308
ケタガネソウ	*Carex ciliato-marginata* Nakai	カヤツリグサ	CR			130
ケブカツルカコソウ	*Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew. form. *hirsuta* (Honda) Murata	シソ	EX	EN		92
コアカソ	*Boehmeria spicata* (Thunb.) Thunb.	イラクサ	NT			306
コアジサイ	*Hydrangea hirta* (Thunb.) Sieb. et Zucc.	アジサイ	NT			314
コイヌガラシ	*Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi	アブラナ	VU	国ﾘｽﾄ	NT	259
コウガイモ	*Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino	トチカガミ	EX	VU		44
コウボウ	*Hierochloe odorata* (L.) P.Beauv. var. *pubescens* Krylov	イネ	CR			137
コオニユリ	*Lilium leichtlinii* Hook.f. var. *maximowiczii* (Regel) Baker	ユリ	CR			122
コガクウツギ	*Hydrangea luteo-venosa* Koidz.	アジサイ	CR	EN		149
コカモメヅル	*Tylophora floribunda* Miq.	キョウチクトウ	EX			89
コガンピ	*Diplomorpha ganpi* (Sieb. et Zucc.) Nakai	ジンチョウゲ	EX			80
コギシギシ	*Rumex nipponicus* Franch. et Sav.	タデ	VU	国ﾘｽﾄ	VU	263
ゴキヅル	*Actinostemma lobatum*(Maxim) Maxim. ex Franch. et Sav.	ウリ	VU			253
コクサギ	*Orixa japonica* Thunb.	ミカン	EN			194
コケリンドウ	*Gentiana squarrosa* Ledeb.	リンドウ	CR	VU		151
コゴメカゼクサ	*Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin.	イネ	EX	VU		65
コシオガマ	*Phtheirospermum japonicum* (Thunb.) Kanitz	ハマウツボ	CR			154
コシンジュガヤ	*Scleria parvula* Steud.	カヤツリグサ	EX			63
コタヌキモ	*Utricularia intermedia* Heyne	タヌキモ	EX	CR		98
コバギボウシ	*Hosta sieboldii* (Paxton) J.W.Ingram form. *spathulata* (Miq.) W.G.Schmid	キジカクシ	VU			232
コハナヤスリ	*Ophioglossum thermale* Kom. var. *nipponicum* (Miyabe et Kudô) M.Nishida	ハナヤスリ	NT			288
コバノトンボソウ	*Platanthera tipuloides* (L.f.) Lindl. var. *nipponica* (Makino) Ohwi	ラン	EN			170
コミヅソバ	*Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.	タデ	EX	NT		81
コメガヤ	*Melica nutans* L.	イネ	EX			66
コモチシダ	*Woodwardia orientalis* Sw.	シシガシラ	EN			160
コヤブタバコ	*Carpesium cernuum* L.	キク	EX			103
サイハイラン	*Cremastra appendiculata* (D.Don) Makino	ラン	EN			165
サギソウ	*Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.	ラン	VU	VU	NT	228
サクラタデ	*Persicaria conspicua* (Nakai) Nakai	タデ	NT			310
サクラバハンノキ	*Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz.	カバノキ	NT	国ﾘｽﾄ	NT	307
ササユリ	*Lilium japonicum* Thunb.	ユリ	EN			164
サヤヌカグサ	*Leersia sayanuka* Ohwi	イネ	VU			239
サワオトギリ	*Hypericum pseudopetiolatum* R.Keller	オトギリソウ	VU			256
サワギキョウ	*Lobelia sessilifolia* Lamb.	キキョウ	VU			276
サワラン	*Eleorchis japonica* (A.Gray) F.Maek.	ラン	EX	CR		45
サンショウモ	*Salvinia natans* (L.) All.	サンショウモ	EX	CR	VU	35
シオクグ	*Carex scabrifolia* Steud.	カヤツリグサ	NT			299
ジガバチソウ	*Liparis krameri* Franch. et Sav.	ラン	VU			229
シズイ	*Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Soják	カヤツリグサ	EX	VU		59
シソバタツナミ	*Scutellaria laeteviolacea* Koidz.	シソ	VU			274
シダミコザサ	*Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* (Koidz.) S.Suzuki form. *hidejiroana* (Koidz.) S.Suzuki	イネ	VU	VU		241
シデコブシ	*Magnolia stellata* (Sieb. et Zucc.) Maxim.	モクレン	CR	VU	NT	114
シバナ	*Triglochin maritimum* L.	シバナ	EN	NT	NT	162
シベリアメドハギ	*Lespedeza juncea* (L.f.) Pers.	マメ	EN			188
シマジタムラソウ	*Salvia isensis* Nakai ex H.Hara	シソ	CR	NT	VU	153

種名	学名	科名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
シモツケ	*Spiraea japonica* L.f.	バラ	EX			74
シュスラン	*Goodyera velutina* Maxim.	ラン	CR	VU		125
ジュンサイ	*Brasenia schreberi* J.F.Gmel.	ジュンサイ	CR			112
ショウジョウスゲ	*Carex blepharicarpa* Franch.	カヤツリグサ	NT			298
シラタマホシクサ	*Eriocaulon nudicuspe* Maxim.	ホシクサ	EN	VU	VU	175
シラン	*Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f.	ラン	国・県リスト	NT	NT	329
シロダモ	*Neolitsea sericea* (Blume) Koidz.	クスノキ	NT			293
スズカカンアオイ	*Heterotropa nipponica* (F.Maek.) F.Maek. var. *brachypodion* (F.Maek.) F.Maek.	ウマノスズクサ	NT			291
スズサイコ	*Cynanchum paniculatum* (Bunge) Kitag.	キョウチクトウ	CR	国リスト	NT	152
スズメノコビエ	*Paspalum scrobiculatum* L. var. *orbiculatum* (G.Forst.) Hack.	イネ	NT			302
スハマソウ	*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Kitam.	キンポウゲ	CR	NT	NT	140
スブタ	*Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.	トチカガミ	EX	EN	VU	40
スルガテンナンショウ	*Arisaema yamatense* (Nakai) Nakai subsp. *sugimotoi* (Nakai) H.Ohashi et J.Murata	サトイモ	CR			117
セイタカハリイ	*Eleocharis attenuata* (Franch. et Sav.) Palla	カヤツリグサ	CR	VU		134
センダイスゲ	*Carex lenta* D.Don var. *sendaica* (Franch.) T.Koyama	カヤツリグサ	EN	VU		179
タカトウダイ	*Euphorbia pekinensis* Rupr.	トウダイグサ	EX			77
タチモ	*Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.	アリノトウグサ	CR	NT	NT	141
タツナミソウ	*Scutellaria indica* L.	シソ	VU			273
タニウツギ	*Weigela hortensis* (Sieb. et Zucc.) K.Koch	スイカズラ	EN			215
タニギキョウ	*Peracarpa carnosa* (Wall.) Hook.f. et Thomson var. *circaeoides* (F.Schmidt) Makino	キキョウ	VU			277
タニソバ	*Persicaria nepalensis* (Meisn.) H.Gross	タデ	EX			82
タニヘゴ	*Dryopteris tokyoensis* (Matsum. ex Makino) C.Chr.	オシダ	VU			221
タヌキマメ	*Crotalaria sessiliflora* L.	マメ	VU			247
タマミズキ	*Ilex micrococca* Maxim.	モチノキ	VU			275
ダンコウバイ	*Lindera obtusiloba* Blume	クスノキ	CR			116
チゴユリ	*Disporum smilacinum* A.Gray	イヌサフラン	VU			226
チダケサシ	*Astilbe microphylla* Knoll	ユキノシタ	EX			71
チャセンシダ	*Asplenium trichomanes* L.	チャセンシダ	VU			217
ツクシクロイヌノヒゲ	*Eriocaulon kiusianum* Maxim.	ホシクサ	EN	NT	VU	174
ツクシヤワラシダ	*Thelypteris hattorii* (H.Itô) Tagawa var. *nemoralis* (Ching) Sa.Kurata	ヒメシダ	CR	VU		110
ツクバスゲ	*Carex hirtifructus* Kük.	カヤツリグサ	VU			235
ツチアケビ	*Galeola septentrionalis* Rchb.f.	ラン	EX			46
ツメレンゲ	*Orostachys japonicus* (Maxim.) A.Berger	ベンケイソウ	VU	NT	NT	244
ツルニンジン	*Codonopsis lanceolata* (Sieb. et Zucc.) Trautv.	キキョウ	EX			100
デンジソウ	*Marsilea quadrifolia* L.	デンジソウ	EX	CR	VU	34
トキソウ	*Pogonia japonica* Rchb.f.	ラン	EX	EN	NT	48
トキワトラノオ	*Asplenium pekinense* Hance	チャセンシダ	NT			290
トチカガミ	*Hydrocharis dubia* (Blume) Backer	トチカガミ	EX	EN	NT	42
トネテンツキ	*Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) T.Koyama	カヤツリグサ	CR	VU	VU	135
ナガエミクリ	*Sparganium japonicum* Rothert	ガマ	VU	国リスト	NT	233
ナガバノイシモチソウ	*Drosera indica* L.	モウセンゴケ	EX	CR	VU	83
ナガバノウナギツカミ	*Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai	タデ	VU	NT	NT	260
ナラガシワ	*Quercus aliena* Blume	ブナ	県リスト	EN		331
ナルコユリ	*Polygonatum falcatum* A.Gray	キジカクシ	EX			52
ナンバンギセル	*Aeginetia indica* L.	ハマウツボ	NT			319
ニガキ	*Picrasma quassioides* (D.Don) Benn.	ニガキ	EN			195
ニガクサ	*Teucrium japonicum* Houtt.	シソ	EN			208
ニシノホンモンジスゲ	*Carex stenostachys* Franch. et Sav.	カヤツリグサ	CR	VU		132
ニッケイ	*Cinnamomum okinawense* Hatus.	クスノキ	国リスト	国リスト	NT	327
ヌカボシソウ	*Luzula plumosa* E.Mey. var. *macrocarpa* (Buchenau) Ohwi	イグサ	EX			56
ヌマカゼクサ	*Eragrostis aquatica* Honda	イネ	VU			238
ヌマダイコン	*Adenostemma lavenia* (L.) Kuntze	キク	EN			209
ネナシカズラ	*Cuscuta japonica* Choisy	ヒルガオ	NT			316
ノカンゾウ	*Hemerocallis fulva* L. var. *longituba* (Miq.) Maxim.	ススキノキ	CR			128
ノグサ	*Schoenus apogon* Roem. et Schult.	カヤツリグサ	EX	EN		60
ノダケ	*Angelica decursiva* (Miq.) Franch. et Sav.	セリ	VU			286
ノタヌキモ	*Utricularia aurea* Lour.	タヌキモ	EX	VU	VU	95
ノハナショウブ	*Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai	アヤメ	EN			171
ハクサンボク	*Viburnum japonicum* (Thunb.) Spreng.	レンプクソウ	県リスト	VU		336
ハタザオ	*Turritis glabra* L.	アブラナ	EN			197
ハッカ	*Mentha arvensis* L. var. *piperascens* Malinv.	シソ	VU			271
ハマアオスゲ	*Carex fibrillosa* Franch. et Sav.	カヤツリグサ	EN			178
ハマアカザ	*Atriplex subcordata* Kitag.	ヒユ	EX	VU		84
ハマエンドウ	*Lathyrus japonicus* Willd.	マメ	VU			248
ハマボウ	*Hibiscus hamabo* Sieb. et Zucc.	アオイ	EX	VU		79
ヒツジグサ	*Nymphaea tetragona* Georgi	スイレン	EX			37
ヒトツバハギ	*Securinega suffruticosa* (Pall.) Rehder var. *japonica* (Miq.) Hurus.	ミカンソウ	CR			145
ヒナザサ	*Coelachne japonica* Hack.	イネ	EX	VU	NT	64
ヒナノカンザシ	*Salomonia oblongifolia* DC.	ヒメハギ	EN			190
ヒナノシャクジョウ	*Burmannia championii* Thwaites	ヒナノシャクジョウ	CR	VU		118
ヒメアオガヤツリ	*Cyperus extremiorientalis* Ohwi	カヤツリグサ	CR	CR		133
ヒメイカリソウ	*Epimedium youngianum* Fisch. et C.A.Mey.	メギ	CR			138
ヒメガヤツリ	*Cyperus tenuispica* Steud.	カヤツリグサ	EN	VU		181
ヒメクロモジ	*Lindera lancea* (Momiy.) H.Koyama	クスノキ	CR			115
ヒメコウガイゼキショウ	*Juncus bufonius* L.	イグサ	NT			297
ヒメコウホネ	*Nuphar subintegerrima* (Casp.) Makino	スイレン	EX	EN	VU	36
ヒメコヌカグサ	*Agrostis valvata* Steud.	イネ	NT	国リスト	NT	300

種名	学名	科名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
ヒメシオン	*Aster fastigiatus* Fisch.	キク	EX	VU		101
ヒメタイヌビエ	*Echinochloa crus-galli* (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi	イネ	CR	EN		136
ヒメドコロ	*Dioscorea tenuipes* Franch. et Sav.	ヤマノイモ	VU			225
ヒメビシ	*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.	ミソハギ	CR	EN	VU	147
ヒメミソハギ	*Ammannia multiflora* Roxb.	ミソハギ	CR			146
ヒメミミカキグサ	*Utricularia minutissima* Vahl	タヌキモ	EX	EN	EN	99
ヒルムシロ	*Potamogeton distinctus* A.Benn.	ヒルムシロ	EN	NT		163
ビロードスゲ	*Carex fedia* Nees var. *miyabei* (Franch.) T.Koyama	カヤツリグサ	VU			234
フサタヌキモ	*Utricularia dimorphantha* Makino	タヌキモ	EX	EX	EN	96
フモトミズナラ	*Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.	ブナ	VU	NT		250
ヘビノボラズ	*Berberis sieboldii* Miq.	メギ	VU	NT		242
ヘラオモダカ	*Alisma canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché	オモダカ	VU			222
ヘラシダ	*Deparia lancea* (Thunb.) Fraser-Jenk.	イワデンダ	VU			219
ホザキノフサモ	*Myriophyllum spicatum* L.	アリノトウグサ	EN			185
ホザキノミミカキグサ	*Utricularia racemosa* Wall.	タヌキモ	NT			322
ホソバニセジュズネノキ	*Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn. subsp. *major* (Sieb. et Zucc.) T.Yamaz. var. *lancifolius* Makino	アカネ	VU			268
ホソバノヨツバムグラ	*Galium trifidum* L. var. *brevipedunculatum* Regel	アカネ	VU			269
ホソバハマアカザ	*Atriplex gmelinii* C.A.Mey	ヒユ	NT			313
ホタルカズラ	*Lithospermum zollingeri* A.DC.	ムラサキ	EX	EN		90
ホッスモ	*Najas graminea* Delile	トチカガミ	EX			43
ホドイモ	*Apios fortunei* Maxim.	マメ	VU			245
マキエハギ	*Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.	マメ	EN			189
マタタビ	*Aictnidia polygama* (Sieb.et Zucc.) Planch. ex Maxim.	マタタビ	VU			265
マツカサススキ	*Scirpus mitsukurianus* Makino	カヤツリグサ	EN			183
マツバラン	*Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.	マツバラン	国・県リスト	VU	NT	326
マメナシ	*Pyrus calleryana* Decne.	バラ	EN	CR	EN	192
マルバノホロシ	*Solanum maximowiczii* Koidz.	ナス	EN			202
マルミスブタ	*Blyxa aubertii* Rich.	トチカガミ	EX	EN	VU	39
マンサク	*Hamamelis japonica* Sieb. et Zucc.	マンサク	NT			304
ミカワシンジュガヤ	*Scleria mikawana* Makino	カヤツリグサ	EX	VU	VU	62
ミカワタヌキモ	*Utricularia exoleta* R.Br.	タヌキモ	EX	EN	VU	97
ミクリ	*Sparganium erectum* L.	ガマ	CR	VU	NT	129
ミクリガヤ	*Rhynchospora malasica* C.B.Clarke	カヤツリグサ	EX	CR	EN	58
ミズアオイ	*Monochoria korsakowii* Regel et Maack	ミズアオイ	EX	CR	NT	53
ミズオオバコ	*Ottelia alismoides* (L.) Pers.	トチカガミ	国リスト	国リスト	VU	328
ミズギク	*Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.	キク	EN	NT		213
ミズスギナ	*Rotala hippuris* Makino	ミソハギ	EX	EX	CR	78
ミズタガラシ	*Cardamine lyrata* Bunge	アブラナ	EN	NT		196
ミズトラノオ	*Eusteralis yatabeana* (Makino) Murata	シソ	EX	VU	VU	94
ミズトンボ	*Habenaria sagittifera* Rchb.f.	ラン	EX	VU	VU	47
ミズニラ	*Isoetes japonica* A.Braun	ミズニラ	CR	NT	NT	109
ミズネコノオ	*Eusteralis stellata* (Lour.) Murata	シソ	EX	EN	NT	93
ミズマツバ	*Rotala mexicana* Cham. et Schltdl.	ミソハギ	国リスト	国リスト	VU	333
ミズユキノシタ	*Ludwigia ovalis* Miq.	アカバナ	NT			309
ミゾコウジュ	*Salvia plebeia* R.Br.	シソ	VU	国リスト	NT	272
ミノボロスゲ	*Carex albata* Boott	カヤツリグサ	EN	VU		177
ミミカキグサ	*Utricularia bifida* L.	タヌキモ	NT			321
ミヤコミズ	*Pilea kiotensis* Ohwi	イラクサ	CR	CR		143
ミヤマウズラ	*Goodyera schlechtendaliana* Rchb.f.	ラン	EN			168
ミヤマナルコユリ	*Polygonatum lasianthum* Maxim.	キジカクシ	EN			172
ミヤマワレモコウ	*Sanguisorba longifolia* Bertol.	バラ	EX	EN		73
ムカゴニンジン	*Sium ninsi* L.	セリ	VU			287
ムヨウラン	*Lecanorchis japonica* Blume	ラン	EN			169
ムラサキトキンソウ	*Centipeda* sp.	キク	VU	NT		282
ムラサキニガナ	*Lactuca sororia* Miq.	キク	VU			284
ムラサキミミカキグサ	*Utricularia uliginosa* Vahl	タヌキモ	CR	NT	NT	155
モウセンゴケ	*Drosera rotundifolia* L.	モウセンゴケ	NT			311
ヤチヤナギ	*Gale belgica* Duham. var. *tomentosa* (C.DC.) T.Yamaz.	ヤマモモ	県リスト	CR		332
ヤナギイノコヅチ	*Achyranthes longifolia* (Makino) Makino	ヒユ	VU			264
ヤナギスブタ	*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim.	トチカガミ	EX			41
ヤブサンザシ	*Ribes fasciculatum* Sieb. et Zucc.	スグリ	EN	VU		186
ヤブムラサキ	*Callicarpa mollis* Sieb. et Zucc.	シソ	VU			270
ヤマジノギク	*Aster hispidus* Thunb.	キク	EX	CR		102
ヤマトキソウ	*Pogonia minor* (Makino) Makino	ラン	EX	VU		49
ヤマトミクリ	*Sparganium fallax* Graebn.	ガマ	EN	NT	NT	173
ヤマドリゼンマイ	*Osmunda cinnamomea* L.	ゼンマイ	EN			158
ヤマネコヤナギ	*Salix bakko* Kimura	ヤナギ	EN			193
ヤマハッカ	*Isodon inflexus* (Thunb.) Kudô	シソ	EN			204
ヤマムグラ	*Galium pogonanthum* Franch. et Sav.	アカネ	EX			87
ヤマユリ	*Lilium auratum* Lindl.	ユリ	CR			121
ヤマラッキョウ	*Allium thunbergii* G.Don	ヒガンバナ	NT			296
リュウノウギク	*Dendranthema japonicum* (Makino) Kitam.	キク	EX			104
リンドウ	*Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim.	リンドウ	EN			200
レンゲツツジ	*Rhododendron japonicum* (A.Gray) Suringar	ツツジ	EX			86
ワセオバナ	*Saccharum spontaneum* L. var. *arenicola* (Ohwi) Ohwi	イネ	VU			240
ワタゲカマツカ	*Pourthiaea villosa* (Thunb.) Decne.	バラ	NT			305

（２）コケ植物

種名	学名	区分	科名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
イクタマユハケゴケ	*Campylopus gemmiparus* Z.Iwats. et al.	蘚類	シッポゴケ	NT			352
イクビゴケ	*Diphyscium fulvifolium* Mitt	蘚類	イクビゴケ	NT			348
イチョウウキゴケ	*Ricciocarpos natans* (L.) Corda	苔類	ウキゴケ	NT	NT	NT	358
イバラゴケ（ケムシゴケ）	*Calyptrochaeta japonica* (Card. et Thér.) Z.Iwats. et Nog.	蘚類	アブラゴケ	VU	VU		342
イボミズゴケ	*Sphagnum papillosum* Lindb.	蘚類	ミズゴケ	NT	NT		346
ウキゴケ	*Riccia fluitans* L.	苔類	ウキゴケ	NT	VU		357
ウマスギゴケ	*Polytrichum commune* Hedw.	蘚類	スギゴケ	NT			350
オオミズゴケ	*Sphagnum palustre* L.	蘚類	ミズゴケ	NT	NT	NT	345
カモジゴケ	*Dicranum scoparium* Hedw.	蘚類	シッポゴケ	NT			354
コアナミズゴケ	*Sphagnum microporum* Warnst. ex Card.	蘚類	ミズゴケ	NT			344
シッポゴケ	*Dicranum japonicum* Mitt.	蘚類	シッポゴケ	NT			353
ゼニゴケ	*Marchantia polymorpha* L.	苔類	ゼニゴケ	NT			356
タカサゴソコマメゴケ	*Jackiella javanica* Schiffn.	苔類	タカサゴソコマメゴケ	EX	EX		340
ツリバリゴケモドキ	*Bryohumbertia subcomosa* (Dix.) Frahm	蘚類	シッポゴケ	NT			351
ハミズゴケ	*Pogonatum spinulosum* Mitt.	蘚類	スギゴケ	NT			349
ハリミズゴケ	*Shagnum cuspidatum* Ehrh. ex Hofm.	蘚類	ミズゴケ	VU	VU		341
マルバヒメクサリゴケ	*Cololejeunea minutissima* (Sm.) Schiffn.	苔類	クサリゴケ	VU	VU		343
ヤナギゴケ	*Leptodictyum riparium* (Hedw.) Warnst.	蘚類	ヤナギゴケ	NT			355
ユガミミズゴケ	*Sphagnum subsecundum* Nees ex Sturm	蘚類	ミズゴケ	NT			347

【索引（分類順）】

（１）維管束植物

科の範囲、名称、配列は、一部を除き「日本産維管束植物目録」（米倉浩二著，2012 年，北隆館）に準拠した。種の学名は主として「日本の野生植物」（1981～1992 年，平凡社）に使われているものを用い、科内の配列は学名のアルファベット順とした。

科名	種名	学名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
ミズニラ	ミズニラ	*Isoetes japonica* A.Braun	CR	NT	NT	109
ハナヤスリ	コハナヤスリ	*Ophioglossum thermale* Kom. var. *nipponicum* (Miyabe et Kudô) M.Nishida	NT			288
ハナヤスリ	オオハナワラビ	*Sceptridium japonicum* (Prantl) Lyon	NT			289
マツバラン	マツバラン	*Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.	国・県リスト	VU	NT	325
ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	*Osmunda cinnamomea* L.	EN			158
コケシノブ	ウチワゴケ	*Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats.	VU			216
デンジソウ	デンジソウ	*Marsilea quadrifolia* L.	EX	CR	VU	34
サンショウモ	サンショウモ	*Salvinia natans* (L.) All.	EX	CR	VU	35
コバノイシカグマ	イシカグマ	*Microlepia strigosa* (Thunb.) C.Presl	EN	NT		159
チャセンシダ	トキワトラノオ	*Asplenium pekinense* Hance	NT			290
チャセンシダ	チャセンシダ	*Asplenium trichomanes* L.	VU			217
ヒメシダ	ツクシヤワラシダ	*Thelypteris hattorii* (H.Itô) Tagawa var. *nemoralis* (Ching) Sa.Kurata	CR	VU		110
イワデンダ	ウスヒメワラビ	*Acystopteris japonica* (Luerss.) Nakai	VU			218
イワデンダ	ヘラシダ	*Deparia lancea* (Thunb.) Fraser-Jenk.	VU			219
イワデンダ	ウスバシケシダ	*Deparia* sp.	VU	VU	VU	220
シシガシラ	コモチシダ	*Woodwardia orientalis* Sw.	EN			160
オシダ	タニヘゴ	*Dryopteris tokyoensis* (Matsum. ex Makino) C.Chr.	VU			221
イチイ	カヤ	*Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc.	CR			111
ジュンサイ	ジュンサイ	*Brasenia schreberi* J.F.Gmel.	CR			112
スイレン	オニバス	*Euryale ferox* Salisb.	CR	CR	VU	113
スイレン	ヒメコウホネ	*Nuphar subintegerrima* (Casp.) Makino	EX	EN	VU	36
スイレン	ヒツジグサ	*Nymphaea tetragona* Georgi	EX			37
ウマノスズクサ	オオバウマノスズクサ	*Aristolochia kaempferi* Willd.	EN	VU		161
ウマノスズクサ	スズカカンアオイ	*Heterotropa nipponica* (F.Maek.) F.Maek. var. *brachypodion* (F.Maek.) F.Maek.	NT			291
モクレン	シデコブシ	*Magnolia stellata* (Sieb. et Zucc.) Maxim.	CR	VU	NT	114
クスノキ	ニッケイ	*Cinnamomum okinawense* Hatus.	国リスト	国リスト	NT	327
クスノキ	ヒメクロモジ	*Lindera lancea* (Momiy.) H.Koyama	CR			115
クスノキ	ダンコウバイ	*Lindera obtusiloba* Blume	CR			116
クスノキ	クロモジ	*Lindera umbellate* Thunb.	EX			38
クスノキ	カゴノキ	*Litsea coreana* H.Lév.	NT			292
クスノキ	シロダモ	*Neolitsea sericea* (Blume) Koidz.	NT			293
サトイモ	ウラシマソウ	*Arisaema urashima* H.Hara	NT			294
サトイモ	スルガテンナンショウ	*Arisaema yamatense* (Nakai) Nakai subsp. *sugimotoi* (Nakai) H.Ohashi et J.Murata	CR			117
オモダカ	ヘラオモダカ	*Alisma canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché	VU			222
オモダカ	アギナシ	*Sagittaria aginashi* Makino	VU	国リスト	NT	223
トチカガミ	マルミスブタ	*Blyxa aubertii* Rich.	EX	EN	VU	39
トチカガミ	スブタ	*Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.	EX	EN	VU	40
トチカガミ	ヤナギスブタ	*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim.	EX			41
トチカガミ	トチカガミ	*Hydrocharis dubia* (Blume) Backer	EX	EN	NT	42
トチカガミ	イトトリゲモ	*Najas gracillima* (A.Braun ex Engelm.) Magnus	NT	国リスト	NT	295
トチカガミ	ホッスモ	*Najas graminea* Delile	EX			43
トチカガミ	オオトリゲモ	*Najas oguraensis* Miki	VU	NT		224
トチカガミ	ミズオオバコ	*Ottelia alismoides* (L.) Pers.	国リスト	国リスト	VU	328
トチカガミ	コウガイモ	*Vallisneria denseserrulata* (Makino) Makino	EX	VU		44
シバナ	シバナ	*Triglochin maritimum* L.	EN	NT	NT	162
ヒルムシロ	ヒルムシロ	*Potamogeton distinctus* A.Benn.	EN	NT		163
ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ	*Burmannia championii* Thwaites	CR	VU		118
ヤマノイモ	ヒメドコロ	*Dioscorea tenuipes* Franch. et Sav.	VU			225
イヌサフラン	チゴユリ	*Disporum smilacinum* A.Gray	VU			226
ユリ	アマナ	*Amana edulis* (Miq.) Honda	VU			227
ユリ	ウバユリ	*Cardiocrinum cordatum* (Thunb.) Makino	CR			119
ユリ	カタクリ	*Erythronium japonicum* Decne.	CR			120
ユリ	ヤマユリ	*Lilium auratum* Lindl.	CR			121
ユリ	ササユリ	*Lilium japonicum* Thunb.	EN			164
ユリ	コオニユリ	*Lilium leichtlinii* Hook.f. var. *maximowiczii* (Regel) Baker	CR			122
ラン	シラン	*Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f.	国・県リスト	NT	NT	329
ラン	ギンラン	*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume	CR			123
ラン	キンラン	*Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume	CR	NT	VU	124
ラン	サイハイラン	*Cremastra appendiculata* (D.Don) Makino	EN			165
ラン	サワラン	*Eleorchis japonica* (A.Gray) F.Maek.	EX	CR		45
ラン	カキラン	*Epipactis thunbergii* A.Gray	EN			166
ラン	ツチアケビ	*Galeola septentrionalis* Rchb.f.	EX			46
ラン	クロヤツシロラン	*Gastrodia pubilabiata* Y.Sawa	EN			167
ラン	ミヤマウズラ	*Goodyera schlechtendaliana* Rchb.f.	EN			168
ラン	オオミヤマウズラ	*Goodyera* sp.	CR	EN		126
ラン	シュスラン	*Goodyera velutina* Maxim.	CR	VU		125
ラン	サギソウ	*Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.	VU	VU	NT	230

科名	種名	学名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
ラン	ミズトンボ	*Habenaria sagittifera* Rchb.f.	EX	VU	VU	47
ラン	ムヨウラン	*Lecanorchis japonica* Blume	EN			169
ラン	ジガバチソウ	*Liparis krameri* Franch. et Sav.	VU			228
ラン	クモキリソウ	*Liparis kumokiri* F.Maek.	VU			229
ラン	コバノトンボソウ	*Platanthera tipuloides* (L.f.) Lindl. var. *nipponica* (Makino) Ohwi	EN			170
ラン	トキソウ	*Pogonia japonica* Rchb.f.	EX	EN	NT	48
ラン	ヤマトキソウ	*Pogonia minor* (Makino) Makino	EX	VU		49
ラン	クモラン	*Taeniophyllum glandulosum* Blume	EX			50
アヤメ	ノハナショウブ	*Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai	EN			171
ススキノキ	キスゲ	*Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Hotta	CR			127
ススキノキ	ノカンゾウ	*Hemerocallis fulva* L. var. *longituba* (Miq.) Maxim.	CR			128
ヒガンバナ	ヤマラッキョウ	*Allium thunbergii* G.Don	NT			296
キジカクシ	キヨスミギボウシ	*Hosta kiyosumiensis* F.Maek.	VU			231
キジカクシ	オオバギボウシ	*Hosta montana* F.Maek.	EX			51
キジカクシ	コバギボウシ	*Hosta sieboldii* (Paxton) J.W.Ingram form. *spathulata* (Miq.) W.G.Schmid	VU			232
キジカクシ	ナルコユリ	*Polygonatum falcatum* A.Gray	EX			52
キジカクシ	ミヤマナルコユリ	*Polygonatum lasianthum* Maxim.	EN			172
ミズアオイ	ミズアオイ	*Monochoria korsakowii* Regel et Maack	EX	CR	NT	53
ガマ	ミクリ	*Sparganium erectum* L.	CR	VU	NT	129
ガマ	ヤマトミクリ	*Sparganium fallax* Graebn.	EN	NT	NT	173
ガマ	ナガエミクリ	*Sparganium japonicum* Rothert	VU	国リスト	NT	233
ホシクサ	オオホシクサ	*Eriocaulon buergerianum* Körn.	EX	CR		54
ホシクサ	ツクシクロイヌノヒゲ	*Eriocaulon kiusianum* Maxim.	EN	NT	VU	174
ホシクサ	シラタマホシクサ	*Eriocaulon nudicuspe* Maxim.	EN	VU	VU	175
ホシクサ	クロホシクサ	*Eriocaulon parvum* Körn.	EX	EN	VU	55
イグサ	ヒメコウガイゼキショウ	*Juncus bufonius* L.	NT			297
イグサ	ヌカボシソウ	*Luzula plumosa* E.Mey. var. *macrocarpa* (Buchenau) Ohwi	EX			56
カヤツリグサ	イセウキヤガラ	*Bolboschoenus planiculmis* (F.Schmidt) T.V.Egorova	EN			176
カヤツリグサ	イトハナビテンツキ	*Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz.	EX			57
カヤツリグサ	ミノボロスゲ	*Carex albata* Boott	EN	VU		177
カヤツリグサ	ショウジョウスゲ	*Carex blepharicarpa* Franch.	NT			298
カヤツリグサ	ケタガネソウ	*Carex ciliato-marginata* Nakai	CR			130
カヤツリグサ	ビロードスゲ	*Carex fedia* Nees var. *miyabei* (Franch.) T.Koyama	VU			235
カヤツリグサ	ハマアオスゲ	*Carex fibrillosa* Franch. et Sav.	EN			178
カヤツリグサ	ツクバスゲ	*Carex hirtifructus* Kük.	VU			234
カヤツリグサ	ウマスゲ	*Carex idzuroei* Franch. et Sav.	CR			131
カヤツリグサ	センダイスゲ	*Carex lenta* D.Don var. *sendaica* (Franch.) T.Koyama	EN	VU		179
カヤツリグサ	シオクグ	*Carex scabrifolia* Steud.	NT			299
カヤツリグサ	アズマナルコ	*Carex shimidzensis* Franch.	EN			180
カヤツリグサ	ニシノホンモンジスゲ	*Carex stenostachys* Franch. et Sav.	CR	VU		132
カヤツリグサ	ヒメアオガヤツリ	*Cyperus extremiorientalis* Ohwi	CR	CR		133
カヤツリグサ	ヒメガヤツリ	*Cyperus tenuispica* Steud.	EN	VU		181
カヤツリグサ	セイタカハリイ	*Eleocharis attenuata* (Franch. et Sav.) Palla	CR	VU		134
カヤツリグサ	イソヤマテンツキ	*Fimbristylis ferruginea* (L.) Vahl var. *sieboldii* (Miq.) Ohwi	VU			236
カヤツリグサ	トネテンツキ	*Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) T.Koyama	CR	VU	VU	135
カヤツリグサ	ミクリガヤ	*Rhynchospora malasica* C.B.Clarke	EX	CR	EN	58
カヤツリグサ	イガクサ	*Rhynchospora rubra* (Lour.) Makino	EN			182
カヤツリグサ	シズイ	*Schoenoplectus nipponicus* (Makino) Soják	EX	VU		59
カヤツリグサ	ノグサ	*Schoenus apogon* Roem. et Schult.	EX	EN		60
カヤツリグサ	マツカサススキ	*Scirpus mitsukurianus* Makino	EN			183
カヤツリグサ	カガシラ	*Scleria caricina* (R.Br.) Benth.	EX	CR	VU	61
カヤツリグサ	ミカワシンジュガヤ	*Scleria mikawana* Makino	EX	VU	VU	62
カヤツリグサ	コシンジュガヤ	*Scleria parvula* Steud.	EX			63
イネ	ヒメコヌカグサ	*Agrostis valvata* Steud.	NT	国リスト	NT	300
イネ	アズマガヤ	*Asperella longe-aristata* (Hack.) Ohwi	VU			238
イネ	ヒナザサ	*Coelachne japonica* Hack.	EX	VU	NT	64
イネ	ヒメタイヌビエ	*Echinochloa crus-galli* (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi	CR	EN		136
イネ	ヌマカゼクサ	*Eragrostis aquatica* Honda	VU			237
イネ	コゴメカゼクサ	*Eragrostis japonica* (Thunb.) Trin.	EX	VU		65
イネ	ウンヌケ	*Eulalia speciosa* (Debeaux) Kuntze	EN	NT	VU	184
イネ	コウボウ	*Hierochloe odorata* (L.) P.Beauv. var. *pubescens* Krylov	CR			137
イネ	アシカキ	*Leercia japonica* Makino	NT			301
イネ	サヤヌカグサ	*Leersia sayanuka* Ohwi	VU			239
イネ	コメガヤ	*Melica nutans* L.	EX			66
イネ	スズメノコビエ	*Paspalum scrobiculatum* L. var. *orbiculatum* (G.Forst.) Hack.	NT			302
イネ	ウキシバ	*Pseudoraphis ukishiba* Ohwi	NT	NT		303
イネ	ワセオバナ	*Saccharum spontaneum* L. var. *arenicola* (Ohwi) Ohwi	VU			240
イネ	シダミコザサ	*Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* (Koidz.) S.Suzuki form. *hidejiroana* (Koidz.) S.Suzuki	VU	VU		241
イネ	オオアブラススキ	*Spodiopogon sibiricus* Trin.	EX			67
メギ	ヘビノボラズ	*Berberis sieboldii* Miq.	VU	NT		242
メギ	ヒメイカリソウ	*Epimedium youngianum* Fisch. et C.A.Mey.	CR			138
キンポウゲ	カザグルマ	*Clematis patens* C.Morren et Decne.	CR	EN	NT	139
キンポウゲ	クサボタン	*Clematis stans* Sieb. et Zucc.	EX	VU		68
キンポウゲ	スハマソウ	*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata* (Makino) Kitam.	CR	NT	NT	140
キンポウゲ	オキナグサ	*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et C.Presl	EX	CR	VU	69
キンポウゲ	ウマノアシガタ	*Ranunculus japonicus* Thunb.	VU			243
キンポウゲ	オトコゼリ	*Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.	EX			70
マンサク	マンサク	*Hamamelis japonica* Sieb. et Zucc.	NT			304

科名	種名	学名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
スグリ	ヤブサンザシ	*Ribes fasciculatum* Sieb. et Zucc.	EN	VU		186
ユキノシタ	チダケサシ	*Astilbe microphylla* Knoll	EX			71
ベンケイソウ	ツメレンゲ	*Orostachys japonicus* (Maxim.) A.Berger	VU	NT	NT	244
アリノトウグサ	オグラノフサモ	*Myriophyllum oguraense* Miki	国･県リスト	CR	VU	330
アリノトウグサ	ホザキノフサモ	*Myriophyllum spicatum* L.	EN			185
アリノトウグサ	タチモ	*Myriophyllum ussuriense* (Regel) Maxim.	CR	NT	NT	141
マメ	ホドイモ	*Apios fortunei* Maxim.	VU			245
マメ	カワラケツメイ	*Cassia nomame* (Makino) Honda	VU			246
マメ	タヌキマメ	*Crotalaria sessiliflora* L.	VU			247
マメ	ハマエンドウ	*Lathyrus japonicus* Willd.	VU			248
マメ	キハギ	*Lespedeza buergeri* Miq.	EN			187
マメ	シベリアメドハギ	*Lespedeza juncea* (L.f.) Pers.	EN			188
マメ	イヌハギ	*Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Sieb. ex Maxim.	CR	VU	VU	142
マメ	マキエハギ	*Lespedeza virgata* (Thunb.) DC.	EN			189
ヒメハギ	ヒナノカンザシ	*Salomonia oblongifolia* DC.	EN			190
バラ	オオウラジロノキ	*Malus tschonoskii* (Maxim.) C.K.Schneid.	VU			249
バラ	カワラサイコ	*Potentilla chinensis* Ser.	EN	VU		191
バラ	キジムシロ	*Potentilla fragarioides* L. var. *major* Maxim.	EX			72
バラ	ワタゲカマツカ	*Pourthiaea villosa* (Thunb.) Decne.	NT			305
バラ	マメナシ	*Pyrus calleryana* Decne.	EN	CR	EN	192
バラ	ミヤマワレモコウ	*Sanguisorba longifolia* Bertol.	EX	EN		73
バラ	シモツケ	*Spiraea japonica* L.f.	EX			74
グミ	アリマグミ	*Elaeagnus murakamiana* Makino	EX	VU		75
クロウメモドキ	クロウメモドキ	*Rhamnus japonica* Maxim. var. *decipiens* Maxim.	EX			76
イラクサ	コアカソ	*Boehmeria spicata* (Thunb.) Thunb.	NT			306
イラクサ	ミヤコミズ	*Pilea kiotensis* Ohwi	CR	CR		143
ブナ	ナラガシワ	*Quercus aliena* Blume	県リスト	EN		331
ブナ	フモトミズナラ	*Quercus crispula* Blume var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz.	VU	NT		251
ブナ	ウラジロガシ	*Quercus salicina* Blume	VU			250
ヤマモモ	ヤチヤナギ	*Gale belgica* Duham. var. *tomentosa* (C.DC.) T.Yamaz.	県リスト	CR		332
カバノキ	カワラハンノキ	*Alnus serrulatoides* Callier	VU			252
カバノキ	サクラバハンノキ	*Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz.	NT	国リスト	NT	307
ウリ	ゴキヅル	*Actinostemma lobatum* Maxim. ex Franch. et Sav.	VU			253
ニシキギ	ウメバチソウ	*Parnassia palustris* L. var. *multiseta* Ledeb.	CR			144
トウダイグサ	タカトウダイ	*Euphorbia pekinensis* Rupr.	EX			77
ミカンソウ	ヒトツバハギ	*Securinega suffruticosa* (Pall.) Rehder var. *japonica* (Miq.) Hurus.	CR			145
ヤナギ	ヤマネコヤナギ	*Salix bakko* Kimura	EN			193
ヤナギ	キヌヤナギ	*Salix kinuyanagi* Kimura	VU	NT		254
スミレ	ケイリュウタチツボスミレ	*Viola grypoceras* A.Gray var. *ripensis* N.Yamada et M.Okamoto	NT			308
スミレ	アギスミレ	*Viola verecunda* A.Gray var. *semilunaris* Maxim.	VU			255
オトギリソウ	サワオトギリ	*Hypericum pseudopetiolatum* R.Keller	VU			256
ミソハギ	ヒメミソハギ	*Ammannia multiflora* Roxb.	CR			146
ミソハギ	ミズスギナ	*Rotala hippuris* Makino	EX	EX	CR	78
ミソハギ	ミズマツバ	*Rotala mexicana* Cham. et Schltdl.	国リスト	国リスト	VU	333
ミソハギ	ヒメビシ	*Trapa incisa* Sieb. et Zucc.	CR	EN	VU	147
アカバナ	ウスゲチョウジタデ	*Ludwigia greatrexii* H.Hara	VU	国リスト	NT	257
アカバナ	ミズユキノシタ	*Ludwigia ovalis* Miq.	NT			309
ミカン	コクサギ	*Orixa japonica* Thunb.	EN			194
ニガキ	ニガキ	*Picrasma quassioides* (D.Don) Benn.	EN			195
アオイ	ハマボウ	*Hibiscus hamabo* Sieb. et Zucc.	EX	VU		79
ジンチョウゲ	ガンピ	*Diplomorpha sikokiana* (Franch. et Sav.) Honda	VU			258
ジンチョウゲ	コガンピ	*Diplomorpha ganpi* (Sieb. et Zucc.) Nakai	EX			80
アブラナ	ミズタガラシ	*Cardamine lyrata* Bunge	EN	NT		196
アブラナ	コイヌガラシ	*Rorippa cantoniensis* (Lour.) Ohwi	VU	国リスト	NT	259
アブラナ	ハタザオ	*Turritis glabra* L.	EN			197
タデ	サクラタデ	*Persicaria conspicua* (Nakai) Nakai	NT			310
タデ	ナガバノウナギツカミ	*Persicaria hastatosagittata* (Makino) Nakai	VU	NT	NT	260
タデ	コミゾソバ	*Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.	EX	NT		81
タデ	タニソバ	*Persicaria nepalensis* (Meisn.) H.Gross	EX			82
タデ	ウナギツカミ	*Persicaria sieboldii* (Meisn.) Ohki var. *aestiva* (Ohki) Okuyama	VU			261
タデ	アキノミチヤナギ	*Polygonum polyneuron* Franch. et Sav.	VU			262
タデ	コギシギシ	*Rumex nipponicus* Franch. et Sav.	VU	国リスト	VU	263
モウセンゴケ	ナガバノイシモチソウ	*Drosera indica* L.	EX	CR	VU	83
モウセンゴケ	イシモチソウ	*Drosera peltata* Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi	CR	EN	NT	148
モウセンゴケ	モウセンゴケ	*Drosera rotundifolia* L.	NT			311
ナデシコ	カワラナデシコ	*Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams	NT			312
ヒユ	ヤナギイノコヅチ	*Achyranthes longifolia* (Makino) Makino	VU			264
ヒユ	ホソバハマアカザ	*Atriplex gmelinii* C.A.Mey	NT			313
ヒユ	ハマアカザ	*Atriplex subcordata* Kitag.	EX	VU		84
アジサイ	コアジサイ	*Hydrangea hirta* (Thunb.) Sieb. et Zucc.	NT			314
アジサイ	コガクウツギ	*Hydrangea luteo-venosa* Koidz.	CR	EN		149
アジサイ	イワガラミ	*Schizophragma hydrangeoides* Sieb. et Zucc.	CR			150
サクラソウ	クサレダマ	*Lysimachia vulgaris* L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Knuth	EN			198
ハイノキ	クロミノニシゴリ	*Symplocos paniculata* (Thunb.) Miq.	NT			315
マタタビ	マタタビ	*Actinidia polygama* (Siebold et Zucc.) Planch. ex Maxim.	VU			265
ツツジ	ギンリョウソウモドキ	*Monotropa uniflora* L.	VU			266
ツツジ	ギンリョウソウ	*Monotropastrum humile* (D.Don) H.Hara	EX			85
ツツジ	イチヤクソウ	*Pyrola japonica* Klenze	VU			267
ツツジ	レンゲツツジ	*Rhododendron japonicum* (A.Gray) Suringar	EX			86

科名	種名	学名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
アカネ	ホソバニセジュズネノキ	*Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn. subsp. *major* (Sieb. et Zucc.) T.Yamaz. var. *lancifolius* Makino	VU			268
アカネ	キクムグラ	*Galium kikumugura* Ohwi	EN	NT		199
アカネ	ヤマムグラ	*Galium pogonanthum* Franch. et Sav.	EX			87
アカネ	ホソバノヨツバムグラ	*Galium trifidum* L. var. *brevipedunculatum* Regel	VU			269
リンドウ	リンドウ	*Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim.	EN			200
リンドウ	コケリンドウ	*Gentiana squarrosa* Ledeb.	CR	VU		151
リンドウ	イヌセンブリ	*Swertia diluta* (Turcz.) Benth. et Hook.f. var. *tosaensis* (Makino) H.Hara	EN	NT	VU	201
キョウチクトウ	クサナギオゴケ	*Cynanchum katoi* Ohwi	EX	NT	VU	88
キョウチクトウ	スズサイコ	*Cynanchum paniculatum* (Bunge) Kitag.	CR	国リスト	NT	152
キョウチクトウ	コカモメヅル	*Tylophora floribunda* Miq.	EX			89
ムラサキ	ホタルカズラ	*Lithospermum zollingeri* A.DC.	EX	EN		90
ヒルガオ	ネナシカズラ	*Cuscuta japonica* Choisy	NT			316
ナス	マルバノホロシ	*Solanum maximowiczii* Koidz.	EN			202
オオバコ	オオアブノメ	*Gratiola japonica* Miq.	EN	VU	VU	203
オオバコ	イヌノフグリ	*Veronica didyma* Ten. var. *lilacina* (H.Hara) T.Yamaz.	NT	国リスト	VU	317
オオバコ	カワヂシャ	*Veronica undulata* Wall.	国リスト	国リスト	NT	334
ゴマノハグサ	オオヒナノウスツボ	*Scrophularia kakudensis* Franch.	EX			91
シソ	ケブカツルカコソウ	*Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew. form. *hirsuta* (Honda) Murata	EX	EN		92
シソ	ヤブムラサキ	*Callicarpa mollis* Sieb. et Zucc.	VU			270
シソ	ミズネコノオ	*Eusteralis stellata* (Lour.) Murata	EX	EN	NT	93
シソ	ミズトラノオ	*Eusteralis yatabeana* (Makino) Murata	EX	VU	VU	94
シソ	ヤマハッカ	*Isodon inflexus* (Thunb.) Kudô	EN			204
シソ	オドリコソウ	*Lamium album* L. var. *barbatum* (Sieb. et Zucc.) Franch. et Sav.	EN			205
シソ	ハッカ	*Mentha arvensis* L. var. *piperascens* Malinv.	VU			271
シソ	シマジタムラソウ	*Salvia isensis* Nakai ex H.Hara	CR	NT	VU	153
シソ	ミゾコウジュ	*Salvia plebeia* R.Br.	VU	国リスト	NT	272
シソ	オカタツナミソウ	*Scutellaria brachyspica* Nakai et H.Hara	EN			206
シソ	タツナミソウ	*Scutellaria indica* L.	VU			273
シソ	イガタツナミ	*Scutellaria kurokawae* H.Hara	EN			207
シソ	シソバタツナミ	*Scutellaria laeteviolacea* Koidz.	VU			274
シソ	イヌゴマ	*Stachys riederi* Cham. var. *intermedia* (Kudô) Kitam.	NT			318
シソ	ニガクサ	*Teucrium japonicum* Houtt.	EN			208
ハマウツボ	ナンバンギセル	*Aeginetia indica* L.	NT			319
ハマウツボ	コシオガマ	*Phtheirospermum japonicum* (Thunb.) Kanitz	CR			154
タヌキモ	ノタヌキモ	*Utricularia aurea* Lour.	EX	VU	VU	95
タヌキモ	イヌタヌキモ	*Utricularia australis* R.Br.	NT	国リスト	NT	320
タヌキモ	ミミカキグサ	*Utricularia bifida* L.	NT			321
タヌキモ	フサタヌキモ	*Utricularia dimorphantha* Makino	EX	EX	EN	96
タヌキモ	ミカワタヌキモ	*Utricularia exoleta* R.Br.	EX	EN	VU	97
タヌキモ	コタヌキモ	*Utricularia intermedia* Heyne	EX	CR		98
タヌキモ	ヒメミミカキグサ	*Utricularia minutissima* Vahl	EX	EN	EN	99
タヌキモ	ホザキノミミカキグサ	*Utricularia racemosa* Wall.	NT			322
タヌキモ	ムラサキミミカキグサ	*Utricularia uliginosa* Vahl	CR	NT	NT	155
モチノキ	タマミズキ	*Ilex micrococca* Maxim.	VU			275
キキョウ	ツルニンジン	*Codonopsis lanceolata* (Sieb. et Zucc.) Trautv.	EX			100
キキョウ	サワギキョウ	*Lobelia sessilifolia* Lamb.	VU			276
キキョウ	タニギキョウ	*Peracarpa carnosa* (Wall.) Hook.f. et Thomson var. *circaeoides* (F.Schmidt) Makino	VU			277
キキョウ	キキョウ	*Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC.	CR	VU	VU	156
ミツガシワ	ガガブタ	*Nymphoides indica* (L.) Kuntze	VU	NT	NT	278
ミツガシワ	アサザ	*Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze	国・県リスト	EN	NT	335
キク	ヌマダイコン	*Adenostemma lavenia* (L.) Kuntze	EN			209
キク	オクモミジハグマ	*Ainsliaea acerifolia* Sch.Bip. var. *subapoda* Nakai	VU			279
キク	キッコウハグマ	*Ainsliaea apiculata* Sch.Bip.	VU			280
キク	カワラハハコ	*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook.f. subsp. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.	VU			281
キク	カワラニンジン	*Artemisia apiacea* Hance	NT			323
キク	イナカギク	*Aster ageratoides* Turcz. subsp. *amplexifolius* (Sieb. et Zucc.) Kitam.	EN			210
キク	ヒメシオン	*Aster fastigiatus* Fisch.	EX	VU		101
キク	ヤマジノギク	*Aster hispidus* Thunb.	EX	CR		102
キク	ウラギク	*Aster tripolium* L.	EN	国リスト	NT	211
キク	オケラ	*Atractylodes japonica* Koidz. ex Kitam.	EN			212
キク	コヤブタバコ	*Carpesium cernuum* L.	EX			103
キク	ムラサキトキンソウ	*Centipeda* sp.	VU	NT		282
キク	キセルアザミ	*Cirsium sieboldii* Miq.	NT			324
キク	リュウノウギク	*Dendranthema japonicum* (Makino) Kitam.	EX			104
キク	アキノハハコグサ	*Gnaphalium hypoleucum* DC.	EX	EN	EN	105
キク	オグルマ	*Inula britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam.	VU			283
キク	ミズギク	*Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.	EN	NT		213
キク	カセンソウ	*Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitam.	EX	EN		106
キク	ムラサキニガナ	*Lactuca sororia* Miq.	VU			284
キク	カシワバハグマ	*Pertya robusta* (Maxim.) Makino	EN			214
キク	オナモミ	*Xanthium strumarium* L.	EX	CR	VU	107
レンプクソウ	オオカメノキ	*Viburnum furcatum* Blume ex Maxim.	VU			285
レンプクソウ	ハクサンボク	*Viburnum japonicum* (Thunb.) Spreng.	県リスト	VU		336
スイカズラ	オミナエシ	*Patrinia scabiosaefolia* Fisch.	CR			157
スイカズラ	オトコエシ	*Patrinia villosa* (Thunb.) Juss.	EX			108
スイカズラ	タニウツギ	*Weigela hortensis* (Sieb. et Zucc.) K.Koch	EN			215
ウコギ	オカウコギ	*Acanthopanax japonicus* Franch. et Sav.	NT			325

科名	種名	学名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
セリ	ノダケ	*Angelica decursiva* (Miq.) Franch. et Sav.	VU			286
セリ	ムカゴニンジン	*Sium ninsi* L.	VU			287

（２）コケ植物

科の範囲、名称、配列は「日本の野生植物　コケ」（岩月善之助著，2001 年，平凡社）に準拠した。

科内の配列については、学名のアルファベット順とした。

区分	科名	種名	学名	市2015	県2015	国2014	掲載頁
蘚類	ミズゴケ	ハリミズゴケ	*Shagnum cuspidatum* Ehrh. ex Hofm.	VU	VU		341
蘚類	ミズゴケ	コアナミズゴケ	*Sphagnum microporum* Warnst. ex Card.	NT			344
蘚類	ミズゴケ	オオミズゴケ	*Sphagnum palustre* L.	NT	NT	NT	345
蘚類	ミズゴケ	イボミズゴケ	*Sphagnum papillosum* Lindb.	NT	NT		346
蘚類	ミズゴケ	ユガミミズゴケ	*Sphagnum subsecundum* Nees ex Sturm	NT			347
蘚類	イクビゴケ	イクビゴケ	*Diphyscium fulvifolium* Mitt.	NT			348
蘚類	スギゴケ	ハミズゴケ	*Pogonatum spinulosum* Mitt.	NT			349
蘚類	スギゴケ	ウマスギゴケ	*Polytrichum commune* Hedw.	NT			350
蘚類	シッポゴケ	ツリバリゴケモドキ	*Bryohumbertia subcomosa* (Dix.) Frahm	NT			351
蘚類	シッポゴケ	イクタマユハケゴケ	*Campylopus gemmiparus* Z.Iwats. et al.	NT			352
蘚類	シッポゴケ	シッポゴケ	*Dicranum japonicum* Mitt.	NT			353
蘚類	シッポゴケ	カモジゴケ	*Dicranum scoparium* Hedw.	NT			354
蘚類	アブラゴケ	イバラゴケ（ケムシゴケ）	*Calyptrochaeta japonica* (Card. et Thér.) Z.Iwats. et Nog.	VU	VU		342
蘚類	ヤナギゴケ	ヤナギゴケ	*Leptodictyum riparium* (Hedw.) Warnst.	NT			355
苔類	タカサゴソコマメゴケ	タカサゴソコマメゴケ	*Jackiella javanica* Schiffn.	EX	EX		340
苔類	クサリゴケ	マルバヒメクサリゴケ	*Cololejeunea minutissima* (Sm.) Schiffn.	VU	VU		343
苔類	ゼニゴケ	ゼニゴケ	*Marchantia polymorpha* L.	NT			356
苔類	ウキゴケ	ウキゴケ	*Riccia fluitans* L.	NT	VU		357
苔類	ウキゴケ	イチョウウキゴケ	*Ricciocarpos natans* (L.) Corda	NT	NT	NT	358

Threatened Wildlife of Nagoya City

RED DATA BOOK NAGOYA 2015

- Plants -

April 2015

Edited by

City of Nagoya Environmental Affairs Bureau
Environmental Planning Department Environmental Activities Promotion Division

Published by

City of Nagoya Environmental Affairs Bureau
Environmental Planning Department Environmental Activities Promotion Division

1-1, Sannomaru 3-chome, Naka-ku, Nagoya 460-8508 Japan
TEL: 052-831-8104
FAX: 052-839-1695

名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

レッドデータブックなごや 2015

- 植物編 -

発行年月　平成 27 年 4 月

編集　名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課

発行　名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課

〒460-8508　名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号
TEL: 052-831-8104
FAX: 052-839-1695

本書に収録した写真は、著作者の了解を得て複製したものです。
私的使用又は引用等著作権法上認められた行為を除き、
著作者に無断で再複製を行うことはできません。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

古紙パルプ配合率80％再生紙を使用

この冊子は古紙を含む用紙（総合評価 80 以上）を使用しています。

Threatened Wildlife of Nagoya City
RED DATA BOOK NAGOYA 2015
Plants